

EAST-ASIAN LIB. UNIVERSITY OF TORONTO



3 1761 02970 6264

FOR USE IN  
LIBRARY  
ONLY





















明治四十四年八月二十五日印刷  
 明治四十四年八月二十五日發行  
 明治四十四年八月二十五日  
 明治四十四年八月二十五日  
 明治四十四年八月二十五日  
 大正二年四月

(漢文大系第七卷奥付)

正價金貳圓五拾錢

校訂者 重野安釋

編輯者 東京市神田區裏神保町九番地  
合資會社 富山房編輯部

發行者 合資會社 富山房社長  
坂本嘉治馬

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
青木弘

印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地  
株式會社 秀英舍第一工場

# 發兌元

(明治廿九年六月設立)

東京市神田區裏神保町

合資會社 富山房

山房

電話本局

一〇三六 四一三〇

振替貯金東京五〇一





史記列傳索引終



樓緩 ロウクワン

上七十六 三

婁敬(劉敬) ロウケイ

盧縮 ロクワン

上九十三 七

魯句踐 ロコウセン

上八十六 五

路充國 ロジュウコク

下百十 四

魯仲連 ロチュウレン

上八十三 一

路博德 ロハクトク

下百十一 三

魯連(魯仲連) ロレン

下百十三 二

ワ

淮陰侯(韓信) ワイインコウ

王鳥 ワウソウ

下百十 四

王吉 ワウキツ

下百十七 二

王恢 ワウクワイ

下百八 六

下百十四 三

王稽 ワウケイ

上七十九 二

王申生 ワウシンセイ

下百廿三 六

王蠋 ワウシュク

上八十二 五

王翦 ワウセン

上七十三 九

王先生 ワウセンセイ

下百廿六 九

王恬開 ワウケン

下百二 六

王離 ワウリ

上七十三 三

王陵 ワウリョウ

上九十六 一

王僚 ワウリョウ

上八十六 三

王溫舒 ワウタンジュ

下百廿二 三



下百十三 四

陸生(陸賈)  
リクセイ

李牧  
リボク

上八十一 一五

李園  
リエシ

上七十八 三

李廣  
リクワウ

下百九 一

蘭相如  
リンシヤウジヨ

上八十一 一

レ

李廣利  
リクワウリ

下百廿三 二四

臨平君(靳歙)  
リンヘイクン

上六十七 三

厲王(淮南王長)  
レイワウ

李蔡  
リサイ

下百九 九

梁鱣  
リヤウセン

下百十八 二

酈食其  
レキイキ

下九十七 一

下百十一 二七

龍額侯(韓說)  
リョウウカクコウ

下百十八 二

酈食其  
レキイキ

下九十七 八

李左車  
リサシヤ

上九十二 八

龍且  
リョウシヨ

上九十二 一五

酈寄  
レキキ

上九十五 三

李斯  
リシ

上八十七 一

呂嘉  
リョカ

下百十三 七

酈況(酈寄)  
レキヤウ

上九十五 二

李耳(老聃)  
リジ

上七十三 二〇

呂不韋  
リョフキ

上八十五 一

酈商  
レリシヤウ

上九十七 三

李信  
リシン

上七十三 二〇

呂步舒  
リョホジヨ

下百廿一 一六

酈生(酈食其)  
レキセイ

上九十七 三

李沮  
リソ

下百十一 二六

呂禮  
リョレイ

上七十五 九

酈侯(衛青)  
レフコウ

上六十七 三五

李息  
リソク

下百十一 二五

李悝  
リキ

上七十四 九

廉絜  
レンキョク

上六十七 三五

李當戶  
リタウコ

下百二十 八

李離  
リリ

下百十九 五

廉頗  
レンパ

上八十一 一

李當戶  
リタウコ

下百九 三

李良  
リリヤウ

上八十九 八

廉頗  
レンパ

上八十一 一

李同  
リトウ

上七十六 六

李陵  
リリョウ

下百九 三

口



ム

務光 ムクワウ

上六十一 三

楊信 ヤウシン

下百十 四

老子(老聃) ラウシ

楊僕 ヤウボク

下百十三 二

老上單于 ラウシャウゼンウ

下百十 三

下百十五 三

老聃 ラウタン

上六十三 一

下百廿二 三

老萊子 ラウライシ

上六十三 三

陽陵侯(傅寬) ヤウリョウコウ

樂安侯(李蔡) ラクアンコウ

明王(嬰齊) マイワウ

俞侯(樂布) ユコウ

駱搖 ラクユウ

下百十四 一

モ

ヨ

駱無諸 ラクムシヨ

下百十四 一

蒙驪 モウリ

庸(廉紫) ヨウ

樂布 ランフ

下百 六

蒙毅 モウキ

豫讓 ヨジャウ

上八十六 五

李由 リユウ

上八十七 二

蒙恬 モウテン

豫且 ヨシヨ

下百廿八 九

劉敬 リウケイ

下九十九 一

上八十八 一

餘善 ヨゼン

下百十四 三

李延年 リエンネン

下百廿五 五

ヤ

ラ

李敢 リカン

下百九 三

楊何 ヤウカ

下百廿一 五

雷被 ライヒ

下百十八 三

陸賈 リクカ

下九十七 八



武信君(張儀)  
ブシシクン

酈吉  
ヘイビツ

上九十六 一五

墨子(墨翟)  
ボクシ

閔越王無諸  
ブンシヨ

下百十四 一

平原君(趙勝)  
ヘイゲンクン

卜商  
ボクシヤウ

上六十七 一八

公子扶蘇  
フツ

上八十七 二

平原君(朱建)  
ヘイゲンクン

墨翟  
ボクシ

上七十四 九

武帝(趙佗)  
ブテイ

平津侯(公孫弘)  
ヘイシンコウ

冒頓單于  
ボクトンゼンウ

下百十 一〇

巫馬施  
フバシ

上六十七 三〇

平仲(晏嬰)  
ヘイチユウ

北平侯(張蒼)  
ホクヘイコウ

上六十七 三五

汾陰侯(周昌)  
フニンコウ

平陽侯(曹襄)  
ヘイヤウコウ

步叔乘  
ホシユクジヨウ

上六十七 三五

文君  
ブンクン

下百十七 三

平陵侯(蘇建)  
ヘイリョウコウ

毛公  
マウコウ

上七十七 九

文侯(汝陰侯)  
ブンコウ

馮唐  
ヘウタク

下百二 七

孟軻  
マウカ

上七十四 一

文侯(張蒼)  
ブンコウ

辟陽侯(審食其)  
ヘンギヤク

下百五 一

孟軻  
マウカ

上七十四 一

文信侯(呂不韋)  
ブンシンコウ

扁鵲  
ヘンギョク

下百五 一

孟子(孟軻)  
マウシ

上七十四 一

文王(趙胡)  
ブンワウ

卞隨  
ベンズキ

上六十一 三

孟嘗君(田文)  
マウシヤウケン

下百四 二

舞陽侯(市人)  
ブヤウコウ

木  
ホ

孟舒  
マウシュ

下百四 二

舞陽侯(樊噲)  
ブヤウコウ

奉春君(劉敬)  
ホウシュンケン

毛遂  
マウスイ

上七十六 三

符離侯(路博德)  
フリコウ

母寡  
ボカ

下百廿三 二七

朝鮮王滿  
マシ

下百十五 一



望諸君(樂毅)  
ハウシヨクン

馬服君(趙奢)  
ハフツクン

馮驩  
ヒョウクワン

上七十五 二

彭越  
ハウチユウ

樊於期  
ハンオキ

フ

上七十五 二

彭越  
ハウチユウ

樊噲  
ハンクワイ

上九十五 一

上九十 三

樊須  
ハンシュ

上六十七 二

伯夷叔齊  
ハクイシユクセイ

范叔(范雎)  
ハンシユク

上七十九 一

白起  
ハクキ

范雎  
ハンスキ

上七十九 一

上七十二 三

萬石君  
バンセキクン

下百三 一

伯牛(冉耕)  
ハルギウ

樊遲(樊須)  
ハンチ

下百三 一

白圭  
ハクケイ

范蠡  
ハンレイ

下百廿九 五

伯虔  
ハクケン

范蠡  
ハンレイ

下百廿九 五

白公勝  
ハクコウシヨウ

范蠡  
ハンレイ

下百廿九 五

上六十七 三

吳王濞  
ヒ

下百六 一

博望侯(張騫)  
ハクバウコウ

賁赫  
ヒカク

上九十一 九

伯陽(老聃)  
ハクヤウ

費無忌  
ヒブキ

上六十六 一

味蔡  
バイサツ

閔損  
ミンソン

上六十七 四



聶翁壹  
ナツヲウイツ

下百八 六

田嬰  
デンエイ

上七十五 一

田榮  
デンエイ

上九十四 一

田忌  
デンキ

上六十五 三

田橫  
デンクワ

上九十四 四

田光先生  
デンクワウセンセイ

上八十六 二六

恬侯(石慶)  
デンコウ

下百四 五

田仁  
デンジン

下百四 五

田叔  
デンシユク

下百四 一

田單  
デンタン

上八十二 一

田儋  
デンタン

上九十四 一

田蚡  
デンファン

下百七 四

田文  
デンブン

下百十四 二

田駢  
デンヘン

上七十五 一

田駢  
デンヘン

上七十四 七

ト

淮南王王后荼  
トウエイ

下百十八 二

寶嬰  
トウエイ

下百七 一

東甌王(東海王搖)  
トウオウワウ

下百廿六 二六

東郭先生  
トウクワウセンセイ

下百廿六 二六

鄧公  
トウコウ

下百一 二四

滕公(夏侯嬰)  
トウコウ

上六十一 六

盜跖  
トウセキ

上六十一 六

盜跖(盜跖同)  
トウセキ

下百廿一 二六

董仲舒  
トウチュウウジヨ

上九十六 二〇

鄧通  
トウツウ

下百廿五 二

東方策  
トウバウサク

下百廿六 二

頭曼  
トウマン

下百十 二〇

杜周  
トシウ

下百廿二 二七

ナ

南宮括  
ナンキウクワツ

上六十七 二四

ネ

寧乘  
ネイジヨウ

下百十一 二二

寧成  
ネイセイ

下百廿二 四

寧陵君(魏咎)  
ネイリヨウケン

ハ

望氣王朔  
バウキワウサク

下百九 九

龐涓  
ハウケン

上六十五 三

鮑叔(鮑叔牙)  
ハウシユク

上六十二 一

鮑叔牙  
ハウシユクガ

上六十二 一



長廬

下百廿二 七

鄭國

上六十七 三四

趙奢

上八十一 九

張祿(范睢)

上七十四 九

鄭莊(鄭當時)

趙襄子

上八十六 六

仲由

上六十七 六

鄭當時

下百二十 二〇

趙勝

上七十六 一

中行說

下百十 三

程不識

下百九 四

鼂錯

上九十六 二

仲弓(冉雍)

下百十 三

趙食其

下百十一 二六

趙盾

下百一 七

仲尼(孔丘)

下百三 九

趙禹

下百廿二 七

趙高

下百六 三

直不疑

下百三 九

趙光

上八十七 二

趙佗

下百十三 一

樗里子

上七十一 一

趙括

上八十八 二

趙弟

下百十三 二

テ

鄭安平

上七十九 二

趙光

上七十三 四

趙破奴

下百十一 三〇

鄭君

下百二十 二〇

趙堯

上八十一 三

趙良

上六十八 二

貞侯(周緤)

下百二十 二〇

趙胡

上九十六 四

趙襄子

下百二十 三

丁公

下百 五

趙信

下百十三 五

翟黑

上六十七 三五



蘇厲 ソレイ

上六十九 三〇

タ

太宰嚭 タイサイヒ

上六十六 二

太倉公(淳于意) タイサウコウ

太史公(司馬談・司馬遷) タイシコウ

大夫種 タイフシヨウ

上六十六 二〇

大祿 タイロク

下百廿三 一五

陶朱公 タウシュコウ

下百廿九 七

唐蒙 タウモウ

下百十六 三

當陽君(黥布) タウヤウクン

涿侯(酈商) ツウコウ

卓王孫 タクソウソン

下百十七 三

夜郎侯多同 タトウ

下百十六 四

儋 タン

上六十三 四

燕太子丹 タン

上八十六 二六

澹臺滅明 タンダイメイ

上六十七 三

端木賜 タンボウシ

上六十七 二〇

チ

陳豨 チンキ

上九十三 二

陳軫 チンシン

上七十 二六

陳涉 チンセツ

上八十九 三

陳餘 チンヨ

上八十九 二

淮南厲王長 チヤウ

下百十八 一

長安侯(盧縮) チヤウアンフ

張食其 チヤウイクキ

下百九 二

張歐 チヤウオウ

下百三 三

張敖 チヤウガウ

上八十九 一六

張儀 チヤウイギ

上七十 一

長卿(司馬相如) チヤウケイ

張騫 チヤウケン

下百九 八

下百十一 二六

下百十六 五

下百廿三 二

上九十六 一

上八十九 一

下百十一 二七

下百二 一

張孺(杜周) チヤウジュ

張勝 チヤウシヨウ

上七十三 八

張丞相(張蒼) チヤウジヨウシヤウ

張叔 チヤウシュク

下百三 三

張湯 チヤウタウ

下百二十 四



石乞 <small>セキキツ</small>	上六十六	一五
石慶 <small>セキケイ</small>	下百三	二
石建 <small>セキケン</small>	下百三	二
石作蜀 <small>セキサクシヨク</small>	上六十七	三
石奢 <small>セキシヤ</small>	下百十九	四
籍福 <small>セキフク</small>	下百七	二
石奮 <small>セキフン</small>	下百三	一
哲 <small>セツ</small>	上六十七	三
薛公 <small>セツコウ</small>	上七十七	九
楚令尹薛公 <small>セキコウ</small>	上九十一	一〇
節侯(申屠嘉) <small>セツコウ</small>	下百十五	二
涉何 <small>セツカ</small>	上七十四	七
接子 <small>セツシ</small>	上八十六	九
聶政 <small>セツセイ</small>		

淮南王太子遷 <small>セン</small>	下百十八	二
選(任不齊)		
冉(顏何)	上六十七	四
冉耕 <small>ゼンカウ</small>	上六十七	三
冉季 <small>ゼンキ</small>	上六十七	五
冉求 <small>ゼンキウ</small>	上六十七	二
冉孺 <small>ゼンジュ</small>	上六十七	三
專諸 <small>センシュ</small>	上八十六	二
顯孫師 <small>センソンシ</small>	上六十七	二〇
宣平侯(張敖) <small>センヘイコウ</small>	下百廿三	三〇
蟬封 <small>センホウ</small>	上六十七	四
冉雍 <small>ゼンヨウ</small>		
宣陵君(潁陰侯) <small>センリョウケン</small>		

ソ

曾子(曾參) <small>ソウシ</small>	上六十七	二
曾參 <small>ソウシン</small>		
曾皙(曾蒧) <small>ソウセキ</small>	下百廿七	一
宗中 <small>ソウチュウウ</small>	上六十七	二五
曾蒧 <small>ソウアン</small>	下百十一	八
蘇建 <small>ソケン</small>	下百十一	二七
蘇秦 <small>ソシン</small>	上六十九	一
蘇代 <small>ソタイ</small>	上七十	二
孫子(孫武) <small>ソンシ</small>	上六十九	三〇
孫叔敖 <small>ソンシウカウ</small>	下百十九	一
孫臏 <small>ソンビン</small>	下百廿六	六
孫臏 <small>ソンビン</small>	上六十五	三
孫武 <small>ソンブ</small>	上六十五	一

淳于意 ジュンウイ

下百五 二

淳于髡 ジュンウコン

上七十四 六

淳于越 ジュンウエツ

下百廿六 一

荀況 ジュンキヤウ

上八十七 九

荀卿(荀況) ジュンケイ

上七十四 七

荀子(荀況) ジュンシ

上七十八 一

春申君 ジュンシンクン

下百十一 二

荀彘 ジュンヂ

下百十五 三

子輿(曾參) ジュイ

上九十六 四

如意 ジュイ

子淵(顏回) ジュン

汝陰侯(夏侯嬰) ジュインシコウ

子魯(冉孺) ジュロ

子容(南宮括) シヨウ

子路(仲由) シロ

乘(公夏首) ジュウ

子魯(冉孺) ジュロ

衡山王王后乘舒 ジュウウジツ

徐樂 ジュガク

ス

衡山王王后乘舒 ジュウウジツ

下百十八 六

徐樂 ジュガク

下百十二 二

稷嗣君(叔孫通) シヨクシツクン

徐生 ジュセイ

徐生 ジュセイ

下百廿一 四

且鞮侯單于 シヨダイコウゼンウ

且鞮侯單于 シヨダイコウゼンウ

徐來 ジュライ

下百十八 六

子里(后處) シリ

子柳(顏幸) シリウ

子柳(顏幸) シリウ

子斂(漆雕哆) シレン

子斂(漆雕哆) シレン

子斂(邽巽) シレン

子路(仲由) シロ

子魯(冉孺) ジュロ

子魯(冉孺) ジュロ

子淵(顏回) ジュン

子淵(顏回) ジュン

子魯(冉孺) ジュロ

子魯(冉孺) ジュロ

子魯(冉孺) ジュロ

子魯(冉孺) ジュロ

子魯(冉孺) ジュロ

騶搖 スウエウ

下百十四 一

騶衍 スウエン

上七十四 二

騶忌 スウキ

上七十四 二

騶夷 スウエキ

上七十四 七

騶無諸 スウブシヨ

下百十四 一

騶陽 スウヤウ

上八十三 四

隨何 ズキワ

上九十一 四

セ

成安君(陳餘) セイアンクン

靖郭君(田嬰) セイコククン

犀首 セイシュ

西門豹 セイモンハウ

蕭何 セウカ

昭平侯(夏侯嬰) セウヘイコウ

上九十二 三



秦祖 シントウ 上六十七 三

申黨 シントウ 上六十七 三

慎到 シントウ 上七十四 七

膠西王臣端 シントウ 下百十八 七

申屠嘉 シントウ 上九十六 九

秦非 シントウ 上六十七 三

申不害 シントウ 上六十三 七

信武侯(靳歙) シントウ

任不齊 シントウ 上六十七 三

申包胥 シントウ 上六十八 八

信平君(廉頗) シントウ

信陵君(無忌) シントウ

秦越人(扁鵲) シントウ

新垣衍 シントウ 上八十三 二

子明(石作蜀) シントウ

襄(顏祖) シヤウ

商鞅 シヤウ 上六十八 一

漢王嘗羗 シヤウ 下百十六 六

章邯 シヤウ 上八十九 二

商瞿 シヤウ 上九十四 二

商瞿 シヤウ 上六十七 三

商君(商鞅) シヤウ 下百廿一 二

穰侯 シヤウ

昌國君(樂毅) シヤウ 上七十二 一

昌國君(樂閑) シヤウ

昌國君(樂閑) シヤウ

襄子(趙襄子) シヤウ

壤駟赤 シヤウ 上六十七 三

商澤 シヤウ 上六十七 三

昌文侯(顧陰侯) シヤウ

朱英 シユエイ 上七十八 二

須賈 シユカ 上七十二 四

朱家 シユカ 上七十九 一

朱家 シユカ 下百 二

朱亥 シユガイ 下百廿四 五

朱亥 シユガイ 上七十七 四

叔(顏之僕) シユク

叔魚(梁鱣) シユク

肅侯(靳歙) シユク

叔孫通 シユク 下九十九 七

叔仲會 シユク 上六十七 三

朱建 シユケン 下九十七 四

術陽侯(建德) シユウ

朱買臣 シユバイ 下百廿二 五

主父偃 シユフ 下百十二 七

施之常シシジャウ

上六十七 三五

子車シシヤ（步叔乘）

子張シチャウ（顓孫師）

司馬遷シバケン

下百三十 一

市人シジン

上九十五 九

子長シチャウ（公冶長）

司馬談シバタン

下百三十 一

子車シシヤウ（公西歲）

子中シチュウ（公堅定）

下百廿二 二

子丕シヒ（秦商）

子木シボク（商瞿）

子上シシヤウ（公西輿如）

鄧都シツト

漆彫開シツポウカイ

韓王信シン

上九十三 一

子循シジュン（曹卬）

漆雕哆シツポウシヤ

上六十七 三

任安ジンアン

下百四 六

子正シセイ（公良孺）

漆雕徒父シツポウトホ

上六十七 三

審食其シンイク

下九十七 一四

子聲シセイ（樂歆）

子徒シト（鄭國）

下百十八 一

子聲シセイ（顏噲）

子徒シト（壤駟赤）

任敖ジンガウ

上九十六 七

子石シセキ（公孫龍）

子南シナン（秦祖）

申公シンコウ

下百廿一 八

子析シセキ（伯虔）

司馬耕シバカウ

上六十七 二七

申子シンシ（申不害）

子皙シセキ（奚容蒧）

司馬季主シバキシュ

下百廿七 一

秦商シンシヤウ

上六十七 三四

子賤シセン（宓不齊）

司馬相如シバサウジヨ

下百十六 五

岑娶シンシュ

下百廿三 一五

兒單子ヱゼンウ（烏師盧單子）

下百十七 一

信成君シンセイクン（酈商）

子遲シチ（樊須）

司馬穰苴シバジャウシ

上六十四 一

秦冉シンゼン

上六十七 三



曹襄サウジヤウ

下百十一 二六

周苛シウカ

上九十六 二

子牛シギウ(司馬耕)

曹劌サウジユツ

上六十七 三

周丘シウキウ

下百六 二七

子華シクワ(公西赤)

莊助サウジヨ

下百十四 二

周仁シウジン

下百三 二〇

子驕シケウ(顏高)

泥野侯サクヤコウ(趙破奴)

周昌シウシャウ

上九十六 二

子騫シケン(閔損)

左人郢サジンエイ

上六十七 四

周繆シウミウ

下九十八 五

子貢シコウ(端木賜)

シ

周陽由シウヤウイウ

下百廿二 六

子恆シコウ(施之常)

思シ(燕伋)

子夏シカ(卜商)

子恆シコウ(施之常)

絲シ(袁盎)

子家シカ(鄒單)

子索シサク(罕父黑)

衡山王賜シ

下百十八 二六

子我シガ(幸我)

子產シサン(冉季)

下百十九 三

子遊シイウ(言偃)

子開シカイ(漆彫開)

子思シシ(原憲)

子有シイウ(冉求)

子羔シカウ(高柴)

子之シシ(公祖句茲)

鷗夷シイシヒ子皮

下百廿九 六

子祺シキ(榮旂)

子之シシ(秦非)

周シウ(申黨)

子期シキ(叔仲會)

尸子シシ

上七十四 九

子羽シウ(澹臺滅明)

子旗シキ(巫馬施)

子周シシウ(公伯僚)

公西歲コウセイザイ

上六十七 三

公西與如コウセイヨジョ

上六十七 三

公哲哀コウセキアイ

上六十七 三

公祖句茲コウソコウジ

上六十七 三

公孫鞅コウソンアウ  
(商鞅)

上六十七 三

公孫賀コウソンガ

下百十一 二

公孫敖コウソンガウ

下百十一 二

公孫弘コウソンクワウ

下百十一 二

公孫敖コウソンガウ

下百十一 二

公孫敖コウソンガウ

下百十一 二

公孫敖コウソンガウ

下百十一 二

公孫敖コウソンガウ

下百十一 二

公孫敖コウソンガウ

下百十一 二

公孫敖コウソンガウ

下百十一 二

孔忠コウチュウ

上七十六 七

公伯僚コウハクレウ

上六十七 三

公冶長コウヤチャウ

上六十七 二

公冶長コウヤチャウ

上六十七 二

公冶長コウヤチャウ

上六十七 二

公良孺コウリヤウジュ

上六十七 三

吳起ゴキ

上六十五 六

伍舉ゴキョ

上六十六 一

吳子(吳起)

上六十六 一

伍子胥ゴシンシヨ

上六十六 一

伍奢ゴシヤ

上六十六 一

壺遂コスキ

下百八 九

伍被ゴヒ

下百十八 二

胡毋生コブセイ

下百廿一 二

伍員(伍子胥)

下百十三 三

塞侯(直不疑)

下百十三 三

蔡澤サイタク

上七十九 二

宰予サイヨ

上六十七 九

衡山王太子爽サウ

下百十八 六

莊賈サウカ

上六十四 二

曹丘生サウキウセイ

下百 四

莊躄サウキヤク

下百十六 二

曹沫サウクワイ

上八十六 一

蒼梧王サウゴソウ

下百十三 三

莊子(莊周)

上六十三 五

莊周サウシウ

下百十三 三

莊參サウシン

下百十三 三

莊參サウシン

下百十三 三



兒寬 ケイワン

下百廿一 三

景桓侯(霍去病) ケイワンコウ

下百廿四 六

荆卿(荆軻) ケイケイ

厥姬 ケツキ

下百十八 二六

慶卿(荆軻) ケイケイ

太子建 タチケン

上六十六 一

景侯(酈商) ケイコウ

淮南王孫建 ケン

下百十八 九

景侯(傅寬) ケイコウ

言偃 ゲンエン

上六十七 八

計然 ケイゼン

原充籍 ゲンカウセキ

上六十七 三

邽巽 ケイソン

下百廿九 五

原憲 ゲンケン

上六十七 三

黥布 ケイフ

上六十七 三

犬子(司馬相如) ケンシ

下百廿四 二

奚容蒧 ケイヨウカン

上九十一 一

建信侯(劉敬) ケンシンコウ

下百廿二 二六

景王(張耳) ケイワウ

上六十七 三

滅宣 ゲンセン

下百廿二 二六

嫪毐 カウアイ

上八十五 八

嚴仲子 ゲンチュウシ

上八十六 九

鄭單 ケウゼン

上六十七 三

建德 ケントク

下百十三 二〇

劇子 グキシ

上七十四 九

建陵侯(衛綰) ケンリョウコウ

劇孟 グキマウ

下百一 二〇

コ

故安侯(申屠嘉) コアンコウ

孔安國 コウアンコウ

下百廿一 二四

項羽 コウウ

上八十九 一四

侯贏 コウエイ

上七十七 二

公夏首 コウカシユ

上六十七 三

孔丘 コウキウ

上六十七 一

公儀休 コウギキウ

下百廿一 一

公堅定 コウケンテイ

下百十九 四

孔子(孔丘) コウシ

上六十七 三

孔車 コウシャ

下百十二 二〇

公叔座 コウシュサ

上六十八 一

后處 コウシヨ

上六十七 三

句井疆 コウセイキヤウ

上六十七 三

公西赤 コウセイセキ

上六十七 三

翁侯(趙信)

魏豹

靳歙

匡衡

許由

共德君(傅寬)

曲周侯(酈商)

許歷

ク

虞卿

屈原

屈平(屈原)

軍臣單于

酈成侯(周緹)

酈通

公子光

廣阿侯(任敖)

黃歇(春申君)

荒侯(市人)

黃生

黃霸

廣武君(李左車)

廣野君(酈食其)

廣利

郭吉

霍去病

郭昌

郭舍人

管夷吾(管仲)

灌嬰

貫高

管仲

灌夫

環淵

華陽夫人

ケ

稽粥單于

荊軻

下百十一 二〇

下百十一 二九

下百十一 二九

下百廿六 九

上九十五 一八

上八十九 一六

上六十二 一

下百七 八

上七十四 七

上八十五 一

下百十 二

上八十六 一五

下百十 二

上八十六 一五



韓嬰 カンエイ

(下百廿一 三

韓長孺(韓安國)

韓說 カンエツ

下百十一 一六

岸頭侯(張次公)

韓嫣 カンエン

下百廿五 四

韓非 カンビ

上六十三 八

顏何 ガンカ

上六十七 三五

顏無繇 ガンブエウ

上六十七 二五

顏幸 ガンカウ

上六十七 三

甘茂 カンボウ

上七十一 五

顏高 ガンカウ

上六十七 三

罕父黑 カンホコク

上六十七 三四

顏回 ガンクワイ

上六十七 二

甘羅 カンラ

上七十一 一四

顏噲 ガンクワイ

上六十七 三五

顏路(顏無繇)

韓子(韓非) カンシ

上六十七 三四

顏淵(顏回) ガンエン

顏之僕 ガンシボク

上六十七 三四

韓信 カンシン

上九十二 一

キ

韓信(韓王信) カンシン

季(張釋之) キ

韓生(韓嬰) カンセイ

魏咎 ギキウ

上九十 一

韓千秋 カンセンシウ

下百十三 九

魏其侯(竇嬰) ギキコウ

下百七 一

顏祖 ガンソ

上六十七 三

鞠武 キクブ

上八十六 七

魏公子(信陵君) ビコウシン

季次 キシ

下百廿四 二

季次(公皙哀) キシ

魏子 ギシ

上七十五 八

季子札 キシサツ

上八十六 三

期思侯(賁赫) キンコウ

季心 キシン

下百 五

魏相 ビヤウ

上九十六 一四

義縱 ギシヨウ

下百廿二 一七

魏齊 ギセイ

上七十九 一

魏冉(穰侯) ギゼン

季布 キフ

下百 一

汲黯 キツアン

下百十二 二

下百二十 一

英布エイフ(黥布)

下百廿六 二六

應侯オウコウ(范雎)

向壽カウジュ

上七十一 五

衛平エイヘイ

下百廿八 二

烏師盧アシロゼン單于

下百十 四三

高漸離カウゼンリ

上八十六 二六

衛滿エイマン(滿)

下百十四 一

烏維アキゼン單于

下百十 三九

高堂生カウグウセイ

下百廿一 一四

東海王エウ搖エウ

下百十四 一

カ

賈誼カギ

上八十四 二

謁居エツキヨ

下百廿二 三

開カイ(秦冉)

樂欬ガクガイ

下百廿七 一

越石父エツセキボ

上六十二 五

蓋誦ガイソウ

樂開ガクカン

上六十七 三

袁盎エンアウ

下百一 一

行カウ(左人郢)

上八十六 二五

樂毅ガクキ

上八十 一〇

燕伋エンキフ

下百十八 七

公子高カウ

上八十七 一九

樂乘ガクシヤウ

上八十 二

韓固生カンコセイ

下百廿一 二〇

膠西王カウ卬カウ

下百六 六

夏侯嬰カウウエイ

上九十五 三

延陵季子エンリヨウノキシ(季子札)

下百十八 二六

衡山王子カウ孝カウ

賈生カセイ(賈誼)

上八十六 二七

オ  
ヲ

應高オウカウ

下百六 六

絳侯カウコウ

下百一 一

夏無且カブシヨ

上八十六 二七

應高オウカウ

下百六 六

高柴カウサイ

上六十七 二六

韓安國カンアンコク

下百八 一

應高オウカウ

下百六 六

高柴カウサイ

上六十七 二六

韓安國カンアンコク

下百八 一



# 史記列傳索引

表ハ本傳ノ標題ニ係ラズ總テ氏名ヲ主トシ其下ニ卷數ト頁數トヲ示ス。字號稱號等ノ下ニハ卷頁數ヲ略シ代フルニ氏名ヲ以テシ括弧ヲ施シテ之ヲ別ツ。字號等ヲ知リテ本名ヲ求メントスル場合ニ本表ノミヲ以テ事足ルノ便アレバ也。上下ハ漢文大系史記ノ上卷下卷ナリ。

ア

鞅アウ(商鞅)

卷 頁

淮南王安アン

下百十八 二〇

晏嬰アンエイ

上六十二 四

安國侯(王陵)アンコクコウ

安國少季アンコクセウキ

下百十三 七

晏子(晏嬰)アンシ

安平君(田單)アンヘイコン

安樂侯(匡衡)アンラクコウ

イ 井

右渠イウキョ

下百十五 二

有若イウジャク

上六十七 二六

優旃イウセン

下百廿六 八

優孟イウマウ

下百廿六 五

韋賢カケン

上九十六 三

韋玄成カゲンセイ

上九十六 四

韋玄成カゲンセイ

上九十六 七

懿侯(灌嬰)イコウ

政姉榮エイ

上八十六 二三

南越王尉佗(趙佗)ナツエツオウ

閔越王郢ミンエツオウ

下百十四 三

伊稚斜單于イチサゼン

衛鞅(商鞅)エイアウ

下百十三 七

倚頓イトン

榮族エイヂク

上六十七 三四

尹喜キンキ

衛綰エイクワン

下百十三 七

殷宏インクワウ

嬰齊エイセイ

下百十三 六

尹齊キンセイ

衛青エイセイ

下百十一 一

世人二字アル、皆後人ノ改ムル所ナリ。  
第七十注衛宏云云、王鳴盛曰、裴自序ノ末ニ於テ、衛宏漢舊儀注云云、今景紀ヲ觀ルニ、絶テ其短ヲ言ハズ、又遷竄室ニ下ル、天漢三年ニ在リ、後中書令ト爲リ、韋龍職ニ任ズ、其卒スル昭帝ノ初ニ在リ、罪ヲ獲刑ヲ被ルナリ、蓋已二十餘年ナリ、何ゾ竄室ニ下リ怨言アリ、獄ニ下テ死スト謂フヲ得ンヤ、情事ト全ク合ハズ、皆是ニ非ズ。

史記評林卷之一百三十終

(漢文大系第七卷總紙數七百七十六頁)



# 經異傳

索隱曰。遷言以所撰取協於經異傳諸家之說耳。謙不敢比經藝也。異傳者。如子夏易傳。毛公詩。及韓嬰外傳。伏生尙書大傳之流者也。

整齊百

# 家雜語

正義曰。太史公撰史記。言其協于六經異文。整齊諸子百家雜說之語。謙不敢比經藝也。異傳謂如丘明春秋外傳國語。子夏易傳。毛公詩傳。韓詩外傳。伏生尙書大傳之流也。

# 藏之名山

副在京師

索隱曰。言正本藏之書府。副本置京師也。穆天子傳云。天子北征至于羣玉之山。阿平無險。四徹中繩。先

王所謂策府。郭璞云。古帝王藏策之府。則所謂藏之名山是也。

# 俟後世聖人君子

索隱曰。此語出公羊傳。言夫子制春秋之義。以俟後世聖君子。以君子

之爲。亦有樂乎此也。

# 第七十

衛宏漢書舊儀注曰。司馬遷作景帝本紀。極言其短及武帝過。武帝怒而削去之。後坐舉李陵降匈奴。故下遷蠶室。有怨言。下獄死。

# 太史公曰。余述歷黃帝以來至太初而訖百三十篇

駟案漢書音義曰。十篇缺

有錄無書。張晏曰。遷沒之後。亡景紀。武紀。禮書。樂書。律書。漢興已來將相年表。日者列傳。三王世家。龜策列傳。傅靳蒯成列傳。元成之閒。褚先生補闕。作武帝紀。三王世家。龜策。日者列傳。言辭鄙陋。非遷本意也。○索隱曰。案景紀取班書補之。武紀專取封禪書。禮書取荀卿禮論。樂書取禮樂記。兵書亡不補。略述律而言兵。遂分曆述以次之。三王系家空取其策文以續此篇。何率略且重。非當也。日者不能記諸國之同異。而論司馬季主。龜策直太卜所得占龜兆雜說。而無筆削功。何燕鄙也。

索隱述贊曰。太史良才。寔纂先德。周遊歷覽。東西南北。事覈詞簡。是稱實錄。報任投書。申李下獄。惜哉殘缺。非才妄續。

ナリ、庚卿呂不韋著書ノ例ヲ以テ之ヲ言フ、當ニ太史公春秋ト云フベシ、春秋ト稱セザル者、諱ナリ、班史藝文志、太史公百三十篇、馮商續之、所太史公七篇俱ニ春秋家ニ入ル、而テ班叔皮亦稱シテ太史公書ト爲ス、蓋子長未ダ嘗テ其書ヲ名ケテ史記ト曰ハザルナリ、桓譚云、遷書ヲ著シ、成ル、以テ東方朔ニ示ス、朔皆著シテ太史公ト曰フト、之ヲ署スル者其書ヲ名ヅグルナリ、或ハ察セズ、公ヲ以テ朔遷ヲ尊ブノ稱ト爲ス、之ヲ失フ遠シ、中世史記ノ名、擬フ魏晉以後ニ出ツ、子長著書ノ意ニ非ルナリ、厥協六經異傳、注取協於經異傳、經止六字ヲ脱ス、方苞曰、六經並ニ別傳ノ書ヲ合セ、以テ史記ヲ爲ルヲ言フナリ、俟後世聖人君子、札記云、漢書以俟後聖君子ニ作ル、案圖本ト同ジ、雜志云、今本以字ナク、

三代錄秦漢。上記軒轅。下至于茲。著十二本紀。既科條之矣。竝

時異世。年差不明。作十表。索隱曰。案竝時則年曆差殊。則亦略言難以明辨。故作表。禮樂損益。律歷

改易。兵權。山川。鬼神。索隱曰。案兵權。即兵書也。遷沒之後亡。褚少孫以律書補之。今律書亦略言兵也。山川。即河渠書也。鬼神。即封禪書也。故

云山川鬼神也。天人之際。承敝通變。作八書。二十八宿環北辰。三十幅共

一轂。駟案漢書音義曰。象黃帝以下三十世家。老子言車三十幅。運行無窮。以象王者如

此也。○正義曰。顏云。此說非也。言衆星共繞北辰。諸輻咸歸車轂。羣臣尊輔天子也。運行無窮。輔拂股肱之臣配焉。忠信行道。以奉主上。作三十世

家。扶義俶儻。不令己失時。立功名於天下。索隱曰。己音紀。言扶義倜儻之士。能立功名於當代。不後

於時也。作七十列傳。凡百三十篇。五十二萬六千五百字。爲太史

公書序。索隱曰。桓譚云。遷所著書成。以示東方朔。朔皆署曰。太史公。則謂太史公是朔稱。亦恐其說未實。蓋遷自尊其父著述。稱之曰公。或云。遷外孫楊惲所稱。事或當爾

也。略以拾遺補藝。李奇曰。六藝也。○索隱曰。漢書作補闕。此作藝。謂補六藝之闕也。成一家之言。厥協六

爲太史公書序、札記云、  
索隱本、上五字ヲ引キ、  
序字ヲ連ネズ、疑フ常  
ニ下句ニ屬スベシ、錢  
大昕曰、子長先人ノ業  
ヲ述ベ、書ヲ作リ春秋  
ノ後ヲ繼ギ、一家言ヲ  
成ス、故ニ太史公書ト  
曰フ、官ヲ以テ之ヲ名  
クル者、父ノ志ヲ承ル



絶ニ作ルベシ、絶業未  
流ト對ス、文選頭陀寺  
碑注、史記ヲ引ク、正  
ニ絶ニ作ル。

書。故明堂石室。金匱玉版。

如淳曰。刻玉版以爲文字。

圖籍散亂。於是漢興。蕭何

次律令。韓信申軍法。張蒼爲章程。

如淳曰。章程。歷數之章術也。程者。權衡丈尺斛斗之平法也。瓊曰。茂陵書丞相爲工用。

程數其中。言百工用材多少之量。及制度之程品者。是也。

叔孫通定禮儀。則文學彬彬稍進。詩書往

往閒出矣。自曹參薦蓋公。言黃老。

索隱曰。蓋。姓也。音古蓋反。

而賈生黽錯明申

商。公孫弘以儒顯。百年之間。天下遺文古事。靡不畢集。太史公。

太史公仍父子相續纂其職。曰於戲。余維先人嘗掌斯事。顯於

唐虞。至于周復典之。故司馬氏世主天官。

索隱曰。案此天官。非周禮冢宰天官。乃廣知天文星曆之

事。天官。且遷實黎之後。而黎氏後亦惣稱重黎。以重本司天。故太史公代掌天官。蓋天官統太

史之職。言史是歷代之職。恐非實事。然衛宏以爲司馬氏周史佚之後。故太史談云。予之先人

周之太史。蓋至於余乎。欽念哉。欽念哉。罔羅天下放失舊聞。

索隱曰。案

舊聞有遺失放逸者。網羅而考論之。

王迹所興。原始察終。見盛觀衰。論考之行事。略推

有所長。作倭幸列傳第六十五。

不流世俗。不爭勢利。上下無所凝滯。人莫之害。以道之用。作滑

稽列傳第六十六。

齊楚秦趙。爲日者各有俗。索隱曰。按日者傳亡。無以知諸國之俗。今褚先生唯記司馬季主之事也。所用欲循

徐廣曰。觀其大旨。作日者列傳第六十七。

三王不同龜。四夷各異卜。索隱曰。其書既亡。無以知其異。今褚少孫唯取太卜占龜之雜說。詞甚煩蕪。不能裁翦。妄加穿鑿。此篇不

才之。然各以決吉凶。略闕其要。作龜策列傳第六十八。

布衣匹夫之人。不害於政。不妨百姓。取與以時。而息財富。智者

有采焉。作貨殖列傳第六十九。

維我漢繼五帝末流。接三代統業。周道廢。秦撥去古文。焚滅詩

齊楚秦趙云云。方苞曰。各有俗所用。ナ句ト爲ス。日者其國俗ニ因リ。各用フル所ノト筮ノ法アリ。循テ其大旨ヲ觀ント欲ス。故ニ此傳ヲ作ルヲ言フナリ。天官書ニ。國殊窟穴。家占物怪ハ。即各俗用フル所アルノ謂ナリ。

接三代統業。札記雜誌云。統當ニ漢書ニ從テ



者。壯有漑。徐廣曰。一作漑。作汲鄭列傳第六十。

自孔子卒。京師莫崇庠序。唯建元元狩之間。文辭粲如也。作儒

林列傳第六十一。

民倍本多巧。奸軌弄法。善人不能化。唯一切嚴削。爲能齊之。作

酷吏列傳第六十二。

漢既通使大夏。而西極遠蠻。引領內鄉。欲觀中國。作大宛列傳

第六十三。

救人於厄。振人不贍。仁者有乎。不既信。徐廣曰。一云不慨信。不倍言。義者有

取焉。作游俠列傳第六十四。

夫事人君。能說主耳目。和主顏色。而獲親近。非獨色愛。能亦各

壯有漑。札記志疑云、壯卽莊字、鄭當時ノ字ナリ、按ズルニ、漑下疑フ焉字アリ、上長福矜焉ト對ス。自孔子卒京師莫崇庠序云云、方苞曰、武帝古ニ依リ庠序ヲ崇ビ、以テ教化ヲ興ス能ハズ、而テ儒術反テ變ジ、文辭ノ學ト爲ルヲ傷ムナリ、史序微文多ク、敢テ斥指セズ、酷吏ノ如キ、天下ノ公惡スル所ナリ、而テ序ハ乃曰、民奸軌弄法、善人不能化、惟一切嚴削、爲能齊之、皆辭褒美ノ若ク、而テ義譏刺ヲ存スルナリ。欲觀中國、札記云、毛本觀ヲ觀ニ作ル。

不既信、札記雜志云、方言廣雅、並ニ云フ、既ハ失フナリ。

能亦各有所長、札記雜志云、能ハ乃ナリ。

葆塞爲外臣作朝鮮列傳第五十五。

唐蒙使略通夜郎而邛笮之君請爲內臣受吏作西南夷列傳第五十六。

子虛之事。大人賦說。靡麗多誇。然其指風諫。歸於無爲。作司馬相如列傳第五十七。

黥布叛逆。子長國之。以填江淮之南。安剽楚庶民。作淮南衡山列傳第五十八。

奉法循理之吏。不伐功矜能。百姓無稱。亦無過行。作循吏列傳第五十九。

正衣冠。立於朝廷。而羣臣莫敢言浮說。長孺矜焉。好薦人。稱長



匈奴列傳第五十。

直曲塞。廣河南。破祁連。通西國。靡北胡。作衛將軍驃騎列傳。第五十一。

大臣宗室。以侈靡相高。唯弘用節衣食。爲百吏先。作平津侯列傳。第五十二。

漢既平中國。而佗能集楊越。以保南藩。納貢職。作南越列傳。第五十三。

吳之叛逆。甌人斬淖。

徐廣曰。今之永嘉。是東甌也。

葆守封禺爲臣。

索隱曰。葆音保。言東甌被越攻破之後。保

封禺之山。今在武康縣也。

作東越列傳。第五十四。

燕丹散亂遼閒。滿收其亡民。厥聚海東。以集眞番。

徐廣曰。一作冀番。音普寒反。

維仲之省、錢大昕曰、  
省ハ善ト訓ズ、仲罪ヲ  
以テ王爵ヲ奪ハルト雖  
モ、而モ高帝猶之ヲ善  
トス、故ニ又其子ヲ封  
ズルヲ言フナリ、藥頤  
侯モ亦兄ノ子ナリ、其  
母ノ不善ヲ以テ、故ニ  
王タルヲ得ズ

扁鵲言<sup>ヲ</sup>醫<sup>チ</sup>爲<sup>リ</sup>方者宗<sup>ニ</sup>守<sup>ル</sup>數<sup>ヲ</sup>精明。後世修序<sup>シテ</sup>弗<sup>レ</sup>能<sup>ル</sup>易<sup>ル</sup>也。而倉公可

謂<sup>レ</sup>近<sup>シトニ</sup>之<sup>ニ</sup>矣。作<sup>ル</sup>扁鵲倉公列傳<sup>ヲ</sup>第四十五。

維仲之省

<sup>セラルル</sup>。徐廣曰。吳王  
之王由父省。

厥<sup>レ</sup>凴<sup>ニ</sup>王<sup>タリ</sup>吳<sup>ニ</sup>遭<sup>ヒ</sup>漢<sup>ニ</sup>初<sup>テ</sup>定<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>填<sup>ル</sup>撫<sup>ス</sup>江<sup>ニ</sup>淮<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>間<sup>ヲ</sup>作<sup>ル</sup>

吳王凴列傳<sup>ヲ</sup>第四十六。

吳楚爲<sup>ス</sup>亂<sup>ヲ</sup>宗屬唯<sup>ダ</sup>嬰<sup>ニ</sup>賢<sup>シク</sup>而喜<sup>ス</sup>士<sup>ヲ</sup>士鄉<sup>フ</sup>之<sup>ニ</sup>率<sup>キテ</sup>師<sup>ヲ</sup>抗<sup>ス</sup>山<sup>ニ</sup>東<sup>ニ</sup>滎<sup>ニ</sup>陽<sup>ニ</sup>作<sup>ル</sup>魏

其武安列傳<sup>ヲ</sup>第四十七。

智足<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>應<sup>ズルニ</sup>近<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>變<sup>ニ</sup>寬<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>用<sup>テ</sup>得<sup>ルニ</sup>人<sup>ヲ</sup>作<sup>ル</sup>韓<sup>ニ</sup>長<sup>ニ</sup>孺<sup>ニ</sup>列<sup>ヲ</sup>傳<sup>ヲ</sup>第四十八。

勇<sup>ニ</sup>於<sup>レ</sup>當<sup>ルニ</sup>敵<sup>ニ</sup>仁<sup>ニ</sup>愛<sup>ス</sup>士<sup>ヲ</sup>卒<sup>ヲ</sup>號<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>煩<sup>カ</sup>師<sup>ヲ</sup>徒<sup>フ</sup>鄉<sup>レ</sup>之<sup>ニ</sup>作<sup>ル</sup>李<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>軍<sup>ニ</sup>列<sup>ヲ</sup>傳<sup>ヲ</sup>第四

十九。

自<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>代<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>來<sup>ニ</sup>匈<sup>ニ</sup>奴<sup>ニ</sup>常<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>國<sup>ニ</sup>患<sup>ニ</sup>害<sup>ヲ</sup>欲<sup>ニ</sup>知<sup>ニ</sup>彊<sup>ニ</sup>弱<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>時<sup>ヲ</sup>設<sup>ケ</sup>備<sup>ヲ</sup>征<sup>ニ</sup>討<sup>ニ</sup>作<sup>ル</sup>



能摧剛作柔。卒爲列臣。欒公不劫於勢而倍死。作季布欒布列傳第四十。

敢犯顏色。以達主義。不顧其身。爲國家樹長畫。作袁盎鼂錯列傳第四十一。

守法不失大理。言古賢人。增主之明。作張釋之馮唐列傳第四十二。

敦厚慈孝。訥於言。敏於行。務在鞠躬。君子長者。作萬石張叔列傳第四十三。

守節切直。義足以言廉。行足以厲賢。任重權不可以非理撓。作田叔列傳第四十四。

攻城野戰。獲功歸報。噲商有力焉。非獨鞭策。又與之脫難。作樊鄴列傳第三十五。

漢既初定。文理未明。蒼爲主計。整齊度量。序律歷。作張丞相列傳第三十六。

結言通使。約懷諸侯。諸侯咸親。歸漢爲藩輔。作酈生陸賈列傳第三十七。

欲詳知秦楚之事。維周縲常從高祖。平定諸侯。作傅靳蒯成列傳第三十八。索隱曰。蒯音裴。其字從崩邑。又音浮。

徙彊族。都關中。和約匈奴。明朝廷禮。次宗廟儀法。作劉敬叔孫通列傳第三十九。



收<sub>二</sub>西河上黨之兵<sub>一</sub>。從<sub>二</sub>至彭城<sub>一</sub>。越之侵掠梁地。以苦項羽。作<sub>二</sub>魏豹

彭越列傳第三十。

以<sub>二</sub>淮南叛楚歸漢<sub>一</sub>。漢用得大司馬殷。卒破子羽于垓下。徐廣曰。堤塘之名也。

作<sub>二</sub>黥布列傳第三十一<sub>一</sub>。

楚人迫我京索。而信拔<sub>二</sub>魏趙<sub>一</sub>。定<sub>二</sub>燕齊<sub>一</sub>。使<sub>二</sub>漢三分天下<sub>一</sub>。有其<sub>二</sub>二<sub>一</sub>。以滅項籍。作<sub>二</sub>淮陰侯列傳第三十二<sub>一</sub>。

楚漢相距。鞏洛。而韓信爲<sub>二</sub>填潁川<sub>一</sub>。盧綰絕<sub>二</sub>籍糧餉<sub>一</sub>。作<sub>二</sub>韓王信盧綰列傳第三十三<sub>一</sub>。

諸侯畔<sub>二</sub>項王<sub>一</sub>。唯齊連子羽。城陽。漢得以閒。遂入<sub>二</sub>彭城<sub>一</sub>。作<sub>二</sub>田儼列傳第三十四<sub>一</sub>。

結<sup>ヒ</sup>子楚<sup>ニ</sup>親<sup>ニ</sup>。使<sup>ニ</sup>諸侯之士<sup>ヲ</sup>。斐然<sup>トシテ</sup>爭<sup>ヒ</sup>入<sup>テ</sup>事<sup>ス</sup>秦<sup>ニ</sup>。作<sup>ル</sup>呂不韋列傳<sup>ニ</sup>第二十  
五。

曹子<sup>ハ</sup>匕首<sup>ヲ</sup>。魯獲<sup>ニ</sup>其田<sup>ヲ</sup>。齊明<sup>ニ</sup>其信<sup>ヲ</sup>。豫讓<sup>ニ</sup>義不爲<sup>ス</sup>二心<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>刺客列傳<sup>ニ</sup>  
第二十六。

能明<sup>ニ</sup>其畫<sup>ヲ</sup>。因<sup>レ</sup>時<sup>ニ</sup>推<sup>シ</sup>秦<sup>ヲ</sup>。遂得<sup>ニ</sup>意<sup>ヲ</sup>於海內<sup>ニ</sup>。斯爲<sup>ニ</sup>謀首<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>李斯列傳<sup>ニ</sup>第  
二十七。

爲<sup>ニ</sup>秦開地<sup>ヲ</sup>。益<sup>シ</sup>衆<sup>ヲ</sup>。北靡<sup>ニ</sup>匈奴<sup>ヲ</sup>。據<sup>レ</sup>河爲<sup>シ</sup>塞<sup>ト</sup>。因<sup>レ</sup>山爲<sup>シ</sup>固<sup>ト</sup>。建<sup>ツ</sup>榆中<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>蒙恬  
列傳<sup>ニ</sup>第二十八。

填<sup>テ</sup>趙塞<sup>ヲ</sup>。常山<sup>ニ</sup>以廣<sup>ム</sup>河內<sup>ヲ</sup>。弱<sup>メ</sup>楚權<sup>ヲ</sup>。明<sup>ニ</sup>漢王之信<sup>ヲ</sup>於天下<sup>ニ</sup>。作<sup>ル</sup>張耳陳  
餘列傳<sup>ニ</sup>第二十九。

率<sup>シテ</sup>行<sup>ニ</sup>其謀<sup>ニ</sup>連<sup>ニ</sup>五國兵<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>弱燕<sup>ノ</sup>報<sup>ニ</sup>彊齊之讎<sup>ヲ</sup>雪<sup>ニ</sup>其先君之恥<sup>ヲ</sup>作<sup>ニ</sup>樂毅列傳<sup>ヲ</sup>第二十。

能<sup>ベテ</sup>信<sup>ニ</sup>意彊秦<sup>ニ</sup>而屈<sup>ス</sup>體廉子<sup>ヲ</sup>用<sup>テ</sup>徇<sup>ニ</sup>其君<sup>ニ</sup>俱<sup>ニ</sup>重<sup>ニ</sup>於諸侯<sup>ニ</sup>作<sup>ニ</sup>廉頗藺相如列傳<sup>ヲ</sup>第二十一。

潛王既失<sup>ニ</sup>臨淄<sup>ヲ</sup>而奔<sup>ル</sup>莒<sup>ニ</sup>唯田單用<sup>ニ</sup>卽墨<sup>ヲ</sup>破<sup>ニ</sup>走騎劫<sup>ヲ</sup>遂存<sup>ニ</sup>齊社稷<sup>ヲ</sup>作<sup>ニ</sup>田單列傳<sup>ヲ</sup>第二十二。

能<sup>ケ</sup>設<sup>ニ</sup>詭說<sup>ヲ</sup>解<sup>ニ</sup>患<sup>ヲ</sup>於圍城<sup>ニ</sup>輕<sup>ク</sup>爵祿<sup>ヲ</sup>樂<sup>ム</sup>肆志<sup>ヲ</sup>作<sup>ニ</sup>魯中連鄒陽列傳<sup>ヲ</sup>第二十三。

作<sup>テ</sup>辭<sup>ヲ</sup>以諷諫<sup>シ</sup>連<sup>テ</sup>類<sup>ヲ</sup>以爭<sup>フ</sup>義離騷有<sup>レ</sup>之作<sup>ニ</sup>屈原賈生列傳<sup>ヲ</sup>第二十四。



方ニ縱橫戰伐ヲ努メ、  
 而テ孟子乃唐虞三代ノ  
 德ヲ述ブ、荀卿儒墨道  
 德ノ興壞ヲ序列ス、則  
 獵儒墨之遺文ハ、荀卿  
 ナリ、明禮義之  
 統紀ハ、孟子ナリ、孟子  
 ナリ、細惠王利端ハ、孟  
 リヲ謂フナリ、列往世  
 興衰ハ、荀卿ヲ謂フナ  
 リ、史記序稱スル所、  
 先後錯綜多シ、陳杞世  
 家、爰周陳杞、楚實滅  
 之、田齊既起、舜何人  
 哉、管晏傳序、晏子儉  
 矣、夷吾則奢、齊桓以  
 霸、景公以治、正ニ此  
 ト類ス。

作孟子荀卿列傳第十四。

好客喜士。士歸于薛。爲齊扞楚魏。作孟嘗君列傳第十五。

爭馮亭以權。徐廣曰。以一作反。太史公譏平原曰。利令智昏。故云爭馮亭反權。如楚以救邯鄲之圍。使其

君復稱於諸侯。作平原君虞卿列傳第十六。

能以富貴下貧賤。賢能詘於不肖。唯信陵君爲能行之。作魏公

子列傳第十七。

以身徇君。遂脫彊秦。使馳說之士南鄉走楚者。黃歇之義。作春

申君列傳第十八。

能忍詢於魏齊。徐廣曰。詢音遁。○索隱曰。詢音火候反。謂辱也。而信威於彊秦。推賢讓位。二

子有之。作范雎蔡澤列傳第十九。

天下患<sup>ヘ</sup>衡秦母<sup>ヲ</sup>饜<sup>シ</sup>。而蘇子能存<sup>シ</sup>諸侯。約<sup>シ</sup>從<sup>ヲ</sup>以抑<sup>フ</sup>貪彊<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>蘇秦列傳第九。

六國既從親<sup>ス</sup>。而張儀能明<sup>ニ</sup>其說<sup>ヲ</sup>。復散<sup>ス</sup>解<sup>ス</sup>諸侯。作<sup>ル</sup>張儀列傳第十。  
秦所以東攘<sup>シ</sup>。徐廣曰。一作襄。雄<sup>ニ</sup>諸侯。樗里甘茂之策<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>樗里甘茂列傳第十一。

苞<sup>ネ</sup>河山。徐廣曰。苞一作施。圍<sup>ミ</sup>大梁。使<sup>ム</sup>諸侯斂<sup>テ</sup>手<sup>ヲ</sup>。而事<sup>ヘ</sup>秦者。魏冉之功<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>穰

侯列傳第十二。

南拔<sup>キ</sup>鄢郢。北摧<sup>キ</sup>長平。遂圍<sup>ム</sup>邯鄲。武安爲<sup>リ</sup>率。破<sup>リ</sup>荊滅<sup>スル</sup>趙。王翦之計<sup>ヲ</sup>。作<sup>ル</sup>白起王翦列傳第十三。

獵<sup>シ</sup>儒墨之遺文<sup>ヲ</sup>。明<sup>ニ</sup>禮義之統紀<sup>ヲ</sup>。絕<sup>チ</sup>惠王利端<sup>ヲ</sup>。列<sup>ス</sup>往世興衰<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。一作壞。

獵儒墨之遺文云、方苞曰、傳ニ稱ス、天下

李耳無爲自化。清淨自正。韓非揣事情。循勢理。作老子韓非列傳第三。

非信廉仁勇不能傳兵論  
劍、札記、雜志顧子明  
ヲ引テ曰、モト非信仁  
廉勇不能傳劍論兵書ニ  
作ル、上文在趙者以傳  
劍顯ノ集解、是其證ナ  
リ、今本上下錯亂シ、  
又書字ヲ脱ス。

自古王者而有司馬法。穰苴能申明之。作司馬穰苴列傳第四。  
非信廉仁勇不能傳兵論劍。與道同符。內可以治身。外可以應  
變。君子比德焉。作孫子吳起列傳第五。

維建遇讒。爰及子奢。尙既匡父。伍員奔吳。作伍子胥列傳第六。  
孔子述文。弟子興業。咸爲師傅。崇仁厲義。作仲尼弟子列傳第  
七。

鞅去衛適秦。能明其術。彊霸孝公。後世遵其法。作商君列傳第  
八。



稷<sup>ニ</sup>作<sup>ル</sup>陳丞相世家<sup>ニ</sup>第二十六。

諸呂爲從<sup>シ</sup>謀<sup>ル</sup>弱<sup>ム</sup>京師<sup>ヲ</sup>而勃反<sup>シ</sup>經合<sup>フ</sup>於權<sup>ニ</sup>吳楚之兵亞夫駐<sup>ル</sup>於昌邑<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>扞<sup>シテ</sup>齊趙<sup>ヲ</sup>而出委<sup>スルニ</sup>以梁<sup>ヲ</sup>作<sup>ル</sup>絳侯世家<sup>ニ</sup>第二十七。

七國叛逆藩屏<sup>トシテ</sup>京師<sup>ニ</sup>唯梁爲扞<sup>チ</sup>傾<sup>ミ</sup>愛<sup>チ</sup>矜<sup>リ</sup>功<sup>ニ</sup>幾獲<sup>ソド</sup>于禍<sup>ヲ</sup>嘉<sup>ス</sup>其能距<sup>グ</sup>吳楚<sup>ヲ</sup>作<sup>ル</sup>梁孝王世家<sup>ニ</sup>第二十八。

五宗既王<sup>トシテ</sup>親屬協和<sup>ニ</sup>諸侯大小爲藩<sup>ト</sup>爰得<sup>ニ</sup>其宜<sup>ヲ</sup>僭擬之事稍衰<sup>ス</sup>貶<sup>ス</sup>矣作<sup>ル</sup>五宗世家<sup>ニ</sup>第二十九。

三子之王<sup>スル</sup>文辭可觀<sup>ル</sup>作<sup>ル</sup>三王世家<sup>ニ</sup>第三十。

末世爭利<sup>ヒ</sup>維彼奔義<sup>レ</sup>讓國<sup>ヲ</sup>餓死<sup>ス</sup>天下稱之<sup>ヲ</sup>作<sup>ル</sup>伯夷列傳<sup>ニ</sup>第一。  
晏子儉矣夷吾則奢<sup>ル</sup>齊桓以霸<sup>ダリ</sup>景公以治<sup>ル</sup>作<sup>ル</sup>管晏列傳<sup>ニ</sup>第二。

天下已平。親屬既寡。悼惠先壯。實鎮東土。哀王擅興。發怒諸呂。駟鈞暴戾。京師弗許。厲之內淫。禍成主父。嘉肥股肱。作齊悼惠王世家第二十二。

楚人圍我滎陽。相守三年。蕭何填撫山西。正義曰。謂華山之西也。推計踵兵。

給糧食不絕。使百姓愛漢。不樂爲楚。作蕭相國世家第二十三。

與信定魏。破趙拔齊。遂弱楚人。續何相國。不變不韋。黎庶攸寧。

嘉參不伐功。矜能作曹相國。世家第二十四。

運籌帷幄之中。制勝於無形。子房計謀其事。無知名。無勇功。圖。

難於易。爲大於細。作留侯世家第二十五。

六奇既用。諸侯賓從於漢。呂氏之事。平爲本謀。終安宗廟。定社。

栗姬傾貴、錢大昕曰、  
傾ハ負ト同ジ、特ナリ、  
武安侯傳贊、武安負貴  
尚好權、此ト同義、下  
交梁孝王ヲ述テ、傾愛  
勢功ト云フ、亦同ジ。

秦失其政。而陳涉發迹。諸侯作難。風起雲蒸。卒亡秦族。天下之  
端。自涉發難。作陳涉世家第十八。

成皐之臺。薄氏始基。紕意適代。厥崇諸竇。栗姬傾貴。王氏乃遂。

陳后太驕。卒尊子夫。嘉夫德若斯。作外戚世家第十九。

漢既譎謀。禽信於陳。越荊剽輕。乃封弟交爲楚王。爰都彭城。以

彊淮泗爲漢宗藩。戊溺於邪。禮復紹之。嘉游輔祖。正義曰。游。楚王交  
字也。祖。高祖也。

作楚元王世家第二十。

維祖師旅。劉賈是與。爲布所襲。喪其荊吳。營陵激呂。乃王琅邪。

怵午信齊。正義曰。謂  
祝午也。往而不歸。遂西入關。遭立孝文。獲復王燕。天

下未集。賈澤以族爲漢藩輔。作荊燕世家第二十一。



韓厥陰德、方苞曰、事傳ニ於テ考フルナシ。

作田敬仲完世家、札記志疑云、史記篇題、名字兼テ書スル者ナシ、此必後人ノ妄増ナリ、漢書遷傳、敬仲二字ナシ。

韓厥陰德。趙武攸興。紹絕立廢。晉人宗之。昭侯顯列。申子庸之。疑非不信。秦人襲之。嘉厥輔晉。匡周天子之賦。作韓世家第十

五。  
完子避難。適齊爲援。陰施五世。齊人歌之。成子得政。田和爲侯。王建動心。乃遷于共。嘉威宣能撥濁世。而獨宗周。作田敬仲完世家第十六。

周室既衰。諸侯恣行。仲尼悼禮廢樂崩。追修經術。以達王道。匡亂世。反之於正。見其文辭。爲天下制儀法。垂六藝之統紀於後世。作孔子世家第十七。

桀紂失其道。而湯武作。周失其道。而春秋作。

正義曰。周失其道。至秦之時。諸侯力事乎爭彊。

彊吳以尊周宰。作越王句踐世家第十一。

桓公之東。太史是庸。及侵周禾。王人是議。祭仲要盟。鄭久不昌。

子產之仁。紹世稱賢。三晉侵伐。鄭納於韓。嘉厲公納惠王。作鄭

世家第十二。

維驥騮耳。乃章造父。趙夙事獻。衰續厥緒。正義曰。衰楚爲反。佐文尊王。卒

爲晉輔。襄子困辱。乃禽智伯。主父生縛。餓死探爵。王遷辟淫。良

將是斥。嘉鞅討周亂。作趙世家第十三。

畢萬爵魏。卜人知之。及絳戮干。戎翟和之。文侯慕義。子夏師之。

惠王自矜。齊秦攻之。既疑信陵。諸侯罷之。卒亡大梁。王假廝之。

嘉武佐晉文。申霸道。作魏世家第十四。

亡。嘉微子問太師作宋世家第八。

武王既崩叔虞邑唐君子譏名。

正義曰謂晉穆侯太子名仇少子名成師也。

卒滅武公驪

姬之愛亂者五世重耳不得意乃能成霸六卿專權。

正義曰智伯范中行韓魏

趙

晉國以耗嘉文公錫珪鬯作晉世家第九。

重黎業之吳回接之殷之季世粥子牒之周用熊繹熊渠是續。

莊王之賢乃復國陳。

正義曰楚莊王都陳。

既赦鄭伯班師華元懷王客死蘭

咎屈原好諛信讒楚并於秦嘉莊王之義作楚世家第十。

少康之子實賓南海。

正義曰吳越春秋云啓使歲時祭禹於越立宗廟南山之上少康封庶子無餘於越使祠禹至句踐遷都山陰立禹廟爲

始祖廟越亡遂廢也案

文身斷髮龍鰓與處。

索隱曰龍音元鰓音鼃。

既守封禺。

徐廣曰封禺山

今禹廟在會稽山下。

在武康

奉禹之祀句踐困彼乃用種蠡嘉句踐夷蠻能修其德滅

縣南。

實賓南海、札記云、柯  
賓賓居ニ作ル、按ズ  
ルニ、此文亦當ニ讀テ  
損ト爲スベシ。

乃復國陳、余有丁曰、  
楚莊王陳ニ克ツ、申叔  
ノ諫ヲ以テ而テ之ヲ復  
ス、故ニ復國陳ト曰フ。



叔。名鮮。蔡叔。名度。霍叔。名處也。

周公爲盟。太任十子。周以宗彊。

索隱曰。太任。文王妃。十子。伯邑考。武王。管。蔡。霍。魯。衛。毛。聃。

曹是也。

嘉仲悔過。

正義曰。蔡叔度之子。蔡仲也。

作管蔡世家第五。

王後不絕。舜禹是說。維德休明。苗裔蒙烈。百世享祀。爰周陳杞。

楚實滅之。齊田既起。舜何人哉。作陳杞世家第六。

牧殷餘民。叔封始邑。申以商亂。酒材是告。及朔之生。衛傾不寧。

索隱曰。衛傾公也。

南子惡蒯聵。子父易名。周德卑微。戰國既彊。衛以小弱。

角獨後亡。嘉彼康誥。作衛世家第七。

嗟箕子乎。嗟箕子乎。正言不用。乃反爲奴。武庚既死。周封微子。

襄公傷於泓。

正義曰。泓。水名。公羊傳云。宋與楚人期戰於泓之陽。宋師大敗。君子大其不鼓不成列。臨大事而不忘禮。雖文王之戰。亦不過此也。

君子

孰稱。景公謙德。熒惑退行。剔成暴虐。

徐廣曰。一云。偃。宋剔成君生偃。○索隱曰。剔音遏。

宋乃滅

牧殷餘民。札記牧。牧二作ル。云フ柯本毛本牧二作ル。周紀亦頗牧殷餘民ト云フ。各本牧二作ル。非ナリ。衛傾不寧。札記傾。傾二作ル。注同。云フ索隱本頃。各本頃。二作ル。

姜姓解亡、札記雜志云、解當ニ鮮ニ作ルベシ、鮮ノ言ハ斯ナリ、釋言曰、斯ハ離ナリ。

略陰符七術之屬也。

番番黃髮。

番音婆。毛萇云。番番威勇武貌也。案黃髮言老人髮白而更黃也。

奚饗營丘。不背柯。

盟。桓公以昌。九合諸侯。霸功顯彰。田闕爭寵。姜姓解亡。

徐廣曰。闕一云監。解。

一作

嘉父之謀。作齊太公世家第二。

遷。

依之違之。周公綏之。憤發文德。天下和之。輔翼成王。諸侯宗周。

隱桓之際。是獨何哉。三桓爭彊。魯乃不昌。嘉旦金縢。作周公世家第三。

家第三。

武王克紂。天下未協而崩。成王既幼。管蔡疑之。淮夷叛之。於是

召公率德。安集王室。以寧東土。燕易之禪。乃成禍亂。

索隱曰。謂王噲禪其相子

之後卒。嘉甘棠之詩。作燕世家第四。

管蔡相武庚。將寧舊商。及旦攝政。二叔不饗。殺鮮放度。

索隱曰。案系家云。管

燕易之禪、札記志疑云、易ハ噲ノ誤ナリ。

ニ作ルナリ、小司馬翻  
ナ調ジ輕ト爲ス、之ヲ  
失フ。

神名山大川禮。作封禪書第六。

維禹浚川。九州攸寧。奚及宣防。決瀆通溝。作河渠書第七。

維幣之行。

索隱曰。幣。錢也。

以通農商。其極則玩巧并兼茲。

索隱曰。玩。音五官反。巧。音苦孝反。

殖。爭於機利。去本趨末。作平準書以觀事變第八。

太伯避歷。江蠻是適。文武攸興。古公王跡。闔廬弑僚。賓服荊楚。

夫差克齊。子胥鴟夷。信誥親越。吳國既滅。嘉伯之讓。作吳世家

第一。

申呂肖矣。

徐廣曰。肖。音瘠。瘠。猶衰微。○索隱曰。徐廣音訓不知從出。案肖謂微弱而省少。所謂申呂雖衰也。○正義曰。肖。音瘠。呂尙之祖封於申。申呂後瘠微。故尙

父微賤也。

尙父側微。卒歸西伯。文武是師。功冠軍公。繆權于幽。

徐廣曰。繆。

錯也。猶云纏結也。權。智潛謀。幽。昧不顯。所謂太公陰謀。○索隱曰。繆。謂綢繆也。音亡又反。謂太公繆綢爲權謀於幽昧不明著也。○正義曰。繆。音武彪反。言呂尙綢繆於幽權之策。謂六韜三

申呂肖矣。札記、顧氏  
日知錄云、肖ハ乃削字、  
其旁ヲ脫ス、孟子魯之  
削ト同シ。



愼歟。司馬法所從來尙矣。

正義曰。古者師出以律。凡軍出皆吹律聽聲。律書云。六律爲萬事根本。其於兵械尤所重。望敵知吉凶。聞

聲效勝負。故云司馬兵法所從來尙矣乎。

太公孫吳王子

徐廣曰。王子。成甫。

能紹而明之。切近世極

人變作律書第三。

律居陰而治陽。歷居陽而治陰。律歷更相治。閒不容翽忽。

索隱曰。案

忽者。愼文之徵也。翽者。輕也。言律歷窮陰陽之妙。其閒不容輕忽也。言翽恐衍字耳。○正義曰。翽匹遙反。今音匹。沼反。字當作秒。秒。禾芒表也。忽。一蠶口出絲也。言律歷相治之閒。不容比微細之物也。五家之文。怫異。索隱曰。怫音悖。一音扶。物反。怫亦悖也。案言金木水火土五家

歷。其文相戾。乖異不同。維太初之元論。作歷書第四。徐廣曰。論歷律爲是。故歷書自太初之元論之也。維太初之元論。作歷書第四。一作編。

星氣之書。多雜譌祥。不經。推其文。考其應。不殊。比集論其行事。

驗于軌度。以次作天官書第五。

受命而王。封禪之符。罕用。

徐廣曰。一云答應。

用則萬靈罔不禋祀。追本諸

律居陰而治陽云云。方苞曰。神化ノ幽渺ヲ陰ト爲ス。形象ノ顯見ヲ陽ト爲ス。律ハ天地微妙ノ神ヲ存シ。而テ能ク神人ヲ感ジ。鳥獸ヲ格シ。吉凶勝負ヲ知ル。故ニ居陰而治陽ト曰フ。歷ハ象數ノ顯ヲ用ヒ。以テ日月星辰ノ行。四時五氣ノ變ヲ推歩ス。故ニ居陽而治陰ト曰フ。更相治ムハ。卽陰ヲ治メ陽ヲ治ムナリ。律之ヲ忽微ニ失ヘバ。則氣應ゼズ。歷之チ忽微ニ失ヘバ。則度必忒フ。故ニ曰。閒不容翽忽。錢大昕曰。翽當ニ藥ト爲スベシ。淮南天文訓ニ。秋分藥定。藥定而禾熟。故十二藥而當一粟。高誘云。藥古文秒。

德歸京師。作王子侯者年表第九。

國有賢相良將。民之師表也。維見漢興以來將相名臣年表。賢者記其治。不賢者彰其事。作漢興以來將相名臣年表第十。

維三代之禮。所損益各殊務。然要以近情性。通王道。故禮因人質爲之節文。略協古今之變。作禮書第一。

樂者所以移風易俗也。自雅頌聲興。則已好鄭衛之音。鄭衛之音。所從來久矣。人情之所感遠俗則懷。徐廣曰。樂者所以感和人情。人情既感。則遠方殊俗。莫不懷柔向化。

也。比樂書以述來古。索隱曰。來古。即古來。言此樂書述自古已來樂之興衰也。作樂書第二。

非兵不彊。索隱曰。此律書之贊。而云非兵不彊者。則此律書。即兵書也。古者師出以律。則凡出軍皆聽律聲。故云聞律效勝負。望敵知吉凶也。非德不

昌。黃帝湯武以興。索隱曰。黃帝有版泉之師。湯武有鳴條牧野之戰。而克桀紂。桀紂二世以崩。可不

驍弱之原注天漢序曰、札記云、下二句、漢書序傳ニ見ユ、此天字衍ナリ、序下傳字ナ脱ス、注正義相代相、札記云、下相字疑フ衍ナリ。

維高祖元功、札記維志云、高字後人加フル所ナリ、文選吳都賦注、漢高祖功臣頌注、弔魏武帝文注、引テ皆高字ナシ、下文蒯燕世家ナ述テ云、惟祖師旅ト、又其一證ナリ。

漢興已來。至于太初百年。諸侯廢立分削。譜紀不明。有司靡踵。

疆弱之原云以世。徐廣曰。一作云已也。天漢序曰。敝義依霍庶幾云已。○索隱曰。踵。繼也。以當作已。世當作也。竝誤之耳。云已也。皆語助之辭。○正義

曰。言漢興已來百年。諸侯廢立分削。譜紀不能明其嗣。有司無所踵繼其後。乃云疆弱之原云以世相代相不能有所錄紀也。作漢興已來諸侯年

表第五。

維高祖元功。輔臣股肱。剖符而爵。澤流苗裔。忘其昭穆。或殺身殞國。作高祖功臣侯者年表第六。

惠景之間。維申功臣。宗屬爵邑。作惠景閒侯者年表第七。

北討疆胡。南誅勁越。征伐夷蠻。武功爰列。作建元以來侯者年表第八。

諸侯既疆。七國爲從。子弟衆多。無爵封邑。推恩行義。其勢銷弱。



漢興五世。隆在建元。一本封上有建字外攘夷狄。內修法度。封禪改正朔。易服色。  
作今上本紀第十二。

維三代尙矣。年紀不可考。蓋取之譜牒。舊聞本于茲。於是略推  
作三代世表第一。

幽厲之後。周室衰微。諸侯專政。春秋有所不紀。而譜牒經略。五  
霸更盛衰。欲睹周世相先後之意。作十二諸侯年表第二。

春秋之後。陪臣秉政。疆國相王。以至于秦。卒并諸夏。滅封地。擅  
其號。作六國年表第三。

秦既暴虐。楚人發難。項氏遂亂。漢乃扶義征伐。八年之間。天下  
三擅事繁變衆。故詳著秦楚之際月表第四。

天下三擅、札記題ニ作  
ル、云フ南宋毛本擅、  
他本擅ニ作ル。

子冠軍。諸侯立之。誅嬰背懷。天下非之作。項羽本紀第七。

子羽暴虐。漢行功德。憤發蜀漢。還定三秦。誅籍業帝。天下惟寧。

改制易俗。作高祖本紀第八。

惠之早實。正義曰。正義曰。音殞。諸呂不台。徐廣曰。無台輔之德也。一曰。怡懌也。不爲百姓所說。○索隱曰。案此贊本韻則怡懌爲是也。崇

大臣洞疑、札記雜誌云、洞讀テ洞ト爲ス。

彊祿產。諸侯謀之。殺隱幽友。徐廣曰。趙隱王如意。趙幽王友。大臣洞疑。索隱曰。洞是洞達。義共所疑。

遂及宗禍。作呂太后本紀第九。

漢既初興。繼嗣不明。迎王踐祚。天下歸心。蠲除肉刑。開通關梁。

廣恩博施。厥稱太宗。作孝文本紀第十。

諸侯驕恣。吳首爲亂。京師行誅。七國伏辜。天下翕然。大安殷富。

作孝景本紀第十一。

作夏本紀第二。

維契作商。

正義曰。契音薛。

爰及成湯。太甲居桐。德盛阿衡。武丁得說。乃

稱高宗。帝辛湛湎。諸侯不享。作殷本紀第三。

維棄作稷。德盛西伯。武王牧野。實撫天下。幽厲昏亂。既喪。鄴鎬。

陵遲至赧。洛邑不祀。作周本紀第四。

維秦之先。伯翳佐禹。穆公思義。悼豪之旅。

索隱曰。豪即崤之異音。旅。師旅也。○正義曰。穆公封崤山

軍旅之尸。以人為殉。詩歌黃鳥。昭襄業帝。作秦本紀第五。

始皇既立。并兼六國。銷鋒鑄鐻。

徐廣曰。嚴安上書。銷其兵。鑄以爲鍾鐻也。○索隱曰。鐻音巨。鐻。鍾也。

維偃干

革。尊號稱帝。矜武任力。二世受運。子嬰降虜。作始皇本紀第六。

瑕瑜不相掩。

秦失其道。豪傑竝擾。項梁業之。子羽接之。殺慶救趙。

徐廣曰。宋義爲上將。號慶

殺慶救趙。札記云。中統游本吳校金板慶ヲ卿ニ作ル。



春秋<sup>チ</sup>屈原放逐<sup>セワレタシ</sup>著離騷<sup>チ</sup>左丘失明<sup>チ</sup>厥有<sup>チ</sup>國語<sup>チ</sup>孫子臆<sup>チ</sup>脚而論<sup>チ</sup>兵

法<sup>チ</sup>不韋遷<sup>チ</sup>蜀世傳<sup>チ</sup>呂覽<sup>チ</sup>正義曰。即呂氏春秋也。韓非囚<sup>チ</sup>秦說難孤憤<sup>チ</sup>詩三百

篇大抵賢聖發憤之所爲作也。此人皆意有所鬱結<sup>チ</sup>不得通<sup>チ</sup>其

道也。故述往事<sup>チ</sup>思來者<sup>チ</sup>於是卒述<sup>チ</sup>陶唐以來至于麟止<sup>チ</sup>張晏曰。武帝獲麟。遷

以爲述事之端。上紀黃帝。下至麟止。猶春秋止於獲麟也。○索隱曰。服虔云。武帝至雍。獲白麟。

而鑄金作麟足形。故云麟止。遷作史記止於此。猶春秋終於獲麟然也。史記以黃帝爲首。而云

述陶唐者。案五帝本紀贊云。五帝尙矣。然尙書載堯以來。百家言黃帝。其文不雅馴。故述黃帝爲本紀之首。而以尙書雅正。故稱起於陶唐也。自黃帝始<sup>チ</sup>。

維昔黃帝法<sup>チ</sup>天則<sup>チ</sup>地四聖遵<sup>チ</sup>序<sup>チ</sup>徐廣曰。顓頊。帝嚳。堯。舜。各成<sup>チ</sup>法度<sup>チ</sup>唐堯遜<sup>チ</sup>位<sup>チ</sup>。

虞舜不<sup>チ</sup>台<sup>チ</sup>素隱曰。台音怡。悅也。或音胎。非也。厥美<sup>チ</sup>帝功<sup>チ</sup>萬世載<sup>チ</sup>之<sup>チ</sup>作<sup>チ</sup>五帝本紀第

一。索隱曰。應劭云。有本則紀。有<sup>チ</sup>家則代。有<sup>チ</sup>年則表。有<sup>チ</sup>名則傳。

維禹之功。九州攸<sup>チ</sup>同<sup>チ</sup>光<sup>チ</sup>唐虞際<sup>チ</sup>德流<sup>チ</sup>苗裔<sup>チ</sup>夏桀淫驕。乃放<sup>チ</sup>鳴條<sup>チ</sup>。

虞舜不台法台音怡、錢大昕曰、五帝本紀、舜讀於德不憚、徐廣云、今文尙書不怡二作ル、台古ノ怡字ナリ。

外殊俗。重譯款塞。

應劭曰。款。叩也。皆叩塞門來服從也。如淳曰。款。寬也。請除守塞者。自保不爲寇害。○正義曰。重譯。更譯其言也。

請來

獻見者。不可勝道。臣下百官。力誦聖德。猶不能宣盡其意。且士

賢能而不用。有國者之恥。主上明聖而德不布聞。有司之過也。

且余嘗掌其官。廢明聖盛德。不載。滅功臣世家賢大夫之業。不

述。墮先人所言。罪莫大焉。余所謂述故事。整齊其世傳。非所謂

作也。而君比之於春秋。謬矣。於是論次其文。七年。徐廣曰。天漢三年。○正義曰。案從太

初元年。至天漢三年。乃七年也。而太史公遭李陵之禍。正義曰。太史公舉李陵。李陵降也。幽於縲紲。乃

喟然而歎曰。是余之罪也夫。是余之罪也夫。身毀不用矣。退而

深惟曰。夫詩書隱約者。索隱曰。案謂其義隱微而言約也。○正義曰。詩書隱微而約省者。遷深惟欲依其隱約。而成其志意也。欲

遂其志之思也。昔西伯拘羑里。徐廣曰。在湯陰。演周易。孔子居陳蔡作

不孝<sup>ナヲ</sup>此四行者。天下之大過也。以<sup>ニ</sup>天下之大過<sup>ナ</sup>予<sup>レ</sup>之。則受<sup>テ</sup>而弗<sup>ニ</sup>

敢辭<sup>セ</sup>。故春秋者。禮義之大宗也。夫禮禁<sup>ム</sup>未然之前<sup>ニ</sup>。法施<sup>ス</sup>已然之

後<sup>ニ</sup>。法之所爲用者易見<sup>シ</sup>。而禮之所爲禁者難知<sup>シ</sup>。壺遂曰。孔子之

時。上無<sup>ク</sup>明君。下不得<sup>ニ</sup>任用<sup>ナ</sup>。故作<sup>ル</sup>春秋。垂<sup>レ</sup>空文<sup>ナ</sup>以斷<sup>ツ</sup>禮義。當<sup>ニ</sup>一王

之法<sup>ニ</sup>。今夫子上遇<sup>ヒ</sup>明天子。下得<sup>レ</sup>守職<sup>チ</sup>。萬事既具<sup>シ</sup>。咸各序<sup>ジ</sup>其宜<sup>ナ</sup>。夫

子所論<sup>スル</sup>欲<sup>スル</sup>以何明<sup>ニセムト</sup>。太史公曰。唯唯否否。晉灼曰。唯唯。謙應也。否否。不通者也。不然<sup>ラ</sup>。余聞<sup>ニ</sup>

之先人<sup>ニ</sup>曰。伏羲至純厚。作<sup>ル</sup>易八卦。堯舜之盛<sup>ナル</sup>。尙書載<sup>ス</sup>之。禮樂作<sup>ル</sup>

焉。湯武之隆<sup>ナル</sup>。詩人歌<sup>フ</sup>之。春秋采<sup>リ</sup>善貶<sup>シ</sup>惡。推<sup>シ</sup>三代之德<sup>チ</sup>。褒<sup>ス</sup>周室<sup>ナ</sup>。非<sup>ニ</sup>

獨刺譏而已<sup>ニ</sup>也。漢興<sup>テ</sup>以來。至<sup>リ</sup>明天子<sup>ニ</sup>。獲<sup>ニ</sup>符瑞<sup>チ</sup>。封禪<sup>ニ</sup>。改<sup>メ</sup>正朔<sup>チ</sup>。易<sup>ヘ</sup>服

色<sup>チ</sup>。受<sup>テ</sup>命於穆清<sup>ニ</sup>。如淳曰。受<sup>ニ</sup>天命清和之氣。○正義曰。於音烏。顏云。於。歎辭也。穆。美也。言天子有美德而教化清也。澤流<sup>ル</sup>罔極<sup>ニ</sup>。海

色<sup>チ</sup>。受<sup>テ</sup>命於穆清<sup>ニ</sup>。如淳曰。受<sup>ニ</sup>天命清和之氣。○正義曰。於音烏。顏云。於。歎辭也。穆。美也。言天子有美德而教化清也。澤流<sup>ル</sup>罔極<sup>ニ</sup>。海



其社稷者不可勝數。察其所以皆失其本已。

索隱曰。案弑君亡國及奔走者皆是失仁義之道本

耳已者語終之辭也。

故易曰。失之豪釐。差以千里。

徐廣曰。一云差以毫釐。一云繆以千里。駟案今易無此語。易緯有之。

曰。臣弑君。子弑父。非一旦一夕之故也。其漸久矣。故有國者不

可以不知春秋。前有讒而弗見。後有賊而不知。爲人臣者不可

以不知春秋。守經事而不知其宜。遭變事而不知其權。爲人君

父而不通於春秋之義者。必蒙首惡之名。爲人臣子而不通於

春秋之義者。必陷篡弑之誅。死罪之名。其實皆以爲善爲之不

知其義。

正義曰。其心實善爲之。不知其義理。則陷於罪咎。

被之空言而不敢辭。

張晏曰。趙盾不知討賊。而不敢辭其罪也。

夫不通禮義之旨。至於君不君。臣不臣。父不父子。子不君。君不君

則犯。

正義曰。顏云。爲臣下所干犯也。一曰違犯禮義。

臣不臣。則誅父不父。則無道。子不子。則

君不君則犯ノ上、札記夫字アリ、云フ南宋中統游毛本夫字アリ。

秋。上明<sup>ニシ</sup>三王之道。下辨<sup>シ</sup>人事之紀。別<sup>チ</sup>嫌疑。明<sup>ニシ</sup>是非。定<sup>メ</sup>猶豫。善<sup>トシ</sup>善<sup>トシ</sup>惡<sup>トシ</sup>惡<sup>トシ</sup>。索隱曰。公羊傳曰。善善及子孫。惡惡止其身也。賢<sup>トシ</sup>賢<sup>トシ</sup>賤<sup>ミ</sup>不肖。存<sup>シ</sup>亡國。繼<sup>ギ</sup>絕世。補<sup>ヒ</sup>敝起<sup>ス</sup>廢<sup>ス</sup>。

王道之大者<sup>ナ</sup>也。易<sup>ハ</sup>著<sup>ス</sup>天地陰陽四時五行。故<sup>ニ</sup>長<sup>ズ</sup>於<sup>レ</sup>變<sup>ニ</sup>禮<sup>ハ</sup>經<sup>ニ</sup>紀<sup>ス</sup>人倫。故<sup>ニ</sup>長<sup>ズ</sup>於<sup>レ</sup>行<sup>ニ</sup>。書<sup>ハ</sup>記<sup>ス</sup>先王之事。故<sup>ニ</sup>長<sup>ズ</sup>於<sup>レ</sup>政<sup>ニ</sup>。詩<sup>ハ</sup>記<sup>ス</sup>山川谿谷禽獸草木。牝牡雌雄。故<sup>ニ</sup>長<sup>ズ</sup>於<sup>レ</sup>風<sup>ニ</sup>。樂<sup>ハ</sup>樂<sup>ム</sup>所以立<sup>ツ</sup>。故<sup>ニ</sup>長<sup>ズ</sup>於<sup>レ</sup>和<sup>ニ</sup>。春秋辨<sup>ニ</sup>是非<sup>チ</sup>。故<sup>ニ</sup>長<sup>ズ</sup>於<sup>レ</sup>治<sup>ル</sup>人<sup>チ</sup>。是故禮以節<sup>シ</sup>人。樂以發<sup>シ</sup>和。書以道<sup>シ</sup>事。詩以達<sup>シ</sup>意。易以道<sup>シ</sup>化。春秋以道<sup>シ</sup>義。撥<sup>シ</sup>亂世。反<sup>ニ</sup>之<sup>チ</sup>正<sup>ニ</sup>。莫<sup>キ</sup>近<sup>リ</sup>於<sup>ニ</sup>春秋<sup>ハ</sup>。文<sup>ハ</sup>成<sup>ス</sup>數<sup>ニ</sup>萬<sup>チ</sup>。其指數千。張晏曰。春秋萬八千字。當言減而云成數。字誤也。駟謂太史公此辭。是述董生之言。董仲舒自治公羊經傳。凡有四萬四千餘字。故云文成數萬也。不得如張議。但論經萬八千字。便爲之誤。○索隱曰。注非也。小顏云。史遷豈以公羊之傳爲春秋乎。春秋經一萬八千。亦足稱數萬。非字之誤。萬物之散聚。皆在<sup>ニ</sup>春秋<sup>ハ</sup>。春秋之中。弑<sup>スル</sup>君<sup>チ</sup>三十六。亡<sup>ス</sup>國<sup>チ</sup>五十二。諸侯奔走。不得<sup>レ</sup>保<sup>ツ</sup>。

諸神受紀ト曰フ、師古曰、張說是ナリ。孔子卒後至於今五百歲、錢大昕曰、孔子魯哀公十六年ニ卒ス、漢武帝太初元年ニ至リ、凡三百七十五歲、五百歲ト云フ、誤ル、上文云、自獲麟以來四百有餘歲、其實尙四百歲ニ盈タザルナリ。有能紹明世云云、方苞曰、其父兼テ六家ノ要指ヲ論ズト雖モ、而モ自ラ處シ、子ヲ教フルハ、則儒ニ一ナルヲ著スナリ、紹明世ハ、孔子ニ繼デ、而テ世教ヲ明カニスルナリ。上大夫壺遂注索隱云云、錢大昕曰、十二諸侯年表、上大夫董仲舒ト稱シ、封禪書、新垣平ヲ敘シ云、是ニ於テ平ヲ貴クシ上大夫トス、萬石君傳、上大夫ノ祿ヲ以テ歸リ家ニ老ス、依幸傳、鄧通官上大夫ニ至ル、韓嫣官上大夫ニ至ル、漢時本上大夫ノ官アルニ似タリ、又封禪書、公孫卿ヲ拜シ中大夫ト爲ス。

孔子五百餘歲。太史公此言略取於孟子。而揚雄孫盛深所不然。所謂多見不知量也。以爲淳氣育才豈有常數。五百之期何異一息。是以上皇相次。或以萬齡爲閒。而唐堯舜禹比肩並列。降及周室。聖賢盈朝。孔子之沒。千載莫嗣。安在於千年五百年乎。具述作者。蓋記注之志士耳。豈聖人之論哉。

春秋本詩書禮樂之際。意在斯乎。意在斯乎。小子何敢讓焉。索隱曰。案遂爲詹事。秩

曰。漢書讓作讓。晉灼云。此古讓字。言己當述先人之成業。何敢自嫌。值五百歲而讓之也。上大夫壺遂曰。二千石。故位上大夫也。

昔孔子何爲而作春秋哉。太史公曰。余聞董生曰。服虔曰。周道

衰廢。孔子爲魯司寇。諸侯害之。大夫壅之。孔子知言之不用。道

之不行也。是非二百四十二年之中。索隱曰。是非謂褒貶諸侯之得失也。以爲天下儀

表。貶天子。退諸侯。討大夫。以達王事而已矣。子曰。我欲載之空

言。不如見之於行事之深切著明也。索隱曰。案孔子之言見春秋緯。太史公引之以成說也。空言謂褒貶是非

也。空立此文。而亂臣賊子懼也。孔子言我徒欲立空言。設褒貶。則不如附見於當時所因事之人臣。有僭侈篡逆。因就此筆削以褒貶。深切著明而書之。以爲將來之誡也。夫春



案<sub>ニ</sub>年表魯哀公十四年獲麟<sub>ニ</sub>至<sub>ニ</sub>而<sub>シテ</sub>諸侯相兼<sub>ニ</sub>史記放絕<sub>ス</sub>今漢興<sub>リ</sub>海內一統<sub>ス</sub>漢元封元年三百七十一年。

明主賢君。忠臣死義之士。余爲<sub>ニ</sub>太史<sub>ト</sub>而弗<sub>ニ</sub>論載<sub>セ</sub>廢<sub>ニ</sub>天下之史文<sub>ヲ</sub>。

余甚懼焉。汝其念哉。遷俯首流涕曰。小子不敏。請悉論<sub>ニ</sub>先人所

次<sub>スル</sub>舊聞<sub>ヲ</sub>弗<sub>ニ</sub>敢闕<sub>カ</sub>卒<sub>スル</sub>三歲<sub>ニ</sub>而遷爲<sub>ニ</sub>太史令<sub>ト</sub>。

索隱曰。博物志。太史令茂陵顯武里大夫司馬年二十八。三年六月

乙卯除<sub>ニ</sub>六<sub>ス</sub>。紬<sub>ニ</sub>史記石室金匱之書<sub>ヲ</sub>。

徐廣曰。紬音抽。○索隱曰。如淳云。紬。徹舊書故事而次述之。小顏云。紬。謂綴集之也。案石室金

匱。皆國家藏書之處。五年而當<sub>ニ</sub>太初元年<sub>ニ</sub>。

李奇曰。遷爲<sub>ニ</sub>太史<sub>ト</sub>後五年。適當<sub>ニ</sub>於武帝太初元年<sub>ニ</sub>。此時述史記。○正義曰。案遷年四十二歲。

一月甲子朔旦冬至。天歷始改建<sub>ニ</sub>於明堂<sub>ヲ</sub>。諸神受<sub>ニ</sub>紀<sub>ヲ</sub>。

徐廣曰。封禪序曰。封禪則

萬靈罔<sub>レ</sub>不禋祀。駟案韋昭曰。告於<sub>ニ</sub>百神<sub>ニ</sub>與<sub>ニ</sub>天下<sub>ニ</sub>更始著紀<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>是<sub>ニ</sub>。○索隱曰。虞喜志林云。改歷於明堂。班<sub>ニ</sub>之<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>諸侯<sub>ニ</sub>。諸侯羣神之主。故曰<sub>ニ</sub>諸神受<sub>ニ</sub>紀<sub>ニ</sub>。孟康云。句芒祝融之屬皆受<sub>ニ</sub>瑞紀<sub>ニ</sub>也。

太史公曰。先人有<sub>ニ</sub>言<sub>ヲ</sub>。

索隱曰。先人。謂先代賢人也。○正義曰。太史公。司馬遷也。先人。司馬談也。

自周公卒<sub>ニ</sub>五百

歲<sub>ニ</sub>而有<sub>ニ</sub>孔子<sub>ニ</sub>。孔子卒<sub>ニ</sub>後<sub>ニ</sub>。至於<sub>ニ</sub>今<sub>ニ</sub>五百歲<sub>ニ</sub>。

索隱曰。案孟子稱堯舜至湯五百餘歲。湯至文王五百餘歲。文王至

遷<sub>ニ</sub>尚太史令<sub>ニ</sub>錢大昕曰。令當<sub>ニ</sub>公<sub>ニ</sub>作<sub>ニ</sub>魯<sub>ニ</sub>正義<sub>ノ</sub>文證<sub>スベシ</sub>。注司馬<sub>ノ</sub>下<sub>ニ</sub>。遷字<sub>アリ</sub>。紬<sub>ニ</sub>史記石室云云<sub>ニ</sub>。董份曰。紬<sub>ハ</sub>卽<sub>ニ</sub>釋<sub>ニ</sub>ナリ<sub>ニ</sub>。舊記<sub>ナ</sub>發<sub>シ</sub>。而<sub>テ</sub>其緒<sub>ナ</sub>釋<sub>ナル</sub>ナ<sub>ニ</sub>謂<sub>フ</sub>ナリ。

天歷始改。邵實曰。天歷<sub>アリ</sub>。人歷<sub>アリ</sub>。天歷<sub>アリ</sub>。十一月甲子朔夜半冬至<sub>ニ</sub>始<sub>リ</sub>。環<sub>ノ</sub>端<sub>ナ</sub>キ如<sub>ク</sub>。終<sub>レ</sub>バ<sub>レ</sub>則復始<sub>ル</sub>。太史公所<sub>ニ</sub>謂<sub>ニ</sub>天歷<sub>ニ</sub>。此<sub>ノ</sub>謂<sub>ナリ</sub>。人歷<sub>ニ</sub>。是<sub>ニ</sub>合<sub>スル</sub>ノ<sub>ミ</sub>。諸神受<sub>ニ</sub>紀<sub>ニ</sub>。張晏曰。新<sub>ニ</sub>元<sub>ニ</sub>改<sub>ニ</sub>曆<sub>ニ</sub>以<sub>ニ</sub>テ<sub>ニ</sub>。明<sub>ニ</sub>堂<sub>ニ</sub>立<sub>テ</sub>。諸侯及<sub>ニ</sub>比<sub>ニ</sub>郡<sub>ニ</sub>守<sub>ニ</sub>朝<sub>ニ</sub>。正朔<sub>ニ</sub>受<sub>ニ</sub>ケ<sub>ニ</sub>。各山川<sub>ノ</sub>祀<sub>アリ</sub>。故<sub>ニ</sub>三

ノ名ニ合フト爲シ、怪  
ヲ致シ仙人ニ接スル  
ヲ載セ、而テ特ニ諸儒  
封禪ノ事ヲ辨明スル能  
ハザルヲ書ス、故ニ此  
ニ於テ、其父憤ヲ發シ  
以テ死スルヲ著ス、蓋  
己與リテ事ニ從ヒ、而  
テ方士ノ妄ヲ辨明スル  
ヲ得ザルヲ憤ルナリ。

四百餘歲、札記百下有  
字アリ、云フ官本有字  
アリ、凌一本ヲ引ク同  
ジ、漢傳ト合ス。

而太史公畱滯周南。徐廣曰。摯虞曰。古之周南。今之洛陽。○索隱曰。張晏云。自陝已東皆周南之地也。不得與從事。

正義曰。故發憤且卒。而子遷適使反。見父於河洛之間。太史公執與音預。

遷手而泣曰。余先周室之太史也。自上世嘗顯功名於虞夏。典

天官事。後世中衰。絕於予乎。汝復爲太史。則續吾祖矣。今天子

接千歲之統。封泰山。而余不得從行。是命也夫。命也夫。余死。汝

必爲太史。爲太史。無忘吾所欲論著矣。且夫孝始於事親。中於

事君。終於立身。揚名於後世。以顯父母。此孝之大者。夫天下稱

誦周公。言其能論歌文武之德。宣周邵之風。達太王王季之思

慮。爰及公劉。以尊后稷也。幽厲之後。王道缺。禮樂衰。孔子修舊

起廢。論詩書。作春秋。則學者至今則之。自獲麟以來。四百餘歲。

一本百下有有字



鄒嶧注鄒縣西、札記北  
ニ作ル。

鄒薛彭城注正義音翻ノ  
下、札記、漢末陳蕃子  
逸爲魯相、改音皮、田  
襄魯記云云アリ、云フ  
淺本刪ル、蓋索隱ト複  
スルヲ以テナリ。

是歲天子始建漢家之封  
云云、方苞曰、封禪書、  
諸方士封禪ヲ以テ不死

禹會諸侯計功。改曰會稽。○正義曰。括地志云。石箐山。一名玉箐山。又名宛委山。卽會稽山一  
峰也。在會稽縣東南十八里。吳越春秋云。禹案黃帝中經。九山東南天柱號曰宛委。赤帝左闕  
之巔。承以文玉。覆以盤石。其書金簡。青玉爲字。編以白銀。皆琢其文。禹乃東巡登衡嶽。血白馬  
以祭。禹乃登山仰天而嘯。因夢見繡衣男子。自稱玄夷。蒼水使者。倚歌覆釜之山。東顧謂禹曰。  
欲得我山神書者。齊於黃帝巖嶽之下。三月庚子登山發石。金簡之書存矣。禹登宛委山。發金  
簡之書。案金簡玉字。得通水之理。山中又有一穴。深不見底。謂之禹穴。史遷云。上會稽探禹穴。  
卽此。闕九疑。索隱曰。山海經云。南方蒼梧之丘。蒼梧之泉。在營道南。其山九峰皆似。故曰  
穴也。闕九疑。九疑。張晏云。九疑舜葬。故窺之。尋上探禹穴。蓋以先聖所葬處。有古冊文。故  
探窺之。亦搜探遠矣。○浮於沅湘。正義曰。沅水出朗州。湘水出道州北。東北入海。

北涉汶泗。正義曰。兩  
水出兗州

東北而講業齊魯之都。觀孔子之遺風。鄉射鄒嶧。正義曰。鄒縣名。嶧山  
南曆魯。講業齊魯之都。觀孔子之遺風。鄉射鄒嶧。名嶧山。在鄒縣西二

十二里。地近曲阜。屢困鄒薛彭城。正義曰。括地志云。徐州滕縣。漢蕃縣。音翻。○徐廣  
於此行鄉射之禮。屢困鄒薛彭城。一曰。嶧音亦。縣名。有山。鄒音皮。鄒薛三縣屬魯。○

索隱曰。潘本音蕃。案田襄魯記云。靈帝末有汝南陳子游爲魯相。子游。太尉陳蕃子也。國人  
諱而改焉。若如其說。則蕃改鄒。鄒皮聲相近。後漸訛耳。然地理志魯國蕃縣。應劭曰。邾國也。

過梁楚以歸。於是遷仕爲郎中。奉使西征巴蜀以南。南略邛笮

昆明。還報命。徐廣曰。元鼎六年平西南夷。以  
爲五郡。其明年元封元年是也。是歲天子始建漢家之封。



實不中其聲者謂之綴注  
音款空也、錢大昕曰、  
漢書綴字款二作ル、款  
空聲相近シ、莊子導大  
竅、尚秀讀テ空ト爲ス。  
混混冥冥注正義元氣神  
者之貌也、札記云、漢  
傳注、師古曰、元氣之  
貌也、疑フ神者二字衍  
ナリ。

不先定其神、札記志疑  
云、下ニ形字ヲ脱ス、  
漢書アリ。

耕牧河山之陽、方苞曰、  
春秋傳ニ、山南ヲ陽ト  
爲シ、水北ヲ陽ト爲ス。

之空。空。窾言不聽。姦乃不生。賢不肖自分。白黑乃形。在所欲用耳。  
有事也。何事不成。乃合大道。混混冥冥。  
正義曰。上胡本反。混混者。元氣神者之貌也。光耀天下。復

反無名。凡人所生者神也。所託者形也。神大用則竭。形大勞則

敝。形神離則死。死者不可復生。離者不可復反。故聖人重之。由

是觀之。神者生之本也。形者生之具也。  
韋昭曰。聲氣者神也。枝體者形也。不先定其

神。而曰我有以治天下。何由哉。太史公既掌天官。不治民。有子

曰遷。遷生龍門。  
徐廣曰。在馮翊夏陽縣。驪案蘇林曰。禹所鑿龍門也。○正義曰。括地志云。龍門。在同州韓城縣北五十里。其山更黃河。夏禹所鑿者也。龍

門山。在夏陽縣。遷即漢夏陽縣人也。至唐改曰韓城縣。  
耕牧河山之陽。  
正義曰。河之北山之南也。案在龍門山南也。年十歲。則

誦古文。  
索隱曰。遷及事伏生。是學誦古文尚書。劉氏以爲左傳國語系本等書。是亦名之古文也。二十而南游江淮。上會

稽。探禹穴。  
張晏曰。禹巡狩至會稽而崩。因葬焉。上有孔穴。民間云禹入此穴。○索隱曰。越絕書云。禹上茅山大會計。更名曰會稽。張勃吳錄云。本名苗山。一名覆釜。

也。如淳曰。繳繞猶ニシテ使スル人不得反其意。專決於名。而失人情。故曰。使人ムト纏繞不通大體也。

儉而善失眞。若夫控名責實。參伍不失。晉灼曰。引名責實。參錯交互。明知事情。此不可

不察也。道家無爲。又曰。無不爲。正義曰。無爲者。守清淨也。無不爲者。生育萬物也。其實易行。正

曰。各守其分。其辭難知。正義曰。幽深微妙。故難知也。其術以虛無爲本。以因循爲

用。正義曰。任自然也。無成勢。無常形。故能究萬物之情。不爲物先。不爲物

後。韋昭曰。因物爲制。故能爲萬物主。有法無法。因時爲業。正義曰。因時之物。成法爲業。有

度無度。因物與合。正義曰。因其萬物之形。成度與合也。故曰。聖人不朽。時變是守。索隱曰。此

出鬼谷子。遷引之以成其章。故稱故曰也。○虛者道之常也。因者君之綱也。

正義曰。言聖人教迹不朽滅者。順時變化。正義曰。言因百姓之心。羣臣竝至。使各自明也。其實中其聲者。謂之端。

以教唯執其綱而已。實不中其聲者。謂之窾。徐廣曰。音款。空也。駟案李奇曰。聲則名也。○索隱曰。款。空也。申子云。款言無成。是也。聲者。名也。以言實不稱。名則謂

因物與合、札記志疑云、漢書與舍ニ作ル、後漢書馮衍傳引テ與物與舍ニ作ル、蓋舍字是ナリ、顏師古曰、興ハ起ナリ、舍ハ廢ナリ。聖人不朽、札記云、漢傳巧ニ作ル、顏師古云、機巧ノ心ナシ、雜志云、史本朽ニ作ル、後人之改ム、巧字古讀ア模リ。○若シ、正ニ守ト韵タリ。



食土簋注一作漚。札記  
謂之作ル、云フ南宋柯  
本謂、他本漚ニ誤ス、按  
ニ漚ハ飯ヲ盛ル瓦器ナ  
リ。  
糲梁之食、札記雜志云、  
糲ハ粗、梁ハ精、連文  
ヲ得ズ、梁當ニ素ト爲  
スベシ、李斯傳、素糲  
之食、韓子五蠹篇、皆  
南精神篇、人閒篇、皆  
糲素ト梁素ト並ビ舉  
グ、其證ナリ。

采椽不刮。

索隱曰。韋昭云。采椽。櫟榱也。正義曰。採取爲椽不刮削也。

食土簋。

徐廣曰。一作漚。駟案服虔曰。土簋。用土作此器。

啜土

刑。糲梁之食。

張晏曰。一斛粟七斗米爲糲。瓚曰。五斗粟三斗米爲糲。音刺。韋昭曰。糲。麤也。○索隱曰。服虔云。糲。麤米也。三蒼云。梁。好粟也。○正義曰。顏云。簋。所以

盛飢也。刑。所以盛羹也。土。謂燒土爲之。卽瓦器也。

糲。麤米也。脫粟也。梁。粟也。謂食脫粟之麤飢也。

藜藿之羹。

正義曰。藜。似藿而表赤。藿。豆葉也。

夏日

葛衣。冬日鹿裘。其送死。桐棺三寸。

正義曰。以桐木爲棺。厚三寸也。

舉音不盡其哀。

教喪禮。必以此爲萬民之率。使天下法若此。則尊卑無別也。夫

世異時移。事業不必同。故曰。儉而難遵。要曰。彊本節用。則人給

家足之道也。此墨子之所長。雖百家弗能廢也。法家不別親疎。

不殊貴賤。一斷於法。則親親尊尊之恩絕矣。

索隱曰。案禮親親。父爲首。尊尊。君爲首也。

可

以行一時之計。而不可長用也。故曰。嚴而少恩。若尊主卑臣。明

分職。不得相踰越。雖百家弗能改也。名家苛察繳繞。

服虔曰。繳音近叫。呼謂煩。



宋古文ヲ識ラハルナリ。  
名家使人儉、董份曰、墨者儉ハ是ナリ、名家ハ儉ト言フ若キ、曉ルベカラザルニ似タリ、蓋此乃檢字、上儉字アルニ因テ、寫者遂ニ誤ルノミ、解ニ曰、檢ハ東ヲリ、下文詩祭統、即檢束ノ意ナリ。  
撮出法之要、札記明チ名ニ作ル、云フ淺本名チ明ニ誤ル。  
二十四節注謂月令也、札記謂日月也ニ作ル、按漢書注月令ニ作

之要。去健羨。

如淳曰。知雄守雌。是去健也。不見可欲。使心不亂。是去羨也。

絀聰明。

索隱曰。如淳云。不尙賢。絕聖弃智也。釋此

而任術。夫神大用則竭。形大勞則敝。形神騷動。欲與天地長久。

非所聞也。夫陰陽四時。八位。十二度。二十四節。

張晏曰。八位。八卦位也。十二度。十二次也。

各有禁忌。謂月令也。各有教令。順之者昌。逆之者不死則亡。未必然

也。故曰。使人拘而多畏。夫春生夏長。秋收冬藏。此天道之大經

也。弗順則無以爲天下綱紀。故曰。四時之大順。不可失也。夫儒

者以六藝爲法。六藝經傳以千萬數。累世不能通其學。當年不

能究其禮。故曰。博而寡要。勞而少功。若夫列君臣父子之禮。序

夫婦長幼之別。雖百家弗能易也。墨者亦尙堯舜道。言其德行。

曰堂高三尺。索隱曰。自此以下韓子之文。故稱曰也。土階三等。茅茨不翦。正義曰。屋蓋曰茨。以茅覆屋。

史公ト稱スルヲ得ルノ旨ヲ標明ス、其下又紀表書世家列傳凡百三十篇ヲ作リ、太史公書序略ト爲スチ序ス、此稱父子之ヲ共ニス、末又總テ之ヲ結デ曰、太史公曰、余述黃帝以來、至太初而訖、此太史公ハ、則又自稱ニ屬ス、本紀列傳等篇ノ贊云フ所ノ太史公ハ、則亦皆自稱ナリ、班氏誤テ談ノ言ヲ以テ還ノ言ト爲ス、蓋名稱參錯、目ヲ眩スルニ因テ滙ナ致ス。談爲太史公注、正義釋武本紀末ダ此文ヲ見ズ。

不可<sup>ル</sup>失<sup>フ</sup>也。儒者博<sup>ニシテ</sup>而寡<sup>ク</sup>要<sup>ヲ</sup>。勞<sup>シテ</sup>而少<sup>シ</sup>功。是以其事難<sup>シ</sup>盡<sup>ク</sup>從<sup>ヒ</sup>。然其序<sup>シ</sup>君臣父子之禮<sup>ヲ</sup>。列<sup>ニ</sup>夫婦長幼之別<sup>ヲ</sup>。不可<sup>ル</sup>易<sup>フ</sup>也。墨者儉<sup>ニシテ</sup>而難<sup>シ</sup>遵<sup>ヒ</sup>。正義曰。韋云。墨翟之術也尙儉。後有徐巢子傳其術也。是以其事不可<sup>ニ</sup>徧<sup>ク</sup>循<sup>フ</sup>。索隱曰。徧音遍。徧循言難盡用也。然其彊<sup>ニ</sup>本<sup>ヲ</sup>節<sup>スル</sup>用<sup>ヲ</sup>。不可<sup>ル</sup>廢<sup>ス</sup>也。法家嚴<sup>ニシテ</sup>而少<sup>シ</sup>恩<sup>ヲ</sup>。然其正<sup>ス</sup>君臣上下之分<sup>ヲ</sup>。不可<sup>ル</sup>改<sup>ム</sup>矣。名家使<sup>ニ</sup>人儉<sup>ニシテ</sup>而善<sup>ク</sup>失<sup>フ</sup>真<sup>ヲ</sup>。索隱曰。劉向別錄云。名家流出於禮官。古者名位不同。禮亦異數。孔子曰。必也正名乎。案名家知禮亦異數。是儉也。受命不受辭。或失其真也。然其正<sup>ス</sup>名實<sup>ヲ</sup>。不可<sup>ル</sup>不<sup>セ</sup>察<sup>ス</sup>也。道家使<sup>ニ</sup>人精神專<sup>ニ</sup>一<sup>ヲ</sup>。動<sup>ナラ</sup>合<sup>ヒ</sup>無<sup>ニ</sup>形<sup>ニ</sup>。瞻<sup>ニ</sup>足<sup>ス</sup>萬物<sup>ヲ</sup>。索隱曰。瞻市豔反。漢書作澹。古今字異也。其爲<sup>ル</sup>術也。因<sup>ニ</sup>陰陽之大順<sup>ニ</sup>。采<sup>ニ</sup>儒墨之善<sup>ヲ</sup>。撮<sup>リ</sup>明法之要<sup>ヲ</sup>。與<sup>ニ</sup>時遷移<sup>シ</sup>。應<sup>ニ</sup>物變化<sup>ス</sup>。立<sup>ニ</sup>俗施事<sup>ヲ</sup>。無<sup>レ</sup>所不<sup>ル</sup>宜<sup>カ</sup>。指<sup>ニ</sup>約而易<sup>ク</sup>操<sup>リ</sup>。事少<sup>ニシテ</sup>而功多<sup>シ</sup>。儒者則不然<sup>ヲ</sup>。以爲<sup>ル</sup>人主天下之儀表也。主倡<sup>ヲ</sup>而臣和<sup>シ</sup>。主先<sup>シテ</sup>而臣隨<sup>フ</sup>。如此則主勞<sup>シテ</sup>而臣逸<sup>ス</sup>。至於大道



謂フ、朝會坐位、猶居公上ト、蓋之ヲ得タリ、子長言フ、天下遺文古事、靡不畢集太史公ト、漢儀注云、天下計書、先上太史公者ト、正ニ合ス、史記一書、惟自序前半太史公ト稱シ、及ビ封禪書兩太史公ト稱ス、其父ヲ指ス、餘ハ皆遷自稱ノ詞ナリ、小司馬小顏、以テ其父ヲ尊アト爲ス者、非ナリ、王鳴盛曰、自序篇內、談爲太史公ヨリ以下一段、其父談ノ語ヲ被ス、凡ハ太史公ト稱ス、皆談ヲ指スナリ、太史公曰先人有言云云ヨリ以下、既ニ父談ノ言ヲ述ベ、又上大父盡遂ト相往復シ、又自ラ李陵ノ禍ニ遭ヒ、史記ヲ作ル事ヲ述ベ、凡ハ四太史公ト稱ス、皆自ラ謂フナリ、其下文ニ至リ、漢興文學彬彬稍進、百年之間、天下遺文古事、靡不畢集太史公、此ハ則又其父ニ屬ス、其下又云、太史公仍父子相續纂其職ハ、則其父子相繼ギ、太史公ト爲ル、故ニ太

曰。虞喜志林云。古者主天官者皆上公。自周至漢其職轉卑。然朝會坐位猶居公上。尊天之道。其官屬仍以舊名尊而稱也。按下文太史公既掌天官不治民。有子曰遷又云卒三歲而遷爲太史公。又云太史公遭李陵之禍。又云汝復爲太史。則續吾祖矣。觀此文虞喜說爲長。乃書談及遷爲太史公者。皆遷自書之。漢舊儀云。太史公秩二千石。卒史皆秩二百石。然瓚及韋昭桓譚之說皆非也。以桓譚之說釋在武本紀也。

太史公學天官於唐都。正義曰。天官書云。星則唐都也。受易於楊

何。徐廣曰。習道論於黃子。徐廣曰。儒林傳曰。黃生好黃老之術。太史公仕於建元元封

之間。愍學者之不達其意而師悖。正義曰。布內反。顏云。悖。惑也。各習師書。惑於所見也。乃論六家

之要指曰。易大傳。正義曰。張晏云。謂易繫辭。案下二句。是繫辭文。天下一致而百慮。同歸而

殊塗。夫陰陽。儒墨名法。道德。此務爲治者也。直所從言之異路

有省不省耳。索隱曰。案六家同歸於正。然所從之道殊塗。學或有傳習省察。或有不省之耳。嘗竊觀陰陽之術。大

祥。徐廣曰。一作詳。騶案李奇曰。月令星官是其枝葉也。○索隱曰。漢書作大詳。言我觀陰陽之術。大詳。今此作祥。於義爲疎。○正義曰。顧野王云。祥。善也。吉凶之先見也。而

衆忌諱。使人拘而多所畏。正義曰。言拘束於日時。令人有所忌畏也。然其序四時之大順。



之俱賜死杜郵。

索隱曰。郵音尤。李奇曰。地名。在咸陽西十里。三秦記其地後改爲里李也。

葬於華池。

晉灼曰。地名。在郿縣。○索

隱曰。晉灼非也。案司馬遷碑。在夏陽西北四里。○正義曰。括地志云。華池。在同州韓城縣西南七十里。在夏陽故城西北四里。

斬孫昌。昌爲秦主鐵

官。當始皇之時。蒯聵玄孫卬爲武信君將。

徐廣曰。張耳傳云。武臣自號武信君。○索隱曰。案晉譙國

司馬無忌作司馬氏系本云。蒯聵生昭預。昭預生憲。憲生卬也。

而徇朝歌。諸侯之相王。王卬於殷。

索隱曰。漢書云。項羽

封卬爲殷王。

漢之伐楚。卬歸漢。以其地爲河內郡。昌生無澤。

索隱曰。漢書作毋澤。竝音

亦。無澤爲漢市長。無澤生喜。喜爲五大夫。卒。皆葬高門。

蘇林曰。長安北門也。

齊高門注正義。夏陽縣故。札記放下城字アリ。云フ城字脱ス。考證増ス。

瓚曰。長安城無高門。○索隱曰。蘇說非也。案遷碑。高門在夏陽西北。去華池三里。○正義曰。括地志云。高門原俗名馬門原。在同州韓城縣西南十八里。漢司馬遷墓。在韓城縣南二十二里。夏陽縣故東南有司馬遷冢。在高門原上也。

喜生談。談爲太史公。

如淳曰。漢儀注。太史公武帝置。位在丞相上。天下計書先上太史公。副上

談爲太史公。錢大昕曰。按ズルニ。太史公是官名。遷父子世其職。居ル。衛宏ハ漢人。其言信ズベシ。而テ後人多ク之ヲ疑フ。予謂フ。位在丞相上ハ。殿中ノ班位。丞相ノ右ニ在ルヲ謂フ。職任丞相ヨリ尊キニ非ルナリ。虞喜

丞相。序事如古春秋。遷死後。宣帝以其官爲令。行太史公文書而已。瓚曰。百官表無太史公。茂陵中書司馬談以太史丞爲太史令。○索隱曰。公者遷所著書尊其父云公也。然遷雖稱述其父所作。其實亦遷之詞。而如淳引衛宏儀注稱位在丞相上。謬矣。案百官表又無其官。且修史之官。國家別有著撰。則令州縣所上國書皆先上之。而後人不曉。誤以爲在丞相上耳。○正義

氏世典周史

索隱曰司馬夏官卿不掌國史自先代兼爲史衛宏云司馬氏周史佚之後恐或有所據

惠襄之間司馬氏

去周適晉

張晏曰周惠王襄王有子頹叔帶之難故司馬氏奔晉

晉中軍隨會奔秦而司馬氏入

少梁

索隱曰左氏隨會自晉奔秦後乃奔魏自魏還晉故漢書云會奔秦魏也少梁古梁國也秦滅之改曰少梁後名夏陽也○正義曰案春秋隨會奔秦其後自秦入魏而

還晉也隨會爲晉中軍將少梁古梁國也嬴姓在同州韓城縣南二十二里是時屬晉

自司馬氏去周適晉分散或在

衛或在趙

索隱曰何法盛晉書及司馬氏系本名凱

或在秦其在衛者相中山

徐廣曰名喜也

在

趙者

正義曰何法盛晉書及晉譙國司馬無忌司馬氏系本皆云名凱

以傳劍論顯

服虔曰世善傳劍也蘇林曰傳手搏論而釋之晉灼曰史

以傳劍論顯注信廉仁勇札記信仁廉勇二作

注索隱蘇林云云札記蘇林云傳作搏言手搏論而釋之所以知名也二作ル云フ集解蘇林曰傳手搏論而釋之ナ引ク即傳チ以テ搏字ト爲スニ非ズ此疑

削贖其後也

正義曰五怪反如淳

刪贖正義刺客傳之刪贖ナリ札記云此チ言ヒ以テ衛ノ刪贖ニ別ツ然ルニ刺客傳此人ナシ

在秦者名錯與張儀爭論於是惠王使錯將伐蜀遂拔

因而守之

蘇林曰郡守也

錯孫靳事武安君白起

徐廣曰靳一作靳○索隱曰錯音七各反靳音紀璽反

而少梁更名曰夏陽靳與武安君阬趙長平軍

文穎曰趙孝成時

還而與



# 史記評林卷之一百三十

## 太史公自序第七十

昔在顓頊命南正重以司天。北正黎以司地。

索隱曰。張晏云。南方。陽也。火。水配也。水爲陰。故命南

北正黎。漢書火正黎二作。張晏臣瓚。漢書注。ナリ。故二索隱之ナ辦ズ。注南方正重。札記方字ナシ。云フ南下方字ナ衍ス。考證刪ル。

唐虞之際。紹重黎之後。使復典之。至于夏商。故重黎氏世序天

地。其在周。程伯休甫其後也。

應劭曰。封爲程國伯。休甫。字也。○索隱曰。重司天而黎司地。是代序天地也。據左氏。重是少昊之子。

其後也。注索隱。然後案彪之序。札記云。後案二字疑フ倒ス。

黎乃顓頊之胤。二氏二正所出各別。而史遷意欲合二氏爲一。故惣稱伯休甫。是重黎之後者。凡言地卽也。然後案彪之序及干寶皆云。司馬氏黎之後是也。今惣稱伯休甫。是重黎之後者。凡言地卽

舉天。稱黎則兼重。自是相對之文。其實二官亦通職。然休甫則黎之後也。亦是太史公欲以史爲己任。故言先代天官。所以兼稱重。○正義曰。括地志云。安陵故城在雍州咸陽東二十一里。

周之程

當周宣王時。失其守而爲司馬氏。

正義曰。司馬彪序云。南正黎後世爲司馬氏。

司馬



水ヲ蓄フル所ヲ酒滌スルナリ。  
 胃肺注索隱末椒薑粉之札記紛ヲ粉ニ作ル。

事節與前相反。至贊論始推唐虞三代以來。而舉戰國秦皇功利之禍爲證。則武帝不能法祖宗之仁厚。而踏始皇之覆轍。不待譏議而可見。學者先讀此贊。而後讀其書。使先後相承。則太史公之意瞭然矣。若貨殖傳乃此書之注腳。而未有察其意者。蓋傳中所謂當世賢人。則書中所斥不軌逐利之民也。傳中所序陶朱公白圭輩。妙於治生。卽書中三人言利事析秋毫之比也。傳言鄙人牧長。窮鄉寡婦。禮抗萬乘。名顯天下。宣曲任氏以田畜高。而人主重之。卽書中言卜式以家財助縣官。天子尊顯之。以風百姓。意尤著矣。蓋見始皇武帝皆以好大喜功。國用不足。而後眷眷於此等人也。傳中歷舉四方百貨所出。行賈所在甚詳。卽書中置大農諸官。貴賣賤買。所以天子無算之用。皆出於此。傳中言千乘之侯。尙猶患貧。卽書中屢言稅賦竭。縣官大空是也。傳中言廊廟巖穴。軍士任俠。攻剽女姬。游閒吏士等。皆爲財利。所以深誚當世好貨之俗。無貴賤也。末言當國者必以奇勝。而又歷數奸事惡業。賤行辱處之。能致富。卽書中所謂不益賦而天下用饒。亦此類矣。循此傳之意。深陋爲天下國家者。不當下行商賈之事。蓋是當時親觀言利之人。誤國害民。如封禪書中所謂究觀方士祠官之意云者。故言之深切至此。後人但謂子長陷於刑法。無財可贖。故發憤作貨殖傳。豈爲知太史哉。

# 史記評林卷一百二十九終

# 豈所謂素封者邪ナル。非也。

結應前

索隱述贊曰。貨殖之利。工商是營。廢居善積。倚市邪贏。白圭富國。計然彊兵。保參朝請。女築懷清。素封千戶。卓鄭齊名。

陳仁子曰。世譏遷述貨殖。則崇執利過矣。遷之言曰。千乘之王。萬家之侯。百室之君。尙猶患貧。況匹夫編戶之民乎。此其說殆有爲者。非專崇貨利也。故其後也。謂烏氏保寡婦清。足以動始皇之羨慕。其又後也。極天下之可鄙可賤者。以寫斯民求富之情狀。遷之意其亦重有感。夫班固踵遷史敘貨殖。雖多襲遷語。然自宣曲任氏而上。皆戰國秦漢初人。天漢而後。獨無聞焉。豈非告緡權算之餘。陶朱猗頓之輩。不能自存乎。議者謂遷史爲謗書。其得固以自道矣。

董份曰。嘗以太史公博物洽聞。豈其胷中所識見。如市兒賈豎。歛豔錢帛。不復知天下禮義何事。若然。是不知黑白之形。何以能上下數千載。斷折往古。其是非雖閒謬。于聖人。然其合者亦多矣。何以至是。嘗讀其千乘之王。萬家之侯。尙猶患貧。予以爲漢武方征伐四夷。興神仙土木之事。故府庫虛乏。百姓皆耗。責及王侯。薦幣酎金。而以此失侯者。亦稍稍而多。故太史公感憤而發。如寓言滑稽之類。以玩侮一世耳。若以爲實言。何至鄙猥顛倒如是耶。又曰。此傳字字句句皆精妙。與他傳更較神采。蓋他傳多錄本文。而此傳皆其所特撰。是以妙絕。可以見太史公之材獨冠古今。趙汭曰。貨殖傳。當與平準書參看。平準書。是譏人臣橫斂。以佐人主之欲。貨殖傳。是譏人主好貨。使四方皆變其舊俗。趨利。書首言漢興接秦之弊。高祖重本抑末。輕徭薄賦。故文景之世。國家無事。百姓給足。府庫充實。人人自愛。而重犯法。後面序武帝

塞之斥也。下。此說。塞之斥也。次。索隱案。斥開也。相如傳曰。邊塞益斥。是也。載。次。二正義。載。橋姚。下。索隱。橋姚。名。載。馬千匹。下。索隱。橋姚。因。斥。塞。以下。注。農。拙。業。札。記。拙。字。類。引。拙。二。作。爾。維。志。云。後。人。改。拙。爲。志。則。音。義。相。左。斯。曲。叔。以。起。札。記。曲。田。二。作。爾。云。南。宋。舊。刻。毛。本。同。吉。他。本。田。曲。二。作。爾。用。之。富。札。記。雜。志。云。用。亦。以。下。三。以。字。下。五。文。下。後。人。之。字。加。酒。制。薄。技。也。顏。師。古。曰。酒。之。灌。也。削。入。刀。劍。之。室。謂。之。刀。劍。之。削。故。惡。之。者。爲。之。酒。刷。其。垢。穢。去。之。更。飾。之。新。之。錢。大。所。曰。割。讀。之。如。說。文。潛。水。手。掘。之。所以。潛。漢。律。其。門。首。酒。潛。引。之。即。孫。氏。酒。制。之。說。二。錢。說。二。依。之。酒。之。潛。之。限。之。



材也ト、隱元年正義ニ見ユ、此刀爵ヲ以テ酌チ合ス、亦爵ヲ讀ム隱ノ如シ、按ニ錢說ニ依レバ、寧ロ盡スモ、刀氏ノ奴ト爲ルト謂フ、故ニ下文其力ヲ盡サシムト言フナリ。  
簡史、札記、索隱、師轉穀以百數、顏師古曰、轉穀ハ、車ヲ以テ物ヲ載セテ利ヲ送フ者ヲ謂フ。  
宣曲注正義宣曲官名、札記宣曲宮ニ作ル、云フ宮ヲ官ニ誤ス、漢書文選注ニ依テ改ム。  
督道倉吏注秦邊縣名、札記案下時字アリ、云フ南宋本時字アリ、顏師古曰、京師四方諸道ニ於テ、其租ヲ督スルノミ、道ハ上道ヲ謂フニ非ズ、倪思曰、督道ハ倉在ル所ノ地名ノミ、猶後傳注漢宮闕疏、稱スル所ノ細柳倉ノ如キナリ。  
人爭取賤賈、凌稚隆曰、賤賈ハ、即田畜賈ノ賤キ者ナリ、晉說謂フ所チ知ラズ。  
以萬鍾計、注漢書音義賈出、札記之ヲ刪リ、

縣下者傾鄉里者不可勝數。夫織膏筋力治生之正道也。而富

者必用奇勝。田農拙業。

徐廣曰。古拙字亦作掘也。

而秦陽以蓋一州。

索隱曰。漢書作甲一州。服

虔云。富爲州中之第一。

掘冢姦事也。而曲叔以起博戲惡業也。而桓發用之

富。

索隱曰。漢書桓作稽。正義曰。桓發人姓名。

行賈丈夫賤行也。而雍樂成以饒販脂。

正義曰。說

文云。載角者脂。

辱處也。而雍伯千金。

徐廣曰。雍一作翁。○索隱曰。雍音於恭反。漢書作翁伯也。

賣漿小業

也。而張氏千萬。酒削薄技也。

徐廣曰。酒或作細。駟案漢書音義曰。治刀劍名。○索隱曰。酒音先禮反。削刀者名。酒削謂摩刀以水

酒之。又方言曰。劍削關東

而郅氏鼎食。胃脯簡微耳。濁氏連騎。

索隱曰。晉灼云。太官

謂之削。音肖。亦依字讀。常以十月作沸湯。燂羊胃。以末椒薑粉之。訖暴使燥。則謂之脯。故易售而致富也。○正義曰。按胃脯謂和五味而脯美故易售。

馬醫淺方。張里擊

鍾。此皆誠壹之所致。由是觀之。富無經業。則貨無常主。能者輻

湊。不肖者瓦解。千金之家比一都之君。巨萬者乃與王者同樂。



子、得其名ト注ス、方苞曰、車騎ヲ連ネ、諸侯閉ニ遊ビ、其聲勢通借リ、以テ商賈ヲ通ズ、既ニ游閑公子ノ賜ヲ得、復交ヲ諸公子ニ獲ルノ名アリ、而テ贏ス所ノ利、又適當ナリ。愈於織當注正義ノ上、札記、索隱謂、孔氏以資給諸侯公子、既已得賜與名、又蒙其所得之贏、過於本資、故云適當、乃勝於細碎儻當之賈也、織細也、方言云、纖小也、愈勝也ト注ス。

曹邴氏、札記、索隱、邴音柄也ト注ス。

刀閒、札記、刀ヲ刀ニ作ル、云フ中統本刀、各本刀ニ作ル、志疑云、玉篇、刀亦人姓、俗刀ニ作ル、非ナリ、注正義ノ上、索隱、上音雕、姓也、閒如字ト注ス。

寧母刀注發聲諸助ノ下、札記、索隱案、奴自相謂曰、寧免去求官爵邪、曰無刀、無刀相止之辭也、言不去止爲刀氏作奴也ト注ス、錢大昕曰、古者爵祿ト近シ、服虔左傳解詁云、爵者祿也、所以醴醢其

俗通云、馬稱匹者、俗說云、相馬及君子與人相匹、故云匹、或說馬夜行目照前四丈、故云一匹、或說度馬從橫、適得一匹、韓詩外傳云、孔子與顏回登山、望見一匹練、前有藍視之果馬、光景一匹長也。

吳楚七國兵起時、長安中列侯封君、行從軍旅、齋貸子錢、

索隱曰、齋音子稽反、貸、假也、音吐代反、與人物云、齋、周禮注、齋所給與也。

子錢家以爲侯邑國在關東、關東成

敗未決、莫肯與、唯無鹽氏出捐千金貸、

索隱曰、貸音吐代反、其息什之、

索隱曰、謂

出一得、三月、吳楚平、一歲之中、則無鹽氏之息什倍、用此富埒關

中、關中富商大賈、大抵盡諸田、田、膏田、蘭、章家栗氏、安陵杜杜

氏、

徐廣曰、安陵及杜二縣名、各有杜姓也、宣帝以杜爲杜陵、

亦巨萬、此其章章尤異者也、

徐廣曰、異一作淑、又作較、

皆非有爵邑奉祿、弄法犯姦而富、盡椎理去就、與時俯仰、獲其

贏利、以末致財、用本守之、以武一切、用文持之、變化有概、故足

術也、若至力農畜工虞商賈、爲權利以成富、大者傾郡、中者傾

市、云、阻、險、者、合、市、也、  
晉、古、外、反、淮、南、子、云、  
段、干、木、晉、國、之、大、駟、注、  
云、干、木、度、市、之、魁、也、  
注、ス。

蜀、卓、氏、之、先、注、徐、廣、  
下、札、記、索、隱、注、卓、  
一、作、淖、並、音、淖、一、音、  
關、淖、亦、音、泥、淖、亦、是、  
姓、故、齊、有、淖、齒、漢、有、  
淖、蓋、與、淖、氏、同、出、或、  
以、同、音、淖、也、注、ス。

汶、山、下、札、記、索、隱、  
汶、山、下、上、音、增、也、注、  
ス。

運、籌、策、札、記、索、隱、  
漢、書、云、運、籌、以、賈、漢、  
注、ス。

漢、蜀、之、民、富、注、漢、池、札、  
記、云、池、疑、フ、當、二、蜀、  
作、ル、ベシ。

至、僅、千、人、札、記、索、隱、  
漢、書、及、相、如、列、傳、並、云、  
八、百、也、ト、注、ス。

賈、推、轡、之、民、札、記、索、  
隱、雌、結、之、人、上、音、推、  
轡、謂、通、賈、南、越、也、ト、注、  
ス。

富、將、卓、氏、札、記、索、隱、  
將、者、鄰、畔、言、鄰、相、次、ト、注、  
ス。

連、車、騎、云、云、賜、與、名、注、章、  
昭、說、ノ、下、札、記、索、隱、  
謂、通、賜、與、於、游、開、公、

宣曲任氏之先。

正義曰。按其地合在關內。張揖云。宣曲。官名。在昆池西也。徐廣曰。高祖功臣有宣曲侯。○索隱曰。上林賦云。西馳宣曲。當在京輔。今闕北

地。爲督道倉吏。

漢書音義曰。若今吏督租穀吏上道輸在所也。韋昭曰。督道。秦邊縣名。

秦之敗也。豪傑皆爭

取金玉。而任氏獨窖倉粟。

徐廣曰。窖。音校。穿地以藏也。

楚漢相距滎陽也。民不

得耕種。米石至萬。而豪傑金玉盡歸任氏。任氏以此起富。富人

爭奢侈。而任氏折節爲儉。力田畜。田畜人爭取賤賈。

索隱曰。晉灼云。爭取賤賈。

金玉也。○正義曰。音價也。

任氏獨取貴善。

索隱曰。謂買物必取貴而善者。不爭賤價也。

富者數世。然任公

家約。非田畜所出。弗衣食。公事不畢。則身不得飲酒食肉。以此

爲閭里率。故富而主上重之。塞之斥也。

正義曰。孟康云。邊塞主斥候卒也。唯此人能致富若此。顏云。塞斥者。

言國斥開邊塞。更令寬廣。故橋姚得恣其畜牧也。姓橋名姚也。

唯橋姚已致馬千匹。牛倍之。羊萬頭。粟

以萬鍾計。

漢書音義曰。邊塞主斥候卒也。唯此人能致富若此。○索隱曰。孟說非也。按斥。開也。相如傳曰。邊塞益斥是也。橋姓姚名也。言橋姚因斥塞而致此資。風



氣也、膊音鋪博反、案破鮑不相離、謂之膊兒、資云、鮑牽類及勗集、雖爲此解、而鮑生之字見、與此同、案鮑者小雞魚也ト注ス。

案聚千石注謂之千石、札記之ヲ三本作ル、云フ官本三、各本之ニ譌ス、正義ノ上、索隱、案三之者、三千石也、必三之者、取類上文故也、以聚栗賤、故三之、爲三千石也ト注ス。

羔羊裘千石ノ下、札記索隱、羔羊千石、謂秤皮重千石ト注ス。

佗果菜千鍾、札記云、佗字疑フ衍ナリ、漢書ナシ。

正義ノ上、索隱、果菜千種、千種者、言其多也ト注ス。

子貸金錢千貫ノ下、札記、索隱案、子謂利息也、貸音土代反ト注ス。

節廛會、方苞曰、廛音ハ買ナ成ス所以ナリ、按ズルニ、節ハ物ヲ出シ、其時ヲ失ハザルナリ、集解徐說ノ下、札記、索隱案、節者、節貴賤也、廛、舊音祖朗反、今音彌、廛者度牛馬

富至巨萬。然家自父兄子孫約。俛有拾。仰有取。貫貸行賈徧郡國。鄒魯以其故。多去文學而趨利者。以曹邴氏也。

齊俗賤奴虜。而刁閒獨愛貴之。正義曰。刁丁遙反。姓名。桀黠奴。人之所患也。

唯刁閒收取。使之逐漁鹽商賈之利。或連車騎。交守相。然愈益。

任之。終得其力。起富數千萬。故曰寧爵母刁。漢書音義曰。奴自相謂曰。寧欲免去作民有爵邪。將

止爲刁氏作奴。言其能使豪奴自饒。而盡其力。周人既纖。漢書音義曰。儉畜也。而

師史尤甚。正義曰。師史。人姓名。轉轂以百數。賈郡國。無所不至。洛陽街居在

齊秦楚趙之中。正義曰。洛陽在齊秦楚趙之中。其街巷貧人學於富家。相矜以久賈諸國。皆數歷里邑不入其門。故前云洛陽東賈齊魯。南賈梁楚是也。

貧人學事富家。相矜以久賈。漢書音義曰。謂街巷居民無田地。皆相矜久賈在此諸國也。數過邑不

入門。設任此等。故師史能致七千萬。



沃野。下有蹲鴟。

徐廣曰。古蹲字作踰。駟案漢書音義曰。水鄉多鴟。其山下有沃野。灌漑。一曰大芋。○正義曰。汶音珉。蹲鴟。芋也。言邛州臨邛縣。其地肥又

沃。平野有大芋等也。華陽國志云。汶山郡都安縣有大芋。如蹲鴟也。至死不饑。民工於市。易賈。乃求遠遷。致

之臨邛。大喜。即鐵山鼓鑄。運籌策。傾滇蜀之民。富

正義曰。滇一作沮。漢書亦作滇池。今

益州郡有蜀州。亦因舊名及漢江爲名。江在益州南。入導江。非漢中之漢江也。至僮千人。田池射獵之樂。擬於人君。

程鄭。山東遷虜也。亦冶鑄。賈椎髻之民。富埒卓民。俱居臨邛。

宛孔氏之先。梁人也。用鐵冶爲業。秦伐魏。遷孔氏南陽。大鼓鑄。

規陂池。連車騎。游諸侯。因通商賈之利。有游閑公子之賜。與名

韋昭曰。優然其贏得過當。愈於纖嗇。

正義曰。音色。嗇。吝也。言孔氏連車騎。游於諸侯。以資給之。兼通商賈之利。乃得游閑

公子交名。然其通計贏利。過於所資給餉遺之當。猶有交游公子雍容。而勝於慙慙也。家致富數千金。故南陽行賈盡

法。孔氏之雍容。魯人俗儉嗇。而曹邴氏尤甚。以鐵冶起。

徐廣曰。魯縣出鐵。

ヲ引クアルベシ、仍台  
字ノ音ナリ、炎反、説  
文云、此仍集解ノ文ナ  
承ク、當ニ孫炎説云ニ  
作ルヘシ、即裴孫叔然  
ノ説ヲ舉グ、下文ノ如  
キナリ、孫字ヲ脱シ反  
字ヲ衍ス、乃炎反ナ以  
テ上音貽ニ連ネ、貽炎  
反ト爲ス、人ナシテ何  
字ノ音タルヲ知ラザラ  
シム。

鮒藏注正義ノ上、札記、  
索隱、説文云、鮒、海  
魚、音貽、鮒魚飲而不  
食、刀魚也、爾雅謂之  
鰲魚也、鮒音才爾反、  
又音齊ト注ス。

鮒子石鮒千鈞、札記鮒  
ヲ鰲ニ作ル、云フ鮒ハ  
恥聲ニ从フ、音輒、鮒  
魚ナリ、鰲ハ取聲ニ从  
フ、昨苟反小魚ナリ、  
音義通ニ別ナリ、此文  
鮒鮒ヲ以テ類ト爲セ  
バ、當ニ恥ニ从フベシ、  
而テ集解索隱正義皆亂  
シテ分ナズ、蓋亦誤本  
ニ惑フナリ、説雜志ニ  
詳ナリ。

注徐廣鮒魚也、札記鮒  
魚也ニ作ル、正義ノ上、  
索隱、鮒音輒、一音昨  
苟反、輒、小魚也、鮒、  
音抱、步飽反、今之鰲

秤、非白疊布也、吳錄云、有九真郡布、名曰白疊、廣志云、疊毛織也、ト注ス、云フ此下師史ニ至ル、索隱二十三條單本アリ、各本皆脫ス、  
漆斗ノ下、札記、索隱、漢書作漆大斗、案謂大斗、大量也、言滿量千斗、即今千桶也ト注ス、  
鹽麴鹽鼓千荅、札記、漢書合ニ作ル、疑フ荅字形近クシテ譌ス、南宋本毛本饒ニ作ル、蓋後人集解ニ依テ改ム、注或作合ノ合ヲ合ニ作ル、云フ合ニ譌ス、江改ム、漢書注又本チ引ト合ス、救ヲ然ニ作ル、云フ救ニ誤ル、注改ム、又索隱、鹽鼓千、蓋下音貽炎反、說文云、餽、瓦器、受斗六合、以解此、蓋非也、案尙書大傳云、文皮千合、則數兩謂之合也、三倉云、精、盛鹽鼓器、音他果反、則蓋或精之異名耳ト注ス、云フ千蓋、蓋疑フ當ニ蓋ニ作ルベシ、古通用ス、蓋合ト聲近シ、下音貽、蓋貽音ナシ、疑フ當ニ集解文

魚爲之也。

棗栗千石者三之。

正義曰。謂之千石也。言棗栗三千石乃與上物相等。

狐鼯裘千皮。

正義曰。鼯音彫。

羔羊裘千石。旃席千具。佗果菜千鍾。

正義曰。鍾六斛四斗。果菜謂雜果菜於山野采取之。

子貸金

錢千貫節駟會。

徐廣曰。駟音祖朗反。馬僉也。駟案漢書音義曰。會亦是僉也。節。節物貴賤也。謂估僉其餘利。比千乘之家。

貪賈三之。

廉賈五之。

漢書音義曰。貪賈未當賣而賣。未可買而買。故得利少而十得三。廉賈貴而賣。賤乃買。故十得五。

此亦比千乘之家。

其大率也。

正義曰。佗。雜業不中什一。正義曰。言雜惡業而不在什分中。則率音律。

則

非吾財也。請略道當世千里之中賢人所以富者。令後世得以

觀擇焉。

蜀卓氏之先。

徐廣曰。卓一作淖。

趙人也。用鐵冶富。秦破趙。遷卓氏。卓氏見

虜略。獨夫妻推輦。行詣遷處。諸遷虜少有餘財。爭與吏求近處。

處葭萌。

徐廣曰。屬廣漢。○正義曰。葭萌。今利州縣也。

唯卓氏曰。此地狹薄。吾聞汶山之下



涉テ而テ誤ル、書鈔酒食部、御覽飲食部、引テ並ニ漿ニ作ル。

木器案者、錢大昕曰、案當ニ案ニ作ルベシ、說文、案ナリ、按ニ漢書案ナ案ニ作ル、注以漆物、札記云、漢書外戚傳注ニ依ル、當ニ漆字ヲ重メベシ、里案、盤朱、里ナ黑ニ作ル、云フ黑ナ里ニ誤ス、漢書外戚傳注ニ黑案盤朱案盤ニ作ル、此朱下案盤二字ヲ脱ス、文義ヲ成サズ。

馬蹄蹴十注案應通四三而成一馬、札記通四蹄爲十三而成一馬ニ作ル、十有三ノ下是字アリ、宋又凡七十六匹馬、案亦多於千戶侯比、則不知其所ノ十九字アリ、錢大昕曰、說文、蹴字ナシ、徐解馬ハ髀ト爲ス、八髀ハ即尻骨、則蹴ハ乃蹶ノ異文ナリ、漢書蹴ヲ蹶ニ作ル、故ニ小顏訓シテ口ト爲ス。

榻布皮革千石注正義ノ上、札記、索隱、蒼布注、音吐合反、大顏音吐蓋反、案以爲鑊音布、與皮革同、以石而

千兩。正義曰。車一乘爲一兩。風俗通云。箱輶及輪兩兩而偶之稱兩也。

木器髹者千枚。徐廣曰。髹音休。漆也。○正義曰。顏云。以漆物謂

之髹。又音許昭反。今關東俗器物一再漆者謂之稍漆。即髹聲之轉耳。今關西俗云。里髹盤朱。兩義並通。

銅器千鈞。徐廣曰。三十斤。素木鐵器。

若卮茜千石。

徐廣曰。百二十斤爲石。駟案漢書音義曰。素木。素器也。

馬蹄蹴千。

徐廣曰。蹴苦弔反。馬八膠音料。○索隱曰。埤蒼

云。尻骨謂八髀。一曰夜蹄。小顏云。噉口也。蹄與口共千則爲二百正。若顧胤則云上文馬二百蹄。與千戶侯等。此蹄蹴千比千乘之家。不容亦二百。則竅謂九竅通四三而成一馬。所謂生之徒十有三也。牛千足。羊彘千雙。僮手指千。漢書音義曰。僮。奴婢也。古者無空手游口。皆有作務。須手指。故曰手指。以別馬牛蹄

也。筋角丹沙千斤。其帛絮細布千鈞。文采千匹。榻布皮革千石。

徐廣曰。榻音吐合反。駟案漢書音義曰。榻布。自疊也。○正義曰。顏師古曰。麤厚之布也。其價賤。故與皮革同量耳。非白疊也。蒼者厚之貌也。按白疊。木綿所織。非中國有也。

漆

千斗。蘘麴鹽豉千荅。

徐廣曰。或作合。器名有甗。孫叔敖曰。甗。瓦器受斗六升合爲甗。音貽。

鮐鯨千斤。

漢書音義

曰。音如楚人言。鯨。鯨魚與鮐魚也。○正義曰。鮐音

鯢千石。鮑千鈞。

徐廣曰。鯢音輒。鮑魚也。○正義曰。鮑

臺。又音貽。說文云。鮑。海魚也。鯨音齊禮反。刀魚也。音族苟反。謂雜小魚也。鮑。白也。然鮐鯨以斤論。鮑鯢以千鈞論。乃其九倍多。故知鮐是大好者。鯢鮑是雜者也。徐云。鯢。膊魚也。膊並各反。謂破開中頭尾不相離爲鮑。謂之膊關者也。此亦大



饒足錢財乃逐時爭利也。

此其大經也。今治生不待危身取給。則賢人勉焉。是

故本富爲上。末富次之。姦富最下。無巖處奇士之行。而長貧賤。

好語仁義亦足羞也。

凡編戶之民。富相什則卑下之。伯則畏憚之。千則役。萬則僕。物

之理也。夫用貧求富。農不如工。工不如商。刺繡文不如倚市門。

此言末業貧者之資也。通邑大都。酤一歲千釀。

正義曰。釀千瓮。酤醢醋云酒酤。醢

醬千瓠。

徐廣曰。長頸罍。○索隱曰。瓠音閑江反。

醬千甌。

徐廣曰。大罍缶。○索隱曰。音都甘反。漢書作甌。孟康曰。甌石罍。石罍受一石。故云甌石。一

音都

屠牛羊彘千皮。販穀糶千鍾。

徐廣曰。出穀也。糶音掉也。

薪橐千車。船長千

丈。

索隱曰。總積數長千丈。

木千章。

漢書音義曰。洪洞方橐章材也。舊將作大匠掌材曰章。曹掾。○索隱曰。洪音胡孔反。洞音動。又並如字。

竹竿

萬个。

徐廣曰。古賀反。○正義曰。釋名云。竹曰个。木曰枚。

其軺車百乘。

徐廣曰。馬車也。○正義曰。軺音遙。說文云。軺。小車也。

牛車

夫用貧求富云云。顏師古曰。其以テ利ヲ得易キヲ言フナリ。一歲千釀注醢醋云。札記云。云ハ當ニ也ニ作ルベシ。此三字乃下句ノ正義ナリ。醢醬千瓠注索隱瓠音閑江反。踐大所曰。瓠當ニ瓠ニ作ルベシ。說文。瓠。聲ニ似テ長頸。七升ヲ受ク。讀デ洪ノ若シ。札記云。字類引テ瓠ニ作ル。漢書同ジ。索隱音ト合ス。今索隱本瓠ニ作リ。各本瓠ニ作ル。皆譌ス。醬千甌。札記醬ヲ漿ニ作ル。云フ南宋本毛本漿。漢書ト合ス。他本醬ニ作ル。雜志云。上ニ

千石魚陂

徐廣曰。魚以斤兩爲記也。○索隱曰。陂音波。漢書作波音同。○正義曰。言陂澤養魚一歲。收得千石魚賣也。

山居千章之

材。

徐廣曰。一作楸。黼案韋昭曰。楸木所以爲轅音秋。○索隱曰。漢書作千章之萩。服虔云。章方也。故孟康亦云。言任方章者千枚。謂章大材也。樂彥云。萩梓木也。可以爲轅者。

安邑千樹棗。燕秦千樹栗。蜀漢江陵千樹橘。淮北常山已南河

濟之間千樹萩。陳夏千畝漆。齊魯千畝桑麻。渭川千畝竹。及名

國萬家之城。帶郭千畝。畝鍾之田。

徐廣曰。六斛四斗也。

若千畝。卮茜。

徐廣曰。卮音支。鮮支

地。茜音倩。一名紅藍。其花染繒亦黃也。

千畦薑韭。

徐廣曰。千畦二十五畝。黼案韋昭曰。畦猶墻。

此其人皆與千戶

侯等。然是富給之資也。不窺市井。不行異邑。坐而待收。身有處

士之義。而取給焉。若至家貧親老。妻子輒弱。歲時無以祭祀。進

釀飲食。

徐廣曰。會聚食。○索隱曰。釀音渠略反。

被服不足以自通。如此不慙恥。則無所

比矣。

是以無財作力。少有鬪智。正義曰。言少有錢財。則鬪智巧而求勝也。

既饒爭時。正義曰。既

推ス、列侯封戸定數アリト雖モ、要スルニ封界ノ廣狹ヲ以テ、租入ノ多寡ヲ定ム、故ニ戸白同クシテ、而テ租稅異ナル者アリ。息二千戸百萬、札記志疑云、月字衍ナリ、漢書ナシ。牛蹄角千、顏師古曰、百六十七頭牛ハ、則蹄ト角ト凡一千二ト爲スナリ、千ト言フ者成數ヲ舉ルナリ、注漢書音義ノ次、札記、索隱牛尾角千、案馬貴而牛賤、以此爲準、則牛有百六十六頭有奇也ト注ス。千石魚陂注索隱漢書作波音同、札記波ナ皮ニ作ル、同ヲ披ニ作ル、云フ單本漢書注師古說ト合ス、各本今本漢書ニ依テ波ニ作ル、非ナリ。千畦薑韭注師古下、札記、索隱韋昭云、埵中畦猶墻也、謂五十畝也、劉熙注孟子云、今俗以二十五畝爲小畦、五十畝爲大畦、士逸云、畦猶區也ト注ス、云フ單本アリ、各本脫ス。



此有知盡能索耳、方苞曰、索亦盡ナリ、淳于髡傳、冠纓索絕ストアリ。

德者人物之謂也、方苞曰、德人物ニ被ル、然ル後澤百年斬エザルベシ。

命曰素封注正義氏於封君、札記氏ナ比ニ作

封者食租稅云云、錢大昕曰、按ズルニ、漢書富平侯張安世、國陳留

ニ在リ、別邑魏郡ニ在リ、租入歲ニ千餘萬子

延壽嗣ギ、上書シ戶邑ヲ讓減ス、徙テ平原ニ

封セラレ、一國ニ并ス、戶口故ノ如ク、而テ租

稅半ヲ減ズ、然ラバ則漢時戶口租稅固ト多寡

ノ殊アリ、史公歲率戶二百ト云フ者、其大略

僅ノ安樂郷ニ封ゼラルル、郷本田提封三千

避刀鋸之誅者。沒於賂遺也。農工商賈畜長。固求富益貨也。此

有知盡能索耳。終不餘力而讓財矣。諺曰。百里不販樵。千里不

販糴。居之一歲。種之以穀。十歲。樹之以木。百歲。來之以德。德者

人物之謂也。今有無秩祿之奉。爵邑之入。而樂與之比者。命曰

素封。索隱曰。謂無爵邑之入。祿秩之奉。則曰素封。素。空也。○正義曰。封者食租稅。

歲率戶二百。正義曰。千戶之君。則二十萬。索隱曰。戶率二百。故千戶二十萬。朝覲聘

享出其中。庶民農工商賈率亦歲萬息二千。戶百萬之家。則二

十萬。索隱曰。率二千。故百萬之家。亦二十萬。而更徭租賦出其中。衣食之欲。恣所好美。

矣。故曰。陸地牧馬二百蹄。漢書音義曰。五十匹。○索隱曰。按馬有四足。二百蹄有五十匹也。漢書則云馬蹄噉千。所記各異。牛

蹄角千。漢書音義曰。百六十七頭。千足羊。澤中千足彘。韋昭曰。二百五十頭。水居

也。馬貴而牛賤。以此爲率。



皆詩ノ字ト同ジカラ  
ズ。

更富廉賈歸富。歸者取利而不。富者人之情性所不學而俱欲者也。

故壯士在軍攻城先登陷陣卻敵斬將奪旗前蒙矢石不避湯

火之難者爲重賞使也。其在閭巷少年攻剽椎埋劫人作姦掘

冢鑄幣任俠并兼借交報仇篡逐幽隱不避法禁走死地如驚スルガ

徐廣曰驚

一作流。其實皆爲財用耳。今夫趙女鄭姬設形容揆鳴琴揄長

袂躡利屣。徐廣曰揄音卑躡一作跼跼音吐協反。屣音山耳反。舞屣也。

目挑心招。正義曰挑音田鳥反。出不遠千

里。不擇老少者奔富厚也。游閑公子飾冠劍連車騎亦爲富貴

容也。弋射漁獵犯晨夜冒霜雪馳阬谷不避猛獸之害爲得味

也。博戲馳逐鬪雞走狗作色相矜必爭勝者重失負也。醫方諸

食技術之人焦神極能爲重精也。吏士舞文弄法刻章僞書不

走死地如驚ノ下、札記  
者字アリ、云フ南宋中  
統舊刻游毛本雜志宋本  
ナリ、並ニ者字ア  
リ、

果隋、札記隋ナ隋ニ作ル、云フ索隱本毛本、字

類引テ隋ニ作ル、注同

ジ、他本隋ニ作ル、俗

省ナリ、札記果隋ノ下ニ注ス、

隋今爲搖、搖ナ種ニ作

ル、云フ各本種ナ搖ニ

合ス、注改ム、雜志ト

ス、下並ニ同ジ、足

螺魚驚、螺ハ即チ贏ナ

リ、疑フ下ニ蛤字ナ脱

ス、速地云、乃故云、

下云字ハ志ノ諺ナリ、

故ナ改ニ作レ、志疑云、

改ナ故ニ諺ス、考證改

ム、錢大昕曰、説文、

隋字ナシ、蓋即隋ノ省

文ナリ、索隱讀デ徒火

切ト爲ス、是ナリ、漢書

竊ニ作ル、晉隋ト相近

シ、正義妄ニ果搖方言

ヲ引キ、輒チ班氏ヲ譏

ル、詭ノ甚ト謂フベキ

ナリ、按ニ錢説ニ從ヘ

バ、果隋贏始ト讀ムベ

シ、此説是ニ似タリ、

種ハ小積ナリ。

皆竄注正義贏蛛、札記

蛛ナ鮑ニ作ル、云フ各

本蛛ニ諺ス、淮南修務

訓ニ依テ改ム、按鮑ハ

果隋

徐廣曰。地理志云作贏。○索隱曰。隋音徒火反。贏音郎果反。

贏蛤

正義曰。隋今爲搖。音同。上古少字也。贏力和反。果搖猶搖疊包裹也。今楚越之

俗。尚有裹搖之語。楚越水鄉。足螺魚驚。民多採捕積聚。搖疊包裹煮而食之。班固不

不待

賈而足

正義曰。賈音古言。楚越地勞饒食。不用他賈而自足。無饑饉之患。

地勢饒食。無饑饉之患。以故

皆竄

徐廣曰。音紫。皆竄。苟且墮嬾之謂也。駟案應劭曰。皆弱也。晉灼曰。竄病也。○索隱曰。竄音庚。○正義曰。按食螺蛤等物。故多羸弱而足病也。淮南子云。古者民食羸蛛之

偷生。無積聚

正義曰。言江淮以南有水族。民多食物。朝夕取給。以偷生而已。不爲積聚。乃多貧也。而多貧是故

江淮以南。無凍餓之人。亦無千金之家。沂泗水以北。宜五穀桑

麻六畜。地小人衆。數被水旱之害。民好畜藏。故秦夏梁魯好農

而重民。三河宛陳亦然。加以商賈。齊趙設智巧。仰機利。燕代田

畜而事蠶。由此觀之。賢人深謀於廊廟。論議朝廷。守信死節。隱

居巖穴之士。設爲名高者。安歸乎。歸於富厚也。是以廉吏久久



不足以更費注故費用、札記故ヲ顧ニ作ル、云フ顧ヲ故ニ誤ル、漢書注ニ依テ改ム。

武關鄖關、凌稚隆曰、鄖關ハ、是古ノ鄖國、今ノ鄖陽ナリ、徐廣韻字ニ作ル、謬ル。

山西食鹽注地鹽、札記地ヲ池ニ作ル、云フ官本池、各本地ニ謂ス。嶺南沙北因往往出鹽、方苞云、沙漠ノ北自成ノ鹽アリ。火耕而水耨注縣苴、札記除草ニ作ル。

與江南大同俗。而楊州之南越民多焉。

與江南大同俗。而楊越多焉。番禺亦其一都會

也。正義曰。番禺。番禺音虞。今廣州。

珠璣犀瑋果布之湊。韋昭曰。果。謂龍眼。離支之屬。布。葛布。

潁川南陽。夏人之居也。

徐廣曰。禹居陽翟。○正義曰。禹居陽城。潁川南陽皆夏地也。

夏人政尙忠朴。

猶有先王之遺風。潁川敦愿。秦末世。遷不軌之民於南陽。南陽

西通武關鄖關。

徐廣曰。按漢中。亦作潁字。○索隱曰。潁音雲。○正義曰。武關在商州。地理志云。宛西通武關。而無鄖關。蓋鄖當爲徇。徇水上有關。在金州。

徇陽縣。徐按漢中是也。東南受漢江。淮。宛亦一都會也。俗雜好事。業多

賈。其任俠交通潁川。故至今謂之夏人。夫天下物所鮮所多。人

民謠俗。山東食海鹽。山西食鹽。

正義曰。謂西方鹹地也。堅且鹹。卽出石鹽及地鹽。

鹵。嶺南沙北。

正義曰。謂池漢之北也。

固往往出鹽。大體如此矣。總之楚越之地。地廣人希。

飯稻羹魚。或火耕而水耨。

徐廣曰。乃遳反。縣苴也。○正義曰。言風草下種。苗生大而草生小。以水灌之。則草死而苗無損也。耨。除草



此潭州ニ作ル、蓋下長沙正義ニ涉テ誤ル、而テ此文百字、郡縣志ト合ス、彼注ノ闕ヲ補フベシ。  
江南注正義徒郡宛城、  
札記郡武陵ニ作ル、云フ陵ヲ城ニ誤ル、考證郡縣志ニ據テ改ム、南楚之地、云フ柯淩南楚二字ヲ重ヌ、王本ナシ。

閩中子越、札記于チ干ニ作ル、云フ舊刻干、各本于ニ譌ス、說漢書雜志ニ見ユ。  
江南卑溼丈夫早夭、錢大昕曰、賈生傳、長沙卑溼ト言フ、是レナリ。

豫章出黃金、云云注正義括地ノ下、札記志字アリ、云フ官本志字アリ、各本脫ス、錢大昕曰、即上文所謂、南出金錫連ナリ、篇中江南ハ、皆豫章長沙南楚ノ地ヲ謂フ、今ノ江南ニ非ズ。

徐廣曰。都邪。邪縣屬江夏。○正義曰。九江郡。都陰陵。陰陵故城。在濠州定遠縣西六十五里。江南。徐廣曰。高帝所

置江南者。丹陽也。秦置爲鄣郡。武帝改名丹陽。○正義曰。案徐說非。秦置鄣郡。在湖州長城縣西南八十里。鄣郡故城是也。漢改爲丹陽郡。徙郡宛城。今宣州地也。上言吳有章山之銅。明是

東楚之地。此言大江之南。豫章長沙二郡南楚。南楚之地耳。徐裴以爲江南丹陽郡屬南楚。誤之甚矣。豫章。正義曰。今洪州也。長沙。正義曰。今潭

州有萬里沙祠。而西自湘州至東萊萬里。故曰長沙也。淮南衡山九江二郡。及江南豫章長沙二郡並爲楚也。是南楚也。其俗大類西

楚。郢之後徙壽春。正義曰。楚考烈王二十二年。自陳徙都壽春。號之曰郢。故言郢之徙壽春也。亦一都會也。而

合肥受南北潮。正義曰。合肥縣。廬州治也。言江淮之潮。南北俱至廬州也。皮革鮑木輸會也。與閩中

于越雜俗。徐廣曰。在臨淮。故南楚好辭巧說。少信。江南卑溼。丈夫早夭。

多竹木。豫章出黃金。徐廣曰。鄱陽有之。○正義曰。括地云。江州潯陽縣有黃金山。山出金。長沙出連錫。然堇

堇。正義曰。音謹。物之所有。取之不足以更費。應劭曰。堇。少也。更。償也。言金少少耳。取之不足用。故費用也。

九疑蒼梧以南。徐廣曰。九疑山。在營道縣南。至儋耳者。正義曰。今儋州在海中。廣州南去京七千餘里。言嶺南至儋耳之地。

二誤ル、考證唐志ニ據テ改ム。

昔堯作游成陽、札記云、按ズルニ游ニ作レハ辭ナサズ、游疑フ於字ノ下ニ句ト一例ナリ。

楚夏之交注夏都計陽城、札記、計字ナシ、云フ都下計字チ衍ス、考證刪ル。

楚夏之交注夏都計陽城、札記、計字ナシ、云フ都下計字チ衍ス、考證刪ル。

楚已諾、札記云、王本於務ニ作ル。

東楚也注今海郡也、札記郡ナ州ニ作ル、云フ州ナ郡ニ誤ル、考證唐志ニ據テ改ム。

胸繒以北注沂州亟丞縣、札記沂州之丞縣ニ作ル、云フ官本之、各本亟ニ作ル、疑フ皆誤衍ナリ、承テ丞ニ誤ス、郡縣志ニ依テ改ム。

衡山注正義云云、札記云、項紀正義、括地志チ引キ、故郢城在黃州黃岡縣東南二十里ト、

惡<sup>ウシ</sup>衣食<sup>ヲ</sup>致<sup>ス</sup>其蓄藏<sup>ヲ</sup>越楚<sup>ハ</sup>則有三<sup>ニ</sup>俗<sup>ニ</sup>。

正義曰。越滅吳則有江淮以北。楚滅越兼有吳越之地。故言越楚也。

夫自

淮北<sup>ニ</sup>沛陳汝南南郡<sup>ニ</sup>此西楚也。

正義曰。沛徐州沛縣也。陳今陳州也。汝汝州也。南郡今荊州也。言從沛郡西至荊州並西

楚也。其俗剽輕<sup>シ</sup>易發<sup>シ</sup>怒<sup>ヲ</sup>地薄<sup>シ</sup>寡於積聚<sup>シ</sup>江陵故郢都<sup>ニ</sup>。

正義曰。荊州江陵縣故爲郢楚之都

西通<sup>ス</sup>巫巴<sup>ニ</sup>。

正義曰。巫郡巴郡在江陵之西也。

東有雲夢之饒<sup>ニ</sup>。

徐廣曰。在華容。

陳在楚夏之交<sup>ニ</sup>。

正義曰。夏都計陽城言陳南則楚西及北則夏故云楚夏之交。

通魚鹽之貨<sup>ヲ</sup>其民多賈<sup>シ</sup>徐僮取慮<sup>ニ</sup>。

徐廣曰。皆在下邳。

正義曰。取音秋。慮音閭。徐卽徐城故徐國也。僅取慮二縣並在下邳。今泗州。

則清刻<sup>シ</sup>矜<sup>ル</sup>己諾<sup>ニ</sup>。

正義曰。上音紀。

彭城以東東

海吳廣陵<sup>ニ</sup>此東楚也。

正義曰。彭城徐州治縣也。東海郡今海郡也。吳蘇州也。廣陵楊州也。言從徐州彭城歷楊州至蘇州並東楚之地。

其

俗類<sup>ス</sup>徐僮<sup>ニ</sup>胸繒以北<sup>ニ</sup>俗則齊<sup>ニ</sup>。

正義曰。胸其俱反。縣在海州故繒縣在沂州亟丞縣言二縣之北風俗同於齊。

浙江

南則越<sup>シ</sup>夫吳自闔廬春申王濞<sup>ニ</sup>三人招致<sup>ス</sup>天下之喜游子弟<sup>ヲ</sup>東

有海鹽之饒<sup>ニ</sup>章山之銅<sup>ニ</sup>三江五湖之利<sup>ニ</sup>亦江東一都會也<sup>ニ</sup>衡山



布帛魚鹽臨菑亦海岱之間一都會也其俗寬緩闊達而足智

好議論地重難動搖怯於衆鬪勇於持刺故多劫人者大國之

風也其中具五民服虔曰士農商工賈也如淳曰游子樂其俗不復歸故有五方之民而鄒魯濱洙泗猶有

周公遺風俗好儒備於禮故其民齷齪索隱曰齷音側角反又音側斷反頗有桑麻

之業無林澤之饒地小人衆儉嗇畏罪遠邪及衰好賈趨利甚

於周人夫自鴻溝以東徐廣曰在滎陽芒碭以北徐廣曰今爲臨淮屬巨野正義曰耶

州鉅野縣在此梁宋也徐廣曰今陶之浚儀○正義曰鴻溝以東芒碭以北至鉅野梁宋二國之地陶睢陽正義曰今

曹州睢陽今亦一都會也徐廣曰今之定陶昔堯作游成陽如淳曰作起也舜漁

於雷澤徐廣曰在成陽○正義曰澤在雷澤縣西北也湯止于亳徐廣曰今梁國薄縣○正義曰宋州穀熟縣西南四十五里南亳州故城

是其俗猶有先王遺風重厚多君子好稼穡雖無山川之饒能

也

其說注案隱云云、札記云、南宋中統王本、疑、側角反ニ作ル、疑、フ側字譌ス、又齷齪斷反ノ音ナシ、疑フ當ニ又作斷ト云フベシ、漢書地理志ニ、洙泗之間斷斷如也。及義、札記及下其字アリ、云フ南宋舊刻毛本其字アリ、他本脫ス。屬巨野注在鉅野澤、札記云、在ハ當ニ有ニ作ルベシ。梁宋也注今陶之浚儀、札記陶字ナシ、云フ各本今下陶字ヲ衍ス、舊陶睢陽、札記陶下、集正義、今曹州ト注シ、睢陽下、正義今宋州宋地也ト注ス、云フ城ヲ地



マ廢字誤ル、下環曰チ引クニ據レバ、疑フ當ニ臨ニ作ルベシ集韻、跼ハ履チ曳クナリ。

漳河之間注彰水、札記漳水ニ作ル。

微重而矜節注矜一作務、札記志疑云、御覽百六十二引テ、重義而務節ニ作ル。

諸侯。然邯鄲亦漳河之間。

正義曰。洛水本名彰水。邯鄲在其地。

一都會也。北通燕涿。南

有鄭衛。鄭衛俗與趙相類。然近梁魯。

微重而矜節。

徐廣曰。矜一作務。

濮上

之邑。徙野王。

徐廣曰。衛君角徙野王。○正義曰。秦拔衛濮陽。徙其君於懷州野王。

野王好氣任俠。衛之風也。

夫燕亦勃碣之間。

正義曰。勃海碣石在西北。

一都會也。南通齊趙。東北邊胡。上

谷至遼東。地踔遠。

索隱曰。劉氏踔音卓。一音勅。教反。亦遠騰貌也。

人民希數被寇。大與趙代

俗相類。而民雕悍少慮。

索隱曰。言如雕性之捷悍也。

有魚鹽棗栗之饒。北鄰烏

桓夫餘。

索隱曰。鄰一作臨。臨者亦卻背之義。他並類此。

東綰穢貉。朝鮮眞番之利。

索隱曰。綰者綰統其要津。

則上云臨者。謂卻背之也。○正義曰。番音潘。

洛陽東賈齊魯。南賈梁楚。故泰山之陽。則魯。其陰。則齊。齊帶山

海。

徐廣曰。齊世家曰。齊自泰山屬之琅邪。北被于海。膏壤二千里。其民閭達多匿智。

膏壤千里。宜桑麻。人民多文綵。

切一音アリ、毛本注枝字ヲ脱ス、又以士ヲ北土ニ作ル。

羯類不均注捷捍、札記捷ヲ健ニ作ル。

陽平陽陳橡其間、札記橡ヲ捺ニ作ル、云フ毛本據、集韻二仙橡下、此文ヲ引ク同ジ、他本並ニ橡ニ作ル。

懷急注一作惠、札記云、按ズルニ、慧惠古通ズ、一作二字、疑フ上ニ涉テ而テ衍ス。

多美物注美一作弄、ハ記云、漢書弄一作ル、疑フ美字ノ譌ナリ。

鼓鳴瑟跼屣、札記云、漢書彈弦跼蹠ニ作ル、注張晏曰、跼蹠也、云

瓚曰。懷音慨。今以士名。攝直爲懷中。也。○索隱曰。懷音冀。枝音寘。好氣。任俠爲姦。不事農商。然迫近北夷。

師旅亟往。中國委輸。時有奇羨。索隱曰。奇音羈。羨音羊。戰反。奇羨。謂時有餘衍也。其民羯羗不

均。徐廣曰。羯音咒。一書囚。凡反。皆健羊名。○索隱曰。羯音己。紇反。羯音慈。紀反。言其方人性若羊。捷捍而不均也。自全晉之時。固已患

其僇悍。而武靈王益厲之。其謠俗猶有趙之風也。故楊平陽陳橡其間得所欲。索隱曰。橡音逐。緣反。溫軹西賈上黨。正義曰。澤潞等州也。北賈趙

中山。索隱曰。溫軹二縣名。屬河內。○正義曰。洛州及定州。中山地薄人衆。猶有沙丘紂淫地餘民。

晉灼曰。言地薄人衆。猶復有沙丘紂淫地餘民。通係之於淫風而言之。○正義曰。沙丘在邢州也。民俗懷急。徐廣曰。懷急也。音絹。一作儼。一作惠。音翽也。仰

機利而食。丈夫相聚游戲。悲歌忼慨。起則相隨椎剽。索隱曰。椎。卽椎殺人而剽。

掠之。休則掘冢作巧姦治。徐廣曰。多美物。徐廣曰。美一作蠱。爲倡優女子。

則鼓鳴瑟跼屣。徐廣曰。跼音怙。張晏曰。跼蹠也。瓚曰。跼跟爲跼也。○索隱曰。屣音所綺反。游媚貴富。入後宮。徧

則鼓鳴瑟跼屣。徐廣曰。跼音怙。張晏曰。跼蹠也。瓚曰。跼跟爲跼也。○索隱曰。屣音所綺反。游媚貴富。入後宮。徧

セザル所ナシ、故ニ詳ニ行買ノ地、道里疆界、漆マル所ヲ載セ、其民ノ性質習俗ニ及ブナリ。

穀之湊。故云綰穀也。

以所多易所鮮。

索隱曰。易音亦。鮮音尠。言以所多易其所少。

天水隴西北地上郡

與關中同俗。然西有羌中之利。北有戎翟之畜。畜牧爲天下饒。

然地亦窮險。唯京師要其道。

正義曰。要音腰。言要束其路也。

故關中之地。於天下。

三分之一。而人衆不過什三。然量其富。什居其六。昔唐人都河

東。

徐廣曰。堯都晉陽也。

殷人都河內。

正義曰。盤庚都殷墟。地屬河內也。

周人都河南。

正義曰。周自平王已下都洛陽。

夫三河在天下之中。若鼎足。王者所更居也。建國各數百千歲。

土地小狹。民人衆。都國諸侯所聚會。故其俗纖儉習事。楊平陽

陳西賈秦翟。

正義曰。賈音古。秦。關內也。翟。隰石等州部落稽也。延綏銀三州皇白翟所居。

北賈種代。

正義曰。上之勇反。種在恆

秦翟注正義皇白翟所居。札記皇皆二作ル、云フ皆ナ皇ニ誤ル、今改ム。

州石邑縣北。蓋蔚

種代。石北也。

徐廣曰。石邑縣也。在常山。○索隱曰。楊平陽。二邑名。在趙之西。陳。蓋衍字。以下有楊平陽陳椽。因此衍也。

言二邑之人。皆西賈於秦翟。北賈於種代。種代在石邑之北也。

地邊胡。數被寇。人民矜儻忮。

晉灼曰。懷音慨。忮音堅。忮。

矜儻。忮注忮音堅。忮。札記云。注中忮字疑フ誤ナリ。類篇。忮。居企



東至河華膏壤沃野千里。自虞夏之貢以爲上田。而公劉適邠。

太王王季在岐。文王作豐。武王治鎬。故其民猶有先王之遺風。

好稼穡。殖五穀。地重。索隱曰。言重於耕稼也。重爲邪。索隱曰。重音逐。隴反。重者難也。畏言不敢爲奸邪。○正義曰。重並逐。

拱反。言關中地重厚。及秦文孝繆居雍隙。徐廣曰。隙者。閒孔也。地居隴蜀之間。要路。故曰隙。○正義曰。雍縣。岐州雍。

民亦重難不爲邪惡。縣隴蜀之貨物而多賈。索隱曰。賈音古。獻孝公徙櫟邑。徐廣曰。在馮翊。○索隱曰。櫟音樂。卽櫟陽。

櫟邑北卻戎翟。東通三晉。亦多大賈。武昭治咸陽。因以漢都長

安。諸陵四方輻湊。並至而會。地小人衆。故其民益玩巧而事末

也。南則巴蜀。巴蜀亦沃野。地饒卮。徐廣曰。音支。烟支也。紫赤色也。薑。丹沙。石。銅。鐵。

徐廣曰。邛都出銅。臨邛出鐵。竹木之器。南御滇僊。僊僊。西近邛笮。笮馬旄牛。然四

塞。棧道千里。無所不通。唯褒斜綰轂其口。徐廣曰。在漢中。○索隱曰。言褒斜道狹綰其道口。有若車

地重、方苞曰、五方ノ民、剛柔輕重遲速齊チ異ニス、地重ハ、其土厚ク而テ人性敦重ナルナリ。  
重爲邪注索隱畏言、札記云、言疑フ罪ノ誤ナリ。  
及秦文孝繆居雍隙云、札記云、史詮云、孝當ニ德ニ作ルベシ、志疑云、通志孝字ナシ、方苞曰、居雍句ト爲ス、隙隴蜀之貨物ハ、下東綰轂駱胡鮮之利ト、文義正ニ相類ス、蓋其隙ニ居テ而テ並ニ之ヲ受クルナリ。  
獻孝公、札記志疑云、孝字衍ナリ。  
武昭治咸陽、札記志疑云、武當ニ孝ニ作ルベシ。  
因以漢都長安云云以下、方苞曰、漢興リ、海内一ト爲リ、舟車通

名也。畜牧。及衆斥賣。求奇繒物。閒獻遺戎王。徐廣曰。閒一作奸。不以公正謂之奸也。○索隱曰。謂畜牧

及至衆多之時。斥而賣之。以求奇物也。閒獻。猶私獻也。戎王什倍其償與之畜。索隱曰。謂戎王償之牛羊十倍也。畜

至用谷量馬牛。韋昭曰。滿谷則具不復數。○索隱。谷音欲。秦始皇帝令保比封君。以時與

列臣朝請。而巴蜀寡婦清。索隱曰。漢書作巴寡婦清。巴。寡婦之邑。清其名。其先得丹穴。徐廣曰。涪

陵出丹。○正義曰。括地志云。寡婦清臺山。俗名貞女山。在涪州永安縣東北七十里也。而擅其利數世。家亦不訾。正義曰。音

子兒反。言資財衆多不可訾量。一云清多以財餉遺四方。用衛其業。故財亦不多積聚。清寡婦也。能守其業。用財自衛。

不見侵犯。秦皇帝以爲貞婦而客之。爲築女懷清臺。夫保鄙人

牧長。清窮鄉寡婦。禮抗萬乘。名顯天下。豈非以富邪。漢興海內

爲一。開關梁。弛山澤之禁。是以富商大賈。周流天下。交易之物。

莫不通得。其所欲而徙豪傑諸侯。彊族於京師。關中自汧雍以

什倍其償與之畜。注索隱。札記謂ノ上、什倍其當予之畜七字アリ、又倍也ノ下、當字漢書作倍也七字アリ、雜志云、索隱本償ヲ當ニ作ル、今本後人漢書ニ依テ改ム、廣韻、償、當也、當償ニ同義。  
巴蜀寡婦清、札記雜志云、蜀字下文ニ因テ衍ス、按ズルニ、索隱特ニ漢書巴寡婦清ヲ引ク、蓋見ル所ノ本、已ニ蜀字ヲ衍ス、故ニ漢書ヲ引デ之ヲ正ス。



故曰吾治生產云云、錢大昕曰、白圭、魏文侯ノ時ニ當ル、而テ商鞅、秦孝公ヲ佐ク、孝公ノ即位ハ魏文侯薨ズルヲ距ル已ニ二十五年、史ノ言フ所ノ如キヲ得ズ。

倚頓、札記倚ヲ倚ニ作ル、云フ王柯淺本倚ヲ倚ニ作ル。

注正義一尺許坑、札記云、柯本誤テ以ニ作ル、按ズルニ、坑ハ乃坑ノ譌ナリ、下同ジ、雙陸及基、札記基ヲ暮ニ作ル、云フ疑フ基ノ譌、花鹽池中、有下ヲ雨下ニ作ル、云フ明南雍本雨字誤ラズ、下字ヲ脫ス、王柯淺本雨ナ有ニ誤ル、鑿得鹽坑、坑ナ塊ニ作ル、云フ官本塊、各本亦坑ニ誤ス。

用兵。商鞅行法是也。是故其智不足、與權變勇不足、以決斷。仁不能以取予、彊不能有所守。雖欲學吾術、終不告之矣。蓋天下言治生祖白圭。白圭其有所試矣。能試有所長。非苟而已也。

倚頓用鹽鹽起。

孔叢子曰。頓魯之窮士也。耕則常饑。桑則常寒。聞朱公富往而問術焉。朱公告之曰。子欲速富。當畜五牂。於是乃適西河。大畜牛羊于猗

氏之南。十年之閒其息不可計。貴擬王公。馳名天下。以與富於猗氏。故曰倚頓。○索隱曰。鹽音古。按周禮鹽人云。共苦鹽。杜子春以爲苦讀如鹽。鹽謂出鹽直用不練也。一說云。鹽鹽河東大鹽。散鹽東海煮水爲鹽也。○正義曰。按猗氏蒲州縣也。河東鹽池是畦鹽。作畦若種韭一畦。天雨下池中鹹淡得均。卽吹池中水上畔中。深一尺許。坑日暴之。五六日則成鹽。若白礬石。大小如雙陸及基。則呼爲畦鹽。或有花鹽。緣黃河。鹽池有八九所。而鹽州有烏池。猶出三色鹽。有井鹽畦鹽花鹽。其池中鑿井深一二尺。去泥卽到鹽。掘取若至一丈。則著乎石。無鹽矣。其色或白或青黑。名曰井鹽。畦鹽若河東者。花鹽池中有下隨而大小成鹽。其下方微空。上頭隨雨下池中。其滴高起若塔子形。處曰花鹽。亦曰卽成鹽焉。池中心有泉井。水淡所作池。人馬盡汲此井。其鹽四分入官。一分入百姓也。池中又鑿得鹽坑闊一尺餘。高二尺。白色光明洞徹。年貢之也。

而邯鄲郭縱以鐵冶成業。與

王者埒富。烏氏保

韋昭曰。烏氏縣名。屬安定。保名也。○索隱曰。漢書作贏。烏氏姓。氏音支。保音魯可反。○正義曰。縣古城在涇州安定縣東四十里。保。



糠。

索隱曰。鑿。飽也。

匿於窮巷。子貢結駟連騎。束帛之幣。以聘享諸侯。所

至國君。無不分庭與之抗禮。夫使孔子名布揚於天下者。子貢

先後之也。此所謂得勢而益彰者乎。

白圭。周人也。當魏文侯時。李克務盡地力。

索隱曰。案。漢書食貨志。李悝爲魏文侯作盡地方之教。國

以富彊。今此及漢書言克。皆誤也。劉向別錄則云李悝也。

而白圭樂觀時變。故人棄我取。人取我與。

夫歲孰。取穀予之絲漆。蠶出。取帛絮與之食。索隱曰。食謂穀也。太陰在卯

穰。

正義曰。太陰。歲後二辰爲太陰。

明歲衰惡。至午旱。明歲美。至酉穰。明歲衰惡。至

子大旱。明歲美。有水至卯。積著率。

正義曰。貯律二音。

歲倍。欲長錢。取穀。

長石斗。取上種。能薄飲食。忍嗜欲。節衣服。與用事。僮僕同苦樂。

趨時若猛獸。摯鳥之發。故曰。吾治生產。猶伊尹呂尙之謀。孫吳

此所謂得勢而益彰者乎。方苞曰。時。富商大賈王者。樂。同。サ。スルヲ得。而。テ。封君首ヲ。低。レ。給。ナ。仰。ク。所謂。得。勢。益。彰。ナリ。敢。テ。顯。言。セ。ズ。故。ニ。陰。ニ。子。貢ノ。事。ヲ。以。テ。之。ニ。當。ツ。子。貢ノ。顯。顯。スル。所以。乃。其。學。ヲ。以。テ。セ。ズ。而。テ。其。財。ヲ。以。テ。ス。ト。謂。フ。ナリ。

疊出。程一校曰。疊字。上句。ニ。屬。シ。テ。讀。ム。出。字。モ。ト。凶。ニ。作。ル。蓋。字。形。相。近。キ。ヲ。以。テ。譌。ス。ル。ナリ。凶。字。則。ニ。句。ト。爲。ス。歲。孰。ト。相。應。ズ。正。ニ。上。文。人。取。我。與。ノ。意。ヲ。實。ニ。ス。

之陶爲朱公注正義齊州平陽縣、札記拾遺云、齊州ニ平陽縣ナシ、陽當ニ陵ト爲スベシ。

與時逐而不責於人、方苞曰、財物ヲ以テ人ニ貸シ、而テ其息ヲ責メス、卽下所謂金錢ヲ子貸スルナリ。

皆稱陶朱公、方苞曰、陶朱公、子貢、白圭ハ、富家ノ巧者ナリ、故ニ並ニ能ク長ズル所ヲ試ムルヲ以テ之ニ許ス、倚頓而下ハ、則商賈ノ誠意ナル者ノミ。

索隱曰。大顏云。若盛酒之鴟夷也。用之則多所容納。不用則可卷而懷之。不忤於物也。按韓子云。鴟夷子皮事田成子。成子去齊之燕。子皮乃從之。蓋范蠡也。

之陶爲

朱公。

正義曰。括地志云。卽陶山。在齊州平陽縣東三十五里。陶山之陽也。今南五里猶有朱公冢。又云曹州濟陽縣東南三里有陶朱公冢。又云在南郡華容縣西。未詳也。○

索隱曰。服虔云。

朱公以爲陶天下之中。諸侯四通。貨物所交易也。乃陶今定陶也。

治產積居。與時逐。

漢書音義曰。逐時而居貨。○

而不責於人。

索隱曰。按謂擇人而與。人不負

之。故云不責於人也。

故善治生者。能擇人而任時。十九年之中。三致千金。再

分散與貧交疏昆弟。此所謂富好行其德者也。後年衰老而聽

子孫。子孫修業而息之。遂至巨萬。

徐廣曰。萬萬也。

故言富者。皆稱陶朱

公。

子贛既學於仲尼。退而仕於衛。廢著鬻財於曹魯之間。

徐廣曰。子贛傳云。廢

居著。猶居也。著讀音如貯。○索隱曰。漢書亦作貯。說文云。貯積也。

七十子之徒。賜最爲饒益。原憲不厭糟



十、皆斗チ言フ。

積著之理、錢大昕曰、  
著古ノ貯字、説文、寧  
辨ト訓ズ、物チ積ムナ  
リ、是積貯ノ本字、而テ  
寧ハ著ト通ズ、詩俟我  
於著乎而、即當寧ノ字  
ナリ、此又通ジテ積寧  
ノ字ト爲ス。  
務完物無息幣云云、方  
苞曰、務テ完善ノ物ヲ  
取ル、久ク藏スベク且  
售レ易キナリ、其腐敗  
者ハ、則自ラ食ウテ、人  
ニ市ル勿レナリ。  
賤取如珠玉注索隱ノ  
末、札記元注恐錯四字  
アリ、云フ此ニ據レバ、  
疑フ當ニ集解アルベ  
シ、今之ヲ失ス。

草不辟矣。上不過八十。下不減三十。則農末俱利。平糶齊物。關

市不<sup>ル</sup>乏<sup>カラ</sup>治國之道也。積著之理。索隱曰。著音張呂反。務<sup>スル</sup>完物。無<sup>レ</sup>息幣。索隱曰。久

則無<sup>レ</sup>利。以物相貿易。腐敗而食之。貨勿<sup>レ</sup>留。無<sup>レ</sup>敢居貴。論其有餘不

足。則知<sup>ル</sup>貴賤。貴上極則反<sup>リ</sup>賤。賤下極則反<sup>ル</sup>貴。貴出如糞土。賤取

如珠玉。索隱曰。夫物極貴必賤。極賤必貴。貴出如糞土者。既極貴後恐其必賤。故乘時出之。如糞土。賤取如珠玉者。既極賤後恐其必貴。故乘時取之。如珠玉。此所以爲貨殖也。財幣欲<sup>ニ</sup>其行如<sup>ニ</sup>流水。修之十年。國富。厚賂<sup>フ</sup>戰士。士赴<sup>ニ</sup>矢石。如<sup>ニ</sup>

渴得<sup>ニ</sup>飲。遂報<sup>ニ</sup>彊吳。觀<sup>ニ</sup>兵中國。稱號<sup>ニ</sup>五霸。范蠡既雪<sup>ニ</sup>會稽之恥。乃

喟然而歎曰。計然之策七。越用<sup>ニ</sup>其五。而得意。既已施<sup>ニ</sup>於國。吾欲

用<sup>ニ</sup>之家。乃乘<sup>ニ</sup>扁舟。漢書音義曰。特舟也。○索隱曰。扁音篇。又音符殄反。國語云。范蠡乘輕舟。浮<sup>ニ</sup>於江湖。正義曰。國語云。句踐

滅吳。反至五湖。范蠡辭<sup>ニ</sup>於王曰。君王勉之。臣不復入國矣。遂乘輕舟以浮<sup>ニ</sup>於五湖。莫知其所終極。變<sup>ニ</sup>名易姓。適<sup>ニ</sup>齊爲鴟夷子皮。



天下壤壤、淺稚隆日、壤ト穰ト通用ス、鹽鐵論此語穰穰ニ作ル。

尙有患貧、札記有チ猶ニ作ル、云フ淺本猶チ有ニ作ル。

乃用蠡范計然、方苞曰、太公管仲ハ富國ノ巧者ナリ、計然ハ富家ノ術ヲ以テ國ニ施ス、則少ク貶ス、故ニ之ヲ太公管仲ニ割ツ。

早則資舟水則資車、顔師古曰、旱極レバ則水アリ、水極レバ則旱アリ、故ニ旱時ニ於テ預メ舟ヲ蓄ヘ、水時ハ預メ車ヲ蓄ヘ、以テ其貴チ待チ、其利ヲ收ムルナリ。

羅二十云云、淺稚隆日、三十、九十、八十、三

曰。千金之子。不死<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>市。此非<sub>二</sub>空言<sub>一</sub>也。故曰。天下熙熙。皆爲<sub>レ</sub>利來。天下壤壤。皆爲<sub>レ</sub>利往。夫千乘之王。萬家之侯。百室之君。尙有<sub>レ</sub>患貧。而況<sub>二</sub>匹夫編戶之民<sub>一</sub>乎。

昔者越王句踐。困<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>會稽之上<sub>一</sub>。乃用<sub>二</sub>范蠡計然<sub>一</sub>。

徐廣曰。計然者。范蠡之師也。名研。故諺曰。

研桑心算。駟案范子曰。計然者。葵丘濮上人。姓辛氏。字文子。其先晉國亡公子也。嘗南游於越。范蠡師事之。○索隱曰。韋昭云。計然。范蠡師也。蔡謨云。蠡所著書名計然。蓋非也。吳越春秋。謂之計倪。漢書古今人表。計然列在第四。則倪之與研。是一人聲相近而相亂耳。

計然曰。知<sub>レ</sub>鬪則修<sub>レ</sub>備。時用則知<sub>レ</sub>物。

索隱曰。言<sub>レ</sub>知時所用之物。二者形。則萬貨之情可<sub>レ</sub>得而觀<sub>レ</sub>已。故歲在<sub>レ</sub>金穰。水毀。

木饑。火旱。

索隱曰。五行不說土者。土穰也。

旱則資<sub>レ</sub>舟。水則資<sub>レ</sub>車。

索隱曰。國語。大夫種曰。賈人早資<sub>レ</sub>舟。水資<sub>レ</sub>車。以待也。

物之理也。六歲穰。六歲旱。十二歲一大饑。夫糶二十病<sub>レ</sub>農。九十

病<sub>レ</sub>末。

索隱曰。言米賤則農人病也。故云病農。若米斗直九十則商賈病。故云病末。末。謂逐末爲商賈也。

末病則財不出。農病則

奪予

スル。索隱曰。予音與。言貧富自由無奪予也。

而巧者有餘。拙者不足。故太公望封於營

丘。地潟鹵。

徐廣曰。潟音昔。潟鹵。鹹地也。

人民寡。於是太公勸其女功。極技巧。通

魚鹽。則人物歸之。繹至而輻湊。故齊冠帶衣履天下。海岱之間。

斂袂而往朝焉。

索隱曰。言齊既富饒。能冠帶天下。豐厚被於他邦。故海岱之間。斂袂而朝齊。言趨利者也。

其後齊中衰。管

子修之。設輕重九府。

正義曰。管子云。輕重。謂錢也。夫治民有輕重之法。周有大府。玉府。內府。外府。天府。職內。職金。皆掌財幣之官。故云九府也。

則桓公以霸。九合諸侯。一匡天下。而管氏亦有三歸。位在陪臣。

富於列國之君。是以齊富彊。至於威宣也。故曰。倉廩實而知禮

節。衣食足而知榮辱。禮生於有而廢於無。故君子富好行其德。

小人富以適其力。淵深而魚生之。山深而獸往之。人富而仁義

附焉。富者得勢益彰。失勢則客無所之。以而不樂。夷狄益甚。諺

九府注正義、札記外府ノ下泉府アリ、職金ノ下職幣アリ、云フ考證漢書食貨志ニ據テ増ス。

伏後案

伏後案



リ、太公管子ハ後誨鑒齊ノ事、王道ノ始テ變ズルナリ。

犀琦珣、札記志疑云、通志犀下象字アリ。

注正義徐州、札記絳州ニ作ル、云フ絳ヲ徐ニ

譌ス、拾遺云、徐州龍門縣ナシ、唐志、龍門縣貞觀十七年絳州ニ隸ス、徐當ニ絳ノ誤ナルベシ。

山出基置注正義山上緒、札記緒上有字アリ、云フ有字考證管子ニ據テ増ス。

物賤之徵貴、董份曰、賤極レバ則人之チ弃ツ、故ニ其必貴チ貴賤ノ徵チ明カニシ、而テ之チ弃取スルナリ、微チ以テ求ト爲ス、謬ル。商不出則三寶絶、三寶ハ蓋金銀銅チ謂フ。虞ハ不出則財匱少、虞ハ山澤チ掌ル者ナリ、財ハ村ト通ズ。

如置基子。往往有之。○正義曰。言出銅鐵之山。方千里如闡基之置也。管子云。凡天下名山五千二百七十。出銅之山四百六十七。出鐵之山三千六百有九。山上緒。其下有鐵。山上有鉛。其下有銀。山上有銀。其下有丹。此其大較也。索隱曰。較音角。大較。猶大略也。皆中國人民所喜

好。謠俗被服飲食。奉生送死之具也。故待農而食之。虞而出之。

工而成之。商而通之。此寧有政教發徵期會哉。人各任其能。竭

其力。以得所欲。故物賤之徵貴。索隱曰。徵者。求也。謂此處物賤。求彼貴賣之。貴之徵賤。各

勸其業。樂其事。若水之趨下。日夜無休時。不召而自來。不求而

民出之。豈非道之所符而自然之驗邪。索隱曰。符。謂合於道也。周書曰。農不

出則乏其食。工不出則乏其事。商不出則三寶絶。虞不出則財

匱少。財匱少而山澤不辟矣。索隱曰。辟音開。辟。開也。通也。此四者。民所衣食之

原也。原大則饒。原小則鮮。上則富國。下則富家。貧富之道莫之



必用此爲務ヨリ與之爭  
ニ至ル。老ノノ設チ破  
ルナリ、而テ之ガ解チ  
爲シテ曰、惟當ニ之ニ  
因リ、之チ利導シ、之チ  
整齊シ、之チ教誨スベ  
シ、而テ之ト爭ハザル  
可キナリ、若老死相往  
來セザラシメント欲セ  
バ、則必其耳目チ塗シ  
テ乃可ナルノミ、豈能  
ク行ハレンヤ。

太史公曰云云、方苞曰、  
嗜欲既ニ開ク、勢利利  
ヲ欲スルノ心チ閉ザ  
而テ至治ノ極ニ反ヘス  
能ハズ、故ニ善者亦之  
ニ因リ、之チ利導スル  
ニ過ギザルノミ、其次  
教誨整齊シ、猶能ク利  
ヲ導テ、上下之チ布ク、  
最下者ハ、與ニ爭ヒ、  
心計チ以テ之チ取ル、  
所謂賦チ加ヘズシテ國  
用自ラ足ルナリ。

夫山西饒材竹云云、方  
苞曰、古者國ニ分土ア  
リ、民其居ニ安ンジ、  
遠商大賈ナシ、故ニ略  
各地ノ出ス所チ舉ゲ、  
此善者ノ因ル所ナリ、  
農而食之云云ハ、此之  
ニ因リ之チ利導スルノ  
事、虞夏以來ノ政術ナ

食<sup>チ</sup>美<sup>シ</sup>其服<sup>チ</sup>。安<sup>ジ</sup>其俗<sup>チ</sup>。樂<sup>ム</sup>其業<sup>チ</sup>。至<sup>テ</sup>老死<sup>ニ</sup>不相往來<sup>セ</sup>。必用<sup>テ</sup>此<sup>チ</sup>爲<sup>ル</sup>務<sup>ト</sup>。輓<sup>キ</sup>近  
世<sup>チ</sup>。塗<sup>ラ</sup>民<sup>ノ</sup>耳目<sup>ノ</sup>。則幾<sup>ンド</sup>無<sup>シ</sup>行<sup>シ</sup>矣<sup>ニ</sup>。  
索隱曰。輓音挽。古字通用。

太史公曰。夫神農以前。吾不知<sup>ル</sup>已<sup>ニ</sup>。至<sup>リ</sup>若<sup>クハ</sup>詩書<sup>ニ</sup>所述<sup>ル</sup>虞夏以來<sup>ノ</sup>。耳  
目欲<sup>シ</sup>極<sup>ト</sup>聲色<sup>ノ</sup>之好<sup>チ</sup>。口欲<sup>シ</sup>窮<sup>ント</sup>芻豢<sup>ノ</sup>之味<sup>チ</sup>。身安<sup>ン</sup>逸樂<sup>ニ</sup>。而心誇<sup>ス</sup>矜<sup>ス</sup>勢能<sup>ニ</sup>  
之榮<sup>ニ</sup>。使<sup>ム</sup>俗<sup>ノ</sup>之漸<sup>セ</sup>民<sup>チ</sup>久<sup>シ</sup>矣<sup>ニ</sup>。雖戶<sup>ニ</sup>說<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>眇論<sup>ニ</sup>。終不能<sup>ス</sup>化<sup>スル</sup>。  
索隱曰。眇音妙。論如字。故<sup>ニ</sup>

善者因<sup>レ</sup>之<sup>ニ</sup>。其次利<sup>ニ</sup>道<sup>シ</sup>之<sup>チ</sup>。其次教<sup>シ</sup>誨<sup>シ</sup>之<sup>チ</sup>。其次整<sup>ス</sup>齊<sup>ス</sup>之<sup>チ</sup>。最下者與<sup>レ</sup>之<sup>ニ</sup>  
爭<sup>フ</sup>。夫山西饒<sup>シ</sup>材竹穀<sup>ノ</sup>纊<sup>ノ</sup>。  
徐廣曰。紵屬可以爲布。○索隱曰。穀音谷。雖反。穀。木名。皮可爲紙。纊。山中紵。可以爲布。音盧。紵音佇。今山閒野紵亦

作<sup>ル</sup>旄<sup>ノ</sup>玉石<sup>ノ</sup>。山東多<sup>シ</sup>魚鹽漆絲<sup>ノ</sup>聲色<sup>ノ</sup>。江南出<sup>ス</sup>柎梓<sup>ノ</sup>。  
索隱曰。南子二音。薑桂金

錫連<sup>ノ</sup>。  
徐廣曰。音蓮。鉛之未鍊者。丹沙犀瑇瑁珠璣齒<sup>ノ</sup>革<sup>ノ</sup>。龍門碣石<sup>ノ</sup>。  
正義曰。龍門山。在徐州龍門縣。碣石山。在

平州盧<sup>ノ</sup>北<sup>ニ</sup>。多<sup>シ</sup>馬牛羊旃裘筋角<sup>ノ</sup>。銅鐵則千里往<sup>リ</sup>往<sup>リ</sup>山出<sup>ル</sup>棊置<sup>ノ</sup>。  
索隱曰。言

# 史記評林卷之一百二十九

## 貨殖列傳第六十九

索隱曰。論語云。賜不受命而貨殖焉。廣雅云。殖立也。孔安國注。尚書云。殖生也。生資貨財利也。

李夢陽曰。予讀貨殖志而知遷之言過也。其言曰。巖穴隱處之士。設爲名高者亦以利耳。信斯言也。則伯夷爲矯。巢由爲僞。開倉賑饑者爲沽名。解衣救寒者爲飾譽。予故曰。讀貨殖志而知遷之言過也。

王鑒曰。貨殖傳議論未了。忽出敘事。敘事未了。又出議論。作文奇亦甚矣。

唐順之曰。此文出入變化。不可捉摸。而中藏軌範。法固森然也。

董份曰。遷答任少卿書。自傷極刑家貧不足自贖。故感而作貨殖傳。專慕富利。班固譏之是也。然其縱橫自肆。莫知其端。與游俠傳並稱千古之絕矣。○先敘述古之富者。中又雜論海內土俗。而極言人欲富之情性。末又撰次漢興以來富者。又別一體。汪道崑曰。太史公豔貨殖而羞貧。貧何足羞也。世有慷慨好奇之士。雅不善治生。其人雖貧。顧侔儻知大節。卽偃蹇終世。弔詭者猶有取焉。

老子曰。至治之極。鄰國相望。

正義曰。音亡。

雞狗之聲相聞。民各甘其

老子曰云云。趙恆曰。至治之極。不相往來。二至也。老子ノ言ナリ。

以繫有罪、云フ以下疑  
フ脱字アリ。

大論曰注索隱云云、歸  
有光曰、此褚先生補ス  
ル所ト雖モ、之ヲ存シ  
以テ太トノ舊ヲ見ルベ  
シ、但秦漢開ノ書ニ似  
タリ、三代ノ書ニ非ル  
ナリ。

首俛者憂、云フ此下當  
ニ首仰云云アルベシ、  
傳寫脱ス。

行者足開、云フ行字當  
ニ來ニ作ルベシ。

內高而外下也、云フ疑  
フ脱文フラン。

行<sup>カ</sup>。見<sup>ルニ</sup>人<sup>チ</sup>不見<sup>エ</sup>。

大論曰。

索隱曰、按褚先生所取、太ト雜占卦體、及命兆之  
辭、義蕪辭重、殆無足採、凡此六十七條別是也。

外者人也。內者

自我也。外者女也。內者男也。首俛者憂。大者身也。小者枝也。

大法病者足跰者生。足開者死。行者足開至。足跰者不至。行

者足跰不行。足開行。有求足開得。足跰者不得。繫者足跰。不

出。開出。其ト病也足開而死者。內高而外下也。

索隱述贊曰、三王異龜、五帝殊ト。或長或短。若瓦若玉。其記已亡。其繇後續。江使觸網。見  
留宋國。神能託夢。不衛其足。

史記評林卷之一百二十八終



行不行。來不來。見人不見。不吉。

此橫吉。榆仰首俯。以卜有求難得。病難起不死。繫難出。母傷

也。可居家室。以娶婦嫁女。

此橫吉。上柱載正身節折。內外自舉。以卜病者。卜日不死。其

一日乃死。

此橫吉。上柱足盼。內自舉。外自垂。以卜病者。卜日不死。其一

日乃死。

爲人病。首俯足詐。有外無內。病者占龜。未已急死。卜輕失大

一日不死。

首仰足盼。以卜有求不得。以繫有罪。人言語恐之母傷。行不

人病、云フ三字疑フ  
衍ナリ、此條毛本上ニ  
連ヌ。

首仰足盼、云フ此條又  
當ニ上ニ連ヌベシ。

リ、云フ毛本誤フズ、  
各本繫字錯テ傷下ニア  
リ、今正ス。

此狐貉、云フ葉校本狐  
ヲ交ニ作ル。

此狐徹、云フ中統柯本  
吳校金板狐ヲ交ニ作  
ル。

留繫有罪望ハ繫留ニ作  
ル、云フ繫留倒ス、今  
正ス。

有求不晦、云フ晦字疑  
フ誤ル。

行不行。來者不來。見人不見。

此挺詐内外自舉。以<sub>スルニ</sub>有求得。病不死。繫母罪。行行。來來。田

賈市漁獵盡喜。

此狐貉以<sub>スルニ</sub>有求不得。病死難起。繫留母罪難出。可居宅。可

娶婦嫁女。行不行。來不來。見人不見。有憂不憂。

此狐徹以<sub>狐一本作交</sub>有求不得。病者死。繫留有抵罪。行不行。來不來。

見人不見。言語定。百事盡不吉。

此首俯足胗身節折。以<sub>スルニ</sub>有求不得。病者死。留繫有罪望。行

者不來。行行。來不來。見人不見。

此挺内外自垂。以<sub>スルニ</sub>有求不晦。病不死。難起。繫留母罪難出。

行來者來、云フ行下、疑  
フ者行二字ヲ脱ス。

此横吉、云フ首ニ當ニ  
龜兆ノ形アルベシ、傳  
寫之ヲ失フ、以下各條  
此ニ效フ、又疑フ上文  
命曰各條上亦之アリ、  
上柱外内内自舉、疑フ  
一内字ヲ衍ス。  
柱足以作、云フ作疑フ  
詐字ノ譌ナリ。

病不死數起留禍罪無傷  
繫、札記索字留上ニア

病者死。求財物不得。見貴人見吉。

命曰。内自舉外來正足發者行。來者來。求財物得。病者久不  
死。繫者不出。見貴人見吉。

此横吉上柱外内。内自舉足盼。以下有求得。病不死。繫者毋  
傷未出行不行。來不來。見人不見。百事盡吉。

此横吉上柱外内自舉。柱足以作。以下有求得。病死環起。繫  
留毋傷環出行不行。來不來。見人不見。百事吉。可以舉兵。

此挺詐有外。以下有求不得。病不死數起。繫禍罪。聞言毋傷。  
行不行。來不來。

此挺詐有内。以下有求不得。病不死數起。留禍罪無傷。繫出。



内外自隨、隨ヲ垂ニ作  
ル、云フ隨ニ誤ル、今  
改ム。

吉。

命曰。頭仰足盼。内外自隨。卜憂病者甚不死。居官不得居。行者行。來者不來。求財物不得。求人不得。吉。

命曰。橫吉下有柱。卜來者來。卜曰。卽不至未來。卜病者過一日。毋瘳。死。行者不行。求財物不得。繫者出。

命曰。橫吉内外自舉。以占病者久不死。繫者久不出。求財物得而少。行者不行。來者不來。見貴人見。吉。

命曰。内高外下。疾輕足發。求財物不得。行者行。病者有瘳。繫者不出。來者來。見貴人不見。吉。

命曰。外格。求財物不得。行者不行。來者不來。繫者不出。不吉。

非レバ、即衍ナリ、  
凶霧下脱字アラシ。

上柱足、云フ三字疑フ  
衍ナリ。

命曰。首仰足盼。身折内外相應。以占病病甚不死。繫者久不出。求財物買臣妾馬牛。漁獵不得行。不行。來不來。擊盜有用。勝聞盜來。徙官不徙。居官家室不吉。歲不孰。民疾疫。歲中有兵不至。見貴人喜。請謁追亡人不得。遇盜凶。

命曰。内格外垂。行者不行。來者不來。病者死。繫者不出。求財物不得。見人不見。大吉。

命曰。橫吉内外相應。自橋榆仰上柱。上柱足足盼。以占病病甚不死。繫久不抵罪。求財物買臣妾馬牛。請謁追亡人。漁獵不得行。不行。來不來。居官家室見貴人吉。徙官不徙。歲不大孰。民疾疫。有兵有兵不會行。遇盜聞言不見。雨不雨。霽霽大。

命曰。頭見足發。有內外相應。以占病者起。繫者出。行者行。來者來。求財物得吉。

行行不行、云フ第一行字衍ナリ、中統毛本ナシ。

雨不雨霽不吉、云フ吉上霽字ヲ脱ス。

行行來、云フ來字當ニ重メベシ。

聞盜遇盜、云フ上聞盜來不來ト云フ、此誤ニ

命曰。呈兆首仰足開。以占病病甚死。繫者出有憂。求財物買臣妾馬牛。請謁追亡人。漁獵不得。行行不行。來不來。擊盜不合。聞盜來來。徙官居官家室不吉。歲惡。民疾疫無死。歲中毋兵。見貴人不吉。行不遇盜。雨不雨。霽不吉。

命曰。呈兆首仰足開。外高內下。以占病不死。有外祟。繫者出有憂。求財物買臣妾馬牛。相見不會。行行來聞言不來。擊盜勝。聞盜來不來。徙官居官家室見貴人不吉。歲中民疾疫有兵。請謁追亡人。漁獵不得。聞盜遇盜。雨不雨。霽凶。



來來。徙官。徙居。家室憂。見貴人吉。歲孰。民毋疾疫。歲中毋兵。  
行不遇盜。雨不雨。霽霽。吉。

命曰根格。以占病者不死。繫久毋傷。求財物。買臣妾馬牛。請  
謁追亡人。漁獵不得。行不行。來不來。擊盜盜行不合。聞盜不  
來。徙官不徙。居家室吉。歲稼中。民疾疫無死。見貴人不得見。  
行不遇盜。雨不雨。大吉。

命曰首仰足盼。外高內下。卜有憂無傷也。行者不來。病久死。  
求財物不得。見貴人者吉。

命曰外高內下。卜病不死有祟。而市買不得。居官家室不吉。  
行者不行。來者不來。繫者久毋傷。吉。

而市買不得、云フ而字  
疑フ即市字ノ譌衍ナ  
リ。

雨霽不霽、云フ雨下脫  
字アラシ。

命曰。橫吉。榆仰。以占病不死。繫者不出。求財物。買臣妾馬牛。  
至不得。行不行。來不來。擊盜不行。行不見。聞盜來不來。徙官  
不徙。居官家室。見貴人吉。歲孰。歲中有疾疫。毋兵。請謁追亡  
人不得。漁獵至不得。行不得。行不遇盜。雨霽不霽。小吉。  
命曰。橫吉。下有柱。以占病。病甚不環。有瘳無死。繫者出。求財  
物。買臣妾馬牛。請謁追亡人。漁獵不得。行。來不來。擊盜不合。  
聞盜來。來徙官。居官吉。不久。居家室不吉。歲不孰。民毋疾疫。  
歲中毋兵。見貴人吉。行不遇盜。雨不雨。霽小吉。

命曰。載所以占病。環有瘳無死。繫者出。求財物。買臣妾馬牛。  
請謁追亡人。漁獵得行者行。來者來。擊盜相見。不相合。聞盜

徙。居家室吉。歲稼不孰。民疾疫。歲中毋兵。見貴人吉。行不遇盜。雨不雨。霽不霽。吉。

命曰。首仰足盼。內高外下。以占病。病者甚不死。繫者不出。求財物。買臣妾馬牛。追亡人。漁獵得。行不行。來者來。擊盜勝。徙官不徙。居官有憂無傷也。居家室多憂病。歲大孰。民疾疫。歲中有兵不至。見貴人。請謁不吉。行遇盜。雨不雨。霽不霽。吉。

命曰。橫吉。上有仰下有柱。病久不死。繫者不出。求財物。買臣妾馬牛。追亡人。漁獵不得。行不行。來不來。擊盜不行。行不見。聞盜來不來。徙官不徙。居家室見貴人吉。歲大孰。民疾疫。歲中毋兵。行不遇盜。雨不雨。霽不霽。大吉。



民疫無疾、云フ疫字衍ナリ、或ハ無下ニ在リ。

雨霽雨霽、云フ當ニ雨雨霽霽ニ作ルベシ。

内外自吉、云フ吉字疑フ誤ル。

命曰。橫吉内外自橋。以占病。卜曰。毋瘳死。繫者毋罪出。求財物。買臣妾馬牛。得行者行。來者來。擊盜合交等。聞盜來。來徙官。徙居家室吉。歲孰。民疫無疾。歲中無兵。見貴人。請謁追亡人。漁獵得。行遇盜。雨霽。雨霽大吉。

命曰。橫吉内外自吉。以占病。病者死。繫不出。求財物。買臣妾馬牛。追亡人。漁獵不得。行者不來。擊盜不相見。聞盜不來。徙官徙居。官有憂。居家室見貴人。請謁不吉。歲稼不孰。民疾疫。歲中無兵。行不遇盜。雨不雨。霽不霽。不吉。

命曰。漁人以占病者。病者甚不死。繫者出。求財物。買臣妾馬牛。擊盜。請謁追亡人。漁獵得。行者行。來聞盜來。不來。徙官不

吉。

命曰。首仰足盼。以占病不死。繫者久母傷也。求財物買臣妾  
馬牛不得。行者不行。擊盜不行。來者來。聞盜來。徙官聞言。不  
徙。居家室不吉。歲稼不孰。民疾疫少。歲中母兵。見貴人得見。  
請謁追亡人。漁獵不得。行遇盜。雨不雨。霽不霽。吉。

命曰。首仰足開有內。以占病者死。繫者出。求財物買臣妾馬  
牛不得。行者行。來者來。擊盜行。不見盜。聞盜來不來。徙官徙。  
居官不久。居家室不吉。歲孰。民疾疫有而少。歲中母兵。見貴  
人不吉。請謁追亡人。漁獵不得。行不遇盜。雨霽。霽小吉。不霽  
吉。

得<sup>レ</sup>行<sup>イ</sup>不<sup>ハ</sup>遇<sup>ニ</sup>盜<sup>ハ</sup>雨<sup>フ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>凶。

命<sup>シ</sup>曰<sup>フ</sup>。呈兆首仰足盼。以<sup>フ</sup>占<sup>ニ</sup>病<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>死<sup>セ</sup>。繫者未<sup>レ</sup>出<sup>ヲ</sup>。求<sup>ニ</sup>財物<sup>ハ</sup>買<sup>フ</sup>臣妾  
馬牛<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>行<sup>カ</sup>不<sup>ル</sup>行<sup>カ</sup>來<sup>ル</sup>不<sup>ル</sup>來<sup>ヲ</sup>。擊盜<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>相見<sup>ニ</sup>。聞<sup>ニ</sup>盜來<sup>ル</sup>不<sup>ル</sup>來<sup>ヲ</sup>。徙官<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>  
徙<sup>ラ</sup>。居官<sup>ニ</sup>久<sup>キ</sup>多<sup>シ</sup>憂<sup>ル</sup>。居家室<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>吉<sup>シ</sup>。歲稼<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>孰<sup>セ</sup>。民病疫<sup>ハ</sup>。歲中毋兵<sup>ル</sup>。見<sup>ニ</sup>  
貴人<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>吉<sup>シ</sup>。請謁<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。漁獵<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>少<sup>シ</sup>。行<sup>イ</sup>不<sup>レ</sup>遇<sup>ニ</sup>盜<sup>ハ</sup>雨<sup>フ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>不<sup>ハ</sup>  
吉<sup>シ</sup>。

命<sup>シ</sup>曰<sup>フ</sup>。呈兆首仰足開。以<sup>フ</sup>占<sup>ニ</sup>病<sup>ハ</sup>病篤<sup>キ</sup>死<sup>ス</sup>。繫囚出<sup>ヲ</sup>。求<sup>ニ</sup>財物<sup>ハ</sup>買<sup>フ</sup>臣妾  
馬牛<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。行者行<sup>キ</sup>來者來<sup>ル</sup>。擊盜<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>見<sup>ニ</sup>盜<sup>ハ</sup>。聞<sup>ニ</sup>盜來<sup>ル</sup>不<sup>ル</sup>來<sup>ヲ</sup>。徙官<sup>ニ</sup>徙<sup>ラ</sup>。  
居官<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>久<sup>カ</sup>。居家室<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>吉<sup>シ</sup>。歲稼<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>孰<sup>セ</sup>。民疾疫有<sup>ハ</sup>而少<sup>シ</sup>。歲中無兵<sup>ル</sup>。  
見<sup>ニ</sup>貴人<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>見<sup>ニ</sup>吉<sup>シ</sup>。請謁<sup>ニ</sup>追<sup>フ</sup>亡人<sup>ヲ</sup>。漁獵<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。行<sup>イ</sup>遇<sup>ニ</sup>盜<sup>ハ</sup>雨<sup>フ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>不<sup>ハ</sup>  
見<sup>ニ</sup>貴人<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>見<sup>ニ</sup>吉<sup>シ</sup>。請謁<sup>ニ</sup>追<sup>フ</sup>亡人<sup>ヲ</sup>。漁獵<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。行<sup>イ</sup>遇<sup>ニ</sup>盜<sup>ハ</sup>雨<sup>フ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>不<sup>ハ</sup>霽<sup>シ</sup>不<sup>ハ</sup>



聞言不聞、下聞ヲ開ニ  
作ル、云フ開當ニ來ニ  
作ルベシ。  
故其莫、云フ疑フ莫、即  
其字ノ譌衍ナリ。

命曰首仰足脰有内無  
外、云フ全ク上條ニ同  
シ、疑フ衍ナリ。

命曰。首仰足脰。有内無外。占病病甚不死。繫者解。求財物買  
臣妾馬牛不得。行者聞言不行。來者不來。聞盜不來。聞言不  
至。徙官聞言不徙。居官有憂。居家多灾。歲稼中孰。民疾疫多  
病。歲中有兵。聞言不聞。見貴人吉。請謁不行。行不得善言。追  
亡人不得。漁獵不得。行不遇盜。雨不雨甚。霽不霽。故其莫字  
皆爲首備。問之曰。備者仰也。故定以爲仰。此私記也。

命曰。首仰足脰。有内無外。占病病甚不死。繫者不出。求財買  
臣妾不得。行者不行。來者不來。擊盜不見。聞盜來内自驚不  
來。徙官不徙。居官家室吉。歲稼不孰。民疾疫有病甚。歲中無  
兵。見貴人吉。請謁追亡人不得。亡財物。財物不出得。漁獵不

オ、錢警石云、宜ク別ツベシ。

過一日不得不得、云フ二字複衍ス。

命曰呈兆病者不死、云フ呈兆下疑フ脱文アリ。

占<sup>フ</sup>病<sup>ニ</sup>病<sup>チ</sup>甚<sup>キ</sup>者<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>日<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>死<sup>セ</sup>。不<sup>ル</sup>甚<sup>カ</sup>者<sup>ニ</sup>卜<sup>ニ</sup>曰<sup>テ</sup>瘳<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>死<sup>セ</sup>。繫<sup>ル</sup>者<sup>ニ</sup>重<sup>キ</sup>罪<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>出<sup>デ</sup>。  
輕<sup>キ</sup>罪<sup>チ</sup>環<sup>テ</sup>出<sup>テ</sup>。過<sup>ル</sup>一<sup>ニ</sup>日<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>出<sup>デ</sup>。久<sup>キ</sup>毋<sup>キ</sup>傷<sup>メ</sup>也。求<sup>メ</sup>財<sup>チ</sup>物<sup>ヲ</sup>買<sup>フ</sup>臣<sup>ニ</sup>妾<sup>ニ</sup>馬<sup>ニ</sup>牛<sup>ニ</sup>。一<sup>ニ</sup>日<sup>チ</sup>  
環<sup>テ</sup>得<sup>テ</sup>。過<sup>ル</sup>一<sup>ニ</sup>日<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>セ</sup>。不<sup>ル</sup>得<sup>セ</sup>。行<sup>カ</sup>者<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>行<sup>カ</sup>。來<sup>ル</sup>者<sup>ニ</sup>環<sup>テ</sup>至<sup>ル</sup>。過<sup>ル</sup>食<sup>チ</sup>時<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>至<sup>ラ</sup>。  
來<sup>ル</sup>。擊<sup>ツ</sup>盜<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>行<sup>カ</sup>。行<sup>カ</sup>不<sup>レ</sup>遇<sup>ハ</sup>。聞<sup>ニ</sup>盜<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>來<sup>ラ</sup>。徙<sup>ル</sup>官<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>徙<sup>ラ</sup>。居<sup>ル</sup>官<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>室<sup>ニ</sup>皆<sup>ニ</sup>吉<sup>ニ</sup>。歲<sup>ニ</sup>  
稼<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>孰<sup>セ</sup>。民<sup>ニ</sup>疾<sup>シ</sup>疫<sup>ハ</sup>無<sup>レ</sup>疫<sup>ハ</sup>。歲<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>兵<sup>ニ</sup>。見<sup>レ</sup>人<sup>ニ</sup>行<sup>カ</sup>不<sup>レ</sup>行<sup>カ</sup>。不<sup>レ</sup>喜<sup>ズ</sup>。請<sup>ニ</sup>謁<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>  
行<sup>カ</sup>。不<sup>レ</sup>得<sup>セ</sup>。追<sup>フ</sup>亡<sup>チ</sup>人<sup>ニ</sup>漁<sup>ル</sup>獵<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>セ</sup>。行<sup>カ</sup>不<sup>レ</sup>遇<sup>ハ</sup>盜<sup>ニ</sup>。雨<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>雨<sup>ハ</sup>。霽<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>霽<sup>セ</sup>。  
命<sup>シ</sup>曰<sup>テ</sup>。呈<sup>シ</sup>兆<sup>ニ</sup>。病<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>死<sup>セ</sup>。繫<sup>ル</sup>者<sup>ニ</sup>出<sup>デ</sup>。行<sup>カ</sup>者<sup>ニ</sup>行<sup>カ</sup>。來<sup>ル</sup>者<sup>ニ</sup>來<sup>ル</sup>。市<sup>ハ</sup>買<sup>フ</sup>得<sup>テ</sup>。追<sup>フ</sup>亡<sup>チ</sup>人<sup>ニ</sup>  
得<sup>テ</sup>。過<sup>ル</sup>一<sup>ニ</sup>日<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>セ</sup>。問<sup>ニ</sup>行<sup>カ</sup>者<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>到<sup>ラ</sup>。  
命<sup>シ</sup>曰<sup>テ</sup>。柱<sup>シ</sup>徹<sup>ニ</sup>。卜<sup>ス</sup>病<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>死<sup>セ</sup>。繫<sup>ル</sup>者<sup>ニ</sup>出<sup>デ</sup>。行<sup>カ</sup>者<sup>ニ</sup>行<sup>カ</sup>。來<sup>ル</sup>者<sup>ニ</sup>來<sup>ル</sup>。而<sup>シテ</sup>市<sup>ハ</sup>買<sup>フ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>セ</sup>。憂<sup>フ</sup>  
者<sup>ニ</sup>毋<sup>シ</sup>憂<sup>フ</sup>。追<sup>フ</sup>亡<sup>チ</sup>人<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>セ</sup>。

フ漁人也、疑フ人字ナ  
脱ス。

不過呈兆、云フ疑フ下  
脱文アリ。

命曰橫吉安、云フ各本  
上ト天雨霽ノ條ニ連

ト請<sup>スル</sup>謁<sup>スルニ</sup>於<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>不得<sup>ル</sup>。得<sup>ル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>開<sup>ル</sup>。內<sup>ニ</sup>自<sup>ル</sup>橋<sup>ニ</sup>。不得<sup>ル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>盼<sup>ル</sup>有<sup>ル</sup>外<sup>ニ</sup>。

ト追<sup>スル</sup>亡<sup>フニ</sup>人<sup>ニ</sup>當<sup>ル</sup>得<sup>ル</sup>不得<sup>ル</sup>。得<sup>ル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>盼<sup>ル</sup>。內<sup>ニ</sup>外<sup>ニ</sup>相<sup>ル</sup>應<sup>ル</sup>。不得<sup>ル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>開<sup>ル</sup>。若<sup>ハ</sup>橫<sup>ニ</sup>吉<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>。

ト漁<sup>スル</sup>獵<sup>スル</sup>得<sup>ル</sup>不得<sup>ル</sup>。得<sup>ル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>開<sup>ル</sup>。內<sup>ニ</sup>外<sup>ニ</sup>相<sup>ル</sup>應<sup>ル</sup>。不得<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>盼<sup>ル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>若<sup>ハ</sup>橫<sup>ニ</sup>吉<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>。

ト行<sup>スル</sup>遇<sup>イデ</sup>盜<sup>フ</sup>不<sup>ル</sup>遇<sup>ハ</sup>。遇<sup>フ</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>開<sup>ル</sup>。身<sup>ニ</sup>節<sup>ニ</sup>折<sup>ル</sup>。外<sup>ニ</sup>高<sup>ニ</sup>內<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>。不<sup>ル</sup>遇<sup>ハ</sup>呈<sup>ル</sup>兆<sup>ニ</sup>。

ト天<sup>スル</sup>雨<sup>フル</sup>不<sup>ル</sup>雨<sup>フ</sup>。雨<sup>フル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>有<sup>ル</sup>外<sup>ニ</sup>。外<sup>ニ</sup>高<sup>ニ</sup>內<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>。不<sup>ル</sup>雨<sup>フ</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ニ</sup>開<sup>ル</sup>若<sup>ハ</sup>橫<sup>ニ</sup>吉<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>。

ト天<sup>スル</sup>雨<sup>フリ</sup>霽<sup>ル</sup>不<sup>ル</sup>霽<sup>レ</sup>。霽<sup>ル</sup>呈<sup>ル</sup>兆<sup>ニ</sup>足<sup>ニ</sup>開<sup>ル</sup>首<sup>ニ</sup>仰<sup>ル</sup>。不<sup>ル</sup>霽<sup>レ</sup>橫<sup>ニ</sup>吉<sup>ニ</sup>。命<sup>シテ</sup>曰<sup>ク</sup>橫<sup>ニ</sup>吉<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>。以<sup>テ</sup>



ト居室家ノ下ノ身折節、札記身節折ニ作各本節折倒ス、官本誤ル、云フラズ。

ト<sup>スル</sup>居室家<sup>ニ</sup>吉不吉<sup>ナ</sup>。吉呈兆身正若橫吉安。不吉身折節。首仰足開。

ト<sup>スル</sup>歲中禾稼孰不孰<sup>チ</sup>。孰首仰足開。内外自橋外自垂<sup>レ</sup>。不孰足盼首仰有外。

ト<sup>スル</sup>歲中民疫不疫<sup>チ</sup>。疫首仰足盼。身節有彊外。不<sup>ル</sup>疫身正首仰足開。

ト<sup>スル</sup>歲中有兵無兵<sup>キ</sup>。無兵呈兆若橫吉安。有兵首仰足開。身作<sup>ス</sup>外彊情<sup>チ</sup>。

ト<sup>スル</sup>見貴人<sup>ナ</sup>吉不吉<sup>チ</sup>。吉足開首仰身正内自橋。不吉首仰身節折足盼有外。若無漁。

身作外彊情、云フ脱誤アリ。

若無漁、云フ無字疑フ衍ナリ、漁ハ即後文云

言フ、首字簡字皆非ナリ。

行首足開、云フ首字下亦仰字ヲ脱ス。

胘勝、云フ胘字疑フ衍、而テ勝字又胘ノ譌衍ナリ。

足開有胘外、云フ胘字疑フ、衍ナリ。不去自去、云フ自去二字疑フ衍。

外高。

ト求<sup>スル</sup>當<sup>ル</sup>行<sup>ニ</sup>不<sup>ク</sup>行<sup>ル</sup>。行<sup>カ</sup>首<sup>ク</sup>足<sup>カ</sup>開<sup>ク</sup>。不<sup>ル</sup>行<sup>カ</sup>足<sup>カ</sup>胘<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>。若<sup>クハ</sup>橫<sup>ル</sup>吉<sup>ル</sup>安<sup>ル</sup>。安<sup>ナ</sup>不<sup>レ</sup>行<sup>カ</sup>。

ト往<sup>スル</sup>擊<sup>イ</sup>盜<sup>テ</sup>當<sup>ニ</sup>見<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>。見<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>胘<sup>ル</sup>有<sup>ル</sup>外<sup>ル</sup>。不<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>開<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>。

ト往<sup>スル</sup>候<sup>イ</sup>盜<sup>テ</sup>見<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>。見<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>胘<sup>ル</sup>勝<sup>ル</sup>有<sup>ル</sup>外<sup>ル</sup>。不<sup>レ</sup>見<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>開<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>。

ト聞<sup>スル</sup>盜<sup>ニ</sup>來<sup>テ</sup>不<sup>ル</sup>來<sup>ル</sup>。來<sup>ル</sup>外<sup>ル</sup>高<sup>ル</sup>內<sup>ル</sup>下<sup>ル</sup>。足<sup>ル</sup>胘<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>。不<sup>レ</sup>來<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>開<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>。若<sup>クハ</sup>橫<sup>ル</sup>。

吉安期之自次。

ト遷<sup>スル</sup>徙<sup>ル</sup>去<sup>ル</sup>官<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>去<sup>ル</sup>。去<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>開<sup>ル</sup>有<sup>ル</sup>胘<sup>ル</sup>外<sup>ル</sup>首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>。不<sup>レ</sup>去<sup>ル</sup>自<sup>ル</sup>去<sup>ル</sup>即<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>胘<sup>ル</sup>。呈<sup>ル</sup>。

兆若橫吉安。

ト居<sup>スル</sup>官<sup>ニ</sup>尚<sup>ホ</sup>吉<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>吉<sup>ニ</sup>。呈<sup>ル</sup>兆<sup>ル</sup>身<sup>ル</sup>正<sup>ル</sup>若<sup>クハ</sup>橫<sup>ル</sup>吉<sup>ル</sup>安<sup>ル</sup>。不<sup>レ</sup>吉<sup>ル</sup>身<sup>ル</sup>節<sup>ル</sup>折<sup>ル</sup>。首<sup>ル</sup>仰<sup>ル</sup>足<sup>ル</sup>。

開。

ニ作ル、云フ隨ニ誤ル、  
下文ニ依テ改ム。  
ト占病者、札記云、占  
字疑フ衍、首上開、云フ  
申統本上ヲ止ニ作ル、  
疑フ足ノ壞文ニシテ、  
而テ上ニ仰字ヲ脱ス、  
内外交駭、云フ駭字疑  
フ衍ナリ。  
呈兆首仰足脰、札記云、  
ト兆ヲ按ズルニ、蓋首  
仰足開ヲ以テ類ト爲  
シ、首俛足脰ナリト爲  
ス、今各條首仰アリ首  
俛ナシ、疑フ傳寫誤ル。

ト<sup>スルニ</sup>占病者<sup>ヲ</sup>。祝曰。今某病困<sup>ス</sup>。死<sup>スル</sup>。首上開<sup>キ</sup>。内外交駭<sup>シ</sup>。身節折<sup>レ</sup>。不<sup>レ</sup>死<sup>セ</sup>。  
首<sup>ギ</sup>仰<sup>マレ</sup>足脰<sup>スルニ</sup>。ト<sup>ニ</sup>病者<sup>ヲ</sup>。崇曰。今病有<sup>ル</sup>崇<sup>ル</sup>。無<sup>レ</sup>呈<sup>スル</sup>。無<sup>レ</sup>崇<sup>キ</sup>有<sup>レ</sup>呈<sup>スル</sup>。兆有<sup>ニ</sup>中崇<sup>ニ</sup>。  
有<sup>レ</sup>内<sup>レ</sup>。外崇有<sup>レ</sup>外<sup>レ</sup>。

ト<sup>スル</sup>繫者<sup>ニ</sup>。出<sup>ル</sup>。不<sup>レ</sup>出<sup>ル</sup>。横吉安。若出<sup>ル</sup>。足開<sup>キ</sup>。首仰<sup>ギ</sup>有<sup>レ</sup>外<sup>レ</sup>。

ト<sup>スルニ</sup>求<sup>ニ</sup>財物<sup>ヲ</sup>。其<sup>チ</sup>所<sup>ニ</sup>當<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>。得<sup>ル</sup>。首仰<sup>キ</sup>。足開<sup>キ</sup>。内外相應<sup>シ</sup>。即<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。呈兆首

仰足脰。

ト<sup>スル</sup>有<sup>ル</sup>賣<sup>リ</sup>。若<sup>シ</sup>買<sup>フ</sup>。臣妾馬牛<sup>ヲ</sup>。得<sup>ル</sup>。之<sup>チ</sup>。首仰<sup>キ</sup>。足開<sup>キ</sup>。内外相應<sup>シ</sup>。不<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>。首仰

足脰。呈兆若横吉安。

ト<sup>スル</sup>擊<sup>テ</sup>盜聚<sup>ル</sup>。若干人<sup>ニ</sup>。在<sup>ニ</sup>某所<sup>ニ</sup>。今某將卒若干人<sup>ニ</sup>。往<sup>イテ</sup>擊<sup>ツ</sup>之<sup>チ</sup>。當<sup>ニ</sup>勝<sup>ツ</sup>。首

仰<sup>キ</sup>。足開<sup>キ</sup>。身正<sup>ク</sup>。内<sup>ニ</sup>自橋外下<sup>シ</sup>。不<sup>レ</sup>勝<sup>タ</sup>。足脰<sup>キ</sup>。首仰<sup>キ</sup>。身首<sup>ニ</sup>。  
徐廣曰。一作簡。内下

身首注一作簡、札記云、  
此上身正ニ對シテ言



灼鑽注索隱、札記造謂燒荆之處荆若木ニ作

ル、云フ荆若木三字疑フ衍ナリ。

灼首曰正足、札記云、灼首ノ下、疑フ曰正首

灼足五字ヲ脱ス。

假之、札記云、之疑フ爾字ノ誤ナリ、下文假

數籥、札記云、南宋本舊刻刺ニ作ル、雜志云、

索隱籥ニ作ル、皆籥ノ誤、說文、荊策ナリ、

刺聲ニ從フ、刺策音近シ、故ニ徐音策、集韻

策著也、或作籥、義ハ即徐ニ本ヅク。

其欲ト、札記其ヲ某ニ作ル、云フ某ヲ改ム、

ス、下文ニ依テ改ム。

手足收、札記手ヲ首ニ作ル、云フ首ヲ手ニ誤

ル、今改ム、下手足滅去同ジ。

靈龜ト祝、札記云、靈龜二字疑フ衍ナリ。

某身良ノ下、札記貞字アリ、云フ南宋中統舊

刻游毛同ジ、他本貞字ヲ脱ス。

内外自隨、札記隨ヲ垂

ト先以造

徐廣曰。音竈也。

灼鑽

索隱曰。造謂燒荆之處物若木也。

鑽中已又灼。龜首各三。

又復灼所鑽中曰正身。灼首曰正足。

徐廣曰。一作止。

各三。即以造三

周龜祝曰。假之玉靈夫子。

索隱曰。尊神龜而爲之作號。

夫子玉靈。荆灼而心

令而先知而上行於天下行於淵。諸靈數籥。

徐廣曰。音策。○索隱曰。數音所具反。籥音

近策。或籥是策之別名。此ト筮之書。其字亦無可覈。他皆放此。

莫如汝信。今日良日。行一良貞。

徐廣曰。行一作

其身。其欲ト。某即得而喜。不得而悔。即得發鄉。我身長大。手足

收人。皆上偶。不得發鄉。我身挫折。中外不相應。手足滅去。

靈龜ト祝曰。假之靈龜。五筮五靈。不如神龜之靈。知人死知

人生。某身良。某欲求某物。即得也。頭見足發。内外相應。即不

得也。頭仰足盼。内外自隨。可得占。

胫ニ作ルベシ。  
 首倪大、索隱、札記云、  
 當ニ首仰下ニ次シ、不  
 文重出ノ首倪大三字ヲ  
 刪リ、而テ正義ヲ以テ  
 索隱ノ後ニ次スベシ。  
 ト禁日、札記日ヲ日ニ  
 作ル、云フ南宋蕭剗毛  
 本同シ、他本日ヲ日ニ  
 譌ス。  
 如食已ト、札記云、ト  
 字疑フ衍ナリ。  
 以日且、札記日ヲ月ニ  
 作ル、云フ南宋中統游  
 毛吳校金板同ジ、他本  
 月ヲ日ニ譌ス。

微也。索隱曰。微音叫。謂微繞不明也。不可以ト。庚辛可以殺及以鑽之。常以日

旦祓龜。索隱曰。祓音廢。又音拂。拂洗之以水。雞卵摩之而呪。先以清水澡之。以卵祓之。正義曰。以常月

朝清水洗之。以乃持龜而遂之。若嘗以爲祖。徐廣曰。一作視。○索隱曰。祖法也。言以爲常法。人

若已ト不中。皆祓之以卵。東向立。灼以荊。若剛木土。徐廣曰。一作十

一。○索隱曰。按古之灼龜。取生荊枝及生堅木燒之。斬斷以灼龜。按土字合依劉氏說。當連下句。卵指之者三。正義曰。言ト不中。以土爲卵。三度指

之。三周繞之。持龜以卵周環之。祝曰。今日吉謹以梁卵煇黃。索隱

曰。梁。米也。卵。雞子也。煇。龜木也。音次第之第。言燒荊枝更遞而灼。故有煇名。一音梯。言灼之以漸。如有階梯也。黃者。以黃絹裹梁卵。以祓龜也。必以黃者。中之色主土而信。故用雞

也。○正義曰。煇音題。煇。焦也。言以梁米雞卵。祓去龜之不祥。令灼之不焦。不黃若色焦及黃。ト之不中也。祓去玉靈之不祥。玉靈

必信以誠。知萬事之情。辯兆皆可占。不信不誠。則燒玉靈。揚

其灰以徵後龜。其ト必北向。龜甲必尺二寸。

褚先生曰。漁者舉網而得神龜。龜自見夢宋元王。元王召博士衛平。告以夢龜狀。平運式定日月分衡度。視吉凶。占龜與物色同。平諫王留神龜。以爲國重寶。美矣。古者筮必稱龜者。以其令名所從來久矣。余述而爲傳。

三月 二月 正月  
正義曰。言正月二月三月。右轉周環終十二月者。日月之龜。腹下十二黑點爲十二月。若二十八宿

也。十一月 十一月  
中開內高外下。○正義曰。此等下至首俛大者。皆卜兆之狀也。 四月首仰

曰。音魚兩反。足開 盼開  
索隱曰。音琴。盼謂兆足斂也。 首俛大  
索隱曰。俛音免。兆首伏也。 五

月 橫吉 首俛大  
正義曰。俛音免。謂兆首伏而大。 六月 七月

八月 九月 十月

卜禁日。子亥戌。不可以卜及殺龜。日中如食。已卜暮昏。龜之

十一月注、中開內商外下、札記以テ正文ト爲ス、云フ此ト兆乃正文ナリ、各本混ジテ集解ト作ス、今正ス。  
 四月、札記云、當ニ三月ノ上ニ在ルベシ。  
 首仰、札記首上空格ヲ爲ス、云フ南宋中統游毛首上空格誤ラズ、王凌上四月ニ連ヌ、柯本脫ス、注索隱音魚兩反、正義謂兆首仰起ニ作ル、云フ柯本索隱ト四月下ニ係ケ、凌本索隱ニ混入ス。  
 盼開、札記云、當ニ足



而相佐。見食於蝦蟇。蝟辱於鵲。

郭璞曰。蝟能制虎。見鵲仰地。淮南萬畢曰。鵲令蝟反腹者。蝟憎其意而心惡之也。

騰蛇之神而殆於卽且。

郭璞曰。騰蛇龍屬也。蝟蛆似蝗。大腹食蛇腦也。○正義曰。卽津日反。且則餘反。卽吳公也。狀如蚰蜒而大

色。竹外有節理。中直空虛。松柏爲百木長。而守門閭。日辰不

全。故有孤虛。

甲乙謂之日。子丑謂之辰。六甲孤虛法。甲子句中無戊亥。戊亥卽爲孤。辰巳卽爲虛。甲戌句中無申酉。申酉爲孤。寅卯爲虛。甲申句中無

午未。午未爲孤。子丑卽爲虛。甲午句中無辰巳。辰巳爲孤。戊亥卽爲虛。甲辰句中無寅卯。寅卯爲孤。申酉卽爲虛。甲寅句中無子丑。子丑爲孤。午未卽爲虛。劉歆七略有風后孤虛二十卷。○正義曰。按歲月日時孤虛並得上法也。黃金有疵。白玉有瑕。事有所疾。亦有所徐。

物有所拘。亦有所據。罔有所數。亦有所疎。人有所貴。亦有所

不如。何可而適乎。物安可全乎。天尙不全。故世爲屋不成。三

瓦而陳之。

徐廣曰。一云爲屋成。缺三瓦而棟之也。○索隱曰。劉氏云。陳猶居也。注作棟。音都貢反。○正義曰。言爲屋不成。缺三瓦以應天。猶陳列而居之。

以應之天。天下有階。物不全。

正義曰。言萬物及日月天地皆不能全。喻龜之不全也。

乃生也。

賢者有恆常、札記云、  
恆常當ニ其一ヲ衍スベ  
シ、蓋漢世恆ヲ諱デ常  
ト爲ス、後人之ヲ兩存  
ス。

相宋。宋國最彊。龜之力也。故云神至能見夢於元王。而不能  
自出。漁者之籠。身能十言盡當。不能通使於河。還報於江。賢  
能令人戰勝攻取。不能自解於刀鋒。免剝刺之患。聖能先知  
丞見。而不能令衛平無言。言事百全。至身而攀。當時不利。又  
焉事賢。賢者有恆常。士有適然。是故明有所不見。聽有所不  
聞。人雖賢。不能左畫方。右畫圓。日月之明。而時蔽於浮雲。羿  
名善射。不如雄渠蠡門。新序曰。楚雄渠子夜行。見伏石當道。以爲虎而射之。  
應弦沒羽。淮南子曰。射者重以逢蒙門子之巧。劉歆  
七略有蠡  
門射法也。禹名爲辯智。而不能勝鬼神。地柱折。天故母椽。又柰  
何責人於全。孔子聞之曰。神龜知吉凶。而骨直空枯。正義曰。  
凡龜其  
骨空。中而枯也。直。語  
發聲也。今河東亦然。日爲德。而君於天下。辱於三足之鳥。月爲刑

傳之賢士、札記云、士疑フ當ニ王ニ作ルベシ、上下文ト韵ス。

大悅而喜、札記云、喜疑フ當ニ起ニ作ルベシ、於是元王、云フ元王二字疑フ衍ナリ。

運達於理、札記雜志云、文義ヲ成サス、御覽方術部引テ程達於理ニ作ル。

無咎。後世稱之。至今不已。是皆當時而行。見事而彊。乃能成其帝王。今龜大寶也。爲聖人使。傳之賢士。不用手足。雷電將之。風雨送之。流水行之。侯王有德。乃得當之。今王有德而當此寶。恐不敢受。王若遣之。宋必有咎。後雖悔之。亦無及已。元王大悅而喜。是是元王向日而謝。索隱曰。蓋欲神之。以謝天之質。向日者。天之光明著見者也。再拜而受。擇日齋戒。甲乙最良。乃刑白雉。及與驪羊。以血灌龜於壇中央。以刀剝之。身全不傷。脯酒禮之。橫其腹腸。荆支卜之。必制其創。正義曰。音瘡。理達於理。文相錯迎。使工占之。所言盡當。邦福重寶。徐廣曰。福音副。藏也。聞于傍鄉。殺牛取革。被鄭之桐。徐廣曰。牛革。桐爲鼓也。草木畢分。化爲甲兵。戰勝攻取。莫如元王。元王之時。衛平



自比桀紂、札記此下又  
桀紂二字アリ、云フ毛  
本此二字ヲ重ヌ、各本  
脫ス。

務以費民、札記雜志云、  
民當ニ氓ニ作ルベシ、  
常郎諸字ト韵ス。

天地與之爲友。諸侯賓服。民衆殷喜。邦家安寧。與世更始。湯

武行之。乃取天子。春秋著之。以爲經紀。王不自稱湯武。而自

比桀紂爲暴彊也。固以爲常。桀爲瓦室。

世本曰。昆吾作陶。張華博物  
記亦云。桀作瓦蓋。是昆吾爲

桀作也。紂爲象郎。徵絲灼之。務以費民。索隱曰。灼。謂燔也。燒  
絲以當薪。務費人也。賦斂無度。

殺戮無方。殺人六畜。以韋爲囊。囊盛其血。與人懸而射之。與

天帝爭彊。逆亂四時。先百鬼。嘗諫者輒死。諛者在傍。聖人伏

匿。百姓莫行。天數枯旱。國多妖祥。螟蟲歲生。五穀不成。民不

安其處。鬼神不享。飄風日起。正晝晦冥。日月並蝕。滅息無光。

列星奔亂。皆絕紀綱。以是觀之。安得久長。雖無湯武。時固當

亡。故湯伐桀。武王剋紂。其時使然。乃爲天子。子孫續世。終身

貪狼而驕、札記狼子很  
ニ作ル、云フ游柯本很、  
他本狼ニ譌ス。

代將號爲武王。戰於牧野。破之。華山之陽。紂不勝。敗而還走。

圍之。象郎自殺宣室。

徐廣曰。天子之  
居。名曰宣室。

身死不葬。頭懸車軫。四馬

曳行。寡人念其如此。腸如涓湯。

徐廣曰。涓音館。一作  
沸。○索隱曰。涓沸也。

是人皆富有

天下。而貴至天子。然而大傲。欲無厭時。舉事而喜高。貪狼而

驕。不用忠信。聽其諛臣。而爲天下笑。今寡人之邦。居諸侯之

閒。曾不如秋毫。舉事不當。又安亡。逃衛平對曰。不然。河雖神

賢。不如崑崙之山。江之源理。不如四海。而人尙奪取其寶。諸

侯爭之。兵革爲起。小國見亡。大國危殆。殺人父兄。虜人妻子。

殘國滅廟。以爭此寶。戰攻分爭。是暴彊也。故云取之以暴彊。

而治以文理。無逆四時。必親賢士。與陰陽化。鬼神爲使。通於

桀有諛臣名曰趙梁、錢大昕曰、桀臣趙梁、村臣左彊、本紀皆之ナシ。

教爲象郎、札記云、御覽八百八十五引テ廊ニ作ル、按ズルニ、淮南子本經篇ニ、桀村爲璇室瑤臺象廊、卽此事ナリ、說文、廊字ナシ。

桀有<sub>ニ</sub>諛臣<sub>一</sub>。名曰<sub>ニ</sub>趙梁<sub>一</sub>。教爲<sub>ニ</sub>無道<sub>一</sub>。勸以<sub>ニ</sub>貪狼<sub>一</sub>。繫湯<sub>ニ</sub>夏臺<sub>一</sub>。殺<sub>ニ</sub>關龍逢<sub>一</sub>。左右恐<sub>レ</sub>死。偷<sub>ニ</sub>諛<sub>一</sub>於<sub>ニ</sub>傍<sub>一</sub>。國危<sub>ニ</sub>於<sub>一</sub>累卵。皆曰<sub>ニ</sub>無傷<sub>一</sub>。稱<sub>ニ</sub>樂萬歲<sub>一</sub>。或曰<sub>ニ</sub>未央<sub>一</sub>。蔽<sub>ニ</sub>其耳目<sub>一</sub>。與<sub>ニ</sub>之詐狂<sub>一</sub>。湯卒伐<sub>ニ</sub>桀<sub>一</sub>。身死<sub>ニ</sub>國亡<sub>一</sub>。聽<sub>ニ</sub>其諛臣<sub>一</sub>。身獨受<sub>レ</sub>殃。春秋著<sub>ニ</sub>之<sub>一</sub>。至今不忘。紂有<sub>ニ</sub>諛臣<sub>一</sub>。名爲<sub>ニ</sub>左彊<sub>一</sub>。誇而目巧。教爲<sub>ニ</sub>象郎<sub>一</sub>。禮記曰。目巧之室。鄭玄曰。但用巧目。善意作室。不由法度。許慎曰。象牙郎。將<sub>ニ</sub>至於<sub>一</sub>天。又有<sub>ニ</sub>玉牀<sub>一</sub>。犀玉之器。象箸而羹。索隱曰。箸音持。慮反。則箸。卽筯。爲與羹連。或非箸樽也。記曰。羹之有榮者。用挾。挾者。筯也。聖人剖<sub>ニ</sub>其心<sub>一</sub>。壯士斬<sub>ニ</sub>其脗<sub>一</sub>。脗音衡。脗脗也。箕子恐<sub>レ</sub>死。被髮佯狂。殺<sub>ニ</sub>周太子歷<sub>一</sub>。囚<sub>ニ</sub>文王昌<sub>一</sub>。投<sub>ニ</sub>之石室<sub>一</sub>。索隱曰。按殺周太子歷。在囚文王昌之上。則近是季歷。季歷不被紂誅。則其言近妄。無容周更別有太子名歷也。將<sub>ニ</sub>以<sub>一</sub>昔<sub>ニ</sub>至明<sub>一</sub>。陰兢活<sub>ニ</sub>之<sub>一</sub>。徐廣曰。兢一作競。索隱曰。陰。姓。競。名也。與<sub>ニ</sub>之俱亡<sub>一</sub>。入<sub>ニ</sub>於周地<sub>一</sub>。得<sub>ニ</sub>太公望<sub>一</sub>。興<sub>ニ</sub>卒聚兵<sub>一</sub>。與<sub>ニ</sub>紂相攻<sub>一</sub>。文王病<sub>ニ</sub>死<sub>一</sub>。載<sub>ニ</sub>尸<sub>一</sub>以行。太子發



之珠。出於四海。鑄石拌蚌。

徐廣曰。鑄音子旋反。拌音判。○索隱曰。拌。割也。

傳賣於市。聖人

得之。以爲大寶。大寶所在。乃爲天子。今王自以爲暴。不如拌

蚌於海也。自以爲彊。不過鑄石於昆山也。取者無咎。寶者無

患。今龜使來抵網。而遭漁者得之。見夢自言。是國之寶也。王

何憂焉。元王曰。不然。寡人聞之。諫者福也。諛者賊也。人主聽

諛。是愚惑也。雖然。禍不妄至。福不徒來。天地合氣。以生百財。

陰陽有分。不離四時。十有二月。日至爲期。聖人徹焉。身乃無

災。明王用之。人莫敢欺。故云。福之至也。人自生之。禍之至也。

人自成之。禍與福同。刑與德雙。聖人察之。以知吉凶。桀紂之

時。與天爭功。擁遏鬼神。使不得通。是固已無道矣。諛臣有衆。

單薄。聖人別其生。使無相獲。禽獸有牝牡。置之山原。鳥有雌

雄。布之林澤。有介之蟲。置之谿谷。故牧人民。爲之城郭。內經

閭術。外爲阡陌。夫妻男女。賦之田宅。列其室屋。爲之圖籍。別

其名族。立官置吏。勸以爵祿。衣以桑麻。養以五穀。耕之耰之。

徐廣曰。音憂。○正義曰。耰。

覆種也。說文云。耰摩田器。

鉏之耨之。徐廣曰。耨除草也。

口得所嗜。目得所美。

身受其利。以是觀之。非彊不至。故曰。田者不彊。困倉不盈。

正義

曰。說文云。圃者謂之園。方者謂之廩。商賈不彊。不得其贏。婦女不彊。布帛不精。官御

不彊。其勢不成。大將不彊。卒不使令。侯王不彊。沒世無名。故

云彊者。事之始也。分之理也。物之紀也。所求於彊。無不有也。

王以爲不然。王獨不聞玉櫝隻雉。

徐廣曰。隻一作雙。

出於昆山。明月

趣駕送龜。勿令久留。衛平對曰。不然。王其無患。天地之間。累石爲山高而不壞。地得爲安。故云物或危而顧安。或輕而不可遷。人或忠信而不如誕謾。

徐廣曰。誕一作謾。音土和反。○索隱曰。誕音田。爛切。謾音漫。又並如字。

或醜

惡而宜大官。或美好佳麗而爲衆人患。非神聖人莫能盡言。春秋冬夏。或暑或寒。寒暑不和。賊氣相好。同歲異節。其時使然。故令春生夏長。秋收冬藏。或爲仁義。或爲暴彊。暴彊有鄉。仁義有時。萬物盡然。不可勝治。大王聽臣。臣請悉言之。天出五色以辨白黑。地生五穀以知善惡。人民莫知辨也。與禽獸相若。谷居而穴處。不知田作。天下禍亂。陰陽相錯。忽忽疾疾。

徐廣曰。一作病。

通而不相擇。妖孽數見。

正義曰。說文云。衣服詞。謠草木之怪。謂之妖。禽獸蟲蝗之怪。謂之孽也。

傳爲



不然。臣聞盛德不報。重寄不歸。天與不受。天奪之寶。今龜周  
 流天下。還復其所。上至蒼天。下薄泥塗。還徧九州。未嘗愧辱。  
 無所稽留。今至泉陽。漁者辱而囚之。王雖遣之。江河必怒。務  
 求報仇。自以爲侵。因神與謀。淫雨不霽。水不可治。若爲枯旱。  
 風而揚埃。蝗蟲暴生。百姓失時。王行仁義。其罰必來。此無佗  
 故。其崇在龜。後雖悔之。豈有及哉。王勿遣也。元王慨然而歎。  
 曰。夫逆人之使。絕人之謀。是不暴乎。取人之有。以自爲寶。是  
 不彊乎。寡人聞之。暴得者必暴亡。彊取者必後無功。桀紂暴  
 彊。身死國亡。今我聽子。是無仁義之名。而有暴彊之道。江河  
 爲湯武。我爲桀紂。未見其利。恐離其咎。寡人狐疑。安事此寶。

至如此乎。不可久留。趣駕送龜。勿令失期。衛平對曰。龜者是天下之寶也。先得此龜者。爲天子。且十言十當。十戰十勝。生於深淵。長於黃土。知天之道。明於上古。游三千歲。不出其域。安平靜正。動不用力。壽蔽天地。莫知其極。與物變化。四時變色。居而自匿。伏而不食。春倉夏黃。秋白冬黑。明於陰陽。審於刑德。先知利害。察於禍福。以言而當。以戰而勝。王能寶之。諸侯盡服。王勿遣也。以安社稷。元王曰。龜甚神靈。降于上天。陷於深淵。在患難中。以我爲賢。德厚而忠信。故來告寡人。寡人若不遣也。是漁者也。漁者利其肉。寡人貪其力。下爲不仁。上爲無德。君臣無禮。何從有福。寡人不忍。奈何勿遣。衛平對曰。

用ル者、皆夜ト訓ズルナリ、上交月ヲ視斗ヲ觀ルヲ以テ之ヲ言フ、恐ラクハ只是夢ミルノ夜ノミ。

雲雨並起、札記雲ヲ雷ニ作ル、云フ游淺本雷ヲ雲ニ誤ス。

者五十五家。上流之廬。名爲豫且。泉陽令曰。諾。乃與使者馳而問豫且曰。今昔汝漁何得。豫且曰。夜半時。舉網得龜。莊子曰得白龜圓五尺。使者曰。今龜安在。曰。在籠中。使者曰。王知子得龜。故使我求之。豫且曰。諾。卽系龜而出之籠中。獻使者。使者載行。出於泉陽之門。正晝無見。風雨晦冥。雲蓋其上。五采青黃。雲雨並起。風將而行。入於端門。見於東箱。身如流水。潤澤有光。望見元王。延頸而前三步而止。縮頸而卻。復其故處。元王見而怪之。問衛平曰。龜見寡人。延頸而前。以何望也。縮頸而復。是何當也。衛平對曰。龜在患中。而終昔囚。王有德義。使人活之。今延頸而前。以當謝也。縮頸而卻。欲亟去也。元王曰。善哉。神



寡人曰。我爲江使於河。而幕綱當吾路。泉陽豫且得我。我不

能去。身在患中。莫可告語。王有德義。故來告訴。是何物也。衛

平乃援式而起。

徐廣曰。式音勅。

仰天而視月之光。觀斗所指。定日處

鄉。規矩爲輔。副以權衡。四維已定。八卦相望。視其吉凶。介蟲

先見。乃對元王曰。今昔壬子。

索隱曰。今昔猶昨夜也。以今日言之。謂昨夜爲今昔。

宿在牽牛。

河水大會。鬼神相謀。漢正南北。

正義曰。漢。天河。

江河固期。南風新至。

江使先來。白雲壅漢。萬物盡留。斗柄指日。使者當囚。玄服而

乘輜車。其名爲龜。王急使人問而求之。王曰。善。於是王乃使

人馳而往。問泉陽令曰。漁者幾何家。名誰爲豫且。豫且得龜。

見夢於王。王故使我求之。泉陽令乃使吏案籍視圖。水上漁

規矩爲輔副以權衡、錢  
大昕曰、魏相奏書言、錢  
東方ノ神、規ヲ執リ春  
ヲ司リ、南方ノ神、衡  
ヲ執リ夏ヲ司リ、西方  
ノ神、矩ヲ執リ秋ヲ司  
リ、北方ノ神、權ヲ執  
リ冬ヲ司ルト、此規矩  
權衡ヲ云フ、四方ヲ指  
シテ言フ、四維ヲ併セ  
テ八卦ト爲ル、此遁甲  
式、今人云フ所ノ奇門  
ナリ。  
視其吉凶介蟲先見、錢  
大昕曰、此冬至後壬子  
日庚子時ナリ、子ヲ夜  
半ト爲ス、宿牽牛ニ在  
リ、冬至ノ候ナリ、子  
ヲ玄武ト爲ス、其占ヲ  
介蟲ト爲ス。  
今昔ト子注索隱云云、  
楊慎曰、此篇、凡昔ヲ

宋元王二年、錢大昕曰、宋世家元公アリ、而テ元王ナシ、宋ノ王ヲ稱スル僂ヨリ始マル。此元王或ハ即王僂ノ諱ナリ、王僂戰勝攻取スト雖モ、尋デ即亡滅ス、暴ニシテ不徳ナル、龜能ク祐クル所ニ非ルナリ、楊慎曰、宋元王龜ヲ殺ス事、類ヲ連ネ錢ヲ衍シ、三千言皆訥語ヲ用フ、又褚先生ノ文ニ似ズ、必先秦戰國策ノ記スル所、亦一家ヲ成ス、廢スベカラザルナリ。

教殺之勿遣。遣之破人家。龜見夢曰。送我水中。無殺吾也。其家終殺之。殺之後。身死家不利。人民與君王者異道。人民得名龜。其狀類不宜殺也。以往古故事言之。古明王聖主皆殺而用之。宋元王時得龜亦殺而用之。謹連其事於左方。令好事者觀擇其中焉。宋元王二年。江使神龜使於河。至於泉陽。漁者豫且舉網得而囚之。索隱曰。且音子余切。泉陽人網元龜者。置之籠中。夜半龜來見夢於宋元王曰。我爲江使於河。而幕網當吾路。泉陽豫且得我。我不能去。身在患中。莫可告語。王有德義。故來告訴。元王惕然而悟。乃召博士衛平而問之。索隱曰。宋元君之臣也。曰。今寡人夢見一丈夫。延頸而長頭。衣玄繡之衣。而乘輜車。來見夢於

注、引テ神龜出於江灌之開嘉林之中ニ作ル、今本後人改ム。

萬畢術中有石朱方。方中說嘉林中。故云傳曰。

嘉林者。獸無虎狼。鳥無鴟梟。草無毒螫。野

火不及。斧斤不至。是爲嘉林。龜在其中。常巢於芳蓮之上。左

脅書文曰。甲子重光。

徐廣曰。子一作于。

得我者。匹夫爲人君。有土正。

徐廣曰。正。長也。

爲有土之官長。諸侯得我爲帝王。求之於白蛇蟠杆。

徐廣曰。一孤反。

林中

者。齋戒以待。譏然。

索隱曰。按林名。白蛇蟠杆林。龜藏其中。杆音烏。謂白蛇管蟠杆此林中也。譏音疑。言求龜者齋戒以待。恆譏然也。

狀

如有人來告之。因以醺酒佗髮。

徐廣曰。佗一作被。○索隱曰。佗音徒。我切。謂被髮也。

求之三宿

而得。由是觀之。豈不偉哉。故龜可不敬歟。南方老人用龜支

牀足。行二十餘歲。老人死。移牀。龜尙生不死。龜能行氣導引。

問者曰。龜至神若此。然太卜官得生龜。何爲輒殺取其甲乎。

近世江上人有得名龜。畜置之。家因大富。與人議欲遣去。人



必チ之ニ誤ル。  
玉出於山、札記出テ處ニ作ル、云フ浚本出ニ誤ル。

輪太卜官、札記此下又太卜官三字アリ、云フ三字柯浚本重ネズ、蓋脱寫ナリ。

有神龜在江南嘉林中、札記雜志云、水經浚水

乎。故玉出於山而木潤。淵生珠而岸不枯者。

徐廣曰。一無不字。許氏說淮南。以爲滋潤

鍾於明珠。致令岸枯也。

潤澤之所加也。明月之珠出於江海。藏於蚌中。蚌

蠶伏之。

徐廣曰。許氏說淮南曰。蚌龍。龍屬也。音決。○索隱曰。蚌當爲蛟。蠶音龍。注音決。誤也。

王者得之。長有天下。

四夷賓服。能得百莖著。并得其下龜以卜者。百言百當。足以

決吉凶。神龜出於江水中。廬江郡常歲時生龜。長尺二寸者

二十枚。輪太卜官。因以吉日。剔取其腹下甲。龜千歲乃滿尺

二寸。王者發軍行將。必鑽龜廟堂之上。以決吉凶。今高廟中

有龜室。藏內以爲神寶。傳曰。取前足臚骨穿佩之。

徐廣曰。臚音乃毛反。臚臂

○索隱曰。臚音乃高反。一音乃導反。

取龜置室西北隅懸之。以入深山大林中。不惑。

臣爲郎時。見萬畢石朱方傳曰。有神龜在江南嘉林中。

索隱曰。按

御覽藥部、及ビ爾雅翼引テ松脂ニ作ル。

其叢生滿百莖、札記雜志云、類聚草部、御覽百卉部、引テ其叢生百莖共根ニ作ル。

生滿<sup>ニ</sup>百莖<sup>ニ</sup>者。其下必有<sup>ニ</sup>神龜<sup>ニ</sup>守<sup>ル</sup>之。其上常有<sup>ニ</sup>青雲<sup>ニ</sup>覆<sup>フ</sup>之。傳曰。天下和平。王道得<sup>テ</sup>而著莖長丈。其叢生滿<sup>ニ</sup>百莖<sup>ニ</sup>。方今世取<sup>ル</sup>著者不能<sup>レ</sup>中<sup>ニ</sup>古法度<sup>ニ</sup>。不能<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>滿<sup>ニ</sup>百莖<sup>ニ</sup>長丈者。取<sup>ル</sup>八十莖已上著長八尺。即難得也。人民好用卦者。取<sup>テ</sup>滿<sup>ニ</sup>六十莖<sup>ニ</sup>已上。長滿<sup>ニ</sup>六尺<sup>ニ</sup>者。即可用矣。記曰。能得<sup>ニ</sup>名龜<sup>ニ</sup>者。財物歸<sup>ス</sup>之。家必大富至<sup>ニ</sup>千萬<sup>ニ</sup>。一曰北斗龜。二曰南辰龜。三曰五星龜。四曰八風龜。五曰二十八宿龜。六曰日月龜。七曰九州龜。八曰玉龜。凡八名龜。龜圖各有<sup>レ</sup>文在<sup>ニ</sup>腹下<sup>ニ</sup>。文云云者。此某之龜也。略<sup>ボ</sup>記<sup>シ</sup>其大指。不寫<sup>テ</sup>其圖。取<sup>ニ</sup>此龜<sup>ニ</sup>不必滿<sup>ニ</sup>尺二寸<sup>ニ</sup>。民人得<sup>ニ</sup>長七八寸<sup>ニ</sup>可寶<sup>トス</sup>矣。今夫珠玉寶器。雖有<sup>レ</sup>所<sup>ニ</sup>深藏<sup>スル</sup>之見<sup>ニ</sup>其光<sup>ニ</sup>。必出<sup>ス</sup>其神明。其此之謂

之見其光、札記之ヲ必ニ作ル、云フ游王浚本

宿衛出入宮殿中十有餘年竊好太史公傳太史公之傳曰

三王不同龜四夷各異卜然各以決吉凶略闡其要故作龜

策列傳臣往來長安中求龜策列傳不能得故之大卜官問

掌故文學長老習事者寫取龜策卜事編于下方聞古五帝

三王發動舉事必先決蓍龜傳曰索隱曰此傳即太卜所得占龜之說也下有伏靈

上有兔絲上有擣蓍索隱曰擣音逐畱反擣蓍即蓍蓍擣古稠字下有神龜所謂伏靈

者在兔絲之下狀似飛鳥之形新雨已天清靜無風以夜捎

兔絲去之即以籊燭此地徐廣曰籊籠也蓋然火而籠罩其上音溝陳涉世家曰夜籊火也燭之火

滅即記其處以新布四丈環置之明即掘取之入四尺至七

尺得矣過七尺不可得伏靈者千歲松根也食之不死聞蓍

千歲松根也、札記雜志云、茯苓松根、非、



色<sup>チ</sup>卜<sup>シヤ</sup>而兆<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>口象<sup>ニ</sup>其禍竟流<sup>ニ</sup>五世<sup>ニ</sup>楚靈將<sup>ニ</sup>背周室<sup>ニ</sup>卜<sup>シヤ</sup>而龜逆<sup>フ</sup>

左傳

曰靈王卜曰余尙得天下不吉投龜詢天而呼曰是區區者而不余畀余必自取之○索隱曰詢音火候反終被<sup>ニ</sup>乾溪之敗<sup>チ</sup>兆應信<sup>ニ</sup>誠<sup>ニ</sup>

於內而時人明察見<sup>ニ</sup>之於外<sup>ニ</sup>可不謂<sup>ニ</sup>兩合者哉<sup>ト</sup>君子謂夫輕<sup>ニ</sup>卜

筮<sup>チ</sup>無<sup>ニ</sup>神明<sup>チ</sup>者悖<sup>ル</sup>背<sup>ニ</sup>人道<sup>ニ</sup>索隱曰悖音倍音背佩信<sup>ニ</sup>禎祥<sup>チ</sup>者鬼神不得<sup>ニ</sup>其正<sup>チ</sup>故

書建<sup>ニ</sup>稽疑<sup>チ</sup>五謀而卜筮居<sup>ニ</sup>其二<sup>ニ</sup>五占從<sup>ニ</sup>其多<sup>ニ</sup>明有而不專<sup>ニ</sup>之道

也余至<sup>ニ</sup>江南<sup>ニ</sup>觀<sup>ニ</sup>其行事<sup>チ</sup>問<sup>ニ</sup>其長老<sup>ニ</sup>云龜千歲乃遊<sup>ニ</sup>蓮葉之上<sup>ニ</sup>徐廣

曰蓮一作領領與蓮聲相近或假借字也著<sup>ニ</sup>百莖<sup>ニ</sup>共<sup>ニ</sup>一根<sup>チ</sup>徐廣曰劉向云龜千歲而靈著<sup>ニ</sup>百年而一本生<sup>ニ</sup>百莖<sup>ニ</sup>又其所生獸

無<sup>ニ</sup>虎狼<sup>ニ</sup>草無<sup>ニ</sup>毒螫<sup>ニ</sup>江傍家人常畜<sup>ニ</sup>龜<sup>チ</sup>飲<sup>ニ</sup>食<sup>ニ</sup>之以爲<sup>ニ</sup>能導引<sup>ニ</sup>致氣<sup>チ</sup>

有益<sup>ニ</sup>於助<sup>ニ</sup>衰養<sup>ニ</sup>老<sup>ニ</sup>豈不信哉<sup>ト</sup>

褚先生曰臣以通<sup>ニ</sup>經術<sup>ニ</sup>受<sup>ニ</sup>業博士<sup>ニ</sup>治<sup>ニ</sup>春秋<sup>ニ</sup>以高第<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>郎<sup>ニ</sup>幸得<sup>ニ</sup>

遊蓮葉之上注蓮一作領札記云領疑フ藕ノ誤ナリ集韻藕、荈之或字文選七啓二、寒芳荈之葉龜注史文神龜常巢於芳蓮之上チ引キ云フ荈藕ト同ジト則藕亦蓮ト同ジ江傍家人札記云御覽九百三十一引テ人家ニ作ル疑フ今本誤倒ス

效絕倫超奇者爲右。無所阿私。數年之間。太卜大集。會上欲擊

匈奴。西攘大宛。徐廣曰。攘一作襄。襄除也。南收百越。卜筮至預見表象。先圖其

利。及猛將推鋒執節。獲勝於彼。而著龜時日。亦有方於此。上尤

加意。賞賜至或數千萬。如丘子明之屬。富溢貴寵。傾於朝廷。至

以卜筮射蠱道。巫蠱時或頗中。素有眦睚不快。因公行誅。恣意

所傷。以破族滅門者。不可勝數。百僚蕩恐。皆曰。龜策能言後事

覺奸窮。亦誅三族。夫撻策定數。徐廣曰。撻音達。一作達。○索隱曰。撻謂兩手執著分而撻之。故云撻策。灼龜

觀兆。變化無窮。是以擇賢而用。占焉可謂聖人重事者乎。周公

卜三龜。而武王有瘳。紂爲暴虐。而元龜不占。晉文將定襄王之

位。卜得黃帝之兆。左傳曰。遇黃帝戰于阪泉之兆。卒受彤弓之命。獻公貪驪姬之

婦策定數灼龜觀兆。札記云。玉篇。按。茲。二。棒。扶容切。灼龜觀兆也。蓋即此文。引。而。其。上。句。失。フ。是。隨。本。棒。二。作。ル。集。韻。符。容。切。棒。ノ。下。孫。仙。曰。兩。手。分。而。數。ヲ。引。ク。亦。索。隱。ト。合。ス。又。云。通。作。撻。則。見。ル。所。ノ。史。本。已。二。撻。二。作。ル。者。アリ。

可以戰伐攻擊。推兵求勝。各信其神。以知來事。略聞夏殷欲卜者。乃取著龜。已則弃去之。以爲龜藏則不靈。著久則不神。至周室之卜官。常寶藏著龜。又其大小先後。各有所尙。要其歸等耳。或以爲聖王遭事無不定。決疑無不見。其設稽神求問之道者。以爲後世衰微。愚不師智。人各自安。化分爲百室。道散而無垠。故推歸之至微。要潔於精神也。或以爲昆蟲之所長。聖人不能與爭。其處吉凶。別然否。多中於人。至高祖時。因秦太卜官。天下始定。兵革未息。及孝惠享國日少。呂后女主。孝文孝景。因襲掌故。未遑講試。雖父子疇官。世世相傳。其精微深妙。多所遺失。至今上卽位。博開藝能之路。悉延百端之學。通一伎之士。咸得自



# 史記評林卷之一百二十八

## 龜策列傳第六十八

索隱曰。龜策傳有錄無書。褚先生所補。其敘事煩蕪略無可取。○正義曰。史記至元成閒。十篇有錄無書。而褚少孫補景武紀。將相年表。禮書樂書律書三王世家。蒯成侯日者。龜策列傳。日者龜策。言辭最鄙陋。非太史公之本意也。

龜策列傳、方苞曰、此篇文氣班孟堅二類、此褚少孫ノ能ク作ル所ニ非ズ、余至江南以下ハ、義支シ辭弱ナリ、或ハ少孫増入ノミ、錢大昕曰、張晏謂フ、龜策傳錄アリ書ナシ、褚先生言フ、臣長安中ニ往來シ、龜策列傳ヲ求メ得ル能ハズト、然ルニ此篇今上即位ノ文アリ、其詞褚先生ノ能ク作ル所ニ非ズ。

太史公曰。自古聖王將建國受命。興動事業。何嘗不寶卜筮以助善。唐虞以上不可記已。自三代之興。各據禎祥。塗山之兆從。而夏啓世。飛燕之卜順。故殷興。百穀之筮吉。故周王。王者決定諸疑。參以卜筮。斷以著龜。不易之道也。蠻夷氏羌雖無君臣之序。亦有決疑之卜。或以金石。或以草木。徐廣曰。一作革。國不同俗。然皆

史記評林卷之一百二十七終

天人家曰小吉太一家曰大吉、錢大所曰、天人家、藝文志ニ見エズ、或ハ云、當ニ天一ニ作ルベシ、藝文志、五行三十一家、天一六卷、泰一二九卷アリ。

爲<sup>レ</sup>郎者同署<sup>サス</sup>言<sup>フ</sup>曰。孝武帝時。聚<sup>シテ</sup>會<sup>フ</sup>占家<sup>ヲ</sup>問<sup>フ</sup>之。某日可<sup>キ</sup>取<sup>ル</sup>婦<sup>ヲ</sup>乎。  
五行家曰。可。堪輿家曰。不可。建除家曰。不吉。叢辰家曰。大凶。  
歷家曰。小凶。天人家曰。小吉。太一家曰。大吉。辯訟不決<sup>セ</sup>。以<sup>テ</sup>狀<sup>ヲ</sup>  
聞<sup>ス</sup>。制<sup>シテ</sup>曰。避<sup>ケ</sup>諸死忌<sup>ヲ</sup>。以<sup>ニ</sup>五行爲<sup>レ</sup>主<sup>ト</sup>。人取<sup>ル</sup>於<sup>ニ</sup>五行者<sup>也</sup>也。  
索隱述贊曰。日者之名。有自來矣。吉凶占候。著於墨子。齊楚異法。書亡罕紀。後人斯繼。季  
主獨美。取<sup>レ</sup>免暴秦。此焉終否。



閒<sub>ニ</sub>以<sub>スル</sub>全身<sub>ヲ</sub>者<sub>上</sub>。夫<sub>レ</sub>司馬季主<sub>者</sub>。楚賢大夫。游<sub>ニ</sub>學<sub>シ</sub>長安<sub>ニ</sub>。通<sub>ニ</sub>易經術<sub>ヲ</sub>。黃帝老子<sub>ニ</sub>。博聞遠見。觀<sub>ル</sub>其對<sub>ニ</sub>二大夫貴人<sub>ノ</sub>之談<sub>ヲ</sub>。言稱引<sub>ス</sub>古明王聖人道<sub>ヲ</sub>。固<sub>ト</sub>非<sub>ニ</sub>淺聞小數之能<sub>ニ</sub>。及<sub>ビ</sub>卜筮立<sub>ニ</sub>名聲<sub>ヲ</sub>千里者。各往<sub>ニ</sub>往<sub>シテ</sub>而在<sub>ニ</sub>傳<sub>ニ</sub>曰。富爲<sub>レ</sub>上<sub>ト</sub>。貴次<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>。既貴<sub>ニ</sub>各各學<sub>ニ</sub>一技能<sub>ヲ</sub>立<sub>ニ</sub>其身<sub>ヲ</sub>。黃直<sub>ハ</sub>丈夫也。陳君夫<sub>ハ</sub>婦人也。以<sub>スル</sub>相馬立<sub>ニ</sub>名<sub>ヲ</sub>天下<sub>ニ</sub>。齊張仲曲成侯<sub>ハ</sub>以<sub>スル</sub>善<sub>ニ</sub>擊刺<sub>ヲ</sub>學<sub>ニ</sub>用劍立<sub>ニ</sub>名<sub>ヲ</sub>天下<sub>ニ</sub>。畱長孺<sub>ハ</sub>以<sub>スル</sub>相彘立<sub>ニ</sub>名<sub>ヲ</sub>。滎陽褚氏<sub>ハ</sub>以<sub>スル</sub>相牛立<sub>ニ</sub>名<sub>ヲ</sub>。能以<sub>ニ</sub>技能立<sub>ニ</sub>名<sub>ヲ</sub>者甚多<sub>シ</sub>。皆有<sub>ニ</sub>高世絕人之風<sub>ヲ</sub>。何<sub>レ</sub>可勝言<sub>フ</sub>。故曰。非<sub>ニ</sub>其地樹之不生<sub>ニ</sub>。非<sub>ニ</sub>其意教之不成<sub>ニ</sub>。夫家之教<sub>ニ</sub>子孫<sub>ニ</sub>當視<sub>ル</sub>其所以好<sub>ム</sub>。好舍苟<sub>モ</sub>生活之道<sub>ヲ</sub>。因而成之<sub>ニ</sub>。故曰。制宅<sub>ニ</sub>命子<sub>ニ</sub>足以觀<sub>ル</sub>士子有<sub>ニ</sub>處所<sub>ヲ</sub>。可<sub>レ</sub>謂<sub>ニ</sub>賢人<sub>ト</sub>。臣爲<sub>レ</sub>郎時<sub>ニ</sub>與<sub>ニ</sub>太卜待詔<sub>ヲ</sub>。

知居之。我與若。何足預彼哉。彼久而愈安。雖曾氏之義。

徐廣曰。曾一作莊。

未有以異也。久之宋忠使匈奴。不至而還。抵罪。而賈誼爲梁懷

王傅。王墮馬薨。誼不食。毒恨而死。此務華絕根者也。

索隱曰。言宋忠賈誼皆務

華而喪其身。是絕其根本也。

太史公曰。古者卜人所以不載者。多不見于篇。及至司馬季主。

余志而著之。

褚先生曰。臣爲郎時。游觀長安中。見卜筮之賢大夫。觀其起

居行步坐起自動。誓正其衣冠。而當鄉人也。有君子之風。見

性好解。婦來卜。對之顏色嚴振。未嘗見齒而笑也。從古以來。

賢者避世。有居止舞澤者。有居民閒。閉口不言。有隱居卜筮

太史公曰云云。董份曰。太史公其體宏深。務ムト雖モ。然ルニ其詞極テ精嚴。時ニ浩漫ニ涉ルモ。義亦微妙ナリ。龜策貨殖游俠等傳ノ如キ。其論議亦出入アリ。而テ文ハ則絶高ナリ。日者傳汪洋自肆。然ルニ其間亦繁詞アルニ似タリ。又褚大ノ筆ニ非ズ。意フニ季主ヲ記スル所。自ラ當時舊文アリ。而テ褚之ヲ述ブル。

噤口不能言、札記云、索隱本口字ナシ、疑フ衍ナリ。

不見奪糈、淺雅隆曰、說文、精ハ財ヲ齎シテトニ問フナリ。

與不肖者同列故君子處卑隱以辟衆自匿以辟倫微見德順以除羣害以明天性助上養下多其功利不求尊譽公之等喁

喁者也何知長者之道乎宋忠賈誼忽而自失芒乎無色按此直爲季主折倒索隱曰芒

音莫悵然噤口不能言索隱曰悵音暢噤音於是攝衣而起再拜而

辭行洋洋也出市門僅能自上車伏軾低頭卒不能出氣居三

日宋忠見賈誼於殿門外乃相引屏語相謂自歎曰道高益安

勢高益危居赫赫之勢失身且有日矣夫卜而有不審不見奪

糈徐廣曰音所駟案離騷經曰懷椒糈而要之王逸云精糯米所以享神爲人主計而不審身無所處索隱曰

求神之米也言卜之不中乃不見奪其糈米若爲人主計不審則身無所處也此相去遠矣猶天冠地履也此老子

之所謂無名者萬物之始也天地曠曠物之熙熙或安或危莫



不用<sub>レ</sub>府庫。徙<sub>レ</sub>之不用<sub>レ</sub>輜車。負<sub>レ</sub>裝之不重<sub>レ</sub>止而用<sub>レ</sub>之。無盡索之時。  
 持<sub>レ</sub>不盡索<sub>レ</sub>之物。游<sub>レ</sub>於無窮<sub>レ</sub>之世。雖莊氏之行。未能<sub>レ</sub>增<sub>レ</sub>於是也。子  
 何故<sub>レ</sub>而云不可<sub>レ</sub>卜哉。天不足<sub>レ</sub>西北。星辰西北移。地不足<sub>レ</sub>東南。以  
 海爲池。日中必移。月滿必虧。先王之道。乍存<sub>レ</sub>乍亡。公責<sub>レ</sub>卜者言  
 必信<sub>レ</sub>不亦惑乎。公見<sub>レ</sub>夫談士辯人<sub>レ</sub>乎。慮事定計。必是人<sub>レ</sub>也。然不  
 能以<sub>レ</sub>一言<sub>レ</sub>說<sub>レ</sub>人主意<sub>レ</sub>。故言必稱<sub>レ</sub>先王。語必道<sub>レ</sub>上古。慮事定計。飾<sub>レ</sub>  
 先王之成功。語<sub>レ</sub>其敗害。以恐<sub>レ</sub>喜人主之志。以求<sub>レ</sub>其欲。多言誇嚴。  
 徐廣曰。一作險。莫<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>於此矣。然欲<sub>レ</sub>彊國成功。盡忠<sub>レ</sub>於上。非此<sub>レ</sub>不立<sub>レ</sub>。今夫卜  
 者導<sub>レ</sub>惑教<sub>レ</sub>愚也。夫愚惑之人。豈能以<sub>レ</sub>一言<sub>レ</sub>而知<sub>レ</sub>之哉。言不厭<sub>レ</sub>多。  
 故騏驥不能<sub>レ</sub>與<sub>レ</sub>罷驢爲<sub>レ</sub>駟。而鳳皇不與<sub>レ</sub>燕雀爲<sub>レ</sub>羣。而賢者亦不<sub>レ</sub>

吉凶。後乃有之。

索隱曰。謂卜之不祥。則或不收也。卜吉而後有。故云有之。

自伏羲作八卦。周文王演

三百八十四爻。而天下治。越王句踐。倣文王八卦。

索隱曰。倣音方往反。

以破

敵國。霸天下。由是言之。卜筮有何負哉。且夫卜筮者。掃除設坐。

正其冠帶。然後乃言事。此有禮也。言而鬼神或以饗。忠臣以事

其上。孝子以養其親。慈父以畜其子。此有德者也。而以義置數

十百錢。病者或以愈。且死或以生。患或以免。事或以成。嫁子娶

婦。或以養生。此之爲德。豈直數十百錢哉。此夫老子所謂上德

不德。是以有德。今夫卜筮者。利大而謝少。老子之云。豈異於是

乎。莊子曰。君子內無飢寒之患。外無劫奪之憂。居上而敬。居下

不爲害。君子之道也。今夫卜筮者之爲業也。積之無委。聚之

才不賢、札記云、元龜引テ不才不賢ニ作ル。

旋式正基注索隱下以作卦、札記下ヲトニ作ル。

也。攻而不用弦刃者也。欺父母、未有罪。而弑君未伐者也。何以爲高賢才乎。盜賊發不能禁。夷貊不服不能攝。姦邪起不能塞。官耗亂不能治。四時不和不能調。歲穀不熟不能適。索隱曰。音釋。適猶調也。

才賢不爲。是不忠也。才不賢而託官位。利上奉妨賢者處。是竊位也。索隱曰。奉音扶用反。有人者進。有財者禮。是僞也。子獨不見鴟梟之與

鳳皇翔乎。蘭芷芎藭。弄於廣野。蒿蕭成林。使君子退而不顯。衆

公等是也。述而不作。君子義也。今夫卜者。必法天地象。四時順

於仁義。分策定卦。旋式正基。徐廣曰。式音拭。○索隱曰。按式卽拭也。旋轉也。拭之形。上圓象天。下方法地。用之則轉天綱。加地之

辰。故云旋式基者。筮之狀。正基。蓋謂下以作卦。然後言天地之利害。事之成敗。昔先王之定國

家。必先龜策日月。而後乃敢代。正時日。乃後入家。產子。必先占



比周賓正、錢大昕曰、賓讀ア撰ト曰フ、六國表、諸夏賓之、張儀傳、大王收率天下以賓秦、皆撰秦ノ義ナリ。

虛公家、札記云、元龜八百三十三明テ虛耗公家ニ作ル、疑フ今本脱ス。

聽則退。其譽<sup>ルヤ</sup>人也。不<sup>レ</sup>望<sup>マ</sup>其報<sup>チ</sup>。惡<sup>ムヤ</sup>人也。不<sup>レ</sup>顧<sup>ミ</sup>其怨<sup>チ</sup>。以便<sup>シ</sup>國家<sup>ニ</sup>利<sup>スル</sup>衆<sup>チ</sup>

爲<sup>ル</sup>務<sup>ト</sup>。故官非<sup>ニ</sup>其任<sup>ニ</sup>。不<sup>レ</sup>處<sup>ヲ</sup>也。祿非<sup>ニ</sup>其功<sup>ニ</sup>。不<sup>レ</sup>受<sup>ケ</sup>也。見<sup>ニ</sup>人<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>正<sup>カ</sup>。雖貴不<sup>レ</sup>

敬<sup>セ</sup>也。見<sup>ニ</sup>人<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>汚<sup>チ</sup>。雖尊不<sup>レ</sup>下<sup>ヲ</sup>也。得不<sup>レ</sup>爲<sup>サ</sup>喜<sup>ト</sup>。去<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>爲<sup>サ</sup>恨<sup>ト</sup>。非<sup>ニ</sup>其罪<sup>ニ</sup>也。雖

累辱而不<sup>レ</sup>愧<sup>デ</sup>也。今公所謂賢者。皆可爲羞<sup>ト</sup>矣。卑疵而前<sup>ミ</sup>。索隱曰。疵音貲。

蟻趨<sup>シテ</sup>而言<sup>フ</sup>。索隱曰。蟻音蟻。纖趨猶足恭也。相引<sup>クニ</sup>以勢<sup>チ</sup>。相導<sup>グニ</sup>以利<sup>チ</sup>。比周賓正<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。客旅謂之賓。

人求長官<sup>ヲ</sup>。以求<sup>メ</sup>尊譽<sup>ヲ</sup>。以受<sup>ケ</sup>公奉<sup>チ</sup>。事私利<sup>ヲ</sup>。枉<sup>ゲ</sup>王法<sup>ヲ</sup>。獵農民<sup>ヲ</sup>。以官爲威<sup>ヲ</sup>。

謂<sup>ニ</sup>之正<sup>ニ</sup>。謂之正。以法爲機<sup>ヲ</sup>。求利逆暴<sup>ヲ</sup>。譬<sup>ルニ</sup>無<sup>キ</sup>異<sup>ニ</sup>於操白刃<sup>ニ</sup>劫人者<sup>ニ</sup>也。初試官時<sup>ニ</sup>。倍

力爲<sup>シ</sup>巧詐<sup>ヲ</sup>。飾<sup>リ</sup>虛功<sup>ヲ</sup>。執<sup>リ</sup>空文<sup>ヲ</sup>。以調<sup>フ</sup>主上<sup>ヲ</sup>。用居<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>爲<sup>シ</sup>右<sup>ト</sup>。試官<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>讓<sup>テ</sup>賢<sup>ニ</sup>

陳功<sup>ヲ</sup>。見<sup>テ</sup>僞增<sup>シ</sup>實<sup>ヲ</sup>。以無<sup>ト</sup>爲<sup>シ</sup>有<sup>ト</sup>。以少<sup>ヲ</sup>爲<sup>シ</sup>多<sup>ト</sup>。以求<sup>メ</sup>便勢尊位<sup>ヲ</sup>。食飲驅馳<sup>シ</sup>

從姬歌兒<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>顧<sup>ミ</sup>於親<sup>ヲ</sup>。犯<sup>シ</sup>法害<sup>シ</sup>民<sup>ヲ</sup>。虛公家<sup>ヲ</sup>。此夫爲盜<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>操<sup>ラ</sup>矛弧<sup>ヲ</sup>者

所賢者何也。札記云、中統本與校金板賢ナ貴ニ作ル、下文別賢同ジ。

多言誇殿、札記雜誌云、嚴讀デ識ト爲ス、說文識誣也、誇識也。

今何居之卑。何行之汙。ナル。索隱曰。音烏故反。司馬季主捧腹大笑曰。觀大夫。

類有スル道術者。ニ今何言之陋也。ナルヤ何辭之野也。ナルヤ今夫子所賢者何也。

所高者誰也。トスルハ今何以卑汙長者。スル二君曰。尊官厚祿。世之所高也。

賢才處之。ニ今所處非其地。ニ故謂之卑。ト言不信。行不驗。取不當。故

謂之汙。夫卜筮者。世俗之所賤簡也。スル世皆言曰。夫卜者。多言誇

嚴。以得人情。チ索隱曰。謂ト者自矜誇而莊嚴。以得人情也。虛高人祿命。以說人志。擅言禍災。

以傷人心。矯言鬼神。以盡人財。厚求拜謝。以私於己。此吾之所

恥。故謂之卑汙也。司馬季主曰。公且安坐。公見夫被髮童子乎。

日月照之則行。不照則止。問之日月。疵瑕吉凶。則不能理。由是

觀之。能知別賢與不肖者寡矣。賢之行也。直道以正諫。三諫不

相從論議誦易、札記云、  
論議毛本倒ス、誦易、  
御覽七百二十五引テ講  
習ニ作ル、疑フ今本誤  
ル。

以觀采注易用、札記云、  
疑フ倒ナリ。

獵纓正襟危坐注索隱獵  
纓也、錢大昕曰、獵攪  
聲相近シ。

相從論議誦易先王聖人之道術。究徧人情。相視而歎。賈誼曰。  
吾聞古之聖人。不居朝廷。必在下醫之中。今吾已見三公九卿  
朝士大夫。皆可知矣。試之卜數中。以觀采。  
索隱曰。卜數。猶術數也。音所  
具反。劉氏云。具數筮之亦通。

筮必以易。易用興段  
大衍之數也。二人即同輿而之市。游於卜肆中。天新雨。道少人。司

馬季主閒坐。弟子三四人侍。方辯天地之道。日月之運。陰陽吉

凶之本。二大夫再拜謁。司馬季主視其狀貌。如類有知者。即禮

之。使弟子延之坐。坐定。司馬季主復理前語。分別天地之終始。

日月星辰之紀。差次仁義之際。列吉凶之符。語數千言。莫不順

理。宋忠賈誼瞿然而悟。獵纓正襟危坐。  
索隱曰。獵攪也。攪其冠纓而正其  
衣襟。謂變而自飾也。危一作免。謂

俯俛  
爲敬。  
曰。吾望先生之狀。聽先生之辭。小子竊觀於世。未嘗見也。



# 史記評林卷之一百二十七

## 日者列傳第六十七

日者列傳、劉辰翁曰、  
 張守節謂フ、日者傳、  
 太史公作ル所ニ非ズ  
 ト、其辨肆淺深ナ觀ル、  
 亦豈積生ノ能クスル所  
 ナラン、凌維隆曰、呂  
 東萊考訂云、此太史公  
 作ル所ト。  
 注首索隱曰、札記集解  
 ニ作ル、云フ凌本誤テ  
 索隱ト題ス。

索隱曰。墨子北之齊遇日者。日者曰。帝以今日殺黑龍於北方。而先生之色黑。不可以  
 北。墨子不聽。遂北至淄水。墨子不遂而反焉。日者曰。我謂先生不可以北。然則古人占  
 候卜筮通謂之日者。墨子亦云。非但史記也。○索隱曰。案名卜筮曰日者。以墨所以卜  
 筮占候時日。通名日者故也。

自古受命而王。王者之興。何嘗不以卜筮決於天命哉。其於周  
 尤甚。及秦可見。代王之入。任於卜者。太卜之起。由漢興而有。  
 索隱曰。以下闕缺

曰。案周禮有太卜之官。此云由漢興者。謂漢自文帝卜太橫之後。其卜官更興盛焉。

司馬季主者。楚人也。

索隱曰。按云。楚人。而太史公不序其系。蓋楚  
 相司馬子期子反後姓也。季主見列仙傳。

卜於長安

東市。宋忠爲中大夫。賈誼爲博士。同日俱出洗沐。

正義曰。漢官五  
 日一假洗沐也。

史記評林卷之一百二十六終

前志稱仁者安仁。智者利仁。畏罪者強仁。校其仁者功。則無以殊。核其爲仁者。則不得不異。安仁者。性善者也。利仁者。力行者也。強仁者。不得已者也。三仁相比。則安仁優矣。易稱神而化之。使民宜之。若君化使民然也。然則安仁之化。與夫強仁之化。優劣亦不得不相縣絕也。然則三臣之不欺雖同。所以不欺異矣。則純以恩義崇不欺。與以威察成不欺。旣不可同。概而比量。又不得錯綜而易處。○索隱曰。案此三不欺。自古傳記。先達共所稱述。今褚先生因記西門豹而稱之以成說也。循吏傳記子產相鄭。仁而且明。故人不能欺之。子賤爲政清靜。唯彈琴三年。不下堂而化。是人見思。故不忍欺之。豹以威化御俗。故人不

敢欺之。其德優劣。鍾華之評。實爲允當也。

索隱述贊曰。滑稽鴟夷。如脂如韋。敏捷之變。學不失詞。淳于索絕。趙國興師。楚優拒相。寢丘獲祠。偉哉方朔。三章紀之。



當能別之注索隱是人見  
思、札記云、單本是仁  
恩三字ニ作ル、蓋上ノ  
而化ニ連テ文ヲ爲ス。

弟雖患苦我。然百歲後。期令父老子孫思我言。至今皆得水  
利。民人以給足富。十二渠經絕馳道。到漢之立。而長吏以爲  
十二渠橋絕。馳道相比近。不可欲合渠水。且至馳道。合三渠  
爲一橋。鄴民人父老。不肯聽長吏。以爲西門君所爲也。賢君  
之法式。不可更也。長吏終聽置之。故西門豹爲鄴令。名聞天下。  
澤流後世。無絕已時。幾可謂非賢大夫哉。傳曰。子產治鄭。  
民不能欺。子賤治單父。民不忍欺。西門豹治鄴。民不敢欺。三  
子之才能。誰最賢哉。辯治者當能別之。  
魏文帝問羣臣。三不欺於君。  
德孰優。太尉鍾繇司徒華歆  
司空王朗對曰。臣以爲君任德則臣感義而不忍欺。君任察則臣畏覺而不能欺。君任刑  
則臣畏罪而不敢欺。任德感義。與夫導德齊禮有恥且格等趨者也。任察畏罪。與夫導政  
齊刑免而無恥同歸者也。孔子曰。爲政以德。譬如北辰居其所而衆星共之。考以斯言。論  
以斯義。臣等以爲不忍欺不能欺。優劣之縣。在於權衡。非徒低昂之差。乃鈞銖之覺也。且

冠前爲華。言挿筆備禮也。磬折。謂曲體揖之。若石磬之形曲折也。磬一片黑石。凡十二片。樹在虞上。擊之。其形皆中曲垂兩頭。言人腰側傾也。

嚮河立待。

良久。長老吏傍觀者皆驚恐。西門豹顧曰。巫嫗三老不來還。

奈之何。欲復使廷掾與豪長者一人入趣之。皆叩頭。叩頭且

破額。血流地。色如死灰。西門豹曰。諾。且畱待之。須臾。須臾豹

曰。廷掾起矣。狀河伯畱客之久。若皆罷去歸矣。鄴吏民大驚

恐。從是以後。不敢復言爲河伯娶婦。西門豹卽發民鑿十二

渠。引河水灌民田。

正義曰。括地志云。按橫渠首接漳水。蓋西門豹史起所鑿之渠也。溝洫志云。魏文侯時。西門豹爲鄴令。有令名。至文侯曾

孫襄王與羣臣飲酒。祝曰。令吾臣皆如西門豹之爲人臣也。史起進曰。魏氏之行田也以

百畝。鄴獨二百畝。是田惡也。漳水在其傍。西門不知用。是不智。知而不興。是不仁。仁智豹

未之盡。何足法也。於是史起爲鄴令。遂引漳水溉鄴以富。田皆溉。當其時。民治

漳。魏之河名。左思魏賦云。西門溉其前。史起濯其後也。

渠少煩苦。不欲也。豹曰。民可以樂成。不可與慮始。今父老子

灌民田注正義以富漳魏之河名。札記以富魏之河內作ル。云フ當下源字ヲ衍シ。内ナ名ニ誤ル。左思魏賦ヲ魏都賦ニ作ル。云フ都字ヲ脱ス。以上並ニ考證溝洫志ニ據テ改ム。

從弟子女千人所、札記  
千ヲ十二作ル、云フ凌  
本千ニ譌ス。

得更求好女、札記云、  
御覽三百六十七引テ、  
得ヲ待ニ作ル、義勝ル。

簪筆磬折注正義爲華、  
札記謂之爲筆四字ニ作  
云フ官本筆、各本華

告語之。吾亦往送女。皆曰。諾。至其時。西門豹往會之河上。三

老官屬豪長者里父老皆會。以人民往觀之者三二千人。其

巫老女子也。已年七十。從弟子女千人所。皆衣繪單衣。立大

巫後。西門豹曰。呼河伯婦來。視其好醜。卽將女出帷中來至

前。豹視之。顧謂三老巫祝父老曰。是女子不好。煩大巫嫗爲

入報河伯。得更求好女。後日送之。卽使吏卒共抱大巫嫗投

之河中。有頃曰。巫嫗何久也。弟子趣之。復以弟子一人投河

中。有頃曰。弟子何久也。復使一人趣之。復投一弟子河中。凡

投三弟子。西門豹曰。巫嫗弟子是女子也。不能白事。煩三老

爲入白之。復投三老河中。西門豹簪筆磬折。

正義曰。簪筆。謂以毛  
裝簪頭。長五寸。插在



巫行視人家女好者、札  
記人ヲ小ニ作ル、云フ  
南宋舊刻毛本小、他本  
人ニ誤ル。

行十餘日、札記雜志云、  
行字衍ナリ、御覽方術  
部引テ無シ。

大巫祝爲伯取之、札記  
伯上河字アリ、云フ南  
宋舊刻毛本河字アリ、  
他本脫ス。

以故貧。豹問其故。對曰。鄴三老廷掾常歲賦斂百姓。收取其

錢。得數百萬。用其二十三十萬。爲河伯娶婦。與祝巫共分其餘

錢。持歸。當其時。巫行視人家女好者。云是當爲河伯婦。卽娉

取。洗沐之。爲治新繪綺縠衣。閒居齋戒。爲治齋宮。河上張緹

絳帷。正義曰。緹他禮反。顧野王云。黃赤色也。又音緹。厚繒也。女居其中。爲具牛酒飯食。行十餘

日。共粉飾之。如嫁女床席。令女居其上。浮之河中。始浮。行數

十里。乃沒。其人家有女者。恐大巫祝爲伯取之。以故多持

女遠逃亡。以故城中益空無人。又困貧。所從來久遠矣。民人

俗語曰。卽不爲河伯娶婦。水來漂沒。溺其人民。云。西門豹曰。

至爲河伯娶婦時。願三老巫祝父老送女河上。正義曰。幸來

亭三老。

賞<sub>ニ</sub>異等<sub>ヲ</sub>。罰<sub>ニ</sub>不肖<sub>ヲ</sub>。王先生曰。對<sub>ル</sub>如<sub>キ</sub>是<sub>ニ</sub>。是自譽<sub>メ</sub>。自伐<sub>ル</sub>功<sub>ニ</sub>。不可也。願<sub>フ</sub>君對<sub>ヘ</sub>言<sub>ハ</sub>。非<sub>ニ</sub>臣之力<sub>ニ</sub>。盡<sub>ク</sub>陛下神靈威武<sub>ヲ</sub>。所<sub>ニ</sub>變化<sub>スル</sub>也。太守曰。諾。召<sub>サレ</sub>入<sub>リテ</sub>。至于<sub>ニ</sub>殿下<sub>ニ</sub>。有<sub>レ</sub>詔問<sub>フ</sub>之<sub>ニ</sub>。曰。何以治<sub>メ</sub>北海<sub>ヲ</sub>。令<sub>シムル</sub>盜賊不起<sub>ラ</sub>。叩頭對<sub>ヘテ</sub>言<sub>フ</sub>。非<sub>ニ</sub>臣之力<sub>ニ</sub>。盡<sub>ク</sub>陛下神靈威武之所<sub>ニ</sub>變化<sub>スル</sub>也。武帝大笑<sub>フ</sub>。曰。於呼。安得<sub>ニ</sub>長者之語<sub>ヲ</sub>。而稱<sub>スル</sub>之<sub>ヲ</sub>。安所<sub>ニ</sub>受<sub>ル</sub>之<sub>ヲ</sub>。對<sub>ヘテ</sub>曰。受<sub>ク</sub>之<sub>ヲ</sub>。文學卒史<sub>ニ</sub>。帝曰。今安在<sub>ニ</sub>對<sub>ヘテ</sub>曰。在<sub>ニ</sub>宮府門外<sub>ニ</sub>。有<sub>レ</sub>詔召<sub>シテ</sub>拜<sub>シテ</sub>王先生<sub>ヲ</sub>。爲<sub>シ</sub>水衡丞<sub>ト</sub>。以<sub>ニ</sub>北海太守<sub>ヲ</sub>。爲<sub>ニ</sub>水衡都尉<sub>ト</sub>。傳<sub>ニ</sub>曰。美言可以市<sub>ル</sub>。尊行可以加<sub>フ</sub>人<sub>ニ</sub>。君子相送<sub>ル</sub>。以<sub>シ</sub>言<sub>ヲ</sub>。小人相送<sub>ル</sub>。以<sub>ス</sub>財<sub>ヲ</sub>。

魏文侯時。西門豹爲<sub>ニ</sub>鄴令<sub>ト</sub>。

正義曰。今相州縣也。

豹往<sub>イテ</sub>到<sub>ル</sub>鄴<sub>ニ</sub>。會<sub>シテ</sub>長老<sub>ヲ</sub>。問<sub>フ</sub>之<sub>ニ</sub>。

民所<sub>ニ</sub>疾苦<sub>スル</sub>。長老曰。苦<sub>ム</sub>爲<sub>ニ</sub>河伯娶婦<sub>ヲ</sub>。

正義曰。河伯。華陽潼鄉人。姓馮氏。名夷。浴<sub>レ</sub>於<sub>ニ</sub>河中<sub>ニ</sub>。而溺死<sub>リ</sub>。遂爲<sub>ニ</sub>河伯娶婦<sub>ヲ</sub>也。

爲<sub>ニ</sub>河伯娶婦<sub>ヲ</sub>。注<sub>ス</sub>正義。華陽札記。華陰<sub>ニ</sub>作<sub>ル</sub>云。フ陽<sub>ニ</sub>誤<sub>ル</sub>。考證改<sub>ム</sub>。

奔亡<sup>セント</sup>痛<sup>ム</sup>吾兩主。使<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>通<sup>ビ</sup>。故來服過。叩頭受罪。大王楚王曰。善。齊王有<sup>ニ</sup>信士。若<sup>キ</sup>此哉。厚賜<sup>フ</sup>之。財倍<sup>スル</sup>鵠在<sup>ニ</sup>也。

武帝時。徵<sup>シテ</sup>北海太守。詣<sup>シム</sup>行在所。

索隱曰。漢書宣帝徵勃海太守龔遂。非武帝時。此褚先生記謬耳。

有<sup>ニ</sup>文

學卒史王先生者。自請與太守俱。吾有益於君。君許<sup>セ</sup>之。諸府

掾功曹白<sup>シテ</sup>云。王先生嗜酒。多言少實。恐不可與俱。太守曰。先

生意欲行。不可逆。遂與俱行。至宮下。待詔宮府門。王先生徒

懷<sup>ニシテ</sup>錢沽酒。與衛卒僕射飲。日醉。不視其太守。太守入跪拜。王

先生謂<sup>テ</sup>戶郎曰。幸爲我呼吾君。至門內遙語。戶郎爲呼太守。

太守來。望見王先生。王先生曰。天子卽問君。何以治<sup>メ</sup>北海。

正義

曰。今青州。

令<sup>ム</sup>無盜賊。君對曰。何哉。對曰。選擇賢材。各任<sup>ス</sup>之以其能。



昔者齊王使淳于髡云、  
 淺稚隆曰、此淳于  
 髡ノ事誤テ此ニ入ル、  
 李光縉曰、此褚少孫未  
 ダ備ハラザル所ヲ補  
 フ、誤入ニ非ズ。

諺曰。相馬失之瘦。相士失之貧。其此之謂邪。王夫人病甚。人  
 主至。自往問之。曰。子當爲王欲安所置之。對曰。願居洛陽。人  
 主曰。不可。洛陽有武庫敖倉。當關口。天下咽喉。自先帝以來。  
 傳不爲置王。然關東國莫大於齊。可以爲齊王。王夫人以手  
 擊頭呼幸甚。王夫人死。號曰齊王太后薨。昔者齊王使淳于  
 髡獻鵠於楚。索隱曰。案韓詩外傳。齊使人獻鵠於楚。不言髡。又說苑云。魏  
 文侯使舍人無擇獻鵠於齊。皆略同而事異。殆相涉亂也。出邑  
 門道飛其鵠。徒揭空籠。造詐成辭。往見楚王。曰。齊王使臣來  
 獻鵠。過於水上。不忍鵠之渴。出而飲之。去我飛亡。吾欲刺腹  
 絞頸而死。恐人之議吾王。以鳥獸之故。令士自傷殺也。鵠毛  
 物多相類者。吾欲買而代之。是不信而欺吾王也。欲赴佗國。

計也。衛將軍謝之曰。先生幸告之以便計。請奉教。於是衛將軍乃以五百金爲王夫人之親壽。王夫人以聞武帝。帝曰。大將軍不知爲此。問之安所受計策。對曰。受之待詔者東郭先生。詔召東郭先生。拜以爲郡都尉。東郭先生久待詔公車。貧困饑寒。衣敝履不完。行雪中。履有上無下。足盡踐地。道中人笑之。東郭先生應之曰。誰能履行雪中。令人視之。其上履也。其履下處。乃似人足者乎。及其拜爲二千石。佩青綬。徐廣曰。音綬。出宮門。行謝主人。故所以同官待詔者等。比祖道於都門外。榮華道路立名當世。徐廣曰。東郭先生也。此所謂衣褐懷寶者也。索隱曰。此指郭先生也。其言身衣褐而懷寶玉也。當其貧困時。人莫省視。至其貴也。乃爭附之。

懷寶者也、注壽隱郭上東字ヲ脱ス、札記アリ。

營青蠅止于蕃。愷悌君子。無信讒言。讒言罔極。交亂四國。願陛下遠巧佞。退讒言。帝曰。今顧東方朔多善言。怪之。居無幾。何朔果病死。傳曰。鳥之將死。其鳴也哀。人之將死。其言也善。此之謂也。

武帝時。大將軍衛青者。衛后兄也。

徐廣曰。衛青傳曰。子夫之弟也。

封爲長平侯。

從軍擊匈奴。至於吾水上而還。斬首捕虜有功。來歸。詔賜金

千斤。將軍出宮門。齊人東郭先生以方士待詔公車。當道遮

衛將軍車。拜謁曰。願白事。

徐廣曰。衛青傳云。寧乘說年。而拜爲東海都尉。

將軍止車前。東

郭先生旁車言曰。王夫人新得幸於上。家貧。今將軍得金千斤。誠以其半賜王夫人之親。人主聞之。必喜。此所謂奇策便

至於吾水上、札記於  
余二作ル、云フ淺本余  
ナ於ニ誤ル。



固有常也。札記有<sub>二</sub>其<sub>一</sub>作<sub>レ</sub>ル、云<sub>二</sub>王柯浚不<sub>一</sub>其<sub>二</sub>有<sub>一</sub>作<sub>レ</sub>ル。

建章宮後閣重<sub>ノ</sub>下注正義、札記閣字<sub>ノ</sub>下ニアリ、在長安縣西北二十里故城中<sub>ニ</sub>作<sub>レ</sub>ル。

合<sub>二</sub>子胥<sub>一</sub>。天下和平。與義相扶。寡<sub>レ</sub>偶<sub>レ</sub>少<sub>レ</sub>徒。固<sub>ト</sub>有<sub>一</sub>常也。子何疑於

此申言天下無害無所施才意

有一作其

余哉。於是諸先生默然無<sub>ニ</sub>以應<sub>一</sub>也。建章宮後閣重

正義曰。建章宮。在長安縣

故城。櫟中有物出焉。

索隱曰。重音逐龍反。櫟音歷。重櫟欄楯之下。有重欄處也。

其狀似麋。以聞。武帝

往臨視之。問左右羣臣習事通經術者。莫能知。詔<sub>ニ</sub>東方朔<sub>一</sub>視

之。朔曰。臣知之。願賜美酒梁飯大殮。臣乃言。詔曰。可。已殮。

又曰。某所有公田魚池蒲葦數頃。陛下以賜臣。臣朔乃言。詔

曰。可。於是朔乃肯言曰。所謂騶牙者也。

索隱曰。騶音鄒。此朔以意自立名而偶中也。以有九牙齊

等。故謂<sub>ニ</sub>之騶牙<sub>一</sub>。猶騶騎然也。

遠方當<sub>ニ</sub>來歸義<sub>一</sub>。而騶牙先見。其齒前後若<sub>レ</sub>一。齊等

無牙。故謂<sub>ニ</sub>之騶牙<sub>一</sub>。其後一歲所。匈奴混邪王果將<sub>ニ</sub>十萬衆<sub>一</sub>來

降<sub>レ</sub>漢。乃復賜<sub>ニ</sub>東方生錢財<sub>一</sub>甚多。至老。朔且<sub>ニ</sub>死時<sub>一</sub>。諫曰。詩云。營

均此言時平无所須才合爲一家。動發舉事。猶如運之掌中。賢與不肖。何以異哉。

方今以天下之大。士民之衆。竭精馳說。竝進輻湊者。不可勝

數。悉力慕義。困於衣食。或失門戶。此言已所以不遇使張儀蘇秦與僕竝生於

今之世。曾不能得掌故。安敢望常侍侍郎乎。傳曰。天下無害

菑。雖有聖人。無所施其才。上下和同。雖有賢者。無所立功。故

曰。時異則事異。雖然。安可以不務修身乎。詩曰。鼓鐘于宮。聲

聞于外。鶴鳴九臯。聲聞于天。此又就修身上生意苟能修身。何患不榮。太公躬行

仁義七十二年。逢文王得行其說。封於齊。七百歲而不絕。此

士之所以日夜孜孜。修學行道。不敢止也。今世之處士。時雖

不用。崛然獨立。塊然獨處。上觀許由。下察接輿。策同范蠡。忠

都卿相之位、如淳曰、都人居ナリ。

難<sub>ス</sub>之<sub>ヲ</sub>

索隱曰。案謂朔設詞對之。卽下文答客難是也。

曰蘇秦張儀。一當萬乘之主。而都卿

相之位。

澤及後世。

今子大夫修先王之術。慕聖人之義。諷誦

詩書百家之言。

不可勝數。

著於竹帛。自以爲海內無雙。卽可

謂博聞辯智矣。

然悉力盡忠。

以事聖帝。曠日持久。積數十年。

官不過侍郎。

位不過執戟。

意者尙有遺行邪。其故何也。東方

生曰。是固非子之所能備也。

彼一時也。

此一篇大指。此一時也。豈可同哉。

夫張儀蘇秦之時。

周室大壞。

諸侯不朝。力政爭權。相禽以兵。

并爲十二國。

未有雌雄。

得士者彊。失士者亡。故說聽行通身

處尊位。

澤及後世。

子孫長榮。今非然也。聖帝在上。德流天下。

諸侯賓服。

威振四夷。

連四海之外。以爲席。安於覆盂。天下平



時詔賜之食食一本作飯於前。飯已。盡懷其餘肉持去。衣盡汗。數賜縑帛。

擔揭而去。徒用所賜錢帛。取少婦於長安中好女。率取婦一

歲所者。卽棄去。更取婦。所賜錢財盡索之於女子。人主左右

諸郎。半呼之狂人。人主聞之曰。令朔在事。無爲是行者。若等

安能及之哉。朔任其子爲郎。又爲侍謁者。常持節出使。朔行

殿中。郎謂之曰。人皆以先生爲狂。朔曰。如朔等。所謂避世於

朝廷間者也。古之人。乃避世於深山中。時坐席中。酒酣。據地

歌曰。陸沈於俗。索隱曰。司馬彪云。謂無水而沈之。避世金馬門。宮殿中可以避世。

全身。何必深山之中。蒿廬之下。金馬門者。宦署門也。門傍有

銅馬。故謂之曰金馬門。時會聚宮下。博士諸先生與論議。共

宦署門也。札記雜誌云、  
宦下者字ヲ脱ス、類聚  
御覽所處部、文選西都  
賦注、別賦注、引テ並ニ  
アリ。

曰。咄。老女子何不疾行。陛下已壯矣。寧尙須汝乳而活邪。尙何還顧。於是人主憐焉。悲之。乃下詔。止無徙乳母。罰謫譖之者。索隱曰。謂武帝罰一謫譖乳母之人也。

東方生名朔。注以遷內爲是。內字衍ナリ。札記ナシ。

武帝時。齊人有東方生名朔。

索隱曰。仲長統云。遷爲滑稽傳。敘優旃事。不稱東方朔。非也。朔之行事。豈直旃孟之比哉。

而桓譚亦以遷內爲是。又非也。○正義曰。漢書云。平原厭次人也。輿地志云。厭次。宜是富平縣之鄉聚名也。括地云。富平故城在倉州陽信縣東南四十里。漢縣也。以好

古傳書愛經術。多所博觀。外家之語。索隱曰。案東方朔亦多博觀外家之語。則外家非止經史。卽傳記雜

說之書。朔初入長安。至公車上書。正義曰。百官表云。衛尉屬官有公車司馬。漢儀注云。公車司馬掌殿司馬門夜徹宮。

天下上事及闕下。凡所徵召皆總領之。秩六百石。凡用三千奏牘。公車令兩人共持舉其書。

僅然能勝之。人主從上方讀之。止。輒乙其處。讀之。二月乃盡。

詔拜以爲郎。常在側侍中。數召至前談語。人主未嘗不說也。

輒乙其處。楊慎曰。乙ハ書ヲ讀デ。其止處ニ乙字ノ如ク之ヲ記スルヲ謂フ。今ノ書程起止ナリ。

本亦然、今修正ス。  
故事滑稽、札記、篇題  
下索隱楚詞云以下ヲ移  
シテ此下ニ注ス、云フ  
單本錯テ東方朔後ニ  
在リ、今此ニ移ス、各本  
改テ篇題下ニ保ク。

主和說武帝少時東武侯母常養帝。

索隱曰案東武縣名侯乳母姓也。  
正義曰高祖功臣表云東武侯

郭蒙高祖六年封子他孝景六年棄市國除蓋他母常養武帝。

帝壯時號之曰大乳母率一月再朝。

朝奏入有詔使幸臣馬游卿以帛五十匹賜乳母又奉飲糒

殮養乳母乳母上書曰某所有公田願得假倩之帝曰乳母

欲得之乎以賜乳母乳母所言未嘗不聽有詔得令乳母乘

車行馳道中當此之時公卿大臣皆敬重乳母乳母家子孫

奴從者橫暴長安中當道掣頓人車馬奪人衣服聞於中不

忍致之法有司請徙乳母家室處之於邊奏可乳母當入至

前面見辭乳母先見郭舍人爲下泣舍人曰卽入見辭去疾

步數還顧乳母如其言謝去疾步數還顧郭舍人疾言罵之



以故輟止。二世立。又欲漆其城。優旃曰。善。主上雖無言。臣固將請之。漆城雖於百姓愁費。然佳哉。漆城蕩蕩。寇來不能上。卽欲就之。易爲漆耳。顧難爲陰室。於是二世笑之。以其故止。居無何。二世殺死。優旃歸漢。數年而卒。

太史公曰。淳于髡仰天大笑。齊威王橫行。優孟搖頭而歌。負薪者以封。優旃臨檻疾呼。陛楯得以半更。豈不亦偉哉。

褚先生曰。臣幸得以經術爲郎。而好讀外家傳語。竊不遜讓。

復作故事滑稽之語六章。編之於左。可以覽觀揚意。以示後

世好事者讀之。以游心駭耳。以附益上方太史公之三章。

武帝時有所幸倡郭舍人者。發言陳辭。雖不合大道。然令人

褚先生曰云云、王鳴盛曰、滑稽傳末、褚先生附甚多、王夫人其子齊二封ズルヲ請フ事ノ若キ、重出厭フベシ、鄒令西門豹ノ事、又當ニ滑稽ニ附スベカラズ。  
好讀外家傳語、札記、下文東方朔博觀外家之語ノ注索隱ニ此下ニ注ス、云フ此注、各本錯テ東方朔傳中ニ在リ、單

今光州固始縣。本寢丘邑也。呂氏春秋云。楚孫叔敖有功於國。疾將死。戒其子曰。王數欲封我。我辭不受。我死必封汝。汝無受利地。荆楚閒有寢丘者。其爲地不利。而前有妬谷。後有戾丘。其名惡。可長有也。其子從之。楚功臣封二世而收。唯寢丘不奪也。以奉其祀。後十世不絕。此知可以言時矣。

其後二百餘年。秦有優旃。

優旃者。秦倡侏儒也。善爲笑言。然合於大道。秦始皇時。置酒而

天雨。陛楯者皆沾寒。優旃見而哀之。謂之曰。汝欲休乎。陛楯者

皆曰。幸甚。優旃曰。我卽呼汝。汝疾應曰。諾。居有頃。殿上上壽呼

萬歲。優旃臨檻大呼曰。正義曰。檻。御覽反。陛楯郎。郎曰。諾。優旃曰。汝雖長。

何益。幸雨立。我雖短也。幸休居。於是始皇使陛楯者得半相代。

始皇嘗議欲大苑囿。東至函谷關。西至雍陳倉。正義曰。今岐州雍縣及陳倉縣也。優

旃曰。善。多縱禽獸於其中。寇從東方來。令麋鹿觸之足矣。始皇

幸雨立。札記雜志云。幸字下二涉テ而テ衍ス。雨下中字ヲ脱ス。初學記人部。御覽人事部。樂部。引テ並ニ雨中立ニ作ル。

アリ、御覽四百五十一  
引テ亦アリ、又三百九  
十六引テ與ニ作ル。

右不能別也。莊王置酒。優孟前爲壽。莊王大驚。以爲孫叔敖復  
生也。欲以爲相。優孟曰。請歸與婦計之。三日而爲相。莊王許之。  
三日後。優孟復來。王曰。婦言謂何。孟曰。婦言慎無爲。楚相不足  
爲也。如孫叔敖之爲。楚相盡忠爲廉。以治楚。楚王得以霸。今死。  
其子無立錐之地。貧困負薪以自飲食。必如孫叔敖。不如自殺。  
因歌曰。山居耕田苦。難以得食。起而爲吏。身貪鄙者餘財。不顧  
恥辱。身死家室富。又恐受賕枉法。爲姦觸大罪。身死而家滅。貪  
吏安可爲也。念爲廉吏。奉法守職。竟死不敢爲非。廉吏安可爲  
也。楚相孫叔敖。持廉至死。方今妻子窮困。負薪而食。不足爲也。  
於是莊王謝優孟。乃召孫叔敖子。封之寢丘四百戶。

徐廣曰。在固  
始。○正義曰。



銅歷爲棺注云云、錢大昕曰、歷卽歷字、說文、曆或八歷二作ル。

我孫叔敖之子也、札記之字ナシ、云フ中統游王柯濩子上之字アリ、南宋舊刻毛本ナシ。

楚王左右、札記王下及字アリ、云フ南宋中統游毛吳校金板並ニ及字

以萬戶之邑。諸侯聞之。皆知大王賤人而貴馬也。王曰。寡人之過。一至此乎。爲之奈何。優孟曰。請爲大王六蓄葬之。以壙竈爲

椁。

索隱曰。皇覽以壙竈爲墓竈也。

銅歷爲棺。

索隱曰。歷卽釜鬲也。

齎以薑棗。

索隱曰。古者食肉用薑棗。禮內則云。實棗於其腹中。

屑桂與薑以洒諸上而鹽之也。

薦以木蘭。祭以糧稻。衣以火光。葬之於人腹腸。

索隱曰。皇

覽云。火送之著端葬之腸中。

於是王乃使以馬屬太官。無令天下久聞也。楚相孫

過得便

叔敖。知其賢人也。善待之。病且死。屬其子曰。我死。汝必貧困。若

往見優孟。言我孫叔敖之子也。居數年。其子窮困負薪。逢優孟。

與言曰。我孫叔敖之子也。父且死時。屬我貧困。往見優孟。優孟

曰。若無遠有所之。索隱曰。案謂優孟語孫叔敖之子曰。汝無遠有所之。適他境。恐王後求汝不得者也。卽爲孫叔敖衣

冠。抵掌談語。

戰國策曰。蘇秦說趙王華屋之下。抵掌而言。張載曰。談說之容則也。

歲餘。像孫叔敖。楚王左

リ、此傳後百年ト云フ、乃蹕駁ノ甚シキ者、而テ小司馬未ダ舉正ニ及バザル何ゾヤ。

優孟。

優孟者。故楚之樂人也。

索隱曰。優者。倡優也。孟者。字也。優旃亦同。旃其字耳。

長八尺。多辯。常以

談笑綱諷諫。楚莊王之時。有所愛馬。衣以文繡。置之華屋之下。席

以露牀。啗以棗脯。馬病肥死。使羣臣喪之。欲以棺槨大夫禮葬

之。左右爭之。以爲不可。王下令曰。有敢以馬諫者。罪至死。優孟

聞之。入殿門。仰天大哭。王驚而問其故。優孟曰。馬者王之所愛

也。以楚國堂堂之大。何求不得。而以大夫禮葬之。薄。請以人君

禮葬之。王曰。何如。對曰。臣請以彫玉爲棺。文梓爲槨。槨楓豫章

爲題湊。蘇林曰。以木累棺外。木頭皆內向。故曰題湊。○正義曰。樛頻繇反。發甲卒爲穿壙。老弱負土。齊趙

陪位於前。韓魏翼衛其後。楚莊王時。未有趙韓魏三國。索隱曰。案此辯說者之詞。後人所增飾。廟食太牢。奉

前時賜餘瀝奉觴上壽數起飲不過二斗徑醉矣若朋友交遊

久不相見卒然相覩歡然道故私情相語飲可五六斗徑醉矣

若乃州閭之會男女雜坐行酒稽留六博投壺相引爲曹握手

無罰目眙不禁徐廣曰眙吐飯反直視貌○索隱曰眙音與眙同謂直視也丑飯反音丑二反前有墮珥後有遺

簪髡竊樂此飲可八斗而醉二參索隱曰案上云五六斗徑醉矣則此爲樂亦甚飲可八斗而未徑醉故云竊樂二參

言十有二日暮酒闌合尊促坐男女同席履舄交錯杯盤狼藉堂

上燭滅主人畱髡而送客極意模寫羅襦襟解微聞薝澤與香同當

此之時髡心最歡能飲一石故曰酒極則亂樂極則悲緊要萬事盡

然言不可極極之而衰以諷諫焉齊王曰善乃罷長夜之飲以

髡爲諸侯主客正義曰今宗室置酒髡嘗在側其後百餘年楚有

其後百餘年錢大昕曰  
優孟楚莊王事淳  
于髡前二百餘年在

鴻臚卿也



云フ素隱本舊刻毛本  
顧、各本穰ニ誤ス。  
而祝曰、札記而ナシ、  
云フ中統游王柯淺本祝  
上而字アリ。

甌窶滿箒注云云、札記  
云、御覽七百七十七注  
ナ引キ、下ニ音穰二字  
アリ、又元龜八百三十  
三、亦注ナ引キ、箒籠  
也、音穰、甌窶猶杯樓  
也、言豐年榮樹易可滿  
箒ト、疑フ皆集解ノ文、  
而テ素隱ト大同、或ハ  
今本重複チ以テ而之  
ヲ刪ル、榮疑フ采ノ譌、  
樹當ニ素隱ニ依テ撥ニ  
作ルベシ。

汙邪滿車注云云、札記  
云、元龜注ナ引テ云、  
汙邪下地田也、言下地  
田之中、有薪榮可滿車  
也ト、亦素隱ト大同、  
榮亦采ノ譌ナリ。

參讀注裏衿也、札記衿  
ヲ袂ニ作ル、云フ袂ナ  
袴ニ誤ル、考證改ム。

曰。案謂爲操一豚蹄。酒一盃而祝曰。甌窶滿箒。徐廣曰。箒。籠也。○素隱曰。案甌窶猶杯樓也。窶音如

音樓。箒音溝。籠也。甌樓謂高地狹小之區得滿箒籠也。汙邪滿車。司馬彪曰。汙邪下地田也。○素隱曰。卽下

田之中有薪可滿車。○正義曰。汙音烏。五穀蕃熟。穰穰滿家。臣見其所持者狹而所欲

者奢。故笑之。於是齊威王乃益齋黃金千鎰。白璧十雙。車馬百

駟。髡辭而行。至趙。趙王與之精兵十萬。革車千乘。楚聞之。夜引

兵而去。威王大說。置酒後宮。召髡賜之酒。問曰。先生能飲幾何

而醉。對曰。臣飲一斗亦醉。一石亦醉。威王曰。先生飲一斗而醉。

惡能飲一石哉。其說可得聞乎。髡曰。賜酒大王之前。執法在傍。

御史在後。髡恐懼俯伏而飲。不過一斗徑醉矣。若親有嚴客。髡

希韞鞠臆。徐廣曰。希。收衣裏也。裏衿也。韞。臂捍也。音溝。鞠。曲也。臆。音其紀反。又與臆同。謂小跪也。○素隱曰。希音卷。紀免反。謂收袖也。侍酒於

稽<sup>綱</sup>多辯。數使<sup>シ</sup>諸侯。未嘗屈辱<sup>セザレ</sup>齊威王之時喜隱。

索隱曰。喜音許既反。喜好也。喜隱。謂好隱語。

欲敘威王之勵治先以淫樂起案

好爲<sup>ニ</sup>淫樂長夜之飲<sup>ヲ</sup>。沈湎不治<sup>メ</sup>。委<sup>ス</sup>政卿大夫。百官荒亂<sup>シ</sup>。諸侯竝

侵<sup>シ</sup>國。且危亡<sup>セント</sup>在於旦暮。左右莫敢諫<sup>ル</sup>。淳于髡說之以隱<sup>目ナ</sup>曰。國中

有大鳥止<sup>ル</sup>王之庭。三年不蜚<sup>ズ</sup>。又不鳴<sup>カ</sup>。王知<sup>ル</sup>此鳥何<sup>ト</sup>也。王曰。此鳥

不飛<sup>シズ</sup>則已<sup>レ</sup>。一飛<sup>フ</sup>沖<sup>ラシ</sup>天。不鳴<sup>シズ</sup>則已<sup>レ</sup>。一鳴<sup>ク</sup>驚人<sup>ヲ</sup>。於是乃朝<sup>ス</sup>諸縣令長

七十二人<sup>ヲ</sup>。賞<sup>シ</sup>一人<sup>ヲ</sup>。誅<sup>シ</sup>一人<sup>ヲ</sup>。奮<sup>テ</sup>兵而出<sup>ヅ</sup>。諸侯振驚<sup>シ</sup>皆還<sup>ス</sup>齊。侵地<sup>ヲ</sup>。威

行<sup>ル</sup>三十六年。語在<sup>ニ</sup>田完世家中。威王八年。楚大發<sup>シ</sup>兵加<sup>フ</sup>齊。齊王

使<sup>シ</sup>淳于髡<sup>ヲ</sup>之<sup>ニ</sup>趙<sup>ニ</sup>請<sup>ヘ</sup>救<sup>ヲ</sup>兵<sup>ヲ</sup>。齎<sup>ス</sup>金百斤。車馬十駟<sup>ヲ</sup>。淳于髡仰<sup>テ</sup>天大<sup>ニ</sup>笑<sup>ヒ</sup>。

冠纓索絕<sup>ス</sup>。索隱曰。案索訓盡。言冠纓盡絕也。王曰。先生少<sup>トスル</sup>之<sup>ヲ</sup>乎。髡曰。何敢<sup>セン</sup>。

王曰。笑<sup>フ</sup>豈有<sup>ル</sup>說<sup>ヲ</sup>乎。髡曰。今者臣從<sup>ニ</sup>東方來<sup>ル</sup>。見<sup>ニ</sup>道傍有<sup>ル</sup>穰田者<sup>一</sup>。索隱

威王八年楚大發兵加齊。錢大昕曰。世家及比表按ズルニ。是年齊楚交兵ノ事ナシ。此傳ノ言多ク信ズルニ足ラズ。

有穰田者。札記穰ヲ願ニ作ル。注案隱亦同ジ。

# 史記評林卷之一百二十六

## 滑稽列傳第六十六

索隱曰。滑。謂亂也。稽。同也。以言辯捷之人。言非若是。說是若非。能亂同異也。楚詞云。將突梯滑稽。如脂如韋。崔浩云。滑音骨。稽流酒器也。轉注吐酒。終日不已。言出口成章。詞不窮竭。若滑稽之吐酒。故揚雄酒賦云。鴟夷滑稽。腹大如壺。盡日盛酒。人復藉沾。是也。又姚察云。滑稽猶俳諧也。滑讀如字。稽音計也。以言諧語滑利。其知計疾出。故云滑稽也。

孔子曰。六藝於治一也。

正義曰。言六藝之文雖異。禮節樂和。導民立政。天下平定。其歸一揆。至於談言微中。亦以解其紛亂。故治一也。

禮以節人。樂以發和。書以道事。詩以達意。易以神化。春秋以道

義。太史公曰。天道恢恢。豈不大哉。談言微中。亦可以解紛。

天道句亦滑稽

淳于髡者。齊之贅壻也。

索隱曰。髡音苦魂反。贅壻。女之夫也。比於子如入疣贅。是餘剩物也。

長不滿七尺。滑

春秋以道義、札記道字ナシ、云フ淺本以下道字ヲ衍ス。



埒如韓嫣也。

徐廣曰。埒等也。蜀都賦曰。卓鄭埒名。又云埒者。疇等之名。

久之寢與中人亂。

徐廣曰。一云坐弟季與中

人亂。

出入驕恣。及其女弟李夫人卒後。愛弛。則禽誅延年昆弟也。

自是之後。內寵嬖臣。大底外戚之家。然不足數也。衛青。霍去病。

亦以外戚貴幸。然頗用材能自進。

太史公曰。甚哉愛憎之時。彌子瑕之行。足以觀後人佞幸矣。雖

百世可知也。

索隱曰。彌子瑕。衛靈公之臣。事見說苑也。

索隱述贊曰。傳稱令色。詩刺巧言。冠鵜入侍。傅粉承恩。黃頭賜蜀。宦者同軒。新聲都尉。挾彈王孫。泣魚竊駕。著自前論。

史記評林卷之一百二十五終

望見以爲天子。辟從者。伏謁道傍。媼驅不見。既過。江都王怒。爲

皇太后泣曰。請得歸國入宿衛。比韓媼。索隱曰。謂還爵封於天子。而請入宿衛。太后由

此嫌媼。徐廣曰。嫌讀與銜同。漢書作銜字。媼侍上。出入永巷。不禁。以姦聞。皇太后。皇

太后怒。使使賜媼死。上爲謝。終不能得。媼遂死。而案道侯韓說

其弟也。亦佞幸。

李延年。中山人也。父母及身。兄弟及女。皆故倡也。延年坐法腐

給事狗中。徐廣曰。主獵犬也。而平陽公主言延年女弟善舞。上見。心

說之。及入永巷。而召貴延年。延年善歌。爲變新聲。而上方興天

地祠。欲造樂詩歌。弦之。延年善承意。弦次初詩。索隱曰。初詩。即新造樂章。其女

弟亦幸。有子男。延年佩二千石印。號協聲律。與上臥起。甚貴幸。

給事狗中、漢書給事狗  
監中ニ作ル。

弦次初詩、方苞曰、延  
年能ク弦音ヲ以テ、新  
造樂章ヲ比次スルナ  
リ。

乃令假衣食云云、顏師古曰、公主其衣食ヲ給スルナリ、而テ號シテ之ヲ假借シ、通ノ自非ズト云フナリ、吏ノ没入ヲ恐レ、故ニ託シテ云フ然リ、此所謂不得名一錢ナリ。

仁寵最過庸不乃甚篤、札記乃不其篤ニ作ル、云フ南宋本毛本乃不ニ作ル、各本倒ス、方苞曰、庸ハ用ナリ、帝之ヲ寵愛スト雖モ、而モ任用ハ則甚ダ篤カラザルヲ謂フナリ。

入<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。索隱曰。謂長公主別有物。吏輒没入以充贓也。一簪不得著<sup>グ</sup>身<sup>ニ</sup>。於是長公主乃令假<sup>ム</sup>衣

食<sup>ヲ</sup>。索隱曰。謂公主令入假與衣食。竟不得<sup>レ</sup>名<sup>ニ</sup>一錢<sup>ニ</sup>。索隱曰。始天下名鄧氏錢。今皆没入。卒竟無一錢名之也。寄<sup>ニ</sup>死<sup>ニ</sup>人家<sup>ニ</sup>。應前相通餓死

孝景帝時。中無寵臣。然獨郎中令周文仁。索隱曰。案庸常也。言仁最被恩寵。稱周文。今兼文仁。恐後人加

耳。案仁字文。仁寵最過庸。不乃甚篤<sup>カ</sup>。索隱曰。案庸常也。言仁最被恩寵。過於常人。乃不甚篤如韓嫣也。今天子

中寵臣士人則韓王孫嫣。索隱曰。音偃。又音於建反。宦者則李延年。

嫣者。弓高侯孽孫也。徐廣曰。韓王信之子類當也。今上爲<sup>シ</sup>膠東王時。嫣與上學

書相愛。及上爲<sup>ム</sup>太子。愈益親<sup>ム</sup>嫣。嫣善騎射。善佞<sup>ス</sup>。上卽<sup>ニ</sup>位。欲事伐<sup>ニ</sup>

匈奴。而嫣先習<sup>フ</sup>胡兵。以故益尊貴。官至上大夫。賞賜擬<sup>ス</sup>於<sup>ニ</sup>鄧通<sup>ニ</sup>。省

時。嫣常與上臥起。江都王入朝。有詔得從<sup>ヒ</sup>入獵<sup>ス</sup>上林中。天子車

駕蹕<sup>シ</sup>道未行。而先使嫣乘<sup>リ</sup>副車從<sup>ヘ</sup>數十百騎。驚馳視獸<sup>ヲ</sup>。江都王



後人漢書ニ依テ改ム、  
自ハ則目ノ譌ナリ、按  
ニ類師古曰、默シテ而  
テ之ヲ求メ、夢ミル所  
ノ者ヲ求ム。

嚴道銅山注正義邑榮經  
ノ邑、札記案ニ作ル、  
云フ案ヲ邑ニ誤ル、考  
證改ム。  
得自鑄錢、札記云、中  
統本吳校金板自ヲ以ニ  
作ル、疑フモト目ニ作  
リ、譌シテ自ト爲ル。

帝時時如鄧通家遊戲。然鄧通無他能。不能有所薦士。獨自謹  
其身以媚上而已。上使善相者相通。曰當貧餓死。文帝曰。能富  
通者在我也。何謂貧乎。於是賜鄧通蜀嚴道銅山。正義曰。括地志云。雅州榮經縣北三  
里有銅山。即鄧通得賜銅  
山鑄錢者。邑榮經。即嚴道。  
得自鑄錢。鄧氏錢布天下。正義曰。錢譜云。文字稱兩。同漢四銖文。其  
富如此。文帝嘗病癰。鄧通常爲帝啗吮之。索隱曰。啗音任格反。吮音仕亮反。文帝不  
樂。從容問通曰。天下誰最愛我者乎。通曰。宜莫如太子。太子入  
問病。文帝使啗癰。啗癰而色難之。已而聞鄧通常爲帝啗吮之。  
心慙。由此怨通矣。及文帝崩。景帝立。鄧通免家居。居無何。人有  
告鄧通盜出徼外鑄錢。下吏驗問。頗有之。遂竟案盡沒入鄧通  
家。尙負責數巨萬。長公主賜鄧通。  
韋昭曰。景帝姊也。○索隱曰。案即館陶公主也。吏輒隨沒

臣士人則鄧通。宦者則趙同。

索隱曰。案漢書作趙談。此云同者。避太史公父名也。

北宮伯子。

正義曰。顏

云。姓北宮。名伯子也。按伯子。名北宮之宦者也。

北宮伯子以愛人長者而趙同以星氣幸。常爲

文帝參乘。鄧通無技能。

鄧通。蜀郡南安人也。以濯船爲黃頭郎。

徐廣曰。著黃帽也。駟案漢書音義曰。善濯船池中也。一說能持櫂行

船也。土水之母。故施黃旄於船頭。因以名其郎曰黃頭郎。

孝文帝夢欲上天不能。有一黃頭郎從後

推之上天。顧見其衣襜帶後穿。

索隱曰。襜音篤。襜衫襦之橫者。

覺而之漸臺。

正義曰。括

地志云。漸臺在長安故城中。關中記云。未央宮西有蒼池。池中有漸臺。王莽死於此臺。

以夢中陰自求推者郎。郎見鄧

通。其衣後穿。夢中所見也。召問其名姓。姓鄧氏。名通。文帝說焉。

索隱曰。漢書云。上曰。鄧猶登也。悅之。

尊幸之日異。通亦愿謹。不好外交。雖賜洗沐。不欲

出。於是文帝賞賜通巨萬以十數。

正義曰。賜通巨萬以至於十也。

官至上大夫。文

南安人也。ノ下、札記、集解徐廣曰後屬健爲ト注ス、云フ淺脫ス。以濯船ノ下、札記、索隱濯音棹、遲教反ト注ス、云フ淺脫ス。其衣襜ノ下、札記、集解徐廣曰一此字ナシ、及ビ下索隱ナ注シ、横下ニ腰字アリ、云フ拾遺云、脫文、襜ハ背縫ナリ、小司馬非ナリ。後穿覺ノ下、札記、索隱覺音教ト注ス、云フ淺脫ス。以夢中陰自求推者郎、札記自ヲ目ニ作ル、云フ毛本目、漢書ト合ス、各本自ニ作リ、舊刻衣ニ作ル、疑フ史文夢中ノ下、モト衣字アリ、誤倒ス、其目ニ作ル者、

史記評林卷之一百二十五

佞幸列傳第六十五

諺曰。力田不如逢年。善仕不如遇合。徐廣曰。遇一作偶。固無虛言。非獨女

以色媚而士宦亦有之。昔以色幸者多矣。至漢興高祖至暴抗

也。索隱曰。抗音苦浪。反言暴猛抗直也。然籍孺以佞幸。孝景時有閹孺。正義曰。籍閹皆名也。孺幼小也。此

兩人非有材能。徒以婉佞貴幸。與上臥起。公卿皆因關說。索隱曰。關

通也。謂公卿因之而通其詞說。故孝惠時。郎侍中皆冠鵔鵃貝帶。漢書音義曰。鵔

鵔。鳥名。以毛羽飾冠。以貝飾帶。○索隱曰。許慎云。鵔鵃。鵃鳥也。淮南子云。趙武靈王

服貝鵔鵃。漢官儀云。秦破趙。以其冠賜侍中。三蒼云。鵔鵃。神鳥也。飛光映天者也。傅脂

粉。索隱曰。傅音付。化閹籍之屬也。兩人徙家安陵。正義曰。惠帝陵邑。孝文時。中寵

士宦亦有之。札記云。南宋舊刻毛本士仕作ル。



索隱述贊曰。游俠豪倨。籍籍有聲。權行州里。力折公卿。朱家脫季。劇孟定傾。急人之難。免讎於更。偉哉翁伯。人貌榮名。

黃震曰。朱家周人之急。家無餘財。而終身不自以爲德。太史公慕焉。郭解折節賑人。人爲解殺人。解不知。而公孫弘族解。太史公尤爲之痛惜。愚謂朱家誠賢矣。爲人忘己。墨氏之弊。而解之見殺。則亦其平昔嗜殺所致。孔子有言。古之學者爲己。孟子亦謂窮則獨善其身。士亦何必務名譽出于尋常之外也哉。

史記評林卷之一百二十四終

是之後。爲俠者極衆。敖而無足數者。

徐廣曰。敖。倨也。

然關中長安樊仲

子。槐里趙王孫。長陵高公子。西河郭公仲。太原鹵公孺。

徐廣曰。雁門有鹵城。

也。○索隱曰。漢書作魯公孺。

魯。姓也。與徐廣之說不同。

臨淮兒長卿。東陽田君孺。

索隱曰。漢書作陳君孺。然陳田聲相近。亦

本同姓也。○正義曰。其東陽。蓋具州歷亭縣者。爲近齊故也。

雖爲俠。而逡逡有退讓君子之風。至若北

道姚氏。

索隱曰。蘇林云。道。猶方也。如淳云。京師四出道也。

西道諸杜。南道仇景。東道趙他羽公

子。

索隱曰。舊解以趙他與公子爲人。今案此姓趙名他羽。字公子也。

南陽趙調之徒。此盜跖居民間者耳。

曷足道哉。此乃鄉者朱家之羞也。

太史公曰。吾視郭解。狀貌不及中人。言語不足採者。然天下無

賢與不肖。知與不知。皆慕其聲。言俠者皆引以爲名。諺曰。人貌

榮名。豈有既乎。

徐廣曰。人以顏狀爲貌者。則貌有衰落矣。唯用榮名爲飾表。則稱譽無極也。既盡也。

於戲惜哉。

東道趙他羽公子注案  
隱、札記、舊解以趙他  
羽公子爲二人作ル、  
錢大昕曰、上下文ナ以  
テ之ヲ證スレバ、則舊  
解是ト爲ス、春秋傳ニ、  
鄭穆公ノ後羽氏アリ。  
朱家之羞也、札記云、  
吳校本之ヲ所ニ作ル、  
漢書ト合ス。

爲人短小不飲酒、札記  
志疑云、七字複出、衍  
ナリ。

又結其聲。爭交驩解。解爲人短小。不飲酒。出未嘗有騎。已又殺楊季

主。楊季主家上書人。又殺之闕下。上聞。乃下吏捕解。解亡。置其

母家室。夏陽。徐廣曰。屬馮翊。○正義曰。故城在同州韓城縣南二十里。漢夏陽也。身至臨晉。正義曰。故城在同州馮翊縣西南二里。

臨晉籍小公素不知解。解冒因求出關。籍少公已出解。解轉入

太原。所過輒告主人家。吏逐之。跡至籍少公。少公自殺口絕。久

之。乃得解。窮治所犯。爲解所殺。皆在赦前。輒有儒生侍使者坐。

客譽郭解。生日。郭解專以姦犯公法。何謂賢。解客聞殺此生。斷

其舌。吏以此責解。解實不知殺者。殺者亦竟絕。莫知爲誰。吏奏

解無罪。御史大夫公孫弘議曰。解布衣爲任俠。行權以睚眦殺

人。解雖弗知。此罪甚於解殺之。當大逆無道。遂族郭解翁伯。自

重說  
應前發于睚眦

不接而接

俠之得人如此

應前少年爲報仇不使知

收拾



且無用待我、札記云、此待我字下ニ涉テ衍ス、漢書ナシ。

事可出出之云云、如淳曰、事免出ヲ爲スベキ者ハ之ヲ出ス、顔師古曰、厭ハ滿ナリ。

舉徙解、漢書兩之ニ作ル、顔師古曰、其送ヲ兩塞シ、解ナシテ之ヲ得シメザルナリ。

奪人邑中賢大夫權乎。乃夜去。不使人知。曰。且無用待我。待我

去。令雒陽豪居其間。應前不矜其功シク索隱曰。漢書作無庸。蘇林曰。且無便。用吾言待我去。令洛陽豪居其間也。乃聽之。解執恭

敬。不敢乘車入其縣廷之旁郡國。爲人請求事。事可出出之。不

可者各厭其意。然後乃敢嘗酒食。諸公以故嚴重之。爭爲用。邑

中少年及旁近縣賢豪。夜半過門常十餘車。請得解客舍養之。

索隱曰。如淳云。解多藏亡命者。故喜事年少與解同志者。及徙豪富茂陵也。解家

知亡命者多在解。故多持車來。欲爲解迎亡者而藏之。貧。不中訾。索隱曰。案訾不滿二吏恐不敢不徙。衛將軍爲言郭解家

貧。不中徙。上曰。布衣權至使將軍爲言。此其家不貧。解家遂徙。

諸公送者出千餘萬。軹人楊季主子爲縣掾。舉徙解。解兄子斷

楊掾頭。由此楊氏與郭氏爲仇。解入關。關中賢豪知與不知聞

徐廣曰。罪其姊子。乃收而葬之。諸公聞之。皆多解之義。益附焉。解遣使去。

出入。人皆避之。有一人獨箕倨視之。解遣人問其名姓。客欲殺

之。解曰。居邑屋。至不見敬。是吾德不修也。彼何罪。乃陰屬尉史。

曰。是人吾所急也。索隱曰。案謂吾心中所急。言情切急也。漢書作重。至踐更時。脫之。每至踐更。

數過。吏弗求。如淳曰。更有三品。有卒更。有踐更。有過更。古者正卒無常人。皆當迭爲之。一月一更。是爲卒更也。貧者欲得顧更踐者。次直者出錢。顧之月二千。是

爲踐更也。律說。卒更。踐更者。居縣中五月乃更也。後從尉。律卒踐更一月休十一月也。○索隱曰。數音朔。數頻也。謂頻免之也。又音色主反。怪之。問其故。乃

解使脫之。箕倨者乃肉袒謝罪。少年聞之。愈益慕解之行。雒陽

人有相仇者。邑中賢豪居閒者以十數。索隱曰。色具反。終不聽。客乃見

郭解。解夜見仇家。仇家曲聽解。索隱曰。謂屈曲聽解也。解乃謂仇家曰。吾聞

雒陽諸公在此閒。多不聽者。今子幸而聽解。解奈何。乃從他縣

解曰。居邑屋。顏師古曰。邑屋。猶今人村舍。巷舍。ト言フ如キナリ。  
至踐更注如淳曰。欲得顧更踐。札記踐ヲ錢ニ作ル。云フ踐ニ譌ス。考證漢書昭紀注ニ據テ改ム。



陰賊慨、漢書陰賊感樂  
ニ作ル、顔師古曰、陰  
賊ハ陰ニ賊害ノ意ナ懷  
クナリ、感樂ハ意氣ニ  
感ジテ節操ヲ立ツルナ  
リ。

剽攻不休及鑄錢掘冢、  
札記雜志云、漢書休乃  
鑄錢掘冢ニ作ル、師古  
曰、仇ナ報ジ剽攻セザ  
レバ、則錢チ鑄冢チ發  
クナリ、是休字下ニ屬  
シテ句ト爲ス、及當ニ  
乃ニ作ルベシ、不字後  
人ノ加フル所ナリ、貨  
殖傳ニ、起則相隨剽攻、  
休則掘冢、又其一證ナ  
リ。  
藏命作姦注索隱云云、  
錢大昕曰、命ハ名ナ  
リ、藏命ハ猶匿名ト言  
フ如シ。  
與人飲使之嚼注云云、  
錢大昕曰、嚼ハ嚼ト同  
ジ、說文、嚼ハ酒チ飲  
ミ盡スナリ、攬漢書五  
行志、嚼復嚼ハ、京都  
酒チ飲ミ相強フルノ詞  
ナリ。

以任俠。孝文時誅死。解爲人短小精悍。不飲酒。少時陰賊。索隱曰。以  
內心。慨不快意。身所殺甚衆。以軀借交報仇。藏命作姦。索隱曰。案  
忍害。慨不快意。身所殺甚衆。以軀借交報仇。藏命作姦。謂亡命也。

剽攻不休。及鑄錢掘冢。固不可勝數。適有天幸。窘急常得脫。若  
遇赦。及解年長。更折節爲儉。以德報怨。厚施而薄望。然其自喜  
爲俠益甚。索隱曰。蘇林云。言性喜爲俠也。既已振人之命。不矜其功。其陰賊著於

心。卒發於睚眦。如故云。而少年慕其行。亦輒爲報仇。不使知也。  
解姊子負解之勢。索隱曰。負恃也。與人飲。使之嚼。徐廣曰。音子。妙反。盡酒也。非其任。彊

必灌之。人怒拔刀刺殺解。姊子亡去。解姊怒曰。以翁伯之義。人  
殺吾子。賊不得棄其尸於道。弗葬。欲以辱解。解使人微知賊處。

賊窘自歸。具以實告解。解曰。公殺之固當。吾兒不直。遂去其賊。

應前以德報怨



乘傳車將、札記志疑云、漢書乘傳東將ニ作ル、師古曰、傳車ニ乘リ、東ニ出デテ大將ト爲ルナ

陽翟薛況、札記況チ兄ニ作ル、云フ索隱本兄各本況ニ作ル。

而雒陽有劇孟。周人以商賈爲資。而劇孟以任俠顯諸侯。吳楚

反時。條侯爲太尉。乘傳車將至河南。得劇孟喜曰。吳楚舉大事。

而不求孟。吾知其無能爲已矣。天下騷動。宰相得之。若得一敵

國云。劇孟行大類朱家。而好博。索隱曰。好六博之戲也。多少年之戲。然劇孟

母死。自遠方送喪。蓋千乘。及劇孟死。家無餘十金之財。而符離

人王孟亦以俠稱江淮之間。是時濟南閻氏。索隱曰。閻音閑。案爲郅都所誅。陳周

庸。索隱曰。陳國。人。姓周。名庸。亦以豪聞。景帝聞之。使使盡誅此屬。其後代諸白。

梁韓無辟。陽翟薛況。陝韓孺。紛紛復出焉。徐廣曰。陝疑當作郗字。潁川有郗縣。南越傳曰。郗壯士韓

千秋也。○索隱曰。代。代郡人有白氏。豪俠非一。故言諸梁。梁國人。韓姓。無辟。辟音避。陝當爲郗。陝音如冉反。郗音紀洽反。漢書作寒孺。

郭解。軹人也。索隱曰。漢書云。河內軹人也。字翁伯。善相人者。許負外孫也。解父

者。名不虛立。士不虛附。至如朋黨宗彊比周。設財役貧。豪暴侵凌孤弱。恣欲自快游俠。亦醜之。余悲世俗不察其意。而猥以朱家郭解等。令與暴豪之徒。同類而共笑之也。

魯朱家者。與高祖同時。魯人皆以儒教。而朱家用俠聞。所藏活

詳季布傳

豪士以百數。其餘庸人不可勝言。然終不伐其能。歌其德。諸所

嘗施。唯恐見之。振人不贍。先從貧賤始。家無餘財。衣不完采。食

不重味。乘不過鞵牛。徐廣曰。音雖。駟案漢書音義曰。小牛。○索隱曰。鞵音古豆反。案大牛當鞵。專趨人之急。甚

己之私。既陰脫季布將軍之阨。及布尊貴。終身不見也。索隱曰。案季布爲漢

所購求。朱家以布髡鉗爲奴。載以廣柳車而出之。及布尊貴。終不見之。亦高介至義之士。然布竟亦不報朱家之恩。自關以東。莫不延頸願

交焉。楚田仲以俠聞。喜劍。父事朱家。自以爲行弗及。田仲已死。

乘不過鞵牛注索隱、札  
記當鞵ノ下小爲鞵牛ノ  
四字アリ、晉灼曰、鞵  
ハ鞵ノナリ、顏師古曰、鞵  
ハ重挽ナリ、晉工豆反  
晉說是ナリ、按ニ鞵ハ  
鞵端ノ横木、馬領ニ駕  
スル者ナリ。

始ハ或ハ義ヲ抱ク、世  
ノ取ル所ト爲ラザルニ  
及ベバ、則其初志ヲ變  
ジ、以テ世ト浮沈シ、  
而テ榮名ヲ取ルニ若カ  
スト爲スチ譏ルナリ、  
所謂榮名ハ、即術ヲ以  
テ宰相卿大夫ヲ取ル、  
君子ノ所謂榮ニ非ルナ  
リ、曲學阿世卑鄙ノ論  
ヲ爲シ、以テ俗ニ儕ウ  
ス、乃世ト浮沈シ以テ  
榮名ヲ取ルノ術ナリ。  
近世延陵、札記志疑云、  
延陵二字漢書ナシ、按  
ズルニ、疑フ下信陵ニ  
涉テ誤衍ス、然ルニ徐  
野民本已ニ然リ。

田仲王公劇孟、錢大昕  
曰、王公ハ即王孟ナリ。

立傳本意シテ  
窮窘而得<sub>レ</sub>委命<sub>スル</sub>。此豈非<sub>ニ</sub>人之所謂賢豪間者<sub>ニ</sub>邪。誠使<sub>ニ</sub>鄉曲之俠<sub>ナシテ</sub>。  
一本予作與

予<sub>ニ</sub>季次原憲。比<sub>ベ</sub>權量<sub>リ</sub>力<sub>ヲ</sub>。效功<sub>ヲ</sub>於當世<sub>ニ</sub>。不<sub>ニ</sub>同日而論<sub>セ</sub>矣。要以<sub>ニ</sub>功見<sub>レ</sub>。

言<sub>ナル</sub>信<sub>ヲ</sub>。俠客之義。又曷<sub>ン</sub>可<sub>レ</sub>少<sub>ト</sub>哉。古布衣之俠。靡得<sub>テ</sub>而聞<sub>ニ</sub>已<sub>ヲ</sub>。近世延

陵。徐廣曰。代郡亦有<sub>ニ</sub>延陵縣<sub>ニ</sub>。駟案韓子云。趙襄子召<sub>ニ</sub>延陵生<sub>ニ</sub>。令<sub>ニ</sub>車騎<sub>ニ</sub>。先至<sub>ニ</sub>晉陽<sub>ニ</sub>。襄子時。趙已并<sub>ニ</sub>代<sub>ニ</sub>。可有<sub>ニ</sub>延陵之號<sub>ニ</sub>。但未詳<sub>ニ</sub>是此人非耳<sub>ニ</sub>。孟嘗。春申。平原。

信陵之徒。皆因<sub>ニ</sub>王者親屬<sub>ニ</sub>。藉<sub>ニ</sub>於有土卿相之富厚<sub>ニ</sub>。招<sub>ニ</sub>天下賢者<sub>ニ</sub>。

顯<sub>ス</sub>名<sub>ヲ</sub>諸侯。不可<sub>レ</sub>謂<sub>ニ</sub>不賢者<sub>ト</sub>矣。比<sub>スルニ</sub>如<sub>ニ</sub>順風而呼<sub>ニ</sub>。聲非<sub>ニ</sub>加疾<sub>ニ</sub>。其勢激<sub>スル</sub>。

也。至<sub>リテ</sub>如<sub>ニ</sub>閭巷之俠<sub>ニ</sub>。脩<sub>メ</sub>行砥<sub>キ</sub>名<sub>ヲ</sub>。聲施<sub>ス</sub>於天下<sub>ニ</sub>。索隱曰。施<sub>ニ</sub>音以<sub>ニ</sub>鼓反<sub>ニ</sub>。莫<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>稱<sub>セ</sub>賢<sub>ト</sub>。是

爲難<sub>ト</sub>耳。然儒墨皆排擯<sub>シテ</sub>不載<sub>セ</sub>。自秦以前匹夫之俠。湮滅<sub>シテ</sub>不<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>。余

甚恨<sub>ム</sub>之。以<sub>ニ</sub>余所聞<sub>ニ</sub>。漢興有<sub>ニ</sub>朱家。田仲。王公。劇孟。郭解之徒<sub>ニ</sub>。雖時<sub>ニ</sub>。

扞<sub>スト</sub>當世之文罔<sub>ヲ</sub>。索隱曰。扞。即捍也。違<sub>ニ</sub>扞當<sub>ニ</sub>。代之法網。謂<sub>ニ</sub>犯<sub>ニ</sub>法禁<sub>ニ</sub>也。然其私義廉絜退讓。有<sub>ニ</sub>足稱<sub>スル</sub>。



傳險。呂尙困於棘津。

徐廣曰。在廣川。正義曰。尉繚子云。太公望行年七十。賣食棘津云。古亦謂之石濟津。故南津。

夷吾桎

梏。百里飯牛。仲尼畏匡。菜色陳蔡。此皆學士所謂有道仁人也。

猶然遭此蓄況。以中材而涉亂世之末流乎。其遇害何可勝道哉。

鄙人以下並譌言鄙人有言曰。何知仁義。已嚮其利者爲有德。

索隱曰。已音以。嚮音享。受也。言已受其利。

則爲有德。何知必仁義也。故伯夷醜周。餓死首陽山。而文武不以其故貶王。跖

躋暴戾。其徒誦義無窮。由此觀之。竊鉤者誅。

索隱曰。以言小竊。則爲盜而受誅也。竊國

者侯。侯之門仁義存。

索隱曰。言人臣委質於侯。門。則須存於仁義。若游俠徑挺。亦何必肯存仁義也。

非虛言也。今

拘學或抱咫尺之義。久孤於世。豈若卑論儕俗。與世沈浮而取

榮名哉。

索隱曰。言拘學守義之士。或抱咫尺纖微之事。遂久以當代孤負我志。而不若卑論齊俗以取榮寵也。

而布衣之徒。設取

予然諾。千里誦義。爲死不顧世。此亦有所長。非苟而已也。故士

此太史公

竊鉤者誅云云。方苞曰。語侯ノ門。必其仁義ヲ稱說スル者アリ。以テ世俗ノ毀譽懸ムニ足ラザルヲ見ハスナリ。語莊子ニ本ヅク。竊鉤者誅ハ。俠客ノ文罔ヲ捍スルニ喻フルナリ。竊國者侯ハ。弘湯上ナ誣ヒ民ヲ殘シ。以テ高位ヲ竊ムニ喻フルナリ。侯之門仁義存ハ。世人弘湯ノ醜ヲ知ラズ。而テ之ヲ稱美スルヲ譏ルナリ。今拘學或抱咫尺之義云。方苞曰。此拘學。

稱セラルルヲ謂フ、蓋  
俠客ノ獨リ儒墨ノ排擠  
スル所ト爲ルニ感ズル  
アルナリ。  
至如以術取宰相云云、  
方苞曰、功名俱ニ春秋  
ニ著ハルルハ、其行事  
具サニ國史ニ載スルヲ  
言フナリ、固ト言フベ  
キナシハ、鄒瑣齋  
フニ足ラザルナリ、蓋  
公孫弘張湯等ノ輩ヲ謂  
フ。

議。

正義曰。議。非言也。儒敝亂法。俠盛犯禁。二道皆非。而學士多稱於世者。故太史公引韓子。欲陳游俠之美。

而學士多稱於世云。至

如以術取宰相卿大夫。輔翼其世主。功名俱著於春秋。索隱曰。案春秋謂國

史也。以言人臣有功名。則見記。固無可言者。及若季次原憲閭巷人也。徐廣

於其國之史。是俱著春秋者也。固無可言者。及若季次原憲閭巷人也。徐廣

曰。仲尼弟子傳曰。公皙哀。讀書懷獨行君子之德。索隱曰。行

字季次。未嘗仕。孔子稱之。讀書懷獨行君子之德。音下孟反。義不苟合。當

世。當世亦笑之。故季次原憲終身空室蓬戶。正義曰。莊子云。原憲居魯。環堵之室。蓬戶不完。以桑

爲樞。而甕牖二室。上漏下濕。獨坐而弦歌。褐衣疏食不厭。死而已。索隱曰。厭。飽也。於豔反。四百餘年而

弟子志之不倦。今游俠。其行雖不軌於正義。然其言必信。其行

必果。已諾必誠。不愛其軀。赴士之阨困。既已存亡死生矣。索隱

而不矜其能。羞伐其德。蓋亦有足多者焉。且緩急人之所時。曰。阨

有也。太史公曰。昔者虞舜窘於井廩。伊尹負於鼎俎。傅說匿於

有也。太史公曰。昔者虞舜窘於井廩。伊尹負於鼎俎。傅說匿於

有也。太史公曰。昔者虞舜窘於井廩。伊尹負於鼎俎。傅說匿於

# 史記評林卷之一百二十四

## 游俠列傳第六十四

荀悅曰。立氣齊。作威福。結私交。以立彊於世者。謂之游俠。

陳仁子曰。游俠之名。蓋起于後之世。無道德之士耳。夫游者。行也。俠者。持也。輕生高氣。排難解紛。較諸古者道德之士。不動聲色。消天下之大變者。相去固萬萬。而君子諒之。亦曰其所遭者然耳。律其所爲。雖未必盡合於義。然使當時而無斯人。則袖手於焚溺之衝者。滔滔皆是。亦何薄哉。斯固亦孔子所謂殺身成仁者也。遷之傳此。其亦感於蠶室之禍乎。吾於此傳。可以觀人材。可以觀世變。

董份曰。史遷遭李陵之難。交游莫救。身坐法困。故感游俠之義。其辭多激。故班固譏進奸雄。此太史之過也。然咨嗟慷慨。感歎宛轉。其文曲至。百代之絕矣。

柯維騏曰。荀悅謂世有三游德之賊也。揚雄謂游俠竊國靈者也。太史公作傳。豈誠美其事哉。遷遭李陵之禍。平昔交游緘默自保。其視不愛其軀。赴士之厄困者何如。其言曰。誠使鄉曲之俠與季次原憲。比權量力。效功於當世。不同日而論。蓋有激也。此與貨殖傳同意。班固不原此意。乃譏其進奸雄而崇勢利誤矣。

韓子曰。儒以文亂法。

正義曰。言文之蔽小人。以僿。謂細碎苛法亂政。

而俠以武犯禁。二者皆

二者皆譏云云、方苞曰、  
二者實二皆譏ルベシ、  
而テ學士ハ則多ク世ニ



又曰。按太史公云。張騫使大夏窮河源。惡睹本紀所謂崑崙者乎。嗚呼太史公之論善矣。然後世展轉浩襲之妄。又豈止太史公所闢而已哉。蓋自是有譯西域書爲中國語者。又因崑崙之說。附會之爲須彌山。亦謂日月相避隱爲光明。而更加張大。謂周須彌之山爲世界者。凡四。日所至爲晝。而去之則爲夜。然天下安有是理哉。若果如崑崙須彌之說。則日月之避隱相等齊。安從而有晝夜長短之分。日月之避隱常不相見。安從而有晦望交蝕之異。日常滿。月亦當常滿。安從而月有虧盈進退之不同。出沿山之東。入循山之西。其地皆遠。當僅見日輪之隱約。日之方中。居山之腹。其地獨近。當尤見日輪之顯大。今日之出沒。皆見其紅而大。日之方中。獨見其淡而小。何也。豈近反見其小。而遠反見其大耶。日東循山而天下曉。當以地里之遠近漸次而曉。日西轉山而天下昏。當以地里之遠近漸次而昏。營之東日出以寅。則幽之西當以午。幽之西日沒以酉。則營之東當在晝。今地里不問遠近。出沒皆以寅酉何也。豈避隱不以漸行。或晝夜不係日月耶。夫日月東浮而西沈。日行速而月行遲。朔望有定。寒暑無差。交會剝蝕皆可預計。吾儒曆法盡之矣。彼爲崑崙須彌之說者。雖從西域來。實皆譯之者。附會中國非聖之書。以張大之。而不復計其事之實也。余故因太史公斥崑崙之說而併及之。

## 史記評林卷之一百二十三終

所相避隱爲光明也。其上有醴泉瑤池。今自張騫使大夏之後也。窮河源。惡睹本紀所謂崑崙者乎。

鄧展曰。漢以窮河源於何見崑崙乎。尙書曰。導河積石。是爲河源。出於積

石。積石在金城河關。不言出於崑崙也。○索隱曰。惡音烏。烏於何也。睹見也。言張騫窮河源。至大夏于實。於何見河出崑崙乎。謂禹本紀及山海經爲虛妄也。然案山海經河出崑崙東北隅。西域傳云。南出積石山爲中國河。積石本非河之發源。猶尙書導洛自熊耳。然其實出於蔥嶺山。乃東經熊耳。今推此義。河亦然矣。則河源本崑崙。而潛流至于闐。又東流至積石。始入中國。則山海經及禹貢各互舉耳。故言九州山川尙書近之矣。至禹本紀山海經所有

怪物。余不敢言之也。

索隱曰。案漢書作所有放哉。如淳云。放蕩迂闊。言不可信也。余不敢言者。亦謂山海經難可卽信耳。而苟悅作放效失之

矣。

索隱述贊曰。大宛之迹。元因博望始究河源。旋窺海上。條枝西入。天馬內向。蔥嶺無塵。鹽池息浪。曠哉絕域。往往亭障。

黃震曰。甚矣小人逢君之惡何甚也。漢欲通西南夷。費多道不通。嘗罷之矣。張騫言可通大夏。天子復欣然爲之。是窮民西南之禍。不在漢武而在張騫。然騫從月氏至大夏。竟不得月氏要領。其後復使烏孫。亦不得其要領。閉關萬里。困苦終身。騫果何利于此。自是弃骨肉于萬里外。以妻烏孫。自是沒士馬于萬里外。以取宛馬。天下騷動。耗費鉅萬萬。騫又果何利于漢。嗚呼甚矣。小人逢君之惡者。不可曉也。

余不敢言也。注索隱、札記卽信ノ卽、放效ノ放ナシ、失之ノ下素字アリ。

石者百餘人。千石以下千餘人。奮行者官過其望。

漢書音義曰。奮迅自樂入行者。

以適過行者皆紕其勞。

徐廣曰。奮行者及以適行者。雖俱有功勞。今行賞計其前有罪而減其賜。故曰紕其勞也。紕抑退也。此本以適

行。故功勞不足重。所以紕降之。不得與奮行者齊賞之。

士卒賜直四萬金。伐宛再反。凡四歲而得

罷焉。漢已伐宛。立昧蔡爲宛王而去。歲餘。宛貴人以爲昧蔡善

諛。使我國遇屠。乃相與殺昧蔡。立母寡昆弟曰蟬封爲宛王。而

遣其子入質於漢。漢因使使賂賜以鎮撫之。而漢發使十餘輩。

至宛。西諸外國求奇物。因風覽以伐宛之威德。而燉煌置酒泉

都尉。

徐廣曰。一本無置字。一云置都尉。又云燉煌有淵泉縣。或者酒字當爲淵字。

西至鹽水。往往有亭。而命頭

有田卒數百人。因置使者護田積粟。以給使外國者。

太史公曰。禹本紀言河出崑崙。崑崙其高二千五百餘里。日月



欲殺莫敢先擊。上邽騎士趙弟最少。拔劍擊之。斬郁成王齋頭。  
 弟桀等逐及大將軍。初貳師後行。天子使使告烏孫。大發兵并  
 力擊宛。烏孫發二千騎往。持兩端不肯前。貳師將軍之東諸所  
 過小國聞宛破。皆使其子弟從軍入獻見天子。因以爲質焉。貳  
 師之伐宛也。而軍正趙始成力戰功最多。及上官桀敢深入。李  
 哆爲謀計。軍入玉門者萬餘人。軍馬千餘匹。貳師後行。軍非乏  
 食。戰死不能多。而將吏貪多。不愛士卒。侵牟之。以此物故衆。天  
 子爲萬里而伐宛。不錄過。封廣利爲海西侯。又封身斬郁成王  
 者騎士趙弟爲新時侯。軍正趙始成爲光祿大夫。上官桀爲少  
 府。李哆爲上黨太守。軍官吏爲九卿者三人。諸侯相郡守二千

其善馬數十匹。中馬以下牡牝三千餘匹。而立宛貴人之故待

遇漢使善者名昧蔡索隱曰。昧蔡。大宛將。昧音末。蔡先葛反。以爲宛王。與盟而罷兵。終

不得入中城。乃罷而引歸。初貳師起燉煌西。以爲人多。道上國

不能食。乃分爲數軍。從南北道。校尉王申生。故鴻臚壺充國等

千餘人。別到郁成。郁成城守。不肯給食其軍。王申生去大軍二

百里。偵而輕之。責郁成。郁成食不肯出。窺知申生軍日少。晨用

三千人。攻戮殺申生等。軍破。數人脫亡走貳師。貳師令搜粟都

尉上官桀往攻破郁成。郁成王亡走康居。桀追至康居。康居聞

漢已破宛。乃出郁成王予桀。桀令四騎士縛守詣大將軍。如淳

多別將。故謂貳

師爲大將軍。

四人相謂曰。郁成王漢國所毒。今生將去。卒失大事。

偵而輕之、札記雜誌云、  
漢書偵ヲ負ニ作ル、師  
古曰、特ナリ、則偵乃  
偵ノ譌ナリ、偵ハ負ト  
同ジ。

恐走入中城。宛貴人相與謀曰。漢所爲攻宛。以王母寡匿善馬。而殺漢使。今殺王母寡。而出善馬。漢兵宜解。卽不解。乃力戰而死。未晚也。宛貴人皆以爲然。共殺其王母寡。持其頭。遣貴人使貳師。約曰。漢毋攻我。我盡出善馬。恣所取。而給漢軍食。卽不聽。我盡殺善馬。而康居之救且至。至我居內。康居居外。與漢軍戰。漢軍熟計之。何從是時。康居候視漢兵。漢兵尙盛。不敢進。貳師與趙始成李哆等計。聞宛城中新得秦人。知穿井。而其內食尙多。所爲來誅首惡者。母寡。母寡頭已至。如此而不許解兵。則堅守。而康居候漢罷而來救宛。破漢軍必矣。軍吏皆以爲然。許宛之約。宛乃出其善馬。令漢自擇之。而多出食。食給漢軍。漢軍取



乃遣水工徙其城下水。空以空其城。

徐廣曰。空一作穴。蓋以水蕩敗其城也。言空者。令城中渴乏。

益

發戍甲卒十八萬。酒泉張掖北。置居延休屠。以衛酒泉。

如淳曰。立二縣以衛

邊也。或曰。置一部

而發天下七科。適及載糒給貳師。

正義曰。適音謫。張晏云。吏有罪一亡命二。

都尉以衛酒泉。

贊壻三。賈人四。故有市藉五。父母有市藉六。大父母有藉凡七科。武帝天漢四年。發天下七科謫出朔方也。

轉車人徒相連屬至燉煌。

而拜習馬者二人爲執驅校尉。備破宛。擇取其善馬云。於是貳

又復前案

師後復行。兵多而所至小國莫不迎。出食給軍。至命頭。命頭不

下。攻數日屠之。自此而西。平行至宛城。漢兵到者三萬人。宛兵

迎擊漢兵。漢兵射敗之。宛走入葆。乘其城。貳師兵欲行攻郁成。

恐畱行而令宛益生詐。乃先至宛。決其水源移之。則宛固已憂

困。圍其城攻之四十餘日。其外城壞。虜宛貴人勇將煎靡。宛大

不過什一二。使使上書言：道遠多乏食。且士卒不患戰患饑。人少不足以拔宛。願且罷兵，益發而復往。天子聞之大怒，而使使遮玉門，曰：「軍有敢入者，輒斬之。」貳師恐，因畱燉煌。其夏，漢亡浞野之兵二萬餘於匈奴。

徐廣曰：太初二年，趙破奴爲浞稽將軍，二萬騎擊匈奴不還也。

公卿及議者皆

願罷擊宛軍，專力攻胡。天子已業誅宛，宛小國而不能下，則大

夏之屬輕漢，而宛善馬絕不來。烏孫命頭易苦漢使矣。

晉灼曰：易，輕。

爲外國笑。乃案言伐宛，尤不便者，鄧光等赦囚徒材官，益發惡

少年及邊騎，歲餘而出燉煌者六萬人，負私從者不與，牛十萬。

馬三萬餘匹，驢騾橐它

一本作駝

以萬數，多齎糧。兵弩甚設，天下騷動。傳

相奉伐宛，凡五十餘校尉。宛王城中無井，皆汲城外流水。於是

彊弩射之。卽盡虜破宛矣。天子已嘗使浞野侯攻樓蘭。以七百  
 騎先至。虜其王。以定漢等言爲然。而欲侯寵姬李氏。拜李廣利  
 爲貳師將軍。發屬國六千騎。及郡國惡少年數萬人。以往伐宛。  
 期至貳師城。取善馬。故號貳師將軍。趙始成爲軍正。故浩侯王  
 恢使導軍。徐廣曰。恢先受封一年。而李哆爲校尉。制軍事。索隱曰。哆音尺  
奢反。又尺者反。

是歲。太初元年也。而關東蝗大起。蜚西至燉煌。貳師將軍軍旣  
 西過鹽水。當道小國恐。各堅城守。不肯給食。攻之不能下。下者  
 得食。不下者數日則去。比至郁成。士至者不過數千。皆饑罷。攻  
 郁成。郁成大破之。所殺傷甚衆。貳師將軍與哆始成等計。至郁  
 成。尙不能舉。況至其王都乎。引兵而還。往來二歲。還至燉煌。士



使ニ從フヲ言フナリ、  
事班固ノ弟仲升ニ與フ  
ル書ニ見ユ、ヘ余有丁曰、  
進熱、或ハ是レ進見シ  
テ天子ニ熱ス、故ニ以  
テ言ヲ進ムルヲ得、注  
熱美ノ說、未ダ必然ヲ  
ザルナリ。

肯<sup>ゼ</sup>與<sup>ル</sup>漢<sup>ノ</sup>使<sup>ニ</sup>天子既好宛馬<sup>ヲ</sup>聞<sup>キ</sup>之<sup>ヲ</sup>甘心<sup>シ</sup>使壯士車令等<sup>ナシテシテ</sup>持<sup>テ</sup>千金及<sup>ビ</sup>

金馬<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>請<sup>ハ</sup>宛王<sup>ニ</sup>貳師城善馬<sup>ヲ</sup>宛國饒漢物<sup>ニ</sup>相與謀<sup>テ</sup>曰漢去我遠<sup>ル</sup>

而鹽水中數敗<sup>ル</sup>

服虔曰水名道從水中行如淳曰道絕遠無穀草○正義曰孔文祥云鹽鹽澤也言水廣遠或致風波而數敗也裴矩西域記云在西州

高昌縣東東南去瓜州一千三百里並沙磧之地水草難行四面危道路不可准記行人唯以人畜骸骨及駝馬糞爲標驗以其地道路惡人畜即不約行曾有人於磧內時聞人喚聲不見形亦有歌哭聲數失人瞬息之間不知所在由此數有死亡蓋魍魎魍魎也

出其北有胡寇出其南乏水草又

且往往而絕邑乏食者多漢使數百人爲輩來而常乏食死者

過半是安能致大軍乎無奈我何且貳師馬宛寶馬也遂不肯

予漢使漢使怒妄言椎金馬而去

如淳曰罵詈

宛貴人怒曰漢使至

輕我遣漢使去令其東邊郁成遮攻殺漢使取其財物於是天

子大怒諸嘗使宛姚定漢等言宛兵弱誠以漢兵不過三千人

出<sup>ス</sup>幣帛<sup>ニ</sup>不得<sup>レ</sup>食。不<sup>レ</sup>市<sup>ハ</sup>畜<sup>ヲ</sup>不得<sup>レ</sup>騎<sup>ス</sup>用。所以<sup>ニ</sup>然<sup>ル</sup>者遠<sup>ト</sup>漢<sup>ヲ</sup>而漢多<sup>シ</sup>財物。

故<sup>ニ</sup>必<sup>ヒ</sup>市<sup>ヒ</sup>乃得<sup>テ</sup>所<sup>ス</sup>欲<sup>ル</sup>。然<sup>ル</sup>以<sup>テ</sup>畏<sup>ル</sup>匈<sup>ニ</sup>奴<sup>ヲ</sup>於<sup>リ</sup>漢<sup>ニ</sup>使<sup>ス</sup>焉。宛<sup>ノ</sup>左<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>蒲<sup>ノ</sup>陶<sup>ヲ</sup>爲<sup>ル</sup>酒。

富人藏<sup>ス</sup>酒<sup>ヲ</sup>至<sup>ル</sup>萬餘石。久<sup>キ</sup>者數<sup>ハ</sup>十歲不<sup>レ</sup>敗。俗嗜<sup>ム</sup>酒。馬嗜<sup>ム</sup>苜蓿。漢使

取<sup>リ</sup>其<sup>ノ</sup>實<sup>ヲ</sup>來<sup>ル</sup>。於<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>天<sup>ノ</sup>子始<sup>テ</sup>種<sup>ウ</sup>苜蓿。蒲陶肥饒<sup>シ</sup>地。及<sup>ビ</sup>天<sup>ノ</sup>馬多<sup>キ</sup>。外<sup>ノ</sup>國使

來<sup>ル</sup>衆<sup>ク</sup>則離<sup>レ</sup>宮別<sup>ニ</sup>觀<sup>ヲ</sup>旁<sup>ヲ</sup>盡<sup>ク</sup>種<sup>エ</sup>蒲<sup>ノ</sup>萄<sup>ノ</sup>苜蓿<sup>ヲ</sup>極<sup>ム</sup>望<sup>ヲ</sup>。自<sup>ニ</sup>大<sup>ノ</sup>宛<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>西<sup>ニ</sup>至<sup>リ</sup>安<sup>ノ</sup>息

國<sup>ニ</sup>雖<sup>モ</sup>頗<sup>ル</sup>異<sup>ニ</sup>言<sup>ヲ</sup>。然<sup>レ</sup>大<sup>ニ</sup>同<sup>ニ</sup>俗<sup>ヲ</sup>相<sup>ニ</sup>知<sup>ル</sup>言<sup>ヲ</sup>。其<sup>ノ</sup>人皆深<sup>シ</sup>眼<sup>ヲ</sup>。多<sup>シ</sup>鬚<sup>ヲ</sup>頤<sup>ヲ</sup>。善<sup>ク</sup>市<sup>ヲ</sup>賈<sup>ヲ</sup>爭<sup>フ</sup>。

分<sup>ニ</sup>銖<sup>ヲ</sup>。俗<sup>ニ</sup>貴<sup>ニ</sup>女<sup>ヲ</sup>子<sup>ヲ</sup>。女<sup>ノ</sup>子所<sup>ニ</sup>言<sup>フ</sup>而<sup>シテ</sup>丈<sup>ノ</sup>夫乃決<sup>ス</sup>正<sup>ヲ</sup>。其<sup>ノ</sup>地皆無<sup>ニ</sup>絲<sup>ヲ</sup>漆<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>知<sup>ル</sup>。

鑄<sup>ル</sup>錢<sup>ヲ</sup>器<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。多作錢字。又或作鐵字。及<sup>ビ</sup>漢使<sup>シ</sup>亡<sup>シ</sup>卒<sup>ヲ</sup>降<sup>ル</sup>。教<sup>フ</sup>鑄<sup>ニ</sup>作<sup>ス</sup>他<sup>ノ</sup>兵<sup>ヲ</sup>器<sup>ヲ</sup>得<sup>レ</sup>漢<sup>ノ</sup>黃<sup>ノ</sup>白<sup>ノ</sup>。

金<sup>ヲ</sup>輒<sup>チ</sup>以<sup>テ</sup>爲<sup>ル</sup>器<sup>ヲ</sup>。不<sup>ニ</sup>用<sup>テ</sup>爲<sup>ル</sup>幣<sup>ヲ</sup>。而漢使<sup>シ</sup>者往<sup>ク</sup>既<sup>ニ</sup>多<sup>シ</sup>。其<sup>ノ</sup>少<sup>ノ</sup>從<sup>ニ</sup>率<sup>ヲ</sup>多<sup>ク</sup>進<sup>ム</sup>熟<sup>ヲ</sup>於<sup>ニ</sup>。

天<sup>ノ</sup>子。漢書音義曰。少從。不如計也。或云。從行之微者也。進熟美語。如成熟者也。言<sup>フ</sup>曰。宛<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>善<sup>ノ</sup>馬<sup>ヲ</sup>在<sup>ニ</sup>貳<sup>ノ</sup>師<sup>ノ</sup>城<sup>ニ</sup>。匿<sup>シ</sup>不<sup>レ</sup>。

其少從率多進熟於天子、顏師古曰、漢時使二隨ヒテ外國ニ出ル者ヲ謂ツテ少從ト爲ス、總テ其少年ニシテ而テ

黎軒故人四字ヲ出ス、  
善字ナキ明ナリ。

名倉庫府藏、札記云、  
名字誤ナリ、當ニ漢書  
ニ從ヒ各ニ作ルベシ。

大益宛東姑師扞采蘇薤之屬。皆隨漢使獻見天子。天子大悅。  
而漢使窮河源。河源出于寘。其山多玉石。采來。  
瓊曰漢使采取  
將持來至漢。天

子案古圖書名河所出山曰崑崙云。是時上方數巡狩海上。乃

悉從外國客。大都多人則過之。散財帛以賞賜。厚具以饒給之。

以覽示漢富厚焉。於是大觥抵出奇戲。諸怪物多聚觀者。行賞

賜酒池肉林。令外國客徧觀名倉庫府藏之積。見漢之廣大。傾

駭之。及加其眩者之工。而觥抵奇戲歲增變。甚盛益興自此始。

西北外國使更來更去。宛以西皆自以遠。尙驕恣晏然。未可詘

以禮。羈縻而使也。自烏孫以西至安息。以近匈奴。匈奴困月氏。  
又洗發一層

也。匈奴使持單于一信。則國國傳送食。不敢畱苦。及至漢使。非



使<sup>シテ</sup>

徐廣曰。爲<sup>ニ</sup>中郎將<sup>一</sup>。

爲<sup>ル</sup>樓蘭所<sup>ト</sup>苦<sup>ム</sup>。言<sup>フ</sup>天子<sup>ニ</sup>。天子發<sup>レ</sup>兵<sup>ヲ</sup>。令<sup>ム</sup>恢佐<sup>ニ</sup>破<sup>テ</sup>奴擊<sup>テ</sup>破<sup>ル</sup>

之<sup>ヲ</sup>封<sup>シテ</sup>恢爲<sup>ニ</sup>浩侯<sup>一</sup>。

徐廣曰。捕得車師王<sup>一</sup>。元封四年封<sup>ニ</sup>浩侯<sup>一</sup>。

於是酒泉列<sup>ニ</sup>亭鄣<sup>一</sup>。至<sup>ニ</sup>玉門<sup>一</sup>矣。昭

曰。玉門關。在龍勒界。○索隱曰。韋昭又云。玉門。縣名。在酒泉。○正義曰。括

地志云。沙州龍勒山。在縣南百六十五里。玉門關。在縣西北百一十八里。

馬<sup>ヲ</sup>聘<sup>ス</sup>漢女<sup>ヲ</sup>。漢遣<sup>リ</sup>宗室女江都翁主<sup>ヲ</sup>往<sup>ニ</sup>妻<sup>ニ</sup>烏孫<sup>一</sup>。

漢書曰。江

都王建女<sup>一</sup>。烏孫王

昆莫以爲<sup>ニ</sup>右夫人<sup>一</sup>。匈奴亦遣<sup>リ</sup>女妻<sup>ニ</sup>昆莫<sup>一</sup>。昆莫以爲<sup>ニ</sup>左夫人<sup>一</sup>。昆莫

曰。我老。乃令<sup>ニ</sup>其孫岑娶<sup>ニ</sup>翁主<sup>一</sup>。烏孫多馬。其富人至有<sup>ニ</sup>四五千

匹馬<sup>一</sup>。初漢使至<sup>ニ</sup>安息<sup>一</sup>。安息王令<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>二萬騎<sup>一</sup>迎<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>東界<sup>一</sup>。東界去<sup>ニ</sup>王

都<sup>ニ</sup>數千里<sup>一</sup>。行<sup>ニ</sup>比至<sup>一</sup>。過<sup>ニ</sup>數十城<sup>一</sup>。人民相屬甚多。漢使還<sup>ニ</sup>而後發<sup>一</sup>使

隨<sup>ニ</sup>漢使<sup>一</sup>來<sup>ニ</sup>觀<sup>ニ</sup>漢廣大<sup>一</sup>。以<sup>ニ</sup>大鳥卵<sup>一</sup>。及黎軒善眩人<sup>ヲ</sup>獻<sup>ニ</sup>于漢<sup>一</sup>。

索隱曰。韋昭云。

眩人。變化惑人也。魏略云。黎軒多奇幻。口中吹火。自縛自解。小

顏亦以爲<sup>ニ</sup>今之吞刀吐火植瓜種樹屠人截馬之術皆是也<sup>一</sup>。

及宛西小國驩潛

黎軒善眩人。札記雜志云。後人上文善眩ト云。ナ以テ善字ヲ加フ。漢書張騫傳ナシ。索隱本

樓蘭姑師注即車師、錢大昕曰、車姑聲相近シ。

吏卒亦輒復盛推外國所有言大者予節言小者爲副故妄言

無行之徒皆爭效之其使皆貧人子私縣官齎物欲賤市以私

其利外國外國亦厭漢使人人有言輕重服虔曰漢使言於外國人人輕重不實如淳曰外國人人

自言數爲漢使所侵易度漢兵遠不能至而禁其食物以苦漢使漢使之絕

積怨至相攻擊而樓蘭姑師小國耳徐廣曰當空道攻劫漢使

王恢等尤甚徐廣曰恢一作怪而匈奴奇兵時時遮擊使西國者使者爭

徧言外國災害皆有城邑兵弱易擊於是天子以故遣從驃侯

破奴將屬國騎及郡兵數萬至匈河水欲以擊胡胡皆去其明

年擊姑師破奴與輕騎七百餘先至虜樓蘭王遂破姑師因舉

兵威以困烏孫大宛之屬還封破奴爲浞野侯徐廣曰元封三年王恢數

曰。欲地界相  
接至大夏。

乃遣使柏始昌。呂越人等。歲十餘輩出此初郡。

索隱曰。初郡。謂

越嶲。汝山等郡也。謂之初郡。後皆叛而併廢之也。

抵大夏。皆復閉昆明。爲所殺。奪幣財。終莫能

通至大夏焉。於是漢發三輔罪人。因巴蜀士數萬人。遣兩將軍

郭昌衛廣等。往擊昆明之遮漢使者。

徐廣曰。元封二年。

斬首虜數萬人而

去。其後遣使。昆明復爲寇。竟莫能得通。而北道酒泉抵大夏。使

者既多。而外國益厭漢幣。不貴其物。自博望侯開外國道。以尊

貴其後從吏卒皆爭上書言外國奇怪利害。求使。天子爲其絕

遠非人所樂往。聽其言。予節募吏民。毋問所從來。爲具備人衆。

遣之以廣其道。來還不能毋侵盜幣物。及使失指。天子爲其習

之。輒覆案致重罪。以激怒令贖。復求使。使端無窮。而輕犯法。其

募吏民毋問所從來、顏  
師古曰、遠近禁限ス  
ルヲ爲サズ、家人私隸  
ト雖モ、並ニ募ニ應ズ  
ルヲ許ス。



二鳥孫馬ヲ獻ズルニ因  
テ、預メ後宛馬ヲ得ル  
ニ入ル、以テ中間ノ關  
鍵ト爲ス、而テ鳥孫ニ  
通ズルハ、乃騫ノ本謀  
ナリ、故ニ特ニ自博望  
侯死後ヲ書シ、鬲首ト  
相應ズ、然ル後首尾脈  
絡併テ相貫通ス。  
若出其南注漢書作及、  
札記云、今漢書適ニ作  
ル、徐據ル所ノ本、蓋  
乃字ノ譌ナリ。

意義亦  
及也。

鳥孫乃恐。使使獻馬。願得尙漢女翁主。爲昆弟。天子問

羣臣議計。皆曰。必先納聘。然後乃遣女。初天子發書易云。

駟案  
漢書

音義曰。發。神馬當從西北來。得鳥孫馬好。名曰天馬。及得大宛汗

血馬益壯。更名鳥孫馬曰西極。名大宛馬曰天馬云。而漢始築

令居以西。徐廣曰。初置酒泉郡。以通西北國。因益發使抵安息。

節節應前

奄蔡。黎軒。條枝。身毒國。而天子好宛馬。使者相望於道。諸使外

國一輩。大者數百。少者百餘人。人所齎操。大放博望侯時。其後

益習而衰少焉。漢率一歲中。使多者十餘。少者五六輩。遠者八

九歲。近者數歲而反。是時漢既滅越。而蜀西南夷皆震。請吏入

朝。於是置益州。越雋。牂牁。沈黎。汶山郡。欲地接以前。通大夏。

李奇

塞因分遣副使云云、方苞曰、大宛ノ跡、塞月氏ニ使スルヨリ見ハル、其兵端ハ、西北國ニ使スル者宛善馬多シト稱スルニ起ル、故ニ此ヲ用テ關鍵ト爲ス。竊窺知其廣大、札記云、中統本吳板金板、窺漢地廣大ニ作ル。

鑿空注鑿開空通也、札記云、游本開空倒ス。

自博望侯塞死後、方苞曰、此篇、前半ハ使チ北國ニ通ズルヲ記ス、後半ハ通使チ以テ兵端ヲ起スヲ記シ、而テ宛ヲ伐ツニ終ル、故

應上國分衆分爲三。而其大總取屬昆莫。昆莫亦以此不敢專約於塞。

塞因分遣副使。使大宛。康居。大月氏。大夏。安息。身毒。于賓。扞采。

及諸旁國。烏孫發導譯送。塞還。塞與烏孫遣使數十人。馬數十

匹。報謝。因令窺漢。知其廣大。塞還到。拜爲大行。列於九卿。歲餘

卒。烏孫使既見漢人衆富厚。歸報其國。其國乃益重漢。其後歲

餘。塞所遣使通大夏之屬者。皆頗與其人俱來。於是西

北國始通於漢矣。然張騫鑿空。

也。其後使往者。皆稱博望侯以爲質於外國。

喻外國。李奇曰。質。信也。外國由此信之。自博望侯塞死後。匈奴聞漢通烏孫。

怒欲擊之。及漢使烏孫。若出其南。抵大宛。大月氏相屬。

徐廣曰。漢書作及。若。

蘇林曰。鑿。開。空。通也。塞開通西域道。○索隱曰。案謂西域險阨本無道路。今鑿空而通之。

如淳曰。質。誠信也。博望侯有誠信。故後使稱其意以

晉灼曰。其國人。於是西

近接

結

書作及。若。

烏孫王昆莫見漢使如單于禮。騫大慙。知蠻夷貪。乃曰。天子致  
 賜。王不拜。則還賜。昆莫起拜。賜其他如故。騫諭使指曰。烏孫能  
 東居渾邪地。則漢遣翁主爲昆莫夫人。烏孫國分。王老而遠漢。  
 未知其大小。素服屬匈奴日久矣。且又近之。其大臣皆畏胡。不  
 欲移徙。王不能專制。騫不得其要領。昆莫有十餘子。其中子曰  
 大祿。彊善將衆。將衆別居萬餘騎。大祿兄爲太子。太子有子曰  
 岑娶。而太子蚤死。臨死謂其父昆莫曰。必以岑娶爲太子。無令  
 他人代之。昆莫哀而許之。卒以岑娶爲太子。大祿怒其不得代。  
 太子也。乃收其諸昆弟。將其衆畔。謀攻岑娶及昆莫。昆莫老常  
 恐大祿殺岑娶。予岑娶萬餘騎。別居。而昆莫有萬餘騎。自備。國



守於西城、札記雜志云、  
城亦城ノ譌ナリ。

曰。讀嘽與銜同。酷吏傳。義縱不治道。上忿銜之。狼往乳之。單于怪以爲神。而收

史記亦作嘽字。○索隱曰。嘽音銜。蜚亦飛字。

長之。及壯。使將兵。數有功。單于復以其父之民予昆莫。令長守  
於西城。昆莫收養其民。攻旁小邑。控弦數萬。習攻戰。單于死。昆  
莫乃率其衆遠徙。中立不肯朝會匈奴。匈奴遣奇兵擊。不勝。以  
爲神而遠之。因羈屬之。不大攻。今單于新困於漢。而故渾邪地  
空無人。蠻夷俗貪漢財物。今誠以此時而厚幣賂烏孫。招以益  
東。居故渾邪之地。與漢結昆弟。其勢宜聽。聽則是斷匈奴右臂  
也。既連烏孫。自其西大夏之屬。皆可招來而爲外臣。天子以爲  
然。拜騫爲中郎將。將三百人。馬各二匹。牛羊以萬數。齎金幣帛。  
直數千巨萬。多持節副使。道可使使遺之。他旁國。騫既至烏孫。

之。及張騫言復結轉可以通大夏。乃復事西南夷。騫以校尉從大將軍

擊匈奴。知水草處。軍得以不乏。乃封騫為博望侯。索隱曰。案張騫封號耳。非地名。小顏

云。取其能博廣瞻望也。尋武帝置博望苑亦取新義也。○正義曰。地理志。南陽博望縣。是歲。元朔六年也。其明年。騫為

衛尉。與李將軍俱出右北平。擊匈奴。匈奴圍李將軍。軍失亡多。

而騫後期。當斬。贖為庶人。是歲。漢遣驃騎破匈奴西城數萬人。

至祁連山。其明年。渾邪王率其民降漢。而金城河西。西並南山

至鹽澤。空無匈奴。匈奴時有候者到而希矣。其後二年。漢擊走

單于於幕北。是後。天子數問騫。大夏之屬。騫既失侯。因言曰。臣

居匈奴中。聞烏孫王號昆莫。昆莫之父。匈奴西邊小國也。匈奴

攻殺其父。索隱曰。漢書父名難兜靡為大月氏所殺。而昆莫生棄於野。烏嚙肉蜚其上。徐廣

破匈奴西城數萬人、札  
記雜志云、城當ニ城字  
ノ誤ト爲スベシ、漢書  
破匈奴西邊殺數萬人ニ  
作ル、史殺字ヲ脱ス。

之屬。兵彊。可以賂遺設利朝也。且誠得而以義屬之。則廣地萬

里。重九譯。

正義曰。言重重九遍譯語而致。

致殊俗。威德徧於四海。天子欣然以騫

言爲然。乃令騫因蜀犍爲。

正義曰。犍其連反。犍爲郡。今戎州也。在益州南一千餘里。

發間使四道立

出出驪。出冉出徙。

徐廣曰。屬漢嘉。○索隱曰。李奇云。徙音斯。蜀郡有徙縣。○正義曰。茂州向州等冉驪之地。在戎州西北也。

出邛樊。

正義曰。樊蒲北反。徙在嘉州。邛。今邛州。樊。今雅州。皆在戎州西南也。

皆各行一二千里。其北方閉氏笮。

服虔曰。皆

夷名。漢使見閉於夷也。○索隱曰。韋昭云。笮縣屬越嶲。音昨。案南越破後殺笮侯。作笮都。爲沈黎郡。又有定笮縣。○正義曰。氏。今成州及武等州也。笮。白菟羌也。皆在戎州西北也。南

方閉嵩昆明。

正義曰。嵩州及南昆明夷也。皆在戎州西南。

昆明之屬無君長。善寇盜。輒殺

略漢使。終莫得通。然聞其西可千餘里有乘象國。名曰滇越。

徐廣

曰。一作城。○正義曰。昆明等州皆滇國也。其西南滇越越嶲。則通號越。細分而有嵩滇等名也。

而蜀賈姦出物者或至焉。於

是漢以求大夏道。始通滇國。初漢欲通西南夷。費多。道不通。罷

閉氏笮注正義白菟羌  
札記狗子狗二作ル。



注以指畫名、札記名  
石ニ作ル、云フ石ナ名  
ニ譌ス、錢警石水經注  
ニ依テ改ム。

罪悅祇國。其國靈鷲山。胡語曰。耆闍崛山。山是青石。石頭似鷲鳥名。耆闍鷲也。崛山。石也。山周四十里。外周圍水。佛於此坐禪。及諸阿難等俱在此坐。又云。小孤石。石上有石室者。佛坐其中。天帝釋以四十二事問佛。佛一一以指畫名。其跡尙存。又於山上起塔。佛昔將阿難在此。上山四望。見福田疆畔。因制七條衣。割截之法於此。今袈裟衣是也。

騫曰。臣

在大夏時。見邛竹杖蜀布。

正義曰。邛都邛山出此竹。因名邛竹。節高實中。或奇生可爲杖。布土蘆布。

問曰。安得

此。大夏國人曰。吾賈人往市之。身毒。身毒在大夏東南可數千

賈一本作國

里。其俗土著。大與大夏同。而卑濕暑熱云。其人民乘象以戰。其

國臨大水焉。

正義曰。大水。河也。

以騫度之。大夏去漢萬二千里。居漢西南。

今身毒國。又居大夏東南數千里。有蜀物。此其去蜀不遠矣。今

使大夏從羌中險。羌人惡之。少北則爲匈奴所得。從蜀宜徑。

如淳

曰。徑。疾也。或曰。徑。直。

又無寇。天子既聞大宛及大夏安息之屬皆大國。多奇

物。土著。頗與中國同業。而兵弱。貴漢財物。其北有大月氏康居

藍市城、札記云、毛本  
市ナ氏ニ作ル、後漢書  
ト合ス、漢書藍氏城ニ  
作ル。

身華國注身或作藍、札  
記訛ナ乾ニ作ル、臨兒  
國ニフ疑フ誤アラシ、  
隨地ナ鹽地ニ作ル、云  
フ官本鹽、各本隨ニ訛  
ス、即經稱河者也、云  
フ河上當ニ恆字ナ脱ス  
ベシ、置役驢馬、云フ役  
字疑フ誤ル、思飲見佛、  
札記飲ナ欲ニ作ル、云  
フ欲ナ飲ニ訛ス、今正  
ス。

氏西徙。攻敗之。皆臣畜。大夏。大夏民多可百餘萬。其都曰藍市城。有市販賣諸物。其東南有身毒國。

徐廣曰。身或作乾。又作訖。○索隱曰。身音乾。毒音篤。孟康云。即天竺也。所

謂浮圖胡也。○正義曰。一名身毒。在月氏東南數千里。俗與月氏同。而卑濕暑熱。其國臨大水。乘象以戰。其民弱。月氏修浮圖道。不殺伐。遂以成俗。土有象犀。璚瑁金銀鐵錫鉛。西與大秦通。有大秦珍物。明帝夢金人長大。頂有光明。以問羣臣。或曰。西方有神。名曰佛。其形長丈六尺。而黃金色。帝於是遣使天竺。問佛道。法遂至中國。畫形像焉。萬震南州志云。地方三萬里。佛道所出。其國王居城郭殿。皆彫文刻鏤。街曲市里。各有行列。左右諸大國凡十六。皆共奉之。以天地之中也。浮屠經云。臨兒國王生隱屠太子。父曰屠頭邪。母曰莫邪屠。身色黃。髮如青絲。乳有青色。爪赤如銅。始莫邪夢白象而孕。及生。從母右脅出生。有髮。隨地能行七步。又云。太子生時有二龍王。夾左右吐水。一龍水暖。一龍水冷。遂成二池。今猶一冷一暖。初行七步。處琉璃上。有太子腳跡。見在。生處名祇洹精舍。在舍衛國南四里。是長者須達所起。又有阿輸迦樹。是夫人所攀生。太子樹也。括地志云。沙祇大國。即舍衛國也。在月氏南萬里。即波斯匿王浚處。此國共九十種。知身後事。城有祇樹給孤園。又云。天竺國有東西南北中央。天竺國。國方三萬里。去月氏七千里。大國隸屬凡二十。天竺在崑崙山南。大國也。治城臨恆水。又云。阿耨達山亦名建末達山。亦名崑崙山。水出。一名拔扈利水。一名恆伽阿。即經稱河者也。自崑崙山以南。多是平地。而下濕。土肥良。多種稻。歲四熟。置役馳馬。米粒亦極大。又云。佛上忉利天。爲母說法九十日。波斯匿王思。飲見佛。即刻牛頭旃檀象。置精舍內。佛坐此像。是衆像之始。後人所法也。佛上天青梯。今變爲石。沒入地。唯餘十二蹬。蹬間二尺餘。彼耆老言。梯入地盡。佛法滅。又云。王舍國。胡語曰。



鷹身蹄駱、札記云、漢書注、大爵及鷹身似麋駱ニ作ル、此其文ヲ刪節スルニ似タリ、然ルニ彼此皆脫誤アリ、彼文鷹ハ、即此鷹字ノ誤、而テ此文蹄駱二字當ニ倒スベシ。

西王母而未嘗見注正義長安耆老、札記長老ニ作ル、云フ長下安耆二字ヲ衍ス、考證刪ル、多引大荒西經、考證云大荒西經此文ナシ、在女國北出崑崙山南、云フ各本此下又女國北山崑崙山南八字ヲ衍ス、皆本ナシ。

無大王長、札記雜志云、王當ニ漢書ニ依テ君ニ作ルベシ、御覽四夷部史ヲ引テ君長ニ作ル。

雀。其卵如鵝。和帝永元十三年安息王滿屈獻師子大鳥。世謂之安息雀。廣志云。鳥鵝鷹身蹄駱色蒼。舉頭八九尺。張翅丈餘。食大麥。卵大如鵝。

人衆甚多。往

往有小君長。而安息役屬之。以爲外國。國善眩。

應劭曰。眩相詐惑。○正義曰。顏云。今吞刀

吐火。殖瓜種樹。屠人截馬之術皆是也。

安息長老傳聞。條枝有弱水西王母而未嘗見。

索隱曰。魏略云。弱水在大秦西。玄中記云。天下之弱者。有崑崙之弱水。鴻毛不能載也。山海經云。玉山西王母所居。穆天子傳云。天子觴西王母瑤池之上。輿地圖云。崑崙弱水。非乘龍不至。有三足神鳥。爲王母取食也。○正義曰。此弱水西王母。既是安息長老傳聞而未嘗見。後漢書云。桓帝時大秦國王安敦遣使。自日南徼外來獻。或云其國西有弱水流沙。近西王母處。幾於日所入也。然先儒多引大荒西經云。弱水有二源。俱出女國北阿耨達山。南流會於女國。東去國一里。深丈餘。闊六十步。非毛舟不可濟。南流入海。阿耨達山。卽崑崙山也。與大荒西經合矣。然大秦國在西海中島上。從安息西界過海。好風用三月乃到。弱水又在其國之西。崑崙山弱水流在女國北。出崑崙山南。女國北山。崑崙山南。女國。在子賓國南二千七百里。于寘去京凡九千六百七十里。計大秦與大崑崙山相去幾四五萬里。非所論及。而前賢誤矣。此皆據漢括地論之。猶恐未審。然弱水二所說皆有也。

大夏在大宛西南二千餘里。媯水南。其俗土著。有城屋。與大宛

同俗。無大王長。往往城邑置小長。其兵弱。畏戰。善賈市。及大月



行以爲書記。

漢書音義曰。橫行爲書記。○索隱曰。畫音獲。小顏云。革皮之不柔者。韋昭云。外夷書皆旁行。今南方林邑之徒書。皆旁行不直下也。

其

西則條枝。北有奄蔡黎軒。

正義曰。上力奚反。下巨言反。又巨連反。後漢書云。大秦一名犁鞞。在西海之西。東西南北各數千里。有城

黎軒注土地金銀奇寶、  
札記地多二作ル、云  
書二據テ改ム、考證後漢  
調州、云フ州當ニ海ニ  
作ルベシ、御覽八百二  
十異物志ヲ引テ云、斯  
調國有大洲、白鼠皮、  
云フ皮疑フ當ニ毛ニ作  
ルベシ、擲之滋息、札  
記擲ヲ植ニ作ル、云フ  
植ヲ擲ニ誤ル、考證改

四百餘所。土地金銀奇寶。有夜光璧。明月珠。駭雞尾。火浣布。珊瑚。琥珀。琉璃。瑯玕。朱丹。青碧。珍怪之物。率出大秦。康氏外國傳云。其國城郭皆青。水精爲礎。五色水精爲壁。人民多巧。能化銀爲金。國土市買皆金銀錢。萬震南州志云。大家屋舍以珊瑚爲柱。琉璃爲牆壁。水精爲礎。海中所斯調州上有木。冬月往剝取其皮。績以爲布。極細。手巾齊數匹。與麻焦布無異。色小青黑。若垢污欲浣之。則入火中。便更精潔。世謂之火浣布。秦云定重參閒門樹皮也。括地志云。火山國在扶風南。東大湖海中。其國中山皆火然。火中有白鼠皮及樹皮。績爲火浣布。魏略云。大秦在安息條支西大海之西。故俗謂之海西。從安息界乘船直截海西。遇風利時。二月到。風遲。或一二歲。其公私宮室爲重屋。郵驛亭置如中國。從安息繞海北陸到其國。人民相屬。十里一亭。三十里一置。無盜賊。其俗人長大平正。似中國人而胡服。宋膺異物志云。秦之北附庸小邑有羊羔。自然生於土中。候其欲萌。築牆繞之。恐獸所食。其臍與地連。割絕則死。擊物驚之。乃驚鳴臍遂絕。則逐水草爲羣。又大秦金二枚。皆大如瓜。擲之滋息無極。觀之如用。則真金也。括地志云。小人國在大秦南。人纔三尺。其耕稼之時。懼鶴所食。大秦衛助之。卽焦僥國。其人穴居也。

條枝在安息西數千里。

索隱曰。漢書作犁牛。續漢書一名大秦。三國竝臨西海。後漢書云。西海環其西。惟西北通陸道。然漢使自烏戈

以還。莫有至條枝者。

臨西海。暑溼。耕田。田稻。有大鳥。卵如甕。

正義曰。漢書云。條支出師子。犀牛。孔雀。大

條枝注索隱云云、札記  
前條黎軒注正義ノ上ニ  
アリ、犁牛ヲ犁斬ニ作  
ル。  
大鳥卵如甕注正義鳥瑞

攻破<sup>ニ</sup>月氏<sup>ヲ</sup>。至<sup>ニ</sup>匈奴老上單于<sup>ニ</sup>。殺<sup>シ</sup>月氏王<sup>ヲ</sup>。以其頭<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>飲器<sup>ト</sup>。始<sup>メ</sup>月氏

居<sup>ニ</sup>敦煌祁連間<sup>ニ</sup>。

正義曰。初月氏居敦煌以東祁連山以西。敦煌郡。今沙州。祁連山在甘州西南。

及<sup>レ</sup>爲<sup>ニ</sup>匈奴所敗<sup>ル</sup>。乃

遠<sup>ク</sup>去<sup>ル</sup>。過<sup>ギ</sup>宛<sup>ヲ</sup>。西擊<sup>ニ</sup>大夏<sup>ヲ</sup>。而臣<sup>トス</sup>之<sup>ヲ</sup>。遂<sup>ニ</sup>都<sup>シテ</sup>媯水<sup>ノ</sup>北<sup>ニ</sup>。爲<sup>ニ</sup>王庭<sup>ト</sup>。其餘小衆不

能<sup>レ</sup>去<sup>ル</sup>者。保<sup>ニ</sup>南山<sup>ヲ</sup>。羌號<sup>ス</sup>小月氏<sup>ト</sup>。

安息在大月氏西可<sup>ニ</sup>數千里<sup>ニ</sup>。

正義曰。地理志云。安息國。京西萬一千二百里。自西關西行三千四百里至阿蠻國。西行三千

六百里至斯賓國。從賓南行度河。又西南行至于羅國。九百六十里。安息西界極矣。自乘海乃通大秦國。漢書云。北康居。東烏弋山離。西條枝國。臨媯水土著。以銀爲錢。如其王面。王死輒更錢效王面焉。其俗土著耕<sup>レ</sup>田<sup>ヲ</sup>。田<sup>ニ</sup>稻麥<sup>ヲ</sup>。蒲陶酒。城邑如<sup>ニ</sup>大宛<sup>ノ</sup>。其屬小大

數百城。地方數千里。最爲<sup>ニ</sup>大國<sup>ト</sup>。臨<sup>ム</sup>媯水<sup>ニ</sup>。有<sup>ニ</sup>市民商賈<sup>ス</sup>。用<sup>ニ</sup>車及船<sup>ヲ</sup>。

行<sup>ニ</sup>旁國<sup>ニ</sup>。或數千里。以銀<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>錢<sup>ト</sup>。錢如<sup>ニ</sup>其王面<sup>ノ</sup>。

索隱曰。漢書云。文獨爲王面。幕爲夫人面。荀悅云。幕音漫。

無文面也。張晏云。錢之文面作人乘馬。錢之幕作人面形。韋昭云。幕。錢背也。包愷音慢。

王死輒<sup>メ</sup>更<sup>メ</sup>錢效<sup>ニ</sup>王面<sup>ノ</sup>焉。畫<sup>キ</sup>革<sup>ニ</sup>旁

安息注正義曰。地理志。札記云。漢書地理志此文ナシ。後漢書西域傳ニ見ユ。京西萬一千二百里。云フ按ズルニ。漢書西域傳。安息王治番兜城。去長安萬一千六百里。後漢書。安息國居和櫟城。去洛陽二萬五千里ト。文並ニ合ハズ。西關。後漢傳安息ニ作ル。自乘海。札記自此南乘海ニ作ル。云フ此南二字。後漢書ハ彼ヲ補フ。



烏孫在大宛東北可二千里。行國。徐廣曰。不土著。隨畜與匈奴同俗。控

弦者數萬。敢戰。故服匈奴。及盛。取其羈屬。不肯往朝會焉。

康居在大宛西北可二千里。行國。與月氏大同俗。控弦者八九

萬人。與大宛鄰國。國小。南羈事月氏。東羈事匈奴。

奄蔡在康居西北可二千里。

正義曰。漢書解詁云。奄蔡。卽閼蘇也。魏略云。西與大秦通。東南與康居接。其國多貂畜。牧水草。

故時羈屬康居也。

行國。與康居大同俗。控弦者十餘萬。臨大澤。無崖。蓋乃

北海云。大月氏在大宛西可二三千

正義曰。萬震南州志云。在天竺北可七千里。地高燥而遠。國王稱天

大月氏注。正義康秦國傳。札記康秦外國傳。作ル。云。ア官本誤ラズ。各本泰チ秦ニ誤シ。外字チ脱ス。

子。國中騎乘常數十萬匹。城郭宮殿與大秦國同。人民赤白色。便習弓馬。土地所出及奇瑋珍物。被服鮮好。天竺不及也。康秦國傳云。外國稱天下有三衆。中國爲人衆。秦爲寶衆。月氏爲馬衆。

居。居媯水北。其南則大夏。西則安息。北則康居。行國也。隨畜移徙。與匈奴同俗。控弦者可一二十萬。故時彊。輕匈奴。及冒頓立。



并案注索隱音汗彌、札  
記汗ヲ打ニ、汗ヲ汗ニ  
作ル、云フ打字、索隱  
音汗、漢書音烏、字當  
ニ子ニ从フベシ、而テ  
各本多ク汗ニ作ル、非  
ナリ、案毛本采ニ作ル。  
于寘、札記寘ニ作ル、  
云フ各本寘ニ譌ス、今  
正ス。

室。其屬邑大小七十餘城。衆可數十萬。其兵弓矛騎射。其北則

康居。西則大月氏。西南則大夏。東北則烏孫。東則杆朶。于寘。

徐廣

曰。漢紀曰。拘彌國去于寘三百里。○索隱曰。杆朶國名也。音汗彌。寘音田。又  
音殿。漢紀謂荀悅所說漢紀。拘音俱。彌即朶也。則拘彌與杆朶同是一名也。

則皆水西流注西海。其東水東流注鹽澤。

索隱曰。鹽水也。太康地記云。  
河北得水爲河。塞外得水爲

海也。○正義曰。漢書云。鹽澤去玉門陽關三百餘里。廣袤三百里。其水皆潛行地下。南出於積  
石爲中國河。括地志云。蒲昌海一名渤澤。一名鹽澤。亦名輔日海。亦名穿蘭。亦名臨海。在沙州

西南。玉門關在沙州壽昌縣西六里。鹽澤潛行地下。其南則河源出焉。

索隱曰。案漢書西南  
夷傳云。河有兩源。一

出葱嶺山。一出于寘。山海經云。河出崑崙崑崙東北隅。郭璞云。河出崑崙。潛行地下。至葱嶺山于寘  
國。復分流岐出。合而東注。渤澤已而復行。積石爲中國河。渤澤即鹽澤也。一名蒲昌海。西域傳  
云。于寘在南山下。與郭璞注山海經不同。廣志云。蒲昌海在蒲類海東也。

多玉石。河注中國。而樓蘭姑師邑有

城郭。臨鹽澤。

正義曰。二國名。  
姑師。即車師也。

鹽澤去長安可五千里。匈奴右方居

鹽澤以東。至隴西長城南。接羌。隔漢道焉。

反。南山卽連終南山。從京南東至華山。過河東。北連延至海。卽中條山也。從京南連接至蔥嶺萬餘里。故云竝南山也。西域傳云。其南山東出金城。與漢南山屬焉。欲從羌

中歸。

正義曰。說文云。羌。西方牧羊人也。南方蠻閩從虫。北方狄從犬。東貊從豸。西方羌從羊。

復爲匈奴所得。畱歲餘。單

于死。

徐廣曰。元朔三年。

左谷蠡王攻其太子自立。國內亂。騫與胡妻及堂

邑父俱亡歸漢。漢拜騫爲太中大夫。堂邑父爲奉使君。

索隱曰。堂邑父之官

號也。騫爲人彊力。寬大信人。蠻夷愛之。堂邑父故胡人。善射。窮急

射禽獸給食。初騫行時。百餘人。去十三歲。唯二人得還。騫身所

至者。大宛。大月氏。大夏。康居。而傳聞其旁大國五六。具爲天子

言之曰。大宛在匈奴西南。在漢正西。去漢可萬里。其俗土著耕

太史以要領提出

田。田稻麥。有蒲陶酒。多善馬。

索隱曰。案外國傳云。外國稱天下有三衆。中國人衆。大秦寶衆。月氏馬衆。

馬汗血。

其先天馬子也。

漢書音義曰。大宛國有高山。其上有馬不可得。因取五色母馬置其下。與交生駒。汗血。因號曰天馬子。

有城郭屋



西走數十日。至大宛。大宛聞漢之饒財。欲通不得。見騫喜。問曰。

若欲何之。騫曰。爲漢使月氏。而爲匈奴所閉道。今亡。唯王使人

導送我。誠得至反漢。漢之賂遺王財物。不可勝言。大宛以爲然。

遣騫。索隱曰。謂大宛發遣騫西也。爲發導驛。抵康居。索隱曰。發導。謂發驛令人導引而至康居也。導音道。抵至也。居音渠。○正義曰。

抵至也。居其居反。括地志云。康居國在京西一萬六百里。其西北可二千里有奄祭酒國也。康居傳致大月氏。正義曰。此大月氏在大宛西南。

於嬌水北。爲王庭。漢書云。大月氏王已爲胡所殺。立其太子爲王。徐廣曰。一

去長安萬一千六百里。云夫人爲王。夷狄亦或女主。○索隱曰。案漢書張騫傳云。立其夫人爲王也。既臣大夏而居。地肥饒。索隱曰。居作君。謂月氏以大夏

爲臣而爲之作君也。○正義曰。既盡也。大夏國在嬌水南。少寇。志安樂。又自以遠漢。殊無報胡之心。

騫從月氏至大夏。竟不能得月氏要領。漢書音義曰。要領。要契。○索隱曰。小顏以爲要。衣要。領。衣領。凡

持衣者必執要與領。言騫不能得月氏意趣。無以持歸。畱歲餘還。竝南山。正義曰。竝白浪

於漢。劉氏云。不得其要害。然頗是其意。於文字爲疏者。

發導驛。札記驛。ナ。驛ニ作ル。云。フ。蔡中統王本。繹。他本驛ニ作ル。後。雅隆曰。導驛二字。後。ノ烏孫發導驛送騫過。觀レバ。則此驛亦當ニ譯ニ作ルベシ。

臣大夏而居。札記云。中統游毛本居下之字アリ。索隱本ト合ス。



後ニ在リ、而テ此篇前偏、乃西北諸國ニ通ズルノ事、此ニ語ルニ非ザレバ、首尾相應ズル能ハズ。

張騫漢中人、札記云、索隱本張字ナシ。

以其頭爲飲器、顏師古曰、匈奴傳、破ル所ノ月氏王ノ頭ヲ以テ共ニ血ヲ飲デ盟フト、然ラバ則飲酒ノ器ナリ。

堂邑氏故胡奴、札記云、索隱本故字ナシ、漢書亦ナシ、蓋此即胡字ノ譌衍ナリ、亦或ハ下文故胡人ノ語ニ因テ之ヲ増ス。

經匈奴、札記云、索隱本經ナリニ作ル、按ニ漢書亦經ニ作ル。

漢大宛國。○索隱曰。見自張騫。張騫漢中人。索隱曰。陳壽益部耆舊傳云。騫。漢中成固人。建元中

爲郎。是時天子問匈奴降者。皆言匈奴破月氏王。正義曰。氏音支。涼甘肅瓜涉等州。本

月氏國之地。漢書云。本居敦煌祁連間是也。以其頭爲飲器。韋昭曰。飲器。樽榼也。單于以月氏王頭爲飲器。晉灼曰。飲器。虎子之屬也。或曰。飲酒器也。○正

義曰。漢書匈奴傳云。元帝遣車騎都尉韓昌。光祿大夫張猛。與匈奴盟。以老上單于所破。月氏王頭爲飲器者。共飲血盟。月氏遁逃。而常怨仇

匈奴。無與共擊之。漢方欲事滅胡。聞此言。因欲通使。道必更匈

奴中。索隱曰。更。經也。音義。乃募能使者。騫以郎應募。使月氏。與堂邑氏故胡

奴甘父俱出隴西。漢書音義曰。堂邑氏。姓胡奴。甘父。字。○索隱曰。案謂堂邑縣人家胡奴名甘父也。下云堂邑父者。蓋後史家徒省。唯稱堂邑父而略

甘字。或甘。經匈奴。索隱曰。謂道經匈奴。匈奴得之。傳詣單于。單于留之。曰。月氏在

吾北。漢何以得往使。吾欲使越漢肯聽我乎。留騫十餘歲。與妻

有子。然騫持漢節不失。居匈奴中益寬。騫因與其屬亡鄉月氏。

# 史記評林卷之一百二十三

## 大宛列傳第六十三

大宛列傳索隱曰司馬公之殘缺褚先生補之失也董份曰此傳決シテ褚先生ノ能ク撰次スル所ニ非ズ。

索隱曰案此傳合在西南夷下不宜在酷吏游俠之閒斯蓋竝司馬公之殘缺褚先生補之失也幸不深尤焉。

王鑒曰史記不與張騫立傳其始附衛青而於大宛傳備載始末蓋大宛諸國土俗皆騫所歸爲武帝言者也騫沒後諸使西域者亦具焉事備具而有條理若漢書則大宛張騫多自爲傳矣。

董份曰張騫鑿空通道其事亦有奇者本欲立傳而以騫不足立也政於此發端見之而下敘騫事此太史公妙處。

唐順之曰匈奴傳與大宛傳體異匈奴一國而大宛諸國諸國則錯綜也。

茅坤曰大宛事以張騫身沒後凡十餘年而始舉遷特惡騫始倡故通篇精神歸騫一人而諸國中惟通大宛一節得善馬幾困亡中國以此先後情事諸國中以大宛爲結局。

又曰大宛以西始末如畫而漢武窮兵實錄猶可攬涕。

## 大宛之跡

正義曰漢書云大宛國去長安萬二千五百五十里東至都護治西南至大月氏南亦至大月氏北至康居括地志云率都沙那國亦名蘇對沙那國本

大宛之跡云云方苞曰漢大宛ヲ伐ツ張騫死

武帝ノ陰陽ヲ知ルナ  
リ、名美ニシテ而テ實  
惡ナル者、事ノ陰陽ナ  
リ、内多欲ニシテ而テ  
外仁義ヲ施ス者、武帝  
ノ陰陽ナリ、武帝事ヲ  
興シ、豐ヲ開キ、財置ク  
以テ之ヲ利サント欲  
ス、而テ陽ニ儒術ヲ慕  
フ、湯因テ博士弟子ヲ  
請ヒ、尙書春秋ヲ用ヒ、  
疑法ヲ亭ス、所謂知陰  
陽、皆此類ナリ、惟陰  
陽ヲ知ル、故ニ人主與  
之俱ニ上下シ、以テ其  
辯ヲ遂ゲ、其當否ヲ辯  
ズル所ハ、即傳ニ載ス  
ル所ノ上所是受而決法  
者ナリ、國家賴其便者  
ハ、之ヲ私ニ便ニシ而  
テ民ノ害ヲ顧ミザルナ  
リ。

駱壁推減、札記減ヲ咸  
ニ作ル、云フ索隱本咸、  
各本減ニ作ル、雜志云、  
推咸ハ推成ノ譌ナリ、  
推即推擊ノ推、故ニ直  
追反ナリ。  
注索隱、札記上音直追  
反、下音減一作成、是  
也、謂推繫之以成獄也  
ニ作ル、云フ推繫ハ推  
擊ノ譌ナリ。

史記評林卷之一百二十二終



後、事益多、民巧法、大抵吏類成由等ト云フ、酷吏多クシテ吏治壞ル、武帝ノ世ニ在ルヲ見ハスナリ、又趙禹チ次デ、而禹晩節、吏愈嚴、而禹治反名爲平ト言フ、其用意此ノ如シ、後又詳ニ盜賊滋起リ、官事耗廢スル、皆酷吏ニ由テ致ス所チ述ベ、乃又慘酷斯稱其位ト云フ、一ニ自ラ相矛盾スル者ニ似ル、其詞チ紆ニスルノミ、又曰、十二人中、禍チ免レ良死ヲ得ル者、僅ニ趙禹、尹齊、杜周三人ノミ、棄市セラルル者五人、自殺スル者三人、髡鉗セララルル者一人ナリ、楊僕應ニ提行別起スベカラズ、必是後世陋儒ノ改ムル所、子長ノ元本ニ非ズ、班氏此ニ因リ、遂ニ楊僕ヲ以テ酷吏數中ニ列ス、子長數ヘザルナリ、詳ニ史記原文チ載ヘバ、自ラ明、且僕將軍ト爲ル、班征伐ノ事ヲ以テ、皆酷吏傳ニ入ル、尤モ不類ナリ、張湯以知陰陽云云、方苞曰、湯、事ノ陰陽、及

而中節者歟。一坐臨江之嫌。當太后之怒。身死漢庭。手足異處。有以見漢氏之不綱矣。太史公以都首冠酷吏。豈善善惡惡之義哉。贊述雖云引是非爭大體。又何補焉。黃震曰。郅都公廉而敢諫。守北邊。匈奴遠卻。爲治雖尙嚴。首惡之外未嘗濫及。史氏顧以之首酷吏。何哉。漢自高帝以寬大立國。其將相大臣。又相繼以清淨爲治。至于文景。其民無不樸畏自重。而都乃獨先之以嚴行法。不避貴戚。其意若曰。不畏強禦而已。而斬斬無餘味。風俗遂爲一變。未幾寧成以陰劾之資而效之。自寧成趙由之後。秉多事之衝。而甚之。於是張湯之徒。一時相率皆務于酷。而吏民益輕犯法。盜賊滋起。推所自來。誰實防之。夫貴戚犯法而避之。固不可。然天下獨無中道乎。矯枉一過其正。其流弊乃爾。愚故謂郅都非酷吏也。而酷吏實自郅都始也。傳之酷吏之首庸何辭。凌約言曰。予讀酷吏傳。始悲其人。丁於時而使然。中有受其方略。禁奸止暴。國家賴其便。亦有取焉。末則悼其人無有自脫于刑戮。其貲財巨萬。亦卒歸於國而已耳。然則當時之吏也。何庸酷也哉。

〔增〕盧璘曰。司馬遷傳漢酷吏凡十人。張湯杜周在焉。至班固爲傳。乃不入此二人。劉元城謂湯之後安世爲相。世多賢者。至光武有名純者更有聲。固以其子孫賢故貸之。其并貸杜周者。杜周者則子產立公孫洩之義也。果如此則固之意。勢利之甚。豈爲信史。元城又謂遷教臣忠。固教子孝。教忠孝。恐亦不當如是也。予竊謂固之意別有在焉。遷好奇之士也。傳酷吏僅十人。蓋怪其酷亦異其才也。而固於十人之中。獨去湯與周。或更論其行乎。湯素不貪。以小吏至三公。死之日有棺無槨。周素貧。初仕一馬不全。死之日家資巨萬。則湯之酷也以廉。周之酷也以貪。貸湯者嘉其廉。故別其籍。去周者羞其貪。故削其傳。

周ナリ、而テ其敘首中、  
又侯封廟錯二人ヲ帶  
ブ、共ニ二十人ナリ、  
錯錯刻深ト雖、究文學  
ヲ以テ進ム、子長之ヲ  
抑ヘ、刀筆吏及ビ攻剽  
羣盜ヲ爲シ、椎埋戮  
爲ス者ト伍スルニ忍ビ  
ズ、故ニ只帶敘ヲ用フ、  
侯封ハ、則敘首中ニ於  
テ明ニ之ヲ目シテ酷吏  
ト爲ス、而テ數ヘザル  
者、子長ノ意、酷吏惟都  
都景帝ノ時ニ當ル、餘  
ハ皆武帝ノ世ニ盛ナ  
リ、侯封ハ高后ノ時ノ  
人ナルヲ以テ、故ニ略  
シテ數ヘズ、都傳中ニ  
於テ、特ニ提シテ是時  
民朴畏罪自重、而テ都  
獨先嚴酷致行法ト云  
フ、民朴ニシテ罪ヲ畏  
レバ、則固ト重法ヲ事  
トスル所ナシ、而テ都  
獨リ嚴酷ヲ先ニス云云  
ハ、深ク都實ニ首惡ヲ  
著シ、以テ世戒ト爲ス  
也、次ニ壽成周陽布ヲ  
敘ス、皆景帝ヨリ武帝  
ニ入ル者、而テ又特ニ  
提シテ武帝即位、吏治  
尙循謹甚、然由居二千  
石中、最爲暴酷ト云フ、  
宋又之ヲ結ビ、自成由

否。國家賴其便。趙禹時據法守正。杜周從諛。以少言爲重。自張

湯死後。網密多。詆嚴。官事浸以耗廢。九卿碌碌奉其官。救過不

贍。何暇論繩墨之外乎。然此十人中。其廉者足以爲儀表。其汚

者足以爲戒。徐廣曰。一本此無四字。方略教導。禁姦止邪。一切亦皆彬彬。質

有其文武焉。雖慘酷。斯稱其位矣。至若蜀守馮當暴挫。廣漢李

貞。檀磔人。東郡彌僕鋸項。天水駱璧推減。徐廣曰。一作成。○索隱曰。推音直追反。減作成。是也。謂推

繫之以河東褚廣。妄殺京兆無忌。馮翊殷周。蝮鰲。索隱曰。蝮音蝮蛇。鰲音至。以言苛酷比之

蝮毒。  
水衡閭奉朴擊賣請。何足數哉。何足數哉。

索隱述贊曰。太上失德。法令滋起。破觚爲圓。禁暴不止。奸僞斯熾。慘酷爰始。乳獸揚威。蒼鷹側視。舞文巧詆。懷生可恃。

權德輿曰。洪範之沈潛。大易之直方。皆臣道也。都雖未蹈之斯近之矣。不隱忠以避死。不枉道以蒞官。無處父之華。異申張之慾。所至之邦。必以稱職。其殆古之剛而無虐。怒



テ獄ニ會シ、以テ鞠ナ  
聽クナリ、内吏ト外吏  
ト相表裏シ、因テ章内  
列スル所ノ罪狀ノ如ク  
責テ承伏セシム、其外  
吏枉機ヲ告劾シ、而テ  
肯テ連ニ服セザル者  
ハ強テ笞掠ヲ以テ之ヲ  
定ムルナリ。

周中廢、札記志疑云、  
此下後人ノ増入ナリ。  
家兩子夾河爲守、錢大  
所曰、夾河ハ、河内河  
南ヲ謂フナリ、褚先生  
田仁三河ヲ刺舉スルヲ  
敘シ、是時河南河内太  
守、皆御史大夫杜ノ父  
兄子弟ト、即此ニ云フ  
所夾河爲守者ナリ。  
杜周初徵云云、方苞曰、  
再湯尙能貧、而テ周ハ  
則家訖節ニ官下ニ死  
シ、妻子ヲ顧ミズ、而  
テ周且子孫ノ爲ニ窟ヲ  
營ス、故ニ是ヲ以テ篇  
ヲ終フ。

太史公曰云云、王鳴盛  
曰、論十人ト稱ス、蓋  
郅都、壽成、周陽由、  
趙禹、張湯、義縱、王  
溫舒、尹齊、滅宣、杜

告劾不服。以笞掠定之。於是聞有逮。皆亡匿。獄久者。至更數赦。

張晏曰。詔書赦。

或有不從此令。

十有餘歲。而相告言。大抵盡詆以不道。

索隱曰。案大抵猶大都也。盡詆者。盡

也。以上。廷尉及中都官。詔獄逮至六七萬人。吏所增加十萬餘

人。周中廢。後爲執金吾。逐盜。捕治桑弘羊衛皇后昆弟子刻深。

天子以爲盡力無私。遷爲御史大夫。徐廣曰。天漢三年。爲御史大夫。四歲太始三年卒。家兩子

夾河爲守。其治暴酷。皆甚於王溫舒等矣。杜周初徵爲廷史。有

一馬。且不全。及身久任事。至三公列。子孫尊官。家訖累數巨萬

矣。

太史公曰。自郅都杜周十人者。此皆以酷烈爲聲。然郅都伉直。

引是非。爭天下大體。張湯以知陰陽。人主與俱上下。時數辯當



文穎曰。邊卒多亡也。或曰。所論殺甚衆。奏事中上意。任用與減宣相編率

更爲中丞。十餘歲。其治與宣相放。然重遲外寬。內深次骨。李奇曰。其

用罪深刻至骨。○宣爲左內史。周爲廷尉。其治大放張湯。而善候伺。索隱曰。次。至也。

上所欲擠者。因而陷之。上所欲釋者。久繫待問。而微見其冤狀。

客有讓周曰。君爲天子決平。不循三尺法。漢書音義曰。以三尺竹簡書法律也。專以

人主意指爲獄。獄者固如是乎。周曰。三尺安出哉。前主所是著

爲律。後主所是疏爲令。當時爲是。何古之法乎。至周爲廷尉。詔

獄亦益多矣。二千石繫者。新故相因。不減百餘人。郡吏大府舉

之廷尉。如淳曰。郡吏。郡太守也。孟康曰。舉之廷尉。以章刻付廷尉治之。一歲至千餘章。章大者連逮證

案數百。小者數十人。遠者數千。近者數百里會獄。吏因責如章。

著爲律疏爲令。類師古曰。著。明表。謂。疏。分條。謂。ナリ。

郡吏大府舉之廷尉。類師古曰。孟。非。ナリ。舉。皆。ナリ。郡吏大府皆廷尉。歸。ス。言。ナリ。大府。丞相御史ノ府ナリ。章大者連逮證案云云。方苞曰。會獄。上。連。テ。句。ト。爲。ス。章。內。連。逮。證。案。ス。ル。者。遠。近。俱。ニ。來。

王溫舒免中尉、漢書爲中尉ニ作ル、歸有光曰、溫舒未ダ嘗テ免ゼズ、爲字ニ作ル、是ナリ。

案邊失亡、顔師古曰、勝入テ寇ナ爲スニ因リ、而テ人畜甲兵倉廩ヲ失フヲ謂フナリ。

稍遷至御史及中丞使治主父偃及治淮南反獄所以微文深

詆殺者甚衆稱爲敢決疑數廢數起爲御史及中丞者幾二十

歲王溫舒免中尉而宣爲左內史其治米鹽事大小皆關其手

自部署縣名曹實物官吏令丞不得擅搖痛以重法繩之居官

數年一切郡中爲小治辦然獨宣以小致大能因力行之難以

爲經中廢爲右扶風坐怨成信漢書曰成信宣吏信亡藏上林中宣使郡

令格殺信正義曰郡令今岐州岐縣北時屬右扶風吏卒格信時射中上林苑門宣下吏

詆罪以爲大逆當族自殺而杜周任用過脈處

杜周者南陽杜衍人正義曰杜氏譜云字長孺○索隱曰杜衍地名也義縱爲南陽守以爲

爪牙舉爲廷尉史事張湯湯數言其無害至御史使案邊失亡







尸亡去歸葬、札記云、漢書尸妻ニ作ル、疑フ史誤ル、然ルニ徐野民據本、已ニ尸ニ作ル。自溫舒等以惡爲治、札記志疑云、此ヨリ以文辭避法焉ニ至ル、乃漢書減宣傳尾ノ語、後人妄ニ取テ史ニ入ル、繡衣ヲ使テ盜ヲ治ムル事天漢元年ニ在リ、沈命法ハ更ニ後ニ在リ、史文ニ非ル明ナリ。其治、札記云、吳校元板此二字ナシ、按ズルニ、上欲爲治者ト云フ、則此二字贅ト爲ス、漢書ナシ。小羣盜以百數、札記雜志云、盜字後人ノ加フ所ナリ、漢書ナシ。

自殺。其時兩弟及兩婚家。亦各自坐他罪。而族光祿徐自爲曰。悲夫。夫古有三族。而王溫舒罪至同時。而五族乎。溫舒死。家直累千金。後數歲。尹齊亦以淮陽都尉病死。家直不滿五十金。所誅滅淮陽甚多。及死。仇家欲燒其尸。尸亡去歸葬。徐廣曰。尹齊死。未及斂。恐怨家欲燒之。屍亦飛去。自溫舒等以惡爲治。而郡守都尉諸侯二千石欲爲治者。其治大抵盡放溫舒。而吏民益輕犯法。盜賊滋起。南陽有梅免白政。楚有殷中。徐廣曰。殷一作假。人亦有姓假者也。杜少齊有徐勃。燕趙之間有堅盧。范生之屬。大羣至數千人。擅自號攻城邑。取庫兵。釋死罪。縛辱郡太守都尉。殺二千石。爲檄告縣趣具食。小羣盜以百數。掠鹵鄉里者。不可勝數也。於是天子始使御史中丞丞相長史督之。

書盜賊二字ナシ、疑フ此文衍誤アラソ。

舞文巧詆云云、顔師古曰、法ヲ弄シ巧ヲ爲シ、而テ下戸ノ狡猾者ヲ治シ、用テ大豪ノ家ヲ諷動ス、然ル所以ノ者ハ、大豪中權要アリテ、治スベカラザル爲ノ故ナリ、董份曰、煮ハ火ヲ以テ熏過スルヲ言フ、今人狐鼠ノ穴ニ於テ、亦嘗テ之ヲ火攻ス、溫舒卽勢アルノ家ヲ禽スル能ハズ、故ニ下戸ヲ巧詆シ、而テ大豪ニ熏過シ、之ヲシテ懼ヲ知ラシムルノミ。

覆中尉脫卒、顔師古曰、脫漏シラ卒ト爲ラザル者ヲ覆校スルナリ。

無勢者。視之如奴。有勢家。雖有姦如山弗犯。無勢者。貴戚必侵

此段似張湯傳

辱。舞文巧詆下戸之猾。以君大豪。君音熏。○索隱曰。案熏猶熏炙之。謂下戸之中有奸猾之人。令案之以熏逐大姦也。

其治中尉如此。姦猾窮治。大抵盡靡爛獄中。行論無出者。其爪

牙吏虎而冠。於是中尉部中中猾以下皆伏。有勢者爲游聲譽

稱治。治數歲。其吏多以權富。溫舒擊東越還。徐廣曰。元鼎六年。出會稽破東越。議

有不中意者。坐小法抵罪免。是時天子方欲作通天臺。正義曰。漢書元封三

年。二輔舊事云。起甘泉通天臺。高五十丈。而未有入。溫舒請覆中尉脫卒。得數萬人。作上

說拜爲少府。徙爲右內史。治如其故。姦邪少禁。坐法失官。復爲

右輔。行中尉事。如故操。歲餘。會宛軍發。漢書音義曰。發兵伐大宛。詔徵豪吏。溫

舒匿其吏華成。及人有變告溫舒。受員騎錢。他姦利事罪至族。



中尉<sup>ト</sup>而楊僕以嚴酷<sup>ヲ</sup>爲主爵都尉<sup>ト</sup>

楊僕者。宜陽人也。以千夫爲吏<sup>ト</sup>

漢書音義曰。千夫。若五大夫。武帝軍用不足。令民出錢穀爲之。

河南守

案舉以爲能。遷爲御史。使督盜賊關東。治放尹齊。以爲敢摯行<sup>ト</sup>

稍遷至主爵都尉。列九卿。天子以爲能。南越反。拜爲樓船將軍<sup>ト</sup>

有功。封將梁侯。爲荀彘所縛<sup>スル</sup>

徐廣曰。受封四年征朝鮮還。贖爲庶人。○索隱曰。案漢書云。與左將軍荀彘俱擊朝鮮。爲彘所縛。

縛還。免爲庶人。病死。而溫舒復爲中尉。爲人少文。居廷惛惛不<sup>レ</sup>辯<sup>ナク</sup>

索隱曰。至<sup>レ</sup>於中尉。則心開。督盜賊。素習關中俗。知豪惡吏。豪

惡吏盡復爲用。爲方略。吏苛察盜賊惡少年。投鋸<sup>ニ</sup>

徐廣曰。音項。器名也。如今之投書函

中。○索隱曰。鋸。受投書之器。入不可出。三蒼音胡江反。

購告言姦。置伯格長<sup>ト</sup>

徐廣曰。一作落。古村落字。亦作格。街陌屯落皆設督長也。

○索隱曰。伯。阡陌。格音村落。言阡陌村落皆置長也。

以牧司姦盜賊。溫舒爲人調善事。有勢者。卽<sup>チ</sup>

以牧司姦盜賊。札記云。牧。漢一本ナ引テ牧ニ作ル。漢書ト合ス。漢

居廷惛惛。札記云。漢書廷ナ它ニ作ル。疑フ史誤ル。

豪惡吏盡復爲用。爲方略。吏苛察盜賊惡少年。方苞曰。吏苛察ノ吏ハ、

當ニ使ニ作ルベシ。溫舒方略ヲ爲シ、豪惡吏ヲシテ盜賊及ビ惡少年

ヲ苛察セシム。卽投鋸購告言姦。是ナリ。苛ハ誣ナリ。



之旁郡國梨來、札記梨  
チ梨ニ作ル、注同シ云  
フ索隱本梨、各本梨ニ  
作ル、凌一本チ引テ追  
求ニ作ル、蓋漢書ニ依  
テ改ム。

令冬月益展一月云云、  
顏師古曰、立春ノ後復  
行チ行ハズ、故ニ云フ  
然リ、展ハ伸ナリ。

徒諸名禍猾吏、札記云、  
索隱本徒諸名禍猾吏ニ  
作ル、漢書徒諸召禍  
吏ニ作ル、雜志云、名ハ  
即召ノ譌、猜禍ハ皆猜  
ノ譌、徒諸ハ又徒諸ノ  
譌ナリ、當ニ徒諸召猾  
吏ニ作ルベシト、按ズ  
ルニ、疑フ諸字誤ラズ、  
但錯倒ノミ、當ニ徒召  
諸猾吏ニ作ルベシ。

尹齊者云云、方苞曰、  
尹齊溫舒ト相代リ中尉  
ト爲リ、而テ死又相次  
ク、故ニ牽連シテ以テ  
書ス。

頗<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>得<sup>シ</sup>。失<sup>キテ</sup>之<sup>ノ</sup>旁郡國梨來。漢書作追求。索隱曰。梨音梨。犁比也。會<sup>フ</sup>春。溫舒頓足歎曰。嗟乎。

令<sup>ム</sup>冬月益<sup>シ</sup>展<sup>ベ</sup>一月。足<sup>ント</sup>吾<sup>ニ</sup>事<sup>ニ</sup>矣。其好<sup>ミ</sup>殺<sup>シ</sup>伐<sup>チ</sup>行<sup>ヒ</sup>威<sup>チ</sup>。不<sup>ル</sup>愛<sup>セ</sup>人<sup>チ</sup>如此。天子

聞<sup>キ</sup>之<sup>ヲ</sup>。以<sup>シ</sup>爲<sup>ト</sup>能<sup>シ</sup>遷<sup>シテ</sup>爲<sup>ニ</sup>中尉<sup>ト</sup>。其治復放<sup>フ</sup>河內<sup>ニ</sup>。徙<sup>シ</sup>諸名禍猾吏<sup>チ</sup>。徐廣曰。有殘刻之名。

○索隱曰。案漢書作徒諸召猜禍吏。服虔曰。徒但也猜。惡也。應劭曰。猜疑也。取吏好猜疑人作禍敗者而使<sup>レ</sup>之。

戊。徐廣曰。一云麻成。關中楊贛成信等。客義縱爲<sup>ニ</sup>內史<sup>ト</sup>。憚<sup>ッ</sup>未<sup>ダ</sup>敢<sup>テ</sup>恣<sup>ニ</sup>治<sup>チ</sup>。及<sup>ビ</sup>縱死<sup>シ</sup>。

張湯敗後。徙<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>廷尉<sup>ト</sup>。而尹齊爲<sup>ニ</sup>中尉<sup>ト</sup>。過接

尹齊者。東郡茌平人。索隱曰。茌音仕疑反。以<sup>ニ</sup>刀筆<sup>チ</sup>稍遷<sup>テ</sup>至<sup>ニ</sup>御史<sup>ニ</sup>。事<sup>ニ</sup>張湯<sup>ニ</sup>。張湯

數稱<sup>シテ</sup>以<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>廉武<sup>ト</sup>。使<sup>セ</sup>督<sup>ニ</sup>盜賊<sup>チ</sup>。所<sup>レ</sup>斬伐<sup>スル</sup>不<sup>レ</sup>避<sup>ケ</sup>貴戚<sup>チ</sup>。遷<sup>テ</sup>爲<sup>ニ</sup>關內都尉<sup>ト</sup>。聲

甚<sup>シ</sup>於<sup>ニ</sup>寧成<sup>ト</sup>。上以<sup>シ</sup>爲<sup>ニ</sup>能<sup>シ</sup>。遷<sup>シテ</sup>爲<sup>ニ</sup>中尉<sup>ト</sup>。吏民益凋敝。尹齊木彊少<sup>シ</sup>文。豪

惡吏伏匿<sup>シ</sup>而善吏不能<sup>レ</sup>爲<sup>ニ</sup>治<sup>チ</sup>。以<sup>ニ</sup>故事<sup>チ</sup>多廢<sup>シ</sup>。抵<sup>ル</sup>罪<sup>ニ</sup>。上復徙<sup>シテ</sup>溫舒<sup>チ</sup>爲<sup>ニ</sup>

暇アラズ、故ニ是ニ至  
リ始テ年歲ヲ補記スル  
ナリ、札記志疑云、一當  
ニ二ニ作ルベシ。

試補縣亭長。數廢爲吏。以治獄。至廷史。事張湯。遷爲御史。督盜  
賊。殺傷甚多。稍遷至廣平都尉。擇郡中豪敢任吏十餘人。以爲  
爪牙。皆把其陰重罪。而縱使督盜賊。快其意。所欲得此人。雖有  
百罪。弗法。卽有避。因其事夷之。亦滅宗。以其故齊趙之郊。盜賊  
不敢近廣平。廣平聲爲道不拾遺。上聞。遷爲河內太守。素居廣  
平時。皆知河內豪姦之家。及往。九月而至。令郡具私馬五十疋。  
爲驛。自河內至長安。部吏如居廣平時。方略捕郡中豪猾。郡中  
豪猾相連坐千餘家。上書請大者至族。小者乃死。家盡沒入償  
減。奏行。不過二三日。得可事論報。至流血十餘里。河內皆怪其  
奏。以爲神速。盡十二月。郡中毋聲。毋敢夜行。野無犬吠之盜。其



捕其爲可使者、札記雜志云、索隱本求爲可使四字ヲ出ス、今本捕ニ作ル、疑フ後人漢書ニ依テ改ム。

後一歲張湯亦死、方苞曰、湯ノ誅セラルル縱ノ後ニ在リ、天下事皆誅死ノ由ナ連書スルヲ以テ、其年ヲ書スルニ

會<sup>フ</sup>五銖錢白金起<sup>ル</sup>民爲姦<sup>チ</sup>京師尤甚<sup>シ</sup>乃以縱<sup>チ</sup>爲<sup>シ</sup>右內史<sup>ト</sup>王溫舒<sup>チ</sup>

爲<sup>ニ</sup>中尉<sup>ト</sup>溫舒至惡<sup>シ</sup>其所爲不<sup>ニ</sup>先言<sup>ヘ</sup>縱<sup>ニ</sup>縱必以氣凌<sup>ギ</sup>之<sup>チ</sup>敗壞其功<sup>チ</sup>

其治所誅殺<sup>スル</sup>甚多<sup>シ</sup>然取爲<sup>ニ</sup>小治<sup>チ</sup>姦益不勝<sup>ヘ</sup>直指始出<sup>ヅ</sup>矣吏之治

以<sup>ニ</sup>斬殺縛束<sup>チ</sup>爲<sup>レ</sup>務<sup>ト</sup>閭奉以惡<sup>チ</sup>用<sup>ラ</sup>矣縱廉其治放<sup>ニ</sup>郅都<sup>ニ</sup>上幸<sup>ニ</sup>鼎湖<sup>ニ</sup>

病久已而卒起幸<sup>ニ</sup>甘泉<sup>ニ</sup>索隱曰卒<sup>ニ</sup>音七忽反道多不治<sup>セ</sup>上怒曰縱以我爲不<sup>ニ</sup>

復行<sup>ニ</sup>此道<sup>チ</sup>乎<sup>ニ</sup>至冬<sup>ニ</sup>徐廣曰<sup>ニ</sup>索隱曰<sup>ニ</sup>楊可方受<sup>ニ</sup>告緡<sup>チ</sup>韋昭曰人有告言不<sup>ニ</sup>

索隱曰緡錢貫也漢氏有告緡令楊可主之<sup>ニ</sup>謂緡錢出等人有不<sup>ニ</sup>以錢通者<sup>ニ</sup>令得告<sup>レ</sup>之也<sup>ニ</sup>縱以爲<sup>ニ</sup>此亂民<sup>ト</sup>部吏捕<sup>ニ</sup>其爲<sup>レ</sup>可<sup>ニ</sup>

使者<sup>ニ</sup>索隱曰謂求<sup>ニ</sup>天子聞<sup>キ</sup>使<sup>ニ</sup>杜式<sup>チ</sup>治<sup>セ</sup>以爲<sup>ニ</sup>廢格沮事<sup>ト</sup>漢書音義曰武帝<sup>ニ</sup>

入其財物縱捕爲<sup>レ</sup>可使者此爲廢格<sup>ニ</sup>詔書沮已成之事<sup>ト</sup>○索隱曰格音閣<sup>ニ</sup>棄縱<sup>ニ</sup>市<sup>ニ</sup>後一歲張湯亦死<sup>ス</sup>客<sup>ニ</sup>

王溫舒者陽陵人也<sup>ト</sup>徐廣曰<sup>ニ</sup>屬馮翊<sup>ニ</sup>少時椎埋爲姦<sup>チ</sup>徐廣曰椎殺人而<sup>ニ</sup>已而<sup>ニ</sup>



り、隸ハ徒隸ナリ、吏隸及ビ郡國平民、關ニ出入スル者皆成テ畏ルルナリ。

注裁閣也。按ニ漢書關吏稅驛郡國出入關者、注李奇曰驛閣也ニ作ル。

義縱自河内遷爲南陽太守云云、方苞曰、縱南陽ニ守タリ、寧成奔亡シテ其跡終ル、故ニ此ニ敘列ス。

捕鞠、札記云、毛本鞠平鞠ニ作ル。

值<sup>レ</sup>寧成之怒。義縱自<sup>ニ</sup>河内<sup>一</sup>遷爲<sup>ニ</sup>南陽太守<sup>一</sup>。聞<sup>ニ</sup>寧成家<sup>一</sup>居<sup>ニ</sup>南陽<sup>一</sup>及<sup>ニ</sup>

縱至<sup>ニ</sup>關<sup>一</sup>。寧成側行<sup>シテ</sup>送迎<sup>ス</sup>。然縱氣盛弗爲<sup>レ</sup>禮。至<sup>ニ</sup>郡<sup>一</sup>。遂案<sup>ニ</sup>寧氏<sup>一</sup>盡破<sup>ニ</sup>

碎<sup>ニ</sup>其家<sup>一</sup>。成坐有<sup>ニ</sup>罪<sup>一</sup>。及孔暴之屬皆犇<sup>ニ</sup>亡<sup>一</sup>。徐廣曰。孔暴。二姓大族。南陽吏民重<sup>ニ</sup>

足<sup>ニ</sup>一迹<sup>一</sup>。而平氏朱彊杜衍杜周爲<sup>ニ</sup>縱牙爪之吏<sup>一</sup>。任用<sup>ニ</sup>遷爲<sup>ニ</sup>廷史<sup>一</sup>。

軍數出<sup>ニ</sup>定襄<sup>一</sup>。定襄吏民亂敗。於是徙<sup>ニ</sup>縱爲<sup>ニ</sup>定襄太守<sup>一</sup>。縱至<sup>ニ</sup>掩定<sup>一</sup>

襄獄中重罪輕繫二百餘人。及賓客昆弟私入<sup>ニ</sup>相視<sup>一</sup>亦二百餘

人。縱一捕鞠曰。爲<sup>ニ</sup>死罪<sup>一</sup>解脫。漢書音義曰。一切皆捕之也。律諸囚徒私解脫枉桎鉗赭加罪一等。爲<sup>ニ</sup>人解脫<sup>一</sup>與同罪。縱鞠相贍餉

者二百人。爲<sup>ニ</sup>解脫<sup>一</sup>死罪盡殺也。是日皆報殺<sup>ニ</sup>四百餘人<sup>一</sup>。其後郡中不寒而栗。猾民佐<sup>ニ</sup>

吏爲<sup>ニ</sup>治<sup>一</sup>。索隱曰。案謂豪猾之人干<sup>ニ</sup>豫吏政<sup>一</sup>。故云佐吏爲理也。是時趙禹張湯以<sup>ニ</sup>深刻<sup>一</sup>爲<sup>ニ</sup>九卿<sup>一</sup>矣。

然其治尙寬輔<sup>ニ</sup>法而行<sup>一</sup>。而縱以<sup>ニ</sup>鷹擊毛摯<sup>一</sup>爲<sup>ニ</sup>治<sup>一</sup>。徐廣曰。鷙鳥將擊必張羽毛也。後

上黨郡中令、札記雜誌云、郡本衍ナリ、索隱本ナシ。  
少蘊藉、顏師古曰、合容スル所ナキナリ。

關東吏隸郡國出入關者、方苞曰、吏ハ官ナ

太后問有子兄弟爲官者乎。姊曰。有弟無行。不可。太后乃告上。

拜義姁弟縱爲中郎。

漢書音義曰。姁音煦。縱姊名也。

補上黨郡中令。

索隱曰。案謂補上黨郡中之令。史失。

其縣

治敢行。少蘊藉。

漢書音義曰。敢行暴政而少蘊藉也。○索隱曰。蘊音愠。藉音才夜反。張晏云。爲人無所避。故少所假借也。

縣無

通事。舉爲第一。遷爲長陵及長安令。直法行治。不避貴戚。以捕

案太后外孫修成君子仲。

索隱曰。案王太后之女號修成君。其子名仲。

上以爲能。遷爲河

內都尉。至則族滅其豪穰氏之屬。河內道不拾遺。而張次公亦

爲郎。以勇悍從軍。敢深入有功。爲岸頭侯。

徐廣曰。受封五年與淮南客王女凌姦。及受財物國除。寧

忽然及此

成家居。上欲以爲郡守。御史大夫弘曰。臣居山東。爲小吏時。寧

成爲濟南都尉。其治如狼牧羊。成不可使治民。上乃拜成爲關

都尉。歲餘。關東吏隸郡國出入關者。

漢書音義曰。隸。閱也。

號曰寧見乳虎。無



趙禹中廢云云。方苞曰、禹、湯ト同ク起リ、而テ死、湯後ニ在リ、故ニ牽連シテ以テ書ス。

死家產直不過五百金。皆所得奉賜。無他業。昆弟諸子欲厚葬。湯。湯母曰。湯爲天子大臣。被汗惡言而死。何厚葬乎。載以牛車。有棺無槨。天子聞之曰。非此母不能生此子。乃盡案誅三長史。丞相青翟自殺。出田信。上惜湯。稍遷其子安世。趙禹中廢已而爲廷尉。始條侯以爲禹賊深弗任。及禹爲少府。比九卿。禹酷急。至晚節。事益多。吏務爲嚴峻。而禹治加緩。而名爲平。王溫舒等後起。治酷於禹。禹以老徙爲燕相。數歲。亂悖有罪。免歸。後湯十餘年。以壽卒于家。

義縱者。河東人也。爲少年時。嘗與張次公俱攻剽。爲羣盜。徐廣曰。剽。音扶召反。○索隱曰。說文云。剽。刺也。一云。剽劫人。音敷妙反。縱有姊姁。索隱曰。李奇音吁。孟康音詡。以醫幸王太后。王



湯左田信等、類師古曰、  
之ヲ左ト謂フ者、罪人  
正身ヲ除グ外、又其左  
右者ヲ取テ考問スルヲ  
言フ。

使八輩簿實湯、類師古  
曰、文簿ノ次第ヲ以テ  
一一之ヲ實ムルナリ。

與君謝已而賣君。今欲劾君以宗廟事。此欲代君耳。吾知湯陰

事。使吏捕案湯左田信等。

漢書音義曰。左。證左也。○正義曰。言湯與田信爲左道之交。故言左田信等。

曰。湯且

欲奏請信輒先知之。居物致富。與湯分之。及他姦事。事辭頗聞。

上問湯曰。吾所爲。賈人輒先知之。益居其物。是類有以吾謀告

之者。湯不謝。湯又詳驚曰。固宜有。減宣亦奏謁居等事。天子果

以湯懷詐面欺。使使八輩簿責湯。

蘇林曰。簿。音主簿之簿。悉責也。

湯具自道無此

不服。於是上使趙禹責湯。禹至讓湯曰。君何不知分也。君所治

夷滅者幾何人矣。今人言君皆有狀。天子重致君獄。欲令君自

爲計。何多以對簿爲。湯乃爲書謝曰。湯無尺寸功。起刀筆吏。陛

下幸致爲三公。無以塞責。然謀陷湯罪者。三長史也。遂自殺。湯

三長史皆害湯欲陷之、  
方苞曰、句法先ノ湯爲  
御史大夫七歲敗ト同  
ジ。

固心望、札記云、舊刻  
心ヲ怨ニ作ル。

嘗欲死之、札記嘗ヲ常  
ニ作ル、云フ中統游毛  
本常、他本嘗ニ譌ス。

張晏曰。見知故。丞相患之。又提綱三長史皆害湯。欲陷之。始長史朱買臣。會

稽人也。

正義曰。朱買臣。吳人也。此時曹州爲會稽郡也。

讀春秋。莊助使人言買臣。買臣以楚

辭與助俱幸侍中。爲太中大夫。用事。而湯乃爲小吏。跪伏使買

臣等前。已而湯爲廷尉。治淮南獄。排擠莊助。買臣固心望。及湯

爲御史大夫。買臣以會稽守爲主爵都尉。列於九卿。數年。坐法

廢守長史。見湯。湯坐牀上。丞史遇買臣。弗爲禮。買臣楚士。

正義曰。周

末。越王句踐滅吳。楚威王滅越。吳之地。總屬楚。故謂朱買臣爲楚士。深怨。嘗欲死之。王朝齊人也。以術至右

內史。邊通學長短。

漢書音義曰。長短術。興於六國時。行長入短。其語隱謬。用相激怒。

剛暴彊人也。官再

至濟南相。故皆居湯右。已而失官。守長史。誦體於湯。湯數行丞

相事。知此三長史素貴。常凌折之。以故三長史合謀曰。始湯約



蔡中統游毛本吳校板並ニ事字アリ、按ニ漢書亦アリ。

弟繫導官、顏師古曰、導ハ擇ナリ、米ナ擇ブヲ主ルヲ以テ導官ト曰フ、事百官表ニ見ユ、時ニ或ハ諸獄皆滿ルヲ以テ、故ニ權ニ此署ニ寄在シ之ヲ繫ケ、本獄所ニ非ルナリ。

曰。言變事蹤跡安起。湯詳驚曰。此殆文故人怨之。謁居病臥閭里主人。湯自往視疾。爲謁居摩足。趙國以治鑄爲業。王數訟鐵官事。湯常排趙王。趙王求湯陰事。謁居嘗案趙王。趙王怨之。并上書告湯大臣也。史謁居有病。湯至爲摩足。疑與爲大姦。事下廷尉。謁居病死。事連其弟。弟繫導官。如淳曰。太官之別也。主酒。湯亦治他囚導官。見謁居弟欲陰爲之。而詳不省。謁居弟弗知。怨湯。使人上書告湯與謁居謀共變。告李文。事下減宣。宣嘗與湯有郤。及得此事。窮竟其事。未奏也。會人有盜發孝文園瘞錢。如淳曰。瘞。埋錢。於園陵以送死。丞相青翟朝。與湯約俱謝。至前。湯念獨丞相以四時行園。當謝。湯無與也。不謝。丞相謝。上使御史案其事。湯欲致其文丞相見知。



使蕃臣不自安、札記云、  
萬刻蕃ヲ藩ニ作ル。

湯爲御史大夫七歲敗、  
方苞曰、湯ノ敗ルル所  
以、事緒多端ナリ、此  
ヲ用テ關鍵ヲ爲スニ非  
ザレバ、則散漫シテ紀  
ナシ。

使人上蜚變、劉奉世曰、  
蜚變ハ、姓名ナクシテ  
變ヲ上ツル者ノ如キヲ  
謂フ。  
告文姦事下湯、札記下  
ノ上事字ヲ重シ、云フ

湯乃詐忠。若湯之治淮南江都。以深文痛詆諸侯。別疏骨肉。使

蕃臣不自安。臣固知湯之爲詐忠。於是上作色曰。吾使生居一

郡。能無使虜入盜乎。曰。不能。曰。居一縣。對曰。不能。復曰。居一障

間。正義曰。障。謂塞上要險之處。別築城置吏士守之以扞寇盜也。山自度辯窮。且下吏曰。能於是上遣

山乘鄣至月餘。匈奴斬山頭而去。自是以後。羣臣震懼湯之客

田甲。雖賈人有賢操。始湯爲小吏時。與錢通。徐廣曰。以利交。及湯爲大

吏。甲所以責湯行義過失。亦有烈士風。湯爲御史大夫七歲敗。終田甲提結上生下

河東人李文。嘗與湯有郤。已而爲御史中丞。恚數從中文書事。

有可以傷湯者。不能爲地。湯有所愛史魯。謁居。知湯不平。使人

上蜚變。告文姦事。下湯。湯治論殺文。而湯心知謁居爲之上。問

每朝奏事。語國家用。日晏。天子忘食。丞相取充位。

徐廣曰。時李蔡  
莊青翟爲丞相。

天下事皆決於湯。百姓不安其生。騷動。縣官所興。未獲其利。姦  
吏並侵漁。於是痛繩以罪。則自公卿以下。至於庶人。咸指湯。  
湯嘗病。天子至自視病。其隆貴如此。匈奴來請和親。羣臣議上前。  
博士狄山曰。和親便。上問其便。山曰。兵者凶器。未易數動。高帝  
欲伐匈奴。大困平城。乃遂結和親。孝惠高后時。天下安樂。及孝  
文帝。欲事匈奴。北邊蕭然苦兵矣。孝景時。吳楚七國反。景帝往  
來兩宮閒。寒心者數月。吳楚已破。竟景帝不言兵。天下富實。今  
自陛下舉兵擊匈奴。中國以空虛。邊民大困貧。由此觀之。不如  
和親。上問湯。湯曰。此愚儒無知。狄山曰。臣固愚忠。若御史大夫

ナリ、是ニ於ア上湯ノ  
言ヲ得テ、往往其人ノ  
罪ヲ釋スナリ、未ダ奏  
セザルノ前、口豫メ之  
ヲ言フニ非ズ。

管絢令注正義每千錢一  
算出一等、札記云、出  
字疑フ當ニ一算上ニ在  
ルベシ、而テ一等二字  
ヲ衍ス、然レドモ平準  
書ト合ハズ、當ニ脫誤  
アルベシ。

厚。其造請諸公。不避寒暑。是以湯雖文深意忌。不專平。然得此

聲譽。而刻深吏多爲爪牙用者。依於文學之士。丞相弘數稱其

美。及治淮南衡山江都反獄。皆窮根本。嚴助及伍被。上欲釋之。

湯爭曰。伍被本畫反謀。而助親幸出入禁闔。爪牙臣。乃交私諸

侯。如此弗誅。後不可治。於是上可論之。其治獄所排大臣。自爲

功多。此類。於是湯益尊任。遷爲御史大夫。徐廣曰。元狩二年。會渾邪等降。

漢大興兵伐匈奴。山東水旱。貧民流徙。皆仰給縣官。縣官空虛。

於是丞上指請造白金及五銖錢。籠天下鹽鐵。排富商大賈。出

告緡令。正義曰。緡音岷。錢貫也。武帝伐四夷。國用不足。故稅民田宅船乘畜產奴婢等。皆

謂緡。出此令用鋤築豪強兼并富。鉏豪彊并兼之家。舞文巧詆以輔法。湯

商大賈之家也。一算百二十文也。



上ノ意ヲ承ケ、讞辭ヲ著ヘシ、其法ヲ決シ、因テ其事ヲ廷尉律令中ニ載セ、後ニ疑事アル、比例掾度ヲ得シム、主ノ明ヲ揚グル所以ナリ。

罪常釋聞、札記雜志云、聞ハ當ニ漢書ニ依テ開ニ作リ、下ニ屬スベシ。

即下戸羸弱云云、顔師古曰、此下戸羸弱ニシテ、湯佐助セント欲スレバ、文ヲ具シ之ヲ奏スト雖モ、而モ又口奏言ス、律令ノ文合ニ此罪ニ致スベシト雖モ、上ノ裁察ニ聽カズ、蓋此人ノ爲ニ恩宥ヲ希フ

是受而著讞決法。廷尉絜令。

韋昭曰。在板絜。○正義曰。按謂律令也。古以板書之。言上所是著之爲正獄。以廷尉法令決平。

之。揚主之明監也。

揚主之明。奏事即譴湯應謝。

徐廣曰。應一作權。

鄉上意所便。必引

正監掾史賢者。

正義曰。百官表云。廷尉奏官有正左右監。皆秩千石也。按上即責湯應對謝之如上意。必引正監等賢者。本爲臣建議。如上意。臣不用。愚

昧不從至此也。

曰。固爲臣議如上責臣。臣弗用。愚抵於此。

蘇林曰。主坐不用。諸掾語。故至於此。

罪常釋聞。

徐廣曰。詔答聞也。如今制曰。聞矣。駟案瓚曰。謂常見原。

即奏事上善之。曰。臣非知爲此

奏。乃正監掾史某爲之。其欲薦吏揚人之善。蔽人之過。如此所

治。即上意所欲罪。予監史深禍者。即上意所欲釋。與監史輕平

者。所治即豪必舞文巧詆。即下戸羸弱時口言。雖文致法。上財

察。李奇曰。先見上口。於是往往釋湯所言。

李奇曰。湯口所先言皆見原釋。

湯至於大吏。

內行修也。通賓客飲食。於故人子弟爲吏。及貧昆弟。調護之。尤

夫。與趙禹共定諸律令。務在深文。拘守職之吏。蘇林曰。拘刻。此已而

趙禹遷爲中尉。徙爲少府。而張湯爲廷尉。兩人交驩。而兄事禹。

禹爲人廉倨。爲吏以來。舍毋食客。公卿相造請禹。禹終不報謝。

務在絕知友賓客之請。孤立行一意而已。見文法輒取。亦不覆

案。求官屬陰罪。湯爲人多詐。舞智以御人。韋昭曰。始爲小吏。乾

沒。徐廣曰。隨勢沈浮也。駟案服虔曰。射成敗也。如淳曰。得利爲乾。失利爲沒。○正義曰。此二說非也。按乾沒。謂無潤及之而取他人也。又云陽浮慕爲乾。心內不合爲沒也。與

長安富賈田甲魚翁叔之屬交私。徐廣曰。及列九卿。收接天下名

士大夫。己心內雖不合。然陽浮慕之。是時上方鄉文學。湯決大

獄。欲傳古義。索隱曰。乃請博士弟子治尚書春秋。補廷尉史。亭

疑法。李奇曰。亭。平也。均也。○索隱曰。使之平疑事也。奏讞疑事。必豫先爲上分別其原。上所

與趙禹共定諸律令云云。方苞曰。寧成周陽由ノ前。吏ノ治酷ニ過ギザルノミ。趙禹張湯而後ハ。則朝廷ノ法ヲ用フル益刻ナリ。上以テ能ト爲シ。而テ丞相弘等數々其美ヲ稱スルニ由ルナリ。又曰。湯ト禹ト共ニ律令ヲ定ムルニ因リ。而テ其交驩ニ及ビ。交驩ニ因リ。而テ其人ト爲リニ及ビ。其後湯敗レ。天子禹ヲシテ之ヲ責メシムルヲ以テ。因テ以テ章法ト爲スナリ。故ニ禹事ト連書セズ。而テ湯ノ傳ニ入ル。見文法輒取亦不覆案。方苞曰。獄詞法律ト相應ズルヲ見ル。輒チ之ヲ取リ。而テ其事ヲ覆案セズ。以テ官屬ノ陰罪ヲ求ムルナリ。猶陸沈ト言フ如シ。陰依幸傳ニ。長公主鄧通ニ賜フ。吏隨テ之ヲ沒入ス。是ナリ。蓋注皆迂ナリ。上所是受而著讞決法廷尉掾令云云。方苞曰。



竊鼠掠治傳爰書注蘇林曰傳謂傳囚也、錢大昕曰、傳、鹽傳字ノ譌ナリ、傳讀テ附ト曰フ、爰書ニ附スルヲ謂フ、札記云、傳ハ下文傳古義ノ得ト同ジ、然ルニ舊注ニ誤ル、按ニ顏師古曰、爰ハ換ナリ、文書ヲ以テ其日辭ニ代換スルナリ、訊ハ考問ナリ、鞠ハ窮ナリ、之ヲ窮蹙スルヲ謂フ、論報ハ之ヲ上論シテ報ヲ獲ルヲ謂フナリ。

治方中、顏師古曰、蘇說非ナリ、古、地ヲ稱リ、院ヲ爲ルヲ方ト曰フ、今荆楚ノ俗、土功築作シ、程課ヲ算スル者、猶方ヲ以テ之ヲ計ル、避諱ヲ謂ニ非ルナリ。

盜肉。其父怒。笞湯。湯掘窟。得盜鼠及餘肉。劾鼠掠治。傳爰書。訊

鞠論報。蘇林曰。謂傳囚也。爰。易也。以此書易其辭處。鞠。窮也。張晏曰。傳。考證驗也。爰書。自證不如。此言反受其罪。訊。考三日復問之。知與前辭同不也。鞠。一吏爲讀狀論其

報行也。○索隱曰。韋昭云。爰。換也。古者重刑。嫌有愛惡。故移換獄書。使他官考實之。故曰傳爰書也。并取鼠與肉。具獄磔堂下。鄧展

曰罪。其父見之。視其文辭。如老獄吏。大驚。遂使書獄。如淳曰。決獄之書。謂律令

也。父死後。湯爲長安吏。久之。周陽侯始爲諸卿時。徐廣曰。田勝也。武帝母王太后

之同母弟也。武帝始立。而封爲周陽侯。嘗繫長安。湯傾身爲之。韋昭曰。爲之先後。及出爲侯。大與

湯交。徧見湯貴人。湯給事內史。爲寧成掾。以湯爲無害。言大府。

調爲茂陵尉。治方中。漢書音義曰。方中。陵上土作方也。湯主治之。蘇林曰。天子卽位豫作陵。諱之故言方中。如淳曰。大府。幕府也。茂陵尉。主作

陵之尉也。韋昭曰。大府。公府。武安侯爲丞相。徵湯爲史。時薦言之天子。補御史。使

案事。治陳皇后蠱獄。深竟黨與。於是上以爲能。稍遷至太中大



ズ、所謂枝ナリ、當ニ  
與汲黯俱ヲ以テ句ト爲  
シ爲枝二字下句ニ屬ス  
ベシ、文義方ニ安シ、班  
史與俱兩字ヲ脱去シ、  
注家因テ謂フ、黯安ニ  
人皆由ナ畏レ、敢テ與  
ニ均ウセズト、之ヲ失  
フ遠シ、漢書伏ヲ馮ニ  
作ル、古人伏ヲ讀テ句  
ノ如シ、馮聲ト相近シ、  
王吉傳、馮式權衡ハ、  
即戰國策ノ伏軾權衡ナ  
リ、碧落文、亦凭ヲ以  
テ伏字ニ當ツ、按ニ枝  
ハ害ナリ。

告言罪。ソツ索隱曰。風俗通云。勝屠公當抵罪。義不受刑自殺。而由棄市。セツル

自寧成周陽由之後。事益多。民巧法。大抵吏之治。類多成由等

矣。

趙禹者。釐人。徐廣曰。屬扶風。音台。正義曰。音胎。故釐城在雍武功縣西南二十二里。古郃國。后稷所封。漢釐縣也。以佐史補中

都官。正義曰。若京都府史。用廉爲令史。事太尉亞夫。亞夫爲丞相。禹爲丞相

史。府中皆稱其廉平。然亞夫弗任。曰。極知禹無害。然文深。漢書音義

曰。禹持文法深刻。不可以居大府。今上時。禹以刀筆吏積勞。稍遷爲御史。

上以爲能。至太中大夫。與張湯論定諸律令。徐廣曰。論一作編。作見知吏

傳得相監司。用法益刻。蓋自此始。

張湯者。杜人也。徐廣曰。爾時未爲陵。其父爲長安丞。出湯爲兒守舍。還而鼠

其使民、札記云、御覽四百七十三引、使役二作ル。

數千家數年會赦致產數千金爲任俠持吏長短出從數十騎其使民威重於郡守。

周陽由者其父趙兼以淮南王舅父侯周陽故因姓周陽氏。

徐廣

曰侯五年孝文六年國除。○正義曰周陽故城在絳州聞縣東二十九里。

由以宗家任爲郎。

索隱曰案與國家有外戚姻屬比於宗室故曰宗家

也。事孝文及景帝景帝時由爲郡守武帝卽位吏治尙循謹甚。

然由居二千石中。最爲暴酷驕恣所愛者撓法活之所憎者曲

總敘

法誅滅之所居郡必夷其豪爲守視都尉如令爲都尉必陵太

守奪之治與汲黯俱爲忤。

漢書音義曰堅忤也。

司馬安之文惡。

漢書音義曰以文法傷害人。

俱在二千石列同車未嘗敢均茵伏。

徐廣曰漢書作馮伏者軾。○索隱曰案均等也。茵車幕也。言二人與由同

載一車上不敢與之均茵軾也。謂下之也。馮音凭。

由後爲河東都尉時與其守勝屠公爭權相

與汲黯俱爲忤云云注索隱云云錢大昕曰予謂フ索隱ノ說非ナリ、司馬安ハ黯ノ姑姊ノ子ナリ以テ同時仕宦ス、由黯ヲ重ンジ、而テ安ヲ輕ンズ、或ハ時ニ安ト俱ニ出ヅ、已ナ得ズ安ト同車ス、然ルニ亦與ニ茵伏ヲ均ウスルヲ恥

ナリ、物ヲ淫セバ則東  
シ易シ。

詐刻傳出關、顏師古曰、  
傳ハ關ヲ出ル所以ノ符  
ナリ、方苞曰、詐テ符  
篆ヲ刻スルナリ。

賊任威、稍遷至濟南都尉。

正義曰。百官表云。都尉。秦官。掌佐守。典武職甲卒。秩  
比二千石。有丞。秩皆六百石。景帝中二年更名都尉。

若周之司馬。而郅都爲守。始前數都尉。

索隱曰。數  
音所注反。

皆步入府。因吏謁守。

如縣令。其畏郅都如此。及成往直陵都出其上。都素聞其聲。於

是善遇。與結驩。久之。郅都死。後長安左右宗室多暴犯法。於是

上召寧成爲中尉。

正義曰。百官表云。中尉。秦官。掌徼循京師。武帝太初元年更名執  
金吾。顏云。金吾。鳥名也。主辟不祥。天子出行。職主先道以禦非常。

故執此鳥之  
象。因以名官。

其治效郅都。其廉弗如。

省語  
然宗室豪桀皆人人惴恐。武

帝卽位。徙爲內史。外戚多毀成之短。抵罪髡鉗。是時九卿罪死

卽死。少被刑。而成極刑。自以爲不復收。於是解脫。詐刻傳出關。

索隱曰。解音紀。買反。脫  
音他活反。謂脫鉗鉤也。

歸家。稱曰。仕不至二千石。賈不至千萬。安可

比人乎。乃貰貸買陂田千餘頃。

索隱曰。貰音食夜反。貰。除  
也。又音勢。貸音天得反。

假貧民役使。



府對簿。臨江王欲得刀筆爲書謝上。而都禁吏不予。魏其侯使

人以閒與臨江王。臨江王既爲書謝上。因自殺。竇太后聞之怒。

以危法中都。索隱曰。案中如字。讀。謂以法中傷之。都免歸家。孝景帝乃使使持節拜都

爲雁門太守。而便道之官。得以便宜從事。匈奴素聞郅都節。居

邊。爲引兵去。竟郅都死。不近雁門。匈奴至爲偶人象郅都。索隱曰。漢

書作寓人象。案寓。卽偶也。謂刻木偶類人形也。一云寄人形於木也。令騎馳射。莫能中。見憚如此。匈奴患之。

竇太后乃竟中都。以漢法。景帝曰。都忠臣。欲釋之。竇太后曰。臨

江王獨非忠。竇邪。於是遂斬郅都。

寧成者。穰人也。徐廣曰。寧一作竇。屬南陽。以郎謁者事景帝。好氣。爲人小吏。必

陵其長吏。爲人上操下如束溼薪。徐廣曰。一無此字。駟案韋昭曰。言急也。○索隱曰。操音七刀反。操。執也。滑

環下如束溼薪。顏師古曰。操。執持也。束溼。其急。甚。シ。キ。言フ。

乃拜都爲濟南太守。錢大昕曰、漢表二據レバ、都濟南太守ヨリ中尉ニ遷ル、景帝前七年ニ在リ、而テ郡守名ヲ太守ト更ム、乃景帝中二年ニ在リ、則其時太守ト稱スルヲ得ザルナリ、太守衍ナリ、按ニ漢書濟南守ニ作ル。

欲<sup>ミ</sup>自<sup>シテ</sup>持<sup>チ</sup>兵<sup>ヲ</sup>救<sup>ント</sup>賈<sup>ト</sup>姬<sup>ヲ</sup>。都<sup>ニ</sup>伏<sup>シテ</sup>上<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>曰<sup>フ</sup>。亡<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>姬<sup>ヲ</sup>復<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>姬<sup>ヲ</sup>進<sup>ン</sup>。天下<sup>ノ</sup>所<sup>レ</sup>少<sup>キ</sup>。寧<sup>ロ</sup>

賈<sup>ニ</sup>姬<sup>ヲ</sup>等<sup>ヲ</sup>乎<sup>ヲ</sup>。陛<sup>下</sup>縱<sup>ヒ</sup>自<sup>ミ</sup>輕<sup>ズルモ</sup>。奈<sup>ニ</sup>宗<sup>ノ</sup>廟<sup>ヲ</sup>太<sup>后</sup>何<sup>ヲ</sup>。上<sup>ノ</sup>還<sup>ル</sup>。屍<sup>モ</sup>亦<sup>レ</sup>去<sup>ル</sup>。太<sup>后</sup>聞<sup>キ</sup>之<sup>ヲ</sup>。

賜<sup>フ</sup>都<sup>ニ</sup>金<sup>百斤</sup>。由<sup>チ</sup>此<sup>ニ</sup>重<sup>ニ</sup>郅<sup>ヲ</sup>都<sup>ヲ</sup>。濟<sup>南</sup>閼<sup>氏</sup>。漢書音義曰。閼音開。小兒癩病也。○索隱曰。荀悅書音閑。鄒氏劉氏音並

同也。宗<sup>ノ</sup>人<sup>三百餘家</sup>。豪<sup>猾</sup>。二<sup>千石</sup>莫<sup>ニ</sup>能<sup>ス</sup>制<sup>スル</sup>。於<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>景<sup>ノ</sup>帝<sup>乃</sup>拜<sup>シテ</sup>都<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>濟

南<sup>ノ</sup>太<sup>守</sup>。至<sup>レバ</sup>則<sup>チ</sup>族<sup>ニ</sup>滅<sup>ス</sup>。閼<sup>氏</sup>首<sup>ヲ</sup>惡<sup>ヲ</sup>。餘<sup>皆</sup>股<sup>栗</sup>。徐廣曰。髀。脚戰搖也。居<sup>ル</sup>歲<sup>餘</sup>。郡<sup>中</sup>不

拾<sup>ヘ</sup>遺<sup>ヲ</sup>。旁<sup>ニ</sup>十<sup>餘</sup>郡<sup>守</sup>。畏<sup>ル</sup>都<sup>ヲ</sup>如<sup>シ</sup>大<sup>府</sup>。都<sup>ノ</sup>爲<sup>ニ</sup>人<sup>勇</sup>。有<sup>ニ</sup>氣<sup>力</sup>。公<sup>廉</sup>。不<sup>レ</sup>發<sup>セ</sup>私

書<sup>ヲ</sup>。問<sup>ニ</sup>遺<sup>廉</sup>無<sup>レ</sup>所<sup>ル</sup>受<sup>ル</sup>。請<sup>ニ</sup>寄<sup>公</sup>無<sup>レ</sup>所<sup>ル</sup>聽<sup>ク</sup>。常<sup>ニ</sup>自<sup>ミ</sup>稱<sup>シテ</sup>曰<sup>フ</sup>。已<sup>ニ</sup>倍<sup>テ</sup>親<sup>ニ</sup>而<sup>シテ</sup>仕<sup>フ</sup>。身<sup>固</sup>當<sup>ニ</sup>奉

職<sup>ヲ</sup>。死<sup>ス</sup>節<sup>ニ</sup>官<sup>下</sup>。終<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>顧<sup>ミ</sup>妻<sup>子</sup>矣<sup>ヲ</sup>。郅<sup>ニ</sup>都<sup>遷</sup>爲<sup>ニ</sup>中<sup>尉</sup>。丞<sup>相</sup>條<sup>侯</sup>。至<sup>ニ</sup>貴<sup>倨</sup>

也。而<sup>シテ</sup>都<sup>揖</sup>丞<sup>相</sup>。是<sup>ニ</sup>時<sup>民</sup>朴<sup>畏</sup>罪<sup>自</sup>重<sup>ス</sup>。而<sup>シテ</sup>都<sup>獨</sup>先<sup>ニ</sup>嚴<sup>酷</sup>。致<sup>ニ</sup>行<sup>シ</sup>法<sup>不</sup>

避<sup>ニ</sup>貴<sup>戚</sup>。列<sup>ニ</sup>侯<sup>宗</sup>室<sup>見</sup>都<sup>ヲ</sup>。側<sup>目</sup>而<sup>シテ</sup>視<sup>ル</sup>。號<sup>シテ</sup>曰<sup>フ</sup>。蒼<sup>鷹</sup>。臨<sup>ニ</sup>江<sup>王</sup>徵<sup>詣</sup>中<sup>尉</sup>

溺ハ沈滞シテ而テ舉ラ  
ザルヲ謂フナリ。  
破觚而爲圓云云、顏師  
古曰、嚴刑ヲ去テ而テ  
簡易ニ從ヒ、巧僞ヲ抑  
ヘテ而テ敦厚ヲ務ムル  
ナリ。

遂禽侯封之家、札記志  
疑云、禽ハ當ニ夷ニ作  
ルベシ、按ニ漢書夷ニ  
作ル、顏師古曰、誅除  
ナリ。

野毚卒入廁、札記云、  
毛本卒下來字アリ。

下士聞道大笑之。非虛言也。漢興破觚而爲圓。

此老子道經之言。漢書音義曰觚方。○索隱曰應劭云觚八

稜有隅者。高祖反秦之政破觚爲圓。謂除其嚴法約三章耳。

斲雕而爲朴。

索隱曰應劭云削瑀爲璞也。晉灼云。網

網

漏於吞舟之魚。而吏治烝烝不至於姦。黎民艾安。由是觀之。在

彼不在此。

韋昭曰在道德不在嚴酷。

高后時酷吏獨有侯封。刻轢宗室。侵辱功

臣。呂氏已敗。遂禽侯封之家。孝景時鼂錯以刻深。頗用術輔其

資。而七國之亂發。怒於錯。錯卒以被戮。其後有郅都寧成之屬。

郅都者楊人也。

徐廣曰屬河東。○索隱曰郅音質。漢書云河東大陽人。○正義曰括地志云故楊城。本秦時楊國。漢楊縣城也。今晉州洪洞縣也。至隋爲

楊。唐初改爲洪縣。以故洪洞鎮爲名也。秦及漢皆屬河東郡。郅都墓在洪洞縣東南二十里。漢書云郅都河東大陽人。班固失之甚也。大陽今陝州河北縣是。亦屬河東郡也。

以

郎事孝文帝。孝景時都爲中郎將。敢直諫。面折大臣於朝。嘗從

入上林。賈姬如廁。

索隱曰案姬生趙王彭祖也。

野毚卒入廁。上目都。都不行。上



# 史記評林卷之一百二十二

## 酷吏列傳第六十二

孔子曰。導之以政。齊之以刑。民免而無恥。孔安國曰。免。苟免也。導之以德。齊

之以禮。有恥且格。何晏曰。格。正也。老氏稱上德不德。是以有德。下德不

失德。是以無德。法令滋章。盜賊多有。太史公曰。信哉是言也。法

令者。治之具。而非制治清濁之源也。昔天下之網嘗密矣。索隱曰。案

鹽鐵論云。秦法密於凝脂。然姦僞萌起。其極也。上下相遁。至於不振。當是之時。

吏治若救火揚沸。索隱曰。言本弊不除。則其末難止也。非武健嚴酷。惡能勝其任而愉

快乎。言道德者溺其職矣。故曰。聽訟吾猶人也。必也使無訟乎。

上下相通云云、顏師古曰、遁ハ避ナリ、吏ハ君ニ避ケ、民ハ吏ニ避ケ、喪敗シテ振救スベカラザルニ至ルナリ。而愉快乎、札記拾遺云、漢書愉ナ論ニ作ル、小顏云、愉ハ苟且ナリ。溺其職矣、顏師古曰、

節使決淮南獄於諸侯。擅專斷不報。以春秋之義正之。天子皆以爲是。弟子通者。至於命大夫。爲郎謁者。掌故者。以百數。而董仲舒子及孫。皆以學至大官。

索隱述贊曰。孔氏之衰。經書緒亂。言諸六學。始自炎漢。著令立官。四方扼腕。曲臺壞壁。書禮之冠。傳易言詩。雲蒸霧散。興化致理。鴻猷克贊。

史記評林卷之一百二十一終

弘疾之乃言上云云、王鳴盛曰、公孫弘汲汲然疾メバ、則徒シ、右内史ト爲スナリシ、董仲舒ヲ疾メバ、則膠西王ニ相タラシメント、膠フ、五宗世家言フ、膠西王端、人ト爲リ賊戾、殺ス所ノ二千石甚ダ衆シト、弘ノ相タラシムルヲ請フ、之ヲ殺スチ欲スルナリ、廬杞ノ頗眞卿ヲ陷ルト正ニ同シ、其後膠西王卒ニ善ク仲舒ヲ待ツ、廬嫉者徒勞ト爲ス矣、唯董仲舒名爲明於春秋云云、方苞曰、諸老師能ク經ヲ傳フルノミ、唯董子ハ則其義ヲ明カニス、故ニ表シテ而テ之ヲ出ス、

弟子遂者、顔師古曰、遂ハ名位成達スル者ヲ謂フ、札記云、毛本吳校元本遂ヲ通ニ作ル。

災異。董仲舒爲人廉直。是時方外攘四夷。公孫弘治春秋。不如董仲舒。而弘希世用事。位至公卿。董仲舒以弘爲從諛。弘疾之。乃言上曰。獨董仲舒可使相。膠西王。膠西王素聞董仲舒有行。亦善待之。董仲舒恐久獲罪。疾免。居家至卒。終不治產業。以修學著書爲事故。漢興至于五世之間。唯董仲舒名爲明於春秋。其傳公羊氏也。

胡毋生。漢書曰。字子都。齊人也。孝景時爲博士。以老歸教授。齊之言春秋者多受胡毋生。公孫弘亦頗受焉。瑕丘江生爲穀梁春秋。自公孫弘得用。嘗集比其義。卒用董仲舒。仲舒弟子遂者。蘭陵褚大。

廣川殷忠。

徐廣曰。殷一作段。又作瑕也。

溫呂步舒。褚大至梁相。步舒至長史。持。



仲舒、新學者、但其  
舊弟子ニ就テ業ヲ受  
ケ、必親シク仲舒ヲ慕  
ザルヲ言フナリ。

二千石。然要言易者。本於楊何之家。

董仲舒。廣川人也。以治春秋。孝景時爲博士。下帷講誦。弟子傳

以久次相受業。或莫見其面。蓋三年。董仲舒不觀於舍園。其精

如此。進退容止。非禮不行。學士皆師尊之。今上卽位。爲江都相。

索隱曰。案仲舒事。

易王。武帝兄。

以春秋災異之變。推陰陽。所以錯行。故求雨。閉諸

陽。縱諸陰。其止雨。反是。行之一國。未嘗不得所欲。中廢爲中大

夫。居舍著災異之記。是時遼東高廟災。主父偃疾之。取其書奏

之天子。徐廣曰。建元六年。○索隱曰。案漢書以爲遼東高廟及長陵園殿災也。仲舒爲災異記。草而未奏。主父偃竊而奏之。天子召諸生示

其書。有刺譏。董仲舒弟子呂步舒。不知其師書。徐廣曰。舒一作茶。亦音舒。以爲

下愚。於是下董仲舒吏。當死。詔赦之。於是董仲舒竟不敢復言。

公戶滿意、錢大昕曰、公羊傳ニ、公扈子アリ、公戶疑フ即公扈ナリ。

容不能通禮經。延頗能未善也。襄以容爲漢禮官大夫。至廣陵。

內史延及徐氏弟子公戶滿意。

索隱曰。公戶。姓滿意名也。案鄧展云。二人姓字。非也。

桓生單次。

索隱

曰。單音善。單姓次名也。

皆常爲漢禮官大夫。而瑕丘蕭奮。

徐廣曰。屬山陽也。

以禮爲淮

陽太守。是後能言禮爲容者。由徐氏焉。自魯商瞿受易孔子。

索隱

曰。案商。姓瞿名。

孔子卒。商瞿傳易。六世至齊人田何。字子莊。

索隱曰。案漢書云。商

瞿授魯橋庇子庸。子庸授江東馯臂子弓。子弓授燕周醜子家。子家授東武孫虞子乘。子乘授何。六代也。仲尼弟子傳作瞿傳。馯臂子弘。弘傳江東人矯子庸疵。疵傳燕人周子家豎。豎傳淳于光子乘羽。羽傳齊人田子莊何。與漢書不同。馯音寒。庇音必利反。疵音自移反。

而漢興。田何傳東武人王同子仲。

子仲傳菑川人楊何。

索隱曰。案田何傳東武王同傳菑川楊何。

何以易。元光元年徵。官至

中大夫。齊人卽墨成以易至城陽相。廣川人孟但以易爲太子。

門大夫。魯人周霸。莒人衡胡。

徐廣曰。莒一作呂。

臨菑人主父偃。皆以易至。

兒寬位至御史大夫。注元狩。札記元封二作ル、云フ舊刻名臣表ト合ス、各本元狩ニ誤ル。

孔氏有古文尙書而安國以今文讀之。因以起其家。方苞曰、古文ハ科斗文ナリ、時ニ科斗書廢スル已ニ久シ、人識ル能ハズ、安國伏生傳テ比校シ、之ヲ讀ミ、復二十五篇ヲ得、往時書ヲ言フ者、惟伏生、而安國復自ラ家ニ名ヅク、所謂起其家ナリ、漢時經ヲ傳ル者、各一日家ノ說ヲ守ル、故ニ曰言易者要本於楊何之家ト。

多於是矣。注索隱、漢雅隆曰、河圖疑フ當ニ何圖ニ作ルベシ。

六年。兒寬位至御史大夫。徐廣曰。元狩元年。九年而以官卒。寬在三公位。

以和良承意。從容得久。然無有所匡諫於官。官屬易之。不爲盡

力。張生亦爲博士。而伏生孫以治尙書。徵不能明也。自此之後。

魯周霸。孔安國。雒陽賈嘉。頗能言尙書事。孔氏有古文尙書。而

安國以今文讀之。因以起其家。逸書得十餘篇。蓋尙書滋多於

是矣。索隱曰。案孔臧與安國書云。舊書潛於壁室。歟爾復出。古訓復申。臧聞尙書二十八篇。取象二十八宿。河圖乃有百篇耶。知以今文讎古篆隸。推科斗以定五十餘篇。竝爲之

傳也。藝文志曰。安國悉得其書。以考二十九篇。得多十六篇。起者謂起發以出也。諸學者多言禮。而魯高堂生最本

禮。固自孔子時而其經不具。及至秦焚書。書散亡益多。於今獨

有士禮。高堂生能言之。而魯徐生善爲容。波孝文帝

時。徐生以容爲禮官大夫。傳子至孫。徐延。徐襄。襄其天姿善爲

索隱曰。漢書作頌。亦音容也。



爲弟子都養、顏師古曰、  
都ハ凡養ナリ、養ハ烹  
炊ヲ給スルヲ主ル者ナ  
リ、貧ニシテ資用ナシ、  
故ニ諸弟子ニ烹炊ヲ供  
スルナリ。

壁藏之。其後兵大起。流亡。漢定。伏生求其書。亡數十篇。獨得二

十九篇。卽以教于齊魯之間。學者由是頗能言尙書。諸山東大

師。無不涉尙書以教矣。伏生教濟南張生及歐陽生。  
漢書曰。字和伯。千乘人。

歐陽生教千乘兒寬。兒寬旣通尙書。以文學應郡舉。詣博士受

業。受業孔安國。兒寬貧。無資用。常爲弟子都養。  
索隱曰。謂兒寬家貧。爲弟子造食也。何休

注。公羊。灼烹爲養。案有廝養卒。廝。掌馬養造食也。及時時間行傭賃。以給衣食。行常帶經。止息

則誦習之。以試第。次補廷尉史。是時張湯方鄉學。以爲奏讞掾。

以古法議決疑大獄。而愛幸寬。寬爲人溫良。有廉智自持。而善

著書。書奏敏於文。口不能發明也。湯以爲長者。數稱譽之。及湯

爲御史大夫。以兒寬爲掾。薦之天子。天子見問說之。張湯死後

薛人公孫弘亦徵徐廣曰。薛縣在菑川。側目而視。固曰。公孫子務中弘病處正學。以

言。無曲學以阿世。自是之後。齊言詩皆本轅固生也。諸齊人以

詩顯貴。皆固之弟子也。

韓生者。漢書曰。名嬰。燕人也。孝文帝時爲博士。景帝時爲常山王太傅。

徐廣曰。憲王舜也。韓生推詩之意而爲內外傳數萬言。其語頗與齊魯閒。

殊。然其歸一也。淮南貢生受之。索隱曰。貢音肥。自是之後。而燕趙閒言詩

者由韓生。韓生孫商爲今上博士。

伏生者。張晏曰。伏生名勝。伏氏碑云。濟南人也。故爲秦博士。孝文帝時欲求能治

尙書者。天下無有。乃聞伏生能治。欲召之。是時伏生年九十餘。

老不能行。於是乃詔太常使掌故朝錯往受之。秦時焚書。伏生

掌故朝錯、札記云、舊刻游本龍錯二作ル。

食肉不食馬肝云云、顏  
 師古曰、馬肝毒アリ、  
 之ヲ食フ、憲ク人ヲ殺  
 ス、幸ニ食フナキヲ得、  
 湯武ヲ言テ殺ト爲ス、  
 是經義ニ背ク、故ニ以  
 テ喻ト爲ス。  
 此是家人言耳、顏師古  
 曰、家人ハ、僮隸ノ屬  
 ナ言フ。  
 安得司空城旦書乎、楊  
 慎曰、司空城旦書、蓋  
 太后轅固ヲ怒嘗スルノ  
 言、其意入ルニ罪條ヲ  
 以テシ、城旦ニ比セン  
 ト欲ス、軀體書ヲ律令  
 ニ比スト謂フ、非ナリ。

轅固生曰。必若所云。是高帝代秦。即天子之位。非邪。於是景帝

曰。食肉不食馬肝。正義曰。論衡云。氣熱而毒盛。故食馬肝殺一人。又盛夏馬行多渴死。殺氣爲毒也。不爲不知味。言學

者無言。湯武受命。不爲愚。遂罷。是後學者莫敢明受命放殺者。

竇太后好老子書。召轅固生問老子書。固曰。此是家人言耳。索隱

曰。服虔云。如家人言也。案老子道德篇。雖微妙難通。太后怒曰。安得司空城旦

然近而觀之。理國理身而已。故言此家人之言也。書乎。徐廣曰。司空主刑徒之官也。軀案漢書

音義曰。道家以儒法爲急。比之於律令。乃使固入圈刺豕。景帝知太后

怒而固直言無罪。乃假固利兵。下圈刺豕。正中其心。一刺豕應

手而倒。太后默然。無以復罪罷之。居頃之。景帝以固爲廉直。拜

爲清河王太傅。徐廣曰。哀王乘也。久之。病免。今上初卽位。復以賢良徵固。

諸諛儒多疾毀固。曰。固老罷歸之時。固已九十餘矣。固之徵也。倒擊



繆氏出蘭陵。一音穆。所謂穆生爲楚元王所禮也。

徐偃爲膠西中尉。鄒人闕門慶忌

漢書音義曰。姓闕門名慶忌。

爲膠東內史。其治官民皆有廉節。稱其好學。學官弟子行雖不備。而至於大夫郎中掌故以百數。言詩雖殊。多本於申公。

清河王太傅轅固生者。齊人也。以治詩。孝景時爲博士。與黃生爭論景帝前。黃生曰。湯武非受命。乃弑也。轅固生曰。不然。夫桀紂虐亂。天下之心皆歸湯武。湯武與天下之心而誅桀紂。桀紂之民。不爲之使而歸湯武。湯武不得已而立。非受命爲何。黃生曰。冠雖敝。必加於首。履雖新。必關於足。何者。上下之分也。今桀紂雖失道。然君上也。湯武雖聖。臣下也。夫主有失行。臣下不能正言匡過。以尊天子。反因過而誅之。代立踐南面。非弑而何也。

第秩比二百石者ナリ、  
 中二千石屬ハ、即左右  
 內史大行卒史ナリ、郡  
 屬ハ、即太守卒史ナリ、  
 先ヅ誦多者ヲ用ヒ、中  
 二千石屬ニ補シ、足ラ  
 サレバ、乃一藝ニ通ズ  
 ル者ヲ擇ビ之ヲ足ス、  
 而テ舊掌故ハ郡屬ニ補  
 スルナリ。  
 請著功令、顔師古曰、  
 新ニ此條ヲ立テ、請テ  
 以テ功令ニ著ス、功令  
 ハ篇名、今ノ選舉令ノ  
 若シ。  
 胥靡申公、顔師古曰、  
 胥靡ハ、相係デ役ヲ作  
 スナリ、楊慎曰、腐刑  
 據ナシ。  
 以教無傳疑、札記云、毛  
 本疑字ナシ、漢書ト合  
 本。  
 按ニ顔師古曰、無傳ハ、  
 口其指ヲ説テ、而テ解  
 説ノ傳ヲ爲サザル也。  
 不至多言、札記至チ在  
 ニ作ル、云フ中統王柯  
 淺至ニ誤ル。  
 太皇寶太后、錢大明曰、  
 當ニ寶太皇太后ト云フ  
 也。

受<sub>レ</sub>詩申公。縮爲御史大夫。縮臧請<sub>二</sub>天子<sub>一</sub>。欲立<sub>二</sub>明堂<sub>一</sub>以朝諸侯。不  
 能就<sub>二</sub>其事<sub>一</sub>。乃言<sub>二</sub>師申公<sub>一</sub>。於是天子使<sub>二</sub>使束帛加璧<sub>一</sub>。安車駟馬。迎  
 申公。弟子二人乘<sub>二</sub>軺傳<sub>一</sub>從至。見<sub>二</sub>天子<sub>一</sub>。徐廣曰。馬車。天子問<sub>二</sub>治亂之事<sub>一</sub>。申  
 公時已八十餘。老對曰。爲治者不至<sub>二</sub>多言<sub>一</sub>。一本至作在。顧力行何如耳。是時  
 天子方好文詞。見<sub>二</sub>申公<sub>一</sub>對默然。然已招致。則以爲太中大夫。舍  
 魯邸。議<sub>二</sub>明堂事<sub>一</sub>。太皇寶太后好<sub>二</sub>老子言<sub>一</sub>。不說<sub>二</sub>儒術<sub>一</sub>。得<sub>二</sub>趙綰王臧  
 之過<sub>一</sub>。以讓<sub>二</sub>上<sub>一</sub>。上因廢<sub>二</sub>明堂事<sub>一</sub>。盡下<sub>二</sub>趙綰王臧吏<sub>一</sub>。後皆自殺。申公  
 亦疾免<sub>二</sub>以歸<sub>一</sub>。數年卒。弟子爲<sub>二</sub>博士<sub>一</sub>者十餘人。孔安國至<sub>二</sub>臨淮太  
 守<sub>一</sub>。徐廣曰。孔鮒之弟子襄爲惠帝博士。遷爲長沙太周霸至<sub>二</sub>膠西內史<sub>一</sub>。夏寬至<sub>二</sub>  
 城陽內史<sub>一</sub>。碭魯賜至<sub>二</sub>東海太守<sub>一</sub>。蘭陵繆生至<sub>二</sub>長沙內史<sub>一</sub>。索隱曰。繆  
 音亡救反。



治禮次治掌故、札記云、中統游本次ヲ以ニ作ル、按ニ漢書以治禮掌故ニ作ル、顏師古曰、治禮掌故ノ官、本文學アリ、禮義ニ習フ者ヲ以テ之ヲ爲ス、又謂滯シ人ヲ遷擢スル所以ナリ。

請擇其秩比二百石云云、方苞曰、凡吏百石能一藝ニ通ズル者ハ、太常高第秩比二百石者ト並ニ左右内史、行卒史ニ補スルヲ得ルナリ、大行モ亦禮官。

先用誦多者若不足云云、方苞曰、誦多キ者ハ、諸經ニ通ズル多キナリ、一藝ニ通ズル以上、掌故ノ缺ニ補ス、故ニ先ヅ誦多キ者ヲ用ヒ、足ラザレバ、乃掌故ヲ取ルナリ、上ニ通一藝以上補文學掌故缺ト云フ、是蓋是日アリ、而テ弘請テ博士弟子ヲ以テ其缺ニ補スルナリ、此獨リ掌故ト稱スル者、博士弟子新補スル者ナリ、文學掌故ト稱スル者ハ、舊掌故ト爲ル者ナリ、誦多者ハ、高

申公者魯人也。高祖過魯。申公以弟子從師。入見高祖于魯南

宮。

索隱曰。按漢書云。申公少與楚元王俱事齊人浮丘伯受詩。○正義曰。括地志云。泮宮在兗州曲阜縣西南二百里魯城內宮之內。鄭云。泮之言半也。其制半於天子之壁雍。

呂太后時。申公游學長安。與劉郢同師。

索隱曰。案漢書云。呂太后時。浮丘伯在長安。申公與元王子郢俱卒。

學也。郢已而郢爲楚王。令申公傳其太子戊。

徐廣曰。楚元王劉交以文帝元年薨。子夷王郢立。四歲薨。

戊立。郢以呂后二年封上

戊不好學。疾申公。及王郢卒。戊立爲楚王。

胥靡申公。

徐廣曰。申公恥之。歸魯。退居家教。終身不出門。復謝絕

賓客。獨王命召之。乃往。

徐廣曰。魯恭王也。

弟子自遠方至。受業者百餘人。

申公獨以詩經爲訓。以教。無傳疑。疑者則闕不傳。

索隱曰。謂申公不作詩傳。但教授有

疑則闕耳。

蘭陵王臧既受詩。以事孝景帝。爲太子少傅。免去。今上初

卽位。臧迺上書宿衛。上累遷。一歲中爲郎中令。及代趙綰。亦嘗



舊禮官ニ因リ、其路ヲ廣メ以テ賢オチ興スナ言フ、即下文云フ所ナリ。  
令相長丞云云、顔師古曰、令ハ縣令、相ハ侯相、長ハ縣長、丞ハ縣丞ナリ、二千石ハ、郡守及ビ諸王相ヲ謂フナリ。  
當興計偕、札記云、索隱本當ナ常ニ作ル、按ニ漢書亦常ニ作ル、能通一藝以上、方苞曰、周官禮樂ヲ六藝ニ列ス、其器ヲ執リ其儀ヲ習ヒ、藝ヲ以テ名クベキヲ以テナリ、詩書ハ則學官ニ列シ、而テ名ケテ藝ト爲サズ、經ヲ以テ藝ト爲ス、弘ニ始ヨリ甚シキナシ、太史公云フ、中國言六藝者、折衷於夫子、又曰、學者載籍極博、猶考信於六藝、蓋時人ノ稱スル所ニ徇ヒ、而テ未ダ之ヲ察セザルノミ。  
太常籍奏、顔師古曰、名籍ヲ爲テ奏ス。  
文章爾雅、顔師古曰、爾雅ハ正ニ近キナリ。

輒以名聞。其不事學。若下材。及不能通一藝。輒罷之。而請諸不

稱者罰。臣謹案詔書律令下者。明天人分際。通古今之義。文章

爾雅。訓辭深厚。索隱曰。謂詔書文章雅正。訓辭深厚也。恩施甚美。小吏淺聞。不能究宣。

無以明布諭下。治禮次治掌故。徐廣曰。一云次。治禮學掌故。以文學禮義爲官。遷

畱滯。請選擇其秩比二百石以上。及吏百石通一藝以上。補左

右內史大行卒史。正義曰。補左右內史。後改爲左馮翊右扶風。比百石已下。補郡太守卒史。

皆各二人。邊郡一人。先用誦多者。若不足。乃擇掌故補中二千

石屬。文學掌故補郡屬。索隱曰。如淳云。漢儀弟子射策甲科百人補郎中。乙科二百人補太子舍人。皆秩比二百石。次郡國文學秩百石也。

備員。請著功令。佗如律令制。曰。可。自此以來。則公卿大夫士吏。

斌斌多文學之士矣。

武帝君臣ニ歸スル此ノ如シ、此篇多ク是頌揚

ズ、惡ンデ言テ廢セ

ト謂フベキナリ、班氏所謂虛チ隱サズ、真ニ

信ナリ、而テ黃老チ先

ニシ六經チ後ニスル、

子長ノ本意ニ非ザル、

明ナリ。

其令禮官云云、方苞曰、

制下ス所ニ事ナリ、禮

官ナシテ學ヲ勸メ、議

正義曰。校。教也。殷曰序。正義曰。序。舒也。言舒禮教。周曰庠。正義曰。庠。詳也。言詳審經典。其勸善也顯之。

朝廷。其懲惡也加之刑罰。故教化之行也。建首善自京師始。由

內及外。今陛下昭至德。開大明。配天地。本人倫。勸學修禮。崇化

厲賢。以風四方。太平之原也。古者政教未洽。不備其禮。請因舊

官而興焉。爲博士官。置弟子五十人。復其身。太常擇民年十八

已上。儀狀端正者。補博士弟子。郡國縣道邑有好文學。敬長上。

肅政教。順鄉里。出入不悖。所聞者。令相長丞。上屬所二千石。

曰。上音時兩反。屬音燭。屬。委也。所。二千石。謂於所部之郡守相也。

二千石。謹察可者。當與計偕。詣太常。曰。計。計吏也。偕。俱也。謂

令與計吏俱詣太常也。得受業如弟子。一歲皆輒試。能通一藝以上。補文學掌故。缺。其高第可以爲郎中者。太常籍奏。卽有秀才異等。



高堂生。

索隱曰。謝承云。秦氏季代有魯人高堂伯。則伯是其字。云生者。自漢已來。儒者皆號生。亦先生者。省字呼之耳。

言易自菑川田

生言春秋於齊魯自胡毋生。

索隱曰。母音無。胡母。姓也。字子都。

於趙自董仲舒及竇

太后崩。武安侯田蚡爲丞相。絀黃老刑名百家之言。延文學儒

者數百人。而公孫弘以春秋白衣爲天子三公。

徐廣曰。一云自齊爲天子三公。

封

以平津侯。天下之學士靡然鄉風矣。公孫弘爲學官。悼道之鬱

滯。乃請曰。丞相御史言。

正義曰。自此以下。皆弘奏請之辭。

制曰。蓋聞導民以禮。風之

以樂。婚姻者。居室之大倫也。今禮廢樂崩。朕甚愍焉。故詳延天

下方正博聞之士。咸登諸朝。其令禮官勸學。講議洽聞。興禮以

爲天下先。太常議與博士弟子崇鄉里之化。以廣賢材焉。謹與

太常臧。

漢書百官表。孔臧也。

博士平等議曰。聞三代之道。鄉里有教。夏曰校。

於趙自董仲舒。錢大昕曰。仲舒廣川人。而趙稱スル者。廣川ハ故ノ趙ノ地ナリ。公孫丞相菑川人。而齊人ト云ヒ。朱買臣會稽人。而テ楚士ト云フ。亦此類ナリ。

武安侯田蚡爲丞相云。王鳴盛曰。二長封禪平準等書。匈奴大宛等傳ニ於テ。直筆隱スナシ。儒林傳ニ至レバ。則力メテ武帝ノ能ク儒ヲ尊ブヲ表ス。又田蚡公孫弘本傳及ヒ他傳之ヲ惡ム殊ニ甚シ。而テ儒林傳則言フ。蚡相ト爲リ。始テ黃老刑名百家ノ言ヲ細ケ。而テ儒者ヲ延ク。弘春秋ヲ以テ白衣三公ト爲リ。而テ天下學士靡然風ニ嚮フ。皆是深ク之ニ許シ。且又詳ニ弘博士弟子等ヲ置クヲ講フノ奏。制曰可テ載セテ之ヲ結ビ。此ヨリ以來則公卿大夫士吏。賦斌文學ノ士多シト曰フ。其功ヲ



以來其天性也。故漢興。然後諸儒始得修其經藝。講習大射鄉

飲之禮。叔孫通作漢禮儀。因爲太常。諸生弟子共定者。咸爲選

首。於是喟然歎興於學。然尙有干戈。平定四海。正義曰。顏云。陳豨盧綰韓信黥布之徒。相

次反叛征討也。亦未暇遑庠序之事也。孝惠呂后時。公卿皆武力有功之

臣。孝文時。頗徵用。正義曰。言孝文稍用文學之士居位。然孝文帝本好刑名之言。及至

孝景。不任儒者。而竇太后又好黃老之術。故諸博士具官待問。

未有進者。及今上卽位。趙綰王臧之屬明儒學。而上亦鄉之。於

是招方正賢良文學之士。自是之後。言詩於魯則申培公。徐廣曰。一

作陪。韋昭曰。培。申公名。音扶尤反。○索隱曰。鄒氏音普來反。於齊則轅固生。正義曰。申轅。姓。培。固。名。公。生。其處號也。於燕則韓

太傅。索隱曰。韓嬰也。言尙書自濟南伏生。索隱曰。按張華云。名勝。紀年云。字子賤。言禮自魯

門ニ作ル。  
坑衛士注正義三百里、  
札記三里ニ作ル、云フ  
三下百字ヲ衍ス、考證  
漢書注ニ據テ刪ル、以  
秦坑儒處、以下爲千ア  
リ云フ爲字考證増ス。

世。焚詩書。坑術士。正義曰。顏云。今新豐縣溫湯之處號愍儒鄉。溫湯西南三百里有馬谷。谷之西岸有坑。古相傳以秦坑儒處也。衛宏詔定古文尚書。

序云。秦既焚書。恐天下不從所改更法。而諸生到者拜爲郎。前後七百人。乃密種瓜於驪山陵谷中溫處。瓜實成。詔博士諸生說之。人言不同。乃令就視。爲伏機。諸生賢儒皆至焉。方相難不決。因發機。從上填之。以

土皆壓。終乃無聲也。六藝從此缺焉。陳涉之王也。而魯諸儒持孔氏

之禮器。往歸陳王。於是孔甲爲陳涉博士。徐廣曰。孔子八世孫名鉗。字甲也。卒與涉

俱死。陳涉起匹夫。驅瓦合適戍。索隱曰。適。音丁革反。旬月以王楚。不滿半歲

竟滅亡。其事至微淺。然而縉紳先生之徒。負孔子禮器。往委質

爲臣者。何也。以秦焚其業。積怨而發憤于陳王也。及高皇帝誅

項籍。舉兵圍魯。魯中諸儒尙講誦。習禮樂。絃歌之音不絕。豈非

聖人之遺化。好禮樂之國哉。故孔子在陳曰。歸與歸與。吾黨之

小子狂簡。斐然成章。不知所以裁之。夫齊魯之間。於文學自古



杞莒匡等爾。縱歷小國。亦無七十餘君也。曰苟有用我者。期月而已矣。西狩獲麟。曰吾道

窮矣。故因史記作春秋。以當王法。其辭微而指博。後世學者多

錄焉。徐廣曰。錄一作繆。自孔子卒後。七十子之徒。散游諸侯。大者爲師傅

卿相。索隱曰。案子夏爲魏文侯師。子貢爲齊魯聘。吳越蓋亦卿也。而宰予亦仕齊爲卿。餘則未聞。小者友教士大夫。或隱而

不見。故子路居衛。案仲尼弟子列傳。子路死於衛。時孔子尙存也。子張居陳。正義曰。今陳州。澹臺子羽

居楚。正義曰。今蘇州城南五里有澹臺湖。湖北有澹臺。子夏居西河。正義曰。今汾州。子貢終於齊。正義曰。今青州。如

田子方。段干木。吳起。禽滑釐之屬。皆受業於子夏之倫。爲王者

師。是時獨魏文侯好學。後陵遲以至於始皇。天下竝爭於戰國。

儒術既絀焉。然齊魯之門。學者獨不廢也。倒聖轉於威宣之際。孟子荀

卿之列。咸遵夫子之業而潤色之。以學顯於當世。及至秦之季

聖人ノ遺化也。叔孫通禮儀ヲ以テ太常ト爲リシヨリ。諸弟子其定ムル者選首ト爲リ。始テ喟然歎ジテ學ニ興ル。則稍功利ニ嚮フ。公孫弘春秋ヲ以テ三公ニ至ルニ至リテ。天下靡然風ニ嚮フ。弘既ニ曲學阿世。以テ富貴ニ至リ。禮ヲ興シ教ヲ彰ニスル能ハズ。乃博士弟子ヲ置キ。太常ニ試ミ。卒史ニ補セシメ。誘フニ利祿ヲ以テス。是ヨリ天下文學ノ士多ク。而儒者ノ道熄ム。孔孟ヨリ以來。羣儒相承クルノ統。戰國秦漢ヲ經テ絀滅損棄シ。而テ未ダ嘗テ絶エザル者。弘一言ヲ以テ之ヲ敗リ。而テ其名ハ則賢オチ厲マシ。道ノ鬱滯ヲ悼ムト曰フ。甚ダ歎ズベカラズヤ。

敬子路居衛云云。方苞曰。獨り五子皆世ノ隆スル所チ言フナリ。此ヨリ外ハ。則隱レテ見ハレザル者ナリ。

齊魯之門。札記開ニ作ル。云フ毛本開。各本



# 史記評林卷之一百二十一

## 儒林列傳第六十一

儒林列傳注姚承、札記、錢警石云、承前卷多ク、忒作ル。

太史公曰云云、方苞曰、書ヲ廢シテ歎ズ、儒術

是ヨリシテ衰フルヲ歎ズルナリ、孔子六經ヲ修メ、正道ヲ明カニシ、

困デ悔イザルヨリ、諸弟子其道ヲ守テ變セズ、戰國ニ至リ、儒術

既ニ細シ、而モ孟子荀卿猶夫子ノ業ニ遵フ、秦學ヲ滅スルニ遭ヒ、

而テ齊魯諸儒議論絶エズ、漢興リ、七十餘年、天子公卿ヨリ皆儒術ヲ

設ベズ、而モ諸老師尙遺學ヲ守リ、肯テ曲テ以テ世ニ阿ラズ、故ニ

武帝一ヒ之ニ嚮ヒテ、遺經並ビ出ヅ、凡此皆

正義曰。姚承云。儒謂博士爲儒雅之林。綜理古文。宣明舊藝。成勸儒者以成王化者也。

太史公曰。余讀功令直敘。索隱曰。案謂學者課功著之於令。即今之學令是也。至於廣厲學官之路。未

嘗不廢書而歎也。曰嗟乎。夫周室衰而關雎作。幽厲微而禮樂

壞。諸侯恣行。政由彊國。故孔子閔王路廢而邪道興。於是論次

詩書。修起禮樂。適齊聞韶。三月不知肉味。自衛返魯。然後樂正。

雅頌各得其所。正義曰。鄭玄云。魯哀公十一年。是時道衰。樂廢。孔子還修正之。故雅頌各得其所也。世以混濁莫能用。

是以仲尼干七十餘君。無所遇。索隱曰。後之記者失辭也。案家語等說。則孔子歷聘諸國。莫能用。謂周鄭齊宋曹衛陳楚。

史記評林卷之一百二十終

乃見<sup>ハルト</sup>汲鄭亦云悲夫。

索隱述贊曰。河南矯制。自古稱賢。淮南臥理。天子伏焉。積薪與歎。伉直愈堅。鄭莊推士。天下翕然。交道勢利。翟公愴旃。

楊慎曰。按野客叢書云。炎涼世態自古而然。廉頗爲趙將。賓客盡至。及其免歸。賓客盡去。後復爲將。客又至。頗曰。客退矣。客曰。君何見之晚也。夫以市道交。君有勢我卽從。君無勢我卽去。此其理也。又何怨焉。頗無以應。孟嘗君爲齊相。賓客盡至。及其廢黜。賓客盡去。後復爲相。客又至。孟嘗君曰。客何面目見文乎。客曰。君獨不見夫朝趨市者乎。明且側肩爭門而入。日暮之後。過市者掉臂不顧。非好朝而惡暮。所期物忘其中也。孟嘗君卒善遇之。異時翟公事。正與此二事同。翟公惡之大書其門曰。一死一生乃知交情。一貧一富乃知交態。一貴一賤交情乃見。客固薄矣。翟公何怪之有。惜乎無有以二客之言告之者。

黃震曰。汲黯論帝多欲。勸帝無起兵。諫帝迎渾邪王。切責張湯苛法。而拳拳願出入禁闥。補過拾遺。切直忠藎。漢庭第一。帝稍聽之。何至下輪臺之詔耶。○鄭莊委曲禮下。雖少饒諒之風。然內行修潔。沒無餘財。與汲黯等。此太史公以之同傳歟。



漢書人ヲ入ニ作ル、  
下句ニ屬ス、注索隱推  
者獨也、札記云、推說  
文權ニ作ル、獨ノ義ナ  
シ、疑フ誤ル。

卽僦反。辜較音姑角。謂當時作大農。任賓客。僦人取庸直也。或者貰物以應官取庸。故下云多  
逋負也。辜較字亦作酤。推者。獨也。言國家獨推酤也。此云辜較。亦謂令賓客任人專其利。故  
云辜  
較也。  
多逋負。司馬安爲淮陽太守。發其事。莊以此陷罪。贖爲庶

人。頃之。守長史。如淳曰。丞相長史也。上以爲老。以莊爲汝南太守。數歲。以官

卒。鄭莊汲黯始列爲九卿。廉。內行修絜。此兩人中廢家貧。賓客

益落。索隱曰。落。零落。猶散落也。及居郡卒後。家無餘貲財。莊兄弟子孫。以莊故

至二千石。六七人焉。

太史公曰。夫以汲鄭之賢。有勢則賓客十倍。無勢則否。況衆人

乎。下邳翟公有言。徐廣曰。邳一作邳。○索隱曰。邳音圭。縣名。屬京兆。始翟公爲廷尉。賓客闐門。

及廢門外。可設雀羅。翟公復爲廷尉。賓客欲往翟公。乃大署其

門。曰。一死一生。乃知交情。一貧一富。乃知交態。一貴一賤。交情

莊爲太史、札記云、太疑フ内ノ譌ナリ、漢書大吏ニ作ル。

其餽遣人不過算器食注、徐廣曰算竹器、錢大昕曰、算ハ匱ト同ジ、士冠禮ニ、爵弁皮弁緇布冠各一匱、注匱竹器ノ名ナリ、古文匱ヲ簞ニ作ル、說文ニ、匱ハ漆米簞ナリ、按ニ漆ハ漚ト同ジ。

莊任人賓客爲大農儼人、類師古曰、儼ハ顧實ヲ受ケテ載運スルヲ謂フ、當時其賓客ヲ保任シ、司農ニ於テ載運スルヲ言フナリ、按

爲大農令。莊爲太史。誠門下客至。無貴賤。無畱門者。執賓主之

禮。以其貴下人。莊廉又不治其產業。仰奉賜以給諸公。然其餽

遣人。不過算器食。徐廣曰。算音先管反。竹器。○索隱曰。算謂竹器。以言無銅漆也。漢書作具器食。每朝候上之間。

說。未嘗不言天下之長者。其推轂士及官屬丞史。誠有味其言

之也。常引以爲賢於己。未嘗名吏與官屬言。若恐傷之。聞人之

善言。進之上。唯恐後。山東士諸公。以此翕然稱鄭莊。鄭莊使視

決河。自請治行五日。如淳曰。治行。謂莊嚴也。上曰。吾聞鄭莊行千里不齎糧。

請治行者何也。然鄭莊在朝。常趨和承意。不敢甚引當否。及晚

節。漢征匈奴。招四夷。天下費多。財用益匱。莊任人賓客爲大農

儼人。徐廣曰。一作入。一云賓客爲大農儼人。儼人。蓋興生財利。如今方宜矣。駟案晉灼曰。當時爲大農。而任使其賓客。辜較任儼也。瓚曰。任人。謂保任見舉者。○索隱曰。儼音



以憚黯附見  
嚴憚汲黯出其下。

鄭當時者。字莊。陳人也。其先鄭君漢書音義曰當時父。嘗爲項籍將。籍死。已

而屬漢。高祖令諸故項籍臣名籍。鄭君獨不奉詔。詔盡拜名籍

者爲大夫。而逐鄭君。鄭君死。孝文時。鄭莊以任俠自喜。脫張禹

於戾。服虔曰。梁孝王之將。楚相之弟。聲聞楚梁之間。孝景時。爲太子舍人。每五日

洗沐。常置驛馬長安諸郊。如淳曰。交道四通處也。請賓客便。瓚曰。諸郊。謂長安四面郊祀之處。閑靜可以請賓客。○索隱曰。置。即驛

馬。謂於置存諸故人。請謝賓客。夜以繼日。至其明旦。常恐不徧。莊

好黃老之言。其慕長者如恐不見。年少官薄。然其游知交。皆其

大父行。天下有名之士也。武帝立。莊稍遷爲魯中尉。濟南太守。

江都相。至九卿。爲右內史。以武安侯魏其時議。貶秩爲詹事。遷

非ザレバ、則著サザルナリ、史公蕭相國ニ於ル、萬世ノ功ニ非レバ著サズ、黯ニ於ル社稷ノ計ニ關スルニ非レバ著サズ、所謂辭ハ體要ヲ尙ブナリ。  
漢陽段宏、札記云、毛本段、索隱本ト合ス、各本段ニ譌ス、注索隱、札記案上ニ段客二字アリ、云フ客ハ疑フ容ノ譌ナリ、淮南王傳、中尉段宏、公卿表、段容ニ作ル如シ、攷異謂フ、公卿表、未ダ段宏ヲ見ズ、疑フ即段容ナリ。厥張禹於戾、札記禹ヲ羽ニ作ル、云フ漢禹ニ誤ル。  
置驛馬長安諸郊、顏師古曰、如瓚二說皆非ナリ、此長安城外四面ノ郊ヲ謂フノミ、邑外ノ郊ト謂フ、近郊ハ二十里。



縣居郡如故云云、方苞曰、黠東海ヲ治メ、九卿ト爲リ、内史ニ徙リ、淮陽ニ居ル、一事ヲ填實セズ、其性情氣象ヲ虛言シ、略ソノ語言及ビ君臣上下ノ嚴憚トナシ、風ヲ聞テ而テ輿起スベカラシム、必此ノ如ク、乃黠ノ人ト爲リト相稱フ、又曰、此傳、武帝社稷ノ臣アリ、克知灼見シ、而テ終ニ用ル能ハザルヲ傷ムナリ、諸首稱ス、黠以數直諫、不得久留内、則言ヲ進ムル多シ、右内史ト爲リ、東海淮陽ニ守タリ、九卿ニ列スレバ、事迹衆シ、而テ傳ニ見ハルル者此ニ止ル、蓋社稷ノ計ニ關スルニ

以飾非。務巧佞之語。辯數之辭。非肯正爲天下言。專阿主意。主意所不欲。因而毀之。主意所欲。因而譽之。好興事。舞文法。如淳曰。舞猶弄也。内懷詐。以御主心。外挾賊吏。以爲威重。公列九卿。不早言之。公與之俱受其僇矣。息畏湯。終不敢言。黠居郡如故。治淮陽。

政清。後張湯果敗。上聞黠與息言。抵息罪。令黠以諸侯相秩居

淮陽。如淳曰。諸侯王相在郡守上。秩眞二千石。律眞二千石。俸月二萬。二千石月萬六千。七歲而卒。徐廣曰。元鼎五年。卒後。上

以黠故。官其弟汲仁。至九卿。子汲偃。至諸侯相。黠姑姊子司馬

安。亦少與黠爲太子洗馬。與前以數切諫不得久居位相反。安文深巧。善宦。官四至九卿。以河南

太守卒。昆弟以安故。同時至二千石者十人。濮陽段宏。索隱曰。案漢書作段

宏。始事蓋侯信。徐廣曰。太后兄王信。信任宏。宏亦再至九卿。然衛人仕者皆

是所謂庇其葉而傷其枝者也。臣竊爲陛下不取也。上默然。不

應犯主顏色

許。曰。吾久不聞汲黯之言。今又復妄發矣。後數月。黯坐小法。會

赦。免官。於是黯隱於田園。居數年。會更五銖錢。徐廣曰。元狩五年行五銖錢。民多

盜鑄錢。楚地尤甚。上以爲淮陽楚地之郊。乃召拜黯爲淮陽太

守。黯伏謝不受印。詔數彊予。然後奉詔。詔召見黯。黯爲上泣。曰。

臣自以爲填溝壑。不復見陛下。不意陛下復收用之。臣常有狗

馬病。力不能任郡事。臣願爲中郎。出入禁闥。補過拾遺。臣之願

也。上曰。君薄淮陽邪。吾今召君矣。索隱曰。今猶卽今也。顧淮陽吏民

不相得。吾徒得君之重。臥而治之。黯既辭行。過大行李息。曰。黯

棄居郡。不得與朝廷議也。然御史大夫張湯智足以拒諫。詐足

臣常有狗馬病云云、漢書  
雅隆曰、考異云、漢書  
其文ナ更メ、曰、臣常  
有狗馬之心、師古曰、  
思報效ト、皆非ナリ、  
嚴助傳ニ、有狗馬之病、  
不能勝服ト曰フ若シ、  
此太史公ノ語ト同シ。



應直諫

安令無罪。獨斬黯。民乃肯出馬。且匈奴畔其主而降漢。漢徐以

縣次傳之。何至令天下騷動。罷弊中國。而以事夷狄之人乎。上

主顔色

默然。及渾邪至。賈人與市者。坐當死者五百餘人。黯請閒見高

門。如淳曰。黃圖。未央宮中有高門殿。

應直諫

曰。夫匈奴攻當路塞。絕和親。中國興兵誅之。死

傷者不可勝計。而費以巨萬百數。臣愚以爲陛下得胡人。皆以

爲奴婢。以賜從軍死事者家。所鹵獲。因予之。以謝天下之苦塞。

百姓之心。今縱不能渾邪率數萬之衆來降。虛府庫。賞賜。發良

民侍養。譬若奉驕子。愚民安知市買。長安中物。而文吏繩以爲

闕出財物于邊關乎。

應劭曰。闕。妄也。律。胡市吏民不得持兵器出關。雖於京師市買。其法一也。瓊曰。無符傳出入爲闕。

陛下

縱不能得匈奴之資以謝天下。又以微文殺無知者五百餘人。



以大將軍有掛客云云、  
顏師古曰、能ク貴ヲ降  
シテ以テ士ヲ禮ス、最  
モ重シト爲スヲ言フナ  
リ。

豎褊心不能無少望、顏  
師古曰、褊ハ隘ナリ、  
望ハ怨ナリ。

觀豎之言也日益甚、顏  
師古曰、其鄙但チ言フ。

將軍有<sub>二</sub>損客<sub>一</sub>。反不<sub>レ</sub>重邪。大將軍聞、愈賢<sub>レ</sub>豎。數請<sub>二</sub>問國家朝廷所<sub>一</sub>  
疑<sub>レ</sub>遇<sub>レ</sub>豎<sub>一</sub>過<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>平生<sub>一</sub>。淮南王謀反、憚<sub>レ</sub>豎曰、好<sub>二</sub>直諫<sub>一</sub>。守<sub>レ</sub>節死<sub>レ</sub>義難<sub>二</sub>惑<sub>一</sub>。  
以<sub>レ</sub>非<sub>一</sub>至<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>說<sub>二</sub>丞相弘<sub>一</sub>。如<sub>二</sub>發蒙振落<sub>一</sub>耳。天子既<sub>レ</sub>數征<sub>二</sub>匈奴<sub>一</sub>有功。豎  
之言益<sub>レ</sub>不用。始<sub>レ</sub>提<sub>二</sub>提<sub>一</sub>豎列爲<sub>二</sub>九卿<sub>一</sub>。而公孫弘張湯爲<sub>二</sub>小吏<sub>一</sub>。及<sub>二</sub>弘湯稍<sub>一</sub>  
益<sub>レ</sub>貴。與<sub>レ</sub>豎同<sub>レ</sub>位。豎又非<sub>レ</sub>毀弘湯等。已而弘至、丞相封<sub>レ</sub>爲<sub>二</sub>侯<sub>一</sub>。湯至  
御史大夫。故豎時丞相史皆與<sub>レ</sub>豎同<sub>レ</sub>列。或尊<sub>レ</sub>用過<sub>レ</sub>之。豎褊心。不  
能<sub>レ</sub>無<sub>二</sub>少望<sub>一</sub>。見<sub>レ</sub>上前言曰。陛下用<sub>二</sub>羣臣<sub>一</sub>如<sub>レ</sub>積薪耳。後來者居<sub>レ</sub>上。上  
默<sub>レ</sub>然有<sub>レ</sub>閒。豎罷。上曰。人果<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>可以<sub>レ</sub>無<sub>レ</sub>學。觀<sub>レ</sub>豎之言也。日益<sub>レ</sub>甚。居  
無<sub>レ</sub>何。匈奴渾邪王率<sub>レ</sub>衆來降。漢發<sub>二</sub>車二萬乘<sub>一</sub>。縣官無<sub>レ</sub>錢。從<sub>レ</sub>民<sub>一</sub>貫<sub>レ</sub>  
馬。索隱曰。貫音時夜反。民或<sub>レ</sub>匿<sub>レ</sub>馬。馬不<sub>レ</sub>具。上怒。欲<sub>レ</sub>斬<sub>二</sub>長安令<sub>一</sub>。豎曰。長  
貫。除也。鄒氏音勢。

湯皮幣ヲ興シ、白金ヲ造リ、鹽鐵ヲ籠シ、告緡令ヲ出入如キ、是レナリ。  
乘上開札記云、蔡游毛本乘ヲ承ニ作ル、中統一本亦承ニ剗改ス。

也。令<sub>二</sub>天下<sub>一</sub>重<sub>レ</sub>足<sub>レ</sub>而<sub>レ</sub>立<sub>レ</sub>。側<sub>レ</sub>目<sub>一</sub>而<sub>レ</sub>視<sub>レ</sub>矣。是時漢方征<sub>二</sub>匈奴<sub>一</sub>。招<sub>二</sub>懷<sub>一</sub>四夷。

黯<sub>レ</sub>務<sub>二</sub>少<sub>一</sub>事。乘<sub>二</sub>上<sub>一</sub>閒。常<sub>レ</sub>言<sub>二</sub>與<sub>一</sub>胡和親。無<sub>レ</sub>起<sub>二</sub>兵<sub>一</sub>。上<sub>レ</sub>方<sub>二</sub>向<sub>一</sub>儒術。尊<sub>二</sub>公孫

弘<sub>一</sub>及<sub>二</sub>事<sub>一</sub>益<sub>レ</sub>多<sub>二</sub>吏<sub>一</sub>民巧弄。索隱曰。音路洞反。上<sub>レ</sub>分<sub>二</sub>別<sub>一</sub>文法。湯等數<sub>レ</sub>奏<sub>二</sub>決<sub>一</sub>讞<sub>二</sub>以

幸<sub>一</sub>。索隱曰。讞音魚列反。而黯常毀<sub>レ</sub>儒<sub>一</sub>面<sub>レ</sub>觸<sub>二</sub>弘<sub>一</sub>等<sub>レ</sub>。徒懷<sub>二</sub>詐<sub>一</sub>飾<sub>二</sub>智<sub>一</sub>。以阿<sub>二</sub>人<sub>一</sub>主<sub>レ</sub>取<sub>二</sub>容<sub>一</sub>。

而刀筆吏專<sub>二</sub>深<sub>一</sub>文巧詆。此指湯音魚列反。索隱曰。音丁禮反。陷<sub>二</sub>人<sub>一</sub>於<sub>二</sub>罪<sub>一</sub>。使<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>得<sub>レ</sub>反<sub>二</sub>其<sub>一</sub>真<sub>一</sub>。以勝<sub>二</sub>

爲<sub>レ</sub>功<sub>一</sub>。上愈益<sub>二</sub>貴<sub>一</sub>弘湯。弘湯深<sub>レ</sub>心疾黯。唯天子亦不<sub>レ</sub>說<sub>二</sub>也<sub>一</sub>。欲<sub>二</sub>誅<sub>一</sub>之<sub>二</sub>

以<sub>二</sub>事<sub>一</sub>。弘爲<sub>二</sub>丞相<sub>一</sub>。乃言<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>曰。右內史界部中多<sub>二</sub>貴<sub>一</sub>人宗室。難<sub>レ</sub>治。非<sub>二</sub>

素<sub>レ</sub>重<sub>二</sub>臣<sub>一</sub>不能<sub>レ</sub>任。請<sub>レ</sub>徙黯爲<sub>二</sub>右內史<sub>一</sub>。爲<sub>二</sub>右內史<sub>一</sub>數歲。官事不<sub>レ</sub>廢。大

將軍青既益<sub>レ</sub>尊<sub>レ</sub>。姊爲<sub>二</sub>皇后<sub>一</sub>。然黯與<sub>二</sub>亢<sub>一</sub>禮<sub>一</sub>。人或說<sub>二</sub>黯<sub>一</sub>曰。自<sub>二</sub>天子<sub>一</sub>欲

羣臣下<sub>二</sub>大將軍<sub>一</sub>。大將軍尊重益<sub>レ</sub>貴。君不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>以不<sub>レ</sub>拜<sub>二</sub>黯<sub>一</sub>曰。夫以<sub>二</sub>大

坐武帳中注、顏師古曰、孟說是ナリ。

之不去。雖自謂賁育。亦不能奪之矣。上曰。然。古有社稷之臣。至

如黯近之矣。大將軍青侍中。上踞廁而視之。如淳曰。廁音側。謂牀邊。踞牀視之。一云溷廁也。

丞相弘燕見。上或時不冠。至如黯見。上不冠不見也。上嘗

坐武帳中。應劭曰。武帳。織成爲武士象也。孟康曰。今御武帳。置兵闌五兵於帳中。韋昭曰。以武名之示威。黯前奏事。上不冠。

望見黯避帳中。使人可其奏。其見敬禮如此。張湯方以更定律

令爲廷尉。黯數質責湯於上前。曰。公爲正卿。上不能褒先帝之

功業。下不能抑天下之邪心。安國富民。使圜圉空虛。二者無一

焉。非苦就行。放析就功。何乃取高皇帝約束。紛更之爲。如淳曰。紛。亂也。

公以此無種矣。黯時與湯論議。湯辯常在。文深小苛。黯伉厲守

高不能屈。忿發罵曰。天下謂刀筆吏不可以爲公卿。果然。必湯

非苦就行放析就功。方苞曰。明二行所ノ非ナ知リ、而テ故ラニ艱苦ヲ爲シ、以テ之ヲ成ス、湯三公ト爲テ、家産五百金ニ過ギス、及ヒ諸公ニ造請スル、寒暑ヲ避ケザル如キ、是レナリ、析ハ律ヲ破テ以ヤ其功ヲ就スナ言フ、



吾欲云云、顔師古曰、云云猶如此如此ト言フ如キナリ、史其辭ヲ略スルノミ。

無以踰人注案隱勝也ノ下、札記、此作踰、踰謂越過人也ノニ句アリ。

數直諫<sup>スルヲ</sup>不得<sup>レ</sup>久居<sup>ルヲ</sup>位。當<sup>リ</sup>是時。太后弟武安侯蚡爲<sup>ニ</sup>丞相。中二千

石來<sup>リ</sup>拜謁。蚡不爲<sup>レ</sup>禮。然黯見<sup>テ</sup>蚡未嘗拜<sup>セ</sup>。常揖<sup>ス</sup>之。天子方招<sup>ニ</sup>文學

儒者。上曰。吾欲<sup>ニ</sup>云云。<sup>張晏曰。所言欲施仁義也。</sup>黯對曰。陛下內多欲而外施<sup>ス</sup>仁

義。奈何欲效<sup>スル</sup>唐虞之治乎。上默然怒。變色而罷朝。公卿皆爲<sup>レ</sup>黯

懼。上退謂<sup>ニ</sup>左右曰。甚矣汲黯之戇也。<sup>索隱曰。戇。愚也。音陟降反。</sup>羣臣或數黯。黯

曰。天子置<sup>ニ</sup>公卿輔弼之臣。寧<sup>ロ</sup>令從諛承意陷<sup>ニ</sup>主於不義乎。且已

在其位。縱<sup>ニ</sup>愛身。奈辱<sup>ニ</sup>朝廷何。黯多病。病且滿<sup>ニ</sup>三月。上常賜<sup>フ</sup>告者

數。<sup>如淳曰。杜欽所謂病滿。賜告詔恩也。數者。非一也。或曰。賜告。得去官歸家。與告居官不視事。○索隱曰。數音所角反。</sup>終不愈。最後病。莊

助爲<sup>ニ</sup>請告。<sup>徐廣曰。最一作其也。</sup>上曰。汲黯何如人哉。助曰。使黯任<sup>ニ</sup>職居官。無<sup>ニ</sup>

以踰<sup>ル</sup>人。<sup>索隱曰。踰音庾。案漢書作瘡。瘡猶勝也。</sup>然至<sup>ニ</sup>其輔少主守城深堅。招<sup>レ</sup>之不來。麾

伏矯制之罪、顏師古曰、矯ハ託ナリ、制詔ヲ奉ズルニ託シテ而テ之ヲ行フ。

黠學黃老之言云云、方苞曰、黠黃老ノ言ヲ學ビ、清靜ヲ好ム、正ニ武帝及ビ諸臣ノ好事ヲ興シ、民ヲ病スト相反ス。

治務在無爲而已、方苞曰、謂後ニ近シ、然レドモ前ハ郡守ノ治、後ハ九卿ノ治ナリ、其體各異ナリ、故ニ之ヲ分言ス、且張湯文深小苛、武帝文法ヲ分別スト反對、面折犯顏云云、亦公孫弘詐ナ懷キ智ヲ飾リ、阿諛容ヲ取ルト反對ス。

民臣請歸節。伏矯制之罪。上賢而釋之。遷爲滎陽令。黠恥爲令。病歸田里。上聞。乃召拜爲中大夫。以數切諫。不得久。畱內。遷爲東海太守。黠學黃老之言。治官理民。好清靜。擇丞史而任之。如曰。律太守都尉諸侯內史史各一人。卒史書佐各十人。今總言丞史。或以爲擇郡丞及史使任之。鄭當時爲大農。推官屬丞史亦是也。其治責大指而已。不苛小。黠多病。臥閨閣內。不出。歲餘。東海大治。稱之。上聞。召以爲主爵都尉。列於九卿。治務在無爲而已。弘大體不拘。文法。黠爲人性倨。少禮。面折不能容人之過。合己者善待之。不合己者不能忍見。士亦以此不附焉。然好學游俠。任氣節。內行脩絜。好直諫。數犯主之顏色。常慕傅柏袁盎之爲人也。應劭曰。傅柏梁人。爲孝王將。素伉直。○索隱曰。傳音善灌夫鄭當時。及宗正劉棄。徐廣曰。一云名棄疾。○亦以付人姓。柏名。

# 史記評林卷之一百二十

## 汲鄭列傳第六十

至黼七世、札記云、舊刻十世ニ作ル、漢書ト合ス。

屋比延燒、顏師古曰、比ハ近ナリ、屋相近シ、故ニ延連シテ燒クルヲ言フナリ。

汲黯。字長孺。濮陽人也。其先有寵於古之衛君。

文穎曰。六國時衛但稱君。

至黯

七世。世爲卿大夫。黯以父任。孝景時爲太子洗馬。以莊見憚。

索隱

曰。莊者。嚴也。謂嚴威也。自漢

明帝諱莊。故已後莊皆云嚴。孝景帝崩。太子卽位。黯爲謁者。東越相攻。上

使黯往視之。不至。至吳而還。報曰。越人相攻。固其俗然。不足以

辱天子之使。河內失火。延燒千餘家。上使黯往視之。還報曰。家

人失火。屋比延燒。

索隱曰。比音鼻。

不足憂也。臣過河南。河南貧人傷水

旱。萬餘家。或父子相食。臣謹以便宜持節發河南倉粟以振貧



太史公曰。孫叔敖出一言。郢市復。子產病死。鄭民號哭。公儀子見好布。而家婦逐。石奢縱父而死。楚昭名立。李離過殺而伏劍。晉文以正國法。

索隱述贊曰。奉職循理。爲政之先。恤人體國。良史述焉。叔孫鄭產。自昔稱賢。拔葵一利。赦父非愆。李離伏劍。爲法而然。

史記評林卷之一百一十九終

太史公曰云云、方苞曰、  
循吏獨り五人ヲ舉ゲ、  
漢事ヲ傷ムナリ、孫叔  
敖ヘズシテ化ニ從フ、  
以テ猾賊威ニ任セ、吏  
民ヲシテ重足一跡シテ  
益法ヲ犯スチ輕ズル者  
ニ視ブル何如、子產既  
ニ死シテ遺愛アリ、以  
テ張湯死シ、而テ民思  
ハズ、王溫舒同時五族  
セラル、而テ案以テ宜  
シト爲ス者ニ視ブル何  
如、公儀子食祿者ナルシ  
テ、民ト利ヲ爭フヲ得  
ザラシム、以テ平準ヲ  
置キ、鹽鐵ヲ籠シ、告  
緝ヲ縱シ、以テ巧ニ民  
ニ奪フ者ニ視ブル何  
如、石奢李離ノ如キ、  
死ヲ以テ法ヲ守ル、以  
テ愛憎ヲ用テ法ヲ挽  
メ、上意ヲ視テ輕重ヲ  
爲ス者ニ視ブル何如、  
史公蓋酷吏ヲ傳セント  
欲シ、而テ先ヅ古循吏  
ヲ列シ、以テ標準ト爲  
ス、故ニ序ニ曰、奉職  
循理、亦足以爲治、何  
必威嚴哉ト、然ルニ酷  
吏態雖スル、實ニ武帝  
修心自ラ克ツ能ハザル  
ニ由リ、而テ倚テ以テ  
事ヲ集ス、故ニ身修者  
官未嘗亂也ト曰フ。

追而不及。不當伏罪。子其治事矣。石奢曰。不私其父。非孝子也。不奉主法。非忠臣也。王赦其罪。上惠也。伏誅而死。臣職也。遂不受令。自刎而死。

李離者。晉文公之理也。正義曰。理。正義曰。理。獄官也。過聽殺人。自拘當死。文公曰。官

有貴賤。罰有輕重。下吏有過。非子之罪也。李離曰。臣居官爲長。不與吏讓位。受祿爲多。不與下分利。今過聽殺人。傳其罪下吏。非所聞也。辭不受令。文公曰。子則自以爲有罪。寡人亦有罪邪。李離曰。理有法。失刑則刑。失死則死。公以臣能聽微決疑。索隱曰。察微理。以決疑獄。故周禮司寇以五聽察獄。詞氣色耳目也。又尙書曰。服念五六日。至于旬時。是也。言能聽死。遂不受令。伏劍而死。

也。○索隱曰。按左傳及系家云。子產死。孔子泣曰。子產古之遺愛也。又韓詩稱子產卒。鄭人耕者輟耒。婦人損其佩玦也。

公儀休者。魯博士也。以高弟爲魯相。奉法循理。無所變更。百官自正。使食祿者不得與下民爭利。受大者不得取小。客有遺相魚者。相不受。客曰。聞君嗜魚。遺君魚。何故不受也。相曰。以嗜魚故不受也。今爲相。能自給魚。今受魚而免。誰復給我魚者。吾故不受也。食茹而美。拔其園葵而棄之。見其家織布好。而疾出其家婦。燔其機。云欲令農士工女安所讎其貨乎。

石奢者。楚昭王相也。堅直廉正。無所阿避。行縣道有殺人者。相追之。乃其父也。縱其父而還。自繫焉。使人言之。王曰。殺人者。臣之父也。夫以父立政。不孝也。廢法縱罪。非忠也。臣罪當死。王曰。



得<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>也。三<sup>ビ</sup>去<sup>テ</sup>相<sup>ヲ</sup>而不<sup>レ</sup>悔。知<sup>レ</sup>非<sup>ニ</sup>己<sup>ノ</sup>之<sup>ニ</sup>罪<sup>ニ</sup>也。

皇覽曰。叔敖冢在南郡江陵故城中。曰土里民傳。孫叔敖曰。葬

我廬江陵。後當爲萬戶邑。去故楚都郢城北三十里所。或曰。孫叔敖激沮水作雲夢大澤之池也。

子產者。鄭之列大夫也。

索隱曰。按有管晏列傳。其國僑羊舌肸等亦古之賢大夫。合著在管晏之下。不宜散入循吏之篇。

鄭昭

君之時。以<sup>レ</sup>所<sup>ス</sup>愛<sup>ス</sup>徐<sup>ス</sup>摯<sup>ヲ</sup>爲<sup>レ</sup>相。

索隱曰。按鄭系家云。子產鄭成公之少子。事簡公定公。封以六邑。子產不事昭君。亦無徐摯作相之事。抑

別有所出。太史記異耳。

國亂<sup>ル</sup>上<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>親。父<sup>子</sup>不<sup>レ</sup>和。大宮子期言之。君<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>子<sup>ヲ</sup>產<sup>ヲ</sup>。

爲<sup>レ</sup>相。

索隱曰。子期亦鄭之公子也。左傳國語亦無其說。按系家。鄭相子西子駟之子。與子產同時。蓋亦子期之兄弟也。

爲<sup>レ</sup>相。一<sup>ニ</sup>年。豎<sup>子</sup>不<sup>レ</sup>

戲<sup>狎</sup>。斑<sup>白</sup>不<sup>レ</sup>提<sup>挈</sup>。僮<sup>子</sup>不<sup>レ</sup>犁<sup>畔</sup>。二<sup>ニ</sup>年。市<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>豫<sup>賈</sup>。

索隱曰。賈音價。謂臨時評其貴賤。不豫定。

三年。門<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>夜<sup>レ</sup>關。

徐廣曰。一作閉。

道<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>拾<sup>レ</sup>遺。四<sup>ニ</sup>年。田<sup>器</sup>不<sup>レ</sup>歸。五<sup>ニ</sup>年。士<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>尺

籍。

正義曰。言士民無一尺方板之籍書。什伍什伍相保也。

喪<sup>期</sup>不<sup>レ</sup>令<sup>セ</sup>而<sup>レ</sup>治。治<sup>ル</sup>鄭<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>十<sup>ニ</sup>六<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>死<sup>ス</sup>。

壯<sup>號</sup>哭。老<sup>人</sup>兒<sup>啼</sup>。曰。子<sup>ヲ</sup>產<sup>ヲ</sup>去<sup>テ</sup>我<sup>ヲ</sup>死<sup>ス</sup>乎。民<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>歸<sup>ニ</sup>。

皇覽曰。子產冢在河南新鄭城外。冢是

子產者云云。方苞曰。子產ノ事左傳ニ具ス。故ニ略其成功ヲ舉ゲ。

而不豫賈。方苞曰。賈ヲ索ムル一定シ。猶豫ノ虛辭ナキナリ。

傳注、引テ姦邪ノ下遂  
斷諸侯ノ句アリ、按ズ  
ルニ章懷引ク所ノ如キ  
ハ、則句當 盜賊不起  
ノ下ニ在ルベシ、但彼  
盜賊ノ句ヲ節去スルノ  
ミ。

夏以水。徐廣曰。乘多水。時而出材竹。各得其所便。民皆樂其生。莊王以爲幣輕。更

以小爲大。百姓不便。皆去其業。市令言之相曰。市亂。民莫安其

處。次行不定。相曰。如此幾何頃乎。市令曰。三月頃。相曰。罷。吾今

令之復矣。後五日朝。相言之王曰。前日更幣以爲輕。今市令來

言曰。市亂。民莫安其處。次行之不定。臣請遂令復如故。王許之。

下令三日而市復如故。楚民俗好庫車。索隱曰。庫。下也。音婢。王以爲庫車不

便馬。欲下令使高之。相曰。令數下。民不知所從。不可。王必欲高

車。臣請教閭里使高其棚。索隱曰。棚。門限也。音口本反。乘車者皆君子。君子不能

數下車。王許之。居半歲。民悉自高其車。此不教而民從。其化近

者視而效之。遠者四面望而法之。故三得相而不喜。知其材自



# 史記評林卷一百一十九

## 循吏列傳第五十九

索隱曰。謂本法循理之吏也。

太史公曰。法令所以導民也。刑罰所以禁姦也。文武不備。良民懼。然身修者。官未曾亂也。奉職循理。亦可以爲治。何必威嚴哉。

孫叔敖者。

正義曰。說苑云。孫叔敖爲令尹。一國吏民皆來賀。有一老父。衣赭衣。冠白冠。

足者患處之。叔敖再拜曰。敬受命。願聞餘教。父曰。位已高而意益下。官益大而心益小。祿已厚而慍不取。君謹守此三者。足以治楚。楚之處士也。虞丘

相進之於楚。莊王以自代也。三月。爲楚相。施教導民。上下和合。

世俗盛美。政緩禁止。吏無姦邪。盜賊不起。秋冬則勸民山採。春

吏無姦邪盜賊不起。札  
記志疑云。後漢書郭丹



史記評林卷之一百一十八終

坐告王不孝、札記坐王  
告不孝ニ作ル、云フ發  
本王告倒ス。

信哉是也、札記是下言  
字アリ、云フ蔡王柯浚  
本言字ヲ脱ス。  
舊臣、札記云、舊刻舊  
ナ藩ニ作ル。

通前結束一案

對<sup>フ</sup>吏皆圍<sup>メ</sup>王宮<sup>ヲ</sup>而守<sup>ル</sup>之。中尉大行還<sup>リ</sup>以聞<sup>ス</sup>。公卿請遣<sup>リ</sup>宗正大行<sup>ニ</sup>。  
與<sup>ニ</sup>沛郡<sup>ニ</sup>雜治<sup>セ</sup>王<sup>ヲ</sup>。王聞<sup>キ</sup>卽<sup>チ</sup>自剄<sup>ス</sup>殺<sup>ス</sup>。孝先自告<sup>シ</sup>反<sup>チ</sup>。除<sup>ス</sup>其罪<sup>ヲ</sup>。坐<sup>シテ</sup>與<sup>ニ</sup>王御  
婢<sup>ニ</sup>奸棄<sup>セ</sup>市<sup>ヲ</sup>。王后徐來亦坐<sup>シ</sup>蠱<sup>ニ</sup>殺<sup>ス</sup>前王后乘舒<sup>ヲ</sup>。及太子爽坐<sup>シ</sup>告<sup>ル</sup>王  
不孝<sup>ニ</sup>。皆棄<sup>セ</sup>市<sup>ヲ</sup>。諸與<sup>ニ</sup>衡山王<sup>ニ</sup>謀反者<sup>ヲ</sup>皆族<sup>ス</sup>。國除<sup>シ</sup>爲<sup>ニ</sup>衡山郡<sup>ト</sup>。  
太史公曰。詩之所謂戎狄是膺。荆舒是懲。信哉是也。淮南衡山  
親爲<sup>ニ</sup>骨肉<sup>ニ</sup>。疆土千里。列爲<sup>ニ</sup>諸侯<sup>ト</sup>。不務遵<sup>ニ</sup>蕃臣職<sup>ニ</sup>。以承輔<sup>ス</sup>天子<sup>ヲ</sup>。而  
專挾<sup>ニ</sup>邪僻之計<sup>ヲ</sup>。謀爲<sup>ニ</sup>畔逆<sup>ヲ</sup>。仍父子再亡<sup>フ</sup>國<sup>ヲ</sup>。各不終<sup>ヘ</sup>其身<sup>ヲ</sup>。爲<sup>ニ</sup>天下  
笑<sup>ト</sup>。此非<sup>ニ</sup>獨王過<sup>ニ</sup>也。亦其俗薄<sup>シ</sup>。臣下漸靡使然也。夫荆楚僇勇輕  
悍。好作<sup>ス</sup>亂<sup>ヲ</sup>。乃自古記<sup>ス</sup>之矣。

索隱述贊曰。淮南多橫。舉事非正。天子寬仁。其過不更。輶車致禍。斗粟成詠。王安好學。女陵  
作詞。兄弟不和。傾國殞命。

元朔六年中衡山使人、  
札記云、元朔六年中五  
字衍ナリ、上巳ニ元朔  
六年ヲ書ス、又衡山ノ  
下王字アリ、云フ中統  
游毛本王字アリ、他本  
脫ス。

元朔七年冬、札記志疑  
云、元朔安シ七年ヲ得  
シ、乃元狩元年ノ誤ナ  
リ。  
謀反者未得、札記云、  
蓋刻者ヲ漸ニ作ル、疑  
フモト所與淮南謀反者  
漸得ニ作ル、寫者誤ル  
ノミ。

不朝。元朔六年中。衡山使人上書請廢太子爽。立孝爲太子。爽

聞。即使所善白贏之長安。上書。索隱曰。贏音盈。人姓名也。言孝作軺車鏃矢。與

王御者奸。欲以敗孝。白贏至長安。未及上書。吏捕贏。以淮南事

繫。王聞。爽使白贏上書。恐言國陰事。即上書反告太子爽。所爲

不道。棄市罪事。事下沛郡治。元朔七年冬。有司公卿下沛郡。求

捕所與淮南謀反者。未得。得陳喜於衡山王子孝家。吏劾孝首

匿喜。孝以爲陳喜雅數與王計謀反。恐其發之。聞律先自告除

其罪。又疑太子使白贏上書發其事。即先自告。告所與謀反者

救赫陳喜等。廷尉治驗。公卿請逮捕衡山王治之。天子曰。勿捕

遣中尉安。索隱曰。案漢書表司馬安也。太行息。索隱曰。案漢書表李息。即問王。王具以情實



日夜從容勸之、錢大所  
曰、從容、漢書將養ニ  
作ル、師古將ヲ讀デ獎  
ト爲ス、將養亦縱與ノ  
轉ナリ、從當ニ子容切  
ニ讀ムベシ。  
輶車鐵矢注、索隱救民  
之法、札記救氏注ニ作  
ル。

二應前

王曰。孝與王御者奸。無采與奴奸。王彊食。請上書。即倍王去。王

使人止之。莫能禁。乃自駕追捕太子。太子妄惡言。王械繫太子

宮中。孝日益親幸。王奇孝材能。乃佩之王印。號曰將軍。令居外

宅。多給金錢。招致賓客。賓客來者。微知淮南衡山有逆計。日夜

從容勸之。王乃使孝客江都人救赫陳喜作輶車鐵矢。徐廣曰。輶車戰車也。

音扶萌反。○索隱曰。救。漢書作枚。刻天子璽。將相軍吏印。王日夜求壯士

劉向別錄云。易家有救民之法也。

如周丘等。數稱引吳楚反。時計畫以約束。衡山王非敢效淮南

應前本謀

王。求即天子位。畏淮南起并其國。以爲淮南已西發兵。定江淮

之間。而有之。望如是。元朔五年秋。衡山王當朝。六年。過淮南。淮

南王乃昆弟語。除前卻約束反具。衡山王即上書謝病。上賜書

又與客奸。太子數讓無采。無采怒。不與太子通。王后聞之。卽善

遇無采。無采及中兄孝少失母。附王后。王后以計愛之。與共毀

太子。王以故數擊答太子。元朔四年中。人有賊傷王后。假母者

漢書音義

曰。傳母屬。王疑太子使人傷之。答太子。後王病。太子時稱病不侍。

孝王后無采惡太子。太子實不病。自言病有喜色。王大怒。欲廢

太子。立其弟孝王后知王決廢太子。又欲并廢孝王后有侍者

婦人之惡如是

善舞。王幸之。王后欲令侍者與孝亂以汙之。欲并廢兄弟而立

其子廣。代太子。太子爽知之。念后數惡已無已時。欲與亂以止

其口。王后飲太子前爲壽。因據王后股求與王后臥。王后怒以

告王。王乃召欲縛而答之。太子知王常欲廢已。立其弟孝。乃謂

一篇領袖  
爲畔逆反具亦心結賓客以應之恐爲所并元光六年衡山王

入朝其謁者衛慶有方術欲上書事天子王怒故劾慶死罪彊

榜服之衡山內史以爲非是卻其獄王使人上書告內史內史

治言王不直王又數侵奪人田壞人冢以爲田有司請逮治衡

山王天子不許爲置吏二百石以上如淳曰漢儀注吏四百石以下自調除國中今王惡天子皆爲置之衡

山王以此恚與奚慈張廣昌謀求能爲兵法候星氣者日夜從

容王密謀反事徐廣曰密豫作計校王后乘舒死立徐來爲王后厥姬俱幸

兩人相妬厥姬乃惡王后徐來於太子曰徐來使婢蠱道殺太

子母太子心怨徐來徐來兄至衡山太子與飲以刃刺傷王后

兄王后怨怒數毀惡太子於王太子女弟無采嫁棄歸與奴姁伏後案

日夜從容王錢大昕曰從容漢書縱與ニ作ル與讀デ勇ト曰フ縱與ハ獎勵ヲ謂フナリ與容聲相近シ



宗室近幸臣不在法中者不能相教當皆免官削爵爲士伍毋

得宦爲吏其非吏他贖死金二斤八兩蘇林曰非吏故曰他以章臣安之罪

使天下明知臣子之道毋敢復有邪僻倍畔之意丞相弘廷尉

湯等以聞天子使宗正以符節治王未至淮南王安自剄殺徐廣

曰卽位凡四十二年王后荼太子遷諸所與謀反者皆族天子以伍

被雅辭多引漢之美欲勿誅廷尉湯曰被首爲之畫反謀被罪

無赦遂誅被國除爲九江郡徐廣曰又爲六安國以陳縣爲都

衡山王賜王后乘舒正義曰衡山王后名也生子三人長男爽爲太子次男

孝次女無采又姬徐來生子男女四人美人厥姬生子二人衡

山王淮南王兄弟相責望禮節間不相能衡山王聞淮南王作

被首爲之畫反謀札記  
之ヲ王ニ作ル云フ游  
漫本王ヲ之ニ作ル中  
統舊刻游毛本謀ヲ計ニ  
作ル  
爲九江郡注徐廣云云  
札記拾遺云陳縣ハ  
淮陽國都ナリ六安ニ  
其地ヲ有スルヲ得ズ  
又漢志ニ據ルニ六安  
國ハ乃衡山ノ故地ナ  
リ此注當ニ衡山王傳  
末ニ在ルベシ按ズル  
ニ拾遺此條刊本誤テ  
汲鄭傳ニ入ル亦傳寫  
ノ誤ナリ

ツニ非ザルヲ見ハスナリ、屬王ノ反迹、皆獄辭ニ於テ之ヲ具ス、故ニ安ノ事既ニ畢ク、故ス、乃曰、伍彼自詣吏、告與淮南王謀反蹤跡如此ト、而テ獄辭ハ則基ヲ略ス、此傳ヲ觀テ、益淮陰ノ枉ヲ信ズ、始ハ則詐テ之ヲ禽ス、而テ反ヲ告クル者聞クナキナリ、既ニ則詐テ之ヲ宮中ニ斬ル、而テ變ヲ上ツル者微ナキナリ、果シテ蹤跡アラシムル、何ゾ獄ヲ具シテ、而テ明ニ其辭ヲ徵スルニ難カラシヤ、著以テ著ヲ傳ヘ、疑以テ疑ヲ傳ヘ、百世以下、迹ヲ尋ネ理ヲ推シ、而テ其情ヲ得ベカラシム、此之ヲ實錄ト謂フナリ。

會肆丞相諸侯議注索隱ノ下、札記、會肆丞相者五字アリ、云フ索隱本ノ如キハ、則諸侯議三字衍ナリ、蓋諸ハ即者字ノ譌、後人因テ侯議二字ヲ加フルナリ、注徐廣詣都至ノ至、札記座ニ作ル。

王后圍王宮。盡求捕王所與謀反賓客在國中者。索得反具。以聞。上下公卿治所連引與淮南王謀反列侯二千石豪傑數千人。皆以罪輕重受誅。衡山王賜。淮南王弟也。當坐收。有司請逮捕衡山王。天子曰。諸侯各以其國爲本。不當相坐。與諸侯王列侯會肆丞相諸侯議。

徐廣曰。詣都至就丞相共議也。○索隱曰。案肆。習也。音異。

趙王彭祖。列侯臣讓

等四十三人議。皆曰。淮南王安。甚大逆無道。謀反明白。當伏誅。膠西王臣端議曰。淮南王安廢法行邪。懷詐僞心。以亂天下。熒惑百姓。倍畔宗廟。妄作妖言。春秋曰。臣無將。將而誅。安罪重於將。謀反形已定。臣端所見其書節印圖。及他逆無道。事驗明白。甚大逆無道。當伏其法。而論國吏二百石以上。及比者。

徐廣曰。比。吏而非真。



南郡之下。東收江都會稽。正義曰。江都。揚州也。會稽。蘇州也。南通勁越。屈彊江淮間。

猶可得延歲月之壽。王曰。善。無以易此。急則走越耳。於是廷尉

以王孫建辭連淮南王太子遷聞。上遣廷尉監。因拜淮南中尉。

逮捕太子。至淮南。淮南王聞。與太子謀。召相二千石。欲殺而發

兵。召相相至。內史以出爲解。中尉曰。臣受詔使。不得見王。王念

獨殺相。而內史中尉不來。無益也。卽罷相。王猶豫計未決。太子

念所坐者。謀刺漢中尉。所與謀者已死。以爲口絕。乃謂王曰。羣

臣可用者。皆前繫。今無足與舉事者。王以非時發。恐無功。臣願

會逮。王亦偷欲休。徐廣曰。偷。苟且也。卽許太子。太子卽自剄。不殊。晉灼曰。不殊。不死。

伍被自詣吏。因告與淮南王謀反。反蹤跡具如此。吏因捕太子

伍被自詣吏。因告與淮南王謀反。反蹤跡具如此。吏因捕太子



一日發兵使人即刺殺大將軍、方苞曰、淮南一日兵ヲ發シテ反セバ、其使ヲ所ノ人、即大將軍ヲ刺殺スルナリ。

下雉之城注索隱全爾反、札記全ヲ徐ニ作ル。

曰。法冠。楚王冠也。秦滅楚。以其君冠賜御史。○索隱曰。崔浩云。一名解多冠也。欲如伍被計。使人偽得罪而西。林蘇

曰。詐作罪。事大將軍丞相。一日發兵。如淳曰。發淮南兵也。○索隱曰。崔浩曰。一日。猶一朝。卒然無定時也。使

人而西也。人即刺殺大將軍青。而說丞相下之。如發蒙耳。如淳曰。以物蒙覆其頭。而為發去。其人欲

之耳。韋昭曰。易。王欲發國中兵。恐其相二千石不聽。王乃與伍被謀。先殺相二千石。偽失火宮中。相二千石救火至。即殺之。計未

決。又欲令人衣求盜衣。漢書音義。持羽檄從東方來。呼曰。南越兵入界。欲因以發兵。乃使人至廬江會稽。為求盜未發。王問伍被

曰。吾舉兵西鄉。諸侯必有應我者。即無應。奈何。被曰。南收衡山以擊廬江。有尋陽之船。守下雉之城。

徐廣曰。在江夏。駟案蘇林曰。下雉縣名。○索隱曰。雉音全爾反。縣名。在江南。結九江之浦。絕豫章之口。正義曰。即彭蠡湖。口。北流出大江者。彊弩臨江而守。以禁

南。結九江之浦。絕豫章之口。正義曰。即彭蠡湖。口。北流出大江者。彊弩臨江而守。以禁

有耐罪以上注應劭曰、札記耐ナ彩ニ作ル、云フ各本彩ナ耐ニ譌ス、意下蘇林ナ杜林ニ作ル、云フ杜ナ蘇ニ譌ス、並ニ漢書高紀注ニ依テ改ム。

詔獄逮書、札記志疑云、逮字當ニ書下ニ在ルベシ、誤倒ナリ、一本書下以逮二字アリ、亦非ナリ、按ズルニ舊刻毛本凌一本ナ引キ、逮書下以逮二字アリ、按ニ漢書亦詔獄書ナ句ト爲シ、逮諸侯太子幸臣ニ作ル。

奈何。被曰。當今諸侯無異心。百姓無怨氣。朔方之郡。田地廣。水草美。民徙者不足以實其地。臣之愚計。可僞爲丞相御史請書。

徙郡國豪傑任俠。及有耐罪以上。應劭曰。輕罪不至於髡。完其耐鬻。故曰耐。古耐字從彡。髮膚之意。蘇林以爲法。

度之字。皆從寸。後改如是。耐音若能。如淳曰。律耐爲司寇。耐爲鬼薪白粲。耐猶任也。蘇林曰。一歲爲罰作。二歲刑已上爲耐。耐能任其罪。一本赦令除其罪。產

罪下有字

五十萬以上者。皆徙其家屬朔方之郡。益發甲卒。急其會日。又

僞作左右都司空上林中都官詔獄逮書。諸侯太子幸臣。晉灼曰。百

官表宗正有左右都司空上

林有水司空。皆主囚徒官也。

如此。則民怨。諸侯懼。即使辯武。徐廣曰。淮南人名士曰武。

隨而說之。儻可徵幸。什得一乎。王曰。此可也。雖然。吾以爲不至。

若此。於是王乃令官奴入官。作皇帝璽。丞相御史大將軍軍吏

中二千石都官令丞印。及旁近郡太守都尉印。漢使節。法冠。蔡邕



戲而兵百二十萬。今吾國雖小。然而勝兵者可得十餘萬。非直

適戍之衆。鑢鑿棘矜也。

徐廣曰。大鑢謂之剗。音五哀反。或是鑢乎。○索隱曰。劉氏鑢音吾裏反。鑢音自各反。又鑢鄒音機。鑢音廉。

公

何以言有禍無福。被曰。往者秦爲無道。殘賊天下。興萬乘之駕。

作阿房之宮。收太半之賦。發閭左之戍。

正義曰。閭左邊不役之民。秦則役之也。

父不寧

子。兄不便弟。政苛刑峻。天下敖然若焦。

索隱曰。茲消反。

民皆引領而望。

傾耳而聽。悲號仰天。叩心而怨上。故陳勝大呼。天下響應。當今

陛下臨制天下。一齊海內。汎愛蒸庶。布德施惠。口雖未言。聲疾

雷霆。令雖未出。化馳如神。心有所懷。威動萬里。下之應上。猶影

響也。而大將軍材能。不特章邯楊熊也。大王以陳勝吳廣諭之。

被以爲過矣。王曰。苟如公言。不可徼幸邪。被曰。被有愚計。王曰。

惜乎持正不終



知ラズ、故ニ漢將ヲシ  
テ成臯ヲ過ケルヲ得シ  
ムト謂フノミ。  
先要成臯之口注正義渾  
水、錢大昕曰、蓋汜水ノ  
譌ナリ。

者四十餘人。

如淳曰。言吳不塞成臯口。而令漢將得出之。

今我令樓緩先要成臯之口。漢書

直云緩無樓字。樓緩乃六國時人。疑此後人所益也。李奇曰。緩似人姓名。韋昭曰。淮南臣名。○正義曰。成臯故在河南渾水縣東南二里。

周被下潁川兵。

塞轅轅伊闕之道。

正義曰。轅轅故關在河南緱氏縣南四十里。伊闕故關在河南縣南十九里。

陳定發南陽兵。

守武關。

正義曰。故武關在商州商洛縣東九十里。春秋時闕文。

河南太守獨有雒陽耳。何足憂然

此北尙有臨晉關。河東上黨與河內趙國人言曰。絕成臯之口。

天下不通。據三川之險。

正義曰。卽成臯關也。

招山東之兵。舉事如此。公以爲

何如。被曰。臣見其禍。未見其福也。王曰。左吳。趙賢。朱驕如。皆以

爲有福。什事九成。公獨以爲有禍無福。何也。被曰。大王之羣臣

近幸。素能使衆者。皆前繫詔獄。餘無可用者。王曰。陳勝。吳廣。無

立錐之地。千人之聚。起於大澤。奮臂大呼。而天下響應。西至於

有禮。於士卒有恩。衆皆樂爲之用。騎上下山。若蜚。材幹絕人。被以爲材。能如此。數將習兵。未易當也。及謁者曹梁使長安來。言大將軍號令明。當敵勇敢。常爲士卒先。休舍穿井。未通須士卒盡得水。乃敢飲。軍罷。卒盡已渡河。乃渡。皇太后所賜金帛。盡以賜軍吏。雖古名將弗過也。王默然。淮南王見建已徵治恐。國陰事且覺。欲發。被又以爲難。乃復問被曰。公以爲吳興兵。是邪非也。被曰。以爲非也。吳王至富貴也。舉事不當。身死丹徒。頭足異處。子孫無遺類。徐廣曰。一作噍。音寂笑反。臣聞吳王悔之甚。願王孰慮之。無爲吳王之所悔。王曰。男子之所死者一耳。徐廣曰。一本無此言字。駟案張晏曰。不成則死一計耳。瓚曰。或有<sub>二</sub>一言之<sub>一</sub>交。以死報之矣。瓚曰。言吳王不知舉兵反。且吳何知反。○索隱曰。案知猶解也。漢將一日過成臯。

男子之所死者云云。淺維陸曰。男子ノ死スル所ノ者一言ハ。此レ伍被己ノ爲ニ死スルヲ激發スルナリ。吳何知反ハ。吳、反スル所以ナ

廣長榆、顏師古曰、長  
榆ハ朔方ニ在リ、即衛  
青傳所云、榆谿舊塞是  
ナリ、或ハ之ヲ榆中ト  
謂フ。

疑淮南有畔逆計謀深窮治其獄。河南治建辭引淮南太子及  
黨與淮南王患之。欲發問伍被曰。漢廷治亂伍被曰。天下治。王  
意不說。謂伍被曰。公何以言天下治也。被曰。被竊觀朝廷之政。  
君臣之義。父子之親。夫婦之別。長幼之序。皆得其理。上之舉錯。  
遵古之道。風俗紀綱。未有所缺也。重裝富賈周流天下。道無不  
通。故交易之道行。南越賓服。羌僰入獻。東甌入降。廣長榆。如淳曰。廣。  
謂拓大之也。長榆塞名。  
王恢所謂樹榆爲塞。  
開朔方。匈奴折翅傷翼。失援不振。雖未及古

太平之時。然猶爲治也。王怒被謝死罪。王又謂被曰。山東卽有  
兵。漢必使大將軍將而制山東。公以爲大將軍何如人也。被曰。  
被所善者黃義。從大將軍擊匈奴。還告被曰。大將軍遇士大夫



王后太子皆不以爲子兄數。

如淳曰。不以爲子兄秩數。

不害有子建材高有氣。

常怨望太子不省其父。

服虔曰。不省錄著兄弟數中。

又怨時諸侯皆得分子弟。

爲侯而淮南獨二子。一爲太子。建父獨不得爲侯。

伏後案所善莊正。

建陰結交。欲

告敗太子。以其父代之。太子知之。數捕繫而榜笞建。建具知太

子之謀。欲殺漢中尉。即使所善壽春莊芷。

索隱曰。漢書作嚴正。

以元朔六年。

上書於天子曰。毒藥苦於口。利於病。忠言逆於耳。利於行。今淮

南王孫建材能高。淮南王王后荼。荼子太子遷常疾害建。建父

不害無罪。擅數捕繫。欲殺之。今建在。可徵問。具知淮南陰事。書

聞。上以其事下廷尉。廷尉下河南治。是時故辟陽侯孫審卿善

丞相公孫弘。怨淮南厲王殺其大父。乃深購淮南事於弘。弘乃

乃深購、札記云、毛本購、構ニ作ル、按ニ漢書亦構之於弘ニ作ル。

有萬倍於吳楚之時、  
記吳楚ヲ秦ニ作ル、云  
フ舊刻於秦、志疑ノ説  
ト合ス、各本於吳楚ニ  
作ル、毛本於字ナシ

王氣怨結、札記雜志云、  
王字衍ナリ、漢書被因  
流涕而起ニ作ル。

與計定謀成。舉兵而西。破於大梁。敗於狐父。徐廣曰。在梁碭之間。奔走而東。至於丹徒。越人禽之。身死絕祀。爲天下笑。夫以吳越之衆。不能成功者何。誠逆天道而不知時也。方今大王之兵衆。不能十分吳楚之一。天下安寧。有萬倍於吳楚之時。願大王從臣之計。大王不從臣之計。今見大王事必不成。而語先泄也。臣聞微子過故國而悲。於是作麥秀之歌。是痛紂之不用王子比干也。故孟子曰。紂貴爲天子。死曾不若匹夫。是紂先自絕於天下久矣。非死之日而天下去之。今臣亦竊悲大王棄千乘之君。必且賜絕命之書。爲羣臣先死於東宮也。如淳曰。王時所居也。於是王氣怨結而不揚。涕滿匡而橫流。卽起歷階而去。王有孽子不害。最長。王弗愛。王

正王南越ニ作ル、此上  
ノ不來ニ因リテ誤ル。

内鑄消銅、札記志疑云、  
消當ニ郭ニ作ルベシ。

女無<sup>キ</sup>夫家<sup>ニ</sup>者三萬人<sup>ヲ</sup>。以爲<sup>ニ</sup>士卒<sup>ノ</sup>衣補<sup>ト</sup>。秦皇帝可<sup>ス</sup>其萬五千人<sup>ヲ</sup>。於  
是<sup>ニ</sup>百姓<sup>ノ</sup>離心瓦解<sup>ス</sup>。欲爲<sup>スル</sup>亂者<sup>ヲ</sup>。十家<sup>ニ</sup>而七<sup>。</sup>客謂<sup>テ</sup>高皇帝<sup>ニ</sup>曰。時可<sup>ナリ</sup>矣。  
高皇帝曰。待<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>。聖人當<sup>ニ</sup>起<sup>ル</sup>東南<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>。不<sup>シテ</sup>一年<sup>ナラ</sup>。陳勝吳廣發<sup>ル</sup>矣。高皇  
始<sup>テ</sup>於<sup>ニ</sup>豐沛<sup>ニ</sup>一倡<sup>フ</sup>。天下<sup>ノ</sup>不期<sup>セ</sup>而響應<sup>スル</sup>者。不<sup>レ</sup>可<sup>レ</sup>勝數<sup>ル</sup>也。此所謂蹈<sup>ミ</sup>瑕<sup>ヲ</sup>  
候<sup>ヒ</sup>間<sup>ヲ</sup>。因<sup>テ</sup>秦之亡<sup>ニ</sup>而動<sup>ク</sup>者也。百姓願<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>。若<sup>シ</sup>旱之望<sup>ム</sup>雨<sup>ヲ</sup>。故起<sup>リ</sup>於<sup>ニ</sup>行陳<sup>ノ</sup>  
之中<sup>ニ</sup>。而立爲<sup>ニ</sup>天子<sup>ト</sup>。功高<sup>ニ</sup>三王<sup>ニ</sup>。德傳<sup>フ</sup>無窮<sup>ニ</sup>。今大王見<sup>ル</sup>高皇帝得<sup>ル</sup>天  
下<sup>ヲ</sup>之易<sup>ヲ</sup>也。獨不<sup>レ</sup>觀<sup>ニ</sup>近世<sup>ノ</sup>之吳楚<sup>ヲ</sup>乎。夫吳王賜<sup>テ</sup>號<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>劉氏<sup>ト</sup>祭酒<sup>ト</sup>。應<sup>劭</sup>  
曰。禮飲酒必祭。示有<sup>ニ</sup>先也。故稱<sup>ニ</sup>祭酒<sup>尊</sup>也。復<sup>タ</sup>不<sup>レ</sup>朝<sup>セ</sup>王<sup>ト</sup>四郡<sup>ノ</sup>之衆<sup>ニ</sup>。地方數千里。內鑄<sup>シテ</sup>消銅<sup>ヲ</sup>以  
爲<sup>ニ</sup>錢<sup>ト</sup>。東煮<sup>テ</sup>海水<sup>ヲ</sup>以爲<sup>ニ</sup>鹽<sup>ト</sup>。上取<sup>ニ</sup>江陵木<sup>ヲ</sup>以爲<sup>ニ</sup>船<sup>ト</sup>。一船之載<sup>ヲ</sup>。當<sup>ニ</sup>中國<sup>ノ</sup>  
數十兩車<sup>ノ</sup>。國富民衆。行<sup>ニ</sup>珠玉金帛<sup>ヲ</sup>。賂<sup>フ</sup>諸侯宗室大臣<sup>ニ</sup>。獨寶<sup>リ</sup>氏不



還爲僞辭、札記雜志云、僞ハ即爲ナリ、御覽珍寶部引テ爲字ナシ、按ズルニ史、本一爲ニ作り、一僞ニ作ル、後人兩存シテ、前テ誤并スルノミ。

令名男子若振女、振ハ僞ト通ズ、僞ハ善ナリ。

止王不來注正義闕文、札記錢鑒石云、此及ビ後武關ノ正義、皆闕文ニ字アリ、蓋後人ノ記スル所ナリ。

尉佗知中國勞極止王不來、札記志疑云、漢書

不可勝數。僵尸千里。流血頃畝。百姓力竭。欲爲亂者。十家而五。

又使徐福入海求神異物。還爲僞辭曰。臣見海中大神。言曰。汝

西皇之使邪。臣答曰。然。汝何求曰。願請延年益壽藥。神曰。汝

王之禮薄。得觀而不得取。即從臣東南至蓬萊山。見芝成宮闕。

有使者銅色而龍形。光上照天。於是臣再拜問曰。宜何資以獻。

海神曰。以令名男子若振女。徐廣曰。西京賦曰。振子萬童。駟案薛綜曰。振子童男女。與百工之事。

即得之矣。秦皇帝大說。遣振男女三千人。資之五穀種種百工。

而行。徐福得平原廣澤。止王不來。正義曰。括地志云。亶州在東海中。秦始皇遣徐福。將童男女。遂止此州。其後復有數

州萬家。其上人有至會稽市易者。闕文。於是百姓悲痛相思。欲爲亂者。十家而六。又使

尉佗踰五嶺。攻百越。尉佗知中國勞極。止王不來。使人上書求

秦絶先王之道、札記聖  
人之道ニ作ル、云フ蔡  
中統游王毛本聖人ニ作  
ル、他本先王ニ作ル。

乎。臣聞子胥諫吳王。吳王不用。乃曰。臣今見麋鹿游姑蘇之臺也。今臣亦見宮中生荆棘。露霑衣也。王怒。繫伍被父母。囚之三月。復召曰。將軍許寡人乎。被曰。不直來爲大王畫耳。臣聞聰者聽於無聲。明者見於未形。故聖人萬舉萬全。昔文王一動而功顯于千世。列爲三代。此所謂因天心以動作者也。故海內不期而隨。此千歲之可見者。夫百年之秦。近世之吳楚。亦足以喻國家之存亡矣。臣不敢避子胥之誅。願大王母爲吳王之聽。昔秦絶先王之道。殺術士。燔詩書。棄禮義。尙詐力。任刑罰。轉負海之粟。致之西河。當是之時。男子疾耕。不足於糟糠。女子紡績。不足於蓋形。遣蒙恬。築長城。東西數千里。暴兵露師。常數十萬。死者

道從長安來注、札記如淳ノ上、索隱道長安來ノ句アリ、又丞ヲ承ニ作ル、雜志云、道即從ナリ、漢書道長安來ニ作ル、史本一道ニ作リ、一從ニ作ル、後人誤テ之ヲ合スルノミ。日夜與伍被左吳等云云、札記志疑云、漢書伍被ナシ、注索隱遠下古字アリ。

之。未<sup>レ</sup>知<sup>レ</sup>得<sup>ニ</sup>削<sup>ル</sup>地<sup>ヲ</sup>。聞<sup>キ</sup>漢使來<sup>ル</sup>。恐<sup>ニ</sup>其捕<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>。乃與<sup>ニ</sup>太子謀<sup>テ</sup>刺<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。如<sup>ニ</sup>前計<sup>ノ</sup>。及<sup>ニ</sup>中尉至<sup>ル</sup>。即<sup>ニ</sup>賀<sup>ス</sup>王<sup>ヲ</sup>。王以故不發<sup>セ</sup>。其後自傷<sup>テ</sup>曰。吾行<sup>ニ</sup>仁義<sup>ヲ</sup>。見<sup>ル</sup>削<sup>ル</sup>。甚<sup>ダ</sup>恥<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。然淮南王削<sup>ル</sup>地<sup>ヲ</sup>之後。其爲<sup>ニ</sup>反謀<sup>ヲ</sup>益<sup>シ</sup>甚<sup>シ</sup>。諸使道從<sup>ニ</sup>長安來<sup>ル</sup>。爲<sup>ニ</sup>妄妖言<sup>ヲ</sup>。索隱曰。如淳曰。道。猶言路由長安來。姚丞云。道或作從。言<sup>ニ</sup>上無<sup>レ</sup>男<sup>ヲ</sup>。漢不治<sup>ラ</sup>。即喜<sup>ビ</sup>。即言<sup>ニ</sup>漢廷治<sup>ハ</sup>有<sup>ト</sup>男<sup>ヲ</sup>。王怒<sup>テ</sup>。以爲<sup>ニ</sup>妄言<sup>ヲ</sup>。非也<sup>ト</sup>。王日夜與<sup>ニ</sup>伍被<sup>ヲ</sup>。左吳等案<sup>ニ</sup>輿地圖<sup>ヲ</sup>。漢書曰。伍被。楚人。或言其先伍子胥後。○蘇林曰。輿。猶盡載之意。○索隱曰。志林云。輿。地圖。漢家所畫。非出遠也。部署<sup>ス</sup>兵<sup>ヲ</sup>。所從<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup>。王曰。上無<sup>ニ</sup>太子<sup>ヲ</sup>。宮車即晏駕<sup>スル</sup>。廷臣必徵<sup>ニ</sup>膠東王<sup>ヲ</sup>。不即常山王<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。皆景帝子也。諸侯竝爭<sup>ヒ</sup>。吾可以無備<sup>フル</sup>乎。且吾高祖孫<sup>ナリ</sup>。親行<sup>ニ</sup>仁義<sup>ヲ</sup>。陛下遇<sup>ス</sup>我厚<sup>シ</sup>。吾能忍<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。萬世之後。吾寧能北面<sup>ニ</sup>臣事<sup>ス</sup>豎子<sup>ニ</sup>乎。王坐<sup>ニ</sup>東宮<sup>ニ</sup>。召<sup>シ</sup>伍被<sup>ヲ</sup>與<sup>ニ</sup>謀<sup>テ</sup>曰。將軍上被悵然<sup>トシ</sup>曰。上寬赦<sup>ス</sup>大王<sup>ヲ</sup>。王復安得<sup>ニ</sup>此亡國之語<sup>ヲ</sup>。



中尉宏注姓殷、札記志疑云、公卿表是殷容ナリ。

廢格明詔當棄市、注而彼ノ被字衍ナリ、札記ナシ。

人上書告相事。下廷尉治。蹤跡連王。王使人候伺漢公卿。公卿

請逮捕治王。王恐事發。太子遷謀曰。漢使即逮王。王令人衣衛

士衣。持戟居庭中。王旁有非是。則刺殺之。臣亦使人刺殺淮南

中尉。乃舉兵。未晚。是時上不許公卿請。而遣漢中尉宏。即訊驗

王。索隱曰。案百官表云。宏姓殷也。王聞漢使來。即如太子謀計。漢中尉至。王視其

顏色。和訊王。以斥靄被事耳。王自度無何。如淳曰。不發。中尉還

以聞。公卿治者曰。淮南王安擁闕奮擊匈奴者。靄被等。廢格明

詔。當棄市。索隱曰。崔浩云。詔書募擊匈奴。而被壅遏應募者。漢律所謂廢格。案如淳注。梁孝王傳云。謂鼓閣不行也。晉各。詔弗許。公卿

請廢勿王。詔弗許。公卿請削五縣。詔削二縣。使中尉宏赦淮南

王罪。罰以削地。中尉入淮南界。宣言赦王。王初聞漢公卿請誅

使郎ハ今斥免ハ身有丁  
日郎中令ハ郎中  
長ナリ、斥免ハ被チ免  
ズルナリ。

謝歸去之。王后荼太子遷及女陵得愛幸王擅國權侵奪民田

宅妄致繫人。

徐廣曰。一云毆擊。

元朔五年太子學用劍自以爲人莫及。

聞郎中靈被巧。

索隱曰。案巧者謂善用劍也。

乃召與戲被一再辭讓誤中太子。

索隱曰。樂彥云。初一讓王。至二讓後遂不讓。故云。一再讓而誤中太子也。

太子怒被恐此時有欲從軍者輒詣

京師被卽願奮擊匈奴太子遷數惡被於王王使郎中令斥免

欲以禁後。

正義曰。言屏斥免郎中令官而令後人不敢效也。

被遂亡至長安上書自明詔下

其事廷尉河南。

正義曰。靈被告章下廷尉及河南共治之。

河南治逮淮南太子。

正義曰。逮謂追赴河南也。

王王后計欲無遣太子遂發兵反計猶豫十餘日未定會有詔

卽訊太子。

索隱曰。案樂彥云。卽就淮南案之不逮詣河南也。

當是時淮南相怒壽春丞畱太

子逮不遣。

如淳曰。丞主刑獄囚徒丞順王意不遣太子應逮書。

劾不敬王以請相相弗聽王使

謀反滋甚、札記云、謀反疑フ倒ナリ、下文其反謀益甚ト云フ、語意相同ジ。  
有女陵葬、札記慧ニ作ル、云フ蕭刻毛本同ジ、各本葬ニ譌ス。  
中嗣長安注徐廣曰采察之名也、札記云、索隱引テ探察ニ作ル、此采字疑フ譌ナリ。  
王皇太后、札記云、王字疑フ衍ナリ、漢書ナシ。

里。今彗星長竟天。天下兵當大起。王心以爲上無太子。天下有變。諸侯竝爭。愈益治器械攻戰具。積金錢。賂遺郡國諸侯游士奇材。諸辯士爲方略者。妄作妖言。諂諛王。王喜多賜金錢。而謀反滋甚。淮南王有女陵。彗有口辯。王愛陵。常多予金錢。爲中嗣長安。  
徐廣曰。詞。伺候采察之名也。音空。政反。安平侯鄂千秋。立孫伯。與淮南王女陵通而中絕。又遺淮南王書。稱臣盡力。故棄市。○索隱曰。鄧展曰。詞。捕也。孟康曰。詞音偵。西方人以反開爲偵。劉氏及包愷並音丑。政反。服虔云。偵。候之也。

約結上左右。元朔三年。上賜淮南王几

杖不朝。淮南王王后荼。王愛幸之。王后生太子遷。遷取王皇太

后。外孫修成君女爲妃。

應劭曰。王太后先適金氏女也。

王謀爲反具。畏太子妃知

而內泄事。乃與太子謀。令詐弗愛。三月不同席。王乃詳爲怒太

子。閉太子。使與妃同內。三月。太子終不近妃。妃求去。王乃上書



王<sup>トス</sup>濟<sup>ニ</sup>北<sup>ニ</sup>。所以<sup>スル</sup>襲<sup>チ</sup>之<sup>ビ</sup>。及<sup>ズル</sup>薨<sup>ニ</sup>。遂<sup>ニ</sup>賜<sup>テ</sup>諡<sup>ナ</sup>爲<sup>ス</sup>貞<sup>ト</sup>王<sup>ト</sup>。廬<sup>ス</sup>江<sup>ス</sup>王<sup>ス</sup>邊<sup>ス</sup>越<sup>ニ</sup>。數<sup>ニ</sup>使<sup>テ</sup>使<sup>シテ</sup>相<sup>ヲ</sup>交<sup>ラ</sup>。故<sup>ニ</sup>徙<sup>シテ</sup>爲<sup>ニ</sup>衡<sup>ニ</sup>山<sup>ト</sup>王<sup>ト</sup>。王<sup>トス</sup>江<sup>ニ</sup>北<sup>ニ</sup>。淮<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>王<sup>ト</sup>如<sup>レ</sup>故<sup>。</sup>

淮<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>王<sup>ト</sup>安<sup>リ</sup>爲<sup>ニ</sup>人<sup>ト</sup>好<sup>デ</sup>讀<sup>ミ</sup>書<sup>ヲ</sup>鼓<sup>ス</sup>琴<sup>ヲ</sup>不<sup>ズ</sup>喜<sup>ス</sup>弋<sup>ス</sup>獵<sup>ス</sup>狗<sup>ヲ</sup>馬<sup>ヲ</sup>馳<sup>テ</sup>騁<sup>テ</sup>亦<sup>ニ</sup>欲<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>行<sup>ニ</sup>陰<sup>ニ</sup>德<sup>ヲ</sup>拊<sup>シ</sup>循<sup>シ</sup>百<sup>ニ</sup>姓<sup>ヲ</sup>流<sup>サント</sup>譽<sup>ナ</sup>天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>。時<sup>ニ</sup>時<sup>ニ</sup>怨<sup>ス</sup>望<sup>ス</sup>厲<sup>ス</sup>王<sup>ヲ</sup>死<sup>ニ</sup>。時<sup>ニ</sup>欲<sup>ス</sup>畔<sup>シ</sup>逆<sup>テ</sup>未<sup>ズ</sup>有<sup>レ</sup>因<sup>レ</sup>也<sup>。</sup>

及<sup>ニ</sup>建<sup>ニ</sup>元<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>。淮<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>王<sup>ト</sup>入<sup>ス</sup>朝<sup>ス</sup>。素<sup>ト</sup>善<sup>シ</sup>武<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>。武<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>時<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>太<sup>ト</sup>尉<sup>ト</sup>。乃<sup>ニ</sup>逆<sup>フ</sup>

王<sup>ヲ</sup>霸<sup>上</sup>。與<sup>レ</sup>王<sup>ヲ</sup>語<sup>テ</sup>曰<sup>。</sup>方<sup>ニ</sup>今<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>無<sup>シ</sup>太<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>。大<sup>ニ</sup>王<sup>ハ</sup>親<sup>ク</sup>高<sup>ニ</sup>皇<sup>ニ</sup>帝<sup>ニ</sup>孫<sup>ニ</sup>。

正義曰。漢書云。武帝以安

屬<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>。

行<sup>ニ</sup>仁<sup>ニ</sup>義<sup>ヲ</sup>。天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>莫<sup>ル</sup>不<sup>レ</sup>聞<sup>カ</sup>。卽<sup>チ</sup>宮<sup>ニ</sup>車<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>晏<sup>ス</sup>駕<sup>スル</sup>。非<sup>ニ</sup>大<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>當<sup>ニ</sup>誰<sup>ニ</sup>立<sup>ツ</sup>者<sup>ヲ</sup>。

淮<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>王<sup>ト</sup>大<sup>ニ</sup>喜<sup>ビ</sup>。厚<sup>ク</sup>遺<sup>テ</sup>武<sup>ニ</sup>安<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>金<sup>ニ</sup>財<sup>ニ</sup>物<sup>ニ</sup>。陰<sup>ニ</sup>結<sup>ビ</sup>賓<sup>ニ</sup>客<sup>ヲ</sup>。

索隱曰。淮南要略云。養士數千。高材者八人。蘇非。李

尙。左吳。田由。雷被。伍被。毛被。晉昌。號曰八公也。

拊<sup>シ</sup>循<sup>シ</sup>百<sup>ニ</sup>姓<sup>ヲ</sup>。爲<sup>ニ</sup>畔<sup>シ</sup>逆<sup>シ</sup>事<sup>ヲ</sup>。建<sup>ニ</sup>元<sup>ニ</sup>六<sup>ニ</sup>年<sup>ニ</sup>。彗<sup>ニ</sup>星<sup>ヲ</sup>見<sup>ユ</sup>。淮<sup>ニ</sup>南<sup>ニ</sup>

王<sup>ニ</sup>心<sup>ム</sup>怪<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。或<sup>ハ</sup>說<sup>テ</sup>王<sup>ニ</sup>曰<sup>。</sup>先<sup>ニ</sup>吳<sup>ニ</sup>軍<sup>ヲ</sup>起<sup>ル</sup>時<sup>ニ</sup>彗<sup>ニ</sup>星<sup>ヲ</sup>出<sup>ヅ</sup>。長<sup>ク</sup>數<sup>ニ</sup>尺<sup>ニ</sup>。然<sup>ル</sup>尙<sup>ホ</sup>流<sup>ス</sup>血<sup>ヲ</sup>千

王爲厲王。

正義曰。諡法云。暴慢無親曰厲。

置園復如諸侯儀。孝文十六年。徙淮南

王喜復故城陽。

索隱曰。故城陽。景王章子也。

上憐淮南厲王廢法不軌。自使失

國。蚤死。乃立其三子。阜陵侯安爲淮南王。安陽侯勃爲衡山王。

周陽侯賜爲廬江王。皆復得厲王時地參分之。東城侯良前薨

無後也。孝景三年。吳楚七國反。吳使者至淮南。淮南王欲發兵

應之。其相曰。大王必欲發兵應吳。臣願爲將。王乃屬相兵。淮南

相已將兵。因城守。不聽王而爲漢。漢亦使曲城侯將兵救淮南。

徐廣曰。曲城侯。姓蟲。名捷。其父名逢。高祖功臣。

淮南以故得完。吳使者至廬江。廬江王弗應。而

往來使越。吳使者至衡山。衡山王堅守無二心。孝景四年。吳楚

已破。衡山王朝。上以爲貞信。乃勞苦之。曰。南方卑溼。徙衡山王。

送考諸縣傳送淮南王、  
札記遂<sub>ナ</sub>速<sub>ニ</sub>作<sub>ル</sub>、云  
フ毛本速、他本並<sub>ニ</sub>送  
ニ譌ス。

子賜爲周陽侯、札記陽  
周<sub>ニ</sub>作<sub>ル</sub>、云<sub>フ</sub>各本周  
陽<sub>ニ</sub>作<sub>ル</sub>、考證惠景侯  
者表、漢書表傳<sub>ニ</sub>據<sub>テ</sub>  
改<sub>ム</sub>、下同<sub>ジ</sub>、志疑說同  
ジ。

不能相容注云云、顏師  
古曰、瓊說是ナリ。

曰。獨斬丞相御史以謝天下。乃可。

索隱曰。案劉氏云。袁盎此言亦太過也。

上卽令丞相

御史

ナシテ

遂考

セ

諸縣傳

シテ

送淮南王

ナ

不發

ナ

封

ナ

餽侍者

ナ

皆棄市

ス

乃以

ニ

列侯

ナ

葬淮南王

ナ

於雍

ニ

守冢

ニ

三十戶

ナ

孝文八年

ナ

上憐

ム

淮南王

ナ

淮南王有

ニ

子四人

ナ

皆七八歲

ナ

乃封

シテ

子安爲

シ

阜陵侯

ト

子勃爲

シ

安陽侯

ト

子賜爲

シ

周陽侯

ト

子良爲

ス

東成侯

ト

孝文十二年

ナ

民有作歌

ル

歌淮南厲王

ナ

曰

ナ

一尺布

ホ

尚可縫

フ

一斗粟

ホ

尚可舂

グ

兄弟二人

ト

不能相容

ル

漢書音義曰。

尺布。斗粟。猶

不能相容注云云、顏師古曰、瓊說是ナリ。

尚不棄。況於兄弟而更相逐乎。瓊曰。一尺布尚可縫而共

衣。一斗粟尚可舂而共食也。況以天下之廣而不能相容。

上聞之。乃歎曰。堯舜放

逐骨肉。正義曰。帝系云。堯。黃帝之後。舜。顓頊之後。四凶之內有承黃帝顓頊者。而堯舜竄

之。故放逐骨肉耳。四凶者。共工。三苗。伯鯀。及驩兜。皆堯舜之同姓。故云骨肉也。

周公殺管蔡。天下稱聖。何者。不以私害公。天下豈以我爲貪。

淮南王地邪。乃徙城陽王。王淮南故地。

徐廣曰。景王章之子。

而追尊諡淮南

南王地

ナ

邪。乃徙

シテ

城陽王

ナ

王淮南

トス

故地

ニ

徐廣曰。景

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

逐骨肉

ナ

正義曰

帝系云。堯。黃帝之後。舜。顓頊之後。四凶之內有承黃帝顓頊者。而堯舜竄

之。故放逐骨肉耳。四凶者。共工。三苗。伯鯀。及驩兜。皆堯舜之同姓。故云骨肉也。

周公殺管蔡。天下稱聖。何者。不以私害公。天下豈以我爲貪。

淮南王地邪。乃徙城陽王。王淮南故地。

徐廣曰。景王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

周公殺

ス

管蔡

ナ

天下稱

ス

聖

ト

何者

ナ

不以私

ナ

害公

ナ

天下豈

ナ

以我爲

ナ

貪

ナ

淮南

王地邪。乃徙城陽王。王淮南故地。

徐廣曰。景王章之子。

而追尊諡淮南

南王地

ナ

邪。乃徙

シテ

城陽王

ナ

王淮南

トス

故地

ニ

徐廣曰。景

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。

而追尊諡淮南

王章之子。



味死請請布告天下。制曰。計食長。給肉日五斤。酒二斗。令故美

人才人得幸者十人從居他可。索隱曰。謂它事可其制也。盡誅所與謀者。於是

乃遣淮南王。載以輜車。令縣以次傳。是時袁盎諫上曰。上素驕

淮南王。弗爲置嚴傅相。以故至此。且淮南王爲人剛。今暴摧折

之。臣恐卒逢霧露病死。陛下爲有殺弟之名。奈何。上曰。吾特苦

之耳。令復之。縣傳淮南王者。皆不敢發車封。漢書音義曰。檻車有檻封也。淮南

王乃謂持者曰。誰謂乃公勇者。索隱曰。乃。汝也。汝公。淮南王自謂也。吾安能勇。吾以

驕故。不聞吾過至此。人生一世閒。安能邑邑如此。乃不食死。至

雍。正義曰。今岐州雍縣也。雍令發封。以死聞。上哭甚悲。謂袁盎曰。吾不聽公

言。卒亡淮南王。盎曰。不可奈何。願陛下自寬。上曰。爲之奈何。盎

令復之、札記令今令作ル、云フ淺本今令ニ譌ス。

春又請長、淺穠隆曰、春ハ卽淮南丞相春ナリ。

王織上書獻璧皇帝。忌擅燔其書。不以聞。文穎曰。忌聞忌。吏請召治忌。

長不遣。謾言曰。忌病。春又請長。願入見。長怒曰。女欲離我自附。

漢長當棄市。臣請論如法制曰。朕不忍致法於王。其與列侯二

千石議。臣倉臣敬臣逸臣福臣賀昧死言。臣謹與列侯吏二千

石臣嬰等四十三人議。皆曰。長不奉法度。不聽天子詔。乃陰聚

徒黨及謀反者。厚養亡命。欲以有爲。臣等議論如法制曰。朕不

忍致法於王。其赦長死罪。廢勿王。臣倉等昧死言。長有大死罪。

陛下不忍致法幸赦。廢勿王。臣請處蜀郡嚴道邛郵。徐廣曰。嚴道有邛。樊九折。

阪。又有郵置。駟案張晏曰。嚴道蜀郡縣。○索隱曰。縣有蠻夷曰道。嚴道有邛來山有郵置。故曰嚴道邛郵也。樂彥云。妾

媵之有子者從去也。縣爲築蓋家室。皆廩食。給薪菜鹽鼓炊食器席蓐。臣等

閉口。

索隱曰。閉。姓也。音姦。嚴助傳則作閉忌。字音亦同。○正義曰。謀殺開章。以閉絕謀反之口也。

爲棺槨衣衾葬之肥陵。

邑。

正義曰。括地志云。肥陵故縣在壽州安豐縣東六十里。在故六城東北百餘里。

謾吏曰。不知安在。

索隱曰。謾音慢。慢誑也。實葬肥陵。誑

云。不知處。按肥陵地名在肥水之上。

又佯聚土樹表其上曰。開章死。埋此下。及長身自

賊殺無罪者一人。令吏論殺無罪者六人。爲命棄市罪。詐捕命

者以除罪。

晉灼曰。亡命者當棄市而王藏之。詐捕不命者而言命以脫命者之罪。

擅罪人罪人無告。劾繫治

城旦舂以上十四人。赦免罪人。死罪十八人。城旦舂以下五十

八人。賜人爵。關內侯以下九十四人。前日長病。陛下憂苦之。使

使者賜書棗脯。長不欲受賜。不肯見拜使者。南海民處廬江界

中者反。淮南吏卒擊之。陛下以淮南民貧苦。遣使者賜長帛五

千匹。以賜吏卒勞苦者。長不欲受賜。謾言曰。無勞苦者。南海民

爲命棄市罪。札記命上亡字アリ、云フ毛本亡字アリ、漢書ト合ス、他本並ニ脱ス。



知ラズト雖モ、然レドモ公卿表、孝文三年ニ於テ、張廷尉ヲ書スルノ誤ヲ證スベシ。

奉以二千石所不當得、札記此下、索隱案、謂有罪之人、不得關內侯及二千石ト注ス、云フ奉以九字當ニ一句讀ヲ作スベシ、如說之ニ近シ、項及ビ索隱皆其義ヲ失ス。

無<sup>レ</sup>度。爲<sup>ニ</sup>黃屋蓋<sup>ヲ</sup>。乘輿出入擬<sup>ス</sup>於<sup>ニ</sup>天子。擅<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>法令<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>用<sup>ニ</sup>漢法<sup>ヲ</sup>。及<sup>ニ</sup>所

置<sup>グ</sup>吏。以<sup>ニ</sup>其郎中春<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>丞相<sup>ト</sup>。聚<sup>ニ</sup>收<sup>シ</sup>漢諸侯人。及<sup>ニ</sup>有<sup>テ</sup>罪亡<sup>ル</sup>者。匿<sup>シテ</sup>與<sup>ニ</sup>居<sup>ル</sup>。

爲<sup>ニ</sup>治<sup>メ</sup>家室。賜<sup>フ</sup>其財物爵祿田宅。爵或至<sup>ニ</sup>關內侯<sup>ニ</sup>。奉<sup>ズルニシ</sup>以<sup>ニ</sup>二千石所

不<sup>レ</sup>當<sup>ニ</sup>得<sup>ニ</sup>。欲<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>有<sup>ス</sup>爲<sup>ス</sup>。如淳曰。賜亡畔來者。如賜其國ニ。千石也。瓚曰。奉以二千石之秩祿。大夫但<sup>也</sup>。張晏曰。大夫。姓也。上云男子但。

明其姓大夫也。瓚曰。官爲大夫。名但者也。○索隱曰。張晏云。大夫。姓。非也。案上文云男子但。此云大夫但。及士伍開章。則知大夫是官也。士伍開章等七

十人。如淳曰。律有罪失官爵。稱士伍者也。開章。名。與<sup>ニ</sup>棘蒲侯太子奇<sup>ヲ</sup>謀<sup>シ</sup>反<sup>シ</sup>。徐廣曰。棘蒲侯柴武。以文帝後元年卒。諡

剛。嗣子謀反。不<sup>レ</sup>得<sup>レ</sup>置<sup>レ</sup>後國除。欲<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>危<sup>セント</sup>宗廟社稷<sup>ヲ</sup>。使<sup>ニ</sup>開章陰告<sup>ゲ</sup>長<sup>ニ</sup>。與<sup>ニ</sup>謀<sup>テ</sup>使<sup>シ</sup>閭越及匈

奴<sup>ニ</sup>發<sup>ス</sup>其兵。開章之<sup>ニ</sup>淮南<sup>ニ</sup>見<sup>ユ</sup>長。長數與坐語飲食。爲<sup>ニ</sup>家室<sup>ヲ</sup>娶<sup>フセ</sup>婦<sup>ヲ</sup>。以<sup>ニ</sup>

二千石俸<sup>ヲ</sup>奉<sup>ズ</sup>之。開章使人告<sup>グ</sup>但。已<sup>ニ</sup>言<sup>フ</sup>之<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>。春。使<sup>ニ</sup>使報<sup>ベ</sup>但等<sup>ニ</sup>吏覺

知<sup>シ</sup>。使<sup>ニ</sup>長安尉奇等<sup>ヲ</sup>往捕<sup>ハ</sup>開章。長匿<sup>シテ</sup>不<sup>レ</sup>予<sup>ヘ</sup>。與<sup>ニ</sup>故中尉蘭忌<sup>ヲ</sup>謀<sup>シ</sup>殺<sup>シ</sup>以

輦車漢書輦車ニ作ル、  
顏師古曰、輦車ハ人輓  
行シ、以テ兵器ヲ載ス  
ルナリ。

宗正臣逸、廷尉臣賀、  
備盜賊中尉臣福、錢大  
所曰、漢書公卿表、此  
三人ノ名ナシ、札記志  
疑云、廷尉賀、何人ヲ

也。趙王如意子母無罪。呂后殺之。辟陽侯弗爭。罪二也。呂后王

諸呂。欲以危劉氏。辟陽侯弗爭。罪三也。臣謹爲天下誅賊臣辟

陽侯。報母之仇。謹伏闕下請罪。孝文傷其志爲親故。弗治。赦厲

王。當是時。薄太后及太子諸大臣皆憚厲王。厲王以此歸國益

驕恣。不用漢法。出入稱警蹕。稱制自爲法令。擬於天子。六年。令

男子但等七十人與棘蒲侯柴武太子奇謀。以輦車四十乘。

曰。大車駕馬曰

反谷口。

漢書音義曰。谷口。在長安北故縣也。處多險阻。正義曰。括  
地志云。谷口故城。在雍州醴泉縣東北四十里。漢谷口縣也。

令使閩越匈奴。事覺治之。使使召淮南王。淮南王至長安。丞

相臣張倉。典客臣馮敬。行御史大夫事。宗正臣逸。廷尉臣賀。備

盜賊中尉臣福。昧死言。淮南王長廢先帝法。不聽天子詔。居處

高祖十一年十月、札記  
志疑云、十月當二七月  
二作ルベシ。

后母之而葬厲王母真定。真定。厲王母之家在焉。父世縣也。索隱

曰。案漢書作母家縣。謂父祖代居真定也。

高祖十一年十月。淮南王黥布反。立子長爲淮

南王。王黥布故地。凡四郡。

徐廣曰。九江。廬江。衡山。豫章也。

上自將兵擊滅布。厲王

遂卽位。厲王蚤失母。常附呂后。孝惠呂后時。以故得幸。無患害。

シテ應前辟陽不彊爭

而常心怨辟陽侯。弗敢發。及孝文帝初卽位。淮南王自以爲最

親。驕蹇數不奉法。上以親故。常寬赦之。三年。入朝。甚橫。從上入

苑囿獵。與上同車。常謂上大兄。厲王有材力。力能扛鼎。乃往請

辟陽侯。辟陽侯出見之。卽自袖鐵椎。椎辟陽侯。

索隱曰。漢書作襲金椎。椎之。案信陵君使

朱亥袖四十斤鐵椎也。

令從者魏敬到之。

正義曰。劉古鼎反。到。謂刺到。

厲王乃馳走闕下。肉袒

謝曰。臣母不當坐。趙事。其時辟陽侯力能得之。呂后弗爭。罪一

魏敬到之注刺到、札記  
刺頸ニ作ル。



## 史記評林卷之一百一十八

## 淮南衡山列傳第五十八

淮南厲王長者。高祖少子也。其母故趙王張敖美人。高祖八年。

從東垣過趙。

正義曰。趙張耳所都。今邢州也。

趙王獻之美人。厲王母得幸焉。有身。

趙王敖弗敢內宮。爲築外宮而舍之。及貫高等謀反。柏人事發。

覺并逮治王。盡收捕王母兄弟美人。繫之河內。厲王母亦繫。告

吏曰。得幸上有身。吏以聞上。上方怒趙王。未理厲王母。厲王母

伏後案

弟趙兼。因辟陽侯言呂后。呂后妬弗肯白。辟陽侯不彊爭。及厲

王母已生厲王。恚卽自殺。吏奉厲王詣上。上悔。

正義曰。悔不  
理厲王母。

令呂

史記評林卷之一百一十七終

相如自以文章擅當代。見武帝改正易服。定制度。興樂章。度其必封禪以夸耀後世。當其時。謂可秉筆託附。不磨。由是草書將以上勸。而不幸病以死。則初意不獲遂也。然欲使帝之必知。於是屬其妻身後上之。此其爲計實夸心之所致耳。



通ニ此意ヲ成ヌヲ知ラ  
 易本隱之以顯。札記云  
 之以漢書以之。作ル、  
 索隱ニ據レバ、則見ル  
 所ノ史、モト漢書ト同  
 ジ、今本誤倒ス。  
 小雅云云注韋昭曰小雅  
 云人、札記云チ之ニ作  
 ル、云フ之ヲ云ニ誤ス、  
 汪校改△。

狹小。先道己之憂苦。其流乃及上政之得失者。○索隱曰。張揖云。己。詩人自謂也。己  
 小有得失。不得其所。作詩流言以諷其上。也。故詩緯云。小雅譏己得失。及之於上也。

所以

言雖外殊。其合德一也。相如雖多虛辭濫說。然其要歸引之節。

儉。此與詩之風諫何異。揚雄以爲靡麗之賦。勸百風一。猶馳騁。

鄭衛之聲。曲終而奏雅。不已虧乎。余采其語。可論者著于篇。

索隱述贊曰。相如縱誕。竊貨卓氏。其學無方。其才足倚。子虛過叱。上林非侈。駟馬還邛。百金  
 獻伎。惜哉封禪。遺文悼爾。

楊慎曰。司馬長卿去戰國之世未遠。故其談端說鋒。與策士辯者相似。然不可謂之非  
 正也。孔子論五諫曰。吾從其諷。故戰國諷諫之妙。惟司馬相如得之。司馬上林之旨。惟  
 揚子校獵得之。

王應麟曰。史通云。司馬相如始以自敍爲傳。然其所敍乃記自少及長。其身行事而已。  
 今考之本傳。未見其爲自敍。又云。相如自敍記其客遊臨邛。以春秋所諱特爲美談。恐  
 未必然。意者集載本傳。如賈誼新書末篇。故以爲自敍歟。

王維楨曰。傳中敍相如子虛賦。上林賦。喻巴蜀。檄通西南夷。詰問諫獵書。宜春宮賦。大  
 人賦。封禪書。竝見相如優於文才而短于行檢。

凌約言曰。相如封禪書。議者謂其至死獻諛。然予觀太史公自序傳。其父談曰。天子接  
 千歲之統。封太山。而予不得從行。是命也夫。是知當時以登封爲盛。有事爲榮。蓋如此。

ス、集解ニ據レバ、則本是託字ナリ、他本記ニ作ル、非ナリ、方苞曰、天必諱諱然漢ニ封禪チ命ゼズ、而テ物類ノ祥ニ因リ、以テ其意ヲ寄寓シ、而テ之ヲ諱スルヲ言フナリ。

太史公曰云云、王鳴盛曰、漢書ノ贊、全ク其文ヲ用フ、但首ニ於テ司馬遷解四字ヲ加ヘ、宋尾余采其語云云ヲ刪ル、大約史記一書、後世妄人ニ附益セラルル甚ダ多シ、揚雄云云、乃班氏ノ言、余采其言云云、仍是司馬氏ノ元本ナリ、何人カ妄ニ班チ取テ、以テ司馬ヲ益シ、

交。上下相發。允答聖王之德。兢兢翼翼也。故曰。興必慮衰。安必

思危。是以湯武至尊嚴。不失肅祇。舜在假典。顧省厥遺。此之謂

也。徐廣曰。假。大也。司馬相如既卒。徐廣曰。元狩五年也。五歲。天子始祭后土。八年而

遂先禮中嶽。正義曰。嵩高也。在洛州陽城縣西北二十二里。封于太山。正義曰。在兗州博城縣西北三十里。至梁父。

禪肅然。徐廣曰。小山。在泰山下趾東北。相如他所著。若遺平陵侯書。徐廣曰。蘇建也。與五

公子相難。草木書篇不采。采其尤著公卿者云。

太史公曰。春秋推見至隱。韋昭曰。推見事至於隱諱。謂若晉文召天子。經言狩河陽之屬。○索隱曰。李奇云。隱猶微也。言其義彰而

文微。若隱公見弑。易本隱之以顯。韋昭曰。易本隱微妙。出爲人事。乃顯著也。○索隱曰。虞喜志林曰。春秋以人事通天道。是推見至隱

也。易以天道接人事。大雅言王公大人。而德逮黎庶。韋昭曰。先言王公大人之德。乃後及衆庶

也。○索隱曰。張揖云。謂文王公劉在位。大人之德下及衆民者也。小雅譏小己之得失。其流及上。韋昭曰。小雅云。人志



其儀可嘉、札記志疑云、嘉ハ喜ノ譌ナリ、漢書喜ニ作ル、上下文ノ訥ト合ス、文選亦嘉ニ譌ス。

侯。何也。邁。行也。言  
君何不<sub>レ</sub>行封禪。  
般般之獸。樂我君囿。  
索隱曰。案般般。文彩之貌也。音班。胡廣曰。謂騶虞也。白質黑章。

其儀可<sub>レ</sub>嘉。眈眈睦睦。君子之能。  
徐廣曰。眈。音曼。和貌也。能一作態。駟案漢書音義曰。曼。和。睦。敬言。和且敬。有似君子。蓋

聞其聲。今觀其來。厥塗靡蹤。天瑞之徵。  
徐廣曰。其所來路。非有迹。蓋自天降瑞。不行而至也。茲

亦於舜。虞氏以興。  
索隱曰。文穎云。舜百獸率舞。則騶虞亦在其中也。濯濯之麟。游彼靈時。  
漢書音義

曰。武帝祠五時。獲白麟。故言游靈時。○索  
隱曰。詩人云。麀鹿濯濯。注云。濯濯。嬉遊也。孟冬十月。君徂郊祀。馳我君輿。帝

以享祉。三代之前。蓋未嘗有。宛宛黃龍。興德而升。  
索隱曰。胡廣云。宛宛。屈伸也。

采色炫燿。煢煢輝煌。  
徐廣曰。煢音晃。煢音魂。正陽顯見。覺寤黎烝。  
索隱曰。文穎云。正陽。陽明

也。謂南面  
於傳載之。云受命所乘。  
索隱曰。如淳云。書傳所載。揆其比類。以爲漢土德。黃龍爲之應。見之於成紀。故云受命所

乘。厥之有章。不必諄諄。  
徐廣曰。諄。止純反。告之丁寧。駟案漢書音義曰。天之所命。表以符瑞。章明其德。不必諄諄。然有語言也。依

類記寓。諭以封禪。  
漢書音義曰。寓。寄也。禪。山也。披藝觀之。天人之際。以

漢炳輝煌、札記煌ヲ煌ニ作ル、云フ舊刻毛本煌、他本煌ニ作ル。  
正陽顯見覺寤黎烝、方苞曰、龍ハ至陽ノ物ナリ、其世ニ顯見スル、漢受命ノ符ヲ昭ニシ、以テ衆庶ヲ覺寤スル所以ナリ。  
依類記寓諭以封禪、札記託ヲ託ニ作ル、云フ舊刻託、漢書文選ト合



ナリ、顔師古曰、禮ハ  
布ナリ。

甘露時雨云云、顔師古  
曰、雨露滂沛トシテ、  
其澤以テ游泳スベキナ  
リ。  
滋液滂漉云云、顔師古  
曰、滂漉ハ潤澤下究ス  
ルヲ謂フ、故ニ生トシ  
テ育セザルナキナリ。

云。據張  
舒也。

俾萬世得激清流揚微波。蜚英聲騰茂實。

索隱曰。胡廣云。飛揚  
英偉之聲。騰馳茂盛

之實也。

前聖之所以永保鴻名而常爲稱首者用此。

索隱曰。案謂  
用此封禪也。

宜

命掌故。悉奏其義而覽焉。

漢書音義曰。掌故。太  
史官屬主故事也。

於是天子沛然改容

曰。愉乎。朕其試哉。乃遷思回慮。總公卿之議。詢封禪之事。詩大

澤之博。廣符瑞之富。

漢書音義曰。詩歌詠功德也。下四章之頌也。大澤之博。謂自  
我天覆雲之油油。廣符瑞之富。謂斑斑之獸以下三章。言符

瑞廣大  
富饒也。

乃作頌曰。自我天覆雲之油油。

漢書音義曰。油油。雲行貌。孟  
子曰。油然作雲。沛然下雨。

甘

露時雨。厥壤可游。滋液滂漉。何生不育。

徐廣曰。滂。音色蔭反。○索隱曰。  
案說文云。滂漉。水下流之貌也。

嘉穀六穗。我穡曷蓄。

徐廣曰。何所  
畜邪。畜嘉穀。

非唯雨之。又潤澤之。非唯濡之。

汜尊濩之。

徐廣曰。古布字作尊。○索隱曰。胡廣云。汜。普  
也。言雨澤非偏於我。普徧布散無所不濩也。

萬物熙熙。懷而慕思。

名山顯位。望君之來。

韋昭曰。名山。大山  
也。顯位。封禪也。

君乎君乎。侯不邁哉。

索隱曰。  
小顏云。

咸濟世而屈。

漢書音義曰。屈。絕之也。言古帝王但作一時之榮。畢代而絕也。

說者尙何稱於後。

徐廣曰。若無封。

禪之遺迹。則榮盡於當時。至於歷世之後。人何所述。

而云七十一君乎。

索隱曰。言古封禪之帝王。是各竝時而榮貴。盛有濟世之勳。而屈者。謂言

抑屈總不封禪。使說者尙何稱述後代。而云七十二君乎。

夫修德以錫符。奉符以行事。不爲進越。

索隱

曰。文穎云。越。踰也。

故聖王弗替。而修禮地祇。謁款天神。

漢書音義曰。款。誠也。謁。告之報。

也。勒功中嶽。以彰至尊。舒盛德。發號榮。受厚福。以浸黎民也。皇

皇哉斯事。天下之壯觀。王者之丕業。不可貶也。願陛下全之。而

後因雜薦紳先生之略術。使獲耀日月之末光。絕炎以展采錯

事。徐廣曰。錯音厝。駟案漢書音義曰。采。官也。使諸儒記功著業。得觀日月末光殊絕之明。以展其官職。設厝其事業者也。

猶兼正列其義。校

飭厥文。作春秋一藝。

徐廣曰。校一作祓。祓。猶拂也。音廢也。駟案漢書音義曰。春秋者。正天時。列人事。諸儒既得展事業。因兼正天時。列人事。敘

述大義。

將襲舊六爲七。

韋昭曰。今漢書增一仍舊六爲七也。

攄之無窮。

徐廣曰。攄一作臚。臚。敘也。○索隱曰。廣雅

襲舊六爲七。文穎曰。六經一ヲ加ヘテ七ト爲ス

云七十二君乎。注索隱云。札記上文咸濟世而屈。下ニ注ス。古上ニ自字アリ。盛ヲ咸ニ作リ。末句使說者尙何稱述。後代也。如上文云七十二君者。哉ニ作ル。云フ言自單本誤倒ス。各本遂ニ自字ヲ刪ル。今正ス。末句也。字疑フ衍ナリ。如チ故ニ譌ス。今改ム。故聖王弗替。顏師古曰。替ハ廢ナリ。封禪ノ事ヲ廢セザルナリ。



蓋號以況榮、錢大昕曰、蓋讀テ蓋ノ如シ、文類訓ジテ合ト爲ス、號ニ合フハ、猶符ニ合フト言フ如キナリ、小顏以テ語辭ト爲ス、迂ニ似タリ。  
注虞攀、札記攀虞ニ作ル、云フ原誤倒ス、今正ス。

且天爲質闇、錢大昕曰、漢書闇下示字アリ、下ニ屬シテ讀ム。

贊<sup>レ</sup>德侔<sup>ニ</sup>往<sup>ニ</sup>初<sup>ニ</sup>功<sup>ニ</sup>無<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>休<sup>ニ</sup>烈<sup>ニ</sup>浹<sup>ニ</sup>洽<sup>ニ</sup>符瑞衆變期應紹至不特創

見<sup>レ</sup>。徐廣曰。不但初顯符瑞而已。蓋將終以封禪之事。○索隱曰。文穎云。不獨一物初創見也。胡廣云。符瑞衆多。應期相繼而至也。意者泰山梁父。

設<sup>レ</sup>壇場望幸。蓋號以況榮。徐廣曰。以況受上天之榮爲名號。○索隱曰。案本或作望華蓋。華蓋星名。在紫微大帝之上。今言望聖帝

之臨幸也。義亦兩通。而孟康服虔注本皆幸下有華字。而虞攀流別集則唯云幸。幸當是也。於義亦通。直以後人見幸下有蓋字。又幸字似華。故因疑惑。遂定華字使誤也。文穎云。蓋合也。言考合前代之君。揆其榮而相比。況以爲號也。大顏云。蓋欲也。言欲化功立號。受天之況賜榮名也。於義爲愜。然其文云。蓋詞義典質。又上與幸字連文。致令有華蓋之謬也。

帝垂恩儲社。將以薦成。徐廣曰。以衆瑞物初至封禪處薦之上天告。陛下謙成功也。○索隱曰。案漢書作慶成。義亦通也。

讓而弗發也。挈三神之驪。徐廣曰。挈猶言垂也。駟案韋昭曰。挈缺也。三神上帝泰山梁父也。○索隱曰。徐氏云。挈猶垂。非也。應劭挈

作絕。李奇韋昭作缺。意亦不遠。三神。缺王道之儀。羣臣惡焉。或謂且天爲。如淳謂地祇天神山嶽也。與韋不同。

質闇。珍符固不可辭。漢書音義曰。言天道質昧。以符瑞見意。不可辭讓也。若然辭之。是泰山靡

記而梁父靡幾也。漢書音義曰。太山之上無所表記。梁父壇場無所庶幾。○索隱曰。案幾音冀。亦各竝時而榮。



變字諸解、惟鄭德之ヲ得タリ、徐廣瑞不慮說ナリ、字林亦此文ニ據リ、而テ之ヲ傳會スルノミ。

招翠黃乘龍於沼、顏師古曰、孟說非ナリ、翠黃及ビ乘龍ヲ池沼ニ招致スルヲ言フノミ、孟說ハ孟康音義ノ說ナリ。

也。駟案漢書音義曰。謂嘉禾之米。於庖廚以供祭祀。○索隱曰。鄭德云。彘。擇也。說文嘉禾一名彘。字林云。禾一莖六穗謂之彘也。

犧雙舸共抵之獸。

徐廣曰。抵音底。駟案漢書音義曰。犧。牲也。舸。角也。抵本也。武帝獲白麟。兩角共一本。因以爲牲也。

獲周餘珍。收龜于岐。

徐廣曰。一作放。

龜。駟案漢書音義曰。餘珍。得周鼎也。岐。水名也。

招翠黃乘龍於沼。

漢書音義曰。翠黃。乘黃也。龍翼馬身。黃帝乘之而仙。言見乘黃而招呼之。禮樂

志曰。訾黃其何不下來。余吾渥洼水中出神馬。故曰乘龍於沼。○索隱曰。服虔云。乘龍。四龍也。翠黃。孟說是也。周書云。乘黃似麟。背上有兩角也。

鬼神接靈圉。

賓於閒館。

徐廣曰。言至德與神明連接。故靈圉爲賓。旅於閒館矣。郭璞曰。靈圉。仙人名也。

奇物譎詭。倂儻窮變。欽

哉。符瑞臻茲。猶以爲薄。不敢道封禪。蓋周躍魚隕杭。休之以燎。

索隱曰。杭。舟也。胡廣云。武王渡河。白魚入王舟。俯取以燎。隕。墜之於舟中也。

微夫斯之爲符也。以登介丘。不亦

惡乎。

漢書音義曰。介。大丘。山也。言周以白魚爲瑞。登太山封禪。不亦慙乎。

進讓之道。其何爽與。

徐廣曰。爽。差異也。駟案漢書音

義曰。進。周也。讓。漢也。言周未可封禪。爲進。漢可封禪。而不封禪。爲讓也。○索隱曰。爽。猶差也。言漢周進讓之道皆差也。

於是大司馬進曰。陛

下仁育羣生。義征不慙。

漢書音義曰。大司馬。上公也。故先進議。慙。音惠。順也。

諸夏樂貢。百蠻執

古晉處ハ濃ノ如シ、顔師古曰、湛讀テ沈ト曰フ、沈ハ深ナリ、僊洪ハ皆大ナリ。

崇冠於二后、方苞曰、二后ハ、夏商ヲ謂フナリ、魏ヨリ以後、逮ル所惟周ノ事、故ニ以テ夏殷ニ崇冠スト爲スナリ。

終都攸卒注都於卒終也、錢大昕曰、都於ハ釋詁ノ文ナリ。

漢涌原泉、札記漢ヲ逢ニ作ル、注同ジ、云フ索隱本逢、漢書文選ト合ス、字類引ク亦同ジ、今本並ニ漢ニ誤ル。

注又作峰讀ノ下、札記曰烽二字アリ、云フ韋張二解義自ラ明カナリ、師古誤ニ據テ說ヲ爲シ、小司馬遂ニ其謬ヲ承ク、按ニ師古曰逢讀テ烽ト曰フ、烽火ノ升ル如キヲ言フ。

洶涌漫衍、顏師古曰、盛大ノ意ナリ。

旁魄ハ廣被ナリ。

通鑑云、漢書陝ヲ隘ム、注テ末ニ作ル。

一莖六穗於庖注云、楊慎曰徐楚金云、

易豐也。憲度著明。易則也。垂統理順。易繼也。是以業隆於緇祿。

而崇冠于二后。漢書音義曰。緇祿。謂成王也。二后。謂文武也。周公負成王致太平。功德冠於文武者。遵成法易故也。揆厥所元。

終都攸卒。漢書音義曰。都於卒。終也。未有殊尤絕迹。可考于今者也。然猶躡梁

父。登泰山。建顯號。施尊名。大漢之德。漢涌原泉。韋昭曰。漢德漢涌如泉原也。○索隱曰。張

揖曰。逢。遇也。喻其德盛。若遇泉原之流也。又作峰讀。胡廣曰。自此已下論漢家之德也。

徐廣曰。上暢九垓。下泝八埏。徐廣曰。音衍。駟案漢書音義曰。暢。達。埏。重也。泝。流也。埏若八埏。地之際也。言其德上達於九重之天。下流

於地之八際也。懷生之類。霑濡浸潤。協氣橫流。武節飄逝。邇陝游原。迥

闊泳沫。漢書音義曰。邇。近。原。本也。迥。遠。闊。廣也。泳。浮也。恩德比之於水。近者游其原。遠者浮其沫。首惡湮沒。闇昧昭哲。漢書

音義曰。始爲惡者皆湮滅。闇昧。喻夷狄皆化。

昆蟲凱澤。回首面內。韋昭曰。面向也。然後囿騶虞之珍

羣。徼麋鹿之怪獸。漢書音義曰。徼。遮也。麋鹿得其奇怪者。謂獲白麟也。導一莖六穗於庖。徐廣曰。導。瑞禾



湛恩濛涌、錢大昕曰、  
濛涌、漢書厯洪二作ル、



相如既奏大人之頌。天子大說。飄飄有凌雲之氣。似游天地之

間。意相如既病免。家居茂陵。天子曰。司馬相如病甚。可往從悉

取其書。若不然。後失之矣。使所忠往。正義曰。姓。所名。忠也。風俗通。姓氏云。漢書有諫大夫所忠氏。而

相如已死。家無書。問其妻。對曰。長卿固未嘗有書也。時時著書。

人又取去。即空居。長卿未死時。爲一卷書。曰。有使者來求書。奏

之。無他書。其遺札書言封禪事。奏所忠。忠奏其書。天子異之。其

書曰。伊上古之初肇。自昊穹兮生民。歷撰列辟。以迄于秦。徐廣曰。撰。

一作選。○索隱曰。文穎云。選。數也。率邇者踵武。徐廣曰。率。循也。邇。近也。武。跡也。循省近世之遺迹。

逃聽者風聲。徐廣曰。逃。遠也。聽。察遠古之風聲。○索隱曰。風聲。風雅之聲。以言聽遠古之事。則著在風雅之聲也。紛綸葳蕤。堙

滅而不稱者。不可勝數也。索隱曰。胡廣云。紛亂也。淪沒也。葳蕤。委頓也。張揖曰。亂貌。續昭夏。崇號

伊上古之初肇云云、顏師古曰、肇ハ始ナリ、昊穹ハ天ヲ謂フ、初始天地アツテヨリ以來ヲ謂フナリ、辟ハ君ナリ、迄ハ至ナリ、  
逃聽者風聲、顏師古曰、風聲ハ遺風嘉聲ヲ謂フナリ、雅頌ニ繫ルナキナリ、  
紛綸葳蕤、注索隱淪沒也、札記云、綸ハ沒ノ

穴處兮注勝代、札記云、漢書注代字ナシ、疑フ下ニ涉テ衍ス。

呼吸沆瀣、應劭曰、沆瀣ハ北方夜半ノ氣ナリ。

嬋侵潯而高縱、錢大昕曰漢書嬋ナ儼ニ作ル、儼儼聲相近シ、儼讀デ穢ノ如シ、徐音儼、非ナリ、說文、尋字、旁シニ从フ、隸變水ト相亂ル。

穴處兮。

郭璞曰。勝。玉勝也。○正義曰。顏云。勝。〔代〕婦人首飾也。漢代謂之華勝也。

亦幸有三足鳥爲之使。

正義曰。張

云。三足鳥。青鳥也。主爲西王母取食。在昆墟之北。

必長生若此而不死兮。雖濟萬世不足以喜。

回車竭來兮。絕道不周。

漢書音義曰。不周。山在崑崙東南。

會食幽都。呼吸沆瀣。殮

朝霞兮。噍咀芝英兮。噦瓊華。

徐廣曰。噦音祈。小食也。騶案韋昭曰。瓊華。玉英。

嬋侵潯而高縱

兮。紛鴻涌而上厲。

徐廣曰。嬋音儼。○索隱曰。漢書儼作儼。儼。仰也。音禁。儼音魚錦反。

貫列缺之倒景兮。

涉豐隆之滂沛。

漢書音義曰。列缺。天門也。倒景日在下。○正義曰。張云。豐隆。雲師也。淮南子云。季春三月。豐隆乃出以將雨。按豐隆將雲雨。故云滂沛。

馳游道而脩降兮。

正義曰。游。游車也。道。道車也。脩。長也。降。下也。

驚遺霧而遠逝。迫區中之

隘陝兮。舒節出乎北垠。遺屯騎於玄闕兮。軼先驅於寒門。

漢書音義

曰。玄闕。北極之山。寒門。天北門。

下崢嶸而無地兮。上寥廓而無天。視眩眠而無見

兮。聽惝恍而無聞。乘虛無而上假兮。超無友而獨存。

徐廣曰。假音古下反。至也。



西望崑崙注、札記秦亡  
秦春秋ニ作ル、云フ王  
ニ誤ル、昭成帝建ノ下  
國字アリ、云フ國字各  
本説ス、臨差ヲ臨羌ニ  
作ル、云フ各本差ニ誤  
ス、亦名建山達山ヲ亦  
名建末達山ニ作ル、云  
フ末山ニ誤ル、出書  
於西北隅ニ出於崑崙  
西北隅ニ作ル、云フ各  
本誤ル、黃海ヲ黃河ニ  
作ル、云フ河ヲ海ニ誤  
ル、以上官本並ニ誤ラ  
ズ。  
軌洸洸忽、張揖曰、分  
明ナラザル貌。

伯。正義曰。張云。一風伯字飛廉。

而刑雨師。正義曰。沙州有雨師祠。

西望崑崙之軌。正義曰。張云。海內經云。崑崙去中國

五萬里。天帝之下都也。其山廣袤百里。高八萬仞。增城九重。面九井。以玉爲檻。旁有五門。開明

獸守之。括地志云。崑崙在肅州酒泉縣南八十里。十六國秦亡。後魏昭成帝建十年。涼張駿酒  
泉太守馬岌上言。酒泉南山。卽崑崙之體。周穆王見西王母。樂而忘歸。卽謂此。山有石室。王母  
堂。珠璣鏤飾。煥若神宮。又刪丹西河名云。弱水。禹貢崑崙。在臨差之西。卽此明矣。括地志云。又  
阿傳。建山亦名建山。達山亦名崑崙山。恆河出其南。吐獅子口。經天竺。入達山。嬌水今名爲訶  
海。出書於西北隅。吐馬口。經安息。大夏國。入西海。黃海出東北隅。吐牛口。東北流。經濫澤。潛  
出大積石山。至華山。北東入海。其三河去山入海各三萬里。此謂大崑崙。肅州  
謂小崑崙也。禹本紀云。河出崑崙。二千五百餘里。日月所相隱避爲光明也。

兮。直徑馳乎三危。

三危。山名也。○正義曰。括地志云。三危山在沙州東南三十里。

排闥闔而入帝宮兮。

正義曰。韋昭云。闥。天門也。淮南子曰。西方曰西極之山。闥闔之門。

載玉女而與之歸。

正義曰。張云。玉女。青要乘弋等也。

舒閭

風而搖集兮。

正義曰。張云。闥風在崑崙闥闔之中。楚辭云。登闥風而縹馬。

亢烏騰而一止。

漢書音義曰。亢然高飛。如鳥之

騰也。低回陰山。翔以紆曲兮。

正義曰。張云。陰山在大崑崙西二千七百里。

吾乃今日睹西王

母。曜然白首。

徐廣曰。曜音下沃反。○索隱曰。曜音鸛。○正義曰。張云。西王母其狀如人。豹尾虎齒蓬鬢。曜然白首。石城金室。穴居其中。

載勝而



雜選膠葛以方馳。索隱曰。廣雅云。膠葛驅馳也。騷擾衝蕤其相紛拏兮。索隱曰。衝

從音息。滂淟泱軋。灑以林離。鑽羅列聚。叢以龍茸兮。衍曼流爛。

壇以陸離。徐廣曰。壇音坦。徑入噩室之砒磷鬱律兮。洞出鬼谷之崛壘

鬼礪。漢書音義曰。鬼谷在北辰下。衆鬼之所聚也。楚辭曰。贅鬼谷於北辰也。○正義曰。崛壘鬼礪不平也。徧覽

八紘而觀四荒兮。竭渡九江而越五河。正義曰。顏云。五色之河也。仙云。紫碧絳青黃之河也。經

營炎火而浮弱水兮。正義曰。姚丞云。大荒西經云。崑崙之丘其外有炎火之山。投

流會于國北。又南歷國北東去一里。深丈餘。闊六十步。非乘舟不可濟。流入海。阿儻達山一名崑崙山。其山爲主。在雍州西南一萬五千三百七十里。又云弱水在甘州張掖縣南山下也。

杭絕浮渚而涉流沙。奄息總極。汜濫水嬉兮。漢書音義曰。總極。葱

靈媧鼓瑟而舞馮夷。徐廣曰。媧一作貽。駟案漢書音義曰。靈媧。女媧也。馮夷。河伯

庚日溺死河。常以時若薨薨將混濁兮。召屏翳。正義曰。應云。屏翳。天神使也。韋云。雷師也。誅風

ノ貌、差錯ハ交互ナリ、  
舞選ハ重果ナリ、膠葛ハ猶交加ノ如キナリ。  
騷擾衝蕤云云、張揖曰、  
衝蕤ハ相入ル貌、滂淟ハ前  
ハ來盛ノ貌、泱軋ハ前  
マザルナリ、麗ハ靡ナ  
リ、林離ハ縹緲ナリ、  
按ニ據據ハ細ナリ。

越五河注仙下ニ、札記  
經字アリ、云フ經字、  
錢警石漢書注ニ依テ増  
ス。  
浮弱水注投物輒物然、  
札記下物字ナシ、云フ  
各本下物字チ衍ス、  
爲天柱ニ作ル、其山爲主  
柯誤テ其主爲主四字ニ  
字誤ラズ、今補正ス。  
杭絕浮渚涉流沙ノ下、  
札記集解、漢書音義  
渚流沙中渚也ト注ス、  
云フ王柯浚本並ニ脱  
ス。

リ、弁翁ハ走テ相追フナリ。

反太一注正義中宮、札記中宮ニ作ル、云フ此官字、猶未ダ俗人改ムル所ト爲ラズ、貴アベキナリ。

爾征北僑、札記北ヲ伯ニ作ル、云フ案本中統舊刻游本索隱本ト合ス、他本伯ヲ北ニ誤ル、漢書亦伯ニ作ル、顏師古曰、征伯僑ハ仙人、姓征名伯僑ナリ、王子僑ニ非ズ。祝融驚、札記云、當ニ漢書ニ依テ警ニ作ルベシ。

紛湛湛其差錯兮云云、顏師古曰、湛湛ハ積厚

之兮。部乘衆神於瑤光。漢書音義曰。搖光。北斗杓頭第一星。使五帝先導兮。正義曰。導導應云。五帝五

時。帝太皓反太一而從陵陽。漢書音義曰。仙人陵陽子明也。○正義曰。天官書云。中宮天極星其一明者太一常居也。列仙傳云。子明

於沛錕縣旋溪釣得白龍放之。後白龍來迎子明去。止陵陽山上百餘年。遂得仙也。左玄冥而右含靈兮。漢書音義曰。含靈。黔羸也。天上造化

神名也。或前陸離而後滈湟。漢書音義曰。皆神名。○正義曰。燕人也。形解而

斷役也。張揖曰。王子喬也。漢書郊祀志作正伯僑。此當是別人。恐非王子喬也。而役羨門兮。正義曰。張云。羨門。碣石山上仙人羨門高也。屬歧

伯使尙方。徐廣曰。歧伯。黃帝臣。馴案漢書音義曰。尙主也。歧伯。黃帝太醫。屬使主方藥。祝融驚而蹕御兮。正義曰。張云。祝

融。南方炎帝之佐也。獸身人面乘兩龍。清雰氣而後行。屯余車其萬乘兮。正義曰。張云。清雰氣。蓋有五綵也。

綽雲蓋而樹華旗。索隱曰。綽音祖內反。如淳云。蓋有五綵也。使句芒其將行兮。正義曰。張云。句芒。東方青

帝之佐也。鳥身人面。乘兩龍。顏云。將行。領從者也。吾欲往乎南嬉。歷唐堯於崇山兮。過虞舜於

九疑。正義曰。張云。崇山。狄山也。海外經云。狄山。帝堯葬其陽。九疑山。零陵營道縣。舜所葬處。紛湛湛其差錯兮。索隱曰。湛音徒感反。



縱恣也。据音據。驕音居召反。鰲音五到反。蠓以連卷。索隱曰。韋昭云。蠓。龍之形貌也。音起碧反。連卷音輦卷。沛艾起螻。伋以

佻儼兮。漢書音義曰。赴螻。申頸低仰也。佻儼。不前也。○索隱曰。張揖云。赴螻。牙跳也。放散畔岸。驤以孱顏。索隱曰。服虔云。馬仰頭其口開。正孱顏也。韋昭曰。顏音吾板反。詩云。兩服上驤。注云。驤。馬是也。蛭跋輶轄。

容以委麗兮。綢繆偃蹇。恍矣以梁倚。徐廣曰。陸賈。乍前乍卻也。陸音丑栗反。蹇音勑略反。輶烏葛反。轄音曷。綢繆。一作雕。與音他略反。馴案。漢書音義曰。恍矣。走也。梁倚。相著也。○索隱曰。張揖曰。陸賈。疾行互前卻也。輶轄。搖目吐舌也。陸音緒栗反。蹇音緒略反。輶音轄音遏。轄音曷。綢音徒弔反。張揖曰。偃蹇。卻器也。廣雅曰。偃蹇。天矯也。韋昭曰。與音答略反。相如傳云。修與遠去。與。袂也。糾蓼叫杲。跼以艘路兮。徐廣曰。艘音介。至也。○索隱曰。蓼音了。杲音五到反。小顏云。叫杲。高舉之貌。踏音

隱曰。蓼音了。杲音五到反。小顏云。叫杲。高舉之貌。踏音徒答反。艘音屈。三蒼云。蹋。著地。孫炎云。艘。古界字也。蔑蒙踴躍。騰而狂趨。漢書音義曰。蔑蒙。飛揚也。趨。走。苙颯卉翕。燂至電過兮。煥然霧除。霍然雲消。邪絕少陽。漢書音義曰。少陽。東極。太陰。北極。邪度。東極而升。北極者也。互折窈窕。以右轉兮。橫厲飛泉以正東。正義曰。厲。渡也。張云。飛泉。谷也。在崑崙山西南。悉徵靈囿而選

其行步進正ノ貌ナリ。沛艾云。張揖曰。沛艾ハ賊獵ナリ。伋ハ頭チ舉クルナリ。按ニ駮獵ハ、馬頭チ搖カスナリ。故散畔岸云。畔、顏師古曰。畔岸ハ自縱ノ貌也。驤ハ舉ナリ。孱顏ハ齊シカラザルナリ。陸賈輶轄云云注索隱、張揖曰。索隱陸賈輶轄、輶轄前卻也。蹇音緒栗反、蹇音緒略反、輶音烏葛反、轄音曷、綢繆偃蹇、輶音徒弔反、蹇音勑弔反、張揖曰、偃蹇卻距也、廣雅曰、偃蹇天矯之貌、張揖曰、與與奔走、梁倚相著、韋昭曰、與音答略反、相如傳云、候與遠去、與視也、二作ル、按ニ漢書體貌ナリ、委麗ハ左右相隨フナリ。糾蓼叫杲云云、張揖曰、糾蓼ハ相引クナリ、叫杲ハ相呼ブナリ。蹇而狂趨、趨音唯、走貌、漢書趨ニ作ル、顏音、苙颯卉翕、張揖曰、苙颯ハ飛ンデ相及ブナ

而登太陰兮。與真人乎相求。漢書音義曰。少陽。東極。太陰。北極。邪度。東極而升。北極者也。互折窈窕。以右轉兮。橫厲飛泉以正東。正義曰。厲。渡也。張云。飛泉。谷也。在崑崙山西南。悉徵靈囿而選

而登太陰兮。與真人乎相求。漢書音義曰。少陽。東極。太陰。北極。邪度。東極而升。北極者也。互折窈窕。以右轉兮。橫厲飛泉以正東。正義曰。厲。渡也。張云。飛泉。谷也。在崑崙山西南。悉徵靈囿而選

以右轉兮。橫厲飛泉以正東。正義曰。厲。渡也。張云。飛泉。谷也。在崑崙山西南。悉徵靈囿而選

悉徵靈囿而選

悉徵靈囿而選

悉徵靈囿而選



竭輕舉而遠遊、顏師古曰、竭ハ去ル意ナリ。

兮。在于中州。宅彌萬里兮。曾不足以少畱。悲世俗之迫隘兮。竭

輕舉而遠遊。

索隱曰。如淳云。武帝云。誠得如黃帝。去妻子如脫屣。是悲世俗迫隘也。

垂絳幡之素蜺兮。載雲

氣而上浮。建格澤之長竿兮。總光耀之采旒。

漢書音義曰。格澤之氣。如炎火狀。黃白色。起地上至

天。以此氣爲竿。旒。葆也。總。係也。

垂旬始以爲慘兮。挾彗星而爲髻。

漢書音義曰。旬

係光耀之氣於長竿以爲葆者。

始氣如雄雞。縣於葆下以爲旒也。髻。燕尾也。挾。彗星綴著旒以爲燕尾。

掉指橋以偃蹇兮。又旖旎以招搖。

漢書

音義曰。指橋。隨風指靡。○索隱曰。掉音徒弔反。橋音居天反。偃蹇。高貌。

攬攬搶以爲旌兮。

正義曰。天官書云。天攬長四尺。末銳。天搶長數丈。兩

頭銳。其形

靡屈虹而爲綢。

漢書音義曰。綢。韜也。以斷虹爲旌杠之韜。○索隱曰。應劭云。旌旂屈撓之貌。綢音直留反。或音韜。屈虹。斷虹也。

紅杏渺以眩滑兮。焮風涌而雲浮。

漢書音義曰。旬始屈虹。氣色紅。杏眇眩滑。闇冥無光也。○索隱曰。蘇林云。眩音

炫。滑音麴。晉灼云。紅。赤色貌。杏眇。深遠。眩滑。混合也。紅。或作虹。

駕應龍象輿之螭略透麗兮。膠赤螭青

蚪之螭。螭。蛇也。低卬天蹕。据以驕驚兮。詘折隆窮。

索隱曰。張揖曰。据。直項也。驕驚。

青蚪之螭。螭。蛇也。禮記。螭。虎也。蚪。蛇也。按。漢書。蚪。二作ル。顏師古曰。螭。略。姿。邈。蚪。蛇。蚪。皆

竟遊絕而不齊兮、札記  
志疑云、此下五句、漢  
書ナシ、後人ノ妄増ナ  
リ。

揭石瀨。

索隱曰。說文云。瀨。水流沙上也。

彌節容與兮。

索隱曰。容與。游戲貌也。

歷弔二世。持身不

謹兮。亡國失勢。信讒不寤兮。宗廟滅絕。嗚呼哀哉。操行之不得

兮。墳墓蕪穢而不修兮。魂無歸而不食。復邈絕而不齊兮。彌久

遠而愈休。精罔闐而飛揚兮。拾九天而永逝。

正義曰。太玄經云。九天。謂一爲中天。二爲羨天。

三爲從天。四爲更天。五爲睟天。六爲廓天。七爲滅天。八爲沈天。九爲成天。

嗚呼哀哉。相如拜爲孝文園令。

索隱曰。百官志

云。陵園令六百石。

天子既美子虛之事。相如見上好僊道。因曰。上林

之事未足美也。尙有靡者。臣嘗爲大人賦。

索隱曰。張揖云。大人。喻天子。向秀云。聖人在位。謂之大人。

張華云。相如作遠遊之體。以大人賦之也。

未就。請具而奏之。相如以爲列僊之傳。居山澤

閒。索隱曰。案傳者。謂相傳以列仙居山澤閒。音持全反。

形容甚臞。

徐廣曰。臞。瘦也。索隱曰。韋昭云。瘠也。

文子云。

堯臞瘦。

此非帝王之僊意也。乃遂就大人賦。其辭曰。世有大人



多藏<sup>レ</sup>於<sup>ニ</sup>隱微<sup>ニ</sup>而發<sup>レ</sup>於<sup>ニ</sup>人之所忽<sup>ニ</sup>者也。故鄙諺曰。家累千金。坐不

垂<sup>レ</sup>堂。

索隱曰。張揖云。畏簷瓦墮中人。樂彥云。垂邊也。近堂邊。恐其墮墜也。非謂畏簷瓦。

此言雖小。可以喻大。臣願

陛下之畱<sup>テ</sup>意幸察<sup>ニ</sup>上善<sup>ニ</sup>之還過<sup>ニ</sup>宜春宮。

正義曰。括地志云。秦宜春宮在雍州萬年縣西南三十里。宜春

苑在宮之東杜之南。始皇本紀云。葬二世杜南宜春苑中。按今宜春宮見二世陵。故作賦以哀也。

相如奏<sup>シテ</sup>賦以哀<sup>ニ</sup>二世行失<sup>ニ</sup>也。

其辭曰。登<sup>ニ</sup>陂陀之長阪<sup>ニ</sup>兮。

索隱曰。陂。普何反。陀。徒何反。

全入<sup>ニ</sup>曾宮之嵯峨<sup>ニ</sup>。

漢書音義曰。全。義曰。全

並也。○索隱曰。全步寸反。臨<sup>ニ</sup>曲江之隄州<sup>ニ</sup>兮。

漢書音義曰。隄。長也。苑中有曲江之象。泉中有長洲也。○索隱曰。隄音祈。隄即碣字。謂曲岸頭也。有

宮閣路。今猶謂之曲江。在杜陵西北五里。又三輔舊事云。樂游廣在西北是也。

望<sup>ニ</sup>南山之參差<sup>ニ</sup>。巖巖深山之嵒嵒

兮。徐廣曰。筮音力工反。○索隱曰。筮古江反。晉灼曰。筮音籠。古籀字。蕭該云。筮或作籀。長大貌也。

通谷<sup>トシテ</sup>豁兮豁<sup>ニ</sup>。

索隱曰。豁音呼含反。豁音呼加

反。汨減<sup>ニ</sup>喻習<sup>ニ</sup>以永逝<sup>ニ</sup>兮。

索隱曰。汨于筆反。汨減。疾貌也。喻音許及反。漢書作靱。靱然。輕舉意也。

注<sup>ニ</sup>平臯之廣

衍<sup>ニ</sup>。觀衆樹之塥<sup>ニ</sup>菱兮。

索隱曰。菱音愛。謂隱也。

覽<sup>ニ</sup>竹林之榛榛<sup>ニ</sup>。東馳<sup>ニ</sup>土山兮。北

哀二世行失也。顏師古曰。宜春ハ、モト秦ノ離宮、胡亥此ニ於テ閹樂ノ殺ス所ト爲ル、故ニ其處ニ感ジテ之ヲ哀ム。

通谷豁兮豁、顏師古曰。豁音呼活反、豁ハ大開ノ貌ナリ。



險射猛獸。卒然遇軼材之獸。

索隱曰。廣雅云。卒。暴也。音倉沒反。

駭不存之地。

索隱曰。謂所不

慮而猛獸駭發也。

犯屬車之清塵。

蔡邕曰。古者諸侯貳車九乘。秦滅九國。兼其車服。故大駕屬車八十一乘。

輿不及還轅。

犯屬車之清塵。領師古曰。屬。屬相連轅。シテ絶エザルヲ言フナリ。座ハ行テ座ヲ起スヲ言フナリ。清ト言フ者ハ。尊貴ノ意ナリ。

人不暇施巧。雖有烏獲逢蒙之伎。力不得用。

吳越春秋曰。羿傳射於逢蒙。○索隱曰。孟子云。逢蒙

學射於羿。盡羿之道是也。

枯木朽株盡爲害矣。是胡越起於轂下。而羌夷接軫。

也。豈不殆哉。雖萬全無患。然本非天子之所宜近也。且夫清道。

而後行。中路而後馳。猶時有銜檄之變。

徐廣曰。檄音巨月反。鈎逆者。謂之檄矣。○索隱曰。張揖云。銜。馬勒銜

也。檄。騑馬口長銜也。周遷與服志云。鈎逆上者爲檄。檄在銜中。以鐵爲之。大如雞子。鹽鐵論云。無銜檄而禦驛馬。是也。

而況涉乎蓬蒿。馳乎

丘墳。前有利獸之樂。而內無存變之意。其爲禍也。不亦難矣。夫

輕萬乘之重。不以爲安。而樂出於萬有一危之塗。以爲娛。臣竊

爲陛下不取也。蓋明者遠見於未萌。而智者避危於無形。禍固

時有銜檄之變。顏師古曰。檄。車ノ鈎心ヲ謂フ。銜檄ノ變ハ。馬銜或ハ斷エ。鈎心或ハ出ヅレバ。則傾敗ヲ致シ。以テ人ヲ傷クルヲ言フナリ。不亦難矣。札記云。不亦疑フ倒ス。文選同ジ。漢書亦字ナシ。

乎<sub>ニ</sub>藪澤<sub>一</sub>。悲夫。於是<sub>ニ</sub>諸大夫芒然<sub>トシテ</sub>喪其所<sub>ヲ</sub>懷來<sub>スル</sub>而失<sub>シテ</sub>厥所以進<sub>ム</sub>。喟

然<sub>トシテ</sub>竝稱曰。允哉漢德。此鄙人之所願聞也。百姓雖怠<sub>ルト</sub>。請以身先<sub>セン</sub>之。

之。敝罔靡徙。因遷延而辭避<sub>グ</sub>。形容蜀父老辭屈之狀。索隱曰。案敝罔。失容也。靡徙。失正也。其後人有<sub>ニ</sub>上書言<sub>フ</sub>

相如使時受<sub>レ</sub>金。失<sub>レ</sub>宦。居歲餘。復召爲郎。相如口吃而善著書。常

有<sub>ニ</sub>消渴疾<sub>一</sub>。與卓氏婚。饒於財。其進仕宦。未嘗肯與公卿國家之

事。稱病閒居。不慕<sub>ニ</sub>官爵<sub>一</sub>。常從上至<sub>ニ</sub>長楊獵<sub>ス</sub>。正義曰。括地志云。秦長楊宮。在雍州盩厔縣東南二里。上

起以宮內有<sub>ニ</sub>長楊樹<sub>一</sub>。以爲名。是時天子方好<sub>デ</sub>自擊<sub>ニ</sub>熊羆<sub>一</sub>。馳<sub>ニ</sub>遂野獸<sub>一</sub>。相如上疏諫之。

其辭曰。臣聞物有<sub>ニ</sub>同類而殊能者<sub>一</sub>。故力稱<sub>ニ</sub>烏獲<sub>一</sub>。索隱曰。張揖云。秦武王力士。舉龍文鼎者。

也。捷言<sub>ニ</sub>慶忌<sub>一</sub>。索隱曰。張揖云。吳王僚之子。勇期<sub>ニ</sub>賁育<sub>一</sub>。正義曰。賁音奔。賁。古之勇士。水行不避蛟龍。陸行不避豺狼。發怒吐氣。聲音動

勇期賁育注音奔ノ下、  
札記孟字アリ、云フ官  
本孟字アリ、各本脱ス。

之猛士也。天。夏育亦古臣之愚竊以爲人誠有<sub>レ</sub>之。獸亦宜然。今陛下好<sub>デ</sub>陵阻



ハ之ヲ疏通シ、以テ道ヲ開クヲ謂フナリ。

之塗垂仁義之統。將博恩廣施。遠撫長駕。使<sub>シテ</sub>疏逖不閉。索隱曰。逖遠。言其疏

遠者不被阻深闇昧。得耀乎光明。索隱曰。阻深。漢書作智爽。三蒼云。智爽。早朝也。智音妹。案字林又音忽也。以偃

甲兵於此。而息誅伐於彼。遐邇一體。中外提福。徐廣曰。提作視。音支。○索隱曰。說文云。視

安也。音市支反。不亦康乎。夫拯民於沈溺。奉至尊之休德。反哀世之陵

遲。繼周氏之絕業。斯乃天子之急務也。百姓雖勞。又惡可以已

哉。且夫王事固未有不始於憂勤。而終於佚樂者也。然則受命

之符。合在於此矣。索隱曰。張揖云。合在。於憂勤佚樂之中也。方將增秦山之封。加梁父之

事。鳴和鸞。揚樂頌。上咸五。下登三。徐廣曰。咸一作函。駟案韋昭曰。咸同於五帝。登三王之上。○索隱曰。李奇云。五

帝之德。漢比爲減。三王之德。漢出其上。故云減五登三。此說非也。虞喜志林云。相如欲減五帝之一。以漢盈之。然以漢爲五帝之數。自然是登於三王之上也。今本減或作咸。是與韋昭之說

符也。觀者未睹指。聽者未聞音。猶鷦明已翔乎寥廓。而羅者猶視

也。明一作鳴。

上咸五下登三、顏師古曰、咸ハ皆ナリ、漢德五帝ト皆盛ニ、而テ三王ノ上ニ登ルヲ言フナリ。



浸<sub>ス</sub>潯<sub>ス</sub>衍<sub>ス</sub>溢<sub>ス</sub>

索隱曰。案浸潯。猶漸浸也。

懷<sub>レ</sub>生<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>物<sub>。</sub>

言已所以必事西南之夷。

有<sub>二</sub>不<sub>三</sub>浸<sub>二</sub>潤<sub>一</sub>於<sub>二</sub>澤<sub>一</sub>者<sub>。</sub>賢<sub>レ</sub>君<sub>。</sub>恥<sub>レ</sub>之<sub>。</sub>今

封<sub>レ</sub>疆<sub>。</sub>之<sub>。</sub>內<sub>。</sub>冠<sub>レ</sub>帶<sub>。</sub>之<sub>。</sub>倫<sub>。</sub>咸<sub>レ</sub>獲<sub>レ</sub>嘉<sub>レ</sub>祉<sub>。</sub>靡<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>闕<sub>一</sub>遺<sub>。</sub>矣<sub>。</sub>而<sub>。</sub>夷<sub>。</sub>狄<sub>。</sub>殊<sub>レ</sub>俗<sub>。</sub>之<sub>。</sub>國<sub>。</sub>

遼<sub>。</sub>絕<sub>。</sub>異<sub>。</sub>黨<sub>。</sub>之<sub>。</sub>地<sub>。</sub>舟<sub>。</sub>輿<sub>。</sub>不<sub>レ</sub>通<sub>。</sub>人<sub>。</sub>迹<sub>。</sub>罕<sub>。</sub>至<sub>。</sub>政<sub>。</sub>教<sub>。</sub>未<sub>レ</sub>加<sub>。</sub>流<sub>。</sub>風<sub>。</sub>猶<sub>。</sub>微<sub>。</sub>內<sub>。</sub>之<sub>。</sub>

則<sub>。</sub>犯<sub>レ</sub>義<sub>。</sub>侵<sub>レ</sub>禮<sub>。</sub>於<sub>二</sub>邊<sub>一</sub>境<sub>。</sub>外<sub>。</sub>之<sub>。</sub>則<sub>。</sub>邪<sub>。</sub>行<sub>。</sub>橫<sub>。</sub>作<sub>。</sub>放<sub>。</sub>弑<sub>。</sub>其<sub>。</sub>上<sub>。</sub>君<sub>。</sub>臣<sub>。</sub>易<sub>。</sub>位<sub>。</sub>尊

卑<sub>。</sub>失<sub>。</sub>序<sub>。</sub>父<sub>。</sub>兄<sub>。</sub>不<sub>。</sub>幸<sub>。</sub>幼<sub>。</sub>孤<sub>。</sub>爲<sub>レ</sub>奴<sub>。</sub>係<sub>。</sub>纍<sub>。</sub>號<sub>。</sub>泣<sub>。</sub>內<sub>。</sub>嚮<sub>。</sub>而<sub>。</sub>怨<sub>。</sub>曰<sub>。</sub>蓋<sub>。</sub>聞<sub>。</sub>中<sub>。</sub>國

如東征西夷怨之意

有<sub>二</sub>至<sub>一</sub>仁<sub>。</sub>焉<sub>。</sub>德<sub>。</sub>洋<sub>。</sub>而<sub>。</sub>恩<sub>。</sub>普<sub>。</sub>洋。溢貌。物<sub>。</sub>靡<sub>。</sub>不<sub>レ</sub>得<sub>二</sub>其<sub>一</sub>所<sub>。</sub>今<sub>。</sub>獨<sub>。</sub>曷<sub>。</sub>爲<sub>レ</sub>遺<sub>。</sub>已<sub>。</sub>舉

設爲夷狄之詞

踵<sub>。</sub>思<sub>。</sub>慕<sub>。</sub>若<sub>。</sub>枯<sub>。</sub>旱<sub>。</sub>之<sub>。</sub>望<sub>。</sub>雨<sub>。</sub>盍<sub>。</sub>夫<sub>。</sub>爲<sub>レ</sub>之<sub>。</sub>垂<sub>。</sub>涕<sub>。</sub>徐廣曰。謠音戾。○索隱曰。張揖云。狼戾之夫也。字或作戾。謠。古戾字。

況<sub>。</sub>乎<sub>。</sub>上<sub>。</sub>聖<sub>。</sub>又<sub>。</sub>惡<sub>。</sub>能<sub>。</sub>已<sub>。</sub>故<sub>。</sub>北<sub>。</sub>出<sub>。</sub>師<sub>。</sub>以<sub>。</sub>討<sub>。</sub>彊<sub>。</sub>胡<sub>。</sub>南<sub>。</sub>馳<sub>。</sub>使<sub>。</sub>以<sub>。</sub>誚<sub>。</sub>勁<sub>。</sub>越<sub>。</sub>四

面<sub>。</sub>風<sub>。</sub>德<sub>。</sub>二<sub>。</sub>方<sub>。</sub>之<sub>。</sub>君<sub>。</sub>鱗<sub>。</sub>集<sub>。</sub>仰<sub>。</sub>流<sub>。</sub>索隱曰。二方。謂西夷耶。夔。南夷。牂牁夜郎也。願<sub>。</sub>得<sub>。</sub>受<sub>。</sub>號<sub>。</sub>者<sub>。</sub>以

億<sub>。</sub>計<sub>。</sub>故<sub>。</sub>乃<sub>。</sub>關<sub>。</sub>沫<sub>。</sub>若<sub>。</sub>漢書音義曰。以沫若水爲關。微<sub>。</sub>牂<sub>。</sub>牁<sub>。</sub>鏤<sub>。</sub>零<sub>。</sub>山<sub>。</sub>梁<sub>。</sub>孫<sub>。</sub>原<sub>。</sub>創<sub>。</sub>道<sub>。</sub>德

德洋而恩普注洋溢貌、札記云、浸本下洋溢貌、三字ナ注ス、柯本洋下溢貌二字ナ注ス、按ズルニ洋溢已ニ上文ニ見ユ、此後人旁注誤テ混ズ、集解ノ文ニ非ズ、整夫爲之垂涕注狼戾、蓋漢書注俱戾ニ作ル、蓋很ノ譌ナリ、很ハ聽從セザルナリ、違ナリ、鱗集仰流、顏師古曰、魚鱗ノ相次シ、而一仰向シ流ヲ承クル如キナリ、鏤零山、顏師古曰、鏤

衍溢。民人登降移徙。崎嶇而不安。夏后氏戚之。乃堙鴻水。決江

疏河。漉沈膽菑。徐廣曰。漉一作灑。○索隱曰。漉音鹿。菑音災。漢書作灑。沈澹。災。解者云。灑分也。音所宜反。澹安也。沈深也。澹音徒暫反。東歸

之於海。而天下永寧。當斯之勤。豈唯民哉。索隱曰。案謂非獨人勤。禹亦親其勞也。心煩

於慮。而身親其勞。躬胝無胝。膚不生毛。徐廣曰。胝音竹。移反。胝種也。一作腠。音湊。膚理也。胝音魑。○索

隱曰。張揖云。腠一作戚。躬體也。戚湊理也。韋昭曰。胝。戚中小毛也。胝音真。尸反。莊子云。禹胝無胝。脛不生毛。李頤云。胝。白肉也。音蒲末反。故休烈顯乎無

窮。聲稱浹乎于茲。且夫賢君之踐位也。豈特委瑣握璫。索隱曰。孔文祥云。委

瑣細碎。握。局促也。拘文牽俗。循誦習傳。當世取說。云爾哉。必將崇論閎議。

創業垂統。為萬世規。故馳騫乎兼容并包。而勤思乎參天貳地。

索隱曰。案天子比德於地。是二地也。地與己并。天為三。是參天也。故禮曰。天子與天地參。是也。且詩不云乎。普天之下。莫匪

王土。率土之濱。莫非王臣。毛詩傳曰。濱。涯也。是以六合之內。八方之外。

樂稱浹乎于茲、顏師古曰、于茲ハ猶今茲ト言フ如シ。  
循誦習傳當世取說、顏師古曰、說讀テ悅ト曰フ、直ニ口誦ニ因循シ、傳聞スル所ヲ習ヒ、美悦テ當時ニ取ルノミニ非ザルヲ言フ。



余尙惡聞若說、顏師古曰、若ハ如ナリ、僕猶此ノ如キノ説ヲ聞クヲ惡ム、況ヤ遠識ノ人ヲヤト言フナリ。

固常之所異也、礼記云、毛本常下入字アリ、漢書文選ト合ス。

萬民不贍。今又接以<sub>ニ</sub>西夷。百姓力屈。恐不能卒<sub>ル</sub>業。此亦使者之累也。竊爲<sub>ニ</sub>左右患之。且夫邛笮西僊之與<sub>ニ</sub>中國竝也。歷年茲多。不可記已。仁者不以德來。彊者不以力并。意者其殆不可乎。今割<sub>キテ</sub>齊民以附<sub>ニ</sub>夷狄。弊所恃以事<sub>ニ</sub>無用。鄙人固陋。不識所謂。使者曰。烏謂此邪。必若所云。則是蜀不變服。而巴不化俗也。余尙惡聞若說。就其說反難索隱曰。張揖云。惡聞若曹之言也。然斯事體大。固非觀者之所觀也。余之行急。其詳不可得聞已。請爲<sub>ニ</sub>大夫麤陳<sub>ニ</sub>其略。蓋世必有<sub>ニ</sub>非常之人。然後有<sub>ニ</sub>非常之事。有<sub>ニ</sub>非常之事。然後有<sub>ニ</sub>非常之功。非常者。固常之所異也。索隱曰。案常人見之以爲異也。故曰。非常之原。黎民懼焉。索隱曰。張揖云。非常之事。其本難知。衆人懼也。及臻<sub>ニ</sub>厥成。天下晏如也。昔者鴻水淳出。汜濫



以爲然。相如欲諫業已建之。不敢。索隱曰。案業者本也。本由相如立此事。故不敢更諫。乃著書。

籍以蜀父老爲辭。而已詰難之。以風天子。且因宣其使指。令百

姓知天子之意。其辭曰。漢興七十有八載。徐廣曰。元光六年也。德茂存乎

六世。正義曰。高祖。惠帝。高后。孝文。孝景。孝武。威武紛紜。湛恩汪濊。索隱曰。韋昭云。湛音沈。羣生澍濡。

洋溢乎方外。於是乃命使西征。隨流而攘。索隱曰。攘。卻也。音女羊反。風之所被。

罔不披靡。因朝冉從驪。定笮存邛。略斯榆。舉苞滿。索隱曰。服虔云。夷種也。滿一或作蒲。

也。結軌還轅。索隱曰。張揖云。結。屈也。軌。車迹也。東鄉將報。至于蜀都。耆老大夫薦

紳先生之徒二十有七人儼然造焉。辭畢。因進曰。蓋聞天子之

於夷狄也。其義羈縻勿絕而已。索隱曰。案羈馬絡頭也。縻。牛絆也。漢官儀云。馬云羈。牛云縻。言制四夷如牛馬之受羈縻。

也。今罷三郡之士。通夜郎之塗。三年於茲。而功不竟。士卒勞倦。

威武紛紜。湛恩汪濊。頗師古曰。紛紜。盛ナル貌。汪濊。深廣ナリ。

結軌。札記軌ヲ軌ニ作リ。注案隱下音轍漢書作軌張揖曰結屈也ニ作ル。軌車迹也四字ナシ。云フ索隱本軌。雜志云。今本軌ニ作ルハ。漢書ニ依テ改メシナリ。

當負弩也。且負弩是守宰無定。或隨時輕重耳。按霍去病出擊匈奴。河東太守郊迎負弩。又魏公子救趙擊秦。秦軍解去。平原君負爛矢迎公子於界上。是也。

蜀人以

爲寵。

索隱曰。華陽國志云。蜀大城北十里有升僊橋。送客觀。相如初入長安。題其門云。不乘赤車駟馬。不過汝下也。

於是卓王孫臨邛

諸公皆因門下。獻牛酒以交驩。卓王孫喟然而歎。自以得使女

尙司馬長卿晚

索隱曰。小顏云。尙猶配也。本或作當。蓋後人改爾。

而厚分與其女財。與男等

同。司馬長卿便略定西夷。邛笮冉駹斯榆之君皆請爲內臣。

索隱

曰。鄭氏斯音曳。張揖云。斯俞才俞國也。案今斯讀如字。益部耆舊傳謂之斯叟。華陽國志云。邛都縣有四部。斯叟一也。

除邊關。關益斥

索隱曰。張揖云。

斥廣

西至沫若水

索隱曰。張揖云。沫水出蜀廣平徼外。與青衣水合也。若水出旄牛徼外。至旄道入江。華陽國志。漢嘉縣有沫水。音妹。又音未。

南

至牂牁爲徼

索隱曰。張揖云。徼。塞也。以木柵水爲蠻夷界。

通零關道

徐廣曰。越嶲有零關縣。

橋孫水

韋昭曰。爲

孫水

以通邛都

索隱曰。案華陽國志云。相如卒開旄道。通南中。置越嶲郡。韓說開益州。唐蒙開牂牁。斬笮王首。置牂牁郡也。

還報天子

天子大說。相如使時。蜀長老多言通西南夷。不爲用。唯大臣亦



西南夷道發巴蜀廣漢卒作者數萬人治道二歲道不成士卒

多物故費以巨萬計

索隱曰案巨萬猶萬萬也數有大小二法張揖曰算法萬萬爲億是小數也

蜀民及漢用

事者多言其不便

索隱曰案謂公卿所言之也

是時邛笮之君長

索隱曰文穎云邛者今爲邛都縣笮者今

爲定笮縣皆屬越嶲郡也

聞南夷與漢通得賞賜多多欲願爲內臣妾請吏比

南夷

索隱曰謂請置漢吏與南夷爲比例也

天子問相如相如曰邛笮冉駹者近蜀道

亦易通秦時嘗通爲郡縣至漢興而罷今誠復通爲置郡縣愈

於南夷

索隱曰張揖云愈差也又云愈猶勝也晉灼曰南夷謂犍爲牂牁也西夷謂越嶲益州也

天子以爲然乃拜相如

爲中郎將

索隱曰四百石五歲遷補大縣令

建節往使副使王然于壺充國

索隱曰案漢書

公卿表太初元年爲大鴻臚卿也

呂越人馳四乘之傳因巴蜀吏幣物以賂西夷至

蜀太守以下郊迎縣令負弩矢先驅

索隱曰案亭史名亭長弩矢合是亭長負之今縣令自負矢則亭長



諡爲至愚、顏師古曰、  
諡ハ行ノ迹ナリ、終ニ  
愚ヲ以テ死シ、後葉傳  
稱ス、故ニ之ヲ諡ト謂  
フ。

敬居位甚安佚。名聲施於無窮。功烈著而不滅。是以賢人君子。

肝腦塗中原。膏液潤野草。而不辭也。今奉幣役至南夷。卽自賊

此下方以正義之ヲ

殺。或亡逃抵誅。身死無名。諡爲至愚。恥及父母。爲天下笑。人之

此下又責其父兄

度量相越。豈不遠哉。然此非獨行者之罪也。父兄之教不先。子

弟之率不謹也。寡廉鮮恥。而俗不長厚也。其被刑戮。不亦宜乎。

雖以有司愚民並稱然意終責下

陛下患使者有司之若彼。悼不肖愚民之如此。故遣信使曉諭

百姓。以發卒之事。因數之以不忠死亡之罪。讓三老孝弟。以不

教誨之過。方今田時。重煩百姓。索隱曰。重。猶難也。已親見近縣。恐遠所

谿谷山澤之民。不徧聞。檄到。亟下縣道。漢書百官表曰。縣有蠻夷曰道。

○索隱曰。亟音紀力反。亟。急也。

使咸知陛下之意。唯毋忽也。相如還報。唐蒙已略通夜郎。因通

衛使者不然、張揖曰、不然ノ變ナリ、楊慎曰、不然ハ道路非理ノ患ヲ謂フ。

皆攝弓而馳、顏師古曰、攝ハ弓ヲ張り矢ヲ注イデ、而デ之ヲ持スルヲ謂フ。

幣帛（ラシム）衛使者不然（チ）靡有兵革之事。戰鬪之患。今聞其乃發軍興（シ）

制。驚懼子弟（シ）憂患長老（チ）。索隱曰。張揖云。發軍。謂發三軍之衆。與制。謂起軍法誅（ス）

郡又擅爲轉粟運輸（スト）皆非陛下之意也。當行者或亡逃自賊殺（シ）。

亦非人臣之節也。夫邊郡之士。聞烽舉燧燔（クト）。

燧積薪有寇則燔然之。○索隱曰。字林云。箕漉米藪也。音一六。皆攝弓而馳（セ）。

反。纂要云。箕。浙箕也。烽。見敵則舉。燧。有難則焚。烽主晝。燧主夜。索隱曰。攝音女

不旋踵。人懷怒心。如報私讎。彼豈樂死惡生。非編列之民。而與（シ）

巴蜀異主哉。計深慮遠。急國家之難。而樂盡人臣之道也。故有（ニ）

剖符之封。析珪而爵（スル）。索隱曰。如淳云。析。中分也。位爲通侯。居列東第（ニ）

索隱曰。列甲第。在帝城東。故云東第也。終則遺顯號於後世。傳土地於子孫。行事甚忠（ダ）

爲發轉漕萬餘人。用興法誅其渠帥。

漢書曰。用軍興法也。

巴蜀民大驚恐。

上聞之。乃使相如責唐蒙。因喻告巴蜀民。以非上意。檄曰。告巴

蜀太守。蠻夷自擅不討之日久矣。時侵犯邊境。勞士大夫。陛下

卽位。存撫天下。輯安中國。然後興師出兵。北征匈奴。單于怖駭。

交臂受事。詘膝請和。康居西域重譯請朝。稽首來享。移師東指。

閩越相誅。右弔番禺。太子入朝。

索隱曰。文穎云。番禺。南海郡理也。弔。至也。東伐閩越。後至番禺。故言右至。非也。案姚氏弔

讀如字。小顏云。兩國相伐。漢發兵救之。南越蒙天子德惠。故遣太子入朝。所以云弔爾。非訓至也。

南夷之君。西僊之長。常效貢

職。不敢怠墮。延頸舉踵。喁喁然。

正義曰。喁。五恭反。口向上也。

皆爭歸義。欲爲臣

妾。道里遼遠。山川阻深。不能自致。夫不順者已誅。而爲善者未

賞。故遣中郎將往賓之。

索隱曰。賈逵云。賓。伏也。

發巴蜀士民各五百人。以奉

言發卒不過如此

此說巴蜀



百姓之被其尤也、顏師古曰、尤ハ過ナリ。

忘國家之政。而貪雉兔之獲。則仁者不由也。從此觀之。齊楚之事。豈不哀哉。地方不過千里。而囿居九百。是草木不得墾辟。而民無所食也。夫以諸侯之細。而樂萬乘之所侈。僕恐百姓之被其尤也。於是二子愀然改容。

索隱曰。郭璞云。愀。變色貌。音作酉反。

超若自失。逡巡避

席曰。鄙人固陋。不知忌諱。乃今日見教。謹聞命矣。賦奏。天子以爲郎。無是公言。天子上林廣大。山谷水泉萬物。及子虛言。楚雲夢所有。甚衆。侈靡過其實。且非義理所尚。故刪取其要。歸正道而論之。

索隱曰。大顏云。不取其夸奢靡麗之論。唯取終篇歸於正道耳。小顏云。刪取。非謂削除其詞。而說者謂此賦已經史家刊剝。失其意也。

相如爲

郎數歲。會唐蒙使略通夜郎西僊中。

徐廣曰。羌之別種也。音扶逼反。○索隱曰。張揖云。蒙故鄯陽令。爲郎中使

行略取之。文穎曰。夜郎僊中。皆西南夷。後以爲牂牁犍爲二郡。僊音步北反。

發巴蜀吏卒千人。

索隱曰。案巴蜀二郡名。

郡又多

ス。  
 載雲罕云云注索隱罕車也云云、札記、罕畢也、文穎曰、即天畢星名前、有云云ニ作ル、故云羣雅也、下、言雲罕載之於車以捕羣雅之士ノ二句アリ。  
 悲伐檀、顏師古曰、伐檀ハ魏國ノ詩、在位ノ貪鄙ヲ刺ルナチ、餽翔子書曰、顏師古曰、此以上皆經典ノ嘉辭ヲ取リ、以テ游獵ノ娛樂ニ代フルナリ。  
 述易道注乃射、札記云、乃疑フ及ナリ。

抗士卒之精、顏師古曰、抗ハ挫ナリ。

○索隱曰。張揖云。罕車也。前有九旒雲罕之車。說者以雲罕爲旌旗皆非也。且案中朝鹵簿圖云。雲罕駕駟。不兼言九旒。罕車與九旒車別也。揜捕也。張揖曰。詩小雅之材七十四人。大雅之材三十一人。  
 故云羣雅也。悲伐檀。索隱曰。張揖云。其詩刺賢者不遇明主。

人使在位。故天與之福祿也。胥音先呂反。樂音洛。  
 修容乎禮園。正義曰。禮所以自修飾。整威儀也。朝翔于書園。正義曰。正

曰。尚書所以明帝王君臣之道也。述易道。正義曰。易所以潔靜微妙。上辨二儀陰陽。中知人事。放怪

獸。正義曰。張揖云。苑中奇怪之獸不復獵也。登明堂。坐清廟。正義曰。明堂有五帝廟。故言清廟。王者朝諸侯之處。恣羣臣

奏得失。四海之內靡不受獲。正義曰。言天下之人無不受恩惠。於斯之時。天下大

說。嚮風而聽。隨流而化。喟然興道而遷義。索隱曰。漢書作岬然。猶歛然也。音許貴反。刑錯

而不用。德隆乎三皇。功羨於五帝。索隱曰。司馬彪云。羨。溢也。音怡戰反。若此。故獵乃

可喜也。若夫終日暴露馳騁。勞神苦形。罷車馬之用。抗士卒之

精。索隱曰。抗音五官反。費府庫之財。而無德厚之恩。務在獨樂。不顧衆庶。



朕以覽聽餘閒無事弃日、顏師古曰、聽政ノ餘暇日ヲ棄ル能ハザルヲ言フナリ。  
順天道以殺伐、郭璞曰、秋氣ニ因ルナリ。

墮牆ノ墮ハ、墮ナリ。  
使山澤之民得至焉、顏師古曰、其芻牧樵采スル者ヲ恣ニスルナリ。

歷吉日、張揖曰、歴ハ猶算ノ如キナリ。

游乎六藝之圃、注正義曰、六藝云、札記錢警石云、疑フ脱文アラン。

射狸首兼騶虞、郭璞曰、狸首ハ逸詩篇名ナリ、諸侯以テ射節ト爲ス、騶虞ハ召南ノ卒章ナリ、天子以テ射節ト爲

而思。似若有亡。曰嗟乎此泰奢侈。朕以覽聽餘閒。無事弃日。順天道以殺伐。時休息於此。恐後世靡麗。遂往而不反。非所以爲繼嗣創業垂統也。於是乃解酒罷獵。而命有司曰。地可以墾辟。悉爲農郊。以贍萌隸。墮牆填塹。使山澤之民得至焉。實陂池而勿禁。正義曰。實。滿也。言人滿陂池。任采捕所取也。虛宮觀而勿仞。正義曰。仞。音刃。亦滿也。言離宮別館。勿令人居止。竝廢罷也。發倉廩以振貧窮。補不足。恤鰥寡。存孤獨。出德號。省刑罰。改制度。易服色。更正朔。與天下爲始。於是歷吉日以齊戒。襲朝衣。乘法駕。建華旗。鳴玉鸞。游乎六藝之圃。正義曰。六藝云。言田獵訖則遍游六藝而疾驅於仁義之道也。驚乎仁義之塗。覽觀春秋之林。郭璞曰。春秋所以觀成敗明善惡者。射狸首。兼騶虞。禮射義曰。天子以騶虞爲節。諸侯以狸首爲節。騶虞者。樂官備也。狸首者。樂會時也。弋玄鶴。建千戚。載雲罕。揜羣雅。漢書音義曰。大雅小雅也。



瀧ハ湯樂ナリ、武ハ武  
 王ノ樂ナリ、張揖曰、  
 象ハ周公ノ樂ナリ、  
 激楚結風、類師古曰、  
 結風亦曲名ナリ、  
 狄提之倡、郭璞曰、西  
 戎ノ樂名ナリ、  
 妖冶嫋都、札記妖ヲ姣  
 ニ作ル、注同ジ、云フ  
 蔡浚毛本姣ヲ妖ニ作  
 ル。

嫋婉嫋婉、札記循ヲ循  
 ニ作ル、注四連反ヲ白  
 眠反、循音肩ヲ循音肩  
 ニ作ル、錢大昕曰、漢書  
 便嬖嫋嫋ニ作ル、便嬖  
 ト嫋嫋ト聲相近シ、說  
 文嫋嫋ナシ、當ニ漢書  
 ニ從フベシ、顏師古曰、  
 其行步安詳、容服絕異  
 ナルヲ言フナリ。

曼美色於後。

索隱曰。張揖云。靡。細。曼。澤也。韓子曰。曼服皓齒也。

若夫青琴宓妃之徒。

漢書音義曰。皆古神女名。

○索隱曰。伏儼云。青琴。古神女也。如淳曰。宓妃。伏羲女。溺死洛水。遂爲洛水之神。宓音伏。

絕殊離俗。

索隱曰。郭璞云。俗無雙也。

妖冶嫋都。

索隱曰。郭璞云。妖。好也。都。雅也。詩云。姁人僚兮。方言云。自關而東。河濟之間。凡好或謂之姁。音絞。說文曰。嫋。雅也。或作閑。漢書本作閑。

靚莊刻飭。便嬛

綽約。

郭璞曰。靚。莊。粉白黛黑也。

柔橈嬛嬛。

徐廣曰。音娟。○索隱曰。柔橈。嬛。皆骨體。奕。弱。長。貌也。廣雅云。嬛。容也。張揖曰。嬛。猶婉婉也。

斌

媚娉嫋。

徐廣曰。娉。音乃。冉反。嫋。音弱。○索隱曰。娉。蒼云。嫋。媚。悅也。通俗文云。頗。輔。謂之嫋。媚。郭璞云。娉。嫋。細弱也。小顏曰。細弱。總謂骨體也。

拙獨繭

之褕施。

徐廣曰。褕。音曳。褕。褕。○索隱曰。張揖云。褕。袖也。郭璞曰。獨繭。繭絲也。埤蒼云。施。衣長貌也。

眇閭易以戍削。

徐廣曰。閭。易。衣長貌。

戍削。言如刻畫作之。

嫋嫋微循。

郭璞曰。衣服。娉。娉。○正義曰。嫋。四連反。嫋。音先。微。音白。結反。循。音肩。

與世殊服。芬香漚

鬱。酷烈淑郁。皓齒粲爛。宜笑的皪。

索隱曰。郭璞曰。鮮明貌也。楚詞曰。美人皓齒以姱。又曰。娥眉笑以的皪。音礫也。

長眉連娟。微睇繇藐。

索隱曰。郭璞云。連娟。眉曲細也。繇。藐。視遠貌也。娟。音一。全反。睇。音大。計反。藐。音邁。

色授魂與。

心愉於側。

索隱曰。張揖云。彼色來授我。我魂往與接也。愉。音踰。往也。悅也。二義並通。

於是酒中樂酣。天子芒然

ナリ。

樹鼓。奏陶唐氏之舞。聽葛天氏之歌。

漢書音義曰。葛天氏。古帝王號。呂氏春秋曰。葛天氏樂。三人操牛尾。投足以歌。○索

隱曰。張揖云。葛天氏。三皇時君號也。呂氏春秋云。其樂三人持牛尾。投足以歌。八闕。一曰戴民。二曰玄鳥。三曰遂草木。四曰奮五穀。五曰敬天常。六曰建帝功。七曰依地德。八曰總禽獸之極。

千人唱。萬人。和。山陵爲之震動。

徐廣曰。一作動。

川谷爲之蕩波。巴榆宋

蔡。淮南于遮。

郭璞曰。巴西閬中有俞水。獠人居其上。皆剛勇好舞。漢高募此以平三秦。後使樂府習之。因名巴俞舞也。漢書音義曰。于遮。歌曲名。○索隱曰。

張揖云。禮樂記云。朱音宴。女溺志。蔡人謳員三人。楚詞云。吳謠蔡謳。淮南員四人。于遮曲。是其意也。

文成顛歌。

郭璞曰。未聞也。○索隱曰。文穎云。文成。遼西縣

名。其縣人善歌。顛。益州顛縣。其人能作西南夷歌。顛卽滇字。

族舉遞奏。

徐廣曰。舉一作居。

金鼓迭起。鏗鎗鎗。磬。

洞心駭耳。

郭璞曰。鎗。磬鼓音。

荆吳鄭衛之聲。韶護武象之樂。陰淫案衍之

音。鄢郢繽紛。激楚結風。

郭璞曰。激楚。歌曲也。列女傳曰。聽激楚之遺風也。○索隱曰。激楚。急風也。結風。回風。亦急風也。楚地風氣既自

漂疾。然歌樂者。猶復依激結之急風。以爲節。其樂促迅哀切也。

俳優侏儒。狄鞮之倡。

徐廣曰。韋昭云。狄鞮。地名。在河內。出善倡者。

所

以娛耳目。而樂心意者。麗靡爛漫於前。

索隱曰。郭璞云。言恣其觀也。列女傳曰。樂造爛漫之樂。

靡

巴樛宋蔡。札記榆。榆。二作。云。王柯。凌本。俞。榆。二作。錢。大。所。曰。巴。俞。當。二。吟。喻。二。作。如。淮。南。宋。蔡。歌。舞。吟。喻。二。引。ク。正。二。此。賦。二。據。ル。蓋。宋。蔡。吟。喻。二。以。テ。淮。南。于。遮。ト。文。ヲ。對。ス。ル。ナリ。許。叔。重。漢。時。二。生。ル。見。ル。所。ノ。本。當。二。誤。ラ。ザ。ル。ベシ。吟。巴。聲。相。近。シ。故。二。或。ハ。巴。俞。二。作。テ。之。二。當。ツ。是。二。非。ズ。族。舉。遞。奏。漢。書。舉。ヲ。居。二。作。ル。顏。師。古。曰。族。ハ。衆。ナリ。鏗。鎗。鎗。磬。顏。師。古。曰。鏗。鎗。ハ。金。聲。ナリ。鏘。磬。ハ。鼓。音。ナリ。韶。護。武。象。之。樂。札。記。護。二。作。ル。云。フ。官。本。漢。二。漢。書。亦。護。二。作。ル。按。知。曰。韶。ハ。舜。樂。ナリ。



而還招搖乎襄羊索隱曰郭璞曰襄羊猶彷徨降集乎北紘郭璞曰紘維也北方之紘曰委羽率乎

直指闔乎反鄉歷石闕歷封巒過鵠鵠望露寒徐廣曰雉音支駟案漢書音義曰皆甘泉

宮左右觀名也下棠梨漢書音義曰宮名也在雲陽縣東南三十里息宜春正義曰括地志云宜春宮在雍州萬年西南三十里西

馳宣曲濯鵠牛首漢書音義曰宣曲宮名在昆明池西牛首池名在上林苑西頭登龍臺漢書音義曰觀名在豐水西北近渭

掩細柳正義曰郭云觀名在昆明南柳市觀士大夫之勤略鈞獠者之所得獲徐廣

曰鈞一作診也觀徒車之所轡轢正義曰轡踐也轢轆也乘騎之所蹂若徐廣曰蹂音人久反人

民之所蹈躡與其窮極倦頽徐廣曰音劇驚憚懼伏不被創刃而死

者佗佗籍籍填坑滿谷揜平彌澤於是乎游戲懈怠置酒乎昊

天之臺索隱曰張揖云臺高上千皓天也張樂乎軫輶之宇徐廣曰輶音葛○索隱曰郭璞云言曠遠深貌也撞

千石之鐘立萬石之鉦建翠華之旗樹靈鼉之鼓郭璞曰木貫鼓中加羽葆其上所謂

息宜春注萬年ノ下、札記縣字アリ、云フ官本縣字アリ、各本脫ス。

濯鵠牛首、類師古曰、濯ハ船ヲ刺ス所以ナリ、鵠ハ即鵠首ノ舟ナリ、濯音直孝反、按ニ濯鵠ニ同シ。

觀徒車之轡轢、札記觀字ナシ、云フ各本徒上觀字ヲ衍ス、漢書文選ニ依テ刪ル。  
窮極倦頽云云、郭璞曰、窮極倦頽ハ疲憊ナリ、驚憚懼伏ハ驚怖シテ動カザル貌。

萬石之鉦、漢書鉦ヲ虞ニ作ル、鉦ヲ懸ル所以



云フ疑フ轉ノ爛文ナリ、漢書正ニ臆ニ作ル、顏師古曰、流離ハ之ヲ困苦スルナリ、狡兔健跳ス、故ニ之ヲ捷取スルナリ。

醫疔介注徐廣曰射準の曰藝、錢大昕曰、説文、臬射準の也、周禮匠人、建國水地以縣置藝以縣、鄭康成謂築古文臬、假借字ナリ、亦藝字ヲ借用ス、春秋傳陳之藝極注、藝ハ準ナリ。亂昆雞云云、郭璞曰、亂ハソノ行伍ヲ亂スナリ、道促ハ皆之ヲ追捕スルナリ。

掩焦明注正義覓尾、札記覓ヲ員ニ作ル、云フ各本員ヲ覓ニ誤ス、續漢五行志、樂汁圖徵ヲ誤クニ依テ改ム。

百歲色純白也。晉徵祥記云。白鹿色若霜。不與他鹿爲羣。

軼赤電。遺光耀。

徐廣曰。超陵赤電。電光不及。言去速也。

追怪物。出

宇宙。

正義曰。怪物。謂游臬飛虺也。張揖云。天地四方曰宇。往古來今日宙。許慎云。宙。舟輿所極也。按許說宙是也。

彎繁弱。

正義曰。上鳥繁弱。反。文穎云。彎。牽

也。繁弱。夏后氏良弓名。左傳云。分魯公以夏后之璜。封父之繁弱。

滿白羽。

正義曰。文穎云。引弓盡箭。鏑爲滿。以白羽羽箭。故云白羽也。

射游臬。

櫟蜚虺。

郭璞曰。臬。臬羊也。似人長脣反踵。被髮。食人。飛虺。鹿頭龍身。神獸。櫟。捎也。

擇肉後發。

先中命處。弦矢分。

藝殪仆。

徐廣曰。射準的曰藝。仆。音赴。

然後揚節而上浮。陵驚風。歷駭飈。

正義曰。飈。音必遙反。

爾雅云。扶搖暴風。從下上升。故曰飈。

乘虛無。與神俱。

正義曰。張揖云。虛無寥廓。與天通靈。言其所乘氣之高。故能出飛鳥之上。而與神俱也。

麟

玄鶴。亂昆雞。

徐廣曰。麟音羈。○正義曰。麟音羈。玄鶴二百六十歲則淺黑色也。

適孔鸞。促鵠鵠。拂鷺鳥。捎

鳳皇。

漢書音義曰。適。秦由反。鷺。鳥雞反。張云。山海經云。九疑之山有五采之鳥。名曰鷺鳥也。○正義曰。捎。山交反。京房易傳云。鳳皇。雁前。鸞後。雞啄燕領。蛇頸龜背。魚尾駢翼。

高丈二尺。東山經云。其狀如鶴。五采。而首文曰經。翼文曰順。背文曰義。膺文曰仁。股文曰信。是鳥自歌自舞。雄曰鳳。雌曰皇。

捷駕雛。

掩焦明。似鳳。

○索隱曰。張揖云。鷺明。西方之鳥也。樂汁圖徵曰。鷺明。狀似鳳皇。宋衷曰。水鳥也。○正義曰。按長喙疎翼覓尾。非幽閑不集。非珍物不食。

道盡塗殫。迴車

越鰐屬水、顏師古曰、鰐ハ衣ヲ以テ渡ルナリ。○椎蜚廉、漢書椎ヲ推ニ作ル、顏師古曰、推モ亦之ヲ弄スルナリ、其字手ニ從フ、今流俗讀テ椎擊ノ椎ト爲ス、其義ニ非ズ。

儵復遠去、顏師古曰、儵然復然、疾速ノ貌。

流離輕禽云云注一作有、札記有ヲ惠ニ作ル、

鬪死不卻。案蒙謂覆而取之。鵠以蘇爲奇。故特言之以成文耳。鵠音曷。決疑注云。鳥尾爲蘇也。

綉白虎。

徐廣曰。綉音袴。駟案郭璞曰。綉謂糾絡之。○索隱曰。張揖云。著

白虎之袴也。

被幽文。

郭璞曰。著斑衣。○索隱曰。輿服志云。虎賁騎鵠冠虎文單衣。卽此斑衣也。

跨野馬。

索隱曰。跨。乘之也。

陵三

變之危。

漢書音義曰。三變。三成之山。

下磧歷之坻。

郭璞曰。磧歷。阪名也。○正義曰。坻音遲。磧歷。淺水中沙石也。抵。水中高處。言獵人下

此也。

倥陵赴險。越壑厲水。椎蜚廉。

郭璞曰。飛廉。龍雀也。鳥身鹿頭者。

弄解豕。

漢書音義曰。解豕。似鹿而

一角。人君刑罰得中。則生於朝廷。主觸不直者。可得而弄也。○索隱曰。解音蟹。豕音丈。嬾反。

格瑕蛤。鉞猛氏。

漢書音義曰。瑕蛤。猛氏。皆獸名。○索

隱曰。晉灼云。瑕蛤。闕。郭璞曰。今蜀中有獸。狀如熊而小。毛淺有光澤。名猛氏。說文。鉞。小矛也。音蟬。

冒腰褭。射封豕。

郭璞曰。腰褭。神馬。日行萬里。封豕。大

豬。兩音窈嬾。

箭不苟害。解脰陷腦。

索隱曰。張揖云。脰。項也。陷。音苦念反。亦依字讀也。

弓不虛發。應聲

而倒。於是乎乘輿彌節。裴回。翱翔往來。睨部曲之進退。覽將率

之變態。然後浸潭促節。

索隱曰。浸潭。猶漸冉也。漢書作浸淫。或作乘輿案節也。

儵復遠去。

郭璞曰。復音詡。盛反。

流離輕禽。蹙履狡獸。轉白鹿。捷狡兔。

徐廣曰。轉音銳。一作有也。○正義曰。轉音衛。抱朴子云。白鹿。壽千歲。滿五



文選ト合ス、各本舍テ容ニ誤ル。  
於是乎背秋涉冬天子校獵云云、凌雅陸曰、此二至リ始テ校獵ノ事ヲ言フ。

出乎四校之中、顏師古曰、文說非ナリ、四校ハ校ノ四面ニ闡スルナリ、其跋扈縱恣ニシテ、行テ校ノ四外ニ出ルナリ。

生貔豹、顏師古曰、生ハ之ヲ生取スルヲ謂フ。

肉曰苞苴也。後宮內人也。言宮館各自有。

百官備具。於是乎背秋涉冬。天子校獵。乘鏤象。

六玉蚪。

徐廣曰、以玉爲飾。駟案郭璞曰、鏤象山所出與。言有雕鏤蚪龍屬也。韓子曰、黃帝駕象車。六交龍是也。

拖蜺旌。

正義曰、拖音徒可反。張云。

析毛羽。染以五采。綴以縷爲旌。有似虹蜺氣。

靡雲旗。

正義曰、張云、畫熊虎於旌。似雲氣也。

前皮軒。後道游。

郭璞曰、皮軒革車也。

或曰、卽曲禮前有士師。則載虎皮者也。道。道車。游。游車。皆見周禮也。

孫叔奉轡。衛公驂乘。

漢書音義曰、孫叔者太僕公孫賀也。衛公者衛青也。

太僕御。大將軍驂乘也。

扈從橫行。出乎四校之中。

郭璞曰、言跋扈從恣。不安鹵簿矣。○索隱曰、晉灼云、扈。大也。文穎曰、凡五校。今

言四者。一隨天子乘輿也。

鼓嚴簿。縱獠者。

漢書音義曰、鼓嚴。嚴鼓也。簿。鹵簿也。駟謂鼓嚴於林簿之中。然後縱獠也。

江河爲陸。

泰山爲櫓。

郭璞曰、櫓。望樓也。因山谷遮禽獸爲陸。音去車反。

車騎雷起。隱天動地。先後陸離。

離散別追。淫淫裔裔。緣陵流澤。雲布雨施。生貔豹。

郭璞曰、貔。執夷虎屬也。音毘。

搏豺狼。

正義曰、搏。擊也。杜林云、豺。似貍白色。說文云、狼屬。

手熊羆。

正義曰、張云、熊。犬身人足黑色。羆。大於熊。黃白色。皆能攀沿上高樹。冬至入穴。

而蟄。始春而出也。

足野羊。

郭璞曰、野羊。如羊千斤。手足。謂拍踰殺之。

蒙鵝蘇。

徐廣曰、蘇。尾也。○索隱曰、孟康云、鵝。鵝尾也。蘇。析羽也。張揖曰、鵝。似雉雞。



蛭蝟續注山海經曰鼻塗山、札記鼻塗山ニ作ル、云フ鼻ヲ鼻ニ譌ス、山海經ニ依テ改ム。

蜥胡注似掘板、札記掘板ニ作ル、云フ柘ニ譌ス、今改ム、集韻類篇說文ナ引ク同。

騰殊續注正鶴爾雅、札記云、當ニ廣雅ト云フベシ。

宮宿館客札記客ナ舍ニ作ル、云フ舊刻漢書

雌者素色也。獲音古約反。雌。今狄尾端爲兩岐。天雨便以尾挿鼻兩孔。郭璞云。獲色蒼黑。能攫搏人。故云獲也。

蛭蝟

徐廣曰。蛭音質。駟案漢書音義曰。山

海經曰。不成之山有飛蛭四翼。郭璞曰。蠶。似獼猴而黃。蛭未聞。○索隱曰。張揖云。蛭。蟻也。蝟。獾也。獾。獾也。顧氏云。獾音塗卓反。山海經云。鼻塗山下有獸。似鹿馬足人首四角。名爲蠶。獾。獾也。字或作蠶。郭璞云。獲。非也。上已有蠶。獲。此不應重見。又神異經云。西方深山有獸。毛色如猴。能緣高木。其名爲蝟。字林云。蠶音狄。蝟。蝟。二獸名。

蜥胡

蜥

徐廣曰。蜥音在廉反。似猿黑身。鬣音呼谷反。蜥音詭。駟案漢書音義曰。鬣。白狐子也。○索隱曰。張揖云。蜥。似獼猴。頭上有鬣。腰以後黑。郭璞曰。鬣。似鼬而大。腰以後黃。一名

黃腰。食獼猴。蜥未聞。姚氏案山海經云。卽山有獸狀如龜。白身赤首。其名曰蜥。又說文云。蜥。黑身白腰。若帶。手有長白毛。似掘板也。

棲息乎其間。長

嘯哀鳴。翩幡互經。

正義曰。郭云。互經。互相經過。

天矯枝格。偃蹇杪顛。

正義曰。天音妖。矯音矯。杪音弔。

沼反。郭云。皆猿猴在樹共戲姿態也。天矯。頻申也。

於是乎隄絕梁。

正義曰。張云。絕梁。斷橋也。郭云。梁厚石絕水也。

騰殊榛。

正義

曰。榛。仕斤反。爾雅云。木叢生爲榛也。殊異也。

捷垂條。

正義曰。捷音才業反。張云。捷。持懸垂之條。

蹕稀間。

郭璞曰。蹕。縣蹕也。託釣反。

牢

落陸離。爛曼遠遷。

正義曰。郭云。奔走崩騰狀也。顏云。言其聚散不常。雜亂移徙。

若此輩者數千百處。

嬉游往來。宮宿館客。庖廚不徙。後宮不移。

正義曰。說文云。庖。廚屋。鄭玄注周禮云。庖之言苞也。苞。裹

仁類并闕、顏師古曰、仁類ハ即チ實根ナリ、顏字或ハ賓ニ作ル。

連卷累倦、錢大昕曰、連卷累ナ櫛ニ作ル、櫛累聲相近シ、顏師古曰、連卷ハ屈曲ナリ、櫛倦ハ支柱ナリ。  
阮衡闢阿、顏師古曰、阮衡ハ勁直ノ貌、闢阿ハ相扶持スルナリ。

樹葉似甘焦、頻音賓。

欂櫨木蘭。豫章女貞。

漢書音義曰。欂櫨。檀別名也。女貞木葉冬不落。○索隱曰。欂音議。皇覽云。孔子墓後有欂櫨樹。

也。荊州記。宜都有喬木叢生。名爲女貞。

長千仞。大連抱。夸條直暢。實葉稜茂。攢立叢倚。

連卷累倦。崔錯發軌。

古委字。

阮衡闢阿。

徐廣曰。發音拔。駟案郭璞曰。軌音委。闕音惡可反。阿音魯可反。○索隱曰。

郭璞云。崔錯發軌者。蟠戾相樛也。阮衡闢阿者。揭孽傾欹貌也。

垂條扶於落英幡纚。

郭璞曰。扶於猶扶疎也。幡纚。偏幡也。音灑。○索隱曰。

皆飛揚貌也。

紛容蕭蔎旖旎從風。

索隱曰。張揖云。旖旎。猶阿那也。

瀏莅崑吸。

徐廣曰。莅音栗。○索

隱音所綺反。

隱曰。郭璞云。皆林木鼓動之聲。瀏音畱。莅如字。崑古卉字。吸音翕。

蓋象金石之聲。

正義曰。金鐘石磬。

管籥之音。

正義曰。廣

雅云。象箎。長一尺。圍一寸。有六孔無底。籥。謂之笛。有七孔。說文云。籥。三孔籥也。

柴池訛虎。

徐廣曰。柴音差。虎音多。○索隱曰。張揖云。柴池。參差也。訛虎。不齊也。

訛音差。虎音側氏反。

旋環後宮。雜遝累輯。

徐廣曰。雜一作插。

被山緣谷。循阪下隰。視

之無端。究之無窮。於是玄猿素雌。蜚猱飛鷗。

徐廣曰。蜚音于季反。駟案漢書音義曰。蜚似獼猴。仰

鼻而長尾。猱似獼猴而大。飛鷗。飛鼠也。○其狀如兔而鼠首。以其顙飛也。○索隱曰。郭璞云。蜚鼠也。紫毛赤色。飛且生。一名飛生。蜚音贈遺之遺。猱音誅。玄猿。猿之雄者。黑色也。素雌。猿之



ニ朝采ト名ヅク、猶夜  
光ノ變ト言フ如シ、琬  
瑳ハ美玉ノ名ナリ。  
於是乎盧橘夏熟云云、  
凌雅陸曰、此一段苑中  
ノ草木果實ヲ言フ。  
檮杌注索隱音汝蕭反、  
札記云、檮字此音ナシ、  
當ニ誤ナルベシ、集韻  
檮支ノ燃、因連切ノ下  
ニ入ル、下音烟ト合ス。  
檮杌、札記標チ奈ニ作  
ル、注檮奈樣熟也ニ作  
ル、云フ句誤アリ、合  
刻本注奈字ナシ。

沙棠櫟櫟注似檣、札記  
檣チ杌ニ作ル、云フ檣  
ニ誤ル、考證漢書注ニ  
據テ改ム。  
華汜櫟櫟、錢大昕曰、  
漢書汜チ楓ニ作リ、櫟  
チ杌ニ作ル、皆聲相近  
シ。  
閩落胥餘、錢大昕曰。  
漢書胥邪ニ郭景純閩餘  
屬相近シ、郭景純閩餘  
物タルヲ詳セズ、按ズ  
ルニ釋水ニ、劉劉杌、  
注劉子山中ニ生ズ、實  
梨ノ如シト、即此閩ナ  
リ。

曰。棹音亭。山梨。○索隱曰。司馬彪曰。上黨謂  
之棹。棹齊都賦云。棹棹熟也。厚朴。藥名也。

# 栲棗楊梅

徐廣曰。栲音弋升反。栲棗似柿。○索隱曰。張揖云。揚梅實似穀。

子而有核。其味酢。出江南荆楊。異物志。  
其實外內著核。熟時正赤。味甘酸也。

# 櫻桃蒲陶

郭璞曰。蒲陶似燕薹。可作酒也。○索  
隱曰。張揖云。櫻桃一名含桃。呂氏春

秋云。鷺鳥所含。故曰含  
桃。爾雅謂之荆桃也。

# 隱夫鬱棣。搭榧荔枝。

徐廣曰。鬱一作蕓。搭音荅。駟案郭璞  
曰。鬱。車下李也。棣實似櫻桃。荅隱似

李。棣音逮。榧音沓。隱夫未聞。○索隱曰。晉灼云。荔枝大如雞子。皮麤。剝去皮肌如雞子中黃。其  
味甘多酢少。廣志云。樹高五六丈。如桂樹綠葉。冬夏青茂。有華朱色。荔枝或作離。音力致反。

# 羅乎後宮。列乎北園。施丘陵。

郭璞曰。施猶  
延也。音施。

# 下平原。揚翠葉。机紫莖。

郭璞曰。  
机搖也。發紅華。秀朱榮。煌煌扈扈。照曜鉅野。沙棠櫟櫟。

漢書音義曰。  
沙棠似棠。黃

華赤實。其味如李。呂氏春秋曰。果之美者。  
沙棠之實。櫟。果名。櫟似檣。葉冬不落也。

# 華汜櫟櫟。

徐廣曰。汜一作楓。駟案漢書音義  
曰。華木皮可以爲索也。○索隱曰。

古今字林云。櫟。合榘也。郭璞云。楓似白楊。葉圓而岐。有脂而香。健爲舍人曰。楓爲樹厚  
葉弱莖。大風則鳴。故曰攝攝。櫟。平仲木也。亦云。火棗木。一云玉精。食其子得爲仙也。

# 畱落

# 胥餘。仁頻并閭。

徐廣曰。頻一作賓。駟案郭璞曰。落。棧也。胥餘似并閭。并閭。棧也。皮可  
作索。餘未詳。○索隱曰。晉灼云。畱闕未詳。司馬彪云。胥邪。樹高十尋。

葉在其末。異物志。實大如瓠。繫在顛。若挂物。實外有皮。中有核。如胡桃。核裏有膚。厚半寸。如豬  
膏。裏有汁。斗餘。清如水。味美於蜜也。孟康曰。仁頻。棧也。姚氏云。櫟一名櫻。即仁頻也。林邑記云。



涌於清室。通川過乎中庭。槃石振崖。

徐廣曰。振音屑。○索隱曰。如淳云。振音振。振盛也。李奇云。振。整也。整頓池。

水之崖。音之忍反。

嶽巖倚傾。嵯峨磳磳。

徐廣曰。峨一作池。磳音難。磳音五合反。○索隱曰。埤蒼云。磳。高貌。磳音士劫反。磳音五楫反。又字。

林音磳才市反。磳五市反。

刻削崢嶸。

正義曰。郭云。言自然若彫刻也。

玫瑰碧琳。珊瑚叢生。

正義曰。郭云。珊瑚生。

水底石邊。大者樹高三尺餘。枝格交錯。無有葉。

璿玉旁唐。

索隱曰。郭璞云。旁唐。言盤磳。

璿煊文鱗。

徐廣曰。璿音彬。煊音斑。

赤

瑕駁瑩。

索隱曰。說文云。瑕。玉之小赤色。張揖曰。赤玉也。司馬彪云。駁瑩。采點也。瑩音洛角反。

襍雨其間。

徐廣曰。襍一云。插。插一云。選。

垂

綏琬琰。和氏出焉。

徐廣曰。垂綏一作朝采。駟案郭璞曰。汲冢竹書曰。桀伐岷山得女二人。曰琬。曰琰。桀愛二女。斷其名于荑華之玉。荑是琬。華是琰也。

於是乎盧橘夏孰。

郭璞曰。今蜀中有給客橙。似橘而非。若柚而芬香。冬夏華實相繼。或如彈丸。或如拳。通歲食之。即盧橘也。○索隱曰。應劭云。伊尹書。

曰。果之美者。箕山之東青馬之所有。盧橘夏孰。晉灼曰。此雖賦上林。博引異方珍奇。不係於一也。案廣州記云。盧橘皮厚大小如甘酢多。九月結實。正赤。明年二月更青黑夏孰。吳錄云。建安。

有橘。冬月樹上覆裏。明年夏色變青黑。其味甚甘美。盧即黑色是也。

黃甘橙棖。

徐廣曰。音湊。橘屬。

枇杷燃柿。

徐廣曰。燃音而善反。果也。○索

隱曰。張揖云。燃。燃支。香草也。韋昭曰。燃音汝蕭反。郭璞云。燃。燃支木也。燃音烟。此說爲近。說文曰。燃。酸小棗也。淮南子云。伐燃棗以爲矜。音勤。

梲梲厚朴。

徐

チ平ケ、而ア堂チ其上ニ築ケ、果ヲ爲ルチ謂フ、増ハ重ナリ、一重チ一咸ト爲スナリ。巖突洞房注索隱突音一弔反、錢大明曰、文選突チ突ニ作ル、漢書字誤シテ突ト爲ル、小顏突ノ若ク然リト謂フ、非ナリ。仰攀條而捫ナリ、顏師古曰、擦ハ條ナリ、捫ハ摸ナリ、臺榭ノ高、之ニ升上スル者、俯視スレバ則地チ見ズ、仰テ其際ニ攀レバ、天チ摸スベキナリ。西清注、山出二字恐ラクハ衍ナリ。桀石振崖注振音屑、札記厚チ振ニ作ル、云フ誤テ屑ニ作ル、此音ナシ、索隱ニ依テ改ム。璿玉旁唐云、顏師古曰、旁唐ハ文石ナリ、唐字モト唐ニ作ル、璿煊書粉璿ニ作ル、郭璞曰、文理ノ貌ナリ。垂綏琬琰、漢書垂綏チ龍采ニ作ル、顏師古曰、龍古ノ朝字ナリ、朝采ハ美玉、每且白虹ノ氣アリ、光采上出ス、故

乎離宮別館。彌山跨谷。正義曰。彌。滿也。跨。猶騎也。言宮館滿山。又跨谿谷也。高廊四注。重坐曲

閣。郭璞曰。重坐。重軒也。曲閣。閣道曲也。華榱壁璫。索隱曰。韋昭云。裁玉爲壁以當榱頭。司馬彪曰。以壁爲瓦之當也。輦道纒屬。

步櫚周流。長途中宿。郭璞曰。途。樓閣閒陞道中宿。言長遠也。夷處築堂。累臺增成。巖突

洞房。郭璞曰。巖。山名。平之以安堂其上。成亦重也。周禮曰。爲壇三成。在巖穴底爲室。潛通臺上者。○索隱曰。服虔云。平。巖山以爲堂也。張揖云。重累而成之。故曰增成。突。音一

弔反。釋名。以爲突幽也。楚詞云。冬有突厦。夏室寒。王逸以爲複室也。俛杳眇而無見。仰攀椽而捫天。奔星更

於閨闔。宛虹拖於楯軒。徐廣曰。楯音食尹反。○正義曰。拖音徒我反。顏云。宛虹。屈曲之虹。拖。謂申加於上也。楯。軒之闌板也。言室宇之

高。故星虹得經加之。青蚪蚺蟺於東箱。正義曰。蚺一糾反。蟺力糾反。象輿蜿蜒於西清。漢書音義曰。山

出象輿。瑞應車也。郭璞曰。西清。西箱清淨地也。○正義曰。婉蟬宛善。二音。顏云。蚺蟺婉蟬。皆行動之貌也。靈囿燕於閒觀。郭璞曰。靈囿。淳

索隱曰。張揖云。靈囿。衆仙號。淮南子云。騎飛龍從淳囿是也。偃佺之倫暴於南榮。漢書音義曰。偃佺。仙人名也。○索隱曰。韋昭云。古仙人。姓

偃列仙傳云。槐里採藥父也。食松。形體生毛數寸。方眼。能行逮走馬也。應劭曰。南榮。屋檐兩頭如翼也。故鄭玄云。榮。屋翼也。王誘云。飛榮似鳥舒是也。暴。偃臥日中也。醴泉

駭。裴生レテ三日ニシテ其母ヲ超ユ。注決啼ノ上。札記音字アリ。云フ官本音字アリ。他本脫ス。高廊四注云云。顏師古曰。廊ハ堂下四周ノ屋ナリ。重坐ハ增室ヲ謂フ。曲閣ハ閣ノ屈曲相連ル者ナリ。華榱壁璫。璫道纒屬。顏師古曰。榱ハ椽ナリ。華ハ之ヲ彫畫スルヲ謂フ。壁璫ハ玉ヲ以テ椽ノ頭當ト爲ス。即所謂瓊題玉題ナル者ナリ。一曰。玉ヲ以テ瓦ノ當ナ飾ルナリ。璫道ハ閣道ノ聲ニ乗テ行クベキ者ヲ謂フ。纒屬ハ相連屬スルナリ。步櫚周流。長途中宿。顏師古曰。步櫚ハ其下行步スベキナ言フ。即今ノ步廊ナリ。其途長遠ニシテ。日ヲ經テ之ヲ行クト雖モ尙達スル能ハズ。故ニ中道ニシテ宿スルヲ謂フナリ。櫚ハ櫓ト同ジ。夷處築堂云云。顏師古曰。夷ハ平ナリ。山ノ高聚者ヲ壘ト曰フ。山



師古曰濞音護。

勝音布寫、顛師古曰、

勝音許乙反、擲音響、勝

響ハ盛ニ作ユルナリ。

隆冬生長踊水躍波、顛

師古曰、其土地氣溫ニ

シテ、冬ヲ經テ草木死

セズ、水凍ラザルナ言

フ。

窮奇象犀注索隱一角在

頭、札記云、頭疑フ額

ナリ、漢書注、一角在

鼻、一角在額ニ作ル。

盛夏含凍裂地涉冰揭

河、顛師古曰、其土地

氣寒ク、暑ニ當リ凝凍

シ、地之ガ爲ニ裂ク、

故ニ冰ヲ涉リテ而テ河

ヲ渡ルナリ、掲ハ衣ヲ

褰ケルナリ。

蛩音驪驪云云、郭璞曰、

驪驪ハ驪驪ノ類ナリ、

苾勃。

正義曰。晡暖。奄愛二音。皆芳香之盛也。詩云。苾苾芬芬。氣也。

於是乎周覽泛觀。瞋盼軋沕。

徐廣曰。瞋音丑。

人反。盼一作旃。駟案

郭璞曰。皆不可分貌。

芒芒恍忽。視之無端。察之無崖。日出東沼。入於

西陂。

索隱曰。張揖云。日朝出苑之東池。暮入於苑西陂中也。

其南則隆冬生長。踊水躍波。獸則獮

旄獬犛。

徐廣曰。獮音容。獸類也。犛音狸。一音茅。駟案郭璞曰。旄。旄牛。獬。似熊。庫腳銳頭。犛牛。黑色。出西南徼外也。○索隱曰。郭璞云。獮。獮牛。領有肉堆。卽今之犛牛也。

張揖云。旄。旄牛。其狀如牛而四節生毛。獬。白豹也。似熊。庫腳銳鬣。

骨無髓。食銅鐵。音陌。犛音狸。又音茅。或以爲獮牛。毛可爲翹。是也。

沈牛塵麋。

漢書音義曰。沈牛。水牛也。○正義曰。麋似牛。而四節生毛。其音如犛狗。

牛也。○正義曰。麋似

赤首圓題。

郭璞曰。題。額也。所未詳。

窮奇象犀。

漢書音義曰。窮奇。狀如牛而蠅毛。其音如犛狗。

食人也。○索隱曰。郭璞云。象。大獸。長鼻。

牙長一丈。犀。頭似豬。庫腳。一角在頭也。

其北則盛夏含凍裂地。涉冰揭河。

郭璞曰。言水漫凍不

解。地折裂也。揭。褰衣。

獸則麒麟角规。

郭璞曰。角规音端。似豬。角在鼻上。堪作弓。李陵嘗以此弓十張遺蘇武也。○索隱曰。張揖

云。雄曰麒麟。雌曰麟。其狀麋身。牛尾狼蹄。一角。郭璞云。麒麟似麟而無角。毛詩疏云。麟黃

色。角端有肉。京房傳云。麟有五綵。腹下有黃色也。張揖云。角端似牛。角可以爲弓。

駒駼

橐駼。蛩蛩驪驪。駼駼驪驪。

正義曰。駒駼。桃徒二音。橐音託。駼徒河反。蛩音其恭反。驪驪。顛奚二音。駼駼。決啼。

於是





搖蕩。掩薄草渚。

正義曰。掩。覆也。薄。依也。言或依草渚而遊戲也。

啜菁藻。

郭璞曰。菁。水草。呂氏春秋曰。太湖之菁也。○索隱曰。

左傳云。蘋蘩藇藻。藇。卽聚也。○正義曰。暖。疏甲反。喋。丈甲反。鳥食之聲也。

咀嚼藻藕。

於是乎崇山寵從。

崔巍嵯峨。

峨。

正義曰。寵。力孔反。從。子孔反。崔。在同反。巍。五同反。郭云。皆峻貌。

深林鉅木。嶄巖嵯嵯。

正義曰。嶄。音咸。又仕銜反。嵯。音楚。林反。嵯。

楚宜反。顏云。嶄。巖。尖銳貌。嵯。嵯。不齊也。

九變巖嶄。南山峩峩。

漢書音義曰。九變山在左馬翊谷口縣西。巖。嶄山在池陽縣北。○正義曰。變。子郭璞曰。陀。崖際。巖。音魚。晚反。嶄。音蟻。摧。

公反。巖。才切。反。辭。五結反。

巖陀。

音遲。

巖嶄。摧峩峩。

郭璞曰。陀。崖際。巖。音魚。晚反。嶄。音蟻。摧。音作罪反。○索隱曰。陀。音多。皆隆屈窻。

折貌。崎音倚。嶄音掘。

振谿通谷。

索隱曰。張揖云。振。拔也。水注川曰谿。注。谿曰谷。郭璞云。振。猶灑之也。

蹇產溝瀆。

漢書音義曰。蹇產。屈。

折也。谿呀谿間。

郭璞曰。皆淵谷之形容也。谿音呼含反。呀音呼加反。間音呼下反。○索隱曰。司馬彪云。谿呀。大貌。谿間。空虛也。

阜陵別島。

正義曰。高平曰陸。大陸曰阜。大阜曰陵。水中山曰島。

歲魄崑崙。

正義曰。歲。於鬼反。魄。魚鬼反。崑。烏罪反。崑。胡罪反。皆高峻貌。

丘墟崑崙。

正義曰。虛音墟。崑口忽反。又口罪反。崑力罪反。皆堆壟不平貌。

隱嶙鬱嶭。

正義曰。嶙音律。郭云。皆其形勢也。

登降施靡。

正義曰。郭云。施。

靡猶連延。

陂池獬豸。

郭璞曰。獬音衣。被之被。豸音蟲。豸之豸。○索隱曰。郭璞云。陂池。旁類貌。陂音皮。獬音被。

沈溶淫鬻。

索隱曰。郭璞云。

咀嚼藻藕。淺稚。陸曰。以上水。言。以下山。言。各山谷。二產。所。屬。具。巖。巖。注。正。巖。巖。音。威。札。記。云。巖。威。音。ナシ。當。二。脫。誤。アル。ベシ。南山。義。義。顏。師。古。曰。南山。ハ。終。南山。ナリ。義。義。ハ。高。キ。貌。

蹇產溝瀆。郭璞曰。蹇。音。瀆。二。及。比。皆。水。相。通。注。スル。ナリ。

阜陵別島。顏師古曰。阜。陵。水。中。二。居。在。シ。各。別。二。島。ナリ。ス。ナリ。



中統游本哆、他本多ニ  
誤ハ、按ニ哆音修、口ヲ  
張ルナリ。

禹禹鱸魴 漢書魴字鰓

二作ル、郭璞曰、禹禹

ハ魚皮ニモアリ、黃地

黒文ナリ、鱸ハ比目魚

ナリ、狀牛脾ニ似テ、

細鱗紫色、兩相合シテ

乃行クヲ得、鰓ハ鰓魚

ナリ、鮎ニ似テ四足ア

リ、聲嬰兒ノ如シ、禹

音隅、又音頤。

擢尾 漢書擢尾ニ作ル。

鰓鰓鰓鰓注、郭璞曰鰓

鰓鰓也、鰓 札記鰓ニ

作ル、云フ蔡中統游柯

鰓本鰓ニ作ル。

鰓鰓、漢書庸渠ニ作ル、

顏師古曰、今ノ水雞ナ

リ。

禹禹鱸魴。

徐廣曰禹禹魚牛也。鱸一作魴。音楊。魴音納。一作鰓。鰓案漢書音義曰魴比目魚也。魴鯉魚。

捷鰭擢尾。振鱗奮。

翼。潛處於深巖。魚鼈謹聲。萬物衆夥。明月珠子。玃璫江靡。

郭璞曰。靡。

崖也。○索隱曰。應劭云。明月珠子生於江中。其光耀乃照於江邊也。○正義曰。捷音乾。鰭音祁。捷舉也。鰭者魚背上鰓也。

蜀石黃瑱。

郭璞曰。瑱石黃色也。

水

玉磊砢。

郭璞曰。水玉水精也。

磷磷爛爛。采色演吁。叢積乎其中。鴻鵠鵠鵠。

鵠鵠鵠鵠。

郭璞曰。鵠鵠鵠鵠似鵠而大。長頸赤目。紫紺色也。○索隱曰。鵠音保。郭璞云。鵠似雁而無後指。毛詩鳥獸疏云。鵠似雁而虎文也。○正義曰。鵠鵠鵠鵠玉

二音。郭云。似鵠而大。長頸赤目。紫紺色。辟水毒。生子在深谷淵中。若時有雨。鵠雄者生子。善鬪。江東呼爲燭玉。

鵠鵠鵠鵠。

徐廣曰。鵠音環。索隱曰。郭璞云。鵠目未詳。

小顏云。荆郢間有水鳥。大於鵠而短尾。色紅白深目。目旁毛皆長而旋。此其是乎。鵠音旋。漢書亦作旋目。○正義曰。郭云。鵠鵠似鵠而腳高。有毛冠。辟火災。

煩鵠鵠鵠。

徐廣曰。煩鵠一作番鵠。鵠音容。鵠案漢書音義曰。煩鵠。鵠也。鵠鵠似鵠灰色而雞足。○索隱曰。郭璞云。煩鵠。鵠鵠一名章渠也。

鵠鵠鵠鵠。

徐廣曰。鵠音樹。

水鳥也。鵠音斯。鵠音火交。反。鵠案漢書音義曰。鵠鵠蒼黑色。郭璞曰。鵠。魚鵠也。鵠近尾。鵠鵠鵠也。○索隱曰。張揖曰。鵠鵠似魚虎而蒼黑。郭誕本作鵠鵠也。

羣浮乎

其上。汎淫泛濫。

索隱曰。郭璞云。皆鳥任風波。自縱漂貌。汎音馮。汎音芳劍。反。廣雅云。汎汎汎汎。羣浮也。

隨風澹淡。與波



臨坻注水坻曰坻、札記水ナ小ニ作ル、云フ水坻ニ誤ス、爾雅ニ依テ改ム。

東注太湖、札記云、當ニ沈存中ノ說ニ依リ、湖ナ河ニ作ルベシ、下ノ池蠃離ト韵ヲ爲ス、正義以テ蘇州太湖ト爲ス、誤ル。

鱣鮪注多口魚、札記多々誤ニ作ル、云フ蔡本

白結反。巖崖。司馬彪云。

犇揚滯沛。

索隱曰。郭璞云。滯沛。水灑散貌。滯音丑制反。

臨坻注壑。

正義曰。坻音遲。坻水

中沙微起出水者也。爾

雅云。水坻曰坻。壑。墟也。

灑灑。灑音士湛反。滯音士卓反。說文云。水之小聲也。○正義曰。賈音傾。墜直類反。

湛湛

隱隱。

徐廣曰。湛音沈。

杯磅訇礚。

正義曰。碎披萌反。磅蒲黃反。訇呼宏反。礚苦蓋反。皆水流鼓怒之聲也。

湑湑湑湑。湑

湑鼎沸。

郭璞曰。湑音款立反。湑音緝。○索隱曰。郭璞云。皆水微轉細湧貌。湑湑音決骨。廣雅云。湑湑。決流也。周成礚字云。湑湑。水沸之貌也。

馳波跳

沫。

徐廣曰。一云。吸呷。

汨湑漂疾。

索隱曰。晉灼云。湑音華給反。郭璞云。許立反。汨湑。急轉貌也。

悠遠長懷。

正義曰。放散貌也。

寂寥無聲。肆乎永歸。然後灝漾潢漾。

正義曰。晃養二音。郭云。皆水無涯際也。

安翔徐徊。

翬乎瀄瀄。

索隱曰。翬音鶴。瀄音縞。詩曰。白鳥翬翬。郭璞云。水白光貌。翬音皐。瀄音昊也。

東注太湖。

正義曰。太湖在蘇州西南。

衍

溢陂池。於是乎蛟龍赤螭。

正義曰。螭丑知反。文穎云。龍子爲螭。張揖曰。雌龍也。二說皆非。廣雅云。有角曰虬。無角曰螭。按虬螭皆龍

類而

非龍。鰐鰭鱗離。

徐廣曰。鰐音漸。鰭案郭璞曰。鰭音書。鱗離未聞。○正義曰。鰭古鄧反。書未鄧反。李奇云。周洛曰。鰭。蜀曰。鰭。書。出鞏山穴中。三月

遡河上。能度龍門之限。則爲龍矣。

鰐鰭鰭鰭。

徐廣曰。鰭音娛。皮有文。出樂浪。鰭音虔。鰭音託。多口魚。鰭案郭璞曰。鰭似鯁而黑。漢書音義曰。鰭似鯁而大也。

洲淤之浦、顏師古曰、水中居ルベキ者ヲ洲ト爲ス、淤ハ漫ナリ、浦ハ水涯ナリ。

桂林之中、如淳曰、桂林ノ林ナリ。

汨乎渾流順而下、顏師古曰、汨音于筆反、疾キ貌ナリ、渾流ハ豐流ナリ、曲陵ナ阿ト曰フ。

赴隘陝之口、漢書陝ニ作ル、音狹、顏師古曰、兩岸相迫近スル者ナリ。

逼測泌瀝、注索隱按、音笑結反、擊ナリ。

蜿瀺注正轉蟬音善、札記云、此ニ據レバ、是張見ル所ノ本蜿蟬ニ作ル。

東西南北。馳驚往來。出乎椒丘之闕。行乎洲淤之浦。

郭璞曰。椒丘。丘名。言有巖

闕也。見楚辭。淤亦洲名。蜀人云。見方言。○索隱曰。服虔云。丘名也。案兩山俱起象雙闕。故云椒丘之闕。楚詞曰。馳椒丘且焉止息。是也。如淳云。丘多椒也。

徑乎桂林

之中。郭璞曰。桂林。林名也。見南海經也。

過乎泱莽之野。

漢書音義曰。山海經所謂大荒之野。

汨乎渾流順

阿而下。

郭璞曰。阿。大陵。

赴隘陝之口。觸穹石。激堆埼。

郭璞曰。穹石。大石也。堆。沙堆。埼。曲岸頭。音祈。

沸乎暴怒。洶涌滂潰。

洶音許勇反。涌音勇。滂音浦橫反。潰音浦拜反。○索隱曰。司馬彪曰。洶湧。跳起貌。澎湃。波相戾也。湧或作容。澎或作滂。

渾渟瀍汨。

索隱曰。司馬彪云。渾渟。盛貌。瀍汨。去疾也。○正義曰。畢渤密三音。汨于筆反。

逼測泌瀝。

郭璞曰。逼測。筆櫛四音。○索隱曰。司

馬彪曰。逼測。相迫也。泌瀝。相楔也。

橫流逆折。轉騰激洌。

索隱曰。蘇林曰。流輕疾也。

澎湃沆瀣。

索隱曰。瀝亦作漑。司

馬彪云。滂溥。水聲。沆漑。徐流也。郭璞云。鼓怒鬱輓之貌也。○正義曰。澎湃。彭反。溥。普祕反。沆。胡朗反。漑。胡代反。

穹隆雲撓。

索隱曰。服虔云。水急旋回如雲屈曲也。郭

璞云。水隴起回竄也。

蜿瀺膠戾。

索隱曰。司馬彪云。蜿瀺。展轉也。膠戾。邪曲也。宛善交戾四音。○正義曰。蜿音婉。蟬音善。

踰波趨浥。

徐廣

曰。烏狹反。○索隱曰。司馬彪云。踰波。後陵前也。趨浥。輸於深泉也。

莅莅下瀨。

索隱曰。司馬彪云。莅莅。水聲也。音利。

批巖衝壅。

正義曰。批



紫淵徑其北注正義其水紫色注亦紫、札記云、漢書文選注此七字ナシ、疑フ是讀者ノ旁注誤入ス。

鄠鄠潦注索隱、札記通出ヲ湧出ニ、沈水ヲ沈水ニ作ル、又晉灼云云ナ、晉灼曰、從二丹水以下則有九、從二瀾水以下則七、案瀾既是水名、除二丹紫二川、自二涇渭以下、適足二八川、則是經三營乎、其內一也、又潘岳云云ニ作ル、按二涇渭ハ疑フ霸淥ノ誤ナラシ。

淫相越此不可以揚名發譽而適足以貶君自損也且夫齊楚

之事又焉足道邪君未睹夫巨麗也獨不聞天子之上林乎左

蒼梧右西極郭璞曰西極國也○正義曰文穎云蒼梧郡屬交州在長安東南故言左爾雅云西至於豳國爲西極在長安西故言右丹水更

其南漢書音義曰丹水出上洛冢領山紫淵徑其北郭璞曰紫淵所未詳○正義曰山海經云紫淵水出根者之山西流注河文穎云西

河穀羅縣有紫澤其水紫色終始霸瀆出入涇渭索隱曰張揖云霸出藍田西北而入渭瀆亦出藍田谷北至霸

陵入霸霸瀆二水盡於苑中不出故云終始也涇渭二水從苑外來又出苑去也涇水出安定涇陽縣開頭山東至陽陵入渭渭水出隴西首陽縣鳥鼠山東北至華陰入河鄠鄠

潦瀆郭璞曰皆水流貌音決○索隱曰張揖云鄠水出鄠縣南山豐谷北入涇渭鎬水在昆明池北郭璞云鎬水豐水下流也應劭云潦流也瀆通出聲也案張揖云瀆水出

南山姚氏云潦或作潞潞水出鄠縣北注渭瀆水出杜陵今名沈水自南山皇子陂西北流注昆明池入渭案此下文八川分流則從涇渭霸瀆豐鎬潦瀆爲八晉灼則云計從丹水以下

至瀆除潦爲行潦凡九從云瀆以下爲數凡七案今瀆既是水名除丹水紫淵自霸以下通數適足八川是經營乎其內也又潘岳關中記曰涇渭霸瀆豐鎬潞瀆上林賦所謂八川分流也

紆餘委蛇經營乎其內蕩蕩兮八川分流相背而異態郭璞曰八川名在上



中。曾不帶芥。

索隱曰。張揖云。帶芥。刺鯁也。

若乃俶儻瑰偉。異方殊類。珍怪鳥獸。

萬端鱗萃。充切其中者。不可勝記。禹不能名。契不能計。

正義曰。禹爲堯司空。

辨九州土地山川草木禽獸。契爲司徒。敷五教。主四方會計。言二人猶不能名。計其數。

然在諸侯之位。不敢言游戲之

樂。苑囿之大。先生又見客。

索隱曰。先生。指子虛也。如淳曰。見賓客禮待故也。李善曰。言見先生是賓客之也。

是以王

辭而不能復。

索隱曰。郭璞曰。復。答也。

何爲無用應哉。無是公听然而笑曰。

郭璞

王辭而不能復。札記王辭而不復。二作ル。云。索隱本漢書文選ト合ス。各本不下能字アリ。雜志云。後人加ル所ナリ。類聚產業部引テ無シ。師師古曰。復ハ反ナリ。反報セザルヲ謂フ。

曰。听。笑貌也。○索隱曰。听音斷。又音牛隱反。

楚則失矣。齊亦未爲得也。夫使諸侯納貢者。

非爲財幣。所以述職也。

郭璞曰。諸侯朝於天子曰。述職。言述所職。見孟子。

封疆畫界者。非爲

守禦。所以禁淫也。

郭璞曰。禁絕淫放也。

今齊列爲東藩。而外私肅慎。捐國踰

限。越海而田。其於義故未可也。且二君之論。不務明君臣之義。

而正諸侯之禮。徒事爭游獵之樂。苑囿之大。欲以奢侈相勝。荒

外私肅慎。類師古曰。私ハ與ニ通ズルナリ。

齊東有巨海、札記有隋二作リ、注索隱隋蘇林音渚二作ル、云フ索隱本隋、漢書文選ト合ス、各本有ニ作ル、注ニ因テ誤ル。

非楚國之美也。有而言之。是章君之惡。無而言之。是害足下之

信。章君之惡。而傷私義。二者無一可。而先生行之。必且輕於齊

而累於楚矣。且齊東有巨海。索隱曰。有作渚。蘇林云。渚音渚。小洲曰渚。謂東有大海之渚也。南有琅邪。

郭璞曰。山名。在琅邪縣界。○正義曰。山名。觀乎成山。徐廣曰。在東萊不夜縣。○索隱曰。在密州東南百三十里。琅邪臺在山上。張揖云。觀闕也。於山上築宮闕。郭

璞言在小遊觀。音一喚反。○正義曰。封禪書云。成山斗入海。言射乎之罘。漢書音義曰。之罘山。在東

上山觀也。括地志云。成山在萊州文登縣東北百八十里也。浮勃澥。漢書音義曰。海別枝名也。萊

腫縣。射獵其上也。○正義曰。括地志云。罘山在萊州文登縣西北百九十里。言射獵其上也。罘音浮。邪與肅慎爲鄰。

傍曰勃斷。游孟諸。郭璞曰。宋之藪澤名。○正義曰。周禮職方氏。青州藪曰望諸。鄭玄云。望諸。孟澥也。右以湯谷爲界。正義

正義曰。邪。謂東北接之。括地志云。靺鞨國。古肅慎也。亦曰挹婁。在烱田乎青丘。傍徨乎海

京東北八千四百里。南去扶餘千五百里。東及北各抵大海也。曰。言右者。北向天子也。海外經云。湯谷上有扶桑。十日所吞若雲夢者八九。其於賀

浴。在黑齒北。居水中。張揖云。日所出也。許慎云。熱如湯。外。正義曰。服虔云。青丘國。在海東三百里。郭璞云。青丘。山名。上有田。出九尾狐。在海外。

時割輪渚・顏師古曰、  
割字屬ト同ジ、渚モ亦  
屬割ノ義ノミ、其肉ナ  
屬割シ、車輪ニ搥シ、  
鑿シテ而テ之ヲ食フ、  
言フ、此蓋上ノ割鮮染  
輪ノ言ヲ護ルナリ。

聞乎數百里之外。將息獠者。擊靈鼓。

郭璞曰。靈鼓。六面也。

起烽燧。車案行。

騎就隊。纒乎淫淫。班乎裔裔。

郭璞曰。皆羣行貌也。

於是楚王乃登陽雲之

臺。

徐廣曰。宋玉云。楚王游於陽雲之臺。駟案郭璞曰。在雲夢之中。

泊乎無爲。澹乎自持。勻藥之和具而

後御之。

郭璞曰。勻藥。五味也。

不若大王終日馳騁而不下輿。將割輪渚。自

以爲娛。

徐廣曰。渚。千內反。駟案郭璞曰。將。膊。渚。染也。將音轡也。

臣竊觀之。齊殆不如。於是王默然

無以應僕也。烏有先生曰。是何言之過也。足下不遠千里。來況

齊國。

郭璞曰。言有惠況也。

王悉發境內之士。而備車騎之衆。以出田。乃欲

戮力致獲。以娛左右也。何名爲夸哉。問楚地之有無者。願聞大

國之風烈。先生之餘論也。今足下不稱楚王之德厚。而盛推雲

夢。以爲高奢。言淫樂而顯侈靡。竊爲足下不取也。必若所言。固



女粉白黛黑而立於衢。不知者謂之神仙。

於是乃相與獠於蕙圃。

郭璞曰：獠，獵也。音遼。○索隱曰：爾雅云：宵獵曰獠。

嬭珊

勃率上金隄。

索隱曰：嬭珊，匍匐上也。率，音素忽反。

揜翡翠射鵩鵩。

漢書音義曰：鵩鵩鳥似鳳也。○索隱曰：司馬彪曰：鵩

鵩，山雞也。許慎云：鷖鳥也。郭璞曰：似鳳有光彩。音淺宜。李彤云：鵩鵩，神鳥。飛光竟天也。

微矰出，纖繳施。

徐廣曰：繳，音斫。

弋白鵩連

駕鵩。

郭璞曰：野鵩也。駕，音加。○索隱曰：爾雅云：舒雁，鵩也。○正義曰：鵩，水鳥也。駕鵩，連謂兼獲也。抱朴子云：千歲之鵩，純白能登於木。

雙鵩下玄

鶴加。

郭璞曰：詩云：弋言加之是也。○正義曰：司馬彪云：鶴似雁而黑，亦呼爲鶴。括韓詩外傳云：胎生也。相鶴經云：鶴壽二百六十歲，則色純黑。案弋雙鵩，既下，又加玄鳥之上。

也。怠而後發，游於清池，浮文鵩。

漢書音義曰：鵩，水鳥也。畫其象於船首。淮南子曰：龍舟鵩首，天子之乘也。

揚桂

枻。

徐廣曰：音曳。騶案，韋昭曰：枻，櫂也。

張翠帷，建羽蓋，罔瑇瑁，鈎紫貝。

郭璞曰：紫質黑文也。○正義曰：毛詩

蟲魚疏云：貝，水之介蟲。大者蚌，音下郎反。小者爲貝。其白質如玉。紫點爲文，皆成行列。

撝

金鼓吹鳴籟。

漢書音義曰：撝，撞也。籟，簫也。

榜人歌。

郭璞曰：唱櫂歌也。榜，船也。音謗。

聲流喝。

徐廣曰：鳥邁反。

水

蟲駭，波鴻沸，涌泉起，奔揚會，礪石相擊，琅琅磻磻，若雷霆之聲。

鈎紫貝，注貨殖傳云云，札記云：貨殖傳此文ナシ，語亦脫誤アリ。

連駕鵩，札記云：中統游毛本駕ヲ駕ニ作ル，索隱本ト合ス，按ニ漢書文選亦駕ニ作ル。

考證増ス。

襞積褰縐云云、縐師古曰、襞積、文理身ノ著ル所ニ隨ヒ、或ハ褰縐委曲シテ、豁谷ノ如キナ言フ。

粉粉褰褰、錢大昕曰、褰ハ即褰字、說文褰、皆長衣ノ貌ナリ。

扶輿猗靡、顏師古曰、此自ラ鄭女曼姬ノ侍從者扶輿スル所ト爲リ、而テ猗靡スルヲ言フ、楚王ノ車輿ヲ扶持スルヲ謂フニ非ズ、札記輿ヲ與ニ作ル、

錯翡翠之蕤蕤、顏師古曰、錯ハ雜ナリ、蕤蕤ハ羽飾ノ貌ナリ。

被阿錫。

漢書音義曰。阿。細繒也。錫。布也。○正義曰。按東阿出繒也。

揄紵縞。

徐廣曰。揄音曳。○正義曰。揄。曳也。韋昭云。紵之色若縞也。顏云。紵。織紵也。

編鮮支也。

襞積褰縐。

垂霧縠。

郭璞曰。言細如霧。垂以覆頭。

襞積褰縐。紵徐委曲。鬱橈豁谷。

漢書音義曰。襞積。簡齧也。褰。縮也。縐。裁也。其縐中文理弗鬱廻曲。有似於豁谷也。○索隱曰。小顏云。此說非也。襞積。今之謂襞。古謂之皮弁素積是也。蘇林曰。褰。縐。縮。疊之也。縐。音側救反。齧音助革反。裁。音在代。反曲。字林音丘欲反。粉粉褰褰。義曰。上芳云。反。下方非反。○正義曰。郭璞云。衣長貌。○正揚施卹削。徐廣曰。施音迤。卹。音迤。

衣袖也。駟案。漢書音義曰。卹削。裁制貌也。○索隱曰。張揖云。揚舉也。卹削。刻除貌也。蜚纖垂髻。徐廣曰。纖音斐。駟案。郭璞云。纖。衽衣飾。髻。髻髻也。扶輿猗靡。

輿猗靡。

郭璞曰。淮南所謂曾折靡地。扶輿猗委也。○正義曰。輿音餘。猗於綺反。謂鄭女曼姬侍從王者。扶其車輿而猗靡。

嗚呶萃蔡。

漢書音義

曰。嗚呶。衣裳張起也。萃蔡。衣聲也。○索隱曰。韋昭云。呶音呼甲反。郭璞云。萃蔡。猶璀璨也。○正義曰。呶。火甲反。萃音翠。蔡。千賄反。

下摩蘭蕙。上拂羽蓋。錯翡翠之蕤蕤。

徐廣曰。錯音措。或作錯粉翠蕤。

繆繞玉綏。

郭璞曰。綏所執以登車。○正義曰。顏云。下摩蘭蕙。謂垂髻也。上拂羽蓋。謂飛纖也。玉綏。以玉飾綏也。言飛纖垂髻。錯襍翡翠之旌幡。或繞玉綏也。張揖云。翡翠。大小一如雀。雄赤曰翡。雌青曰翠。博物志云。翡翠。身通黑。唯曾前背上翼後有赤毛。翠。身通青黃。唯六翮上毛長寸餘青。其飛則羽鳴。翠。翡翠。翡翠然。因以爲名也。

羽鳴翠。翡翠。翡翠然。因以爲名也。縹乎忽忽。若神仙之仿佛。

正義曰。佛。言似神仙也。戰國策云。鄭之美。



蹇距虛注似馬色而青、札記似馬而色青ニ作ル云フ淺本而色倒ス。

僂腫漢涿、札記腫ヲ腫ニ作ル、云フ毛本時、文選玉篇目部、子虛賦ヲ引クト合ス、宋本王本坤ニ譌シ、柯凌坤ニ譌シ、中統舊刻游本聊ニ譌シ、漢書時ニ譌ス、字類引ク同シ、錢大昕曰、漢書漢ヲ情ニ作ル、漢情聲相近シ。

曼姬注楚武王夫人鄭ノ下、札記曼字アリ、云フ

索隱曰。郭璞云。言頓轡也。司馬彪云。按轡而行得節。故曰案節。馬足未展。故曰未舒。亦爲得也。即陵狡獸。麟邛邛蹇距虛。郭璞曰。邛似馬色而青。距虛。即邛邛。變文互言之。

穆天子傳曰。邛邛距虛。日走五百里也。軼野馬而轉駒駼。徐廣曰。轉音銳。駼案郭璞曰。野馬如馬而小。駒駼似馬。轉。車軸頭。○索隱曰。轉音衛。謂軸頭轉而殺之。駒音陶。駼音塗。

乘遺風而射游騏。漢書音義曰。遺風。千里馬。爾雅曰。騏如馬一角不角者騏也。○索隱曰。呂氏春秋云。遺風之乘。古今注曰。

秦始皇馬名。韋昭曰。騏如馬無角。非麒麟之麟。騏音搆。儵眈淒淒。眈一作眈。徐廣曰。淒音七見反。淒音力詣反。關案漢書音義曰。皆疾貌。

雷動燁至。星流霆擊。弓不虛發。中必決皆。韋昭曰。在目所指。中必決於眼皆也。

洞胷達腋。絕乎心繫。獲若雨獸。揜草蔽地。於是楚王乃弭節裴回。郭璞曰。或云節。今之所杖信節也。○索隱曰。司馬彪云。弭猶低也。

翱翔容與。覽乎陰林。觀壯士之暴怒。與猛獸之恐懼。微飢受調。徐廣曰。飢音劇。調案郭璞曰。飢。疲極也。調。盡也。言獸有倦游者。則微而取之。○索隱曰。司馬彪云。微。遮也。飢。倦也。謂遮其倦者。飢音劇。調音屈。說文云。飢。勞也。燕人謂勞爲飢。微音古堯反。

殫覩衆物之變態。於是鄭女曼姬。郭璞曰。曼姬。謂鄧曼姬。婦人之總稱。○正義曰。文穎云。鄭國出好女。曼者其色理曼澤也。如淳云。鄭女。夏姬也。曼姬。楚武王夫人鄭。

曼姬注楚武王夫人鄭ノ下、札記曼字アリ、云フ



脫ス、文選蜀都賦注ニ據テ改増ス、葉下、彼ハ似長生ノ三字アリ、又如小柿ヲ如小甘ニ作ル、云フ蜀都賦注柿ニ作ル。

赤纓蠟蝶、札記云、漢書文選此四字ナシ、注正義音勛、蝶音柔ニ作ル、云フ各本誤テ蠟蝶二字ヲ重ネ、二音字ヲ脫ス、吳改ム。

兕象野犀窮奇猥誕、札記云、漢書文選此二句ナシ、錢大昕云、後人妄増、錢警石云、猥誕ハ上ノ猥誕ト復出ス、集解索隱本蓋皆之ナシ、故二辯釋ナク、而テ窮奇象犀ハ、後ニ注スルナリ。

狀如水牛。象。大獸。長鼻。牙長一丈。俗呼爲窮奇猥誕。於是乃使專諸之倫手

格此獸。楚王乃駕馴駁之駟。漢書音義曰。馴。擾也。駁。如馬。白身黑尾。一角。鋸牙。食虎豹。而駕之以當駟馬也。乘雕

王之輿。靡魚須之橈旒。郭璞曰。以海魚須爲旒旒。言橈弱也。通帛爲旒也。曳明月之珠旗。漢書音義曰。干將。韓王劍師。雄戟。胡中有鉞者。干將所造也。○索隱曰。應劭云。干將。吳善冶者。姓。如淳曰。干將。鐵所出。晉灼曰。閭閻鑄干將劍。應劭說是。方言云。戟。中小子刺者。所謂雄戟也。周處風土記云。戟爲五兵雄也。鉞音巨。案周禮。冶氏爲戈。胡三之。注云。胡。其子也。又周禮圖。謂戟反曲下爲胡也。

珠綴飾旗。建干將之雄戟。漢書音義曰。干將。韓王劍師。雄戟。胡中有鉞者。干將所造也。○索隱曰。應劭云。干將。吳善冶者。姓。如淳曰。干將。鐵所出。晉灼曰。閭閻鑄干將劍。應劭說是。方言云。戟。中小子刺者。所謂雄戟也。周處風土記云。戟爲五兵雄也。鉞音巨。案周禮。冶氏爲戈。胡三之。注云。胡。其子也。又周禮圖。謂戟反曲下爲胡也。

左烏嗥之雕弓。索隱曰。張揖云。黃帝乘龍上天。小臣不得上。挽持龍鬣。髻拔墮黃帝弓。羣臣抱弓而號。故名烏號。見封禪書及郊祀志文。又韓詩外傳云。弓工之妻曰。此弓是泰山南烏號之柘。案淮南子云。烏號柘桑。其材堅勁。烏棲其上。將飛枝勁。復起。標呼其上。伐取其材爲弓。因曰烏號。古史考風俗通皆同。此說也。右

夏服之勁箭。徐廣曰。韋昭云。夏。夏羿也。矢室名曰服。呂靜曰。步又謂之服也。○索隱曰。案夏羿善射者。又服箭之室。故云夏服。又夏后氏有良弓名繁弱。其矢亦良。卽繁弱。

陽子驂乘。纖阿爲御。漢書音義曰。陽子。僊人陽陵子。纖阿。月御也。韋昭曰。陽子。古賢也。○索隱曰。張揖云。陽子。伯樂也。孫陽字伯樂。秦繆公臣。善御者也。或曰。纖阿。美女姣好貌。又樂彥曰。纖阿。山名。

有女子處其巖。月歷數度。躍入月中。因爲月御也。郭璞云。纖阿。古之善御者。

案節未舒。

案節未舒。





諸蘼、蘼且、錢大昕曰、  
傳且、漢書巴且二作ル、  
即巴蕉ナリ、巴ト傳ト  
且ト蕉ト、聲皆相近シ。  
案衍境曼、顏師古曰、  
寬廣ノ貌ナリ。

則生蕺斯苞荔、錢大昕  
曰、漢書蕺ナ析ニ作リ、  
文選蕺ニ作ル、析蕺聲  
相近シ、釋草云、蕺葉  
大薺、說文析ニ作ル。

東薺雕胡注索隱郭璞云  
似薺、札記似薺ニ作ル、  
呼爲烏燕、烏燕ニ作  
ル、云フ薺ナ薺ニ誤リ、  
藍ナ燕ニ誤ル、考證改  
。

名江離。芎藭苗也。則芎藭、藁本、江離、蘼蕪、並相似。備是一物也。傳音普各

反。且音子餘反。漢書作巴且。文穎云。巴蕉也。郭璞以爲藁荷屬。未知孰是。其南。則有平

原廣澤。登降陲靡。音移案衍壇曼。索隱曰。司馬彪云。案衍。瓠下。壇曼。平博也。衍音弋單反。壇音徒旦反。緣以

大江。限以巫山。郭璞曰。巫山。今在建平巫縣也。其高燥。則生歲斯苞荔。徐廣曰。歲音針。馬藍也。斯或曰

草生水中。華可食。荔音力詣反。草似蒲。駟案。漢書音義曰。苞。薺也。○索隱曰。斯音斯。郭璞云。歲

酸醬。江東名烏薺。斯。漢書作析。孟康云。薺。禾似燕麥。廣志云。涼州地生析草。皆中國苗。燕麥是

也。薛莎青蘋。徐廣曰。薛音先結反。駟案。漢書音義曰。薛賴蒿也。莎。蒿侯也。青蘋似莎而大也。音煩。其卑溼。則生藏蓂蓂

葭。東薺雕胡。徐廣曰。烏桓國有薺似蓬草。實如葵子。十月熟。駟案。漢書音義曰。藏似亂而葉大。蓂。蓂尾草也。薺。蘆也。○索隱曰。卑音婢。卑下也。郭璞云。蓂

尾似茅。薺葭音兼加。孟康云。薺葭似蘆也。郭璞云。薺。蔽也。似薺而細小。江東人呼爲薺蒿。又云。

葭。蘆也。似薺而細小。江東人呼爲烏燕。亂音五患反。蔽音蔽。廣志云。東薺子色青黑。河西記云。

貸我東薺。償我白蓮藕菰蘆。徐廣曰。生水中。○索隱曰。郭璞云。菰。蔣也。蘆。葦也。菴蘭軒芋。漢書音義曰。奄閭。蒿也。軒

芋。薺草也。○索隱曰。郭璞云。菴蘭子可療病也。軒芋。生水中。今楊州有之。

衆物居之。不可勝圖。郭璞曰。圖。畫也。其西。則

有湧泉清池。激水推移。外發芙蓉。蔕華。內隱鉅石白沙。其中。則



金銀。

正義曰。顏云。錫。青金也。碧。謂玉之青白色者也。

衆色炫耀。照爛龍鱗。

郭璞曰。如龍之鱗采。

其石則赤

玉玫瑰。

郭璞曰。赤瑾也。見楚辭。玫瑰。石珠也。

琳瑯琨瑀。

漢書音義曰。琳。玉也。瑯。石次玉者。琨瑀。山名也。出善金。尸子曰。昆吾之金者。○索隱曰。司

馬彪曰。琨瑀。石之次玉也。河圖云。流州多積石。名琨瑀。石。鍊之成鐵。以作劍。光明如水精。案字或作昆吾也。

瑋玢玄厲。

徐廣曰。瑋。音古咸反。玢。音勒。皆次玉者。瑠

案漢書音義曰。玄厲。黑石可用磨者。瑱石武夫。

徐廣曰。石似玉。瑠案漢書音義曰。瑱石出鴈門。武夫出長沙也。

其東則有蕙圃

衡蘭。芷若射干。穹窮昌蒲。

漢書音義曰。衡。杜衡也。其狀若葵。其臭如麝蕪。芷。若。若。杜若。○索隱曰。司馬彪云。蕪。香草也。本草云。蕪

聖ハ白聖ナリ、顏師古曰、丹沙ハ今ノ朱沙ナリ、青膺ハ今ノ空青ナリ、緒ハ今ノ赤土ナリ、聖ハ今ノ白土ナリ、聖音惡、附音附。赤玉玫瑰注郭璞曰、下、札記赤玉二字アリ、云フ舊刻本此二字アリ、各本脫ス。瑋玢玄厲、錢大昕曰、說文ニ、玲瑯、石之次玉者、即此瑋玢ナリ。瑋石武夫、張揖曰、瑋石ハ白者冰ノ如ク、半ハ赤色アリ、武夫ハ瑋欲ニ作ル、赤地白采、蕪籠トシテ白黑分タズ。芷若射干、凌稚隆曰、考要云、此賦玄鶴ヲ三用シ、野干ヲ三用ス、漢書文選芷若ノ下、射干ノ字ナシ、師古李善並ニ謂フ、俗本誤テ増スト、其騰遠射干ト云フハ、乃狐ノ類、其藁本射干ト云フハ、乃香草ナリ、其板ヲ嫌ハザルナリ、又赤援蠶絲犀象野牛窮奇獫狁ノ句ノ若キ、漢書文選俱ニ之ナシ、二書誤脫カ、抑亦後人増ス所カ知ラズ。

江離麝蕪。諸蔗獐且。

徐廣曰。獐音匹沃反。騶案漢書音義曰。江離。香草。麝蕪。蘼芷也。似蛇牀而香。諸蔗。甘柘也。獐且。蕤荷也。○索隱曰。吳錄曰。

臨海縣海水中生江離。正青似亂髮。即離騷所云者是也。廣志云。赤葉紅華。則與張勃所說又別。案今芎藭苗曰江離。綠葉白華。又不同。樊光曰。藁本一名麝蕪。根名蘼芷。藥對以爲麝蕪一

覽於有無、集評云、國中河者有リト爲シ、何者無シト爲スヲ觀ルナリ。

陂池陂陲、郭璞曰、音ハ旁類ナリ、連屬ナリ、罷音敷、數音葵、陂音馳。下屬江河、顏師古曰、山ノ廣大連ル所ノ者遠キナ言フナリ。丹青赭堊云云、張揖曰、丹ハ丹沙ナリ、青ハ青麤ナリ、赭ハ赤赭ナリ、

國之鄙人也。幸得宿衛十有餘年。時從出游。游於後園。覽於有無。然猶未能徧觀也。又惡足以言其外澤者乎。齊王曰。雖然。略以子之所聞見而言之。僕對曰。唯唯。臣聞楚有七澤。嘗見其一。未觀其餘也。臣之所見。蓋特其小小者耳。

索隱曰。郭璞曰。特。獨也。

名曰雲夢。

索隱曰。褚詮音亡棟反。又音莫風反。裴駰云。孫叔敖激沮水作此澤。張揖云。楚薺也。在南郡華容縣。郭璞曰。江夏安陸有雲夢城。南郡枝江亦有雲夢城。華容縣又有巴丘湖。俗云卽古雲夢澤也。則張揖云在華容者。指此湖也。今案安陸東見有雲夢城雲夢縣。而枝江亦有者。蓋縣名遠取此澤。故有城也。雲夢者。方九百里。其中

有山焉。其山則盤紆崑鬱。隆崇嶺峯。岑巖參差。日月蔽虧。

漢書音義

曰。高山壅蔽日月。虧缺半見。○索隱曰。案漢書注此卷多不題注者姓名。解者云是張揖。亦兼有餘人也。

交錯糾紛。上干青雲。罷池

陂陲。下屬江河。其土則丹青赭堊。

徐廣曰。一作瑕。○索隱曰。張揖云。赭。赤土。出少室山。堊。白土。本草云。一名白礬也。

雌黃白垺。

徐廣曰。音符。蠡案漢書音義曰。白符。白石英也。○索隱曰。白垺出魯陽山。蘇林音附。○正義曰。藥對曰。雌黃出武都山谷。與雄黃同山。

錫碧



由チ標シ、兼テ其指意  
ヲ發明シ、以テ脈絡ト  
爲ス、是ニ非レバ、則  
散漫ニシテ統紀ナシ。

脚麟注說文云云、札記  
云、說文、一脚二字ナ  
シ、按ニ文選集評、陸  
機詩疏チ引テ云フ、今  
并州ニ麟アリ、大小鹿  
ノ如シ、瑞應ノ麟ニ非  
ズ、相如賦脚麟ハ、此  
ヲ謂フ、脚ハ其脚ヲ持  
スルヲ謂フ。

其辭曰。楚使子虛使於齊。齊王悉發境內之士。備車騎之衆。與使者出田。田罷。子虛過詫。烏有先生。郭璞曰。詫。誇也。音託夏反。○索隱曰。過音戈。詫音勅亞反。而無

是公在焉。坐定。烏有先生問曰。今日田樂乎。子虛曰。樂獲多乎。

曰。少。然則何樂。曰。僕樂齊王之欲夸僕以車騎之衆。而僕對以

雲夢之事也。曰。可得聞乎。子虛曰。可。王駕車千乘。選徒萬騎。田

於海濱。列卒滿澤。罟罔彌山。郭璞曰。罟。置也。音浮。○正義曰。說文云。罟。兔罟也。今幡車罟也。彌。竟也。揜。兔。麟

鹿。射麋。脚麟。徐廣曰。麟音吝。駟案郭璞曰。腳。持足。麟。車轢。○索隱曰。韋昭云。腳謂持一脚也。司馬彪曰。腳。持也。說文云。持。偏引一脚也。騶於鹽

浦。割鮮染輪。郭璞曰。鹽浦。海邊地。多鹽鹵。鮮。生肉也。染。搗也。音而沿反。又音而悅反。搗之於輪。鹽而食之。騶。馳也。音務。○索隱曰。染或爲淬。與下文尉割輪淬意

也。射中獲多。矜而自功。顧謂僕曰。楚亦有平原廣澤。游獵之地。

饒樂若此者乎。楚王之獵。何與寡人。郭璞曰。與。猶如。僕下車對曰。臣楚



テ、溫酒火爐ニ對スト爲ス、其義ヲ失ス。

給筆札、顏師古曰、札ハ木簡ノ薄ナル者ナリ、時ニ未ダ多ク紙ヲ用ヒズ、故ニ札ヲ給シ以テ書セシム。  
相如以子虛云云、方苞曰、史記載スル所ノ賦頌書疏甚略ス、氣體滯壅スル所ト爲ルヲ恐ルルナリ、長卿事跡稱スベキナシ、故ニ獨其文ヲ編シテ、以テ傳ト爲シ、而テ各文ヲ著スノ

其人材足依也。且又令客獨奈何相辱如此。卓王孫不得已分

予文君僮百人。錢百萬。及其嫁時衣被財物。文君乃與相如歸

成都買田宅爲富人。居久之。蜀人楊得意爲狗監待上。郭璞曰。主獵犬也。

上讀子虛賦而善之曰。朕獨不得與此人同時哉。得意曰。臣邑

人司馬相如自言爲此賦。上驚。乃召問相如。相如曰。有是然此

乃諸侯之事。未足觀也。請爲天子游獵賦。賦成奏之上。許令尙

書給筆札。相如以子虛虛言也。爲楚稱。郭璞曰。稱說楚之美。烏有先生者。徐廣

曰。烏一鳥有此事也。爲齊難。郭璞曰。詰難楚事也。無是公者。無是人也。明天子

之義。郭璞曰。以爲折中之談也。故空藉此三人爲辭。索隱曰。藉音假借。與積同音。以推天子諸

侯之苑囿。其卒章歸之於節儉。因以風諫。奏之天子。天子大說。

亡奔相如注婚不以禮爲節也、札記節亡亡作ル、云フ亡疑フ當ニ奔ニ作ルベシ。

乃興馳歸、札記下ニ成都二字アリ、云フ蔡本中統游毛本雜志宋引注、及文選左思詠史詩注史ヲ引キ、錢警石吳汪校柯本ヲ引ク、並ニ成都二字アリ、舊刻及王柯凌本並ニ脱ス。

家居徒四壁立、札記雜志云、居ハ即家ナリ、左思詠史詩注、引テ居徒四壁立ニ作ル、御覽百八十七引テ、家徒四壁立ニ作ル、漢書ト合ス、疑フ異文アリ、後人誤ッ并ス。

第俱如臨邛、顏師古曰、第ハ但ナリ、發聲ノ急ノミ、酈食其曰、第言之、此類甚ダ多シ、義且ニ非ズ、札記云、索隱本俱字ナシ、疑フ後人漢書ニ依テ増ス。

令文君當鑪、顏師古曰、寶酒ノ處、土チ果テ盧ヲ爲リ、以テ酒瓮チ居ク、四邊隆起シ、其一面高ク、形銀盧ノ如シ、故ニ盧ト名クルノミ、而テ俗學者、皆盧チ謂

人重賜文君侍者通殷勤文君夜亡奔相如索隱曰郭璞云婚不以禮爲節也相如

乃與馳歸家居徒四壁立郭璞曰言貧窮也○索隱曰案孔文祥云徒空也伏後家空無資儲但有四壁而已言就此中以安立也卓

王孫大怒曰女至不材我不忍殺不分發後厚分女財與男等同一錢也人或謂王孫王

孫終不聽文君久之不樂曰長卿第俱如臨邛索隱曰文穎云第且也郭璞云第發語之

急耳如從昆弟假貸猶足爲生何至自苦如此相如與俱之臨邛

盡賣其車騎買一酒舍酤酒而令文君當鑪韋昭曰鑪酒肆也以土爲墮邊高似鑪相

如身自著犢鼻褌韋昭曰今三尺布作形如犢鼻矣稱此者言其無恥也今銅印言犢紐此其類矣與保庸雜作

方言曰保庸謂之滌器於市中韋昭曰瓦器也每食必滌溉者卓王孫聞而恥之爲杜

門不出昆弟諸公郭璞曰諸公父行也更謂王孫曰有一男兩女所不足者

非財也今文君已失身於司馬長卿長卿故倦游郭璞曰厭游宦也雖貧



相如不得已彊往、漢書  
不上爲字アリ、顔師古  
曰、衆人ニ示スニ、此  
意ヲ以テスルナリ。  
一坐盡傾、顔師古曰、  
皆其風采ヲ傾慕スルナ  
リ。  
前奏琴、奏ハ進ナリ。

肅臨邛中多富人。而卓王孫家僮八百人。程鄭亦數百人。二人  
乃相謂曰。令有貴客。爲具召之。并召令。令既至。卓氏客以百數。  
至日中。謁司馬長卿。長卿謝病不能往。臨邛令不敢嘗食。自往  
迎相如。相如不得已彊往。一坐盡傾。酒酣臨邛令前奏琴曰。竊  
聞長卿好之。願自娛。相如辭謝爲鼓一再行。  
也。此言鼓一再行。謂一兩曲。  
是時卓王孫有女文君新寡。好音。故相如繆與令相  
重。而以琴心挑之。  
情事  
郭璞曰。以琴中音挑動之。○索隱曰。張揖云。挑。嬈也。以琴中嬈之。  
挑音徒了反。嬈音如了反。其詩曰。鳳兮鳳兮。歸故鄉。遊遨四海求  
其皇。有一豔女在此堂。室邇人遐。毒我腸。何由交接爲。鴛鴦。父曰。鳳兮  
鳳兮。從皇栖得。託子尾永爲妃。交情通體必和諧。中夜相從別有誰。  
從車騎。雍容閒雅甚都。  
韋昭曰。閒讀曰閑。甚得都邑之容也。  
郭璞曰。都。猶妓也。詩曰。洵美且都。  
及飲卓氏弄  
琴。文君竊從戶窺之。心悅而好之。恐不得當也。既罷。相如乃使



氏春秋劍伎云持短入長倏忽縱橫之術也。魏文典論云餘好擊劍以短乘長是也。

故其親名之曰犬子。

索隱曰孟康云愛而字之也。

相如既學。

索隱曰案秦密云文翁遣相如受七經。

慕藺相如之爲人更名相如以貲爲

以貲爲郎ハ、顔師古曰、  
貲ハ財ナリ、家財多キ  
ヲ以テ拜シテ郎ト爲ル  
ヲ得ルナリ、按ニ貲ヲ  
出シテ郎ト爲ルナリ。

郎事孝景帝爲武騎常侍。

索隱曰張揖曰秩六百石常侍從格猛獸。

非其好也會景帝不

好辭賦是時梁孝王來朝從游說之士齊人鄒陽淮陰枚乘吳

莊忌夫子之徒。

徐廣曰名忌字夫子。○索隱曰案鄒陽傳云枚先生嚴夫子則此夫子是美稱時人以爲號爾而徐廣云字爲非漢書作嚴忌者案忌本

姓莊避明帝諱改姓嚴也。

相如見而說之因病免客游梁梁孝王令與諸生同

舍相如得與諸生游士居數歲乃著子虛之賦會梁孝王卒相

如歸而家貧無以自業素與臨邛令王吉相善吉曰長卿久宦

遊不遂而來過我於是相如往舍都亭。

索隱曰案臨邛郭下之亭也。

臨邛令繆

爲恭敬日往朝相如初尙見之後稱病使從者謝吉吉愈益謹

初尙見之ノ上札記相如  
二字アリ云、按此二字  
ナシ、按ニ漢書亦アリ。

# 史記評林卷之一百一十七

## 司馬相如列傳第五十七

索隱曰。此不宜在西夷之下。

楊慎曰。劉子玄史通云云。ハ、董份曰。相如集中ノ傳ハ乃傳ヲ校スル者、子長作ル所ノ傳ヲ取テ、之ニ附スルナリ、史通以テ相如自作ト爲ス、非ナリ。

學擊劍、類師古曰、擊劍ハ、劍ヲ以テ遙ニ撃チ、而テ之ヲ中ツ、斬刺ニ非ザルナリ。

楊慎曰。劉子玄史通云。相如傳具在相如集中。子長因錄斯篇。卽爲列傳。又按南史云。古之名人。相如孟堅子長皆自敍風流。傳芳末世。觀此則相如傳。卽相如之文也。又曰。按西京雜記云。相如爲上林子虛賦。意思蕭散。不復與外事相關。控引天地。錯綜古今。忽然如睡。煥然而興。幾百日而後成。其友人成覽嘗問以作賦。相如曰。合羣組以爲文。列錦繡而爲質。一經一緯。一宮一商。此賦之跡也。賦家之心。包括宇宙。總覽人物。斯乃得之于內。不可得而傳。覽乃作合組歌。列錦賦而退。終身不復敢言作賦矣。

朱翌曰。治生仕宦。自是兩途。少有俱進者。今人出仕之久。生理遂廢。司馬相如以貴爲武騎常侍。可謂富矣。至病免。客游梁。數歲而歸。貧無以自業。家徒四壁立。自古如此。不獨今然也。

司馬相如者。蜀郡成都人也。字長卿。少時好讀書。學擊劍。

索隱曰。呂

史記評林卷之一百一十六終



稱雄。及置郡縣。萬代推功。

滇王始首善、顏師古曰、  
初始以來、常ニ善意アルヲ言フ。

離難西南夷舉國降、札  
記云、漢書離字ナシ、  
師古注云、東撫シテ漢  
ニ事フルヲ言フ。

兵。擊滅勞漫靡莫。

索隱曰。二國與滇王同姓。

以兵臨滇。滇王始首善。以故弗誅。

滇王離難西南夷。舉國降。請置吏入朝。於是以為益州郡。賜滇

王王印。復長其民。西南夷君長以百數。總結上什數獨夜郎滇受王印。滇小

邑。最寵焉。

太史公曰。楚之先豈有天祿哉。在周為文王師。封楚。及周之衰。

地稱五千里。秦滅諸侯。唯楚苗裔尚有滇王。漢誅西南夷。國多

滅矣。唯滇復為寵王。然南夷之端。見枸醬番禺。大夏杖邛竹。西

夷後擯。剽分二方。史記音義曰。擯音翦。○索隱曰。擯。謂被分割也。剽音疋。妙反。言西夷後被擯割。遂剽居西南二方。各屬郡縣。剽亦分義。卒

為七郡。

徐廣曰。犍為。牂牁。越嶲。益州。武都。沈黎。汶山地也。

索隱述贊曰。西南外徼。莊蹻首通。漢因大夏。乃命唐蒙。勞漫靡莫。異俗殊風。夜郎最大。邛笮

且蘭君恐遠行云云、顔  
師古曰、兵ヲ發シ漢ト  
行ク後、其國空虛ニシ  
テ、而テ旁國來テ寇抄  
シ、其老弱ヲ取ルヲ恐  
ルナリ。

且蘭君恐遠行。旁國虜其老弱。

索隱曰。且音子餘反。小國名也。後爲縣屬牂牁。

乃與其衆反。

殺使者及犍爲太守。漢乃發巴蜀罪人營擊南越者八校尉。擊

破之。會越已破。漢八校尉不下。卽引兵還行。誅頭蘭。

索隱曰。卽且蘭也。

頭

蘭常隔滇道者也。已平頭蘭。遂平南夷。爲牂牁郡。夜郎侯始倚

南越。南越已滅。會還誅反者。夜郎遂入朝。上以爲夜郎王。南越

破後。及漢誅且蘭。邛君并殺笮侯。冉駹皆振恐。請臣置吏。乃以

邛都爲越雋郡。笮都爲沈犁郡。冉駹爲汶山郡。

應劭曰。今蜀郡岷江。

廣漢

西白馬爲武都郡。上使王然于以越破及誅南夷兵威。風喻滇

王入朝。滇王者。其衆數萬人。其旁東北有勞漫靡莫。皆同姓。相

扶未肯聽。勞漫靡莫數侵犯使者吏卒。元封二年。天子發巴蜀



言居大夏時見蜀布邛竹杖。

韋昭曰邛縣之竹屬蜀。瓚曰邛山名。此竹節高實中。可作杖。

使問所從

來曰從東南身毒國。

徐廣曰字或作竺。漢書直云身毒。史記一本作乾毒。闕案漢書音義曰一名天竺。則浮屠胡是也。○索隱曰身音捐。毒音

篤。小顏亦曰捐篤也。

可數千里得蜀賈人市或聞邛西可二千里有身毒國。

騫因盛言大夏在漢西南慕中國患匈奴隔其道誠通蜀身毒

國道便近有利無害於是天子乃令王然子柏始昌呂越人等

使閒出西夷西指求身毒國至滇滇王嘗羌乃留。

徐廣曰嘗一作賞。爲求

道西十餘輩歲餘皆閉昆明。

如淳曰爲昆明所閉道。○正義曰昆明在今嵩州南昆縣。

莫能通身毒

國滇王與漢使者言曰漢孰與我大及夜郎侯亦然以道不通

故各自以爲一州主不知漢廣大使者還因盛言滇大國足事

親附天子注意焉及至南越反上使馳義侯因犍爲發南夷兵。

滇王嘗羌、漢書嘗羌二作ル、顏師古曰、滇王ノ名ナリ。

道指牂牁江注索隱云云、札記云、牂牁已ニ上文ニ見ユ、當ニ此ニ至リ始テ釋スベカラズ、單本此條亦出シテ食重萬餘人後後ニ在リ、疑フ錯亂ナラン。

繪帛。以爲漢道險終不能有也。乃且聽蒙約還報。乃以爲犍爲

郡。發巴蜀卒治道。自犍道指牂牁江。

索隱曰。崔浩云。牂牁。繫船筏。以爲地名。道猶從也。地理志。夜郎又有豚水。

東至南海。四會入

海。此牂牁江也。

蜀人司馬相如亦言西夷邛笮可置郡。使相如以

郎中將往喻。皆如南夷。爲置一都尉。十餘縣屬蜀。當是時。巴蜀

四郡。

徐廣曰。漢中巴郡。廣漢。蜀郡。

通西南夷道。戍轉相饗。數歲道不通。士罷餓。

離濕死者甚衆。西南夷又數反。發兵興擊。耗費無功。上患之。使

公孫弘往視問焉。還對言其不便。及弘爲御史大夫。是時方築

朔方。以據河逐胡。弘因數言西南夷害可且罷。專力事匈奴。上

罷西夷。獨置南夷夜郎兩縣一都尉。

徐廣曰。元光六年。南夷始置郵亭。

稍令犍爲

自葆就。

正義曰。令犍爲自葆守。而漸修成其郡縣也。

及元狩元年。博望侯張騫使大夏來。

柯江廣數里。

正義曰。崔浩云。牂牁船棧也。常氏華陽國志云。楚頃襄王時。遣莊蹻伐夜郎。軍至且蘭。桵船於岸而步戰。既滅夜郎。以且蘭有桵船柯處。仍改其

名爲牂牁。

出番禺城下。蒙歸至長安。問蜀賈人。賈人曰。獨蜀出枸醬。

多持竊出市。夜郎。夜郎者。臨牂牁江。江廣百餘步。足以行船。南

越以財物役屬夜郎。西至同師。然亦不能臣使也。蒙乃上書說

上曰。南越王黃屋左纛。地東西萬餘里。名爲外臣。實一州主也。

今以長沙豫章往。水道多絕難行。竊聞夜郎所有精兵。可得十

餘萬。浮船牂牁江。出其不意。此制越一奇也。誠以漢之彊。巴蜀

之饒。通夜郎道。爲置吏。易甚。上許之。乃拜蒙爲郎中將。將千人。

食重萬餘人。

索隱曰。案食糧及輜重車也。音持用反。

從巴蜀笮關入。遂見夜郎侯多同。

蒙厚賜。喻以威德。約爲置吏。使其子爲令。夜郎旁小邑皆貪漢



ヲズ、索隱本及ビ漢書皆ナシ、注索隱而更淺狹、云フ後漢書而未更淺狹ニ作ル、此末字ヲ失ス、義通ズベカラズ、下正義同ジ。

秦時常類略通五尺、方苞曰、略ハ封略ナリ、封略シテ而テ道ヲ通ズルナリ。

開蜀故徼、札記雜志云、開當ニ關ト爲スベシ、俗書開ニ作リ、形似ニ因テ而テ誤ル、漢書正ニ關ニ作ル。

道西北犍犍犍犍江廣數里、札記荆阿ニ作ル、雜志云、漢書漢紀並ニ

池澤。在昆州晉寧縣西南三十里。其水源深廣而更淺狹。有似倒流。故謂滇池。

楚欲歸報。會秦擊奪楚巴黔中郡。道塞不通。因還。以其衆王滇。

變服從其俗。以長之。秦時常類略通五尺道。索隱曰。謂棧道廣五尺。○正義曰。括地志

云。五尺道在郎州。顏師古云。其處險阨。故道纔廣五尺。如淳云。道廣五尺。諸此國頗置吏焉。十餘歲。秦滅及漢

興。皆棄此國。而開蜀故徼。巴蜀民或竊出商賈。取其笮馬。焚僮

髦牛。正義曰。今益州南戎州北臨大江。古楚國。以此巴蜀殷富。索隱曰。韋昭云。楚屬犍爲。音蒲北反。服虔云。舊京師有楚婢。建

元六年。大行王恢擊東越。東越殺王郢以報。恢因兵威。使番陽

令唐蒙風指曉南越。正義曰。番音婆。南越食蒙蜀枸醬。徐廣曰。枸一作蒟。音

枸木似穀樹。其葉如桑葉。用其葉作醬。酢美。蜀人以爲珍味。○索隱曰。案晉灼枸音矩。劉德云。枸樹如桑。其椹長二三寸。味酢。取其實以爲醬美。小顏云。枸者。緣木而生。非樹也。今蜀土家出

枸實。不長二三寸。味辛。似薑不酢。劉說非也。廣志云。枸。色黑。味辛。下氣消穀。寢音求羽反。蒙問所從來曰。道西北犍犍犍犍

○正義曰。雋音臚。今澧州也。昆明。皆編髮。隨畜遷徙。正義曰。編步典反。畜許又反。皆雋昆明之俗也。母。

常處。毋君長。地方可數千里。自雋以東北。君長以什數。徙笮都

最大。徐廣曰。徙在漢嘉。笮音昨。在越雋。○索隱曰。服虔云。徙笮。二國名。韋昭云。徙縣在蜀。笮縣在越雋。○正義曰。徙音斯。括地志云。笮州本西蜀徼外。曰貓羌。雋地理志云。徙

縣也。華陽國志。雅州邛邛邰山。自笮以東北。君長以什數。冉駹最大。索隱曰。案

應劭云。汶江郡本冉駹。音亡江反。○正義曰。括地志云。蜀西徼外羌。茂州冉州本冉駹國地也。後漢書云。冉駹其山有六夷七羌九蠻。各有部落也。其俗或土著。

或移徙。在蜀之西。自冉駹以東北。君長以什數。白馬最大。索隱曰。案

夷邑名。即白馬氏也。○正義曰。括地志云。隴右成州武州。皆白馬氏。其豪族楊氏居成州仇池山上。皆氏類也。此皆巴蜀西南外。

蠻夷也。始楚威王時。使將軍莊蹻將兵循江上。正義曰。蹻其略反。郎州昆州即莊蹻所王。

略巴蜀黔中。以西。莊蹻者。故楚莊王苗裔也。索隱曰。蹻音矩灼反。蹻楚莊王弟。爲盜者。

至滇池。地方三百里。索隱曰。地理志。益州滇池縣。澤在西北。後漢書云。其池水源深廣而更淺狹。有似倒流。故謂滇池。○正義曰。括地志云。滇

躋至滇池地。札記雜志云。當二地字アルヘカ



史記評林卷之一百一十六

西南夷列傳第五十六

分敘

西南夷君長以什數

正義曰：在蜀之南。

夜郎最大。

索隱曰：劉氏數音所具反。鄒氏音所主反。荀悅云：夜郎，犍爲屬

國也。韋昭云：漢爲縣屬犍牂牁案後漢書云：夜郎東接交趾其地在胡南其君長本出於竹以竹而爲姓也。○正義曰：今瀘州南大江南岸協州曲州本夜郎國。

其西靡

莫之屬。

正義曰：在蜀南以下及西也。靡莫在姚州北。去京西南四千九百三十五里。卽靡莫之夷。

以什數滇最大。

如淳曰：滇音顛。

顛馬出其國也。○索隱曰：靡莫夷邑名。滇與同姓也。崔浩云：滇後爲縣屬越雋太守所理也。○正義曰：昆州郎州等本滇國。去京西五千三百七十里也。

自滇以北。

君長以什數。邛都最大。此皆魑結耕田有邑聚。

索隱曰：魑漢書作椎音直追反。結音計。

其外西自同師以東。

韋昭曰：邑名也。○索隱曰：漢書作桐師。

北至牂牁。

韋昭曰：在益州牂牁音葉。○正義曰：上音牂。

牂牁在靡北百餘里。漢牂牁縣在澤其益都靡非本桑榆生屬國也。

名爲雋昆明。

徐廣曰：永昌有雋唐縣。○索隱曰：崔浩云：雋昆明二國名。韋昭云：益州縣。

此皆魑結注漢書作椎、顛師古曰、結讀ア髻ト曰フ、髻椎ノ形ノ如キナリ、陸賈傳及ヒ貨殖傳、皆魑字ニ作ル、音義同ジキノミ、按ニ此注、當ニ上朝鮮傳魑結ノ下ニ在ルベシ。北至牂牁注正義云云、



史記評林卷之一百一十五終

最<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>父<sup>ノ</sup>死<sup>ニ</sup>頗<sup>ニ</sup>有<sup>ル</sup>功<sup>ヲ</sup>爲<sup>ス</sup>溫<sup>ノ</sup>陽<sup>ノ</sup>侯<sup>ニ</sup>、錢<sup>ノ</sup>大<sup>ノ</sup>昕<sup>ノ</sup>曰<sup>ク</sup>、溫<sup>ノ</sup>陽<sup>ノ</sup>當<sup>ニ</sup>表<sup>ニ</sup>從<sup>ヒ</sup>溫<sup>ノ</sup>陽<sup>ノ</sup>二<sup>ニ</sup>作<sup>ル</sup>ベシ、漢<sup>ノ</sup>書<sup>ノ</sup>亦<sup>ニ</sup>溫<sup>ノ</sup>陽<sup>ノ</sup>二<sup>ニ</sup>作<sup>ル</sup>。兵<sup>ノ</sup>本<sup>ノ</sup>列<sup>口</sup>、札<sup>ノ</sup>記<sup>ノ</sup>列<sup>ヲ</sup>洌<sup>ニ</sup>作<sup>ル</sup>、云<sup>フ</sup>索<sup>ノ</sup>隱<sup>ノ</sup>本<sup>ノ</sup>洌<sup>ニ</sup>各<sup>ノ</sup>本<sup>ノ</sup>列<sup>ニ</sup>譌<sup>ス</sup>。悔<sup>ノ</sup>失<sup>ノ</sup>番<sup>ノ</sup>禺<sup>ノ</sup>云<sup>ク</sup>、余<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>丁<sup>ノ</sup>曰<sup>ク</sup>、樓<sup>ノ</sup>船<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>番<sup>ノ</sup>禺<sup>ノ</sup>ヲ力<sup>ニ</sup>攻<sup>シ</sup>、反<sup>テ</sup>降<sup>者</sup>ヲ圖<sup>テ</sup>伏<sup>波</sup>ノ營<sup>ニ</sup>入<sup>ル</sup>、故<sup>ニ</sup>此<sup>ニ</sup>獨<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>降<sup>シ</sup>、已<sup>ノ</sup>功<sup>ト</sup>爲<sup>ント</sup>欲<sup>スル</sup>ナ<sup>リ</sup>。

太史公曰。右渠負固。國以絕祀。涉何誣功。爲兵發首。樓船將狹。

徐廣曰。言其及難離咎。悔失番禺。乃反見疑。荀彘爭勞。與遂皆誅。

兩軍俱辱。將率莫侯矣。

索隱述贊曰。衛滿燕人。朝鮮是王。王險置都。路人作相。右渠首羌。涉何調上。兆禍自斯。狐疑二將。山遂伏法。紛紜無狀。

主峽四ナリ、應氏乃五  
入ト云フ、誤讀句ヲ爲  
シ、尼谿チ人名ト謂フ、  
之ヲ失ス。

降相路人之子最、錢大  
昕曰、降字當ニ上ニ連  
ネ、句ト爲スベシ、長降  
ハ、右渠子ノ名ナリ、  
功臣表、長降ニ作ル、  
陷姑落切、降ト聲相近  
シ、小顏漢書ヲ注シ、謂  
フ相路人、前ニ已ニ漢  
ニ降リ、而テ道ニ死ス、  
故ニ之ヲ降相ト謂フト  
ト、此安ノ甚キナリ、  
下文長爲幾侯ノ下、亦  
當ニ降字アルベシ、  
陰爲菽荳侯注索隱菽音  
秋、錢大昕曰、漢書秋  
荳ニ作ル、而テ功臣表、  
菽荳ニ作り、師古音秋、  
史記表亦荻ニ作り、索  
隱音秋、未ダ孰カ是ナ  
ルナ知ラズ。

相路人名。相與謀曰。始欲降樓船。樓船今執。獨左將軍并將戰益

急。恐不能與戰。王又不肯降。陰啖路人皆亡降漢。路人道死。元

封三年夏。尼谿相參乃使人殺朝鮮王右渠來降。王險城未下。

故右渠之大臣成已又反。復攻吏。左將軍使右渠子長。

徐廣曰。表云張路。漢

書表云。張降相路人之子最。告諭其民誅成已。以故遂

定朝鮮爲四郡。封參爲濶清侯。陰爲菽

眞番。臨屯。樂浪。玄菟也。

荳侯。啖爲平州侯。長爲幾侯。陰爲菽

韋昭曰。屬勃海。○索隱曰。菽音秋。荳音子餘反。

韋昭曰。屬梁父。○河東。○索

隱曰。幾。最以父死。頗有功。爲溫陽侯。左將軍徵至。坐爭功

韋昭曰。屬齊。

相嫉。乖計棄市。樓船將軍亦坐兵至列口。當待左將軍。擅先縱。

失亡多。當誅。贖爲庶人。

索隱曰。蘇林云。列口。縣名。度海先得之。



天子曰將率不能前及使衛山、札記云、疑フ史誤アラシ、及ハ則誤字ナリ、漢書及チ乃ニ作ル。

公孫遂往征之、札記志疑云、征漢書正ニ作ル、通鑑考異曰、征字誤ル。

朝鮮相路人相韓陰云、韓陰漢書韓陶ニ作ル、顏師古曰、相路人一ナリ、相韓陰ニナリ、尼谿相參三ナリ、將軍

不相能。左將軍心意樓船前有失軍罪。今與朝鮮私善。而又不降。疑其有反計。未敢發。天子曰。將率不能前。及使衛山諭降。右渠。右渠遣太子。山使不能剗決。與左將軍計相誤。卒沮約。今兩將圍城。又乖異。以故久不決。使濟南太守公孫遂往征之。有便宜得以從事。遂至。左將軍曰。朝鮮當下久矣。不下者有狀。言樓船數期不會。具以素所意告。遂曰。今如此不取。恐爲大害。非獨樓船。又且與朝鮮共滅吾軍。遂亦以爲然。而以節召樓船將軍。入左將軍營計事。卽命左將軍麾下。執捕樓船將軍。并其軍。以報天子。天子誅遂。左將軍已并兩軍。卽急擊朝鮮。朝鮮相路人相韓陰。尼谿相參。將軍王啖。

漢書音義曰。凡五人也。戎狄不知官紀。故皆稱相。啖音煩。○索隱曰。路人。漁陽縣人。如淳云。相。其國。

見<sub>ニ</sub>信節<sub>ヲ</sub>。請服降<sub>ヲ</sub>。遣<sub>ニ</sub>太子<sub>ヲ</sub>入謝<sub>ス</sub>。獻<sub>ニ</sub>馬五千匹<sub>ヲ</sub>。及饋<sub>ニ</sub>軍糧<sub>ヲ</sub>。人衆萬餘。持<sub>シ</sub>兵<sub>ヲ</sub>。方渡<sub>ニ</sub>浪水<sub>ヲ</sub>。使者及左將軍疑<sub>ニ</sub>其爲變<sub>ヲ</sub>。謂太子已服降<sub>ス</sub>。宜<sub>ニ</sub>命<sub>ヲ</sub>人母<sub>ヲ</sub>持<sub>スル</sub>兵<sub>ヲ</sub>。太子亦疑<sub>ニ</sub>使者左將軍詐殺<sub>ス</sub>之<sub>ヲ</sub>。遂不渡<sub>ニ</sub>浪水<sub>ヲ</sub>。復引歸<sub>ル</sub>。山還報<sub>ニ</sub>天子<sub>ヲ</sub>。天子誅<sub>ス</sub>山。左將軍破<sub>ニ</sub>浪水上軍<sub>ヲ</sub>。乃前至<sub>ニ</sub>城下<sub>ヲ</sub>。圍<sub>ニ</sub>其西北樓船<sub>ヲ</sub>。亦往會<sub>シ</sub>。居城南<sub>ニ</sub>。右渠遂堅守<sub>ル</sub>城。數月未能下<sub>ス</sub>。左將軍素侍<sub>シテ</sub>中幸<sub>ニ</sub>。將<sub>ニ</sub>燕代卒<sub>ヲ</sub>悍乘勝<sub>ニ</sub>。軍多驕<sub>ル</sub>。樓船將<sub>ニ</sub>齊卒<sub>ヲ</sub>入海<sub>ニ</sub>。固已多敗亡<sub>ス</sub>。其先與<sub>ニ</sub>右渠戰<sub>フ</sub>。困辱亡<sub>ニ</sub>卒<sub>ヲ</sub>。卒皆恐<sub>ル</sub>。將心慙<sub>ニ</sub>。其圍右渠常持<sub>ニ</sub>和節<sub>ヲ</sub>。左將軍急擊<sub>ツ</sub>之<sub>ヲ</sub>。朝鮮大臣乃陰閒<sub>シ</sub>。使人私約<sub>シテ</sub>降<sub>ニ</sub>樓船<sub>ヲ</sub>。往來言<sub>フ</sub>。尙未肯決<sub>セ</sub>。左將軍數與<sub>ニ</sub>樓船期戰<sub>ヲ</sub>。樓船欲急就<sub>ニ</sub>其約<sub>ヲ</sub>。不會<sub>セ</sub>。左將軍亦使人求<sub>ニ</sub>閒郤<sub>ヲ</sub>。降<sub>セ</sub>下朝鮮<sub>ヲ</sub>。朝鮮不肯<sub>セ</sub>。心附<sub>ニ</sub>樓船<sub>ヲ</sub>。以故兩將

誘諭右渠、札記誘ヲ譙  
ニ作ル、注索隱誘一作  
譙四字ナシ、云フ索隱  
木譙、御覽七百八十引  
クト含ス、各本誘ニ作  
ル。

正義曰。顏師古云。長者。裨王名也。送何至浪  
水。何因刺殺也。按裨王及將士長。恐顏非也。

卽渡。馳入塞。

正義曰。入平  
州榆林關也。

遂歸報。

天子曰。殺朝鮮將。上爲其名美。卽不詰。

索隱曰。有殺  
將之美名。

拜何爲遼東

東部都尉。

正義曰。地理志云。遼東郡  
武次縣。東部都尉所理也。

朝鮮怨何。發兵襲攻殺何。天子

募罪人。擊朝鮮。其秋遣樓船將軍楊僕。從齊浮渤海。兵五萬人。

左將軍荀彘出遼東。討右渠。右渠發兵距險。左將軍卒正多率

遼東兵。先縱。敗散多還走。坐法斬。樓船將軍將齊兵七千人。先

至王險。右渠城守。窺知。樓船軍少。卽出城擊。樓船。樓船軍敗散

走。將軍楊僕失其衆。遁山中。十餘日。稍求收散卒。復聚。左將軍

擊朝鮮。浪水西軍。未能破。自前。天子爲兩將。未有。利。乃使衛山

因兵威。往諭右渠。右渠見使者。頓首謝。願降。恐兩將詐殺臣。今



秦故空地上下鄣。

索隱曰。案地理志。樂浪有雲鄣。

稍役屬眞番朝鮮蠻夷。及故燕

齊亡命者王之。都王險。

徐廣曰。昌黎有險瀆縣也。○索隱曰。韋昭云。古邑名。應劭注地理志云。遼東有險瀆縣。朝鮮王舊都。臣瓚云。王險城

在樂浪郡

會孝惠高后時。天下初定。遼東太守卽約滿爲外臣。保

塞外蠻夷。無使盜邊。諸蠻夷君長欲入見天子。勿得禁止。以聞

上許之。以故滿得兵威財物。侵降其旁小邑。眞番臨屯皆來服

屬。

索隱曰。東夷小國。後以爲郡。

方數千里。

正義曰。括地志云。朝鮮高驪。貉東沃沮。五國之地。國東西千三百里。南北二千里。在京師東。東至大海。四百里。

北至營州界九百二十里。南至新羅國六百里。北至靺鞨國千四百里。

傳子至孫右渠。

正義曰。其孫名也。

所誘漢亡人

滋多。又未嘗入見眞番。衆國欲上書見天子。又擁闕不通。元

封二年。漢使涉何誘諭右渠。

索隱曰。誘一作譙。說文云。譙讓也。諭曉也。譙音才笑反。

終不肯奉詔。

何去至界上。臨沮水。使御刺殺送何者。

索隱曰。卽送何之御也。

朝鮮裨王長。

眞番。衆國。札記云。宋本衆。辰。作ル。漢書眞番辰國。作ル。蓋卽後漢東夷傳所謂。辰韓。弁辰。ナル者。テリ。然ル。此。衆。二。作。ル。文。義。二。於。テ。亦。通。ス。又。擁。闕。顔。師。古。曰。擁。讀。テ。塞。ト。曰。フ。

# 史記評林卷之一百一十五

## 朝鮮列傳第五十五

張晏曰。朝鮮有濕水洌水汕水。三水合爲洌水。疑樂浪朝鮮取名於此也。○索隱曰。案朝音潮。直驕反。鮮音仙。以有汕水故名也。汕一音融。

朝鮮王滿者。

正義曰。潮仙二音。括地志云。高驪都平襄城。本漢樂浪郡王險城。又古云。朝鮮地也。

故燕人也。

索隱曰。案漢書。滿。燕人。姓

衛。擊破朝鮮

王而自王之。

自始全燕時嘗略屬眞番

徐廣曰。一作莫。遼東有番汗縣。番音普寒反。○索隱曰。始全燕時。謂六國

燕方全盛之時。常略二國以屬己也。應劭云。玄菟本眞番國。徐氏云。遼東有番汗縣者。據地理志而知也。

朝鮮爲置吏築鄣塞秦滅

燕屬遼東外徼漢興爲其遠難守復修遼東故塞至浪水爲界。

漢書音義曰。浪音傍沛反。○正義曰。地理志云。浪水出遼東塞外。西南至樂浪縣。西入海。浪音普大反。屬燕。燕王盧綰反入匈奴。滿

亡命正義曰。命。謂敎令。聚黨千餘人。魍結蠻夷服而東走出塞。渡浪水居

滿亡命注正義曰。命謂敎令。非ナリ。類師古曰。命ハ名ナリ。名籍ヲ脱シテ逃亡スルナリ。

索隱述贊曰。句踐之裔。是曰無諸。既席漢寵。寔因秦餘。騶駘爲姓。閩中是居。王搖之立。爰處東隅。後嗣不道。自相誅鋤。

史記評林卷之一百一十四終



石侯。封<sub>二</sub>橫海將軍<sub>一</sub>。說<sub>二</sub>爲案道侯<sub>一</sub>。封<sub>二</sub>橫海校尉福<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>繚嫫侯<sub>一</sub>。漢書音義

曰。音遼縈。○索隱曰。音繚。縣名。服虔曰。嫫音瑩。劉伯莊音紆營反。福者成陽共王子。故爲<sub>二</sub>海常侯<sub>一</sub>。坐<sub>レ</sub>法失<sub>二</sub>

侯。舊從軍無功。以宗室故。侯諸將皆無成功。莫封<sub>二</sub>東越將多軍<sub>一</sub>。

舊從軍無功、札記云、毛本舊ナ奮ニ作ル、義勝ルニ似タリ、漢書但從軍ト云フ。

漢書音義曰。多軍名也。索隱曰。韋昭云。多。姓。軍名也。漢兵至。弃<sub>二</sub>其軍降<sub>一</sub>。封爲<sub>二</sub>無錫侯<sub>一</sub>。於是天子曰。

東越狹多阻。閩越悍數反覆。詔<sub>二</sub>軍吏皆將其民徙處<sub>二</sub>江淮閒<sub>一</sub>。東

越地遂虛。

太史公曰。越雖蠻夷。其先豈嘗有<sub>二</sub>大功德於民哉<sub>一</sub>。何其久也。歷<sub>二</sub>

數代常爲<sub>二</sub>君王<sub>一</sub>。句踐一稱伯。然餘善至大逆。滅國遷衆。其先苗

裔繇王居股等。猶尙封爲<sub>二</sub>萬戶侯<sub>一</sub>。由此知越世世爲<sub>二</sub>公侯<sub>一</sub>矣。蓋

禹之餘烈也。

若邪白沙注正義云云、札記云、蓋從如此邪五字、當二預州ノ上ニ在ルベシ、錢警石云、漢書如邪二作リ、此若邪ニ作ル、正義蓋若如一義也ト謂フ、上下文俱ニ脫譌アリ、通鑑綱目、越州有若邪山若邪溪、蓋從此邪字、山在二州東南四十里、溪在二會稽縣東南、北流二十五里、與二照湖一合、案白沙東故閩州也トアリ。轅絡古、札記絡ヲ終ニ作ル、云フ王柯浚本終ヲ絡ニ譌ス。

將軍出若邪白沙。

索隱曰。案姚氏云。若邪地名。今闕。○正義曰。越州有若邪山。若邪溪。若如一。預州有白沙山。蓋從如此邪。白沙東故閩州。

元

封元年冬。咸入東越。東越素發兵距險。使徇北將軍守武林。敗

樓船軍數校尉。殺長吏。樓船將軍率錢唐轅絡古。

一本絡作終。正義曰。錢唐。杭州縣。轅姓。絡古名。

斬徇北將軍。爲禦兒侯。

漢書音義曰。今吳南亭是也。○正義曰。禦字今作語。語兒鄉。在蘇州嘉興縣南七十里臨官道也。

自兵

未往。故越衍侯吳陽前在漢。漢使歸諭餘善。餘善弗聽。及橫海

將軍先至。越衍侯吳陽以其邑七百人反攻越軍於漢陽。從建

成侯敖與其率從。繇王居股謀曰。

徐廣曰。敖。東越臣。

餘善首惡。刳守吾屬。

今漢兵至。衆彊計殺餘善。自歸諸將。儻幸得脫。乃遂俱殺餘善。

以其衆降橫海將軍。故封繇王居股爲東成侯。

索隱曰。韋昭云。在九江。

萬戶。

封建成侯敖爲開陵侯。

索隱曰。徐廣云。敖。東越臣。韋昭云。開陵屬臨淮。

封越衍侯吳陽爲北

屯豫章梅嶺注、正義云、札記、錢警石云、通鑑綱目集覽、正義ナ引キ、豫章記云、梅嶺在西山極城處ノ十二字アリ、括地志ノ上ニ在リ、按ズルニ下云フニ所未詳ハ、豫章記括地志ニ設同ジカラザルヲ謂フナリ、今本正義ノ文全カラズ。

不至。是時樓船將軍楊僕使<sub>ニ</sub>使<sub>ニ</sub>上書。願便引<sub>レ</sub>兵擊<sub>ニ</sub>東越<sub>ニ</sub>。上曰。士

卒勞倦。不<sub>レ</sub>許。罷<sub>ニ</sub>兵<sub>ニ</sub>。令<sub>ニ</sub>諸校屯<sub>ニ</sub>豫章梅嶺<sub>ニ</sub>待命<sub>ニ</sub>。徐廣曰。在會稽界。○索隱曰。徐說非也。案今豫章三

十里有梅嶺。在供崔山。當古驛道。此文云豫章梅嶺。知非會稽也。○正義曰。括地志云。梅嶺在虔化縣東北百二十八里。虔州漢亦屬豫章郡。二所未詳。元鼎六年

秋。餘善聞<sub>ニ</sub>樓船請誅<sub>ニ</sub>之<sub>ニ</sub>。漢兵臨境。且<sub>ニ</sub>往<sub>ニ</sub>。乃遂反。發<sub>ニ</sub>兵<sub>ニ</sub>距<sub>ニ</sub>漢道<sub>ニ</sub>。號<sub>ニ</sub>

將軍驕力等<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>吞漢將軍<sub>ニ</sub>。入<sub>ニ</sub>白沙武林<sub>ニ</sub>。徐廣曰。在豫章界。○索隱曰。案今豫章北二百里接鄱陽界。地名白

沙。有<sub>ニ</sub>小水入潮<sub>ニ</sub>。名曰白沙。沙東南八十里有武陽亭。亭東南三十里地名武林。此白沙武林。今當閩越之京道。梅嶺。殺<sub>ニ</sub>漢三校尉<sub>ニ</sub>。是時

漢使<sub>ニ</sub>大農張成<sub>ニ</sub>。故山州侯齒<sub>ニ</sub>。徐廣曰。城陽共王子。將<sub>ニ</sub>屯<sub>ニ</sub>弗敢擊<sub>ニ</sub>。卻就<sub>ニ</sub>便處<sub>ニ</sub>。皆

坐<sub>ニ</sub>畏懦<sub>ニ</sub>誅<sub>ニ</sub>餘善<sub>ニ</sub>。刻<sub>ニ</sub>武帝璽<sub>ニ</sub>自立<sub>ニ</sub>。詐<sub>ニ</sub>其民<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>妄言<sub>ニ</sub>。天子遣<sub>ニ</sub>橫海將

軍韓說<sub>ニ</sub>出<sub>ニ</sub>句章<sub>ニ</sub>。索隱曰。鄭氏句音鉤。會稽縣也。○正義曰。句章故城在越州鄞縣西一百里。漢縣。浮海從<sub>ニ</sub>東方<sub>ニ</sub>往<sub>ニ</sub>。

樓船將軍楊僕出<sub>ニ</sub>武林<sub>ニ</sub>。中尉王溫舒出<sub>ニ</sub>梅嶺<sub>ニ</sub>。越侯爲<sub>ニ</sub>戈船<sub>ニ</sub>下瀨



鏐殺王。

索隱曰。劉氏鏐。音窻。鏐。撞也。

使使奉其頭致大行。大行曰。所爲來者誅。

王。今王頭至。謝罪不戰而耘。

徐廣曰。漢書作殂。耘義當取耘除。或言耘音于粉反。此楚人聲重耳。隕耘當同音。但字有假借。聲有。

輕重。利莫大焉。乃以便宜案兵。告大農軍。而使使奉王頭。馳報天

子。詔罷兩將兵。曰。郢等首惡。獨無諸孫。絲君丑不與謀焉。

音搖。絲者。邑號。丑。名也。

乃使郎中將立丑爲越絲王。奉閩越先祭祀。餘善已

殺郢。威行於國。國民多屬。竊自立爲王。絲王不能矯其衆。持正

天子聞之。爲餘善不足復興師。曰。餘善數與郢謀亂。而後首誅

郢。師得不勞。因立餘善爲東越王。與絲王竝處。至元鼎五年。南

越反。東越王餘善上書請以卒八千人。從樓船將軍擊呂嘉等。

兵至揭陽。以海風波爲解。不行。持兩端。陰使南越及漢破番禺。

不戰而耘注。徐廣曰云。惠棟曰。此耘字。誤。漢書殂。二年傳。隕子辱矣。說文引。耘。今字。隕。今字。徐氏耘除。說之。失。

天子弗振、振ハ救ナリ、  
當安所告愬、札記當上  
彼字アリ、云フ舊刻彼  
字アリ。

又何以子萬國乎。上曰。太尉未足與計。吾初卽位。不欲出虎符。  
發兵郡國。乃遣莊助。以節發兵會稽。會稽太守欲距不爲發兵。  
助乃斬一司馬。諭意指。遂發兵浮海。救東甌。未至。閩越引兵而  
去。東甌請舉國徙中國。乃悉舉衆來處江淮之間。徐廣曰。年表云。東  
甌王廣武侯望率  
其衆四萬餘人來降。家廬江郡。  
○索隱曰。徐廣據年表而爲說。

至建元六年。閩越擊南越。南越守天子  
約。不敢擅發兵擊。而以聞。上遣大行王恢出豫章。大農韓安國  
出會稽。皆爲將軍。兵未踰嶺。閩越王郢發兵距險。其弟餘善乃  
與相宗族。謀曰。王以擅發兵擊南越。不請。故天子兵來誅。今漢  
兵衆彊。今卽幸勝之。後來益多。終滅國而止。今殺王以謝天子。  
天子聽罷兵。固一國完不聽。乃力戰不勝。卽亡入海。皆曰。善。卽

世俗號爲東甌王、錢大昕曰、封禪書ニ、越人勇之言フ、東甌王鬼ヲ敬シ、壽百六十歳ニ至ルト、卽東海王搖ナリ。

天子問太尉田蚡、錢大昕曰、按ズルニ建元二年蚡已ニ太尉ヲ罷ム、此時蓋列侯ヲ以テ朝請ヲ奉ズ、武帝猶前官ヲ以テ之ヲ稱ス。

何乃越也、札記云、中統游本乃チ必ニ作ル。

閩君搖功多。其民便附。乃立搖爲東海王。應劭曰。在吳郡東南濱海云。都東甌。

徐廣曰。今之永寧也。○索隱曰。姚氏云。甌。水名。永嘉記。水出寧山。行三十餘里。去郡城五里入江。昔有東甌王都城。有亭積石爲道。今猶在也。世俗號爲東

甌王。後數世。至孝景三年。吳王濞反。欲從閩越。閩越未肯行。獨

東甌從吳。及吳破。東甌受漢購。殺吳王丹徒。以故皆得不誅歸

國。吳王子駒亡走閩越。怨東甌殺其父。常勸閩越擊東甌。至

建元三年。閩越發兵圍東甌。東甌食盡。困且降。乃使人告急天

子。天子問太尉田蚡。蚡對曰。越人相攻擊。固其常。又數反覆。不

足以煩中國往救也。自秦時。弄弗屬。於是中大夫莊助詰蚡曰。

特患力弗能救。德弗能覆。誠能何故弄之。且秦舉咸陽而弄之。

何乃越也。今小國以窮困來告急天子。天子弗振。當安所告愬。



# 史記評林卷之一百一十四

## 東越列傳第五十四

閩越王無諸。

韋昭曰。閩音武巾反。東越之別名。○索隱曰。案說文云。閩。東越蛇種也。故字從虫門聲。音旻。

及越東海王搖

者。其先皆越王句踐之後也。姓騶氏。

徐廣曰。騶一作駱。○索隱曰。徐廣說是。上云甌駱。此別云閩。不姓騶也。

秦已并天下。皆廢爲君長。以其地爲閩中郡。

徐廣曰。今建安侯官是。○索隱曰。小顏以爲卽今之

泉州建安也。○正義曰。今閩州又改爲福也。

及諸侯畔秦。無諸搖率越歸鄱陽。令吳芮所謂

鄱君者也。從諸侯滅秦。當是之時。項籍主命。弗王。

漢書音義曰。主號令諸侯。不王。無諸

搖等。

以故不附楚。漢擊項籍。無諸搖率越人佐漢。漢五年。復立無

諸爲閩越王。王閩中故地。都東冶。孝惠三年。舉高帝時越功。曰。

疫。佗得以益驕。甌駱相攻。南越動搖。漢兵臨境。嬰齊入朝。其後  
亡國。徵自樛女。呂嘉小忠。令佗無後。樓船從欲。怠傲失惑。伏波  
困窮。智慮愈殖。因禍爲福。成敗之轉。譬若糾墨。

索隱述贊曰。中原鹿走。羣雄莫制。漢事西馳。越推南裔。陸賈聘說。尉佗去帝。樛后內朝。呂  
嘉狼戾。君臣不協。卒從剿絕。

史記評林卷之一百一十三終

建德封爲海常侯。

徐廣曰。在東萊。

越郎

徐廣曰。南越之郎官。

都稽

徐廣曰。表曰。孫都。

得嘉封爲

臨蔡侯。

索隱曰。案表。屬河內。

蒼梧王趙光者。越王同姓。聞漢兵至。及越揭陽令定

韋昭曰。揭音其逝反。○索隱曰。

及越揭陽令定。自定屬漢。越桂林監居翁。皆得爲侯。地理志。揭陽縣屬南海。揭音桀。劉氏音求。例反。定者。令之名也。案漢功臣表云。定。揭陽令。意又別。

自定屬漢。越桂林監居翁。

漢書

音義曰。桂林郡中監。姓居。名翁也。

諭。甌駱屬漢。

索隱曰。案漢書。甌駱四十餘萬口降漢。

皆得爲侯。

索隱曰。案漢書云。光聞漢兵至

皆得爲侯。注桃侯。漢書及七年表。隨桃侯二作。注。騶。斯。降。封爲桃侯。揭陽令爲安道侯。越將軍取爲。廛侯。桂林監居翁爲。湘城侯。韋昭云。湘城屬堵陽。桃安道。廛三縣皆屬南陽。廛音遼也。

戈船下厲將軍兵。

及馳義侯所發夜郎兵未下。南越已平矣。遂爲九郡。

徐廣曰。儋耳。珠崖。南海。蒼

梧。九真。鬱林。日南。合浦。交趾。○索隱曰。徐廣皆據漢書爲說。

伏波將軍益封。樓船將軍兵以陷堅爲將

梁侯。自尉佗初王後五世九十三歲而國亡焉。

太史公曰。尉佗之王本由任囂。遭漢初定列爲諸侯。隆慮離溼



在始興西三百里。近連口也。廣州記。石門在番禺縣北二十里。昔呂嘉拒漢積石於江。名曰石門。又俗云。石門水名。貪泉。飲之則令人變。故吳隱之至石門。酌水飲。乃爲歌也。

得

越船粟。因推而前。挫越鋒。以數萬人待伏波。伏波將軍將罪人。

道遠。會期後。與樓船會。乃有千餘人。遂俱進。樓船居前。至番禺。

建德嘉皆城守。樓船自擇便處。居東南面。伏波居西北面。會暮。

樓船攻敗越人。縱火燒城。越素聞伏波名。日暮。不知其兵多少。

伏波乃爲營。遣使者招降者。賜印。復縱令相招。樓船力攻燒敵。

反驅而入伏波營中。犁旦。城中皆降伏波。

犁旦爲遲旦。謂待明也。○索隱曰。鄒氏云。犁一作比。比音必。至反。然犁卽比義。不煩更

釋。又解。犁。黑也。天未明而尙黑也。漢書史記亦作遲明。遲音稚。遲待也。亦犁之義也。呂嘉

建德已夜。與其屬數百人亡入海。以船西去。伏波又因問所得

降者貴人。以知呂嘉所之。遣人追之。以其故校尉司馬蘇弘得

徐廣曰。呂靜云。犁。結也。音力。奚反。結猶連及逮至也。漢書

諸侯力政云云、顔師古曰、力政ハ、兵力ヲ以テ相加フルヲ謂フ、臣賊ヲ討ゼサルヲ譏ルハ、春秋ノ義ナリ。

龍亢屬譙國。漢書作龔侯。服虔作邛。晉灼云。龔。古龍字。

乃下赦曰。天子微。諸侯力政。譏臣不討賊。

今呂嘉建德等反。自立晏如。令罪人及江淮以南。徐廣曰。淮一作匯也。樓船

十萬師。應劭曰。時欲擊越。非水不至。故作大船。船上施樓。故號曰樓船也。往討之。元鼎五年秋。衛尉路

博德爲伏波將軍。出桂陽下匯水。徐廣曰。一作滬。駟案地理志曰。桂陽有匯水。通四會。或作淮字。○索隱曰。劉氏

云。匯當作滬。漢書云下滬水也。主爵都尉楊僕爲樓船將軍。出豫章下橫浦。故歸義

越侯二人。張晏曰。故越人降爲侯。爲戈船下厲將軍。徐廣曰。厲一作瀾。駟案張晏曰。越

故置戈於船下。因以爲名也。應劭曰。瀾。水流沙上也。出零陵。或下離水。徐廣曰。在零陵通廣

信。○正義曰。地理志云。零陵縣有離水。東至廣信。入鬱林。九百八十里。或抵蒼梧。使馳義侯。徐廣曰。越人也。名遺。因巴蜀

罪人發夜郎兵。正義曰。曲州協州以南。是夜郎國。下牂牁江。正義曰。江出南徼外。東通四會。至番禺。入海也。咸會

番禺。元鼎六年冬。樓船將軍將精卒先陷尋陝。破石門。索隱曰。姚氏云。尋陝

立明王長男越妻子云云  
注徐廣曰云云、錢大昕  
曰、徐說非ナリ、功臣  
表ニ、術陽侯建德、南  
越王ノ兄越高昌侯ヲ以  
テ封ズ、是高昌ハ乃南  
越ノ私號ナリ、漢ニ降  
ルノ後ニ及ビ、始テ術  
陽ノ封ヲ受クルノミ、  
史ハ其後ノ封號ヲ舉テ  
之ヲ書ス。

下令國中曰。王年少。太后中國人也。又與使者亂。專欲內屬。盡持先王寶器入獻天子。以自媚。多從人行。至長安。虜賣以爲僮僕。取自脫一時之利。無顧趙氏社稷。爲萬世慮計之意。乃與其

弟將卒攻殺王太后及漢使者。遣人告蒼梧秦王及其諸郡縣。

立明王長男越妻子術陽侯建德爲王。

徐廣曰。元鼎四年。以南越王兄越封高昌侯。○索隱曰。案功臣表。術

陽屬下邳。而韓千秋兵入破數小邑。其後越直開道給食。未至番禺

四十里。越以兵擊千秋等。遂滅之。使人函封漢使者節置塞上。

索隱曰。案南康記。以爲大庾嶺名塞上也。好爲謾辭謝罪。發兵守要害處。於是天子曰。韓

千秋雖無成功。亦軍鋒之冠。封其子延年爲成安侯。

索隱曰。案功臣表。成安屬

徼樂其姊爲王太后首願屬漢。封其子廣德爲龍亢侯。

索隱曰。案



矛。

韋昭曰。鏃。撞也。○索隱曰。案字林。鏃。音七凶反。又吳王濞傳。鏃殺吳王。與此同。

王止太后。嘉遂出。分其弟兵。就

舍。

索隱曰。案謂分取其兵也。漢書作介。介。被也。恃也。

稱病不肯見王及使者。乃陰與大臣作

亂。

王素無意誅嘉。嘉知之。以故數月不發。太后有淫行。國人

附。

欲獨誅嘉等。力又不能。天子聞嘉不聽。王太后弱孤不能

制。

使者怯無決。又以爲王太后已附漢。獨呂嘉爲亂。不足以

與兵。

欲使莊參將二千人往使。參曰。以好往。數人足矣。以武往。

二千人無足

以爲也。辭不可。天子罷參也。郾壯士。徐廣曰。縣屬潁川。音古洽反。○正義

曰。今汝州郾城縣。

故濟北相韓千秋奮曰。以區區之越。又有王太后應。獨

相呂嘉爲害。

願得勇士二百人。必斬嘉以報。於是天子遣千秋。

與王太后弟膠樂將二千人往。

徐廣曰。千秋爲校尉。入越境。呂嘉等乃遂反。

男七二百人。札記云。毛本二ナ三ニ作ル。漢書ト合ス。

宗族官仕爲長吏者七十餘人。男盡尙王女。女盡嫁王子兄弟。

一本案作族

宗室及蒼梧秦王有連。

漢書音義曰。蒼梧越中王。自名爲秦王。連親婚也。○索隱曰。案蒼梧秦王。卽下趙光也。有連者。連姻也。趙與秦

同姓。故

稱秦王。其居國中甚重。越人信之多爲耳目者。得衆心愈於王。王

之上書數諫止王。王弗聽。有畔心。數稱病。不見漢使者。使者皆

注意嘉。勢未能誅王。王太后亦恐嘉等先事發。乃置酒介漢使

者權。韋昭曰。特使者爲介冑也。○索隱曰。志林云。介者。因也。欲因使者權誅呂嘉也。韋昭

爲因。亦有所以由案謀誅嘉等。使者皆東鄉。太后南鄉。王北鄉。相嘉大

臣皆西鄉。侍坐飯。嘉弟爲將。將卒居宮外。酒行。太后謂嘉曰。南

越內屬國之利也。而相君苦不便者何也。以激怒使者。使者狐

疑相杖。遂莫敢發。嘉見耳目非是。卽起而出。太后怒。欲縱嘉以

介漢使者權、方苞曰、  
介ハ特ナリ、春秋傳ニ、  
介特楚衆、以憑二陵我  
敵也、又嬰齊魯之常謀  
也、敢介二大國、以求レ厚  
焉トアリ。

諡爲明王。太子興代立。其母爲太后。太后自未爲嬰齊姬時。嘗

與霸陵人安國少季通。

索隱曰。安國。姓也。少季。名也。

及嬰齊薨後。元鼎四年。漢

使安國少季往諭王王太后。以入朝。比內諸侯。令辯士諫大夫

終軍等宣其辭。勇士魏臣等輔其缺。

徐廣曰。一作決。

衛尉路博德將兵。

屯桂陽。待使者。王年少。太后中國人也。嘗與安國少季通。其使

復私焉。國人頗知之。多不附太后。太后恐亂起。亦欲倚漢威。數

勸王及羣臣求內屬。卽因使者上書。請比內諸侯。三歲一朝。除

邊關。於是天子許之。賜其丞相呂嘉銀印。及內史中尉太傅印。

餘得自置。除其故黥劓刑。用漢法。比內諸侯。使者皆畱填撫之。

王王太后飭治行裝。重齎爲入朝具。其相呂嘉年長矣。相三王。



設好語入見注漢書說作  
慌章昭云誘慌、札記云、  
按スルニ誘慌ノ字言ニ  
从フ、慌ハ乃假借字ナ  
リ、顏師古曰、慌ハ誘  
ナリ、誘慌セラルルニ  
好語ヲ以テシ、而テ漢  
朝ニ入ルベカラザルナ  
リ。

取部鄆穆氏女、錢大所  
曰、穆當ニ穆ニ作ルベ  
シ、手旁ニ从フ。

首<sup>シテ</sup>曰。天子乃爲<sup>ニ</sup>臣興<sup>シテ</sup>兵討<sup>ズ</sup>閩越。死無<sup>ニ</sup>以報<sup>ル</sup>德。遣<sup>リ</sup>太子嬰齊<sup>ヲ</sup>入宿  
衛。謂<sup>テ</sup>助<sup>ニ</sup>曰。國新被<sup>レ</sup>寇。使者行<sup>ケ</sup>矣。胡方<sup>ニ</sup>日夜裝<sup>シ</sup>入見<sup>ニ</sup>天子<sup>ニ</sup>助去後。  
其大臣諫<sup>テ</sup>胡曰。漢興<sup>シテ</sup>兵誅<sup>ス</sup>郢。亦行<sup>リ</sup>以驚動<sup>セシ</sup>南越。且先王昔言<sup>フ</sup>事<sup>ニ</sup>  
天子<sup>ニ</sup>。期<sup>ス</sup>無<sup>ク</sup>失<sup>フ</sup>禮。要<sup>ス</sup>之<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>可以說<sup>セ</sup>好語<sup>ヲ</sup>入見<sup>ニ</sup>。  
索隱曰。漢書說作慌。  
章昭云。誘慌好語。入見<sup>ニ</sup>。  
則不<sup>レ</sup>得復歸<sup>ル</sup>亡國之勢也。於是胡稱病<sup>ト</sup>竟不<sup>レ</sup>入見<sup>ニ</sup>。後十餘歲。胡  
實病甚<sup>シ</sup>。太子嬰齊請歸<sup>ル</sup>。胡薨<sup>ズ</sup>。諡爲<sup>ニ</sup>文王<sup>ト</sup>。嬰齊代立<sup>ツ</sup>。卽藏<sup>ニ</sup>其先武  
帝<sup>ノ</sup>璽<sup>ヲ</sup>。  
索隱曰。李邵云。藏  
其僭號之璽也。嬰齊其入宿衛在<sup>ニ</sup>長安<sup>ニ</sup>時。取<sup>リ</sup>邯鄲<sup>ノ</sup>穆氏女<sup>ヲ</sup>。  
生<sup>ニ</sup>子興<sup>ヲ</sup>。  
徐廣曰。一作典。○索隱曰。  
穆音紀虬反。穆姓出邯鄲。及<sup>レ</sup>卽位<sup>ニ</sup>。上書請立<sup>ツ</sup>穆氏女<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>后<sup>ト</sup>。興  
爲<sup>ニ</sup>嗣<sup>ト</sup>。漢數使<sup>シテ</sup>使者風<sup>ニ</sup>諭<sup>セ</sup>嬰齊。嬰齊尙樂<sup>ニ</sup>擅殺<sup>ス</sup>生<sup>ヲ</sup>自恣<sup>ニ</sup>。懼<sup>ル</sup>入見<sup>ニ</sup>。要  
用<sup>ニ</sup>漢法<sup>ヲ</sup>比<sup>シテ</sup>內諸侯<sup>ニ</sup>。固稱病<sup>ト</sup>遂不<sup>レ</sup>入見<sup>ニ</sup>。遣<sup>リ</sup>子次公<sup>ヲ</sup>入宿衛。嬰齊薨<sup>ズ</sup>。

使入朝請、私記入ナ人  
ニ作ル、云フ淺本人ナ  
入ニ闕ス。

形也。老臣妄竊帝號。聊以自娛。豈敢以聞天王哉。乃頓首謝。願長  
爲藩臣。奉貢職。於是乃下令國中曰。吾聞兩雄不俱立。兩賢不  
並世。皇帝賢天子也。自今以後。去帝制黃屋左纛。陸賈還報。孝  
文帝大說。遂至孝景時。稱臣使入朝請。然南越其居國竊如故。  
號名。其使天子稱王。朝命如諸侯。至建元四年卒。佗孫胡爲南  
越王。徐廣曰。皇甫謐曰。越王趙佗以建元四年卒。爾時漢興七十年。佗蓋百歲矣。此時閩越王郢興兵擊南越  
邊邑。胡使人上書曰。兩越俱爲藩臣。毋得擅興兵相攻擊。今閩  
越興兵侵臣。臣不敢興兵。唯天子詔之。於是天子多南越義。守  
職約。爲興師遣兩將軍往討閩越。索隱曰。王恢韓安國。兵未踰嶺。閩越王  
弟餘善殺郢以降。於是罷兵。天子使莊助往諭意。南越王胡頓

州記云。交趾有駱田。仰潮水上下。人食其田。名爲駱侯。諸縣自名爲駱將。銅印青綬。卽今之令後蜀王子將兵討駱侯。自稱爲安陽王。治封溪縣。後南越王尉佗攻破安陽王。令一使典主交趾九真郡。卽甌駱也。東西萬餘里。迺乘黃屋左纛。稱制與中國侔。及孝文帝

元年。初鎮撫天下。使告諸侯四夷。從代來卽位意。喻盛德焉。乃

爲佗親冢在眞定。置守邑。歲時奉祝。召其從昆弟尊官厚賜寵

之。詔丞相陳平等。舉可使南越者。平言好時。陸賈先帝時習使

事詳陸賈傳

南越。迺召賈以爲太中大夫。往使因讓佗自立爲帝。曾無一介

之使報者。陸賈至南越。王甚恐。爲書謝稱曰。蠻夷大長老夫臣

佗。前日高后隔異南越。竊疑長沙王讒臣。又遙聞高后盡誅佗

宗族。掘燒先人冢。以故自弃犯長沙邊境。且南方卑溼。蠻夷中

間。其東閩越千人衆號稱王。其西甌駱裸國亦稱王。

索隱曰。裸音和寡反。裸。露

陳國注和寡反。札記云。裸裸字同。集韻。露果切。ナリ。和寡ノ音ナシ。



黨爲假守。

索隱曰。案謂佗立其所黨爲郡縣之職或假守也。

秦已破滅。佗卽擊并桂林象郡。

自立爲南越武王。

韋昭曰。生以武爲號。不稽於古也。

高帝已定天下。爲中國勞苦。

故釋佗弗誅。漢十一年。遣陸賈因立佗爲南越王。與剖符通使。

和集百越。毋爲南邊患害。與長沙接境。高后時。有司請禁南越。

關市鐵器。佗曰。高帝立我通使物。今高后聽讒臣。別異蠻夷。隔

絕器物。此必長沙王計也。欲倚中國。擊滅南越而并王之。自爲

功也。於是佗乃自尊號爲南越武帝。發兵攻長沙邊邑。敗數縣。

而去焉。高后遣將軍隆慮侯竈往擊之。

索隱曰。韋昭云。竈姓周。隆慮縣名。屬河內。音林閭。

會

暑溼。士卒大疫。兵不能踰嶺。

索隱曰。案卽陽山嶺也。

歲餘。高后崩。卽罷兵。佗

因此以兵威邊財物。賂遺閩越西甌駱。役屬焉。

漢書音義曰。駱越也。○索隱曰。姚氏案廣

南海東西數千里、漢書南北東西二作ル、然レドモ原ニ從フ、是ニ似タリ。

被佗書、頗師古曰、被ハ加ナリ。

湟谿關曰注索隱衛青傳、札記云、當ニ南粵傳ニ作ルベシ、含隨縣南有匯浦關、云、按ブルニ水經、渭水出ニ桂陽縣盧栗、東南過ニ含隨縣、南出ニ匯浦關、爲ニ桂水、匯字皆誤。

勝等作亂。秦爲無道。天下苦之。項羽。劉季。陳勝。吳廣等。州郡各共興軍聚衆。虎爭天下。中國擾亂。未知所安。豪傑畔秦相立。南海僻遠。吾恐盜兵侵地至此。吾欲興兵絕新道。

索隱曰。案蘇林云。秦所通越道。

自

備。待諸侯變。會病甚。且番禺負山險阻。南海東西數千里。頗有

中國人相輔。此亦一州之主也。可以立國。郡中長吏無足與言

者。故召公告之。即被佗書。

新畢。韋昭曰。被之以書。音光被之。被。○索隱曰。被音皮義反。

行南海尉事。

曰。服虔云。蠶詐詔書。使爲南海尉。囂死。佗即移檄告橫浦陽山湟谿關曰。

徐廣曰。在桂陽。通四會也。

○索隱曰。案南康記云。南野大庾嶺三十里至橫浦。有秦時關。其下謂爲塞上。姚氏案地理志云。桂陽有陽山縣。今此縣上流百餘里有騎田嶺。當是陽山關。鄒氏劉氏本。湟竝作湟。音年結反。漢書作湟谿。音皇。又衛青傳云。出桂陽下。湟水是。而姚察云。史記作匯。今本有湟湟及匯不同。蓋由隨見輒改故也。水經云。含匯縣南有匯浦關。未知孰是。然鄒誕作湟。漢書作湟。蓋近於古。盜兵且至。急絕道聚兵自守。因稍以法誅秦所置長吏。以其

# 史記評林卷之第一百一十三

## 南越尉佗列傳第五十三

南越王尉佗者。

正義曰。都廣州南海縣。

眞定人也。

索隱曰。尉官也。佗名也。姓趙。佗音徒河反。又十三州記云。大郡曰守。小郡

曰尉。韋昭云。眞定。故郡名。後更爲縣。在常山也。

姓趙氏。秦時已并天下。略定楊越。

張晏曰。楊州之南越也。○索隱

曰。案戰國策云。吳起爲楚收楊越。○正義曰。夏禹九州本屬楊州。故云楊越。

置桂林南海象郡。

索隱曰。地理志。武帝更名桂林曰鬱林。秦本紀

始皇三十三年。略陸梁地。以爲南海

以謫徙民。

索隱曰。謫音陟革反。

與越雜處。十三歲。

徐廣曰。秦并天下。至二世元年。十三年并

佗。秦時用爲南海龍川令。

索隱曰。地理志云。龍

天下八歲乃平越地。至二世元年。六年耳。

川屬南海也。○正義曰。顏師古云。龍川。南海縣也。卽今之循州也。裴氏廣州記云。本博羅縣之東鄉。有龍穿地而出。卽穴流東泉。因以爲號也。

至二世時。南海

尉任囂病且死。

徐廣曰。爾時未言都尉也。○索隱曰。囂音五刀反。

召龍川令趙佗。語曰。聞陳

南越尉佗列傳。札記南越列傳二作ル。云フ索隱本四字ニ止ル。各本南越下尉佗二字アリ。

略定楊越。札記云。毛本楊ヲ揚ニ作ル。按ニ漢書亦揚ニ作ル。

以謫徙民云云。顏師古曰。罪アル者ヲ謫シ。之ヲ越地ニ徙シ。其土人ト雜居ス。龍川令注正義穴流東泉。札記穴流泉ニ作ル。云フ流下各本東字アリ。蓋卽泉字ノ譌衍ナリ。今漢書注ニ依テ刪



弟賓客。戒其母入偃門。以一切疎絕之何哉。偃之爲人也。其自取覆滅也固宜。爲偃之族者。可悲耳。

史記評林卷之一百一十二終

杜延年治民則黃霸王成龔遂鄭弘邵信臣韓延壽尹翁歸趙廣漢之屬皆有功迹見述於後累其名臣亦其次也。

索隱述贊曰平津巨儒晚年始遇外示寬儉內懷嫉妬寵備榮爵身受肺腑主父推恩觀時設度生食五鼎死非時蠹。

王安石曰始讀孟子見言王政之易行心則以爲誠然及見與慎子論齊魯之地以爲先王之制國大抵不過百里今有王者起則凡諸侯之地踰制者皆將損之疑孟子之言爲過得觀漢武帝用主父偃之策令諸侯王地悉得推恩分其子弟而漢親臨定其號名輒別屬漢於是諸侯王之子弟各有分土而勢強地大者卒以分析弱小然後知慮之以謀計之以數爲之以漸則大者固可使小強者固可使弱而不至於傾駭變亂無敗傷之憂孟子之言不爲過。

劉子翬曰父偃等諫甚切帝歎相見之晚悉拜爲郎然征伐竟不已又爲上林苑東方朔陳三不可帝拜朔爲大中大夫賜以黃金然遂起苑蓋武帝知受諫爲人君之美故不吝爵祿以旌寵之也然有受諫之名無受諫之實何益於治乎此法語之言改之爲貴。

黃震曰主父偃姦險無賴小人其致身青雲特自速族滅之禍耳何足污齒頰哉惟諫伐匈奴一書不當以人廢言然他日勸築朔方俾襲蒙恬故步者卽今日舉秦事以諫伐匈奴之偃也何耶其勸分王諸侯則掇拾賈生之緒餘也其勸徙豪民實茂陵則剽竊婁敬之陳言也何能爲漢庭決一策耶而取大臣金取諸侯金自謂日暮途遠自分倒行暴施以至於齊而劫齊王殺之以游於燕而陷燕王殺之召平日昆

牧弘羊擢於賈豎。衛青奮於奴僕。日磾出於降虜。斯亦曩時  
 版築飯牛之朋矣。漢之得人。於茲爲盛。儒雅則公孫弘。董仲  
 舒。兒寬。篤行。則石建。石慶。質直。則汲黯。卜式。推賢。則韓安國。  
 鄭當時。定令。則趙禹。張湯。文章。則司馬遷。相如。滑稽。則東方  
 朔。枚臯。應對。則嚴助。朱買臣。歷數。則唐都。落下閭。協律。則李  
 延年。運籌。則桑弘羊。奉使。則張騫。蘇武。將帥。則衛青。霍去病。  
 受遺。則霍光。金日磾。其餘不可勝紀。是以興造功業。制度遺  
 文。後世莫及。孝宣承統。纂修洪業。亦講論六藝。招選茂異。而  
 蕭望之。梁丘賀。夏侯勝。韋玄成。嚴彭祖。尹更始。以儒術進。劉  
 向。王褒。以文章顯。將相。則張安世。趙充國。魏相。邴吉。于定國。



爵。後爲山陽太守。坐法失侯。夫表德章義。所以率俗厲化。聖王之制。不易之道也。其賜弘後子孫之次。當爲後者。爵關內侯。食邑三百戶。徵詣公車。上名尚書。朕親臨拜焉。

班固稱曰。公孫弘。卜式兒寬。皆以鴻漸之翼。困於燕雀。

李奇曰。漸。

進也。鴻一舉而進千里者。羽翼之材也。弘等皆以大材初爲俗所薄。若燕雀不知鴻鵠之志也。○索隱曰。按謂公孫等未遇。爲時所輕。若飛鴻之未漸。受困於燕雀也。

遠

迹羊豕之間。

韋昭曰。遠迹。謂耕牧在於遠方。○索隱曰。案公孫牧豕。卜式牧羊也。

非遇其時。焉能致此位。

乎。是時漢興六十餘載。海內乂安。

索隱曰。父理也。

府庫充實。而四夷

未賓。制度多闕。上方欲用文武。求之如弗及。始以蒲輪迎枚

生。

索隱曰。案謂枚乘也。漢始詔申公。亦以蒲輪。謂以蒲裹車輪。恐傷草木也。且蒲是草之美者。故禮有蒲璧。蓋或畫績以爲榮飾也。

見主父而歎

息。

索隱曰。案上文嚴安等上書。上曰。公等安在。何相見之晚者是也。

羣臣慕嚮。異人竝出。卜式試於芻

減於制度而可施行、董  
份曰、品制ニ於テ減ズ  
ルアリト雖モ、而モ儉  
實ニ久シウスベキヲ謂  
フ。

也。孔子不云乎。子率以正。孰敢不正。舉善而教。不能則勸。維  
漢興以來。股肱宰臣。身行儉約。輕財重義。較然著明。索隱曰。較  
音角。較。明  
也。未有若故丞相平津侯公孫弘者也。位在丞相。而爲布被。  
脫粟之飯。不過一肉。故人所善賓客。皆分奉祿以給之。無有  
所餘。誠內自克約。而外從制。汲黯詰之。乃聞于朝。此可謂減  
於制度。應劭曰。禮貴有常  
尊。衣服有常品。而可施行者也。德優則行。否則止。與內  
奢泰而外爲詭服。以釣虛譽者殊科。以病乞骸骨。孝武皇帝  
卽制曰。賞有功。褒有德。善善惡惡。君宜知之。其省思慮。存精  
神。輔以醫藥。賜告治病。牛酒雜帛。居數月有瘳。視事。至元狩  
二年。竟以善終于相位。夫知臣莫若君。此其效也。弘子度嗣

初至元朔二年八十一年也。

上方鄉文學招俊父以廣儒墨弘爲舉首主父偃當路諸公皆譽之及名敗身誅士爭言其惡悲夫。

太皇太后詔大司徒大司空

徐廣曰此詔是平帝元始中王元后詔後人寫此及班固所稱以續卷後。○索隱曰按廣

所云則又非褚先生所錄也。

蓋聞治國之道富民爲始富民之要在於節儉孝

經曰安上治民莫善於禮禮與奢也寧儉昔者管仲相齊桓

霸諸侯有九合一匡之功而仲尼謂之不知禮以其奢泰侈

擬於君故也夏禹卑宮室惡衣服後聖不循由此言之始之

盛也德優矣莫高於儉儉化俗民則尊卑之序得而骨肉之

恩親爭訟之原息斯乃家給人足刑錯之本也歟可不務哉

夫三公者百寮之率萬民之表也未有樹直表而得曲影者

始之盛也、札記始治  
ニ作ル、云フ宋本毛本  
治、他本始ニ作ル。



爲<sub>ニ</sub>布衣<sub>一</sub>時。嘗<sub>テ</sub>游<sub>ニ</sub>燕趙<sub>一</sub>。及<sub>ニ</sub>其貴<sub>一</sub>。發<sub>ニ</sub>燕事<sub>一</sub>。趙王恐<sub>レ</sub>其爲<sub>ニ</sub>國患<sub>一</sub>。欲<sub>ニ</sub>上書<sub>一</sub>言<sub>ニ</sub>其陰事<sub>一</sub>。爲<sub>ニ</sub>偃居中不敢發<sub>一</sub>。及<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>齊相<sub>一</sub>。出<sub>ニ</sub>關<sub>一</sub>。卽<sub>ニ</sub>使人<sub>一</sub>上書告言。主父偃受<sub>ニ</sub>諸侯金<sub>一</sub>。以<sub>ニ</sub>故<sub>一</sub>。諸侯子弟多以得<sub>ニ</sub>封者<sub>一</sub>。及<sub>ニ</sub>齊王自殺<sub>一</sub>。上聞大怒。以爲主父劫<sub>ニ</sub>其王<sub>一</sub>。令<sub>ニ</sub>自殺<sub>一</sub>。乃徵<sub>ニ</sub>下吏治<sub>一</sub>。主父服受<sub>ニ</sub>諸侯金<sub>一</sub>。實不<sub>ニ</sub>劫王<sub>一</sub>。令<sub>ニ</sub>自殺<sub>一</sub>。上欲<sub>ニ</sub>勿誅<sub>一</sub>。是時公孫弘爲<sub>ニ</sub>御史大夫<sub>一</sub>。乃言曰。齊王自殺無後。國除爲<sub>ニ</sub>郡<sub>一</sub>。入<sub>ニ</sub>漢<sub>一</sub>。主父偃本<sub>ニ</sub>首惡<sub>一</sub>。陛下不<sub>ニ</sub>誅<sub>一</sub>。主父偃無<sub>ニ</sub>以謝<sub>一</sub>天下。乃遂<sub>ニ</sub>族<sub>一</sub>主父偃。主父方<sub>ニ</sub>貴幸<sub>一</sub>時。賓客以<sub>ニ</sub>千數<sub>一</sub>。及<sub>ニ</sub>其族死<sub>一</sub>。無<sub>ニ</sub>一人收者<sub>一</sub>。唯獨<sub>ニ</sub>浚孔車<sub>一</sub>收<sub>ニ</sub>葬<sub>一</sub>之。

徐廣曰。孔車。浚人也。沛有浚縣。○索隱曰。浚戶

交反。車尺奢反。天子後聞<sub>ニ</sub>之<sub>一</sub>。以爲<sub>ニ</sub>孔車長者<sub>一</sub>也。

太史公曰。公孫弘行義雖修。然亦遇<sub>ニ</sub>時<sub>一</sub>。漢興八十餘年矣。

徐廣曰。漢

羊豕魚鼈ナリ、諸侯ハ五、大夫ハ三、顔師古曰、五鼎烹ハ、鑊烹セラ  
ルノ誅ヲ謂フ。暴施之注索隱不跌、札記云、踐疑フ軼ノ誤ナリ、說文、軼ハ車相出ヅルナリ、類篇一ニ侵軼ト曰フ、轍及ト近シ。

夫生不<sub>二</sub>五鼎食<sub>一</sub>死<sub>レ</sub>卽<sub>二</sub>五鼎烹<sub>一</sub>耳。吾日暮途遠。故倒行暴施之。索隱  
曰。按偃言吾日暮途遠。恐赴前途不跌。故須倒行而逆施。乃可及耳。今此本作暴。暴者言已困久得申當須急暴行事以快意也。暴者卒也。急也。

地肥饒。外阻河。蒙恬城之以逐匈奴。內省轉輸戍漕。廣中國。滅

胡之本也。上覽其說。下公卿議。皆言不便。公孫弘曰。秦時常發

三十萬衆。築北河。終不可就。已而弃之。主父偃盛言其便。上竟

用主父計。立朔方郡。元朔二年。主父言。齊王內淫佚行僻。上拜

主父爲齊相。至齊。遍召昆弟賓客。散五百金予之。數之曰。始吾

貧時。昆弟不<sub>二</sub>我衣食<sub>一</sub>。賓客不<sub>二</sub>我內門<sub>一</sub>。今吾相齊。諸君迎我。或千

里。吾與諸君絕矣。母復入偃之門。乃使人以王與姊姦事動王。

王以爲終不得脫罪。恐效燕王論死。乃自殺。有司以聞。主父始

ニ皆フナ責メザルノ  
ミ、僣既ニ任用セラレ、  
遂ニ朔方ニ築ギ、以テ  
匈奴ヲ滅スルノ本ト爲  
スヲ請フ、初進ノ議論  
ト大ニ相矛盾ス。  
數見上疏言事、札記志  
漢書ニ依テ僣字ヲ増ス  
ベシ。  
遷樂、志疑云、樂字衍  
ナリ。

僣有功焉、札記僣上蓋  
字アリ、云フ蓋字吳增  
ス、舊刻ト合ス。

且丈夫生不五鼎食云云、  
張晏曰、五鼎食ハ、牛

數十。地方千里。緩則驕奢易爲淫亂。急則阻其疆而合從。以逆  
京師。今以法割削之。則逆節萌起。前日鼂錯是也。今諸侯子弟  
或十數。而適嗣代立。餘雖骨肉。無尺寸地封。則仁孝之道不宣。  
願陛下令諸侯得推恩分子弟。以地侯之。彼人人喜得所願。上  
以德施。實分其國。不削而稍弱矣。於是上從其計。

徐廣曰。元朔二  
年。始令諸侯王

分封子弟也。又說上曰。茂陵初立。天下豪傑并兼之家。亂衆之民。皆可

徙茂陵。內實京師。外銷姦猾。此所謂不誅而害除。上又從其計。

尊立衛皇后。及發燕王定國陰事。僣有功焉。大臣皆畏其口。賂

遺累千金。人或說僣曰。太橫矣。主父曰。臣結髮游學四十餘年。

禍崇

二應傳首所以未遇時情事スル

身不得遂。親不以爲子。昆弟不收。賓客弄我。我阨日久矣。且丈



憂也。夫兵久而變起。事煩而慮生。今外郡之地或幾千里。列城

數十。形束壤制。

服虔曰。言所束在郡守。土壤足以專民制。蘇林曰。言其土地形勢。足以束制其民也。○索隱曰。案謂地形及土壤皆束制在諸侯也。

旁

脅諸侯。非公室之利也。上觀齊晉之所以亡者。公室卑削。六卿

大盛也。下觀秦之所以滅者。嚴法刻深。欲大無窮也。今郡守之

權。非特六卿之重也。地幾千里。非特閭巷之資也。甲兵器械。非

特棘矜之用也。以遭萬世之變。則不可稱諱也。書奏。天子。天子

召見三人。謂曰。公等皆安在。何相見之晚也。

徐廣曰。佗史記本皆不見。嚴安。此旁所纂者。取漢書。

耳。然漢書不宜乃容大異。或寫史記。相承闕脫也。○索隱曰。纂音撰。

於是上乃拜主父偃。徐樂。嚴安爲郎中。

數見上。疏言事。詔拜偃爲謁者。遷樂爲中大夫。歲中四遷偃。

偃說上曰。古者諸侯不過百里。彊弱之形易制。今諸侯或連城

公等皆安在何相見之晚也。王鳴盛曰。公孫弘。嚴安。皆傾險浮薄。徒。而。其。上。書。シ。テ。事。ヲ。言。フ。ヤ。皆。能。ク。用。兵。ヲ。諫。止。ス。蓋。是。時。皆。キ。輩。ノ。如。キ。者。猶。止。論。ニ。倚。テ。以。テ。其。說。ヲ。行。フ。武。帝。亦。喜。テ。相。見。ル。晚。キ。ヲ。恨。ム。武。帝。文。ヲ。好。ム。故。ニ。其。辭。ヲ。愛。シ。テ。其。已。

壤長地進注壤進益也、  
札記注壤ヲ長ニ作ル、  
云フ長ヲ壤ニ誤ル、漢  
書注ニ依テ改ム、顏師  
古曰、其稍攻伐シ、土  
境ヲ進益シテ、以テ疆  
大ニ至ルヲ言フナリ。

橋箭漢書橋箭ニ作ル、  
顏師古曰、矯ハ曲ヲ正  
シ直カラシムルナリ。

公侯之後。非長官之吏也。無尺寸之勢。起閭巷。杖棘矜。應時而  
皆動。不謀而俱起。不約而同會。壤長地進。張晏曰。壤進益也。至于霸王時

教使然也。秦貴爲天子。富有天下。滅世絕祀者。窮兵之禍也。故

周失之弱。秦失之彊。不變之患也。今欲招南夷。朝夜郎。降羌樊。

略濊州。如淳曰。東夷也。○索隱曰。熒音白北反。又皮逼反。濊州地名。卽古濊陌國也。音紆廢反。建城邑。深入匈奴。燔其

龍城。索隱曰。匈奴城名。音上龍。燔音煩。謂燒也。議者美之。此人臣之利也。非天下之長策

也。今中國無狗吠之驚。而外累於遠方之備。靡敝國家。非所以

子民也。行無窮之欲。甘心快意。結怨於匈奴。非所以安邊也。禍

結而不解。兵休而復起。近者愁苦。遠者驚駭。非所以持久也。今

天下鍛甲砥劍。橋箭累弦。轉輸運糧。未見休時。此天下之所共



尉佗屠睢、錢大昕曰、漢書佗字ナシ、札記志疑云、南越傳、尉佗越ヲ攻ムル事ナシ、下文尉佗越チ戍スルニ因リテ誤衍ス、毛本睢ヲ睢ヲ作ル。

陳勝吳廣舉陳、顏師古曰、舉ハ兵ヲ起スヲ謂フナリ。景騎舉郢、札記騎チ駒ニ作ル、云フ游王柯淺本並ニ騎ニ譌ス。

巧權利者進。篤厚忠信者退。法嚴政峻。諂諛者衆。日聞其美。意

廣心軼。欲肆威海外。乃使蒙恬將兵以北攻胡。辟地進境。戍於

北河。蜚芻輓粟以隨其後。又使尉佗屠睢。索隱曰。案尉官也。佗趙佗也。音徒何反。屠睢人姓名睢音

雖。將樓船之士南攻百越。使監祿鑿渠運糧深入越。韋昭曰。監御史名祿也。

越人遁逃。曠日持久。糧食絕乏。越人擊之。秦兵大敗。秦乃使尉

佗將卒以戍越。當是時。秦禍北構於胡。南挂於越。宿兵無用之

地。進而不得退。行十餘年。丁男被甲。丁女轉輸。苦不聊生。自經

於道樹。死者相望。及秦皇帝崩。天下大叛。陳勝吳廣舉陳。索隱曰。謂

勝廣舉兵據陳。舉音如。武臣張耳舉趙。項梁舉吳。田儋舉齊。景騎舉郢。曰。謂

周市舉魏。韓廣舉燕。窮山通谷。豪士竝起。不可勝載也。然皆非



五伯者、札記云、宋本五ノ字ナシ、按ニ漢書亦同ジ。

主海內之政、札記中統毛本主ナ一ニ作ル。

而修其故俗、札記雜志云、修字亦當ニ漢書ニ依テ循ニ作ルベシ。

也。刑錯四十餘年而不用。及其衰也。亦三百餘歲。故五伯更起。五伯者。常佐天子。興利除害。誅暴禁邪。匡正海內。以尊天子。五伯既沒。賢聖莫續。天子孤弱。號令不行。諸侯恣行。彊陵弱。衆暴寡。田常篡齊。六卿分晉。竝爲戰國。此民之始苦也。於是彊國務攻。弱國備守。合從連橫。馳車擊轂。介冑生蟣蝨。民無所告愬。及至秦王蠶食天下。并吞戰國。稱號曰皇帝。主海內之政。壞諸侯之城。銷其兵。鑄以爲鍾虬。索隱曰。虞音巨。都氏本作據。音同。示不復用。元元黎民。得免於戰國。逢明天子。人人自以爲更生。嚮使秦緩其刑罰。薄賦斂。省繇役。貴仁義。賤權利。上篤厚。下智巧。索隱曰。上猶尙也。貴也。變風易俗。化於海內。則世世必安矣。秦不行是風。而修其故俗。爲智

堂之上<sub>ニ</sub>而銷<sub>ス</sub>未形之患<sub>ヲ</sub>。其要期使<sub>スルニ</sub>天下<sub>ヲ</sub>無<sub>ニ</sub>土崩之勢<sub>ニ</sub>而已矣。故<sub>ニ</sub>  
 雖有<sub>ニ</sub>疆國勁兵<sub>ヲ</sub>。陛下逐<sub>ヒ</sub>走獸<sub>ヲ</sub>射<sub>ニ</sub>蜚鳥<sub>ヲ</sub>。弘游燕之囿<sub>ヲ</sub>。淫縱恣之觀<sub>ニ</sub>。  
 極<sub>メ</sub>馳騁之樂<sub>ヲ</sub>。自若也。金石絲竹之聲。不<sub>レ</sub>絕<sub>エ</sub>於耳。帷帳之私。俳優  
 侏儒之笑。不<sub>レ</sub>乏<sub>カン</sub>於前。而天下無<sub>ニ</sub>宿憂<sub>ヲ</sub>。名何必<sub>ニ</sub>湯武<sub>ヲ</sub>。俗何必<sub>ニ</sub>成康<sub>ヲ</sub>。  
 雖然<sub>ト</sub>。臣竊以爲陛下天然之聖。寬仁之資。而誠以天下<sub>ヲ</sub>爲<sub>ニ</sub>務<sub>ト</sub>。則  
 湯武之名不<sub>レ</sub>難<sub>カラ</sub>侔<sub>キニ</sub>。而成康之俗可<sub>ニ</sub>復興<sub>ル</sub>也。此二體者立<sub>チ</sub>然後處<sub>リ</sub>  
 尊安之實。揚<sub>ゲ</sub>名<sub>ヲ</sub>廣譽<sub>ヲ</sub>於當世。親<sub>シテ</sub>天下<sub>ヲ</sub>而服<sub>シ</sub>四夷<sub>ヲ</sub>。餘恩遺德爲<sub>ニ</sub>數  
 世隆<sub>ニ</sub>。南面負<sub>ヒ</sub>屨<sub>ヲ</sub>。攝<sub>シテ</sub>袂<sub>ヲ</sub>而揖<sub>ス</sub>王公<sub>ヲ</sub>。此陛下之所服也。臣聞圖王不<sub>ル</sub>  
 成<sub>ラ</sub>。其敝足以安<sub>キニ</sub>。安則陛下何求而不得<sub>レ</sub>。何爲而不成<sub>ラ</sub>。何征而不<sub>レ</sub>  
 服<sub>セ</sub>乎哉。嚴安上書曰。臣聞周有<sub>ニ</sub>天下<sub>ヲ</sub>。其治三百餘歲。成康其隆

爲禽<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>中原者<sub>一</sub>此其故何也。非權輕<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>匹夫<sub>一</sub>而兵弱<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>陳涉<sub>一</sub>也。  
 當<sub>二</sub>是之時<sub>一</sub>。先帝之德澤未<sub>レ</sub>衰而安<sub>レ</sub>土樂<sub>レ</sub>俗之民衆。故諸侯無<sub>二</sub>境  
 外之助<sub>一</sub>。此之謂<sub>二</sub>瓦解<sub>一</sub>。故曰。天下之患不在<sub>二</sub>瓦解<sub>一</sub>。由<sub>レ</sub>是觀<sub>レ</sub>之。天下<sub>レ</sub>復上最有  
 誠有<sub>二</sub>土崩之勢<sub>一</sub>。雖布衣窮處之士。或首<sub>レ</sub>惡而危<sub>レ</sub>海內。陳涉是也。  
 況<sub>二</sub>三晉之君或存乎<sub>一</sub>。天下雖未有<sub>二</sub>大治<sub>一</sub>也。誠能無<sub>二</sub>土崩之勢<sub>一</sub>。雖  
 有<sub>二</sub>彊國勁兵<sub>一</sub>。不得<sub>レ</sub>旋踵而身爲禽<sub>レ</sub>矣。吳楚齊趙是也。況羣臣百  
 姓能爲<sub>レ</sub>亂乎哉。此二體者。安危之明要也。賢主所<sub>二</sub>畱意而深察<sub>一</sub>  
 也。閒者關東五穀不<sub>レ</sub>登。年歲未<sub>レ</sub>復。民多窮困。重<sub>レ</sub>之以<sub>二</sub>邊境之事<sub>一</sub>。  
 推<sub>レ</sub>數循<sub>レ</sub>理而觀<sub>レ</sub>之。則民且有<sub>二</sub>不安其處<sub>一</sub>者矣。不安故易<sub>レ</sub>動。易<sub>レ</sub>動  
 者。土崩之勢也。故賢主獨觀<sub>二</sub>萬化之原<sub>一</sub>。明<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>安危之機<sub>一</sub>。修<sub>二</sub>之廟



是時趙人徐樂、錢大所  
曰、漢書ニ樂燕郡無終  
人ナリ。

奮藏矜、顔師古曰、蘇  
ハ戟ナリ、矜ハ戟ノ把  
ナリ、時ニ秦兵器ヲ銷  
ス、故ニ但戟ノ把アル  
下怨而上不知也、札記  
志疑云、也字衍ナリ。

詳察之。少加意而熟慮焉。是時趙人徐樂。齊人嚴安。俱上書言

世務各一事。

索隱曰。樂音岳。嚴本姓莊。莊者明帝諱。後竝改  
姓嚴也。安及徐樂竝拜郎中。樂後爲中大夫。

徐樂曰。臣聞天

下之患。在於土崩。不在於瓦解。古今一也。何謂土崩。秦之末世

是也。陳涉無千乘之尊。尺土之地。身非王公大人名族之後。無

鄉曲之譽。非有孔墨曾子之賢。陶朱猗頓之富也。然起窮巷。奮

棘矜。

矜音勤。

偏袒大呼。而天下從風。此其故何也。由民困而主不

恤。下怨而上不知也。俗已亂而政不修。此三者。陳涉之所以爲

資也。是之謂土崩。故曰。天下之患在於土崩。何謂瓦解。吳楚齊

趙之兵是也。七國謀爲大逆。號皆稱萬乘之君。帶甲數十萬。威

足以嚴其境內。財足以勸其士民。然不能西攘尺寸之地。而身

親之約。然後天下忘干戈之事。故兵法曰。興師十萬。日費千金。

申言秦事

夫秦常積衆暴兵數十萬人。雖有覆軍殺將。係虜單于之功。亦

適足以結怨深讎。不足以償天下之費。夫上虛府庫。下敝百姓。

應日費千金句

甘心於外國。非完事也。夫匈奴難得而制。非一世也。行盜侵驅。

所以爲業也。天性固然。上及虞夏殷周。固弗程督。禽獸畜之。不

屬爲人。夫上不觀虞夏殷周之統。而下修近世之失。此臣之所

大憂。百姓之所疾苦也。且夫兵久則變生。事苦則慮易。乃使邊

境之民。靡敝愁苦。而有離心。將吏相疑。而外市。

故尉佗章邯得以成其私也。夫秦政之所以不行者。權分乎二

子。此得失之效也。故周書曰。安危在出令。存亡在所用。願陛下

下修近世之失、札記維  
心云、修字當漢書二  
依テ猶ニ作ルベシ。

暗危朝廷

張晏曰。與外國交求  
利己若章邯之比。

地固澤鹹鹵。札記雜志云、鹹字後人加フル所ナリ、漢書澤鹵ニ作リ、漢紀斥鹵ニ作ル、澤即斥ナリ、按ズルニ匈奴傳亦地澤鹵ト云フ。

起於東睡、札記東チ黃ニ作ル、云ニ索隱本漢書ト合ス、各本東睡ニ作、誤ル、顔師古曰、黃睡ニ睡ノ名ナリ、東ニ東萊ニ在リ、東萊及北河ニ至ルチ言フナリ。轉輸セシメ、北河ニ至率三十鍾而致一石、顔師古曰、六斛四斗チ鍾ト爲ス、其道路費ス所チ計ルニ、凡百九十二斛チ用ヒ、乃一石至ルチ得ルナリ。

從之如搏影、顔師古曰、搏ハ擊ナリ、人ノ陰影チ搏ツ、得ベカラザルチ言フナリ。

固澤鹹鹵。

徐廣曰。澤一作斥。○瓊曰。其地多水澤。又有鹵。

不生五穀。然後發天下丁男以守。

北河。暴兵露師十有餘年。死者不可勝數。終不能踰河而北。是

豈人衆不足。兵革不備哉。其勢不可也。又使天下蜚芻輓粟。

文穎

曰。轉芻穀起於東睡琅邪負海之郡。

徐廣曰。睡在東萊。音繩。○索隱曰。睡音逐瑞反。注音繩。其音同。

轉輸

北河。率三十鍾而致一石。男子疾耕不足於糧饟。女子紡績不

足於帷幕。百姓靡敝。孤寡老弱。不能相養。道路死者相望。蓋天

下始畔秦也。及至高皇帝定天下。略地於邊。聞匈奴聚於代谷

之外。而欲擊之。御史成進諫曰。不可。夫匈奴之性。獸聚而鳥散。

從之如搏影。今以陛下盛德攻匈奴。臣竊危之。高帝不聽。遂北

至於代谷。果有平城之圍。高皇帝蓋悔之甚。乃使劉敬往結和



春蒐秋獮云云、顏師古曰、春ハ陽中ト爲ス、其行木ナリ、秋ハ陰中ト爲ス、其行金ナリ、金木ハ兵器ノ資スル所、故ニ此時ニ於テ、蒐獮治兵ヘルナリ、蒐ハ蒐索ナリ、孕マザル者ヲ取ル、獮ハ殺氣ニ應ズルナリ、振ハ整、旅ハ衆ナリ、獮音先淺反。

靡敵中國、札記敵ヲ獎ニ作ル、云フ索隱本獎、各本敵ニ作ル、注亦獎猶洞敵也ニ作ル。

天下既平。天子大凱。

應劭曰。大凱。周禮還師振旅之樂。

春蒐、秋獮。諸侯春振旅。秋治

兵。所以不忘戰也。

宋均曰。春秋少陽少陰。氣弱未全。須人功而後用。士庶法之。教而後成。宗仁本義。天子諸侯必春秋講武。簡閱車徒。以順時氣。

不忘戰也。

且夫怒者逆德也。兵者凶器也。爭者末節也。古之人君一

怒也。

怒。必伏尸流血。故聖王重行之。夫務戰勝窮武事者。未有不悔

者也。昔秦皇帝任戰勝之威。蠶食天下。并吞戰國。海內爲一。功

齊三代。務勝不休。欲攻匈奴。李斯諫曰。不可。夫匈奴無城郭之

居。委積之守。遷徙鳥舉。難得而制也。輕兵深入。糧食必絕。踵糧

以行。重不及事。得其地不足。以爲利也。遇其民不可役而守也。

勝必殺之。非民父母也。靡敵中國。快心匈奴。非長策也。

索隱曰。靡音靡。敵猶

洞敵也。

秦皇帝不聽。遂使蒙恬將兵攻胡。辟地千里。以河爲境。地

學長短縱橫之術、凌稚  
隆曰、長短縱橫ノ説、  
戰國策ニ出ヅ、蓋蘇秦  
張儀ノ謀、彼ニ赴クヲ  
一ト爲シ、此ニ歸スル  
ニ長ト爲ス、故ニ戰國  
長短策ト名クルナリ。

衛將軍ハ衛青ナリ。

坐<sup>シテ</sup>法失<sup>フ</sup>侯<sup>ヲ</sup>。索隱曰。漢書云。坐不遺鉅野令史成詣公車。論爲城旦。元始中詔復弘後爲關內侯也。

主父偃者。齊臨菑人也。學長短縱橫之術。晚乃學易春秋百家

言。游齊諸生閒。莫能厚遇也。屈キ 暗伏後日暮途遠一段案齊諸儒生相與排擯。不容於齊家

貧。假貸無所得。迺北游燕趙中山。皆莫能厚遇。爲客甚困。孝武

元光元年中。以爲諸侯莫足游者。乃西入關。見衛將軍。衛將軍

數言上。上不召。資用乏。畱久。諸公賓客多厭之。乃上書闕下。朝

奏。暮召入見。所言九事。其八事爲律令。一事諫伐匈奴。其辭曰。

臣聞明主不惡切諫。以博觀。忠臣不敢避重誅。以直諫。是故事

無遺策。而功流萬世。今臣不敢隱忠。避死。以效愚計。願陛下幸

赦而少察之。司馬法曰。國雖大。好戰必亡。天下雖平。忘戰必危。

素有負薪之病、猶孟子采薪之憂ノ如シ、病ヲ薪ヲ采ル能ハザルヲ言フナリ。

善善惡惡君宜知之、札記云、君宜知之四字、上文ニ復テハ、漢書ナシ、蓋篇後續錄、元后ノ詔、誤倒下ニ在ルニ因リ、刊者彼ニ從テ増入スルナリ。

因賜告牛酒雜帛、告ハ假告ナリ。

意擢臣弘卒伍之中封爲列侯致位三公臣弘行能不足以稱  
素有負薪之病恐先狗馬填溝壑終無以報德塞責願歸侯印  
乞骸骨避賢者路天子報曰古者賞有功褒有德守成尙文遭  
遇右武索隱曰小顏云右亦上也。未有易此者也朕宿昔庶幾獲承尊

言遭遇亂時則上武也。

位懼不能寧惟所與共爲治者君宜知之蓋君子善善惡惡君

宜知之君若謹行常在朕躬君不幸罹霜露之病何恙不已漢書

音義曰何恙喻小疾不以時愈。○索隱曰恙憂也以言。○適上書歸侯乞骸骨是章

罹霜露寒涼之疾輕何憂於病不止。○禮曰疾止復初也。朕之不德也今事少閒君其省思慮一精神輔以醫藥因賜告

牛酒雜帛居數月病有瘳視事元狩二年弘病竟以丞相終漢書

曰年八十。○索隱曰案弘凡爲御史丞相六歲年八十終。

子度嗣爲平津侯度爲山陽太守十餘歲。



恐竊病死、方苞曰、竊恐  
ノ字、偶サ倒スルナリ。

賢<sup>結トス</sup>之。淮南衡山謀反<sup>スル</sup>治<sup>スル</sup>黨與<sup>ナ</sup>方急。弘病甚。自以爲無功而封位<sup>ゼラレ</sup>至丞相。宜佐<sup>ニ</sup>明主。填撫<sup>シ</sup>國家。使人<sup>ナシテ</sup>由臣子之道。今諸侯有叛逆之計。皆宰相奉職不稱。恐竊病死。無以塞責<sup>チ</sup>。索隱曰。案人臣委質於君。死生由君。臣若一朝病死。是竊死也。乃上書曰。臣聞天下之通道五。所以行之者三。索隱曰。案此語出子思子。今見

禮中庸篇。曰。君臣父子兄弟夫婦長幼之序。此五者天下之通道也。

智仁勇。此三者天下之通德。所以行之者也。故曰。力行近乎仁。好問近乎智。知恥近乎勇。知此三者。則知所以自治。知所以自<sup>ル</sup>治。然後知所以治人。天下未有不能自治而能治人者也。是百世不易之道也。今陛下躬行大孝。鑒三王建周道。兼文武厲賢<sup>マシク</sup>予祿。徐廣曰。厲一作廣也。量能授官。今臣弘罷駑之質。無汗馬之勞。陛下過

其曲學君才逢へ詐チ飾ル、不忠ノ實掩フベカラズ。

封平津侯注功臣表曰元朔三年、札記云、三當ニ五ニ作ルベシ、説建元功者表ニ見ユ。

布被<sup>ニ</sup>誠飾<sup>ヲ</sup>詐<sup>ヲ</sup>欲<sup>ニ</sup>以<sup>フ</sup>鈞名<sup>ヲ</sup>且臣聞管仲相<sup>シ</sup>齊有<sup>ニ</sup>三歸<sup>ニ</sup>侈擬<sup>ス</sup>於<sup>レ</sup>君桓

公以霸亦上僭<sup>ス</sup>於<sup>レ</sup>君晏嬰相<sup>シ</sup>景公食不重<sup>ネ</sup>肉妾不<sup>レ</sup>衣絲齊國亦

治此下比<sup>ス</sup>於<sup>レ</sup>民索隱曰比音鼻比者近也小顏音比方之比今臣弘位爲<sup>ニ</sup>御史大夫<sup>ト</sup>而爲<sup>ニ</sup>布

被<sup>ニ</sup>自<sup>ニ</sup>九卿以下至於<sup>ニ</sup>小吏無<sup>レ</sup>差誠如<sup>ニ</sup>汲黯言<sup>ノ</sup>且無<sup>キ</sup>汲黯忠陛下

安得聞<sup>ニ</sup>此言<sup>ヲ</sup>天子以爲<sup>ニ</sup>謙讓愈益厚之卒以<sup>ニ</sup>弘爲<sup>ニ</sup>丞相封<sup>ニ</sup>平津

侯徐廣曰大臣表曰元朔五年十一月乙丑公孫弘爲丞相功臣表曰元朔三年十一月乙丑封平津侯案漢書高成之平津鄉也○索隱曰案漢書曰漢興皆以列侯爲丞相弘

本無爵乃詔封弘高成之平津鄉六百五十戶爲平津侯丞相封侯自弘始也一本詳作陽弘爲<sup>ニ</sup>人意忌<sup>ス</sup>外寬內深索隱曰謂弘外寬內深意多有忌害

也諸嘗與弘有郤者雖詳與善陰報<sup>ス</sup>其禍殺<sup>ニ</sup>主父偃徙董仲舒

於膠西皆弘之力也食<sup>ニ</sup>一肉脫粟之飯不隱曰案一肉言不兼味也脫粟纔脫穀而已言不精鑿也

故人所善賓客仰<sup>シ</sup>衣食弘奉祿皆以給<sup>ス</sup>之家無所餘士亦以此

右倭幸ノ毀モ、亦入ル能ハザルナリ、其人主廣大ナラサルヲ病フト稱シ、及ビ陽ニ賈臣ノ禍ニ屈シ、陰ニ主父ニ報ジ、董相ヲ徒ス、詐ナリ、而テ匈奴ニ使シ還リ、而テ匈奴ニ上ノ意ニ通ジ、朔方ニ築キ、滄海郡ヲ置クヲ諫メ、汲黯廷詰スレバ、反テ其忠ヲ稱シ、天子チシテ其行ヲ察シテ以テ敦厚ト爲サシムルハ、所謂恢奇ナリ、黯詰ルニ約ニ背ク不忠ヲ以テスレバ、則曰知臣者云云、黯其儉以テ詐ヲ飾ルヲ詰レバ、即曰嘗仲修操於君云云、所謂辯論餘アルナリ、淮南衡山ノ反スル、泛ク傳記ヲ引キ、覽者チシテ其意向ヲ識ル莫ラシメ、而テ其隠私ヲ究ムレバ、則自ラ咎チ引テ以テ人主ノ惑ヲ釋ク、所謂文法ニ習ヒ、而テ又緣飾スルニ儒術ヲ以テスル也、凡此類皆恢奇ヲ以テ其詐ヲ行フナリ、天子書ニ報ジ、一ハ則曰君宜知之、再ハ則曰君宜知之、

以順<sup>阿世</sup>上<sup>ニ</sup>旨<sup>ニ</sup>。汲黯庭詰<sup>テ</sup>弘曰。齊人多詐而無情實。始與<sup>ニ</sup>臣等<sup>ニ</sup>建<sup>ニ</sup>此議<sup>チ</sup>。今皆倍<sup>ク</sup>之<sup>ニ</sup>。不忠<sup>ナリト</sup>。上問<sup>フ</sup>弘。弘謝曰。夫知<sup>ル</sup>臣者<sup>チ</sup>。以<sup>テ</sup>臣爲<sup>シ</sup>忠<sup>ト</sup>。不知<sup>ラ</sup>臣者<sup>チ</sup>。以<sup>テ</sup>臣爲<sup>シ</sup>不忠<sup>ト</sup>。上然<sup>リト</sup>弘言<sup>ヲ</sup>。左右幸臣每毀<sup>ル</sup>弘。上益厚遇<sup>ス</sup>之<sup>チ</sup>。元朔三年。張歐免。以弘爲御史大夫。是時通<sup>ス</sup>西南夷。東置<sup>キ</sup>滄海<sup>チ</sup>。北築<sup>ク</sup>朔方之郡。弘數諫<sup>メ</sup>。以爲罷<sup>シ</sup>敝<sup>ニ</sup>中國<sup>ニ</sup>。以奉<sup>ス</sup>無用之地<sup>ニ</sup>。願罷<sup>シ</sup>之<sup>チ</sup>。於是天子乃使朱買臣等難<sup>セ</sup>弘。置<sup>ク</sup>朔方之便<sup>ニ</sup>。發<sup>ス</sup>十策<sup>ヲ</sup>。弘不得<sup>レ</sup>一<sup>ヲ</sup>。韋昭曰。弘之才非不能得一也。以爲不可不敢逆<sup>テ</sup>上耳。○正義曰。顏師古曰。言其利害十條。弘無以應<sup>ニ</sup>。弘迺謝曰。山東鄙人。不知<sup>ル</sup>其便<sup>ニ</sup>。若是。願罷<sup>シ</sup>西南夷滄海<sup>ニ</sup>。而專奉<sup>ゼン</sup>朔方<sup>ニ</sup>。上乃許<sup>ス</sup>之<sup>チ</sup>。汲黯曰。弘位在<sup>ニ</sup>三公<sup>ニ</sup>。奉祿甚多。然爲<sup>ニ</sup>布被<sup>ニ</sup>。此詐也。上問弘。弘謝曰。有<sup>レ</sup>之<sup>チ</sup>。夫九卿與<sup>レ</sup>臣善者無過黯。然今日庭詰<sup>レ</sup>弘。誠中<sup>ニ</sup>弘之病<sup>ニ</sup>。夫以<sup>ニ</sup>三公<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>



國人固推弘。弘至太常。太常令所徵儒士各對策。百餘人。弘第居下。策奏。天子擢弘對爲第一。召入見。狀貌甚麗。拜爲博士。是時通西南夷道。置郡巴蜀。民苦之。詔使弘視之。還奏事。盛毀西

南夷無所用。上不聽。弘爲人恢奇多聞。常稱以爲人主病不廣

大人臣病不儉節。弘爲布被。食不重肉。後母死。服喪三年。每朝

會議。開陳其端。令人主自擇。不肯面折庭爭。於是天子察其行。

敦厚辯論有餘。習文法吏事。而又緣飾以儒術。上大說之。

以儒術飾文法。如衣服之有領緣以爲飾也。二歲中。徐廣曰。一至左內史。弘奏事有不可不庭

辯之。嘗與主爵都尉汲黯請閒。汲黯先發之。弘推其後。天子常

說所言皆聽。以此日益親貴。嘗與公卿約議。至上前。皆倍其約

平津侯主父列傳第五十二

丞相公孫弘者。齊菑川國薛縣人也。

索隱曰。案薛縣本屬魯。漢置菑川國。後割入齊也。○正義曰。表云。菑川國。

文帝分齊置都劇。括地志云。故劇城在青州壽光縣南三十一里。故薛城在徐州滕縣界。地理志云。薛縣屬魯國。按薛與劇隔兗州及太山。未詳。公孫弘墓又在青州北魯縣西二十里也。

字季少。時爲薛獄吏。有辜免。家貧。牧豕海上。年四十餘。乃學春

秋雜說。テ養ニ後母ニ孝謹。建元元年。天子初テ卽キ位。ニ招ル賢良文學之士。ヲ

是時弘年六十。徵以賢良爲博士。使匈奴還。報不合上意。上怒。

以爲不能弘乃病免歸。元光五年有詔徵文學。菑川國復推上

公孫弘<sup>ニ</sup>弘<sup>ヲ</sup>讓<sup>リテ</sup>謝<sup>シテ</sup>國<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。臣<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>嘗<sup>テ</sup>西<sup>シテ</sup>應<sup>ズ</sup>命<sup>ニ</sup>。以<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>能<sup>テ</sup>罷<sup>ス</sup>歸<sup>ル</sup>。願<sup>フ</sup>更<sup>ニ</sup>推<sup>ス</sup>選<sup>セ</sup>。

齊、舊川國臨縣人也。錢大昕曰：漢志、舊縣屬魯國二屬シ、齊ト舊川トノ屬セズ、說者儒林傳チ引キ、平津ヲ稱シテ薛人ト爲ス、既ニ薛人ト云ヘバ、則上齊舊川ト言フ者誤ルノミ、予本年詔アリ、文學ヲ徵ス、舊川國復タ推シテ弘チ上ル、弘國人ニ謝ス、國人固ク之ヲ推ス、則平津舊川人タルヤ疑ナシ、舊川本齊ノ故地、故ニ汲黯弘チ詰ツテ云、齊人多詐而無情實ト、史舊川ト當時、又齊ト言フ者、當ヒ通俗ノ稱ナリ、扁鵲言フ、臣ハ齊勃海秦越人也、勃海ト言ヒ、又齊ト言

史記評林卷之一百一十一終



シテ云、衛青、霍去病  
亦外戚ヲ以テ貴幸セラ  
ル、然ルニ頗ル材能ヲ  
以テ自ラ進ムト、一ニ  
此二人ヲ以テ、本倭幸  
ニ入ルベキ者ノ若ク  
ス、子長ノ措詞此ノ如  
シ。

稱也。去病則曰有<sub>レ</sub>天幸。不<sub>レ</sub>至<sub>レ</sub>乏絕而已。嗚呼匈奴天下莫<sub>レ</sub>強焉。其所以數勝而不<sub>レ</sub>絀者。豈盡天幸耶。至<sub>レ</sub>伍被之所以奇<sub>レ</sub>大將軍於淮南王者。又胡無<sub>レ</sub>稱也。李廣蓋屢戰而屢敗也。太史公津津不<sub>レ</sub>管口出焉。敍其材力。懷果。負誼。饒<sub>レ</sub>仁<sub>レ</sub>卹。指畫軍事。若貌也。於其勝而幸者。如<sub>レ</sub>彼。於其敗而不幸者。如此。是可以識<sub>レ</sub>矣。吾不幸而材不<sub>レ</sub>見<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>於孝武。而卒腐以老。如<sub>レ</sub>公孫弘兒寬者。二將靡耳。奈何雍容取<sub>レ</sub>公相爲也。彼蓋以<sub>レ</sub>李廣自況也。太史公於游俠刺客貨殖伯夷屈平諸傳。皆有所<sub>レ</sub>感慨。獨於<sub>レ</sub>李廣衛霍傳。比興之義多。吾既深於其指。而又惜其以<sub>レ</sub>私故掩<sub>レ</sub>衛霍摧勝之妙。使後人不得<sub>レ</sub>尋也。

乃論ノ變例ナリ、隱ニ以テ其人本ト庸賈、兵ヲ用ヒ、勝ヲ制スル、皆民力ヲ竭シテ、以テ功ヲ成ス、豈眞ニ謀略アラシ、敵未ダ滅セズ、家ヲ以テ爲スナキモ、亦是自媚ノ詞、其本心ニ非ザルヲ見ハス、上益之ヲ重ンズル者、燕齊猛近ノ士、猛驍神仙ヲ談ズルヲ信ズルト同一欺ヲ受クルノミ、此遷ノ意ナリ、又曰、李廣傳贊、其死スル天下知ルト知ラザルト皆哀ヲ盡シ、忠心誠ニ士大夫ニ信ゼラレザルヲ美ス、衛青傳贊ハ、則其肯テ士ヲ招カズ、位尊ウシテ天下賢士大夫稱スルナキヲ著ス、兩兩相形シ、優劣自ラ見ハル、乃青名士ヲ薦メズト爲シ、而テ傾危主父偃ノ如ク、殘賊滅宣ノ如キ、皆其薦ムル所、又郭解ノ爲ニ請ウテ關内ニ徙ルヲ免ル、然ラバ則青特ニ賢ヲ薦メザルノミ、不肯者ニ於テ未ダ嘗テ交通援引セザルナラザルナリ、又曰、假幸傳末、忽ニ語ヲ贊

陳仁子曰。賓客之害。吾於史遷贊孟嘗。又於第五倫彈竇氏。一再言之矣。特孟嘗之時。天下分列。猶不足責也。竇氏立清朝。植私黨。大可罪矣。若夫以大將軍之勢。誰能禦之。而能以嬰蚡之賓客爲懲。亦可謂善處盛強者。然且未也。黯爲揖客。大將軍猶賢之。殆非純以客爲賤者。客固有賢不賢也。乃若宰相之職。則又不然。要當如狄梁公呂正獻。不爲私門植桃李。而爲國家收拾人才。殆又不可以青籍口。

楊維禎曰。史謂鄧通無他技能。有所荐達。獨自謹身媚上而已。鄧通何者。而責以荐達賢才之事。蓋漢世士大夫率貴於薦士。所以司馬遷被刑之後。其故人任安責以古賢臣荐士之義。而遷辭以刀鋸之餘。奈何荐天下豪俊。衛青既貴。而天下賢士大夫無稱其故吏蘇建。亦勉以觀古名將招選之義。而青謝以魏其武安厚賓客。天子嘗切齒。人臣奉法。何與招士。舉此二者。他可知矣。

黃震曰。衛青者。奴隸鄭季之遺孽。而霍去病其甥也。漢武帝以青之姊曰子夫者爲后。因生事夷狄。而官青曰大將軍。官去病曰驃騎將軍。公孫敖嘗脫衛青於難。亦官之至將軍。青之長姊嫁公孫賀。賀爲將軍。且至宰相。其餘侯者。非兩將軍親戚。則其門下人也。他日貳師將軍亦以後宮故。生事大宛。而使之貴。帝平生窮兵黷武。使海內蕭然。觀其所由。往往爲榮宮妾地爾。而曰春秋大復讎之義。其誰欺欺天乎。且受圍與嫚書。未可以讐言也。文景和親相安已久。否而嚴守備。則置一李將軍。匈奴不敢入塞矣。何紛紛爲。

又曰。看衛霍傳。須合李廣看。衛霍深入二千里。聲震夷夏。今看其傳。殊無奇績。李廣每戰輒北。困蹶終身。今看其傳。英風如在。史氏抑揚予奪之妙如此。豈常手可望哉。王世貞曰。昔人稱衛青霍去病傳。爲太史公敘法之奇者。然其論衛將軍曰。於天下無

自衛氏興ヨリ無爲侯者  
ニ至ル。札記志疑云、  
此三十三字、史記謂フ、  
當ニ上文六歲坐法失侯  
ノ下ニ在ルベシト、是  
ナリ、然ルモ亦皆後人  
續イテ誤ル者ナリ。  
太史公曰云云、王鳴盛  
曰、衛將軍驃騎列傳、  
戰功ヲ敘述スル詳ト雖  
モ、而モ其短ヲ指摘ス  
ル特ニ甚シ、其論贊、  
又蘇建大將軍ヲ責メ、  
至テ尊軍ニシテ、而テ  
天下賢士大夫稱スルナ  
シ、宜ク賢者ヲ招選ス  
ベシ、大將軍謝スルニ、  
法ヲ奉ジ敢テ士ヲ招カ  
ザルヲ以テス、傳中和  
柔自媚等ノ語ト相應  
ズ、其下則云、驃騎亦  
此意ニ放フ、而テ末束  
スルニ一句ヲ以テシ、  
云、其爲將如此ト、論體  
應ニ褒貶ヲ加フベシ、  
此ハ則チ敘述ニシテ止  
ミ、可否スル所ナシ、

賢王。左賢王與戰。兵八萬騎圍破奴。破奴生爲虜所得。遂沒其

軍。居匈奴中十歲。復與其太子安國亡入漢。徐廣曰。以太初二年入匈奴。天漢元年亡歸。涉四年。

後坐巫蠱族。自衛氏興。大將軍青首封。其後枝屬爲五侯。凡二

十四歲而五侯盡奪。衛氏無爲侯者。

太史公曰。蘇建語余曰。吾嘗責大將軍至尊重。而天下之賢大

夫母稱焉。索隱曰。謂不爲賢士大夫所稱譽。願將軍觀古名將所招選擇賢者。勉之

哉。大將軍謝曰。自魏其武安之厚賓客。天子常切齒。彼親附士

大夫。招賢絀不肖者。人主之柄也。人臣奉法遵職而已。何與招

士。索隱曰。與音預。驃騎亦放此意。其爲將如此。

索隱述贊曰。君子豹變。貴賤何常。青本奴虜。勿總戎行。姊配皇極。身尙平陽。龍營斯僭。取亂  
葬章。剽姚繼踵。再靜邊方。



酒泉之地注正義謂涼肅等州、札記、官本云、謂上疑フ酒泉二字チ脱ス。

平州人注正義今郿州、札記郿チ汾ニ作ル、云フ汾チ郿ニ譌ス、考證唐志ニ據テ改ム。

後二歲注元封二年、札記云、游本二年チ三年ニ作ル、表ト合ス。

之地

正義曰。河謂隴右蘭州之西河也。謂涼肅等州。漢書西域傳云。驃騎將軍擊破匈奴右地。置酒泉郡。後分置武威張掖燉煌等郡。

西方益少

胡寇。四益封。凡萬五千一百戶。其校吏有功爲侯者凡六人。而

後爲將軍二人。

將軍路博德。平州人。

正義曰。漢書云。西河平州。按西河郡。今郿州。

以右北平太守從驃騎

將軍有功。爲符離侯。驃騎死後。博德以衛尉爲伏波將軍。伐破

南越。益封。其後坐法失侯。爲彊弩都尉。屯居延。卒。

將軍趙破奴。故九原人。

正義曰。今勝州。

嘗亡入匈奴。已而歸漢。爲驃騎

將軍司馬。出北地。時有功。封爲從驃侯。坐酎金失侯。後一歲。爲

匈河將軍。攻胡至匈河水。無功。後二歲。

徐廣曰。元封二年。

擊虜樓蘭王。復

封爲浞野侯。後六歲。

徐廣曰。太初二年。

爲浚稽將軍。將二萬騎。擊匈奴左

酎金失侯。元鼎六年。以待詔爲橫海將軍。擊東越。有功。爲按道侯。以太初三年。爲游擊將軍。屯於五原外列城。爲光祿勳。掘蠱太子宮。衛太子殺之。

將軍郭昌。雲中人也。以校尉從大將軍。元封四年。以太中大夫。爲拔胡將軍。屯朔方。還擊昆明。無功。奪印。

將軍荀彘。太原廣武人。以御見。正義曰。以善御求見也。侍中。爲校尉。數從大

將軍。以元封三年。爲左將軍。擊朝鮮。無功。以捕樓船將軍。坐法死。

最。驃騎將軍去病。凡六出擊匈奴。其四出以將軍。徐廣曰。再出以。剽姚校尉也。

斬捕虜首十一萬餘級。及渾邪王以衆降數萬。遂開河西酒泉

斬捕虜首。札記首虜ニ作ル、云フ宋本毛本首虜、他本誤倒ス。

本家チ家ニ譌ス、程一  
枝曰、蘇建ノ家大猶郷  
ニ在リ、張騫ノ家漢中  
ニ在リ、二家字本家ニ  
作ル、蓋字形相似ルニ  
因リテ譌スルナリ、太  
史公此二家ヲ載スル所  
以ノ者、正ニ驃騎ノ家  
祁連山ニ像ルヨリ、之  
ニ波及スルノミ。  
爲博望侯三歲、札記三  
上後字アリ、云フ後  
字ヲ脱ス。  
家在漢中、札記亦家ニ  
作ル、云フ宋本淺本家  
チ家ニ譌ス。

將軍趙信。以匈奴相國降。爲翕侯。武帝立十七歲。爲前將軍。與單于戰。敗降匈奴。

將軍張騫。以使通大夏。還爲校尉。從大將軍有功。封爲博望侯。

三歲。爲將軍。出右北平。失期。當斬。贖爲庶人。其後使通烏孫。爲

大行而卒。家在漢中。

將軍趙食其。殺禰人也。

解見景記

索隱曰。縣名。在馮翊。殺音都活反。又音丁外反。禰音謂。正義曰。上都誨反。雍州同官縣。本漢殺禰縣也。

武

帝立二十二歲。以主爵爲右將軍。從大將軍出定襄。迷失道。當

斬。贖爲庶人。

將軍曹襄。以平陽侯爲後將軍。從大將軍出定襄。襄曹參孫也。

將軍韓說。弓高侯庶孫也。以校尉從大將軍有功。爲龍頤侯。坐



內史爲彊弩將軍。後一歲復爲彊弩將軍。

將軍李蔡。成紀人也。

正義曰。秦州縣也。

事孝文帝。景帝武帝。以輕車將軍。

從大將軍。有功。封爲樂安侯。已爲丞相。坐法死。

將軍張次公。河東人。以校尉從衛將軍青。有功。封爲岸頭侯。其

後太后崩。爲將軍。軍北軍。後一歲。爲將軍。從大將軍。再爲將軍。

坐法失侯。次公父隆。輕車武射也。以善射。景帝幸近之也。

將軍蘇建。杜陵人。以校尉從衛將軍青。有功。爲平陵侯。以將軍。

築朔方。後四歲。爲游擊將軍。從大將軍。出朔方。後一歲。以右將

軍。再從大將軍。出定襄。亡翕侯。失軍。當斬。贖爲庶人。其後爲代

郡太守。卒。家在大猶鄉。

家在大猶鄉、札記家ヲ  
家ニ作ル、云フ宋本淺

以郎事武帝、漢書事景帝ニ作ル。爲驃騎將軍、札記云、官本云驃字衍ナリ、志疑及ヒ淺余有丁ノ説チ引ク同ジ、余有丁曰、驃騎將軍、武帝名ナ立テ以テ去稱チ龍ス、本傳前ニ賀輕車將軍ト爲リ、又驃將軍ト爲ルト曰フ、此驃字必誤ナリ。

將軍從大將軍出朔方。皆無功。凡三爲將軍。其後常爲大行。

將軍公孫敖。義渠人。以郎事武帝。武帝立十二歲。爲驃騎將軍。

出代。亡卒七千人。當斬。贖爲庶人。後五歲。以校尉從大將軍。有

功。封爲合騎侯。後一歲。以中將軍從大將軍。再出定襄。無功。後

二歲。以將軍出北地。後驃騎期。當斬。贖爲庶人。後一歲。以校尉

從大將軍。無功。後十四歲。以因杆將軍築受降城。索隱曰。杆音于。七歲。

復以因杆將軍。再出擊匈奴。至余吾。索隱曰。余音餘。又音徐。案水名。在朔方。亡士卒多。

下吏當斬。詐死。亡居民閒五六歲。後發覺。復繫。坐妻爲巫蠱族。

凡四爲將軍。出擊匈奴。一侯。

將軍李沮。索隱曰。音俎豆之俎。雲中人。正義曰。今嵐勝州也。事景帝。武帝立十七歲。以左

將軍公孫賀、錢大昕曰、公孫賀、李蔡、皆官丞相ニ至ル、而將軍ヲ以テ之ヲ目ス、蓋漢人將軍ヲ以テ重ト爲ス、且諸人皆衛霍ニ從テ功ヲ立ツ、其相位ニ在ル、初ヨリ表見ナシ、故ニ但將軍ト稱スルノミ。

以浮沮將軍出五原、錢大昕曰、匈奴傳ニ、賀萬五千騎ヲ將キテ九原ニ出ル二千餘里、浮沮即浮沮、蓋地ヲ以テ名ヅク、趙破奴匈奴浚稽將軍ト爲リ、李廣利貳師將軍ト爲ル、亦其類ナリ。

七爲將軍、錢大昕曰、七當ニ五ニ作ルベシ。

邪。景帝時爲平曲侯。徐廣曰。爲隴西太守。坐法失侯。賀武帝爲太子時舍人。

武帝立八歲。以太僕爲輕車將軍。軍馬邑。後四歲。以輕車將軍。

出雲中。後五歲。以騎將軍從大將軍有功。封爲南窳侯。後一歲。

以左將軍再從大將軍出定襄。無功。後四歲。以坐酎金失侯。後

八歲。徐廣曰。元鼎六年。以浮沮將軍出五原。索隱曰。沮音子餘反。二千餘里。無功。後八

歲。徐廣曰。太初二年。以太僕爲丞相。封葛繹侯。賀七爲將軍。出擊匈奴。無

大功。而再侯。爲丞相。坐子敬聲與陽石公主奸。徐廣曰。陽石。一云德邑。爲巫

蠱。族滅無後。

將軍李息。郁郅人。服虔曰。郅音室。○索隱曰。小顏音質。案北地縣名也。○正義曰。之栗反。今慶州弘化縣是。事景帝。至武

帝立八歲。爲材官將軍。軍馬邑。後六歲。爲將軍。出代。後三歲。爲



尙平陽公主、札記公上長字アリ、云フ宋本中統游毛本長字アリ、他本脫ス。

故長平侯伉、札記云、疑フ長平當ニ宜春ニ作ルベシ。

六歲坐法失侯、札記志疑云、此後人ノ妄増ナリ、伉侯ヲ失フ天漢元年ニ在リ、建元侯表、

今侯伉、書ス、則史公本書ニ非ザルヲ知ル、

左右兩大將軍云云、札記右チ方ニ作ル、云フ

此行宋本中統蕭刻游毛皆提セズ、王本淺本方

チ右ニ譌ス、按ニ左方ハ猶以下ト言フ如シ。

無傳者曰、札記云、此句ニ據レバ、疑フ附屬

諸人皆後人ノ増ス所ナリ、故ニ天漢後事ニ及

ブ者アリ、辨志疑ニ見

ニ、今具セズ。

擊羌西南夷。以故久不伐胡。大將軍以其得尙平陽公主。

正義曰。漢

書云。平陽侯曹壽有惡疾。就國。乃詔青尙平陽公主。如

淳云。本陽信長公主爲平陽侯所尙。故稱平陽公主云。

故長平侯伉代侯。六歲

坐法失侯。

左右兩大將軍及諸裨將名。最

索隱曰。謂凡計也。

大將軍青凡七出擊匈

奴。斬捕首虜五萬餘級。一與單于戰。收河南地。遂置朔方郡。再

益封。凡萬一千八百戶。封三子爲侯。侯千三百戶。并之萬五千

七百戶。其校尉裨將。以從大將軍侯者九人。其裨將及校尉。已

爲將者十四人。

索隱曰。案漢書云。爲特將者十五人。蓋通李廣也。此李廣一人。自有傳者。漢書則七人。自有傳。八人。附見。七人。謂李廣張騫公孫賀李蔡。

曹襄韓說。

爲裨將者曰李廣。自有傳。無傳者曰

蘇建也。

將軍公孫賀賀義渠人。

正義曰。今慶州本義渠戎國也。地理志云。北義渠道也。

其先胡種賀父渾

發關遠亥甲軍、顔師古曰、其葬ヲ送ル、之ヲ寵衛スル所以ナリ、玄甲ハ甲ノ黒也ヲ謂フナリ。

悼之。發屬國玄甲

正義曰。屬國。卽上分置邊五郡者也。玄甲。鐵甲也。

軍。陳自長安至茂陵。爲冢。

像祁連山。

索隱曰。案崔浩云。去病破昆邪於此山。故令爲冢象之。以旌功也。姚氏案冢在茂陵東北。與衛青冢並。西者是青。東者是去病。冢上有豎石。前有石馬。相對。又有石人也。

諡之并武與廣地。曰景桓侯。

蘇林曰。景武諡也。桓。廣地諡也。張晏曰。諡法布義行剛曰景。辟土服遠曰桓。○

索隱曰。案景桓兩諡也。布義行剛。是武諡也。辟土服遠。是廣地之諡也。以去病平生有武藝及廣邊地之功。故云諡之并武與廣地。曰景桓也。

子嬪代侯。索隱曰。嬪

音市戰反。

嬪少。字子侯。上愛之。幸其壯而將之。居六歲。元封元年。嬪

卒。諡哀侯。無子。絕國除。自驃騎將軍死後。大將軍長子宜春侯

伉。坐法失侯。後五歲。伉弟二人陰安侯不疑。及發干侯登。皆坐

酎金失侯。失侯後二歲。冠軍侯國除。其後四年。大將軍青卒。

徐廣

曰。元封五年。諡爲烈侯。子伉代爲長平侯。自大將軍圍單于之後十四

年而卒。竟不復擊匈奴者。以漢馬少而方南誅兩越。東伐朝鮮。

貴。舉大將軍故人門下。多去事驃騎。輒得官爵。唯任安不肯。驃

騎將軍爲人。少言不泄。

索隱曰。案孔文祥云。謂質重少言。膽氣在中也。周仁陰重不泄。其行亦同也。

有氣敢任。

索隱曰。謂果

敢任氣也。

天子嘗欲教之孫吳兵法。對曰。顧方略何如耳。不至

學古兵法。天子爲治第。令驃騎視之。對曰。匈奴未滅。無以家爲

也。由此上益重愛之。然少而侍中。貴不省士。其從軍。天子爲遣

太官。齎數十乘。既還。重車餘棄梁內。而士有饑者。其在塞外卒

乏糧。或不能自振。而驃騎尙穿域蹋鞠。

徐廣曰。穿地爲營域。○索隱曰。鞠戲以皮爲之中。實以毛。蹴蹋爲戲

也。劉向別錄云。蹋鞠。兵勢所以陳武事。知有材也。三蒼云。鞠。毛可蹋。以毛爲戲。故云。鞠戲。鞠音

巨六反。○正義曰。按蹴鞠書有域說篇。卽今之打毬也。黃帝所作。起戰國時。程武士知其材力

也。若

講武。

事多此類。大將軍爲人。仁善退讓。以和柔自媚於上。然天

下未有稱也。驃騎將軍自四年軍後三年。元狩六年而卒。天子



獲王。以千二百戶封山爲義陽侯。故歸義因淳王復陸支樓專

王伊卽軒皆從驃騎將軍有功。

索隱曰。劉氏復音伏。小顏音芳福反。漢書專作剽。小顏音之竟反。軒音九言反。

以

千三百戶封復陸支爲壯侯。以千八百戶封伊卽軒爲衆利侯。

從驃侯破奴。昌武侯安稽。

徐廣曰。姓趙。故匈奴王。

從驃騎有功。益封各三百

戶。校尉敢得旗鼓。爲關內侯。食邑二百戶。

索隱曰。敢。李廣子也。

校尉自爲爵

大庶長。

索隱曰。案徐自爲也。

軍吏卒爲官。賞賜甚多。而大將軍不得益封。軍

吏卒皆無封侯者。兩軍之出塞。塞閱官及私馬凡十四萬匹。而

復入塞者不滿三萬匹。乃益置大司馬位。大將軍驃騎將軍皆

爲大司馬。

索隱曰。案如淳云。本無大司馬。今新置耳。案前謂太尉。其官又省。今武帝始置此位。衛將軍霍驃騎皆加此官。

定令。令驃騎

將軍秩祿與大將軍等。自是之後。大將軍青日退。而驃騎日益

皆爲大司馬ノ下、札記、集解如淳曰、大將軍驃騎將軍皆有大司馬之號也ト注ス、云フ浚本脫ス。

食少キナリ、一日、齊  
字表ト同ジ、資裝ヲ謂  
フナリ。

涉獲章渠

徐廣曰。獲一作護。○索隱曰。小顏云。涉。謂涉水也。章渠。單于之近臣。謂涉水而破獲之。漢書云。涉獲單于章渠也。

以誅比車耆

晉灼曰。王號也。○索

轉擊左大將

索隱曰。案漢書名雙。

斬獲旗鼓。歷涉離侯。

索隱曰。漢

隱曰。比音必耳反。

書作度難侯。小顏

濟弓閭

晉灼曰。水名也。○索隱曰。包愷弓音穹。亦如字讀。

獲屯頭王。

漢書音義曰。胡王號也。

韓

王等三人

徐廣曰。王一作藉。○索隱曰。李奇云。皆匈奴王號。

將軍相國當戶都尉八十三人。封

狼居胥山。禪於姑衍。

正義曰。積土爲壇於山上。封以祭天也。祭地曰禪。

登臨翰海。

張晏曰。登海邊山以望海也。○

索隱曰。按崔浩云。北海名。羣鳥之所解羽。故云翰海。廣志在沙漠北。

執鹵獲醜七萬有四百四十三級。師率

減什三。取食於敵。連行殊遠而糧不絕。

索隱曰。連與卓同。卓遠也。

以五千八百

戶益封驃騎將軍。右北平太守路博德屬驃騎將軍。會與城

正義

曰。與音余。

不失期。從至櫛余山。

索隱曰。櫛余音桃徒。

斬首捕虜二千七百級。以千

六百戶封博德爲符離侯。北地都尉邢山

徐廣曰。作衛山。

從驃騎將軍

奴積粟食軍。軍留一日而還。悉燒其城。餘粟以歸。大將軍之與

單于會也。而前將軍廣右將軍食其軍別從東道或失道。後擊

單于。大將軍引還過幕南。乃得前將軍右將軍。大將軍欲使使

歸報。令長史簿責前將軍廣。廣自殺。右將軍至下吏。贖爲庶人。

大將軍軍入塞。凡斬捕首虜萬九千級。是時匈奴衆失單于十

餘日。右谷蠡王聞之。自立爲單于。索隱曰。谷音祿。蠡音黎。又音離。單于後得其衆。

右王乃去單于之號。驃騎將軍亦將五萬騎。車重與大將軍軍

等。而無裨將。悉以李敢等爲大校。當裨將。出代右北平千餘里。

直左方兵。所斬捕功已多大將軍。軍既還。天子曰。驃騎將軍去

病率師。躬將所獲革鞞之士。徐廣曰。鞞一作允。駟案應劭曰。所降士有材力者。約輕齋。絕大幕。

約輕齋。顏師古曰。輕齋ハ輜重ヲ以テ自ラ隨ヘズ。而モ齋ス所ノ糧



遼邪六贏、札記謂二作  
ル、云フ毛本贏、各本  
贏ニ誤ル、顔師古曰、  
贏ハ驢種馬子ニシテ、  
堅忍ナリ、單子自ラ善  
走贏ニ乘リ、而テ壯騎  
之ニ隨フナリ。

北<sup>ニシ</sup>其輜重<sup>ヲ</sup>皆以<sup>ニ</sup>精兵<sup>ヲ</sup>待<sup>ツ</sup>幕北<sup>ニ</sup>而適<sup>レ</sup>值<sup>フ</sup>大將軍<sup>ニ</sup>軍出<sup>ル</sup>塞千餘里<sup>ニ</sup>見<sup>ニ</sup>

單于<sup>ノ</sup>兵陳<sup>シテ</sup>而待<sup>ツ</sup>於<sup>レ</sup>是大將軍<sup>ニ</sup>令<sup>メ</sup>武剛車<sup>ヲ</sup>  
孫吳兵法曰有巾有蓋謂之武剛車也自環<sup>ラシテ</sup>爲<sup>ス</sup>

營<sup>ヲ</sup>而縱<sup>チテ</sup>五千騎<sup>ヲ</sup>往<sup>イッテ</sup>當<sup>ツ</sup>匈奴<sup>ニ</sup>匈奴<sup>モ</sup>亦縱<sup>ツ</sup>可<sup>ニ</sup>萬騎<sup>ヲ</sup>會<sup>フ</sup>日<sup>ニ</sup>且<sup>ユ</sup>入<sup>レ</sup>大風<sup>ニ</sup>起<sup>ル</sup>

砂礫<sup>ヲ</sup>擊<sup>ツ</sup>面<sup>ヲ</sup>兩軍<sup>ニ</sup>不相見<sup>ル</sup>漢益<sup>シテ</sup>縱<sup>チテ</sup>左右翼<sup>ヲ</sup>繞<sup>ラス</sup>單于<sup>ヲ</sup>單于<sup>ヲ</sup>視<sup>ミ</sup>漢兵多<sup>ク</sup>

而士馬尙彊<sup>ク</sup>戰<sup>フ</sup>而匈奴<sup>ニ</sup>不利<sup>アラ</sup>薄暮<sup>ニ</sup>單于<sup>ヲ</sup>遂乘<sup>ジ</sup>六贏<sup>ニ</sup>壯騎<sup>ヲ</sup>可<sup>ニ</sup>數百<sup>ヲ</sup>

直冒<sup>チシテ</sup>漢圍<sup>ヲ</sup>西北馳<sup>セ</sup>去<sup>ル</sup>時已昏<sup>ル</sup>漢匈奴<sup>ニ</sup>相紛拏<sup>ス</sup>  
正義曰三蒼解詁云紛拏相牽也殺傷<sup>ス</sup>

大當<sup>ス</sup>  
索隱曰以言所殺傷大略相當漢軍<sup>ニ</sup>左校捕虜<sup>ヲ</sup>言<sup>フ</sup>單于<sup>ヲ</sup>未昏<sup>ナラ</sup>而去<sup>ルト</sup>漢軍<sup>ニ</sup>因發<sup>シ</sup>

輕騎<sup>ヲ</sup>夜追<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>大將軍<sup>ニ</sup>軍因隨<sup>フ</sup>其後<sup>ニ</sup>匈奴<sup>ノ</sup>兵亦散走<sup>ス</sup>遲明<sup>ス</sup>  
正義曰遲音值

行<sup>ル</sup>二百餘里<sup>ニ</sup>  
徐廣曰遲一作黎○索隱曰遲音值遲者待也待天欲明也漢書作會明諸本多作黎明鄒氏云黎逮也然黎黑也候天將明而猶黑也不<sup>レ</sup>

得<sup>レ</sup>單于<sup>ヲ</sup>頗捕<sup>ル</sup>斬<sup>ス</sup>首虜<sup>ヲ</sup>萬餘級<sup>ニ</sup>遂至<sup>リ</sup>賓顏山<sup>ニ</sup>趙信城<sup>ニ</sup>  
徐廣曰賓音田得<sup>フ</sup>匈

故言屬國也。其明年匈奴入右北平定襄。殺略漢千餘人。其明年天子

與諸將議曰。翁侯趙信爲單于畫計。常以爲漢兵不能度幕輕

留。索隱曰。案幕。卽沙幕。古字少耳。輕留者。謂匈奴以漢軍不能至。故輕易留而不去也。今大發士卒。其勢必得所欲。

是歲元狩四年也。元狩四年春。上令大將軍青。驃騎將軍去病。

將各五萬騎。步兵轉者踵軍。正義曰。言轉軍之士。及步兵接後。又數十萬人。數十萬。而敢力

戰深入之士皆屬驃騎。驃騎始爲出定襄。當單于捕虜。言單于

東乃更令驃騎出代郡。令大將軍出定襄。郎中令爲前將軍。太

僕爲左將軍。主爵趙食其爲右將軍。平陽侯襄爲後將軍。皆屬

大將軍。兵卽度幕。人馬凡五萬騎。與驃騎等咸擊匈奴。單于趙

信爲單于謀曰。漢兵旣度幕。人馬罷。匈奴可坐收虜耳。乃悉遠

以爲漢兵不能度幕輕留。漢書注。一曰漢兵不能輕入而久留也。此說二從へバ。漢兵幕ヲ度リ輕留スル能ハズト爲スト讀ムベシ。注卽沙幕ノ幕。札記漢ニ作元狩四年春。札記云。元狩四年四字疑フ衍ナリ。漢書ナシ。轉者踵軍注。踵軍。札記轉運ニ作ル。云フ軍ニ驃ス。汪校改ム。顏師古曰。轉ハ輜重ヲ運スルヲ謂フ。踵ハ接ナリ。



ニ依テ改ム、按ニ漢書注、文穎曰應音鷹。

大當戶銅離注徐廣作稠雕、札記鵬チ離ニ作ル、云、索隱徐廣一作稠雕、與漢書功臣表同、考證云、漢書本傳調離ニ作リ、功臣侯表稠雕ニ作ル、此ト俱ニ異ナリ。

及厥衆萌、顔師古曰、萌字訛ト同シ。

仍與之勞、札記志疑云、漢書與チ興ニ作ル、顔師古曰、重テ軍旅ノ勞チ興スナリ。

庇音必二反。又音疋履反。案漢書功臣表。元狩二年以燿渠封僕朋。至三年又封鷹庇。其地俱屬魯陽。未詳所以。○正義曰。燿渠。表作順梁。

禽梨爲河碁

侯。徐廣曰。禽一作鳥。○索隱曰。案表作鳥梨。

大當戶銅離爲常樂侯。

徐廣曰。離一作稠雕也。○索隱曰。徐注與漢書功臣

表同。此文云銅。漢書云調。字又異也。於是天子嘉驃騎之功曰。驃騎將軍去病率師攻

匈奴。西域王渾邪王及厥衆萌咸相犇。率以軍糧接食。并將控

弦萬有餘人。誅獍驛。晉灼曰。獍音欺譙反。○索隱曰。說文獍作邊。行疾貌。悍音胡旦反。獲首虜八千餘級。

降異國之王三十二人。戰士不離傷。十萬之衆咸懷集服。仍與

之勞。爰及河塞。庶幾無患。正義曰。言匈奴右地渾邪王降。而塞外並河諸郡之民無憂患也。幸旣永綏矣。

以千七百戶益封驃騎將軍。減隴西北地上郡戍卒之半。以寬

天下之繇。居頃之。乃分徙降者邊五郡故塞外。正義曰。五郡謂隴西北地上郡朔方雲中。

並是故塞外。又在北海西南。而皆在河南。因其故俗爲屬國。正義曰。以降來之民徙置五郡。各依本國之俗。而屬於漢。



使人先ヨリ報天子要邊  
ニ至ル、札記使人先要  
邊ニ作ル、云フ舊刻此  
五字ニ止ル、各本使人  
先ノ下、遣使向邊境要  
遮漢人令報天子十三字  
ヲ衍ス、雜志云、乃集解  
誤テ正文ニ入ル、索隱  
本先要邊三字ヲ出シ、  
漢書使人先要邊邊ニ作  
ル、皆其證ナリ、按ズ  
ルニ此說確ナリ、惟衍  
スル所ノ字、是集解ノ  
文ナルヤ否ヤ、或ハ後  
人ノ旁注誤入ニ係ル、  
未ダ知ルベカラズ、今  
止ダ舊刻ニ從フ。

鷹庇爲輝渠侯注索隱作  
雍、札記雍ヲ鷹ニ作ル、  
云、モト雍ニ譌ス、漢書

方。數爲漢所破。亡數萬人。以驃騎之兵也。單于怒。欲召誅渾邪。  
王。渾邪王與休屠王等謀。欲降漢。使人先遣使向邊境。要遮漢  
人。索隱曰。案謂先於邊境。要候漢人。言其欲降。令報天子。要邊。是時大行李息將城河上。

得渾邪王使。即馳傳以聞。天子聞之。於是恐其以詐降而襲邊。  
乃令驃騎將軍將兵往迎之。驃騎既渡河。與渾邪王衆相望。渾  
邪王裨將見漢軍。而多欲不降者。頗遁去。驃騎乃馳入。與渾邪  
王相見。斬其欲亡者八千人。遂獨遣渾邪王。乘傳先詣行在所。  
盡將其衆渡河。降者數萬。號稱十萬。既至長安。天子所以賞賜  
者數十巨萬。封渾邪王萬戶爲漯陰侯。索隱曰。漯音他合反。案地理志。縣名在平原。封其  
裨王呼毒尼爲下麾侯。文穎曰。毒尼。胡王名。鷹庇爲輝渠侯。徐廣曰。一篇篇。○索隱曰。漢書鷹作雍。

屬趙破奴。得匈奴王及王母也。  
或云右千騎將。即匈奴王號也。

王子以下四十一人。捕虜三千三百三

十人。前行捕虜千四百人。以千五百戶封破奴爲從驃侯。

張晏曰。從

驃騎將軍有

校尉句王高不識。

徐廣曰。句音鉤。匈奴以爲號。○索隱曰。案二人並匈奴人也。

從驃騎將

前行捕虜。顏師古曰。前行ハ軍ノ前ニ在リテ行クヲ謂フ。校尉句王高不識。方苞曰。不識匈奴ニ在ル時。句王ト爲リ。漢ニ降ル後。校尉ト爲ル。

軍。捕呼于屠王。

索隱曰。案三字共爲王號。

王子以下十一人。捕虜千七百六十

八人。以千一百戶封不識爲宜冠侯。

正義曰。孔文祥云。從冠軍將軍戰。故宜冠。從驃之類者也。

校尉

僕多有功。封爲輝渠侯。

索隱曰。案漢表作僕朋。疑多是誤。輝音暉也。

合騎侯敖。坐行畱不

封爲輝渠侯。札記志疑云。輝渠ノ譌ナリ。說ハ表ニ在リ。

與驃騎會當斬。贖爲庶人。諸宿將所將士馬兵亦不如驃騎所

將常選。

索隱曰。選音宣。變反。謂驃騎常選擇取精兵。

然亦敢深入。常與壯騎先其大將軍。

軍亦有天幸。未嘗困絕也。然而諸宿將常坐畱落不遇。

索隱曰。案謂遲畱零

先其大將軍。札記雜志云。本先其大軍ニ作ル。漢書將字ナシ。上文直棄大軍數百里赴利ト曰フ。是其證ナリ。蔣西谷曰。大將軍青。去病其ト曰フ。此說ハ大將軍ト爲シテ見ルナリ。

落不遇

由此驃騎日以親貴。比大將軍。其秋。單于怒。渾邪王居西



行<sub>レ</sub>雷<sub>ニ</sub>當<sub>レ</sub>斬<sub>ニ</sub>。贖<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>庶人<sub>ニ</sub>。而驃騎將軍出<sub>ニ</sub>北地<sub>ニ</sub>。已<sub>ニ</sub>遂<sub>ニ</sub>深入<sub>ニ</sub>。與<sub>ニ</sub>合騎侯<sub>ニ</sub>

失<sub>レ</sub>道<sub>ニ</sub>。不<sub>ニ</sub>相得<sub>ニ</sub>。驃騎將軍踰<sub>ニ</sub>居延<sub>ニ</sub>。至<sub>ニ</sub>祁連山<sub>ニ</sub>。捕首虜甚<sub>ニ</sub>多<sub>ニ</sub>。天子曰。

驃騎將軍踰<sub>ニ</sub>居延<sub>ニ</sub>。張晏曰。水名也。遂<sub>ニ</sub>過<sub>ニ</sub>小月氏<sub>ニ</sub>。索隱曰。韋昭氏音支。西域傳。大月氏本居燉煌祁連間。餘衆保南山。

遂<sub>ニ</sub>號<sub>ニ</sub>小月氏<sub>ニ</sub>。索隱曰。小顏云。即天山也。匈奴謂天爲祁連。攻<sub>ニ</sub>祁連山<sub>ニ</sub>。案。西河舊事。謂白山即天山。祁連恐非也。得<sub>ニ</sub>會<sub>ニ</sub>涂王<sub>ニ</sub>。張晏曰。胡

王也。○索隱曰。會音才由反。涂音徒。漢書云。揚武乎<sub>ニ</sub>。得<sub>ニ</sub>單于<sub>ニ</sub>。單桓會<sub>ニ</sub>涂王<sub>ニ</sub>。此文省也。

以<sub>ニ</sub>衆<sub>ニ</sub>降<sub>ニ</sub>者<sub>ニ</sub>二千五百人<sub>ニ</sub>。斬首虜

三萬二百級。獲<sub>ニ</sub>五王<sub>ニ</sub>。五王母<sub>ニ</sub>單于<sub>ニ</sub>闕氏<sub>ニ</sub>。王子五十九人。相國將

軍當<sub>ニ</sub>戶都尉<sub>ニ</sub>六十三人<sub>ニ</sub>。師大率減<sub>ニ</sub>什三<sub>ニ</sub>。正義曰。率音律也。○索隱曰。案漢書作減什七。小顏云。被匈奴之師

十減其七。一云漢兵亡失之數。下皆類此。案一說爲是也。

益<sub>ニ</sub>封<sub>ニ</sub>去病<sub>ニ</sub>五千戶<sub>ニ</sub>。賜<sub>ニ</sub>校尉<sub>ニ</sub>從<sub>ニ</sub>至<sub>ニ</sub>小月氏<sub>ニ</sub>。爵左庶長。鷹擊司馬破奴再從<sub>ニ</sub>驃騎將軍<sub>ニ</sub>。斬<sub>ニ</sub>遼濮王<sub>ニ</sub>。捕<sub>ニ</sub>稽且王<sub>ニ</sub>。正義曰。遼音速。濮音卜。○索隱曰。漢書作右千騎將王。然則此云千騎將是漢之將

師大率減什三、茅濩曰、若シ注一説ノ如キ、則是方ニ驃騎ノ功ヲ敘シ、而テ又其損失ノ數ヲ計ルナリ、當ニ小顏云フ所ニ依ルベシ。稽且王、札記且ヲ祖ニ作ル、云フ索隱本祖、注同ジ、各本且ニ作ル。



作ル、集詩類篇引ク同  
シ、疑フ此誤ル。

懾懼者弗取、顔師古曰、  
拒戰スル者ハ誅シ、服  
スル者ハ則赦スナ言フ  
ナリ。

盧胡王注正義有其闕  
姓、札記其ナ是ニ作ル、  
云フ是ナ其ニ誤ル、考  
證漢書注ニ據テ改ム。  
誅全甲、札記云、漢書  
云、銳悍者誅、全甲獲  
醜ト、疑フ此缺ナリ、  
按ニ漢書注顔師古曰、  
全甲ハ軍中ノ甲喪失セ  
ザルヲ謂フナリ。

名也。討<sup>シ</sup>遼<sup>ヲ</sup>濮<sup>ヲ</sup>。索隱曰。遼音速。濮音ト。崔浩云。匈奴部落名。案下有遼濮王。則是國名也。涉<sup>ニ</sup>狐<sup>ヲ</sup>奴<sup>ヲ</sup>。晉灼曰。水名也。歷<sup>ニ</sup>五<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>國<sup>ニ</sup>。

輜<sup>ニ</sup>重<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>衆<sup>ニ</sup>。懾<sup>スル</sup>懼<sup>スル</sup>者弗<sup>レ</sup>取<sup>フ</sup>。文穎曰。恐懼也。○索隱曰。案說文云。懾懼。失氣也。劉氏云。懾式涉反。懾之涉反。冀<sup>ニ</sup>獲<sup>ニ</sup>單<sup>ニ</sup>于<sup>ニ</sup>。

子<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。一作與。轉<sup>スル</sup>戰<sup>スル</sup>六<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>。過<sup>ニ</sup>焉<sup>ニ</sup>支<sup>ニ</sup>山<sup>ニ</sup>千<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>餘<sup>ニ</sup>里<sup>ニ</sup>。合<sup>ニ</sup>短<sup>ニ</sup>兵<sup>ニ</sup>。殺<sup>ニ</sup>折<sup>ニ</sup>蘭<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>。斬<sup>ニ</sup>。

盧<sup>ニ</sup>胡<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>。張晏曰。折蘭盧胡。國名也。殺者。殺之而已。斬者。獲其首。○正義曰。顔師古云。折蘭。匈奴中姓也。今鮮卑有其蘭姓者。卽其種。誅<sup>ニ</sup>全<sup>ニ</sup>甲<sup>ニ</sup>。徐廣

曰。全<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>作<sup>ニ</sup>金<sup>ニ</sup>。○正<sup>ニ</sup>義<sup>ニ</sup>曰<sup>ニ</sup>。全<sup>ニ</sup>甲<sup>ニ</sup>。謂<sup>ニ</sup>具<sup>ニ</sup>足<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>失<sup>ニ</sup>落<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。執<sup>ニ</sup>渾<sup>ニ</sup>邪<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>子<sup>ニ</sup>。及<sup>ニ</sup>相<sup>ニ</sup>國<sup>ニ</sup>都<sup>ニ</sup>尉<sup>ニ</sup>。首<sup>ニ</sup>虜<sup>ニ</sup>八<sup>ニ</sup>千<sup>ニ</sup>餘<sup>ニ</sup>級<sup>ニ</sup>。收<sup>ニ</sup>。

休<sup>ニ</sup>屠<sup>ニ</sup>祭<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>金<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>。如淳曰。祭。天爲主。○索隱曰。案張晏云。佛徒祠金人也。屠音儲。益<sup>ニ</sup>封<sup>ニ</sup>去<sup>ニ</sup>病<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>千<sup>ニ</sup>戶<sup>ニ</sup>。其<sup>ニ</sup>夏<sup>ニ</sup>。

驃<sup>ニ</sup>騎<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>軍<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>合<sup>ニ</sup>騎<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>敖<sup>ニ</sup>。俱<sup>ニ</sup>出<sup>ニ</sup>北<sup>ニ</sup>地<sup>ニ</sup>異<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>。博<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>張<sup>ニ</sup>騫<sup>ニ</sup>。郎<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>李<sup>ニ</sup>。

廣<sup>ニ</sup>。俱<sup>ニ</sup>出<sup>ニ</sup>右<sup>ニ</sup>北<sup>ニ</sup>平<sup>ニ</sup>異<sup>ニ</sup>道<sup>ニ</sup>。皆<sup>ニ</sup>擊<sup>ニ</sup>匈<sup>ニ</sup>奴<sup>ニ</sup>。郎<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>四<sup>ニ</sup>千<sup>ニ</sup>騎<sup>ニ</sup>。先<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>。博<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>。

將<sup>ニ</sup>萬<sup>ニ</sup>騎<sup>ニ</sup>。在<sup>ニ</sup>後<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>。匈<sup>ニ</sup>奴<sup>ニ</sup>左<sup>ニ</sup>賢<sup>ニ</sup>王<sup>ニ</sup>將<sup>ニ</sup>數<sup>ニ</sup>萬<sup>ニ</sup>騎<sup>ニ</sup>。圍<sup>ニ</sup>郎<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>。郎<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>戰<sup>ニ</sup>。

二<sup>ニ</sup>日<sup>ニ</sup>。死<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>過<sup>ニ</sup>半<sup>ニ</sup>。所<sup>ニ</sup>殺<sup>ニ</sup>亦<sup>ニ</sup>過<sup>ニ</sup>當<sup>ニ</sup>。博<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>至<sup>ニ</sup>。匈<sup>ニ</sup>奴<sup>ニ</sup>兵<sup>ニ</sup>引<sup>ニ</sup>去<sup>ニ</sup>。博<sup>ニ</sup>望<sup>ニ</sup>侯<sup>ニ</sup>坐<sup>ニ</sup>。

發奮從大將軍、札記云、  
毛本張騫ノ上校尉二字  
アリ、漢書ト合ス。

驃騎將軍注正義說文云  
云、札記驃字チ刪リ、毫  
上白字アリ、云フ驃下  
騎字チ衍シ、一日下白  
字チ脱ス、說文ニ依リ  
刪補ス、釐字說文發ニ

將軍不益封。右將軍建至。天子不誅。赦其罪。贖爲庶人。大將軍

既還。賜千金。是時王夫人方幸於上。甯乘說大將軍曰。將軍所

以功未甚多。身食萬戶。三子皆爲侯者。徒以皇后故也。今王夫

人幸而宗族未富貴。願將軍奉所賜千金爲王夫人親壽。大將

軍乃以五百金爲壽。天子聞之。問大將軍。大將軍以實言。上乃

拜甯乘爲東海都尉。張騫從大將軍。以嘗使大夏。正義曰。大夏  
國在大宛西。畱

匈奴中久導軍知善水草處。軍得以無饑渴。因前使絕國功。封

騫博望侯。冠軍侯去病既侯三歲。元狩二年春。以冠軍侯去病

爲驃騎將軍。徐廣曰。驃一亦作剽。○正義曰。漢書云。霍去病征匈奴有絕幕之勳。始置  
驃騎將軍。位在司。品秩同大將軍。說文云。驃騎黃馬鬣白色。一曰髦尾。

將萬騎出隴西有功。天子曰。驃騎將軍率戎士踰烏。漢書音義  
曰。音戾。山

曰。天子自謂所居曰行在所。猶言今雖在京師。行所至耳。巡狩天下。所奏事處皆爲宮。在長安。則曰奏長安宮。在泰山。則曰奏奉高宮。唯當時所在。

歲也。大將軍姊子霍去病。針線徐廣曰。姊即少兒也。年十八。幸爲天子侍中。善騎

射。再從大將軍受詔。與壯士爲剽姚校尉。索隱曰。服虔音飄搖。大顏案荀悅漢紀作票鷁。票鷁勁疾

再從大將軍受詔。札記云。宋本中統游毛本受上二大將軍三字ヲ重ヌ、按ニ漢書亦同シ。

之貌也。票音頻妙。與輕勇騎八百。直棄大軍數百里。赴利。斬捕首虜

過當。索隱曰。案小顏云。計其所將之人數。則捕首虜爲多。過於所當也。一云。漢軍亡失者少。而殺獲匈奴數多。故曰過當也。於是天子曰。剽

姚校尉去病。斬首虜二千二十八級。及相國當戶。斬單于大父

行籍若侯產。張晏曰。籍若。胡侯。○索隱曰。行音胡浪反。謂籍若侯。是匈奴祖之行第產。即大父之名。生捕季父羅姑比。

索隱曰。案顧氏云。羅姑比。單于季父名。小顏云。比。類也。案下既云再。無容更言類也。再冠軍。以千六百戶封去病爲冠

軍侯。上谷太守郝賢四從大將軍。捕斬首虜二千餘人。以千一

百戶封賢爲衆利侯。是歲失兩將軍軍。亡翕侯軍功不多。故大

季父羅姑比注顧氏。札記類氏二作ル、云フ單本類。各本並二顧二作ル。



誘<sub>レ</sub>之<sub>ヲ</sub>。遂<sub>ニ</sub>將<sub>キ</sub>其<sub>ニ</sub>餘<sub>ヲ</sub>騎<sub>ヲ</sub>可<sub>ニ</sub>八<sub>ニ</sub>百<sub>ヲ</sub>。犇<sub>テ</sub>降<sub>ル</sub>單<sub>ヲ</sub>于<sub>ニ</sub>。右<sub>ノ</sub>將<sub>ヲ</sub>軍<sub>ヲ</sub>蘇<sub>ヲ</sub>建<sub>ヲ</sub>盡<sub>ニ</sub>亡<sub>ニ</sub>其<sub>ノ</sub>軍<sub>ヲ</sub>。獨<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>身<sub>ヲ</sub>得<sub>ニ</sub>亡<sub>ニ</sub>去<sub>ニ</sub>。自<sub>ミ</sub>歸<sub>ス</sub>大<sub>ニ</sub>將<sub>ヲ</sub>軍<sub>ヲ</sub>。大<sub>ニ</sub>將<sub>ヲ</sub>軍<sub>ヲ</sub>問<sub>フ</sub>其<sub>ノ</sub>罪<sub>ヲ</sub>。正<sub>ニ</sub>閔<sub>ニ</sub>。長<sub>ニ</sub>史<sub>ヲ</sub>安<sub>ニ</sub>。張晏曰。正。軍正也。閔。

名也。○正義曰。律。

都軍官長史一人。

議郎周霸等。

徐廣曰。儒生。○索隱曰。案郊祀志。議封禪有周霸。故知儒生也。

建當云何。霸

曰。自<sub>ミ</sub>大<sub>ニ</sub>將<sub>ヲ</sub>軍<sub>ヲ</sub>出<sub>ル</sub>。未<sub>ミ</sub>嘗<sub>テ</sub>斬<sub>ニ</sub>裨<sub>ヲ</sub>將<sub>ヲ</sub>。今<sub>ニ</sub>建<sub>ヲ</sub>棄<sub>ル</sub>軍<sub>ヲ</sub>。可<sub>ニ</sub>斬<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>明<sub>ニ</sub>將<sub>ヲ</sub>軍<sub>ヲ</sub>之<sub>ノ</sub>威<sub>ヲ</sub>。閔<sub>ニ</sub>。安<sub>ニ</sub>曰<sub>ニ</sub>。不<sub>レ</sub>然<sub>ヲ</sub>。兵<sub>ヲ</sub>法<sub>ヲ</sub>。小<sub>ニ</sub>敵<sub>ヲ</sub>之<sub>ノ</sub>堅<sub>ヲ</sub>。大<sub>ニ</sub>敵<sub>ヲ</sub>之<sub>ノ</sub>禽<sub>ヲ</sub>也<sub>ト</sub>。今<sub>ニ</sub>建<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>數<sub>ニ</sub>千<sub>ヲ</sub>。當<sub>ニ</sub>單<sub>ヲ</sub>于<sub>ニ</sub>數<sub>ニ</sub>萬<sub>ヲ</sub>。力<sub>ヲ</sub>戰<sub>スル</sub>。一<sub>ニ</sub>日<sub>ヲ</sub>餘<sub>ヲ</sub>。士<sub>ヲ</sub>盡<sub>ニ</sub>。不<sub>レ</sub>敢<sub>テ</sub>有<sub>ニ</sub>二<sub>ヲ</sub>心<sub>ヲ</sub>。自<sub>ミ</sub>歸<sub>ス</sub>。自<sub>ミ</sub>歸<sub>ス</sub>而<sub>レ</sub>斬<sub>ニ</sub>之<sub>ヲ</sub>。是<sub>ニ</sub>示<sub>ニ</sub>後<sub>ヲ</sub>無<sub>ニ</sub>反<sub>ニ</sub>意<sub>ヲ</sub>也<sub>ト</sub>。不<sub>レ</sub>當<sub>ニ</sub>斬<sub>ニ</sub>。大<sub>ニ</sub>將<sub>ヲ</sub>軍<sub>ヲ</sub>曰<sub>ニ</sub>。青<sub>ニ</sub>幸<sub>ヲ</sub>得<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>肺<sub>ヲ</sub>腑<sub>ヲ</sub>待<sub>ニ</sub>罪<sub>ヲ</sub>行<sub>ニ</sub>閔<sub>ニ</sub>。不<sub>レ</sub>患<sub>ニ</sub>無<sub>ニ</sub>威<sub>ヲ</sub>。而<sub>レ</sub>霸<sub>ニ</sub>說<sub>ニ</sub>我<sub>ヲ</sub>以<sub>テ</sub>明<sub>ニ</sub>威<sub>ヲ</sub>。甚<sub>ニ</sub>失<sub>ニ</sub>臣<sub>ヲ</sub>意<sub>ヲ</sub>。且<sub>レ</sub>使<sub>ニ</sub>臣<sub>ヲ</sub>職<sub>ヲ</sub>雖<sub>レ</sub>當<sub>ニ</sub>斬<sub>ニ</sub>將<sub>ヲ</sub>。以<sub>ニ</sub>臣<sub>ヲ</sub>之<sub>ノ</sub>尊<sub>ヲ</sub>寵<sub>ヲ</sub>。而<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>敢<sub>テ</sub>自<sub>ミ</sub>擅<sub>ニ</sub>專<sub>ニ</sub>誅<sub>ニ</sub>於<sub>ニ</sub>境<sub>ヲ</sub>外<sub>ニ</sub>。而<sub>レ</sub>具<sub>ニ</sub>歸<sub>ニ</sub>天<sub>ヲ</sub>子<sub>ヲ</sub>。天<sub>ニ</sub>子<sub>ヲ</sub>自<sub>ミ</sub>裁<sub>ニ</sub>之<sub>ヲ</sub>。於<sub>ニ</sub>是<sub>ニ</sub>以<sub>テ</sub>見<sub>ス</sub>爲<sub>ニ</sub>人<sub>ヲ</sub>臣<sub>ヲ</sub>。不<sub>レ</sub>敢<sub>テ</sub>專<sub>ニ</sub>權<sub>ニ</sub>。不<sub>レ</sub>亦<sub>ニ</sub>可<sub>ニ</sub>乎<sub>ヲ</sub>。軍<sub>ヲ</sub>吏<sub>ヲ</sub>皆<sub>ニ</sub>曰<sub>ニ</sub>。善<sub>ニ</sub>。遂<sub>ニ</sub>囚<sub>ニ</sub>建<sub>ヲ</sub>。詣<sub>ニ</sub>行<sub>ニ</sub>在<sub>ニ</sub>所<sub>ニ</sub>。

蔡邕

將軍獲王。以千六百戶封蔡爲安樂侯。校尉李朔。校尉趙不虞。校尉公孫戎奴。各三從大將軍。獲王。以千三百戶封朔爲涉軹侯。以千三百戶封不虞爲隨成侯。以千三百戶封戎奴爲從平侯。將軍李沮。李息。及校尉豆如意有功。賜爵關內侯。食邑各三百戶。其秋。匈奴入代。殺都尉朱英。其明年春。大將軍青出定襄。合騎侯敖爲中將軍。太僕賀爲左將軍。翕侯趙信爲前將軍。衛尉蘇建爲右將軍。郎中令李廣爲後將軍。左內史李沮爲彊弩將軍。咸屬大將軍。斬首數千級而還。月餘。悉復出定襄。擊匈奴。斬首虜萬餘人。右將軍建。前將軍信。并軍三千餘騎。獨逢單于兵。與戰。一日餘。漢兵且盡。前將軍故胡人。降爲翕侯。見急匈奴。

臣青子在襁保中、札記  
襁保ヲ細線ニ作ル、中  
フ細宋本毛本同ジ、中  
統游王繼ニ作ル、舊刻  
柯浚強ニ作ル、細宋本  
中統游毛同ジ、舊刻襁  
ニ作ル、王柯浚保ニ作  
ル、注隨小兒被也、襁  
札記襁ニ作ル、是ナリ。

合騎侯注驪騎、一本車  
騎ニ作ル。

之功也。陛下幸已益封臣青。臣青子在襁保中。

正義曰。襁長尺二寸。闊八寸。以約小兒於

背。襁小兒被也。

未有勤勞。上幸列地封爲三侯。非臣待罪行間。所以勸

士力戰之意也。伉等三人何敢受封。天子曰。我非忘諸校尉功

也。今固且圖之。乃詔御史曰。護軍都尉公孫敖。三從大將軍擊

匈奴。常護軍傳校獲王。索隱曰。顧祕監云。傳。領也。五百人謂之校。小顏云。傳

千五百戶封敖爲合騎侯。索隱曰。案非邑地。因戰功爲號。謂軍

從大將軍出。竄渾。徐廣曰。竄渾在朔方。音庚。○索隱曰。服

爲麾下搏戰獲王。索隱曰。搏音博。搏擊也。小顏同。今

龍額侯。騎將軍公孫賀。從大將軍獲王。以千三百戶封賀爲南

郊侯。徐廣曰。郊宜作翳。音匹。孝反。○索隱曰。韋昭云。縣



右賢王夜逃、札記云、中統游本逃ヲ通ニ作ル、按ズルニ上下文ヲ以テ之ヲ審ニスルニ、疑フ夜逃二字衍ナリ。

公爲將軍。出右北平。咸擊匈奴。匈奴右賢王當衛青等兵。以爲漢兵不能至此。飲醉。漢兵夜至圍右賢王。右賢王驚夜逃。獨與其愛妾一人壯騎數百。馳潰圍北去。漢輕騎校尉郭成等逐數百里不及。得右賢裨王十餘人。

索隱曰。賈逵云。裨。益也。小顏云。裨。王。小王也。若裨將。然音頻移反。

衆男

女萬五千餘人。畜數千百萬。於是引兵而還。至塞。天子使使者持大將軍印。卽軍中拜車騎將軍青爲大將軍。諸將皆以兵屬大將軍。大將軍立號而歸。

索隱曰。案謂立大將軍之號。令而歸也。

天子曰。大將軍青躬

率戎士。師大捷。獲匈奴王十有餘人。益封青六千戶。而封青子

伉爲宜春侯。正義曰。伉音口浪反。青子不疑爲陰安侯。青子登爲發干侯。青

固謝曰。臣幸得待罪行閒。賴陛下神靈。軍大捷。皆諸校尉力戰

已封爲列侯。遂西定河南地。按榆谿舊塞。

如淳曰。按。行也。榆谿。舊塞名。或曰。按。尋也。○索隱曰。案水

經云。上郡之北有諸次山。諸次水出焉。

絕梓領。梁北河。

如淳曰。絕度也。爲北河作橋梁。○正義曰。括地志云。

東經榆林塞爲榆谿。是榆谿舊塞也。

梁北河在

討蒲泥破符離。

晉灼曰。二王號。○索隱曰。崔浩云。北塞名。

斬輕銳之卒。捕伏聽者。

靈州界也。

三千七十一級。

張晏曰。伏於隱處。聽軍虛實。

執訊獲醜。

正義曰。訊。問也。醜。衆言。執其生口。問之。知虜處。獲得衆類也。

驅馬牛羊百有餘萬。全甲兵而還。益封青三千戶。其明年匈奴

入殺代郡太守友。

徐廣曰。友者。太守名也。姓共也。

入略雁門千餘人。其明年匈奴

大入。代定襄上郡殺略漢數千人。其明年元朔之五年春。漢令

車騎將軍青將三萬騎出高闕。衛尉蘇建爲游擊將軍。左內史

李沮

文穎曰。音沮。

爲彊弩將軍。太僕公孫賀爲騎將軍。代相李蔡爲

輕車將軍。皆領屬車騎將軍。俱出朔方。大行李息岸頭侯張次

軍青出雲中。以西至高闕。

索隱曰。高闕。山名。小顏云。一曰。塞名。在朔方之北也。

遂略河南地。至

于隴西。捕首虜數千。畜數十萬。走白羊樓煩王。遂以河南地爲

朔方郡。

正義曰。今夏州也。

以三千八百戶封青爲長平侯。青校尉蘇建有

牽連

功。以千一百戶封建爲平陵侯。使建築朔方城。

正義曰。括地志云。夏州朔方縣北什賁故

城是。按蘇建築什賁之號。蓋出蕃語也。

青校尉張次公有功。封爲岸頭侯。

索隱曰。案晉灼云。河東皮氏縣之亭

名也。○正義曰。服虔云。鄉名也。

天子曰。匈奴逆天理。亂人倫。暴長虐老。以盜竊爲

務。行詐諸蠻夷。造謀籍兵。數爲邊害。

張晏曰。從蠻夷借兵抄邊也。

故興師遣將。

以征厥罪。詩不云乎。薄伐玁狁。至于太原。

索隱曰。此小雅六月詩。美宣王北伐也。薄伐者。言逐出之

也。出車彭彭。城彼朔方。

索隱曰。小雅出車之詩也。

今車騎將軍青度西河。

正義曰。即

度西河注云。勝州東河。札記云。今作ル。云フ今云ニ誤ル。考證改ム。

至高闕。獲首虜二千三百級。車輜畜產畢收爲鹵。



乃召青爲建章監侍中。及同母昆弟貴。賞賜數日閒累千金。冷眼

爲太僕公孫賀妻。少兒故與陳掌通。徐廣曰。陳平曾孫名掌也。上召貴掌。公孫

應前放與壯士篡取之

敖由此益貴。子夫爲夫人。青爲太中大夫。元光五年。青爲車騎

將軍。擊匈奴。出上谷。太僕公孫賀爲輕車將軍。出雲中。太中大

夫公孫敖爲騎將軍。出代郡。衛尉李廣爲驍騎將軍。出雁門。軍

各萬騎。青至龍城。斬首虜數百。騎將軍敖亡七千騎。衛尉李廣

爲虜所得。得脫歸。皆當斬。贖爲庶人。賀亦無功。元朔元年春。衛

夫人有男。

索隱曰。卽衛太子據也。

立爲皇后。其秋。青爲車騎將軍。出雁門。三

萬騎擊匈奴。斬首虜數千人。明年。匈奴入殺遼西太守。虜略

陽二千餘人。敗韓將軍軍。漢令將軍李息擊之。出代。令車騎將

子夫。後子夫男弟步廣。徐廣曰。步一作少。皆冒衛氏。青爲侯家人。少時歸。

其父。其父使牧羊。先母之子。服虔曰。先母。適妻也。青之適母。○索隱曰。漢書作民母。顧氏云。鄭季本妻。編於民戶之間。故曰民母。

今本亦或作民母也。皆奴畜之。不以爲兄弟數。索隱曰。音去聲。青嘗從入至甘泉居

室。張晏曰。甘泉中徒所居也。○正義曰。按居室。署名武帝改曰保宮。灌夫繫居室是也。有一鉗徒相青曰。貴人也。官至

封侯。青笑曰。人奴之生得母笞罵。卽足矣。安得封侯事乎。青壯

爲侯家騎。從平陽主。建元二年春。青姊子夫得入宮。幸上。皇后

堂邑大長公主女也。徐廣曰。堂邑安侯陳嬰之孫夷侯午。尙景帝姊長公主。子季須。元鼎元年。季須坐奸自殺。○正義曰。文穎云。陳皇后武帝

姑女。無子。妬。大長公主聞衛子夫幸有身。妬之。乃使人捕青。青

時給事。建章未知名。索隱曰。案晉灼云。建章。上林中宮名也。大長公主執囚青。欲殺之。

其友騎郎公孫敖與壯士篡取之。以故得不死。索隱曰。篡猶劫也。奪也。上聞。

人奴之、生得母笞罵云、費衰曰、人奴之、一句ト爲ス、生得母笞罵卽足矣、一句ト爲ス、生讀テ生乃與喻等爲伍ノ生ト同ジ、謂フ人方ニ我ヲ奴トス、平生管罵ナキヲ得ル已ニ足ル、安ソ敢テ封侯ノ事ヲ望マント、則語ニ意味アリテ、而テ句法雄健ナリ、今人或ハ人奴之生ヲ以テ一句ト爲ス、只一字チ移シテ上ニ在リ、便チ凡近ナリ。

與壯士篡取之、札記、纂上往字アリ、云フ索隱本往字アリ。

史記評林卷之一百一十一

衛將軍驃騎列傳第五十一

大將軍衛青者平陽人也。

正義曰。漢書云。其父鄭季河東平陽人。以縣吏給事平陽侯之家也。

其父鄭季

爲吏給事平陽侯家。與侯妾衛媼通。

索隱曰。衛姓也。媼婦人老少通稱。漢書曰。與主家僮衛媼通。案既云家僮。

故知非老。或者媼是年老之稱。後追呼耳。然外戚傳云。薄姬父與魏王宗女魏媼通。則少亦稱媼也。而小顏云。衛者舉其夫家姓也。然案此云侯妾衛媼。則似無夫。下云同母兄衛長子。及姊衛子夫。皆冒衛氏。又似有夫耳。其所冒之姓。爲父與母皆未明也。

生青。青同母兄衛長子。而姊衛子夫。自

平陽公主家得幸天子。

徐廣曰。曹參曾孫平陽夷侯時。尙武帝姊平陽公主生子襄。○索隱曰。案如淳云。本陽信長公主爲平陽侯所

尙。故稱平陽公主。世家及功臣表時或作疇。漢書作壽。並文字殘缺。故不同也。

故冒姓爲衛氏。字仲卿。長子更字

長君。長君母號爲衛媼。媼長女衛孺。

索隱曰。漢書云。君孺。

次女少兒。次女卽



史記評林卷之一百十終

耗矣。然猶不能臣服之。且不免泥野。李陵貳師之敗沒。見武帝雖事窮黷。而未得十分逞志也。篇中大意如此。其微旨實寓譏云。

凌約言曰。太史公紀武帝征伐事。先之以文景和親。匈奴信漢。然後序兩將軍連年出塞。又必隨之以匈奴入塞。殺略甚多。紀酷吏傳。先之以吏治蒸蒸。民朴畏罪。然後序十酷吏更迭用事。又必隨之以民益犯法。盜賊滋起。可見匈奴盜賊之變。皆武帝窮兵酷罰致之。此太史公微意也。

莫不就安利而辟危殆。嗚乎大哉言乎。文帝之心。天地之心也。持之堅。行之久。至孝景世。終無大寇。武帝卽位之初。匈奴信漢。自單于以下。往來長城下。無忌矣。乃一旦無故。自爲狙詐於匈奴。兵連禍結。使天下生靈肝腦塗地。然匈奴益驕。亦終不我服。同視文景之世。得失何如哉。

又曰。愚嘗因是而論漢世綏御之方。竊于不得已之中。而曲爲之處。惟文帝爲得。而仲舒之論。未可謂其迂闊也。蓋漢之于夷狄。非復五帝三王有綏服要荒。漸次而至。風土之遞易。分限之等差也。塞之內皆耕田鑿井。安土重遷之民。塞之外卽逐水草而居。遷徙無常之夷狄。時時抄略。勢所必至。遠在萬里。何以制之。帝初卽位。使告諸侯。四夷從代來。諭盛德焉。且因高惠之舊。量時度宜。與匈奴復修和親。一切與之相安。雖尉佗自帝亦溫辭以感服之。德至渥矣。匈奴或背約入寇。遂之出塞卽止。曲常在彼。而不在我。烟火萬里之樂。由此基之。使經漢之世。待夷狄皆如帝。何不可者。武帝一信聶翁狙詐之說。反以匈奴之擾漢者。擾夷狄。尤而效之。罪殆已甚。逮其兵連禍結。海內蕭然。其害烈于匈奴之抄寇。何啻萬萬。董生之論。似過于弱。而實足以藥武帝之膏肓。固乃歷歷排闥之峻。何歟。不然。文帝之富庶。武帝之虛耗。一和一戰。成效竟何如哉。

何景明曰。漢武之才。過于文景。承三世之富厚。不易紀而虛耗者。好大無厭也。夫秦以白起爲武安君。商鞅爲商君。范雎爲應侯。漢武以衛青爲大將軍。李廣利爲貳師將軍。霍去病爲驃騎將軍。此六人者。所謂功臣。而人主之所貴者也。然不察功實之辨。故白起商鞅范雎之功日積。而秦之社稷日蹙。衛青李廣利霍去病之功益高。而漢之海內益危也。

余有丁曰。傳內每言擊胡。胡輒入邊殺掠。及置胡使。胡亦置漢使。相當。至匈奴遠遁。破



彼已將率、札記云、彼已二字宜ク上不參ニ連ネテ句ト爲スベシ、不參彼已ハ、彼ヲ知り已ヲ知ル能ハザルヲ謂フナリ、將率當ニ下ニ屬スベシ、小司馬誤解シ、遂ニ其句讀ヲ失ス、方苞曰、以便偏指ハ以テ人主ノ偏指ヲ便ニスルナリ、不參彼已ハ、彼已ノ勢ヲ參酌セザルナリ。

指不參ルヲセ 索隱曰。案謂說者謀匈奴。皆患其直徹求一時權幸。但務調進其說。以自便其偏指。不參詳終始利害也。 彼已ヲ將率ヲ 詩云。彼己之子。

○索隱曰。彼己者猶詩人譏詞云。彼己之子是也。將率則指樊噲衛霍等也。 席中國廣大氣奮ス人主因以決策ヲ。

是以建功不深堯雖賢興事業不成得禹而九州寧シ 正義曰。言堯雖賢聖不能

獨理得禹而九州安寧。以刺武帝不能擇賢將相。而務調納小人浮說。多伐匈奴。故壞齊民。故太史公引禹聖成其太平。以攻當代之罪。 且欲興聖統ヲ唯

在擇任將相哉。唯在擇任將相哉。

索隱述贊曰。獫狁葷粥居于北邊。既稱夏裔。式憬周篇。頗隨畜牧。屢擾塵煙。爰自冒頓尤聚控弦。雖空帑藏。未盡中權。

黃震曰。傳之敘匈奴詳矣。大抵以其視中國爲強弱。夏道衰而狄始大。及周之興。惟命之曰荒服。周道衰。戎狄又世世爲患。秦并天下。築長城。頭曼單于遂爲之北徙。既而中國兵爭冒頓復興。雖高帝不免白登之圍。非其視中國爲強弱哉。然嘗論之。秦漢之待夷狄。不可復以三代比也。三代以天下爲公。諸侯各自爲守。設不幸有警。方伯連師以諸侯兵驅之而已。然不常有也。秦漢以天下爲私。自京師去匈奴塞上。皆天子所自制。邊塵稍驚。勞民萬里。故秦之備胡。不得不出於長城。然此毒民之事。適以自斃。不可爲也。故漢之求安。不得不出於結約。雖婁敬遺公主之說。不可用。若孝文皇帝。賜之書有曰。天不頗覆。地不偏載。使兩國之民若一家。下及魚鼈。上及飛鳥。跋行喙息。蠕動之類。

匈奴。

徐廣曰。案史記將相年表及漢書征和二年。巫蠱始起。三年廣利與商丘成出擊胡。軍敗乃降。

得來還千人一兩人耳。

正義曰。自此以下上至貳師聞其家。非天漢四年事。似錯悞。人所加。

游擊說無所得。因杆數與左賢王戰。不

利引歸。是歲。

徐廣曰。天漢四年。

漢兵之出。擊匈奴者。不得言功多少。功不

得御。

正義曰。御音語。其功不得相御當也。

有詔捕太醫令隨但。言貳師將軍家室族

滅。使廣利得降匈奴。

索隱曰。漢書云。明年且鞮死。長子狐鹿姑單于立。張晏云。自狐鹿姑單于已下。皆劉向褚先生所錄。班彪又撰而次之。所

以漢書匈奴傳有上下兩卷。

太史公曰。孔氏著春秋。隱桓之間。則章。至定哀之際。則微。

索隱曰。案

韓國要禮云。仲尼仕於定哀。故其著春秋。不切論當世。而微其詞也。

爲其切當世之文。而罔襲忌諱之辭

也。索隱曰。案罔者。無也。謂其無實而襲之是也。忌諱當代故也。

世俗之言。匈奴者。患其微一時之權。

徐廣曰。微音皎。○索隱曰。微音工堯反。言求一時權寵也。劉伯莊音叫。徐音皎。皆非也。

而務調納其說。

索隱曰。說音稅。

以便偏

使廣利得降匈奴注。索隱。札記云。單本此注史贊。彼此將率條。後二在。漢書云。十六字。漢傳。據。余吾水。戰。明年且鞮死。疑。小司馬見。所。本。贊。後。續。孤。鹿。姑。事。記。ス。ル。ア。リ。故。二。張。晏。ノ。語。ヲ。明。キ。以。テ。之。ヲ。明。カ。ス。後。刪。削。ヲ。經。テ。合。判。者。係。ル。所。ナ。キ。ヲ。以。テ。故。ニ。此。十。六。字。ヲ。増。シ。傳。末。ニ。附。ス。然。ル。ニ。單。本。標。題。且。鞮。侯。五。字。ヲ。出。ス。解。ス。ベ。カ。ラ。ズ。或。ハ。索。隱。猶。說。文。ア。リ。至。定。哀。之。際。則。微。注。韓。國。要。禮。也。ハ。字。札。記。諱。國。惡。禮。也。ニ。作。ル。



七。漢復使因杆將軍チシテ出西河。與彊弩都尉會涿涂山。徐廣曰。涂音邪。○索

隱曰。涿音卓。涂音以奢反。

○正義曰。匈奴中山也。毋所得。又使騎都尉李陵將步騎五千人出

居延北千餘里。與單于會合戰。陵所殺傷萬餘人。兵及食盡。欲

解歸。匈奴圍陵。降匈奴。其兵遂沒得還者四百人。單于乃貴陵

以其女妻之。後二歲復使貳師將軍將六萬騎。步兵十萬。出朔

方。彊弩都尉路博德將萬餘人。與貳師會。游擊將軍說將步騎

三萬人。出五原。因杆將軍軍。將萬騎。步兵三萬人。出雁門。匈奴

聞悉遠其累重於余吾水北。徐廣曰。余一作斜。音邪。○索隱曰。山海經云。北鮮

重丈。用反。而單于以十萬騎待水南。與貳師將軍接戰。貳師乃解而

引歸。與單于連戰十餘日。貳師聞其家以巫蠱族滅。因并衆降

閼陵降匈奴、札記降上陵字ヲ重ヌ、云フ宋本中統舊刻游毛並ニ陵字アリ。



病死。响犂湖單于立一歲死。匈奴乃立其弟左大都尉且鞮侯

爲單于。索隱曰。且音子。餘反。鞮音低。漢既誅大宛。威震外國。天子意欲遂困胡。

乃下詔曰。高皇帝遺朕平城之憂。高后時。單于書絕悖逆。昔齊

襄公復百世之讎。春秋大之。公羊傳曰。九世猶可以復讎乎。雖百世可也。是歲太初四年

也。且鞮侯單于既立。盡歸漢使之不降者。路充國等得歸。單于

初立。恐漢襲之。乃自謂我兒子。安敢望漢天子。漢天子我丈人

行也。正義曰。胡郎反。漢遣中郎將蘇武。厚幣賂遺單于。單于益驕。禮甚

倨。非漢所望也。其明年浞野侯破奴得亡歸漢。其明年漢使貳

師將軍廣利。以三萬騎出酒泉。擊右賢王於天山。正義曰。在伊州。得胡

首虜萬餘級而還。匈奴大圍貳師將軍。幾不脫。漢兵物故什六

復百世之讎。札記百ヲ  
九ニ作ル。云フ官本九、  
漢書ト合ス、各本百ニ  
誤ル。  
且鞮侯單于既立、札記  
志疑云、史太初ニ訛リ、  
天漢ニ及バズ、此下乃  
後人ノ續クル所ニシ  
テ、史公ノ書ニ非ズ。  
丈人行注胡郎反、札記  
耶チ朗ニ作ル、云フ朗  
チ郎ニ譌ス、今改ム、  
漢書注胡浪反。

湖爲單于。是歲太初三年也。匈奴單于立。漢使光祿徐自爲

出五原塞。正義曰。即五原郡榆林塞也。在勝州榆林縣四十里也。數百里。遠者千餘里。築城鄣列

亭。正義曰。顧胤云。鄣。山中。小城。亭。候望所居也。至廬胸。音衢。匈奴地名。又山名。○正義曰。括地志云。五原郡相陽縣北出石門障得光祿城。又西北得

支就縣。又西北得頭曼城。又西北得牢城河。又西北得橐廬城。按。而使游擊將軍韓

說。長平侯衛伉屯其旁。使彊弩都尉路博德築居延澤上。正義曰。括

地志云。漢居延縣故城。在甘州張掖縣東北一千五百三十里。有漢遮虜鄣。彊弩都尉路博德

之所築。李陵敗。與士衆期至遮虜鄣。即此也。長老傳云。鄣北百八十里。直居延之西北。是李陵

戰地。其秋。匈奴大入。定襄雲中。殺略數千人。敗數二千石而去。

行。破壞光祿所築城列亭鄣。又使右賢王入酒泉張掖。略數千

人。會任文擊救。漢書音義曰。漢將也。盡復失所得而去。是歲。貳師將軍破大

宛。斬其王而還。匈奴欲遮之。不能至。其冬。欲攻受降城。會單于

至廬胸注正義、札記括地志ヲ地理志ニ作ル、云フ誤ツテ括地志ニ作ル、考證漢書ニ據テ改ム、相陽ヲ稠陽ニ作ル、支就縣ヲ支就城ニ、牢城河ヲ庫河城ニ作ル、皆云フ考證改ム、西北得橐廬城、寄ヲ宿ニ作ル、云フ宿ヲ寄ニ調ス、漢志北字ナク、服虔云、廬ノ下ニ胸字アリ。



捕首虜數千人、札記數  
上得字アリ、云フ宋本  
中統游毛並ニ得字ア  
リ。

迎我。我卽發。初漢聞此言。故築受降城。猶以爲遠。其明年春。漢

使浞野侯破奴將二萬餘騎。出朔方西北二千餘里。期至浚稽

山而還。索隱曰。應劭云。在武威縣北。浞野侯既至期而還。左大都尉欲發而覺。

單于誅之。發左方兵擊浞野。浞野侯行捕首虜數千人。還未至

受降城四百里。匈奴兵八萬騎圍之。浞野侯夜自出求水。匈奴

閒捕生得浞野侯。因急擊其軍。軍中郭縱爲護。維王爲渠。正義曰。爲

渠帥也。相與謀曰。及諸校尉畏亡將軍而誅之。莫相勸歸。軍遂沒

於匈奴。匈奴兒單于大喜。遂遣奇兵攻受降城。不能下。乃寇入

邊而去。其明年。單于欲自攻受降城。未至病死。兒單于立三歲

而死。子年少。匈奴乃立其季父烏維單于弟右賢王。响。音鉤。又音吁。犂



三歲單于死、札記云、單于死三字疑フ衍ナリ、漢書ナシ。

浞野侯

徐廣曰。趙破奴。

屯朔方以東。備胡。路充國畱匈奴三歲。單于死。

烏維單于立十歲而死。子烏師廬立爲單于。徐廣曰。烏一作詹。年少號爲

兒單于。是歲元封六年也。自此之後。單于益西北。左方兵直雲

中。右方直酒泉燉煌郡。正義曰。括地志云。鐵勒國。匈奴冒頓之後。在突厥國北樂勝州。經秦長城太羹長路。正北經砂磧十三日行至其國。

兒單于立。漢使兩使者。一弔單于。一弔右賢王。欲以乖其國。使

者入匈奴。匈奴悉將致單于。單于怒而盡畱漢使。漢使畱匈奴

者。前後十餘輩。而匈奴使來。漢亦輒畱相當。是歲漢使貳師將

軍廣利西伐大宛。而令因杆將軍數築受降城。正義曰。杆音于。其冬。匈

奴大雨雪。畜多饑寒死。兒單于年少。好殺伐。國人多不安。左大

都尉欲殺單于。使人間告漢曰。我欲殺單于。降漢。漢遠。卽兵來。

因杆將軍數、說文、敖ノ本字ナリ。

匈奴俗見漢使非中貴人其儒先。

先生也。漢書作儒生也。

以爲欲說折其辯。

其少年以爲欲刺折其氣每漢使入匈奴匈奴輒報償漢畱匈奴

使匈奴亦畱漢使必得當乃肯止楊信既歸漢使王烏而單

于復譚以甘言欲多得漢財物給謂王烏曰吾欲入漢見天子。

面相約爲兄弟王烏歸報漢漢爲單于築邸于長安匈奴曰非

得漢貴人使吾不與誠語匈奴使其貴人至漢病漢予藥欲愈

之不幸而死而漢使路充國佩二千石印綬往使因送其喪厚

葬直數千金曰此漢貴人也單于以爲漢殺吾貴使者乃畱路

充國不歸諸所言者單于特空給王烏殊無意入漢及遣太子

來質於是匈奴數使奇兵侵犯邊漢乃拜郭昌爲拔胡將軍及

西至酒泉郡、札記至ナ置ニ作ル、云フ浚本至ニ誤ル。

肱、札記云、漢書肱ノ縣、肱ニ作ル、服虔音州縣。

漢使楊信於匈奴。是時漢東拔穢貉朝鮮以爲郡。正義曰。卽玄菟樂浪二郡。而

西至酒泉郡。正義曰。今肅州。以隔絕胡與羌通之路。漢又西通月氏大

夏。正義曰。漢書西域傳云。大月氏國去長安城萬一千六百里。本居燉煌祁連間。冒頓單于破月氏而老上單于殺月氏王。以頭爲飲器。月氏乃遠去。過大宛。西擊大夏而臣之。都嬌

水北爲王庭也。又以公主妻烏孫王。以分匈奴西方之援國。又北益廣田

至肱靄爲塞。漢書音義曰。肱靄地名。在烏孫北。而匈奴終不敢以爲言。是歲翁侯信

死。漢用事者以匈奴爲已弱。可臣從也。楊信爲人剛直屈彊。素

非貴臣。單于不親。單于欲召入。不肯去節。單于乃坐穹廬外見

楊信。楊信既見單于。說曰。卽欲和親。以單于太子爲質於漢。單

于曰。非故約。故約。漢常遣公主給繒絮食物有品。以和親。而匈

奴亦不擾邊。今乃欲反古。令吾太子爲質。無幾矣。正義曰。幾音記。言反古無所冀望也。



以見<sup>ス</sup>武節。而使<sup>シ</sup>郭吉<sup>ヲ</sup>風告<sup>セ</sup>單于。郭吉既至<sup>ニ</sup>匈奴。匈奴主客<sup>主使來</sup>

客官也。○正義曰。

問所使<sup>スル</sup>郭吉禮卑。言好曰。吾見<sup>テ</sup>單于而口言<sup>セシ</sup>單于

見<sup>ル</sup>吉。吉日。南越王頭已懸<sup>ニ</sup>於漢北關。今單于能<sup>スル</sup>即前與漢戰。

天子自將<sup>ミ</sup>兵待邊。單于即不能<sup>ル</sup>。即南面而臣<sup>ダレ</sup>於漢。何徒遠走<sup>リ</sup>亡匿<sup>スル</sup>

於幕北寒苦無水草之地。毋爲<sup>ス</sup>也。語卒。而單于大怒。立斬<sup>リ</sup>主客

見者<sup>ヲ</sup>而畱<sup>タ</sup>郭吉不歸。遷<sup>ス</sup>之北海上。<sup>正義曰。北海。即上海也。蘇武亦遷也。</sup>而單于終不

肯爲<sup>サ</sup>寇於漢邊。休養息<sup>ヘ</sup>士馬。習<sup>ハセ</sup>射獵。數使<sup>シ</sup>使於漢。好辭甘言。求

請和親。漢使王烏等窺<sup>ヘ</sup>匈奴法。漢使非去<sup>テ</sup>節而以墨黥其

面者<sup>ニ</sup>不得<sup>ル</sup>入穹廬。王烏北地人。習<sup>フ</sup>胡俗。去<sup>テ</sup>其節黥面得<sup>ル</sup>入穹廬。

單于愛<sup>ス</sup>之。詳許甘言。爲遣<sup>ニ</sup>其太子入漢爲質。<sup>正義曰。音致。</sup>以求和親。

今單于能即前與漢戰、  
札記雜志云、能即當二  
即能ト爲スベシ、即不  
能ト相對ス、漢書西南  
夷傳注曰、即ハ猶若ノ  
如キナリ。

漢使王烏等、札記志疑  
云、烏、類聚焉ニ作シ、  
字商隱李兵曹ノ爲ニ兄  
ヲ祭ル文ニ、去節寧類  
十王焉ト爲シ、蓋雪獲  
全ト約ヲ爲ス。

至匈奴河水、札記匈奴水、  
 水、作ル、云フ素隱本、  
 衛霍傳ト合ス、各本匈奴  
 下奴字ヲ衍ス、漢書亦  
 然リ、注河字ナシ、云  
 フ水上河字ヲ衍ス、漢  
 書注ニ依テ刪ル。

匈奴新破困。宜可使爲外臣。朝請於邊。漢使任敞於單于。單于  
 聞敞計大怒。畱之不遣。先是漢亦有所降匈奴使者。單于亦輒  
 畱漢使相當。漢方復收士馬。會驃騎將軍去病死。於是漢久不  
 北擊胡。數歲。伊稚斜單于立十三年死。子烏維立爲單于。是歲  
 漢元鼎三年也。烏維單于立。而漢天子始出巡郡縣。其後漢方  
 南誅兩越。正義曰。南越東越。不擊匈奴。匈奴亦不侵入邊。烏維單于立三  
 年。漢已滅南越。遣故太僕賀將萬五千騎。出九原二千餘里。至  
 浮苴井而還。索隱曰。苴音子餘反。臣瓚云。去九原二千里。見漢輿地圖。不見匈奴一人。漢又遣故從  
 驃侯趙破奴。萬餘騎出。令居數千里。至匈奴河水而還。索隱曰。臣瓚云。河水  
 名。去令居千里。亦不見匈奴一人。是時天子巡邊至朔方。勒兵十八萬騎。

漢士卒物故、札記雜志云、漢士ト漢馬ト對文ナリ、索隱漢書ト皆卒子ナシ。  
任魏壹訪議、札記壹ヲ無ニ作ル、云フ官本臺、各本壹ニ獨ス、按ズルニ、隋志魏臺雜訪議一卷、高堂隆撰トアリ。

于號復爲右谷蠡王。漢驃騎將軍之出代二千餘里。與左賢王

接戰。漢兵得胡首虜凡七萬餘級。左賢王將皆遁走。驃騎封於

狼居胥山。禪姑衍。臨翰海而還。如淳曰。翰海。北海名。正義曰。按翰海。自一大海名。羣鳥解羽伏乳於此。因名也。是

後匈奴遠遁。而幕南無王庭。漢度河。自朔方以西至令居。徐廣曰。在金城。○索隱曰。地理志云。張掖令居縣。姚氏令音連。小顏音零。

往往通渠置田官。吏卒五六萬人。稍蠶

食。地接匈奴以北。正義曰。匈奴舊以幕爲王庭。今遠徙幕北。更蠶食之。漢境連接匈奴舊地以北也。初漢兩將軍

大出圍單于。所殺虜八九萬。而漢士卒物故亦數萬。索隱曰。案釋名云。漢以來

謂死爲物故。就朽故也。又魏壹訪議。高堂隆對曰。漢馬死者十餘萬。匈奴雖病

聞之。先師物。無也。故事也。言無復所能於事者也。遠去。而漢亦馬少。無以復往。匈奴用趙信之計。遣使於漢。好辭

請和親。天子下其議。或言和親。或言遂臣之。丞相長史任敞曰。



負私從馬、札記云、合刻本從字ニ於テ絶句ス、雜志云、當ニ漢書ニ依テ私負從馬ニ作ルベシ、顏師古曰、私ニ衣裝ヲ負フ者、及ビ私ニ從馬ヲ將キル者、皆公家發與ノ限ニ非ス。

漢謀曰。翁侯信爲單于計。居幕北。以爲漢兵不能至。乃粟馬發十萬騎。負私從。正義曰。謂負擔衣糧。私募從者凡十四萬疋。馬凡十四萬匹。糧重不與焉。

令大將軍青。驃騎將軍去病。中分軍。大將軍出定襄。驃騎將軍出代。咸約絕幕擊匈奴。匈奴單于聞之。遠其輜重。以精兵待於

幕北。與漢大將軍接戰。一日。會暮。大風起。漢兵縱左右翼圍單

于。單于自度戰不能如漢兵。單于遂獨身與壯騎數百潰漢圍。

西北遁走。漢兵夜追不得。行斬捕匈奴首虜萬九千級。北至闐

顏山。趙信城而還。

如淳曰。信前降匈奴。匈奴築城居之。

單于之遁走。其兵往往與漢兵

相亂而隨單于。單于久不與其大衆相得。其右谷蠡王以爲單

于死。乃自立爲單于。眞單于復得其衆。而右谷蠡王乃去其單

平<sup>ニ</sup>擊<sup>ダ</sup>匈奴左賢王<sup>上</sup>。左賢王圍<sup>ム</sup>李將軍<sup>詳李廣傳</sup>。卒可<sup>ニ</sup>四千人<sup>一</sup>。且<sup>ニ</sup>盡<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>虜<sup>スル</sup>亦

過當。會博望侯軍救至。李將軍得<sup>レ</sup>脫<sup>スルヲ</sup>。漢失<sup>ス</sup>亡<sup>ス</sup>數千人<sup>一</sup>。合騎侯後

驃騎將軍期<sup>ニ</sup>及<sup>ビ</sup>與博望侯皆當<sup>レ</sup>死<sup>ス</sup>。贖<sup>テ</sup>爲<sup>ニ</sup>庶人<sup>ト</sup>。其秋。單于怒<sup>リ</sup>。渾邪

王休屠王居<sup>ニ</sup>西方<sup>ニ</sup>。爲<sup>ニ</sup>漢所<sup>ト</sup>殺<sup>ス</sup>虜<sup>スル</sup>數萬人<sup>一</sup>。欲<sup>ニ</sup>召<sup>シテ</sup>誅<sup>セント</sup>之<sup>ヲ</sup>。渾邪王與<sup>ニ</sup>休

屠王<sup>ニ</sup>恐<sup>レ</sup>。謀<sup>ツ</sup>降<sup>ル</sup>漢<sup>ニ</sup>。徐廣曰。元狩二年也。漢使<sup>ニ</sup>驃騎將軍<sup>ナシテ</sup>往<sup>イテ</sup>迎<sup>ヘ</sup>之<sup>ヲ</sup>。渾邪王殺<sup>シ</sup>休屠

王<sup>ニ</sup>并<sup>ニ</sup>將<sup>ホテ</sup>其衆<sup>ヲ</sup>降<sup>ル</sup>漢<sup>ニ</sup>。凡<sup>ソ</sup>四萬餘人<sup>一</sup>。號<sup>ス</sup>十萬<sup>ト</sup>。於是漢已得<sup>ニ</sup>渾邪王<sup>ヲ</sup>。則

隴西北地河西益<sup>ク</sup>少<sup>シ</sup>胡寇<sup>ニ</sup>。徙<sup>シ</sup>關東貧民<sup>ヲ</sup>處<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>奪<sup>フ</sup>匈奴河南新秦

中<sup>ニ</sup>以實<sup>ツ</sup>之<sup>ニ</sup>。

索隱曰。如淳云。在長安以北朔方以南。漢書食貨志云。徙貧民充朔方以南新秦中是也。○正義曰。服虔云。地名。在北地。廣六七百里。長安北朔方南。史

記以爲秦始皇遣蒙恬斥逐北胡。得肥饒之地七百里。徙內郡人民。皆往充實之。號曰新秦中也。

而減<sup>ズ</sup>北地以西戍卒半<sup>ヲ</sup>。其明

年。匈奴入<sup>ニ</sup>右北平定襄<sup>ニ</sup>。各數萬騎<sup>一</sup>。殺<sup>シテ</sup>略<sup>ス</sup>千餘人<sup>一</sup>而去<sup>ル</sup>。其明年春。

得胡首虜騎萬八千餘、  
札記云、騎萬二字疑フ  
衍ナリ、驃騎傳ナシ、  
漢書亦ナシ。

數百人。其明年春。漢使驃騎將軍去病將萬騎出隴西過焉支

山。正義曰。焉音烟。括地志云。焉支山一名刪丹山。在甘州刪丹縣東南五十里。西河故事云。匈奴失祁連焉支二山。乃歌曰。亡我祁連山。使我六畜不蕃息。失我焉支山。使我婦女無

顏色。其慙惜乃如此。千餘里。擊匈奴。得胡首虜騎萬八千餘級。破得休屠王

祭天金人。漢書音義曰。匈奴祭天處。本在雲陽甘泉山下。秦奪其地。後徙之休屠王右地。故休屠有祭天金人象。祭天主也。○索隱曰。韋昭云。作金人以爲祭天主。

崔浩云。胡祭以金人爲主。今浮圖金人是也。孟說恐不然。案得休屠金人。後置之於甘泉也。○正義曰。括地志云。徑路祠神在雍州雲陽縣西北九十里甘泉山下。本匈奴祭天處。秦奪其地。後徙休屠右地。按金人。卽今佛像。是其遺法。立以爲祭天主也。其夏。驃騎將軍復與合騎侯數萬騎出

隴西北地二千里。擊匈奴。過居延。索隱曰。韋昭云。張掖縣。攻祁連山。索隱曰。西

山在張掖酒泉二界上。東西二百餘里。北百里有松柏五木。美水草。冬溫夏涼。宜畜牧養。匈奴失二山。乃歌云。亡我祁連山。使我六畜不蕃息。失我燕支山。使我嫁婦無顏色。祁連一名天山。亦曰白山也。得胡首虜三萬餘人。裨小王以下七十餘人。是時匈奴亦

來入代郡雁門。殺略數百人。漢使博望侯及李將軍廣出右北



得<sub>二</sub>右賢王衆男女萬五千人<sub>一</sub>。裨小王十餘人。其秋。匈奴萬騎入<sub>二</sub>殺代郡都尉朱英<sub>一</sub>。略<sub>二</sub>千餘人<sub>一</sub>。其明年春。漢復遣<sub>二</sub>大將軍衛青<sub>一</sub>。將<sub>二</sub>六將軍兵十餘萬騎<sub>一</sub>。乃再出<sub>二</sub>定襄數百里<sub>一</sub>。擊<sub>二</sub>匈奴<sub>一</sub>。得<sub>二</sub>首虜<sub>一</sub>。前後凡萬九千餘級。而漢亦亡<sub>二</sub>兩將軍軍三千餘騎<sub>一</sub>。徐廣曰。合有三千耳。右將軍建得<sub>二</sub>以身脫<sub>一</sub>。正義曰。建蘇武父也。而前將軍翕侯趙信兵不利。降<sub>二</sub>匈奴<sub>一</sub>。趙信者。故胡小王。降<sub>二</sub>漢<sub>一</sub>。漢封爲<sub>二</sub>翕侯<sub>一</sub>。以前將軍與<sub>二</sub>右將軍并軍分行<sub>一</sub>。正義曰。與大軍別行也。獨遇<sub>二</sub>單于兵<sub>一</sub>。故盡沒<sub>二</sub>單于<sub>一</sub>。既得<sub>二</sub>翕侯<sub>一</sub>。以爲<sub>二</sub>自次王<sub>一</sub>。正義曰。自次者。尊重次<sub>レ</sub>於單于<sub>一</sub>。用<sub>二</sub>其姊妻之<sub>一</sub>。與<sub>二</sub>謀<sub>一</sub>。漢信教<sub>二</sub>單于<sub>一</sub>。益<sub>二</sub>北絕幕<sub>一</sub>。應劭曰。幕沙幕。匈奴之南界。瓊曰。沙土曰幕。直度曰絕。以<sub>二</sub>誘罷漢兵<sub>一</sub>。徼<sub>レ</sub>極而取<sub>レ</sub>之。索隱曰。罷音疲。徼。要也。謂要其疲極也。要漢兵疲極則取之。無<sub>二</sub>近塞居止<sub>一</sub>。無<sub>二</sub>近塞<sub>一</sub>。單于從<sub>二</sub>其計<sub>一</sub>。其明年。胡騎萬人入<sub>二</sub>上谷<sub>一</sub>。殺<sub>二</sub>

シテ、匈奴界ニ入ル者、  
其中造陽ノ地ナリ、辟  
讀テ僻ト曰フ。

殺代郡太守恭及、札記  
及ナ友ニ作ル、云フ官  
本友、各本及ニ譌ス、按  
ズルニ、名臣表、衛霍傳  
集解、漢傳並ニ共友ニ  
作ル。

死。軍臣單于弟左谷蠡王伊稚斜自立爲單于。

索隱曰。稚音持利反。  
斜音士嗟反。斜。鄒誕

生音直牙反。蓋稚斜  
胡人語。近得其實。

攻破軍臣單于太子於單。

索隱曰。  
單音丹。

於單亡降漢。

漢封於單爲涉安侯。數月而死。伊稚斜單于既立。其夏。匈奴數

萬騎入殺代郡太守恭及。略千餘人。其秋。匈奴又入雁門。殺略

千餘人。其明年。匈奴又復入代郡。定襄。

正義曰。括地志云。定襄故城。在朔  
州善陽縣北三百八十里。地理志。

定襄郡。高  
帝置也。

上郡各三萬騎。殺略數千人。匈奴右賢王怨漢奪之河

南地而築朔方。數爲寇盜邊。及入河南。侵擾朔方。殺略吏民甚

衆。其明年春。漢以衛青爲大將軍。將六將軍十餘萬人。出朔方

高闕。擊胡。右賢王以爲漢兵不能至。飲酒醉。漢兵出塞六七百

里。夜圍右賢王。右賢王大驚。脫身逃走。諸精騎往往隨後去。漢

囚敖廣。敖廣贖爲庶人。其冬。匈奴數入盜邊。漁陽尤甚。漢使將軍韓安國屯漁陽。備胡。其明年秋。匈奴二萬騎入漢。殺遼西太守。略二千餘人。胡又入敗漁陽太守軍千餘人。圍漢將軍安國。安國時千餘騎亦且盡。會燕救至。匈奴乃去。匈奴又入雁門。殺略千餘人。於是漢使將軍衛青將三萬騎出雁門。李息出代郡。擊胡。得首虜數千人。其明年。衛青復出雲中。以西至隴西。擊胡之樓煩白羊王於河南。得胡首虜數千。牛羊百餘萬。於是漢遂取河南地。築朔方。復繕故秦時蒙恬所爲塞。因河爲固。漢亦棄上谷之什辟縣。造陽地以予胡。

什音斗。漢書音義曰。言縣斗辟曲近胡。○索隱曰。辟音僻。造陽卽斗辟縣中地。○正義曰。

按曲幽辟郡入匈奴界者。造陽地弃與胡也。

是歲漢之元朔二年也。其後冬。匈奴軍臣單于

什辟縣、札記云、字類引テ什ナ作ニ作ル、皆斗ノ譌ナリ、志疑云、隸書斗ナ付ニ作ル、什ト混ジ易シ、顏師古曰、斗ハ絶ナリ、縣ノ斗曲



云。乃下具  
告單于。

尉史乃告單于漢兵所居。單于大驚曰。吾固疑之。乃引

兵還。出曰。吾得尉史天也。天使若言。以尉史爲天王。漢兵約單

于入馬邑而縱。單于不至。以故漢兵無所得。漢將軍王恢部出

入馬邑而縱。漢書縱下  
兵字アリ、顔師古曰、  
兵ヲ放ツテ以テ單于ヲ  
撃ツナリ。

代擊胡輜重。聞單于還兵多不敢出。漢以恢本造兵謀而不進

斬恢。

韓長孺傳  
曰。恢自殺。

自是之後。匈奴絕和親。攻當路塞。

索隱曰。蘇林云。  
直當道之塞。

往

往入盜於漢邊。不可勝數。然匈奴貪。尙樂關市。嗜漢財物。漢亦

尙關市。不絕以中之。

正義曰。如淳云。得  
具以利中傷之。

自馬邑軍後五年之秋。漢使

四將軍各萬騎。擊胡關市下。將軍衛青出上谷。至龍城。得胡首

虜七百人。公孫賀出雲中。無所得。公孫敖出代郡。爲胡所敗。七

千餘人。李廣出雁門。爲胡所敗。而匈奴生得廣。廣後得亡歸漢。

漢亦尙關市。不絕以中  
之。方苞曰。市物ヲ以  
テ其意ニ投合シ、侵盜  
スル勿キヲ冀フナリ。

野蘭出物、札記奸ニ作ル、云フ索隱本奸、各本奸ニ作ル、中統本姦ニ作ル、此下集解奸音干、干蘭、犯禁私出物也、十三字ヲ注ス、云フ凌本脫ス。

趙合謀入邊。漢圍破趙。匈奴亦止。自是之後。孝景帝復與匈奴和親。通關市。給遺匈奴。遣公主。如故約。終孝景時。時小入盜邊。無大寇。今帝卽位。明和親約束。厚遇通關市。饒給之。匈奴自單于以下皆親漢。往來長城下。漢使馬邑下人聶翁壹奸蘭出物。與匈奴交。索隱曰。衛青傳唯稱聶壹。故顧氏云。壹名也。老故稱翁。義或然也。奸音干。干蘭。犯禁私出物也。漢書音義曰。私出塞與匈奴交市。詳爲賣馬邑城。以誘單于。單于信之。而貪馬邑財物。乃以十萬騎入武州塞。索隱曰。蘇林云。在雁門也。漢伏兵三十餘萬馬邑旁。御史大夫韓安國爲護軍。護四將軍。以伏單于。單于旣入漢塞。未至馬邑百餘里。見畜布野而無人牧者。怪之。乃攻亭。是時雁門尉史行徼。索隱曰。如淳云。近塞郡皆置尉。百里一人。士史尉史各二人也。見寇葆此亭。知漢兵謀。單于得欲殺之。

徐廣曰。一

犯令約者、札記雜志云、  
當ニ漢書ニ依テ今約ニ  
作ルベシ。

人不足<sup>ヲ</sup>以<sup>ニ</sup>益<sup>シ</sup>衆<sup>ヲ</sup>廣<sup>ム</sup>地<sup>ヲ</sup>。匈奴無<sup>レ</sup>入<sup>ル</sup>塞<sup>ニ</sup>。漢無<sup>レ</sup>出<sup>ル</sup>塞<sup>ニ</sup>。犯<sup>ニ</sup>令約<sup>ヲ</sup>者殺<sup>サ</sup>之<sup>ヲ</sup>。可<sup>ニ</sup>  
以<sup>ニ</sup>久<sup>ム</sup>親<sup>ム</sup>。後無<sup>レ</sup>咎<sup>ニ</sup>。俱便<sup>ニ</sup>。朕已<sup>ニ</sup>許<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。其布<sup>ニ</sup>告<sup>シ</sup>天下<sup>ニ</sup>。使<sup>ニ</sup>明<sup>メ</sup>知<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>。後四歲。  
老上稽粥單于死<sup>ス</sup>。子軍臣立<sup>テ</sup>爲<sup>ル</sup>單于<sup>ト</sup>。既立<sup>ツ</sup>。徐廣曰。後元三年立。孝文皇帝復<sup>ダ</sup>  
與<sup>ニ</sup>匈奴<sup>ヲ</sup>和親<sup>ス</sup>。而中行說復<sup>ダ</sup>事<sup>フ</sup>之<sup>ニ</sup>。軍臣單于立<sup>テ</sup>四歲。徐廣曰。孝文後元七年崩。而二年答  
單于書。其閒五年。而此云後四年又立四歲。數  
不容爾也。孝文後六年冬匈奴入<sup>ニ</sup>上郡雲中<sup>ニ</sup>也。

中<sup>ニ</sup>各<sup>々</sup>三萬騎。所<sup>ニ</sup>殺略<sup>ス</sup>甚<sup>ダ</sup>衆<sup>ヲ</sup>而去<sup>ル</sup>。於是漢使<sup>ニ</sup>三將軍<sup>ヲ</sup>軍屯<sup>ニ</sup>北地<sup>ニ</sup>。代  
屯<sup>ニ</sup>句注<sup>ニ</sup>。趙<sup>ハ</sup>屯<sup>ニ</sup>飛狐口<sup>ニ</sup>。緣邊亦各<sup>々</sup>堅守<sup>リ</sup>。以備<sup>フ</sup>胡寇<sup>ニ</sup>。又置<sup>ニ</sup>三將軍<sup>ヲ</sup>。軍<sup>ニ</sup>  
長安<sup>ニ</sup>。西細柳<sup>ニ</sup>。渭北棘門<sup>ニ</sup>。霸上<sup>ニ</sup>。以備<sup>フ</sup>胡<sup>ヲ</sup>。騎入<sup>ニ</sup>代<sup>ニ</sup>。句注邊<sup>ニ</sup>。烽火通<sup>ズ</sup>  
於<sup>ニ</sup>甘泉長安<sup>ニ</sup>。數月。漢兵至<sup>ル</sup>邊<sup>ニ</sup>。匈奴亦去<sup>テ</sup>遠<sup>ル</sup>塞<sup>ニ</sup>。漢兵亦罷<sup>ム</sup>。後歲餘。  
孝文帝崩<sup>ス</sup>。孝景帝立<sup>ツ</sup>。而趙王遂乃陰使<sup>シ</sup>人<sup>ヲ</sup>於<sup>ニ</sup>匈奴<sup>ニ</sup>。吳楚反<sup>ス</sup>。欲<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>



跂行喙息蠕動之類、顏師古曰、跂行ハ、凡ソ足アリテ行ク者ナリ、喙息ハ、凡ソ口ヲ以テ氣ヲ出ス者ナリ。

朕釋逃虜民云云、顏師古曰、逃虜民ハ、漢人逃レテ匈奴ニ入ル者、章尼等ハ單于ニ背イテ漢ニ降ル者ナリ。

漢過不先、顏師古曰、更ニ約ニ負カザルヲ言フ。

單于秣藁金帛絲絮佗物、歲有數。今天下大安。萬民熙熙。朕與單于爲之父母。朕追念前事。薄物細故。謀臣計失。皆不足以離兄弟之驩。朕聞天不頗覆。地不偏載。朕與單于皆捐往細故。俱蹈大道。墮壞前惡。以圖長久。使兩國之民若一家子。元元萬民下及魚鼈。上及飛鳥。跂行喙息蠕動之類。索隱曰。案跂音岐。又音企。言蟲鳥之類。或以踵而行。或以喙而息。皆得其安也。三省云。蠕蠕動貌。音輭。淮南子云。昆蟲蠕動也。莫不就安利而辟危殆。故來者不止。天之道也。俱去前事。朕釋逃虜民。單于無言章尼等。索隱曰。案文帝云。我今日並釋放彼國逃亡虜。遣之歸本國。汝單于無得更以言詞訴於章尼等。責其違逃也。朕聞古之帝王。約分明而無食言。單于畱志。天下大安。和親之後。漢過不先。單于其察之。單于既約和親。於是制詔御史曰。匈奴大單于遣朕書。言和親已定。亡

書曰。皇帝敬問匈奴大單于無恙。使當戶且居雕渠難。

索隱曰。漢書作且渠。

匈奴官號。樂彥云。當戶且渠各自一官。雕渠難爲此官也。○正義曰。雕渠難者其姓名也。且子余反。郎中韓遼遺朕馬二匹。已至。

敬受。先帝制。長城以北。引弓之國。受命單于。長城以內。冠帶之

室。朕亦制之。使萬民耕織射獵衣食。父子無離。臣主相安。俱無

暴逆。今聞漂惡民貪降其進取之利。倍義絕約。忘萬民之命。離

兩主之驩。然其事已在。前矣。書曰。二國已和親。兩主驩說。寢兵

休卒。養馬。世世昌樂。闐然更始。徐廣曰。闐音擄。安定意也。朕甚嘉之。聖人者日

新改作更始。使老者得息。幼者得長。各保其首領。而終其天命。

朕與單于俱由此道。順天恤民。世世相傳。施之無窮。天下莫不

咸便。漢與匈奴鄰國之敵。匈奴處北地寒。殺氣早降。故詔吏遺

今聞漂惡民。顏師古曰。漂先列反。降下ナリ。意ナ利ニ下スナ謂スナリ。凌稚隆曰。漂惡ハ猶薄惡ノ如シ。

鄰國之敵。札記云。宋本毛本國敵五ニ易ル。



古曰、今ノ彭原縣是ナ

兵入燒回中宮。

索隱曰、服虔云、回中在北地。武帝作宮。始皇本紀三十七年巡雞頭山、過回中。武帝元封四年通回中道。○正義曰、括地志云、秦回中宮、

在岐州雍縣西四十里。卽匈奴所燒者也。

候騎至雍甘泉。

索隱曰、崔浩云、候、邏騎。○正義曰、括地志云、雲陽也。秦之林光宮。漢之甘泉、在雍州雲陽

西北八十里。秦始皇作甘泉宮。去長安三百里。望見長安。秦皇帝以來祭天園丘處。

於是文帝以中尉周舍、郎中令張

武爲將軍、發車千乘、騎十萬、軍長安旁、以備胡寇、而拜昌侯盧

卿爲上郡將軍。

索隱曰、案表盧作旅。古今字異耳。

寧侯魏遼爲北地將軍、隆慮侯周

竈爲隴西將軍、東陽侯張相如爲大將軍、成侯董赤正義曰、爲前音赫。

將軍、大發車騎、往擊胡。

徐廣曰、內史轅布亦爲將軍。

單于畱塞內月餘、乃去。漢

逐出塞、卽還、不能有所殺。匈奴日已驕、歲入邊、殺略人民畜產

甚多。雲中、遼東最甚。至代郡、萬餘人。漢患之、乃使使遺匈奴書、

單于亦使當戶報謝、復言和親事。孝文帝後二年、使使遺匈奴



作。人盡極其力以營其生。至於氣力屈竭也。屈音其物反。

夫力耕桑以求衣食。築域郭以自備。故其

民急則不習戰功。緩則罷於作業。嗟土室之人。顧無多辭。令喋

喋而佔佔。喋音課。利口也。佔音昌占反。衣裳貌。

冠固何當。

言雖復著冠。固何益所當。○索隱曰。鄧展云。佔。嘖耳語。服虔曰。口舌為喋。如淳

曰。汝漢人多口居室中。固自宜著冠。且不足貴也。小顏云。言漢人且當思念。無為喋喋佔佔耳。雖自謂著冠何所當益也。

自是之後。漢使欲辯

論者。中行說輒曰。漢使無多言。顧漢所輸匈奴。繒絮米蘖。令其

量中。必善美而已矣。何以爲言乎。且所給備善則已。不備苦惡

韋昭曰。苦。麤也。音若靡。盛之盛。

則候秋孰。以騎馳蹂而稼穡耳。

徐廣曰。蹂音而九反。

日夜教單

于候利害處。漢孝文皇帝十四年。匈奴單于十四萬騎入朝那

蕭關。殺北地都尉印。

徐廣曰。姓孫。其子單封爲鉞侯。白丁反。○索隱曰。印音五郎反。

虜人民畜產甚多。

遂至彭陽。

徐廣曰。在安定。○正義曰。城字誤也。括地志云。彭城故城在涇州臨城縣東二十里。案彭城在嬀州。與北地郡甚遠。明非彭城也。

使奇

令其量中必善美而已、  
顏師古曰中ハ猶滿ノ如  
シ、量中トハ其數ニ滿  
ツルナリ。

至彭陽、札記錢晉石云、  
正義ニ據レバ、則據ル  
所ノ本城ニ作ル、顏師

乃同穹廬、類師古曰、其形穹隆、故穹廬ト曰フ。

食行戌乎。漢使曰。然。中行說曰。匈奴明以戰攻爲事。其老弱不能鬪。故以其肥美飲食壯健者。蓋以自爲守衛。如此。父子各得久相保。何以言匈奴輕老也。漢使曰。匈奴父子乃同穹廬而臥。漢書音義曰。穹廬。旃帳。

父死妻其後母。兄弟死盡取其妻妻之。無冠帶之飾。

闕庭之禮。中行說曰。匈奴之俗。人食畜肉。飲其汁。衣其皮。畜食草飲水。隨時轉移。故其急則人習騎射。寬則人樂無事。其約束輕易行也。君臣簡易。一國之政。猶一身也。父子兄弟死取其妻

妻之。惡種姓之失也。故匈奴雖亂。必立宗種。今中國雖詳不取

其父兄之妻。

索隱曰。詳漢書作陽。此亦音羊。

親屬益疏。則相殺。至乃易姓。皆從此

類。且禮義之敝。上下交怨望。而室屋之極。生力必屈。

索隱曰。以言棟宇室屋之

漢物不過什二云云、顏  
師古曰、漢物ヲ費ス十  
分ノ二ナレバ、則盡ク  
匈奴ノ處ヲ得ルナリ。

教單于左右疏記、顏師  
古曰、疏ハ之ヲ分條ス  
ルナリ。

仰<sup>レ</sup>於<sup>レ</sup>漢也。今單于變<sup>シ</sup>俗。好<sup>ム</sup>漢物。漢物不過<sup>シ</sup>什<sup>ニ</sup>二。則匈奴盡歸<sup>ル</sup>於<sup>レ</sup>

漢矣。

韋昭曰。言漢物十中之二入匈奴。匈奴則動心歸漢矣。

其得<sup>テ</sup>漢繒絮以馳<sup>ス</sup>草棘中。衣袴皆裂

敝<sup>セ</sup>以示<sup>セ</sup>不如<sup>ル</sup>旃裘之完<sup>ク</sup>善<sup>キ</sup>也。得<sup>バ</sup>漢食物皆去<sup>テ</sup>之。以示<sup>セ</sup>不如<sup>ル</sup>湼酪

之便<sup>ナル</sup>美<sup>ニ</sup>也。

湼。乳汁也。音都奉反。○索隱曰。字林云。湼音竹用反。穆天子傳云。牛馬之湼。臣菟人所具也。

於是說教<sup>ヘ</sup>單于左

右疏記。以計<sup>ス</sup>課<sup>ス</sup>其人衆畜物。

正義曰。上許又反。

漢遺單于書。牘以尺一寸。

辭曰。皇帝敬問匈奴大單于無恙。所遺物及言語云云。中行說

令單于遺漢書。以尺二寸牘。及印封皆今廣大長。倨傲<sup>ナラ</sup>其辭曰。

天地所生。日月所置。匈奴大單于敬問漢皇帝無恙。所以遺物

言語亦云云。漢使或言曰。匈奴俗賤老。中行說窮<sup>シテ</sup>漢使曰。而漢

俗屯戍從軍。當發者。其老親豈有不自脫<sup>シ</sup>溫厚肥美。以齎送<sup>セ</sup>飲



曰。或作疏比也。○索隱曰。案漢書作比疎一。比音鼻。小顏云。辨髮之飾也。以金爲之。廣雅云。比。櫛也。蒼頡篇云。靡者爲比。麤者爲梳。蘇林云。今亦謂之梳。

黃金飾具

帶一。

漢書音義曰。要中大帶。

黃金胥紕一。

徐廣曰。或作犀毗。而無一字。○索隱曰。漢書見作犀毗。此作胥者。胥犀聲相近。或誤張晏云。鮮卑郭

落帶。瑞獸名也。東胡好服之。戰國策云。趙武靈王賜周紹具帶黃金師比。延篤云。胡革帶鉤也。則此帶鉤亦名師比。則胥犀與師並相近。而說各異耳。班固與竇憲牋云。賜犀比金頭帶是也。繡十匹。錦三十匹。赤綈綠繪各四十匹。正義曰。綈音帶。○索隱曰。案說文云。綈。厚繒也。使中

大夫意。謁者令肩遺單于。後頃之。冒頓死。子稽粥立。

索隱曰。稽音雞。粥音育。

號曰老上單于。老上稽粥單于初立。

徐廣曰。一云稽粥第二單于。自後皆以第別之。

孝文皇

帝復遣宗室女公主爲單于閼氏。使宦者燕人中行說傅公主。

正義曰。行音胡郎反。中行姓說名也。

說不欲行。漢彊使之。說曰。必我行也。爲漢患者。中

行說既至。因降單于。單于甚親幸之。初匈奴好漢繪絮食物。中

行說曰。匈奴人衆不能當漢之一郡。然所以彊者。以衣食異。無

帝前六年。漢遣匈奴書曰。皇帝敬問匈奴大單于無恙。使郎中  
 係雩淺遺朕書曰。右賢王不請聽後義盧侯難氏等計。絕二主  
 之約。離兄弟之親。漢以故不和。鄰國不附。今以小吏敗約。故罰  
 右賢王。使西擊月氏。盡定之。願寢兵。休士卒。養馬。除前事。復故  
 約。以安邊民。使少者得成其長。老者安其處。世世平樂。朕甚嘉  
 之。此古聖主之意也。漢與匈奴約爲兄弟。所以遺單于甚厚。倍  
 約離兄弟之親者。常在匈奴。然右賢王事已在赦前。單于勿深  
 誅單于。若稱書意。明告諸吏。使無負約。有信敬。如單于書。使者  
 言單于自將伐國有功。甚苦兵事。服繡袷綺衣。繡袷長襦。  
 本無袷字。○索隱曰。案小顏云。服者言天子自所服也。以  
 繡爲表。綺爲裏。以賜冒頓。字林云。袷。衣無絮也。音公洽反。錦袷袍各一。比余一

徐廣  
曰。一

徐廣

烏孫呼揭注正義音犁、札記樂ニ作ル、云フ犁ニ譌ス、集解ニ依テ改ム。

盡斬殺降下之。定樓蘭。

徐廣曰。一云樓湟。○正義曰。漢書云。鄯善國名樓蘭。去長安一千六百里也。

烏孫呼揭。

音樂。○索隱曰。又音丘列反。○正義曰。揭音犁。又其例反。二國皆在瓜州西北。烏孫戰國時居瓜州。及其旁二十六國。皆以爲匈奴。

索隱曰。案謂皆已入匈奴國也。諸引弓之民。并爲一家。北州已定。願寢兵。休士卒。

養馬。除前事。復故約。以安邊民。以應始古。使少者得成。其長老者安其處。世世平樂。未得皇帝之志也。故使郎中係零淺奉

書。零音火胡反。○索隱曰。請獻橐他一匹。騎馬二匹。駕二駟。正義曰。顏

可駕車也。二駟。八疋馬也。皇帝卽不欲匈奴近塞。則且詔吏民遠舍。使者至卽遣之。以六月中來至薪望之地。漢書音義曰。塞下地名。○索隱曰。服虔云。漢界上塞下之地。今匈奴使至於此也。書

至。漢議擊與和親孰便。公卿皆曰。單于新破月氏。乘勝不可擊。且得匈奴地。澤鹵。正義曰。非可居也。和親甚便。漢許之。孝文皇

上音息。澤鹵。正義曰。非可居也。和親甚便。漢許之。孝文皇

今正ス。澤鹵注上音息。札記屬



與匈奴和親。至孝文帝初立。復修和親之事。其三年五月。匈奴  
 右賢王入居河南地。侵盜上郡葆塞蠻夷。殺略人民。於是孝文  
 帝詔丞相灌嬰發車騎八萬五千詣高奴。正義曰。延州城本漢高奴縣舊都。擊右賢  
 王。右賢王走出塞。文帝幸太原。是時濟北王反。文帝歸罷丞相  
 擊胡之兵。其明年單于遣漢書曰。天所立匈奴大單于敬問皇  
 帝無恙。前時皇帝言和親事。稱書意合歡。漢邊吏侵侮右賢王。  
 右賢王不請。聽後義盧侯難氏。徐廣曰。音支。○索隱曰。匈奴將名也。等計與漢吏相距。  
 絕二主之約。離兄弟之親。皇帝讓書再至。發使以書報。不來。漢  
 使不至。漢以其故不和。鄰國不附。今以小吏之敗約。故罰右賢  
 王。使之西求月氏擊之。以天之福。吏卒良。馬彊力。以夷滅月氏。

罷。使劉敬結和親之約。是後韓王信爲匈奴將。及趙利王黃等。數倍約。侵盜代雲中。居無幾何。陳豨反。又與韓信合謀擊代。漢使樊噲往擊之。復拔代雁門雲中郡縣。不出塞。是時匈奴以漢將衆往降。故冒頓常往來侵盜代地。於是漢患之。高帝乃使劉敬奉宗室女公主爲單于閼氏。歲奉匈奴絮繒酒米食物各有數。約爲昆弟。以和親。冒頓乃少止。後燕王盧綰反。率其黨數千人降匈奴。往來苦上谷以東。高祖崩。孝惠呂太后時。漢初定。故匈奴以驕。冒頓乃爲書遺高后。妄言。高后欲擊之。索隱曰。案漢書云。高后時冒頓寢驕。乃使使遺高后書曰。孤值之君。生於沮澤之中。長於平野牛馬之域。數至邊境。願遊中國。陛下獨立。孤值獨居。兩主不樂。無以自娛。願以所有易其所無。高后怒欲擊之。諸將曰。以高帝賢武。然尙困於平城。於是高后乃止。索隱曰。案漢書季布諫高后乃止。復

其羸弱。於是漢悉兵多步兵三十二萬。北逐之。高帝先至平城。

徐廣曰。在雁門。步兵未盡到。冒頓縱精兵四十萬騎。圍高帝於白登。正義曰。白

登臺。在白登山。上朔州定襄縣東三十里。定襄縣。漢平城縣也。七日。漢兵中外不得相救餉。匈奴騎其

西方盡白馬。東方盡青驪馬。索隱曰。驪音武江反。案青驪。青色馬也。○正義曰。鄭玄云。驪。不純也。說文云。驪。面類皆白。爾雅云。黑

馬面白也。北方盡烏驪馬。索隱曰。說文云。驪。黑色。南方盡騂馬。索隱曰。案詩傳曰。赤黃曰騂。高帝

乃使使閒厚遺閼氏。閼氏乃謂冒頓曰。兩主不相困。今得漢地。

而單于終非能居之也。且漢王亦有神。單于察之。冒頓與韓王

信之將王黃趙利期。而黃利兵又不來。疑其與漢有謀。亦取閼

氏之言。乃解圍之一角。於是高帝令士皆持滿傳矢外鄉。索隱曰。傳

附音。從解角直出。竟與大軍合。而冒頓遂引兵而去。漢亦引兵而



正義曰。漢書作數十百人。顏師古云。或數十人。或百人。

舉事而候星月。月盛壯則攻戰。月虧則退。

兵。其攻戰斬首虜。賜一卮酒。而所得鹵獲。因以予之。得人以為

奴婢。故其戰。人人自為趣利。善為誘兵。以冒敵。故其見敵。則逐

利如鳥之集。其困敗。則瓦解雲散矣。戰而扶輿死者。盡得死者

家財。後北服渾庾。屈射。丁靈。索隱曰。魏略云。丁靈在康居北。去匈奴庭接習水七千里。又云。匈奴北有渾窳國。射音亦。又音石。

鬲昆。薪犂之國。正義曰。已上五國在匈奴北。於是匈奴貴人大臣皆服。以冒頓

單于為賢。是時漢初定中國。徙韓王信於代都馬邑。匈奴大攻

圍馬邑。韓王信降匈奴。匈奴得信。因引兵南踰句注。攻太原。至

晉陽下。高帝自將兵往擊之。會冬大寒雨雪。卒之墮指者十二

三。於是冒頓詳敗走。誘漢兵。漢兵逐擊冒頓。冒頓匿其精兵。見

丁靈、札記丁零二作ル、  
注同ジ、云フ索隱本零、  
各本靈二作ル、注接習  
水、云フ三國志烏丸鮮  
卑東夷傳注魏略チ引  
テ、安習水ニ作ル。

會龍城注▲索隱後漢書云、札記云、此章懷太子書ヲ引ク、疑フ後字衍ナリ。

有罪小者札注如淳云、擗杖也、札記杖ヲ扶ニ作ル、云フ單本扶各本校ニ作ル、漢書注同ジ。

當戶。且渠之屬。

正義曰。且子餘反。顏師古云。今之沮渠姓。蓋本因此官。

歲正月。諸長小會單于庭。

祠。五月大會龍城。

索隱曰。漢書作龍城。亦龍字。崔浩云。西方胡皆事龍神。故名大會處爲龍城。後漢書云。匈奴俗歲有三龍祠。祭天神。

祭

其先天地鬼神。秋馬肥大會蹕林。

漢書音義曰。匈奴秋社八月中皆會祭處。蹕音帶。○索隱曰。鄭氏云。蹕林地名也。晉

灼曰。李陵與蘇武書曰。相競趨蹕林。則服虔說是也。又韋昭音多藍反。姚氏案。李牧傳。大破匈奴滅襜褕。此字與韋昭音頗同。然林襜聲相近。或以林爲襜也。○正義曰。師古云。蹕者。遶林木而祭也。鮮卑之俗。自古相傳。秋祭無林木者。尙豎柳枝。衆騎馳遶三周乃止。此其遺法也。課校人畜。正義曰。許又反。計其法。拔刃

尺者死。坐盜者沒入其家。有罪小者軋。

漢書音義曰。刃刻其面。○索隱曰。軋音烏八反。鄧展云。軋。歷也。如淳

云。擗杖也。三蒼云。軋。輾也。說文云。輾。輾也。○正義曰。顏師古云。軋者。謂輾轢其骨節。若今之厭蹶者也。

大者死。獄久者不過十日。

一國之囚不過數人。而單于朝出營。拜日之始。生夕拜月。其坐

長左而北鄉。

正義曰。其座北向。長者左。以左爲尊也。

日上戊巳。其送死有棺槨金銀衣

裘。而無封樹喪服。

張華曰。匈奴名冢曰逗落。

近幸臣妾從死者。多至數千百人。

モ、亦號ヲ立テ萬騎ト  
曰フナリ。  
蘭氏注姓呼衍者也、漢  
書衍ヲ延ニ作ル。

以西接月氏氏羌、札記  
云、漢傳月氏二字ナシ、  
索隱本ト合ス、注三苗  
姜姓、札記姜ヲ羌ニ作  
ル。

最爲大國、札記志疑云、  
國字ヲ衍ス。

什長注索隱郡國志、札  
記云、當二百官志ニ作  
ルベシ。

師古云。呼衍。卽今鮮卑姓。其後有須卜氏。  
須卜氏主獄訟。○正義曰。後漢書云。呼衍氏須卜氏常與單于婚姻。此

三姓。其貴種也。諸左方王將居東方。直上谷。  
索隱曰。案姚氏云。古字例以直爲值。值者當也。○正

義曰。上谷郡。今嬀州也。言匈奴東方南出直當嬀州也。  
以往者。東接穢貉朝鮮。右方王將居西方。

直上郡。  
正義曰。上郡故城在涇州上縣東南五十里。言匈奴西方南直當綏州也。以西接月氏氏羌。  
索隱曰。案風俗通云。氏。本

西南夷種。地理志。武都有白馬氏。又魚豢魏略云。漢置武都郡。排其種人。分竄山谷。或號青氏。或號白氏。纂文云。氏亦羊稱。說文云。羌西方牧羊人。續漢書云。羌三苗姜姓之別。舜徙于三危。今阿闐之西。而單于之庭。直代雲中。  
索隱曰。案謂匈奴所都處爲庭。樂彥云。單于無城郭。不知何以國之。穹廬前地若庭。

故云庭。○正義曰。代郡城。北狄代國。秦漢代縣城也。在蔚州羌胡縣北百五十里。雲中故城。趙雲中城。秦雲中郡。在勝州榆林縣東北四十里。言匈奴之南直當代雲中也。各有

分地。逐水草移徙。而左右賢王。左右谷蠡王。最爲大國。左右骨

都侯輔政。諸二十四長。亦各自置千長。百長。什長。  
索隱曰。案續漢書郡國志云。里有魁。

又有什伍。里魁掌一里百家。什主十家。伍長五家。以相檢察。故賈誼過秦論以爲偏起什百之中是也。  
裨小王相封都尉。  
徐廣曰。一作將。



朝那膚施注秦因不改、札記云、秦因二字疑フ倒ナリ。

奴地者。與漢關故河南塞。至朝那膚施。

徐廣曰。在上郡。○正義曰。漢朝那故城。在原州百泉縣西七十里。屬

安定郡。膚施縣。秦因不改。今延州膚施縣是。

遂侵燕代。是時漢兵與項羽相距。中國罷於兵

革。以故冒頓得自彊。控弦之士三十餘萬。自淳維以至頭曼。千

有餘歲。時大時小。別散分離尙矣。其世傳不可得而次云。然至

冒頓而匈奴最彊大。盡服從北夷。而南與中國爲敵國。其世傳

國官號乃可得而記云。置左右賢王。左右谷蠡王。

服虔曰。谷音鹿。蠡音離。○索隱曰。蠡

又音

左右大將。左右大都尉。左右大當戶。左右骨都侯。

骨都異姓大臣。○索

隱曰。裴氏所引據後漢書。下呼衍注亦然。

匈奴謂賢曰屠耆。

徐廣曰。屠一作諸。

故常以太子爲左屠

耆王。自如左右賢以下至當戶。大者萬騎。小者數千。凡二十四

長。立號曰萬騎。諸大臣皆世官。呼衍氏。

呼衍氏須卜氏。常與單于婚姻。

蘭氏。

正義曰。顏

自如左右賢以下、札記賢下王字アリ、云ア舊本王字アリ、各本脱ス。大者萬騎云云立號曰萬騎、方苞曰、二十四長中、數千騎ナル者ト雖

無道。乃求闕氏。請擊之。冒頓曰。奈何與人鄰國愛一女子乎。遂取所愛闕氏。予東胡。東胡王愈益驕。西侵。與匈奴間中有棄地。莫居千餘里。各居其邊。爲甌脫。韋昭曰。界上屯守處。○索隱曰。服虔云。作土室以伺漢人。又纂文曰。甌脫。土穴也。又云。是地名。故下云生得甌脫王。甌音一侯反。脫音同活反。○正義曰。按境上斥堠之室爲甌脫也。東胡使使謂冒頓曰。匈奴所與

我界甌脫外棄地。匈奴非能至也。吾欲有之。冒頓問羣臣。羣臣

或曰。此棄地。予之亦可。勿與亦可。於是冒頓大怒曰。地者國之

本也。奈何予之。諸言予之者皆斬之。冒頓上馬。令國中。有後者

斬。遂東襲擊東胡。東胡初輕冒頓。不爲備。及冒頓以兵至。擊大

破。滅東胡王。而虜其民人及畜產。既歸。西擊走月氏。南并樓煩

白羊河南王。索隱曰。如淳云。侵燕代。悉復收秦所使蒙恬所奪。匈

南并樓煩。白羊河南王。侵燕代。札記雜志云。侵燕代。三字下文。因衍。漢書漢紀並。ニナシ。

左右或不敢射者、札記云、者字疑フ衍ナリ。

其善馬。左右或不敢射者。冒頓立斬不射善馬者。居頃之。復以鳴鏑自射其愛妻。左右或頗恐。不敢射。冒頓又復斬之。居頃之。冒頓出獵。以鳴鏑射單于善馬。左右皆射之。於是冒頓知其左右皆可用。從其父單于頭曼獵。以鳴鏑射頭曼。其左右亦皆隨鳴鏑而射殺單于頭曼。遂盡誅其後母與弟及大臣不聽從者。冒頓自立爲單于。冒頓既立。徐廣曰。秦二世元年壬辰歲立。是時東胡彊盛。聞冒頓殺父自立。乃使使謂冒頓。欲得頭曼時有千里馬。冒頓問羣臣。羣臣皆曰。千里馬。匈奴寶馬也。勿與。冒頓曰。奈何與人鄰國而愛一馬乎。遂與之千里馬。居頃之。東胡以爲冒頓畏之。乃使使謂冒頓。欲得單于一閼氏。冒頓復問左右。左右皆怒曰。東胡



胡奴在側。言之曰。此胡所謂天子。與古書所說符會也。韋昭曰。曼音瞞。○索隱曰。曼音莫官反。

頭曼不勝秦。北徙十餘年而

蒙恬死。諸侯畔秦。中國擾亂。諸秦所徙適戍邊者皆復去。於是

匈奴得寬。復稍度河南。與中國界於故塞。單于有太子名冒頓。

索隱曰。冒音

後有所愛閼氏。

索隱曰。閼氏舊音曷氏。匈奴皇后號也。習鑿齒與燕王書曰。山下有紅藍。足下先知不。北方人採取其花。

墨。又如字。

染緋黃。採取其上英鮮者。作胭脂。婦人採將用爲顏色。吾少時再三過見胭脂。今日始視紅藍。後當足致其種。匈奴名妻作閼氏。今可音烟支。想足下先亦不作此讀。漢書也。生

少子。而單于欲廢冒頓而立少子。乃使冒頓質於月氏。冒頓既

質於月氏。而頭曼急擊月氏。月氏欲殺冒頓。冒頓盜其善馬。騎

之亡歸。頭曼以爲壯。令將萬騎。冒頓乃作爲鳴鏑。漢書音義曰。鏑箭也。如今鳴射也。韋

昭曰。矢鏑飛則鳴。○索習勒其騎射。令曰。鳴鏑所射。而不悉射者斬之。

行獵鳥獸。有不射鳴鏑所射者。輒斬之。已而冒頓以鳴鏑自射。

所愛閼氏注索隱。札記。首二蓋音於連於曷反。二音二作ル。北方人探ヲ脂ヲ肢ニ作ル。下同ジ。婦人ノ下探字ナシ。後當足致其種。後當爲足下致其種ニ作ル。作閼氏ノ氏ヲ支ニ作リ。今可音烟支ヲ言其可愛如烟肢也。閼音煙ニ作ル。

悉收河南地、凌椎隆曰、河南地ハ、今ノ河陰是ナリ、廣サ七百里、新秦中ト號ス、蒙恬取ル所ノ者ナリ、按ニ明ニ河套ト稱スル者ナリ。

秦滅六國。而始皇帝使蒙恬將十萬之衆。北擊胡。悉收河南地。

因河爲塞。

索隱曰。案太康地記。秦塞自五原北九里。謂之造陽。東行終利。貫山南。漢陽西是也。

築四十四縣城。臨河。

徙適戍以充之。

適音丁革反。

而通直道。

索隱曰。蘇林云。去長安八千里。正南北相直道也。

自九原至

雲陽。

索隱曰。韋昭云。九原縣屬五原也。○正義曰。括地志云。勝州連谷縣。本秦九原郡。漢武帝更名五原。雲陽雍縣。秦之林光宮。卽漢之甘泉宮在焉。又云。秦故道在慶州華池縣西四十五里。子午山上。

池縣西四十五里。子午山上。

因邊山險。漸谿谷。可繕者治之。起臨洮。至

遼東萬餘里。

索隱曰。韋昭云。臨洮隴西縣。○正義曰。括地志云。秦隴西郡臨洮縣。卽今岷州城。本秦長城首起岷州西十二里。延袤萬餘里。東入遼水。

又

度河。據陽山北假中。

北假。北方田官主。以田假與貧人。故云北假。○索隱曰。應劭云。北假在北地陽山北。韋昭云。北假地名也。○正義曰。括地

志云。漢五原郡河目縣故城。在北假中。北假地名也。在河北。今屬勝州銀城縣。漢書王莽傳云。五原北假膏壤殖穀也。

當是之時。東胡彊而

月氏盛。

正義曰。氏音支。括地志云。涼甘肅延沙等州地。本月氏國。

匈奴單于曰頭曼。

漢書音義曰。單于者。廣大之貌。言其象天。單于

然。○索隱曰。案單于姓攣鞬氏。其國稱之曰攣黎孤塗單于。而匈奴謂天爲攣黎。謂子爲孤塗。單于者廣大之貌也。言其象天。故曰攣黎孤塗單于。又玄晏春秋云。士安讀漢書不詳此言。有

築長城注正義案長城水經云百道、札記案下長城ナシ、云フ案下長城二字ヲ衍ス、官本ナシ、又百道ヲ白道ニ作ル、水經河水注ニ依テ改ム、又若頽壁、云フ河水注毀ヲ基ニ作ル、又公奚ヲ沿谿ニ作ル、云フ官本沿、河水注ト合ス、各並公ニ譌ス。  
並陰山注陽山北、札記云、蒙恬傳、集解、陽山在河北ニ作ル、此在河二字ヲ脱ス。

殺義渠戎王於甘泉。遂起兵伐殘義渠。於是秦有隴西北地上

郡。築長城以拒胡。而趙武靈王亦變俗。胡服習騎射。北破林胡

樓煩。築長城。正義曰。括地志云。趙武靈王長城在朔州善陽縣北。案長城水經云。百道長城北山上有長垣。若頽毀焉。公奚互嶺東西無極。蓋趙靈王所築也。

自代並陰山。音傍。白浪反。○索隱曰。徐廣云。西安陽縣北有陰山。陰山在河南陽山北也。○正義曰。括地志云。陰山在朔州北塞外突厥界。下至

高闕爲塞。徐廣曰。在朔方。○正義曰。地理志云。朔方臨戎縣北有連山。險於長城。其山中斷兩峰俱峻。土俗名爲高闕也。而置雲中雁

門代郡。其後燕有賢將秦開。爲質於胡。胡甚信之。歸而襲破走

東胡。東胡卻千餘里。與荊軻刺秦王。秦舞陽者。開之孫也。燕亦

築長城。自造陽至襄平。韋昭曰。地名在上谷。○正義曰。按上谷郡。今嬌州。○索隱曰。韋昭云。今遼東所理也。置上谷。

漁陽。右北平。遼西。遼東郡。以拒胡。當是之時。冠帶戰國七。而三

國邊於匈奴。索隱曰。案三國。燕趙秦也。其後趙將李牧時。匈奴不敢入趙邊。後



校本頭チ改テ謂ト爲  
ス、索隱引ニ徐廣音ト  
合ス、然ルニ索隱又鄭  
氏音呼ヲ引ケバ、則當  
ニ項于反集解脫文アル  
ベシ、札記、索隱鄭氏  
上、徐廣、音謂四字ア  
リ。  
樓煩之戎注、札記、索  
隱如淳六十四字ナ上入  
胡ノ注正義ノ上ニ入  
ル、應劭云故樓煩胡也  
ノ也、地ニ作ル。  
東胡山戎注、索隱、恒  
以之名烏號爲姓ノハ  
字、札記以父之名字爲  
姓ニ作ル。

之戎。

索隱云、如淳曰、林胡、卽澹林、爲李牧所滅也。地理志云、樓煩、縣名、屬雁門。應劭云、

燕

北有東胡山戎。

漢書音義曰、烏丸或云鮮卑。○索隱曰、服虔云、東胡、烏丸之先、後爲鮮卑、在匈奴東、故曰東胡。案續漢書曰、漢初匈奴冒頓滅其國、餘類

保烏桓山、以爲號、俗隨水草、居無常處、桓以

各分散居谿谷、自有君長、往往

而聚者、百有餘戎、然莫能相一、自是之後、百有餘年、晉悼公使

魏絳和戎翟、戎翟朝晉、後百有餘年、趙襄子踰句注、

音鉤、山名、在雁門。○索隱

曰、服虔云、句音拘、韋

而破并代、以臨胡貉。

索隱曰、案貉卽

其後既與韓

魏共滅智伯、分晉地而有之、則趙有代、句注之北、魏有河西上

郡、以與戎界邊、其後義渠之戎、築城郭以自守、而秦稍蠶食、至

於惠王、遂拔義渠二十五城、惠王擊魏、魏盡入西河及上郡、于

秦、秦昭王時、義渠戎王與宣太后亂、有二子、  
昭王母也、宣太后詐而

白翟注正義按文言、札記云、文上疑フ脫字ア

翟獯之戎注索隱、札記道ヲ獯道ニ作リ、有縣諸道四字ナリ、云フ獯ヲ狄ニ誤ル、考證漢志ニ據テ改ム。

胸衍之戎注胸音項、札記項ヲ詡ニ作ル、云フ舊刻音項子反ニ作ル、宋本王柯淺音項ニ作ル、中統游本音項ニ作ル、亦項ノ譌ナリ、蓋音子反二字ヲ脫ス、

六郡。洛漆沮也。

號曰赤翟白翟。

索隱曰。案左氏傳云。晉師滅赤狄潞氏。杜氏以潞赤翟之別種也。今上黨潞縣。又春秋地名云。今日赤涉胡。又晉師敗翟

于箕。鄒缺獲白翟子。杜氏以爲白翟之別種。故西河郡有白部胡。又國語云。桓公西征。攘白翟之地。遂至于西河也。○正義曰。括地志云。潞州本赤狄地。延銀綏三州。白翟地。按文言。圍潞之閒。號赤狄。未詳。秦穆公得由余。西戎八國服於秦。故自隴以西有縣諸。正義

曰。括地志云。縣諸城。秦州秦嶺縣北五十六里。漢縣諸道屬天水郡。

緄戎。

正義曰。上音昆。字當作混。師古云。混夷也。韋昭云。春秋以爲大戎。

翟獯之

戎。徐廣曰。在天水。獯音丸。○索隱曰。地理志云。天水有縣諸道狄道。應劭以獯戎邑。音桓。○正義曰。括地志云。獯道故城。在渭州襄武縣東南三十七里。古之獯戎邑。漢獯道屬天水

郡。

岐梁山涇漆之北。有義渠。

正義曰。括地志云。寧州慶州西戎。即劉拘邑城。時爲義渠戎國。秦爲北地郡也。

大荔。

徐廣曰。後更名臨晉。在馮翊。○索隱曰。韋昭云。義渠。本西戎國。有王。秦滅之。今在北地郡。秦本紀厲共公伐大荔。取其王城。後更名臨晉。故地理志云。臨晉。故大荔國也。○正義曰。括地志云。同州馮翊縣。及朝邑縣。本漢臨晉縣地。古大荔戎國。今朝邑縣東三十步。故王城。即大荔王城。荔力計反。烏氏。徐廣曰。在安定。○正義曰。氏音支。括地志云。烏氏故城。在涇州

安定縣東三十里。周之故地。後入戎。秦惠王取之。置烏氏縣也。

胸衍之戎。

徐廣曰。在北地。胸音項。○索隱曰。案地理志。胸衍。縣名。在北地。鄭氏音吁。○正義曰。括地

志云。鹽州古戎狄居之。即胸衍戎之地。秦北地郡也。

而晉北有林胡。

正義曰。括地志云。朔州春秋時北地也。如淳云。即澹林也。爲李牧滅。

樓煩



狄后怨。而襄王後母曰惠后有子子帶欲立之。於是惠后與狄后子帶爲內應。開我狄。我狄以故得入。破逐周襄王。而立子帶爲天子。於是戎狄或居于陸渾。

徐廣曰。一爲陸邑。○索隱曰。春秋左氏秦晉遷陸渾之戎于伊川。杜預云。允姓之戎居陸渾。在秦晉之閒。二國誘而徙之。

伊川遂從戎號。今陸渾縣是也。東至於衛。侵盜暴虐中國。中國疾之。故詩

人歌之曰。戎狄是應。薄伐獫狁。至於太原。

毛詩傳曰。言逐出之而已。

出輿彭彭。

城彼朔方。

毛詩傳曰。彭彭。四馬貌。朔方。北方。○正義曰。獫狁既去。北方安靜。乃築城守之。

周襄王既居外四年。乃

使使告急于晉。晉文公初立。欲修霸業。乃興師伐逐戎翟。誅子

帶。迎內周襄王。居于維維邑。當是之時。秦晉爲彊國。晉文公攘戎

翟。居于河西園洛之閒。

徐廣曰。園在西河。音銀。洛在上郡。馮翊閒。○索隱曰。三蒼圖作園。地理志云。園水出上郡白土縣。西東流入河。韋昭

云。園當爲園。續郡國志及太康地理志並作園字也。○正義曰。括地志云。白土故城在鹽州白池東北三百九十里。又云。近延州綏州銀州。本春秋時白狄所居。七國屬魏。後入秦。秦置三十

故詩人歌之曰戎狄是應云云、札記云、舊刻游本應、建元以來侯者年表詩ヲ引キ、及ビ字類年表ヲ引ク、亦同ジ、他本並ニ膺ニ作ル、按ニ戎狄一句、魯頌閟宮ノ詩、薄伐二句、小雅六月ノ詩、出輿二句、出車ノ詩ナリ、漢書宣王ノ條ニ之ヲ引キ、詩人其功ヲ美大スト爲ス、之ヲ疾ムノ辭ニ非ザルニ似タリ、疑フ前條札記云フ所ノ若ク、史文モト宣王ノ事アリ、偶々逸シテ、此詩人云云ヲ存シ、錯テ此ニ入ル歟、河四園洛之閒、札記云、河西索隱本西河ニ作ル、志疑云、洛當ニ潞ニ作ルベシ、按ズルニ此說下白翟正義ト合ス、



宋時ニ及ビ、原本ヲ刊  
スル者、史其文ナキヲ  
見テ、疑テ衍ト爲シ、  
而テ之ヲ刪ル、他刻本  
亦附屬スベキナキヲ以  
テ、而テ之ヲ此ニ系ク。  
遂作甫刑之辟、顏師古  
曰、即尙書呂刑ノ篇是  
ナリ、辟ハ法ナリ。  
周之焦穫注涇陽縣北五  
十數里、札記涇陽縣城  
北十數里ニ作ル。

戰于齊郊注索隱、札記  
注ナシ、云フ各本索隱  
云釐音僂、名諸兒也七  
字アリ、謬ル甚シ、單本  
ナシ、方苞曰、春秋ニ  
據レバ、釐公祿父ナリ、  
索隱誤ル。

姬褒姒之故。與申侯有郤。

正義曰。故申城。在鄠州南陽縣北三十里。周宣王舅所封。

申侯怒而與犬

戎共攻殺周幽王于驪山之下。

韋昭曰。戎後來居此山。故驪曰驪戎。

遂取周之焦穫。

正義曰。括地志云。焦穫亦名剗口。亦曰剗中。在雍州涇陽縣北五十數里。周有焦穫也。

而居于涇渭之間。侵暴中國。秦

襄公救周。於是周平王去酆鄩而東徙。雒邑當是之時。秦襄公

伐戎至岐。

正義曰。今岐州。高誘云。秦襄公救周有功。受周故地酆鄩。列爲諸侯也。

始列爲諸侯。是後六十有

五年。而山戎越燕而伐齊。

索隱曰。服虔云。山戎。蓋今鮮卑。胡廣云。鮮卑。東胡別種。又案應奉云。秦築長城。徙士亡出塞外。依鮮卑山。

因爲

齊釐公與戰于齊郊。

索隱曰。釐音僂。名諸兒也。

其後四十四年。而山戎伐

燕。燕告急于齊。齊桓公北伐山戎。山戎走。其後二十有餘年。而

戎狄至洛邑。伐周襄王。襄王奔于鄭之汜邑。索隱曰。蘇林汜音凡。今潁川襄城是。初周

襄王欲伐鄭。故娶戎狄女爲后。與戎狄兵共伐鄭。已而黜狄后。

字衍ナリ、漢傳ナシ、然ルニ裴駰見本、當ニ已ニ衍スベシ、故ニ漢書ヲ引テ之ヲ諱フ。

伐吠夷氏注、白犬有牝牡、札記牝牡ヲ二經ニ作ル、云フ大荒北經、牝牡ニ作ル、注言フ自相配合スルナリ、海内北經云、黃帝ノ後弁明、白犬二頭ヲ生ム、自ラ相牝牡スト、疑フ索隱脫文アラシ。

周道衰注、索隱云云、札記云、單本此條ナシ、懿王ハ穆王ノ後ニ在リ、當ニ其前ニ闕出スベカラス、按ズルニ、漢傳穆王ノ下、週シテ懿宣ニ及ビ、並ニ采薇六月ノ詩ヲ引ク、疑フ亦本史文ナリ、小司馬見本尙完シ、故ニ此注アリ。

而無姓字。

漢書曰、單于姓攣鞮氏。○索隱曰、攣音六緣反、鞮音丁啼反。

夏道衰而公劉失其稷官。

徐廣

曰、后稷之曾孫。○正義曰、周本紀云、不窳失其官。此云公劉未詳也。變于西戎。邑于豳。其後三百有餘歲。戎

狄攻大王亶父。徐廣曰、公劉九世孫。亶父亡走岐下。而豳人悉從亶父而邑

焉。作周。索隱曰、按謂始作周國也。其後百有餘歲。周西伯昌伐吠夷氏。索隱曰、韋昭云、春秋

以爲犬戎。按吠音犬。小顏云、卽昆夷也。山海經云、黃帝生苗龍。苗龍生融吾。融吾生弄明。弄明

生白犬。白犬有牝牡。是爲犬戎。肉食。說文云、赤狄本犬種。字從犬。又山海經云、有神人面獸身。名犬夷。賈逵云、犬夷。戎之別種也。後十有餘年。武王代紂而營雒邑。復居于酆鄙。放

逐戎夷涇洛之北。索隱曰、晉灼曰、洛水在馮翊懷德縣。東南入渭。又案水經云、出上郡彫陰秦昌山。過華陰入渭。卽漆沮水也。以時

入貢。命曰荒服。其後二百有餘年。周道衰。索隱曰、案周紀云、懿王時王室衰。詩人作怨刺之詩。不能

復雅也。而穆王伐犬戎。得四白狼、四白鹿以歸。自是之後。荒服不

至。於是周遂作甫刑之辟。穆王之後二百有餘年。周幽王用寵



索隱曰。說文云。馱駝。馬父羸子也。廣志云。決蹄也。

駟駟。

徐廣曰。似馬而青。○索隱曰。按郭璞注。爾雅云。駟駟。馬青色。音淘塗。

又字林云。野馬。山海經云。北海

驪駟。

徐廣曰。音顛。駟駟之屬。○索隱曰。說文云。野馬屬。一云青驪白驪。文如鼉魚。鄒誕生本驪字作奚。

逐水草遷徙。毋城郭常處耕田之業。然亦各有分地。

索隱曰。分。音扶囊反。

文書以言語爲約束。兒能騎羊。引弓射鳥鼠。少長則射狐兔。用

爲食。

索隱曰。少音式紹反。長。陟兩反。少長。謂年稍長。

士力能彎弓。

索隱曰。彎。音烏還反。

盡爲甲騎。其俗寬。

則隨畜。因射獵禽獸爲生業。急則人習戰攻。以侵伐。其天性也。

其長兵則弓矢。短兵則刀鋌。

韋昭曰。鋌。形似矛鐵柄。音時年反。○索隱曰。音蟬。埤蒼云。鋌。小矛鐵矜。古今字詁云。矜。矛矜也。

利則進。不利則退。不羞遁走。苟利所在。不知禮義。自君王以下。

咸食畜肉。衣其皮革。被旃裘。壯者食肥美。老者食其餘。貴壯健。

賤老弱。父死妻其後母。兄弟死皆取其妻妻之。其俗有名不諱。

有名不諱而無姓字、札記無姓氏二作ル、云、姓



史記評林卷之一百十

匈奴列傳第五十

正義曰。此卷或有本。次平津侯後第五十一。今第五十者。先生舊本如此。劉伯莊云亦然。若先諸傳而次四夷。則司馬汲鄭不合在後也。

匈奴。其先祖夏后氏之苗裔也。曰淳維。

漢書音義曰。匈奴始祖名。○索隱曰。張晏云。淳維以殷時奔北邊。又

樂彥括地譜云。夏桀無道。湯放之鳴條。三年而死。其子獯粥妻桀之衆妾。避居北野。隨畜移徙。中國謂之匈奴。其言夏后苗裔。或當然也。故應劭風俗通云。殷時曰獯粥。改曰匈奴。又晉灼云。堯時曰葷粥。周曰獯狁。秦曰匈奴。韋昭云。漢曰匈奴。葷粥其別名。則淳維是其始祖。蓋與獯粥是一也。唐虞以上有山戎。正義曰。左傳莊三十

年。齊人伐山戎。杜預云。山戎。北戎無終之名也。括地志云。幽州漁陽縣。本北戎無終子國。

獯狁。葷粥。

晉灼云。堯時曰葷粥。周曰獯狁。秦曰匈奴。

居于

北蠻。隨畜牧而轉移。其畜之所多。則馬牛羊。其奇畜。則橐駝。

索隱

曰。韋昭云。背肉似橐。故云駝。包愷音託佗。○正義曰。畜許又反。

驢羸。

索隱曰。案古今注云。驢牡馬牝生羸。○正義曰。羸音力戈反。

馱騃。

徐廣曰。北狄駿馬。○

匈奴列傳注正義曰。此卷或有本。次平津侯後。札記云。索隱本正。此。如。其。述。贊。次。第。亦。然。然。然。二。史。公。自。序。具。在。斯。易。爾。能。ハ。ザ。ル。ナリ。同注先生舊本。札記。錢鑒石云。疑。即。梁。孝。王。世。家。正。義。ニ。云。フ。所。ノ。張。先。生。舊。本。ナ。ル。者。ナ。リ。

索隱述贊曰。援臂善射。實負其庸。解鞍卻敵。圓陣摧鋒。邊郡屢守。大軍再從。失道見斥。數奇不封。惜哉名將。天下無雙。

何去非曰。士有死將之恩。有死將之令。知死恩而不知死令。常至於驕。知死令而不知死恩。常至于怨。善于將者。既有以死吾之恩。又有以死吾之令。可百戰而百勝也。故部曲行陳。屯營頓舍。與夫晝夜之警嚴。符籍之管攝。皆所謂軍之紀律。不可一日輒廢者也。廣之治軍。欲其人人自便。于凡約束。一切弛略。以便其私。而專爲恩。當時稱其寬緩不苛。士皆愛樂。而程不識。乃謂士雖樂爲之死。翩然虜卒犯之。此其恩不加令。而每至於敗。軼廢罪。無尺寸之功。以取侯爵者。何足怪哉。

史記評林卷之一百九終

未到<sup>ニ</sup>居延<sup>ニ</sup>百餘里。匈奴遮<sup>リ</sup>狹絕<sup>ニ</sup>道<sup>ヲ</sup>。陵食乏<sup>シ</sup>而救兵不到<sup>リ</sup>。虜急<sup>ニ</sup>擊<sup>チ</sup>招降<sup>ス</sup>陵。陵曰。無<sup>ト</sup>面目報<sup>ズ</sup>陛下<sup>ニ</sup>。遂降<sup>ル</sup>匈奴。其兵盡沒<sup>ス</sup>。餘亡散<sup>シ</sup>得歸<sup>ル</sup>漢者四百餘人。單于既得<sup>ニ</sup>陵<sup>ヲ</sup>。素聞<sup>ク</sup>其家聲<sup>ヲ</sup>。及戰<sup>フ</sup>又壯<sup>ニ</sup>。乃以<sup>ニ</sup>其女<sup>ヲ</sup>妻<sup>ヘ</sup>陵而貴<sup>ブ</sup>之。漢聞<sup>キ</sup>族<sup>ス</sup>陵母妻子<sup>ヲ</sup>。自是之後。李氏名敗<sup>ル</sup>。而隴西之士居<sup>ル</sup>門下<sup>ニ</sup>者。皆用<sup>テ</sup>爲<sup>レ</sup>恥<sup>ト</sup>焉。

太史公曰。傳曰。其身正<sup>キ</sup>不<sup>レ</sup>令<sup>セ</sup>而行<sup>ヘ</sup>。其身不<sup>レ</sup>正<sup>カ</sup>雖<sup>モ</sup>令<sup>スト</sup>不<sup>レ</sup>從<sup>ヘ</sup>。其李將軍之謂也。余睹<sup>ニ</sup>李將軍<sup>ヲ</sup>。悛悛<sup>トシテ</sup>如<sup>ニ</sup>鄙人<sup>ノ</sup>。

索隱曰。悛音七旬反。漢書作恂。恂音詢。

口不能道

辭<sup>スル</sup>及<sup>ビ</sup>死之日<sup>ニ</sup>。天下知<sup>ルト</sup>與<sup>レ</sup>不知<sup>ラ</sup>。皆爲<sup>ニ</sup>盡哀<sup>ム</sup>。彼其忠實心<sup>ニ</sup>。誠信<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>士

大夫也。諺曰。桃李不言<sup>ヘ</sup>。下自成蹊<sup>スト</sup>。

索隱曰。案姚氏云。桃李本不能言。但以華實感物。故人不期而往。其下自成蹊徑也。

以喻廣雖不能道辭。能有<sup>レ</sup>所感。而忠心信物故也。

此言雖小。可以<sup>ニ</sup>諭<sup>フ</sup>大也。



李陵既壯云云、札記志疑云、此下後人ノ妄續ナリ、天漢ノ事史載セズ、且漢傳ト合ハズ。

擊匈奴右賢王祁連天山、札記祁上ガ字アリ、云フ中統游毛本於字アリ。

微矣。李陵既壯。選爲建章監。監諸騎。善射愛士卒。天子以爲李氏世將。而使將八百騎。嘗深入匈奴二千餘里。過居延。徐廣曰。屬張掖。○正義曰。括地志云。居延海。在甘州張掖縣東北六十四里。地理志云。居延海。古文以爲流沙。甘州在京西北二千四百六十里。視地形。無所見虜。而還。拜爲騎都尉。將丹陽楚人五千人。教射酒泉張掖。以屯衛胡數歲。天漢二年秋。貳師將軍李廣利。將三萬騎。擊匈奴右賢王。一本王下有於字祁連天山。徐廣曰。出燉煌至天山。○索隱曰。案晉灼云。在西域近蒲類。又西河舊事云。白山冬夏有雪。匈奴謂之天山也。○正義曰。括地志云。祁連山。在甘州張掖縣西南二百里。天山一名白山。今名初羅漫山。在伊吾縣北百二十里。伊州在京西北四千四百一十六里。而使陵將其射士步兵五千人。出居延北。可千餘里。欲以分匈奴兵。毋令專走貳師也。陵既至期還。而單于以兵八萬圍擊陵軍。陵軍五千人。兵矢既盡。士死者過半。而所殺傷匈奴亦萬餘人。且引且戰。連鬪八日。還。

代郡太守。皆先廣死。當戶有遺腹子。名陵。廣死軍時。敢從驃騎

將軍。廣死明年。李蔡以丞相坐侵孝景園墻地。當下吏治。蔡亦

自殺。

索隱曰。墻音人絹反。又音乃鍛反。又音而宣反。案墻地。神道之地也。黃圖云。陽陵闕門西出。神道四通。茂陵神道。廣四十三丈也。○正義曰。漢書云。詔賜冢地陽陵。當得

二十畝。蔡盜取三頃。頗賣得四十餘萬。又盜取神道外墻地一畝。葬其中。當下獄自殺。

不對獄。國除。李敢以校尉從驃

騎將軍。擊胡左賢王。力戰奪左賢王鼓旗。斬首多。賜爵關內侯。

食邑二百戶。代廣爲郎中令。頃之。怨大將軍青之恨其父。索隱曰。小

顏云。令其

父恨而死。

乃擊傷大將軍。大將軍匿諱之。居無何。敢從上。雍至甘

泉宮獵。

索隱曰。劉氏音尙。大顏云。雍地形高故云上。

驃騎將軍去病與青有親。射殺敢。去

病時方貴幸。上諱云鹿觸殺之。居歲餘。去病死。

徐廣曰。元狩六年。

而敢有

女爲太子中人。愛幸。敢男禹有寵於太子。然好利。李氏陵遲衰

反應前廣之廉句

度也。南歸度砂幕。右將軍廣已見大將軍。還入軍。大將軍使長史持糒醪

遺廣。因問廣食其失道狀。青欲上書報天子軍曲折。正義曰。言委曲而行廻折。使軍

後大將軍也。廣未對。大將軍使長史急責廣之幕府。對簿。廣曰。諸校尉

報天子軍曲折。札記雜志云。當漢書二從。失軍曲折。二作ルベシ。顏師古曰。曲折。猶委曲。ト言フ如シ。之幕府對簿。顏師古曰。簿。ハ文狀ヲ謂フナリ。

無罪。乃我自失道。吾今自上簿至莫府。廣謂其麾下曰。廣結髮

與匈奴大小七十餘戰。今幸從大將軍。出接單于兵。而大將軍

又徙廣部。行回遠。而又迷失道。豈非天哉。且廣年六十餘矣。終

不能復對刀筆之吏。遂引刀自頸。廣軍士大夫一軍皆哭。百姓

聞之。知與不知。無老壯。皆爲垂涕。而右將軍獨下吏當死。贖爲

庶人。廣子三人。曰當戶。椒。敢。爲郎。天子與韓嫣戲。索隱曰。嫣或音偃。又音許乾反。

嫣少不遜。當戶擊嫣。嫣走。於是天子以爲勇。當戶早死。拜椒爲

引刀自頸。札記劉二作ル。云フ王柯淺頸二鵠ス。



臣結髮而與匈奴戰、顏師古曰、始テ冠ニ勝ヘテ即戰陣ニ在ルヲ言フ。

李廣老數奇、孟康曰、奇、不耦ナリ、顏師古曰、廣ノ命隻ニシテ、耦合セザルヲ言フ、孟說是ナリ。恐不得所欲、顏師古曰、敵ニ勝タザルヲ謂フ、胡三省曰、單于ヲ擒セント欲スルヲ指ス、若シ邂逅之ヲ失フアル、欲スル所ヲ得ズト爲ス。

或失道、或ハ惑ナリ。

部爲前將軍。今大將軍乃徙令臣出東道。且臣結髮而與匈奴戰。今乃一得當單于。索隱曰。案廣言自少時結髮而與匈奴戰。唯今者得與單于相當遇也。臣願居前先死。

單于大將軍青亦陰受上誡。以爲李廣老數奇。一篇柱子。如淳曰。數爲匈奴所敗。奇爲不偶也。○索隱曰。

案服虔云。作事數不偶也。音朔。小顏音所具反。奇。蕭該音居宜反。毋令當單于。恐不得所欲。而是時公孫

敖新失侯。爲中將軍。從大將軍。大將軍亦欲使敖與俱當單于。

故徙前將軍廣。廣時知之。固自辭於大將軍。大將軍不聽。令長

史封書與廣之莫府。曰。急詣部如書。正義曰。令廣如其文牒。急引兵徒東道也。廣不謝大

將軍而起行。意甚愠怒而就部。引兵與右將軍食其合軍出東

道。索隱曰。食其音異基。案趙一將軍名也。或亦依字讀。軍亡導。或失道。索隱曰。謂無人導引軍。故失道也。後大將軍大

將軍與單于接戰。單于遁走。弗能得而還。南絕幕。遇前將軍。正義曰。絕。

豈嘗有所恨乎、顏師古曰、恨ハ悔ナリ。

部校尉以下。才能不及中人。然以擊胡軍功。取侯者數十人。而廣不爲後人。索隱曰。案謂不在人後。然無尺寸之功。以得封邑者何也。豈吾

相不當侯邪。且固命也。朔曰。將軍自念。豈嘗有所恨乎。廣曰。吾

嘗爲隴西守。羌嘗反。吾誘而降。降者八百餘人。吾詐而同日殺

之。至今大恨。獨此耳。朔曰。禍莫大於殺已降。此乃將軍所以不

得侯者也。後二歲。大將軍驃騎將軍大出擊匈奴。廣數自請行。

天子以爲老。弗許。良久乃許之。以爲前將軍。是歲元狩四年也。

廣既從大將軍青擊匈奴。既出塞。青捕虜。知單于所居。乃自以

精兵走之。而令廣并於右將軍軍。出東道。徐廣曰。主爵趙食其爲右將軍。東道少

回遠。而大軍行。水草少。其勢不屯行。張晏曰。以水草少。不可羣輩。廣自請曰。臣

廣軍功自如無賞、漢書  
自如、自當ニ作ル、顏  
師古曰、功過相當ルナ  
リ。

會<sup>ツ</sup>日暮<sup>ル</sup>吏士皆無人色而廣意氣自如益治<sup>ム</sup>軍軍中自是服<sup>ス</sup>其

勇<sup>ニ</sup>也明日復力戰而博望侯軍亦至匈奴軍乃解去漢軍罷弗

能追<sup>フ</sup>是時廣軍幾沒<sup>ス</sup>罷歸<sup>ル</sup>漢法博望侯畱<sup>テ</sup>遲後期<sup>ニ</sup>當死<sup>ニ</sup>贖<sup>テ</sup>爲<sup>ル</sup>庶

人<sup>ト</sup>廣軍功自如<sup>數奇</sup>無賞<sup>以容形主</sup>初廣之從弟李蔡與廣俱事孝文帝景帝

時蔡積<sup>テ</sup>功勞至<sup>ニ</sup>二千石<sup>ニ</sup>孝武帝時至<sup>ニ</sup>代相<sup>ニ</sup>以元朔五年爲輕車

將軍從<sup>テ</sup>大將軍擊右賢王有功中率封爲樂安侯<sup>索隱曰中音丁仲</sup>

筆反小顏云率謂軍功封賞<sup>反率音律亦音雙</sup>之科著在法令故云中率

元狩二年中代公孫弘爲丞相蔡爲人在<sup>索隱曰案以九品而</sup>

下中<sup>論在下之中當第八</sup>名聲出廣下甚遠然廣不得爵邑官不過<sup>ニ</sup>

九卿而蔡爲列侯位至三公諸廣之軍吏及士卒或取<sup>ニ</sup>封侯<sup>ヲ</sup>廣

嘗與望氣王朔燕語曰自漢擊匈奴而廣未嘗不在其中而諸



多中首虜華云云、顔師古曰、率ハ軍功封賞ノ科、著シテ法令ニ在ル者ナ謂フナリ。  
注本義法、札記充本法ニ作ル、云フ毛本漢書ト同ジ、各本本義法ニ作ル。  
後三歳、札記後二歳ニ作ル、云フ中統本一各本三ニ作ル、志疑云、名臣表、匈奴傳及ビ漢書武紀、匈奴傳、皆元狩二年ナレバ、則當ニ後二歳ニ作ルベシ。

令士持滿毋發、顔師古曰、矢ヲ弓弩ニ注シ、而テ之ヲ引滿シ、矢ヲ發セザルナリ。

此其將兵數困辱。其射猛獸。亦爲所傷云。居頃之。石建卒。於是

上召廣。代建爲郎中令。元朔六年。廣復爲後將軍。從大將軍軍。

出定襄。擊匈奴。諸將多中首虜。率以功爲侯者。

如淳曰。中。猶充也。本義法得首若干封侯。

而廣軍無功。後三歳。廣以郎中令將四千騎出右北平。博望侯

張騫將萬騎與廣俱異道行。可數百里。匈奴左賢王將四萬騎

圍廣。廣軍士皆恐。廣乃使其子敢往馳之。敢獨與數十騎馳。直

貫胡騎。出其左右而還。告廣曰。胡虜易與耳。軍士乃安。廣爲圍

陳外嚮。胡急擊之。矢下如雨。漢兵死者過半。漢矢且盡。廣乃令

士持滿毋發。而廣身自以大黃射其裨將。

徐廣曰。南都賦曰。黃閒機張。善弩之名。駟案鄭德曰。黃閒

弩。淵中黃牙。孟康曰。太公六韜曰。陷堅陳敗強敵。用大黃連弩。韋昭曰。角弩。色黃而體大也。○索隱曰。案大黃閒。弩名。韋昭說是也。

殺數人。胡虜益解。

歲不敢入右北平。廣出獵。見草中石。以爲虎而射之。中石沒鏃。

徐廣曰。一作沒羽。視之石也。因復更射之。終不能復入石矣。廣所居郡聞

于此有虎。嘗自射之。及居右北平。射虎。虎騰傷廣。廣亦竟射殺之。廣

陡廉得賞賜。輒分其麾下。飲食與士共之。終廣之身。爲二千石。四

十餘年。家無餘財。終不言家產事。廣爲人長。猿臂。如淳曰。臂如猿通肩。其善

射。亦天性也。雖其子孫他人學者。莫能及廣。廣訥口少言。與人

居。則畫地爲軍陳。射闊狹以飲。如淳曰。射戲求疏密。持酒以飲。不勝者。○正義曰。飲音於禁反。專以射

爲戲。竟死。索隱曰。謂終竟廣身。至死以爲恆也。廣之將兵。乏絕之處。見水。士卒不盡飲。

廣不近水。士卒不盡食。廣不嘗食。寬緩不苛。士以此愛樂爲用。

其射。總結見敵急。非在數十步之內。度不中。不發。發卽應弦而倒。用



廣暫驢而上胡兒馬、領師古曰、驢ハ跳躍ナリ。

潁陰侯孫注孫灌嬰之孫、札記云、注中上孫字疑フ衍ナリ、汪校按ニ改ム。

韓將軍後徙右北平、札記後字韓上ニアリ、云フ宋本後字ナシ、吳校宋本亦ナシ、按ズルニ漢書韓將軍後徙居右北平死ニ作ル。

而上<sup>リ</sup>胡兒馬<sup>ニ</sup>。因<sup>テ</sup>推<sup>シ</sup>墮<sup>ス</sup>兒<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。一云抱兒鞭馬南馳也。取<sup>リ</sup>其<sup>ノ</sup>弓<sup>ヲ</sup>。鞭<sup>レ</sup>馬<sup>ニ</sup>南馳<sup>スル</sup>數十里。

復得<sup>ニ</sup>其餘<sup>ノ</sup>軍<sup>ヲ</sup>。因<sup>リ</sup>引<sup>リ</sup>而<sup>テ</sup>入<sup>ル</sup>塞<sup>ニ</sup>。匈奴捕者騎數百追<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>。廣行<sup>リ</sup>取<sup>リ</sup>胡兒

弓<sup>ヲ</sup>射<sup>テ</sup>殺<sup>ス</sup>追騎<sup>ヲ</sup>。以<sup>テ</sup>故<sup>ヲ</sup>得<sup>テ</sup>脫<sup>スル</sup>。於<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>至<sup>ル</sup>漢<sup>ニ</sup>。漢下<sup>ス</sup>廣<sup>ヲ</sup>吏<sup>ニ</sup>。吏當<sup>シ</sup>廣所<sup>ニ</sup>失<sup>スル</sup>亡<sup>スル</sup>多<sup>ク</sup>。

爲<sup>ル</sup>虜所<sup>ニ</sup>生<sup>ス</sup>得<sup>ス</sup>當<sup>ス</sup>斬<sup>ス</sup>。贖<sup>ニ</sup>爲<sup>ル</sup>庶人<sup>ト</sup>。頃<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>。家居數歲。廣家與<sup>ニ</sup>故潁陰侯

孫<sup>ニ</sup>。孫灌嬰之孫。名強。屏野居。藍田南山中射獵。嘗夜從<sup>ヘ</sup>一騎<sup>ヲ</sup>出<sup>テ</sup>。從<sup>テ</sup>人田間<sup>ニ</sup>。

飲<sup>ス</sup>。還<sup>テ</sup>至<sup>ル</sup>霸陵亭<sup>ニ</sup>。霸陵尉醉<sup>ヒ</sup>。索隱曰。案百官志云。尉大縣二人。主盜賊。凡有賊發。則推索尋案之也。呵<sup>ニ</sup>止<sup>ス</sup>廣<sup>ヲ</sup>。廣

騎<sup>ヲ</sup>曰<sup>ク</sup>。故李將軍尉曰<sup>ク</sup>。今將軍尙<sup>ホ</sup>不得<sup>ス</sup>夜行<sup>スル</sup>。何<sup>ヲ</sup>乃<sup>チ</sup>故<sup>ヲ</sup>也<sup>。</sup>止<sup>テ</sup>廣宿<sup>ス</sup>亭

下<sup>ニ</sup>。居<sup>ル</sup>無<sup>ク</sup>何<sup>ク</sup>。匈奴入<sup>テ</sup>殺<sup>シ</sup>遼西太守<sup>ヲ</sup>。敗<sup>ル</sup>韓將軍<sup>ヲ</sup>。韓將軍後徙<sup>ル</sup>右北平<sup>ニ</sup>。

蘇林曰<sup>ク</sup>。於是<sup>ニ</sup>天子乃召<sup>シ</sup>拜<sup>シ</sup>廣<sup>ヲ</sup>爲<sup>ス</sup>右北平太守<sup>ト</sup>。廣卽<sup>チ</sup>請<sup>フ</sup>霸陵尉<sup>ヲ</sup>與<sup>ニ</sup>俱<sup>ニ</sup>。

韓安國<sup>曰</sup>。至<sup>ル</sup>軍<sup>ニ</sup>而斬<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。廣居<sup>ル</sup>右北平<sup>ニ</sup>。匈奴聞<sup>キ</sup>之<sup>ヲ</sup>。號<sup>シ</sup>曰<sup>ク</sup>。漢之飛將軍<sup>ト</sup>。避<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。數



苦程不識、顔師古曰、  
苦ハ之ヲ厭苦スルヲ謂  
フ。

絡而盛臥廣ハ、廣ヲ縛  
シテ兩馬ノ間ニ置キ、  
縛キ盛リテ臥サシメシ  
ナリ。

士吏治軍簿至明。軍不得休息。然亦未嘗遇害。不識曰。李廣軍  
極簡易。然虜卒犯之。無以禁也。而其士卒亦佚樂。咸樂爲之死。  
我軍雖煩擾。然虜亦不得犯我。是時漢邊郡李廣程不識皆爲  
名將。然匈奴畏李廣之略。士卒亦多樂從李廣。而苦程不識。程  
不識孝景時。以數直諫爲太中大夫。爲人廉謹。於文法。後漢以  
馬邑城誘單于。使大軍伏馬邑旁谷。而廣爲驍騎將軍。領屬護  
軍將軍。是時單于覺之。去。漢軍皆無功。其後四歲。廣以衛尉爲  
將軍。出雁門。擊匈奴。匈奴兵多。破敗廣軍。生得廣。單于素聞廣  
賢。令曰。得李廣。必生致之。胡騎得廣。廣時傷病。置廣兩馬間。絡  
而盛臥。廣行十餘里。廣佯死。睨其旁。有一胡兒騎善馬。廣暫騰

廣行無部伍行陣云云、  
顏師古曰、廣、簡易チ  
尙ア、故ニ行道ノ中ニ  
シテ、部曲ヲ立テザル  
ナリ、屯ハ止ナリ、舍  
ハ息ナリ、便ハ安利ナ  
リ。

莫府云云注索隱、札記  
小顏ヲ大顏ニ作ル、蓋  
兵門合施帷帳ヲ蓋兵行  
舍於帷帳ニ作ル、云フ  
故稱莫府ノ莫字、當ニ  
幕ニ作ルベシ。

遠斥候注、札記慎下ニ  
注字、南下ニ子字アリ。

馬臥。是時會暮。胡兵終怪之。不敢擊。夜半時。胡兵亦以爲漢有

伏軍於旁。欲夜取之。胡皆引兵而去。平旦。李廣乃歸其大軍。大

軍不知廣所之。故弗從。居久之。孝景崩。武帝立。左右以爲廣名

將也。於是廣以上郡太守爲未央衛尉。而程不識亦爲長樂衛

尉。程不識故與李廣俱以邊太守將軍屯。及出擊胡。而廣行無

部伍行陣。索隱曰。案百官志云。將軍領軍。皆有部曲。大將軍  
營五部。部校尉一人。部有曲。曲有軍候一人也。

就善水草屯。舍止。人人自便。索隱曰。音  
頻面反。

不擊刁斗以自衛。孟康曰。以銅作鐃器。受一斗。晝炊飯  
食。夜擊持行。名曰刁斗。○索隱曰。刁

音貂。案荀悅云。刁斗。小鈴。如宮中傳夜鈴也。蘇林曰。形如銅。以銅作之。無  
緣。受一斗。故云刁斗。銷。卽鈴也。埤蒼云。鐃。溫器。有柄。斗似。銚。無緣。音譙。

莫府省約文。然亦遠斥候。索隱曰。案許慎淮南云。  
故稱莫府。古字通用。遂作莫耳。小爾雅訓。莫爲大非也。

未嘗遇害。

索隱曰。案許慎淮南云。  
斥度也。候。視也。望也。

程不識正部曲行伍營陳。擊刁斗。

一名鷲。黑色多子。可以其毛作矢羽。韋昭云。雕一名鷲也。

廣乃遂從百騎往馳三人。三人亡馬步行。

行數十里。廣令其騎張左右翼。而廣身自射彼三人者。殺其二。

人生得一人。果匈奴射雕者也。已縛之上馬。望匈奴有數千騎。

見廣。以爲誘騎。皆驚上山。陳廣之百騎皆大恐。欲馳還走。廣曰。

吾去大軍數十里。今如此。以百騎走。匈奴追射我。立盡。今我畱。

匈奴必以我爲大將軍誘之。必不敢擊我。廣令諸騎曰。前。前未。

到。匈奴陳二里所止。令曰。皆下馬解鞍。其騎曰。虜多且近。卽有。

急奈何。廣曰。彼虜以我爲走。今皆解鞍以示不走。用堅其意。於。

是胡騎遂不敢擊。有白馬將出護其兵。正義曰。其將乘白馬而出。監護胡兵。

李廣上馬。與十餘騎犇射殺胡白馬將。而復還至其騎中解鞍。令士皆縱。

爲大將軍誘之、札記將字ナシ、云フ各本大下將字ヲ衍ス、宋本中統毛本ナシ、雜志云、當ニ漢書大軍之誘ニ作ルニ依ルベシ。



云爲騎郎將。謂主騎郎也。

吳楚軍時。廣爲驍騎都尉。從太尉亞夫擊吳楚軍。取

旗。顯功名昌邑下。以梁王授廣將軍印。還賞不行。文穎曰。廣爲漢將。私受梁印。故不得

賞。徙爲上谷太守。匈奴日以合戰。典屬國公孫昆邪。昆音魂。○索隱曰。案典屬

國。官名。公孫姓。昆邪。爲上泣曰。李廣才氣天下無雙。自負其能。數與

虜敵戰。恐亡之。於是乃徙爲上郡太守。後廣轉爲邊郡太守。徙

上郡。嘗爲隴西北地雁門代郡雲中太守。皆以力戰爲名。匈奴

大入上郡。天子使中貴人從廣。漢書音義曰。內官之幸貴者。○索隱曰。案董芭輿服志云。黃門丞主密近。使聽察天下。天

下謂之中貴人使者。崔浩云。在中而貴幸。非德望。故云。中貴也。勒習兵擊匈奴。中貴人將騎數十縱。徐廣曰。放

縱馳。見匈奴三人與戰。三人還射。傷中貴人。殺其騎。

且盡。中貴人走廣。廣曰。是必射雕者也。文穎曰。雕。鳥也。故使善射者射也。○索隱曰。案服虔云。雕。大鷲鳥也。

後廣轉ヨリ以力戰爲名  
此至ル、札記云、疑フ  
此文三十一字、當ニ後  
文不知廣之所之故不從  
ノ下ニ在ルベシ、而テ  
徙上郡三字ヲ衍ス、則  
漢書次序ト合ス。

將騎數十縱、漢書縱テ  
從ニ作ル、顏師古曰、  
數十騎ヲ將中、自ラ隨  
テ大軍前行ニ在リ、而  
テ忽敵ニ遇フヲ言フナ  
リ。

# 史記評林卷之一百九

## 李將軍列傳第四十九

李將軍廣者。隴西成紀人也。

正義曰。成紀。秦州縣。

其先曰李信。秦時爲將。逐

得燕太子丹者也。故槐里徙成紀。廣家世世受射。

索隱曰。案小顏云。世受射法。

孝

文帝十四年。匈奴大入蕭關。而廣以良家子從軍擊胡。

索隱曰。案如淳云。非

醫巫商賈百工也。

用善騎射。殺首虜多。爲漢中郎。廣從弟李蔡亦爲郎。皆

爲武騎常侍。

索隱曰。案謂爲郎而補武騎常侍。

秩八百石。嘗從行。有所衝陷折關。及

格猛獸。而文帝曰。惜乎。子不遇時。如令子當高帝時。萬戶侯豈

伏後數奇不封

足道哉。及孝景初立。廣爲隴西都尉。徙爲騎郎將。

張晏曰。爲武騎郎將。○索隱曰。小顏

衝陷折關、關入穿ナリ。

軍雖以不戰歸。而兵端自此大開。安國亦卒困兵閒死矣。志在富貴。不知不可則止。惜哉。

史記評林卷之一百八終



曰。幽州漁陽縣東南七十七里北平城。卽漢右北平也。

是時匈奴虜言當入東方。安國始爲御史

大夫及護軍。後稍斥疏下遷。而新幸壯將軍衛青等有功益貴。

安國旣疏遠默默也。將屯又爲匈奴所欺。失亡多。甚自愧。幸得

罷歸。乃益東徙屯。意忽忽不樂。數月病歿。血死。安國以元朔二

年中卒。

太史公曰。余與壺遂定律歷。觀韓長孺之義。壺遂之深中隱厚。

徐廣曰。一云。廉正忠厚。

世之言梁多長者。不虛哉。壺遂官至詹事。天子方倚

以爲漢相。會遂卒。不然。壺遂之內廉行修。斯鞠躬君子也。

索隱述贊曰。安國忠厚。初爲梁將。因事坐法。免徒起相。死灰更然。生虜失防。推賢見重。賄金貽謗。雪泣悟主。臣節可亮。

黃震曰。安國之仕梁也。言于漢雖爲梁飾。非言于梁亦能爲梁免禍。賂田蚡五百金。其進雖不以正。其辯王恢諫擊匈奴。切中事情。越明年王恢挑禍匈奴。安國默默爲之護

太史公曰云云、淺稚隆  
曰、此論モト長孺ノ相  
タルヲ得ザルヲ惜ム、  
卻テ長孺ノ舉アル所ニ  
シテ、而テ亦相タルヲ  
得ザルヲ以テ惜ムト爲  
ス、味アルカナ其之ヲ  
言フヤ。

注索隱云、董份曰、當世取舍ヲ知ル者ハ智ナリ、智者宜シク或ハ薄ニ失スベシ、而テ安國乃又忠厚ナリ、財ニ貪嗜スル、宜シク其舉ル所皆汙墨ナルベシ、而テ安國又廉士ヲ舉ケ、太史之ヲ稱スル所以ナリ、其文ヲ讀ム自ラ見ハル、索隱注謹ル。

事。奉引墮車蹇。

如淳曰。爲天子導引。而墮車蹇足。

天子議置相。欲用安國。使使視之。

蹇甚。乃更以平棘侯薛澤爲丞相。

安國病免。數月蹇愈。上復以

安國爲中尉。歲餘徙爲衛尉。

車騎將軍衛青擊匈奴。徐廣曰。元光六年也。

上谷破胡龍城。

龍音龍。

將軍李廣爲匈奴所得。復失之。公孫敖大

亡卒。皆當斬。贖爲庶人。明年匈奴大入邊。殺遼西太守。及入雁

門。所殺略數千人。車騎將軍衛青擊之。出雁門。衛尉安國爲材

官將軍。屯於漁陽。

正義曰。幽州縣。

安國捕生虜。言匈奴遠去。卽上書言

方田作時。請且罷軍屯。罷軍屯。月餘。匈奴大入上谷漁陽。安國

壁乃有七百餘人。出與戰。不勝。復入壁。匈奴虜略千餘人及畜

產而去。天子聞之。怒。使使責讓安國。徙安國益東屯右北平。

正義

說文亦同シ、善祗祇古  
通用ナリ、古書是ト氏  
ト同ジ。

擊其輜重猶頗可得、顏  
師古曰、或ハ當ニ其輜  
重人衆ヲ得ベキナリ、  
故ニ之ヲ慰安スルナ  
リ。  
安國爲人多大略、方苞  
曰、多大略三字、安國  
平生ヲ括盡ス、管子韓  
非ノ文、樞紐ヲ中間ニ  
置キ、以テ前後ヲ要綰  
スル者アリ、後來惟太  
史公、韓退之、能ク此  
ヲ爲ス。  
智足以當世取舍云云、  
顏師古曰、舍ハ止ナリ、  
取舍ハ取ルベキハ則取  
リ、止ムベキハ則止ム  
ルヲ言フ、札記云、宋本  
舊刻舍ヲ合ニ作ル、各  
本合ニ作ル、漢書同ジ。

逗撓。當斬。

漢書番義曰。逗。曲行避敵也。撓。顧望。軍法語也。○索隱曰。案如淳云。軍法。行而逗。留畏撓者要斬。逗音豆。又音住。逗。留也。撓。屈弱也。

恢私行

千金丞相蚡。蚡不敢言上。而言於太后曰。王恢首造馬邑事。今

不成而誅恢。是爲匈奴報仇也。上朝太后。太后以丞相言告上。

上曰。首爲馬邑事者恢也。故發天下兵數十萬。從其言爲此。且

縱單于不可得。恢所部擊其輜重。猶頗可得。以慰士大夫心。今

不誅恢。無以謝天下。於是恢聞之。乃自殺。安國爲人多大略。智

足以當世取舍。而出於忠厚焉。

索隱曰。案出者。去也。言安國爲人無忠厚之行。

貪嗜於財。所

推舉皆廉士。賢於已者也。於梁舉壺遂。臧固。郅他。皆天下名士。

索隱曰。郅音質。他徒河反。謂三人姓名也。壺遂也。臧固也。郅他也。若漢書則云至他。言至於他處亦舉名士也。士亦以此稱慕之。唯天子

以爲國器。安國爲御史大夫。四歲餘。丞相田蚡死。安國行丞相



於是單于入漢長城武州塞。未至馬邑百餘里。行掠鹵。徒見畜  
牧於野。不見一人。單于怪之。攻烽燧。得武州尉史。欲刺問尉史。  
尉史曰。漢兵數十萬伏馬邑下。單于顧謂左右曰。幾爲漢所賣。  
正義曰。乃引兵還出塞。曰。吾得尉史。乃天也。命尉史爲天王。塞下  
幾音祈。

傳言單于已引去。漢兵追至塞。度弗及。卽罷。王恢等兵三萬聞  
單于不與漢合。度往擊輜重。必與單于精兵戰。漢兵勢必敗。則  
以便宜罷兵。皆無功。天子怒。王恢不出擊。單于輜重擅引兵罷  
也。恢曰。始約虜入馬邑城。兵與單于接。而臣擊其輜重。可得利。  
今單于聞不至而還。臣以三萬人衆不敵。提取辱耳。徐廣曰。提  
一作祇也。臣  
固知還而斬。然得完陛下士三萬人。於是下恢。廷尉當恢。

提取辱耳。札記。提。作  
祇。注同。各本。提。作  
祇。錢大昕曰。漢書亦祇  
作祇。易坎不。祇。祇。  
既平。京房本。祇。作祇。

邊。可<sub>ニ</sub>誘<sub>スルニ</sub>以利<sub>ヲ</sub>。陰使<sub>ニ</sub>聶翁壹<sub>ヲ</sub>爲<sub>ニ</sub>閒<sub>ヲ</sub>。亡<sub>ニ</sub>入<sub>ニ</sub>匈奴<sub>ニ</sub>。謂<sub>ニ</sub>單于<sub>ヲ</sub>曰。吾能斬<sub>ニ</sub>馬

邑令丞吏<sub>ヲ</sub>。以<sub>ニ</sub>城降<sub>ラン</sub>。財物可<sub>ニ</sub>盡得<sub>ニ</sub>。單于愛<sub>ニ</sub>信<sub>ヲ</sub>之<sub>ヲ</sub>。以爲<sub>ニ</sub>然<sub>ニ</sub>。許<sub>ニ</sub>聶翁壹<sub>ニ</sub>。

聶翁壹乃還<sub>リ</sub>。詐<sub>ニ</sub>斬<sub>リ</sub>死罪<sub>ヲ</sub>囚<sub>ニ</sub>。縣<sub>ニ</sub>其頭<sub>ヲ</sub>馬邑城<sub>ニ</sub>。示<sub>ニ</sub>單于<sub>ヲ</sub>使者<sub>ニ</sub>爲<sub>ニ</sub>信<sub>ヲ</sub>。曰

馬邑長吏已死<sub>ニ</sub>。可<sub>ニ</sub>急來<sub>ニ</sub>。於是單于穿<sub>ニ</sub>塞<sub>ヲ</sub>。將<sub>ニ</sub>十餘萬騎<sub>ヲ</sub>入<sub>ニ</sub>武州塞<sub>ニ</sub>。

徐廣曰。在雁門。○索隱曰。崔浩云。今平城直西百里有武州城是也。當<sub>ニ</sub>是時<sub>ニ</sub>。漢伏兵車騎材官三十餘萬<sub>ヲ</sub>。匿<sub>ニ</sub>

馬邑旁谷中<sub>ニ</sub>。衛尉李廣爲<sub>ニ</sub>驍騎將軍<sub>ト</sub>。漢書曰。北貉燕人來致驍騎。應劭曰。驍。健也。張晏曰。驍。勇也。若六博之梟

矣。太僕公孫賀爲<sub>ニ</sub>輕車將軍<sub>ト</sub>。正義曰。司馬彪續漢書云。輕車。古之戰車。大行王恢爲<sub>ニ</sub>將屯

將軍<sub>ト</sub>。正義曰。李奇云。監主諸屯。太中大夫李息爲<sub>ニ</sub>材官將軍<sub>ト</sub>。正義曰。臣瓚云。材官。騎射之官。御史

大夫韓安國爲<sub>ニ</sub>護軍將軍<sub>ト</sub>。諸將皆屬<sub>ニ</sub>護軍<sub>ニ</sub>。約<sub>ニ</sub>單于<sub>ヲ</sub>入<sub>ニ</sub>馬邑<sub>ニ</sub>。而漢

兵縱發<sub>ニ</sub>。王恢李息李廣別從<sub>ニ</sub>代主擊<sub>ニ</sub>其輜重<sub>ヲ</sub>。正義曰。釋名云。輜。厠也。所載衣服雜厠其中。

アリ、按二漢書亦兵字アリ。

衝風之末力、顔師古曰、衝風ハ、疾風ノ衝突ヘル者ナリ。

罷。建元六年。武安侯爲丞相。安國爲御史大夫。匈奴來請和親。天子下議。大行王恢燕人也。數爲邊吏。習知胡事。議曰。漢與匈奴和親。率不過數歲。卽復倍約。不如勿許。興兵擊之。安國曰。千里而戰。兵不獲利。今匈奴負戎馬之足。懷禽獸之心。遷徙鳥舉。難得而制也。得其地。不足以爲廣。有其衆。不足以爲彊。自上古不屬爲人。索隱曰。案晉灼云。不內屬於漢爲人。漢數千里爭利。則人馬罷虜。以全制其敝。且彊弩之極矢。不能穿魯縞。許慎曰。魯之縞尤薄。衝風之末力。不能漂鴻毛。非初不勁。末力衰也。擊之不便。不如和親。羣臣議者多附安國。於是上許和親。其明年。則元光元年。雁門馬邑豪聶翁壹。張晏曰。豪。猶帥也。○索隱曰。聶姓也。翁壹。名也。漢書云。聶壹。因大行王恢言上曰。匈奴初和親。親信



語曰雖有親父云云、顏師古曰、其恩愛ノ必保スベカラザルヲ言フナリ。  
悦一邪臣浮説注僞、札記誅ニ作ル、云フ僞ニ誤ル、考證漢書及ビ説文ニ據テ改ム、下同ジ。

將未至越、札記云、宋本中統游本未上ニ兵字

何者。治天下終不以私亂公。語曰。雖有親父。安知其不爲虎。雖

有親兄。安知其不爲狼。今大王列在諸侯。悅一邪臣浮説。索隱曰。悅

漢書作怵。説文云。怵。誘也。犯上禁。撓明法。天子以太后故。不忍致法於王。太后

日夜涕泣。幸大王自改。而大王終不覺寤。有如太后宮車。卽晏

駕。大王尙誰攀乎。語未卒。孝王泣數行下。謝安國曰。吾今出詭

勝。詭勝自殺。漢使還報。梁事皆得釋。安國之力也。於是景帝太

后益重安國。孝王卒。共王卽位。安國坐法。失官居家。建元中。武

安侯田蚡爲漢太尉。親貴用事。安國以五百金物遺蚡。蚡言安

國太后。天子亦素聞其賢。卽召以爲北地都尉。遷爲大司農。閩

越東越相攻。安國及大行王恢將未至越。越殺其王降。漢兵亦

孫詭羊勝說孝王求爲帝太子及益地事。恐漢大臣不聽。乃陰使人刺漢用事謀臣及殺故吳相袁盎。景帝遂聞勝詭等計畫。乃遣使捕詭勝。必得。漢使十輩至梁。相以下舉國大索。月餘不得。內史安國聞詭勝匿孝王所。安國入見王而泣曰。主辱臣死。索隱曰。此語見國語。

大王無良臣。故事紛紛至此。今詭勝不得請辭賜死。王曰。何至此。安國泣數行下。曰。大王自度於皇帝孰與太上皇之與高皇帝。及皇帝之與臨江王親。孝王曰。弗如也。安國曰。夫太上臨江親父子之間。然而高帝曰。提三尺劍取天下者。朕也。故太上皇終不得制事。居于櫟陽。臨江王適長太子也。以一言過廢王臨江。

如淳曰。景帝嘗屬諸姬子。太子母栗姬言不遜。由是廢太子。栗姬憂死。

用宮垣事。卒自殺中尉府。

蒙獄吏田甲、楊慎曰、田甲ノ甲ハ、猶某甲ノ如シ、其名チ亡ビ、言フニ足ラザルノミ。然即溺之、顏師古曰、溺讀テ尿ト曰フ。

公等與治乎注繩持、札記云、持ハ當ニ治ニ作ルベシ、按ニ漢書注繩治ニ作ル。

爲。何梁王之爲子孝。爲臣忠。而太后弗恤也。大長公主具以告太后。太后喜曰。爲言之帝。言之帝心乃解。而免冠謝太后曰。兄弟不能相教。乃爲太后遺憂。悉見梁使厚賜之。其後梁王益親驩。太后長公主更賜安國可直千餘金。名由此顯。結於漢。其後安國坐法抵罪。蒙獄吏田甲辱安國。曰。死灰獨不復然乎。田甲曰。然即溺之。居無何。梁內史缺。漢使使者拜安國爲梁內史。起徒中爲二千石。田甲亡走。安國曰。甲不就官。我滅而宗。甲因肉袒謝安國笑曰。可溺矣。公等足與治乎。索隱曰。案謂不足與。卒善遇之。梁內史之缺也。孝王新得齊人公孫詭說之。欲請以爲內史。竇太后聞。乃詔王以安國爲內史。公

蒙。縣名。○索隱曰。抵音丁。禮反。蒙。縣名。屬梁國也。

反應然即溺之

索隱曰。案謂不足與。繩持之。治音持也。



石以下ノ吏ハ、皆自ラ置クヲ得、惟二千石ハ、則天子自ラ之ヲ命ズ。案責王所爲、凌雅陰曰、案責ト言フ、蓋使者ヲシテ王ノ過ヲ籍記セシムルナリ。大長公主注正義帝妹也、札記云、考證漢書注姊ニ作ル、按ズルニ徐廣亦姊ト云フ。

出稱蹕入言警、顔師古曰、蹕ハ行人ヲ止ムルナリ、蹕ハ戒肅セシムルナリ、天子出入ニ、皆此儀ヲ備フ、而テ今出稱蹕入言警ト云フ者、互ニ之ヲ舉グルノミ。徐廣縣注俗音力亞反、札記力ヲ丑ニ作ル。

怒梁使者弗見案責王所爲韓安國爲梁使見大長公主徐廣曰景

帝姊○索隱曰案即館陶公主而泣曰何梁王爲人子之孝爲人臣之忠

○正義曰如淳云景帝妹也而太后曾弗省也索隱曰省音仙井反省者察也夫前日吳楚齊趙七國反時自關

以東皆合從西鄉惟梁最親爲艱難梁王念太后帝在中正義曰謂

關中也又云京師在天下之中而諸侯擾亂一言泣數行下跪送臣等六人將兵擊

卻吳楚吳楚以故兵不敢西而卒破亡梁王之力也今太后以

小節苛禮責望梁王應前案責王所爲索隱曰案謂苛細小禮以責之梁王父兄皆帝王所見者大

故出稱蹕入言警車旗皆帝所賜也即欲以侘鄙縣徐廣曰侘一作紆也駟案

侘音力亞反誇也○索隱曰漢書作嫗音火亞反紆音寒孟反驅馳國中以夸諸侯令天下盡知太后

帝愛之也今梁使來輒案責之梁王恐日夜涕泣思慕不知所

二〇四

# 史記評林卷之一百八

## 韓長孺列傳第四十八

御史大夫韓安國者。梁城安人也。

徐廣曰。在汝潁之間也。○索隱曰。漢書地理志云。縣名。屬陳留。○正義曰。括地志云。

成安故城。在汝州梁縣東二十三里。括地志云。成安屬潁川郡。陳留郡又有成安縣。亦屬梁。未知孰是也。

後徙睢陽。

正義曰。今宋州宋城。

嘗受韓

子雜家說於騶田生所。

索隱曰。案謂安國學韓子及雜家說於騶縣田生之所。

事梁孝王爲中大

夫。吳楚反時。孝王使安國及張羽爲將。扞吳兵於東界。

索隱曰。將音驚。扞音

汗。張羽力戰。安國持重。以故吳不能過梁。吳楚已破。安國張羽

名由此顯。梁孝王景帝母弟。竇太后愛之。令得自請置相二千

石。出入游戲僭於天子。天子聞之。心弗善也。太后知帝不善。乃

御史大夫韓安國者。錢大昕曰。安國御史大夫。以テ病免シ。復起テ他官ト爲リ。以テ卒ス。篤首仍御史大夫ト書スル者。亦變例ナリ。梁城安人也。注正義括地志云。錢大昕曰。按ズルニ。城安ノ城當ニ成ニ作ルベシ。漢志ニ陳留潁川二郡皆成安縣アリ。而テ陳留ハ梁ノ故地ト爲シ。潁川ハ韓ノ故地ト爲ス。故ニ史ニ梁成安ト稱スレバ。則陳留ノ成安タル疑ヒナシ。注下ノ括地志。札記地理志ニ作ル。云フ括地志ニ誤ル。考證漢書ニ據テ改ム。得自請置相二千石。錢大昕曰。漢初。王國二千

及ビ後銳身濫夫ヲ救フ  
ハ、則沾沾自喜多易ヲ  
以テ之ヲ蔽ス、章法蔽  
渴、覽者ナシテ心恰モ  
目眩シテ其然ル所以ヲ  
知ラザラシム。

史記評林卷之一百七終



夫無術而不遜。兩人相翼。乃成禍亂。武安負貴而好權。杯酒責望。陷彼兩賢。嗚呼哀哉。遷怒及人。命亦不延。衆庶不載。竟被惡言。嗚呼哀哉。禍所從來矣。

索隱述贊曰。竇嬰田蚡。勢利相雄。咸倚外戚。或恃軍功。灌夫自喜。引重其中。意氣杯酒。睥睨兩宮。事竟不直。冤哉二公。

凌約言曰。按嬰爲將。賜金不入門。蚡爲相。驕橫占田宅。嬰以景帝欲傳梁王。犯顏力爭。蚡迎淮南王。灑上私納交。以成其惡。嬰雖他未見過人者。其賢于蚡則萬萬矣。乃不幸交使酒之灌夫。以觸負勢之田蚡。卒淪胥以滅。雖死不悔。悲哉。使嬰失勢之後。早得賢士大夫交。知所謂知幾遠害者。豈致若此。

魏其方二盛。而テ之ニ卑事スルヲ著シ、其益實事ヲ用ヒ、而テ賓客ニ下リ、名士ヲ進ムルヤ、以テ魏其諸將相ヲ傾ケント欲ス、其魏其ニ讓リ、丞相ト爲スヤ、天下士ノ素之ニ歸スルヲ以テ、用テ以テ賢ニ讓ルノ名ヲ釣ル、其儒術ヲ好ミ、禮度ヲ興スヤ、魏其ト俱ニス、其益橫益驕ルヤ、事ヲ言ヒ效多キヲ以テ、天下吏士皆魏其ヲ去テ之ニ歸ス、吏士魏其ヲ去テ武安ニ歸スルハ、則魏其灌夫ト相歡ビ相倚ルノ由ナリ、武安益橫益驕ルハ、則魏其ヲ怒ラセ、灌夫ヲ激スルノ由ナリ、中間魏其夫婦具ヲ治メ且ヨリ日中ニ及ブハ、武安往來酒ニ侍シ、跪起子姪ノ如シト相對ス、灌夫尤モ諸士ノ貧賤者ヲ敬スルハ、武安ノ諸侯王ヲ折訕シ、其兄ヲ坐セシメ南郷スルト相對ス、好テ貴戚勢己ノ右ニ在ル者ヲ凌グハ、後酒ヲ爭ヒ坐ヲ屬ルノ張本ト爲シ、而テ魏其初メ名譽ヲ致シ、

衣襜褕注、爾雅云今蔽前、札記今チ衣ニ作ル、考云フ衣ヲ今ニ誤ル、考證爾雅ニ據テ改ム。

太史公曰云云、方苞曰、魏其灌夫生平ノ事迹、並ニ前ニ正絃ス、故ニ武安ノ事迹、皆魏其ト夾絃ス、ソノ初起ルヤ、

薨。嬰死在蚡薨之前。何復云五年十二月邪。疑十二月當爲二月也。案侯表蚡事武帝九年而卒。元光四年。侯恬之元年。建元元年。訖元光三年而九年。大臣表蚡以元光四年卒。亦云嬰四年棄市。未詳此正安在。

元朔三年。武安侯坐衣襜褕。

正義曰。爾雅云。今蔽前謂之襜。郭璞云。蔽膝也。

然蚡薨在嬰死後分明。

說文字林並謂之短衣。

入宮不敬。

徐廣曰。表云。坐衣不敬。國除。○索隱曰。襜尺占反。褕音踰。謂非正朝衣。若婦人服也。

淮南王安謀

反。覺治。王前朝。

徐廣曰。建元二年。

武安侯爲太尉。時迎王至霸上。謂王曰。

上未有太子。大王最賢。高祖孫。卽宮車晏駕。非大王立當誰哉。

淮南王大喜。厚遺金財物。上自魏其時。不直武安。特爲太后故

耳。

索隱曰。案武帝以魏其灌夫事爲枉。於武安侯爲不直。特爲太后故耳。

及聞淮南王金事。上曰。使武安侯

在者族矣。

太史公曰。魏其武安皆以外戚重。灌夫用一時。決筴而名顯。魏

其之舉。以吳楚。武安之貴。在日月之際。然魏其誠不知時變。灌

魏其家丞封。

漢書音義曰。以家丞印封遺詔。

乃劾魏其。矯先帝詔。罪當棄市。五

年十月。

徐廣曰。疑非五年。亦非十月。○索隱曰。徐氏云。疑非者。案武帝四年三月蚡薨。竇嬰死在前。今云五年。故疑非也。○正義曰。漢書云。元光四年冬。魏其侯嬰有罪。棄

市。春三月乙卯。丞相

蚡薨。按五年者誤也。

悉論

灌夫及家屬。魏其良久乃聞。聞即恚。病瘵。

索隱曰。非音肥。又音扶味反。風病也。

不食欲死。或聞上無意殺魏其。魏其復食。治病。議

定不死矣。乃有蜚語。爲惡言聞上。

張晏曰。蚡僞作飛揚誹謗之語。

故以十二月晦。

徐廣曰。疑非十二月也。關案張晏曰。月晦者。春垂至也。○索隱曰。著日月者。見春垂至。恐遇赦贖也。

論棄市渭城。

正義曰。故咸陽也。

其春。武

安病侯。

正義曰。其春。即四年春也。元光四年十月灌夫棄市。十二月末魏其棄市。至三月乙卯。田蚡薨。則三人死同在一年明矣。漢以十月爲歲首。故也。秦楚之際者。云十

月十二月端月。二月三月至九爲終。周建子爲正月。十一月爲正月。十二月爲二月。正月爲三月。二月爲四月。至十月爲歲終。漢初至武帝太初以前。並依秦法。以後改用夏正月。至今不

改。然夫子作春秋。依夏正。

專呼服謝罪。

漢書音義曰。言蚡號呼謝服罪也。

使巫視鬼者視之。見魏其

灌夫共守。欲殺之。竟死。子恬嗣。

徐廣曰。蚡疾見魏其灌夫鬼殺之。則其春共在一春內。邪。武帝本紀。四年三月乙卯。田蚡

乃有蜚語。臣瓚曰。根ナクシテ至ルナリ。

武安侯病注正義。秦楚之際者云。札記者。表ニ作ル。云フ此下當ニ十月二字ヲ脫スベシ。

子恬嗣注。則其春。札記云。春ハ當ニ死ニ作ルベシ。



可喜之事。夫魏其毀君。君當免冠解印綬歸。曰臣以肺腑幸得待音許既反。

罪固非其任。魏其言皆是如此。上必多君有讓。不廢君。魏其必

內愧。杜門齎舌自殺。索隱曰。案說文云。齎。齎也。士白反。今人毀君。君亦毀人。譬如賈

豎女子爭言。何其無大體也。武安謝罪曰。爭時急。不知出此。於

是上使御史簿責魏其所言。灌夫頗不讎。正義曰。讎。音市周反。對也。言簿責魏其所言。灌夫實潁川

事。故魏其不對。

欺謾劾繫都司空。

索隱曰。案百官表云。宗正屬官。主詔獄也。○正義曰。如淳云。律。司空主水及罪人。

孝

景時。魏其常受遺詔。曰事有不便。以便宜論上。及繫灌夫罪至

族。事日急。諸公莫敢復明言於上。魏其乃使昆弟子上書言之。

幸得復召見。書奏上。而案尚書大行無遺詔。

如淳曰。大行。主諸侯官也。○索隱曰。案尚書無此景

帝崩時。大行遺詔。乃魏其家臣印封之。如淳說非也。○正義曰。天子崩曰大行也。按尚書之中。景帝崩時無遺詔。賜魏其也。百官表云。諸受尚書事也。

詔書獨藏。

使御史簿責、顏師古曰、簿責ハ、文簿ヲ以テ一ニ之ヲ責ムルナリ。

局趣效轅下駒、方苞曰、轅下ノ駒ハ進メバ扼ニ局セラレ、退ケバ絆ニ束セラレ、故ニ局趣ト曰フナリ。  
注正義駒馬駕著轅、札記云、漢書注駒者駕著轅下ニ作ル、疑フ各誤アラシ。

皆魚肉之矣、顏師古曰、以テ魚肉ニ比シ、而テ食噉スルナリ。

今日廷論局趣效轅下駒。張晏曰。俛頭於車轅下。隨母而已。瓚曰。小馬在轅下。○正義曰。應劭云。駒馬駕著轅局趣。纖小之貌。按應

說爲長也。吾并斬若屬矣。即罷起。入上食太后。太后亦已使人候伺。

具以告太后。太后怒不食。曰。今我在也。而人皆藉吾弟。索隱曰。案晉灼云。藉

蹈也。以言令。我百歲後。皆魚肉之矣。且帝寧能爲石人邪。索隱曰。謂帝不如石

人得長存也。○正義曰。顏師古云。言徒有人形耳。此特帝在。即錄錄設百歲後。

不知好惡。按俗云。人不辨事。罵云。杌杌若木人也。是屬寧有可信者乎。索隱曰。案設者。脫也。上謝曰。俱宗室外家。正義曰。嬰。景帝從舅。蚡。太后同母弟。

故廷辯之。不然。此一獄吏所決耳。是時郎中令石建爲上分別

言兩人事。武安已罷朝出。止車門。召韓御史大夫載怒曰。與長

孺共一老秃翁。何爲首鼠兩端。漢書音義曰。秃老翁。言嬰無官位板綬也。首鼠。一前一卻也。○索隱曰。案謂共治一老秃翁。指

寶嬰也。韓御史良久謂丞相曰。君何不自喜。蘇林曰。何不自解釋爲喜樂邪。○索隱曰。案小顏云。何不自謙遜爲

辟倪兩宮閒、顔師古曰  
辟倪ハ、傍視ナリ。

天而俯畫地。

張晏曰。視天。占三光也。畫地。知分野所在也。畫地。諡欲作反事。

辟倪兩宮閒。

徐廣曰。辟音芳。細反。倪音詣。張晏曰。

占太后與帝吉凶之期。○索隱曰。辟。普係反。倪。五係反。埤蒼云。睥睨。邪視也。

幸天下有變而欲有大功。

張晏曰。幸。爲反者。當得爲。

大將立功也。瓚曰。天下有變。謂天子崩。因變難之際。得立大功。

臣乃不知魏其等所爲。於是上問朝臣。

兩人孰是。御史大夫韓安國曰。魏其言灌夫父死事。身荷戟。馳

入不測之吳軍。身被數十創。名冠三軍。此天下壯士。非有大惡。

爭杯酒。不足引他過。以誅也。魏其言是也。丞相亦言灌夫通姦。

猾。侵細民。家累巨萬。橫恣潁川。凌轢宗室。侵犯骨肉。此所謂枝

大於本。脰大於股。不折必披。

○索隱曰。案包愷。披音足。彼反。○正義曰。鋪被反。披。分折也。

丞相言亦是。

唯明主裁之。主爵都尉汲黯是魏其。內史鄭當時是魏其。後不

敢堅對。餘皆莫敢對。上怒。內史曰。公平生數言魏其武安長短。



ハ、其實地ヲ爲スノミ、  
財物ニ非ザルナリ、爲  
讀テ本字ノ如シ、

出資費。使武安吏皆爲耳目。諸灌氏皆亡匿。夫繫遂不得告言武

安陰事。魏其銳身爲救灌夫。夫人諫魏其曰。灌將軍得罪丞相。

與太后家忤。寧可救邪。魏其侯曰。侯自我得之。自我捐之。無所

恨。且終不令灌仲孺獨死。嬰獨生。乃匿其家。晉灼曰。恐其夫  
人復諫止也。竊出

上書立召入。具言灌夫醉飽事不足誅。上然之。賜魏其食。曰東

朝廷辯之。如淳曰。東  
朝。太后朝。魏其之東朝盛推灌夫之善。言其醉飽得過

乃丞相以他事誣罪之。武安又盛毀灌夫。所爲橫恣。罪逆不道。

魏其度不可奈何。因言丞相短。武安曰。天下幸而安樂無事。蚡

得爲肺腑。所好音樂狗馬田宅。蚡所愛倡優巧匠之屬。不如魏

其灌夫日夜招聚天下豪桀壯士與論議。腹腴而心謗。不仰視

不仰視天。漢書不字ナ  
シ、注亦下ノ畫地二字  
ナシ。

咕囁耳語注囁音汝輒反札記汝女二作ル云フ單本汝二譌ス又此下二說文附耳小語也ノ七字アリ

程李俱東西宮衛尉注漢書音義云云錢大昕曰不識長樂衛尉爲ル所未央ノ東二在リ故二東朝ト云フ是程ハ東宮李ハ西宮ナリ釋里子渭南章臺ノ東二在リ未央宮其西二在リ此東西宮ノ證ナリ坐乃起更衣顏師古曰坐ハ坐上ノ人ナリ謂フ更ハ改ナリ凡久坐スル者皆起テ衣ヲ更フ其寒暖或ハ變ズルヲ以テナリ

爲資使賓客請顏師古曰如說非ナリ爲資

生平毀程不識不直一錢今日長者爲壽乃效女兒咕囁耳語

韋昭曰咕囁附○小語聲○索隱曰女兒猶云兒女也漢書作女曹兒曹輩也猶言兒女輩咕囁氏音蚩輒反囁音汝輒反武安謂灌夫曰程李

俱東西宮衛尉漢書音義曰李廣爲東宮程不識爲西宮今衆辱程將軍仲孺獨不爲李

將軍地乎如淳曰李將軍李廣也猶今人言爲除地也○索隱曰案小顏云言今既毀程令李何地自安處也灌夫曰今日斬頭

陷胷索隱曰韋昭云言不避死亡也漢書作穴凶何知程李乎坐乃起更衣稍稍去魏其

侯去麾灌夫出武安遂怒曰此吾驕灌夫罪乃令騎畱灌夫灌

夫欲出不得籍福起爲謝案灌夫項令謝夫愈怒不肯謝武安

乃麾騎縛夫置傳舍召長史曰今日召宗室有詔劾灌夫罵坐

不敬繫居室如淳曰百官表云居室爲保宮今守宮也遂按其前事遣吏分曹逐捕諸灌

氏支屬皆得棄市罪魏其侯大媿爲資使賓客請莫能解如淳曰爲



賓客居閒遂止俱解、顏師古曰、兩家ノ賓客、中閒ニ處リテ之ヲ和解ス。

因嘻笑曰云云、顏師古曰、嘻ハ強笑ナリ、將軍貴人ナリト雖モ、請フ此觴ヲ盡セト言フナリ、凌稚隆曰、屬之ハ、之ヲ強フルナリ。

川<sup>ニ</sup>橫<sup>ナル</sup>甚<sup>シ</sup>。民苦<sup>ム</sup>之<sup>ヲ</sup>。請<sup>フ</sup>案<sup>セン</sup>。上曰。此丞相事。何請<sup>ハシ</sup>。灌夫亦持<sup>ス</sup>丞相陰事。

爲<sup>ニ</sup>姦利<sup>ヲ</sup>。受<sup>ケ</sup>淮南王金<sup>ヲ</sup>。與<sup>ニ</sup>語言<sup>スル</sup>賓客居閒。遂止俱解。夏丞相取<sup>テ</sup>燕

王女<sup>ヲ</sup>爲<sup>ス</sup>夫人<sup>ト</sup>。索隱曰。案蚡娶燕王劉澤子康王嘉之女也。有<sup>ニ</sup>太后詔<sup>シテ</sup>召<sup>ニ</sup>列侯宗室<sup>ヲ</sup>皆往賀<sup>ス</sup>。

魏其侯過<sup>リテ</sup>灌夫<sup>ニ</sup>欲<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>俱<sup>ニ</sup>夫謝曰。夫數<sup>ニ</sup>以<sup>ニ</sup>酒失<sup>テ</sup>得<sup>テ</sup>過<sup>ニ</sup>丞相<sup>ニ</sup>。丞相今

者又與<sup>レ</sup>夫有<sup>レ</sup>郅<sup>ニ</sup>。魏其曰。事已解<sup>スト</sup>。彊與<sup>ニ</sup>俱<sup>ニ</sup>飲<sup>ニ</sup>酒<sup>ニ</sup>。酣<sup>ニ</sup>武安起<sup>テ</sup>爲<sup>ス</sup>壽<sup>ヲ</sup>。如淳

曰上酒爲稱<sup>ニ</sup>。坐皆避<sup>テ</sup>席<sup>ヲ</sup>伏<sup>ス</sup>。已<sup>ニ</sup>魏其侯爲<sup>ス</sup>壽<sup>ヲ</sup>。獨<sup>ニ</sup>故人避<sup>テ</sup>席<sup>ヲ</sup>耳。餘半膝<sup>ハ</sup>。應前驕

壽<sup>ニ</sup>非<sup>ニ</sup>大行酒<sup>ト</sup>。坐皆避<sup>テ</sup>席<sup>ヲ</sup>伏<sup>ス</sup>。已<sup>ニ</sup>魏其侯爲<sup>ス</sup>壽<sup>ヲ</sup>。獨<sup>ニ</sup>故人避<sup>テ</sup>席<sup>ヲ</sup>耳。餘半膝<sup>ハ</sup>。應前驕

席<sup>ニ</sup>。蘇林曰。下席而膝半在席上。如淳曰。以膝跪席上也。灌夫不悅<sup>ズ</sup>。起行<sup>テ</sup>酒至<sup>ニ</sup>武安<sup>ニ</sup>。武安膝<sup>シテ</sup>席<sup>ニ</sup>曰。不

能<sup>レ</sup>滿觴<sup>ニ</sup>。夫怒<sup>リ</sup>。因嘻笑<sup>シテ</sup>曰。將軍貴人也。屬<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。屬一作畢。○索隱曰。案漢書作畢。畢盡也。時

武安不肯<sup>ゼ</sup>行<sup>テ</sup>酒<sup>ヲ</sup>次至<sup>ニ</sup>臨汝侯<sup>ニ</sup>。徐廣曰。灌嬰孫名賢也。耳索隱曰。案漢書云。臨汝侯灌賢。則賢是嬰之孫。臨汝是改封也。臨

汝侯方與<sup>ニ</sup>程不識<sup>ス</sup>耳語<sup>ス</sup>。又不避<sup>テ</sup>席<sup>ヲ</sup>。夫無<sup>レ</sup>所發怒<sup>ヲ</sup>。乃罵<sup>テ</sup>臨汝侯<sup>ヲ</sup>曰。



武安郭謝、郡ハ僇ナリ。

乃謾自好、顔師古曰、謾ハ猶詭ノ如キナリ、詐リ好言ヲ爲スナリ。

過<sup>ル</sup>魏其<sup>ニ</sup>。魏其夫妻治具。自旦至今<sup>ニ</sup>。未敢嘗<sup>テ</sup>食<sup>ス</sup>。武安鄂<sup>キ</sup>。徐廣曰。一作悟。謝<sup>シテ</sup>

曰。吾昨日醉。忽忘<sup>ル</sup>與仲孺言<sup>フ</sup>。乃駕往<sup>ス</sup>。又徐行<sup>ス</sup>。灌夫愈益怒<sup>ル</sup>。及<sup>ニ</sup>飲<sup>テ</sup>

酒<sup>ヲ</sup>酣<sup>ナルニ</sup>。夫起舞屬<sup>ス</sup>丞相<sup>ニ</sup>。索隱曰。屬音之欲反。屬猶委也。付也。小顔云。若今人舞訖相勸也。丞相不起<sup>ダ</sup>。夫從<sup>リ</sup>坐<sup>ス</sup>

上<sup>ニ</sup>語<sup>テ</sup>侵<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。魏其乃扶<sup>テ</sup>灌夫去<sup>リ</sup>。謝丞相<sup>ニ</sup>。丞相卒<sup>ニ</sup>飲<sup>テ</sup>至<sup>リ</sup>夜<sup>ニ</sup>。極驩<sup>テ</sup>而去<sup>ル</sup>。

丞相嘗使<sup>テ</sup>籍福請<sup>フ</sup>魏其城南田<sup>ヲ</sup>。魏其大望<sup>ニ</sup>曰。老僕雖棄<sup>フルト</sup>將軍雖

貴<sup>シト</sup>寧<sup>ロ</sup>可以勢奪<sup>フ</sup>乎。不許<sup>ス</sup>。灌夫聞<sup>キ</sup>。怒罵<sup>ル</sup>籍福。籍福惡<sup>ニ</sup>兩人有<sup>ル</sup>郤<sup>ヲ</sup>。乃

謾自好<sup>シテ</sup>。謝丞相<sup>ニ</sup>曰。魏其老且死<sup>セント</sup>。易忍<sup>シ</sup>且待<sup>テ</sup>之<sup>ヲ</sup>。已而武安聞<sup>ク</sup>魏其

灌夫實怒不<sup>レ</sup>予<sup>ヘ</sup>田<sup>ヲ</sup>。亦怒<sup>テ</sup>曰。魏其子嘗殺<sup>ス</sup>人<sup>ヲ</sup>。蚡活<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。蚡事<sup>フル</sup>魏其<sup>ニ</sup>無

所<sup>ニ</sup>不可<sup>ナレ</sup>何愛<sup>セン</sup>數頃田<sup>ヲ</sup>。且灌夫何與<sup>ヤ</sup>也。吾不敢復求<sup>メ</sup>田<sup>ヲ</sup>。武安由<sup>テ</sup>此

大怨<sup>ム</sup>灌夫魏其<sup>ヲ</sup>。元光四年春。徐廣曰。疑此當是三年也。其說在後。丞相言<sup>フ</sup>灌夫家在<sup>ニ</sup>潁

應前夫橫子潁川

兩人相爲引重、顏師古曰、相牽引シテ尊重ヲ致スナリ。

幸臨況魏其侯、顏師古曰、況ハ賜ナリ。

夫以服請宜往、董份曰宜往ハ、丞相必魏其ノ第二往クナ言フナリ、故ニ此下一往字、正ニ前宜往ノ字ニ應ズ、注皆謬ル。

亦倚<sup>テ</sup>魏其<sup>ニ</sup>而通<sup>シ</sup>列侯宗室<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>名高<sup>キ</sup>兩人相爲<sup>ニ</sup>引重<sup>ス</sup>。張晏曰相薦應前達爲聲勢。

游如<sup>ニ</sup>父子<sup>一</sup>然相得<sup>テ</sup>驩甚<sup>シク</sup>無厭<sup>フ</sup>恨<sup>ム</sup>相知晚<sup>ル</sup>也。灌夫有服過<sup>ル</sup>丞相<sup>ニ</sup>丞

相從容<sup>トシテ</sup>曰吾欲與<sup>ニ</sup>仲孺過<sup>フ</sup>魏其侯<sup>ニ</sup>。漢書曰灌夫字仲孺。會<sup>ニ</sup>仲孺有服<sup>ル</sup>。索隱曰案服謂替功

之服也。故應璩書曰。仲孺不辭<sup>レ</sup>同生之服也。灌夫曰將軍乃肯幸臨<sup>ニ</sup>沉魏其侯<sup>ニ</sup>。夫安敢<sup>テ</sup>以服<sup>ヲ</sup>

爲<sup>レ</sup>解。請語<sup>ク</sup>魏其侯帳具<sup>ヲ</sup>將軍旦日蚤臨<sup>セム</sup>武安許諾<sup>ス</sup>灌夫具語<sup>ル</sup>魏

其侯<sup>ニ</sup>。曲而省如<sup>レ</sup>所謂<sup>フ</sup>武安侯<sup>ニ</sup>。魏其與其夫人益市<sup>ヒ</sup>牛酒<sup>ヲ</sup>夜灑<sup>シ</sup>埽<sup>ス</sup>早帳具<sup>ス</sup>

至<sup>リ</sup>旦<sup>ノ</sup>平明<sup>ニ</sup>令<sup>ム</sup>門下候伺<sup>セ</sup>至<sup>ニ</sup>日中<sup>ニ</sup>丞相不來<sup>ラ</sup>魏其謂<sup>テ</sup>灌夫<sup>ニ</sup>曰丞相

豈忘<sup>ル</sup>之哉。灌夫不懌<sup>ス</sup>曰夫以服請<sup>フ</sup>宜往<sup>ル</sup>。徐廣曰一云以服請不宜往。○索隱曰案徐廣云以服請不宜往其

說非也。正言灌夫請不以服爲解。蚡不宜忘。故駕自往迎也。乃駕自往迎<sup>フ</sup>丞相<sup>ヲ</sup>丞相特前戲許<sup>ス</sup>灌夫<sup>ニ</sup>

殊無意<sup>ニ</sup>往<sup>ク</sup>及<sup>ニ</sup>夫至<sup>ル</sup>門<sup>ニ</sup>丞相尙臥<sup>ス</sup>於是夫入見<sup>エテ</sup>曰將軍昨日幸許<sup>ス</sup>

貴戚諸有勢在己之右云云、顏師古曰、右ハ尊ナリ、左ハ卑ナリ、鈞ハ等ナリ、稠ハ多ナリ、下輩ハ下等ノ人ナリ、毎二人衆ノ中ニ於テ、コトサラニ寵薦スルナリ。已然諾、顏師古曰、己ハ必ナリ、一言人ニ許ス、必之ヲ信ニスルヲ謂フナリ。食客日數十百人、顏師古曰、或ハ八九十、或ハ百人ナリ。潁川兒乃歌之云云、顏師古曰、深ク之ヲ怨嫉ス、故ニ此言ヲ爲スナリ。

引繩批根、方苞曰、繩ヲ引イテ以テ其邪ヲ正シ、根ヲ批シテ以テ其本ニ循フ、皆先ニ慕ヒ、後ニ棄ツル者ノ過ヲ暴ハス所以ナリ。

昆弟也。上恐太后誅夫。徙爲燕相。數歲。坐法去官。家居長安。灌夫爲人剛直。使酒。不好面諛。貴戚諸有勢在己之右。不欲加禮。必陵之。諸士在己之左。愈貧賤。尤益敬。與鈞稠人廣衆。薦寵下輩。士亦以此多之。夫不喜文學。好任俠。已然諾。索隱曰。己音以。謂己也。暗伏武安之辨及魏其之相仇。諸所與交通。無非豪傑大猾。家累數千萬。食客日數十百人。陂池田園。宗族賓客爲權利。橫於潁川。伏後丞相言夫家在潁川橫甚。潁川兒乃歌之曰。潁水清。灌氏寧。潁水濁。灌氏族。灌夫家居雖富。然失勢。卿相待中賓客益衰。及魏其侯夫勢。亦欲倚灌夫。引繩批根。生平慕之後棄之者。蘇林曰。二人相倚引繩。直批根賓客弄之者。不與交通也。孟康曰。根。根括引繩以持彈。○索隱曰。案劉氏云。二人相倚事如合繩共相依引也。批音步結反。批者。排也。漢書作排根。小顏云。根音痕。括音汨。謂人生平慕嬰夫。後見其失職而頗弛慢。如此者共排退之。不復與交也。譬如相對挽繩而根括之也。持彈。案漢書本作捫彈。音普耕反。灌夫



知吳壁中曲折、顏師古曰、曲折ハ、猶委曲ト言フ如シ。  
將軍壯義之、札記云、班馬異同本、壯下ニ而字アリ、志疑云、漢傳ト合ス。

輕重不得、顏師古曰、禮數ノ輕重ナリ。

甲持<sup>テ</sup>戟募<sup>ル</sup>軍中壯士所善願從者數十人。及<sup>レ</sup>出<sup>ル</sup>壁門。莫<sup>ク</sup>敢<sup>テ</sup>前<sup>ム</sup>。獨

二人及從奴十數騎。馳<sup>テ</sup>入<sup>リ</sup>吳軍。至<sup>ル</sup>吳將麾下。正義曰。謂大將之旗。所殺傷數

十人。不得<sup>レ</sup>前<sup>ム</sup>復馳還。走入<sup>ル</sup>漢壁。皆亡<sup>フ</sup>其奴。獨與一騎歸。夫身中

大創十餘。適有<sup>ニ</sup>萬金良藥。故得<sup>レ</sup>無<sup>ス</sup>死。夫創少瘳。又復請將軍曰。

吾益知<sup>ル</sup>吳壁中曲折。請復往。將軍壯義之。恐亡<sup>フ</sup>夫。乃言<sup>フ</sup>太尉。太

尉乃固止之。吳已破。灌夫以此名聞<sup>ユ</sup>天下。潁陰侯言<sup>フ</sup>之上。上以

夫爲<sup>ス</sup>中郎將。數月。坐<sup>シテ</sup>法去。後家居長安。長安中諸公莫弗稱<sup>セ</sup>之。

孝景時。至<sup>ル</sup>代相。孝景崩。今上初卽位。以爲<sup>ラ</sup>淮陽天下交。勁兵處。

故<sup>ニ</sup>徒<sup>シテ</sup>夫爲<sup>ニ</sup>淮陽太守。建元元年。入<sup>テ</sup>爲<sup>ニ</sup>太僕。二年。夫與<sup>ニ</sup>長樂衛尉

竇甫飲。輕重不得。晉灼曰。飲酒輕重不得其平也。夫醉搏<sup>ツ</sup>甫。索隱曰。搏音博。謂擊之。甫竇太后

立曲旃注、札記、蘇林曰禮大夫建旃曲旃柄上曲也二作ル、云フ各本大夫立曲旃、曲柄上曲也二作ル、考證漢書注二據テ増改ス、按ズルニ、漢書注、曲下亦旃字チ脱ス。

買郡縣器物相屬於道。前堂羅鐘鼓。立曲旃。如淳曰。旌旗之名。通帛曰旃。曲旃。幡也。蘇林曰。禮。大

夫立曲旃。曲柄上曲也。○索隱曰。說文云。曲旃者。所以招士也。後房婦女以百數。諸侯奉金玉狗馬玩好。

不可勝數。魏其失竇太后益疏不用。無勢。諸客稍稍自引而怠

傲。唯灌將軍獨不失。故魏其日默默不得志。而獨厚遇灌將軍。

灌將軍夫者。潁陰人也。夫父張孟。嘗爲潁陰侯嬰舍人。得幸。因

進之。至二千石。故蒙灌氏姓爲灌孟。吳楚反時。潁陰侯灌何爲

將軍。索隱曰。案何是嬰子。漢書作嬰誤。屬太尉。請灌孟爲校尉。夫以千人與父俱。漢書音義

曰。官主千人。灌孟年老。潁陰侯彊請之。鬱鬱不得意。故戰常陷堅。遂

死。吳軍中軍法。父子俱從軍。有死事得與喪歸。灌夫不肯隨喪。

歸。奮曰。張晏曰。自奮勵也。願取吳王若將軍頭。以報父之仇。於是灌夫被



君除吏、顔師古曰、凡  
除ト言フ者、故官ヲ除  
去シ、新官ニ就クナリ。  
君何不遂取武庫云云  
顔師古曰、考工ハ少府  
ノ屬官ナリ、器械ヲ作  
ルヲ主ル、上其此請  
ヲ責ム、故ニ之ニ謂テ  
曰、何不遂ニ武庫ヲ取  
ラザルト、蚡乃退クナ  
リ。



數言事多效、顏師古曰、  
效ハ聽用セラルルヲ謂  
フ。

郡國諸侯、札記郡諸侯  
ニ作ル、云フ各本郡下  
ニ國字アリ、索隱本ナ  
シ、雜志云、國字後人ノ  
加フル所ナリ、漢書亦  
郡諸侯ニ作ル、顏師古  
曰、郡及諸侯、猶郡國ト  
言フ如キナリ。  
貌侵注韋昭曰云云ノ下

老之言。而魏其武安趙綰王臧等。務隆推儒術。貶道家言。是以  
竇太后滋不說魏其等。及建元二年。御史大夫趙綰請無奏事  
東宮。韋昭曰。欲  
奪其政也。竇太后大怒。乃罷逐趙綰王臧等。而免丞相太尉。

以柏至侯許昌爲丞相。武彊侯莊青翟爲御史大夫。魏其武安  
由此以侯家居。武安侯雖不任職。以王太后故。親幸數言事。多

效。天下吏士趨勢利者。皆去魏其歸武安。武安日益橫。建元六

年竇太后崩。丞相昌御史大夫青翟坐喪事不辦免。以武安侯

蚡爲丞相。以大司農韓安國爲御史大夫。天下士郡國諸侯愈

益附武安。索隱曰。按謂仕諸郡及仕諸  
侯王國者。猶言仕郡國也。武安者貌侵。韋昭曰。侵音寢。短小也。又  
云醜惡也。刻确也。音核。生

貴甚。索隱曰。小顏云。生貴謂自尊高示貴寵。其說疎也。按生謂蚡自生尊貴之勢特甚。故  
下云又以諸侯王多長年。蚡以肺腑爲相。非痛折節以禮屈之。則天下不肅者也。

能兼容則幸久、顏師古曰、兼容ハ、惡人ヲ嫉ミ、其ナシテ怨マシメザルヲ謂フナリ、推轂趙綰、顏師古曰、推轂ハ之ヲ升薦スル、車轂ヲ轉ズルノ爲ノ若キヲ謂フナリ。

興。未如魏其。卽上以將軍爲丞相。必讓魏其。魏其爲丞相。將軍必爲太尉。太尉丞相尊等耳。又有讓賢名。武安侯乃微言太后風上。於是乃以魏其侯爲丞相。武安侯爲太尉。籍福賀魏其侯。因弔曰。君侯資性喜善疾惡。方今善人譽君侯。故至丞相。然君侯且疾惡。惡人衆。亦且毀君侯。君侯能兼容。則幸久。不能。今以毀去矣。魏其不聽。魏其武安俱好儒術。推轂趙綰爲御史大夫。索隱曰。案推轂。謂自卑下之。如爲之推車轂也。王臧爲郎中令。迎魯申公。欲設明堂。令列侯就國除關。索隱曰。謂除關門之稅也。以禮爲服制。索隱曰。案其時禮度踰侈。多不依古。令吉凶服制皆法於禮也。以興太平。舉適諸竇。索隱曰。適音直革反。宗室母節行者。除其屬籍。時諸外家爲列侯。列侯多尙公主。皆不欲就國。以故毀日至竇太后。太后好黃



武安侯田蚡者。孝景后同母弟也。索隱曰。蚡音扶粉反。又如蚡鼠之蚡音墳。生長陵。魏其

已爲大將軍。後方盛。蚡爲諸郎。徐廣曰。一云諸卿。時人相號長老。老者爲諸公。年少者爲諸卿。如今人相號爲士大夫。

未貴。往來侍酒。魏其跪起如子姪。及孝景晚節。索隱曰。按謂晚年也。蚡益貴

幸。爲太中大夫。蚡辯有口。學槃孟諸書。應劭曰。黃帝史孔甲所作銘也。凡二十六篇。書槃孟中所爲法戒。諸

書諸子文書也。孟康曰。孔甲槃孟王太后賢之。徐廣曰。卽蚡同母姊者。孝景崩。卽日太子

立。稱制。所鎮撫多有田蚡賓客計策。蚡弟田勝。皆以太后弟。孝

景後三年。徐廣曰。孝景後三年。卽是孝武初嗣位之年也。封蚡爲武安侯。勝爲周陽侯。正義曰。絳

州聞喜縣東二十里周陽故城也。武安侯新欲用事。爲相。卑下賓客。進名士家居者。

貴之。欲以傾魏其諸將相。建元元年。丞相綰病免。上議置丞相。接上衛綰爲丞相

太尉。籍福說武安侯曰。魏其貴久矣。天下士素歸之。今將軍初

瞻三作ル、索隱音尺占反、札記亦瞻三作ル、云フ單本體、亦瞻三譌ス、瞻尺占反ナシ、今正ス、此集解、瞻字ノ爲ニ音ヲ作スナリ、顔師古曰、沾沾ハ輕薄ナリ、跪起如子姪、札記姪ヲ姪ニ作ル、云フ漢書姪ニ作ル、史本姪ニ譌ス、難志云、古惟女子昆弟ノ子ヲ謂テ姪ト爲ス、男子ハ則テ否ラズ、當ニ漢書ニ依ルベシ、顔師古曰、姪ハ生ナリ、子禮ヲ同ジクスル己ノ所生ノ若キヲ言フ、槃孟諸書注、漢書應注銘字ナシ、爲上以字アリ、文書ヲ之書ニ作ル、凡二十六篇、札記二十九篇ニ作ル、考證漢書注ニ據テ改ム。



屏居田南山之下、札記  
田上ニ藍字アリ、云フ  
官本藍字アリ、按ニ藍  
田南山ノ下ニ屏居スル  
ナリ。

相提而論、劉辰翁曰、  
相提ニ字曉ルベカラズ  
ト雖モ、意フニ亦客ニ  
對シ言ヲ忘ルル能ハザ  
ルノ意ナリ。

沾沾自喜注沾一作恬、  
札記恬ヲ恬ニ作ル、云  
フ索隱本恬、各本恬ニ  
鵠ス、或曰、沾音憺也、  
札記憺ヲ憺ニ作ル、云  
フ索隱本宋本游毛憺ニ  
鵠ス、集韻憺沾ト同音  
ナシ、今正ス、漢書注音

病。屏居田南山之下數月。諸賓客辯士說之莫能來。梁人高遂門下客

乃說魏其曰。能富貴將軍者上也。能親將軍者太后也。今將軍

傳太子。太子廢而不能爭。爭不能得。又弗能死。自引謝病。擁趙

女。屏閒處正義曰。上音閑。下昌汝反。而不朝。相提而論。徐廣曰。提音徒抵反。○索隱曰。提音弟。又音帝。相提猶相抵也。論音

路頓反。是自明揚主上之過。有如兩宮螫將軍。張晏曰。兩宮。太后景帝也。螫。恐也。毒蟲怒必螫人。又

火各反。○索隱曰。螫音釋。謂怒也。漢書作夷。夷即螫也。○正義曰。兩宮。太子景帝也。則妻子母類矣。索隱曰。謂見誅滅無遺類。魏其侯

然之。乃遂起朝請如故。桃侯免相。服虔曰。劉舍也。竇太后數言魏其侯。

孝景帝曰。太后豈以爲臣有愛。不相魏其。索隱曰。愛。猶惜也。魏其者。沾沾

自喜耳。多易。徐廣曰。沾一作恬。又昌兼反。又當牒反。張晏曰。沾沾。言自整頓也。多易。多輕易之行也。或曰。沾音憺也。○索隱曰。小顏云。沾音他兼反。憺音尺占反。

難以爲相持重。遂不用。用建陵侯衛綰爲丞相。

上察宗室諸寶、顏師古曰、宗室ハ帝ノ同姓親ナリ、諸寶ハ、總テ帝ノ外家ヲ謂フナリ、吳楚ノ難ヲ以テ、故ニ内外ノ親ヲ用ヒ、將ト爲サント欲スルナリ。

財取爲用注自令、札記令自ニ作ル、云フ各本倒ス、考證漢書注ニ據テ改ム、顏師古曰、財ハ裁ト同ジ、裁量シテ之ヲ用フルヲ謂フナリ。

侯春朝天子曰朝。秋曰請。○正義曰。才性反。

孝景三年。吳楚反。上察宗室諸寶。

索隱曰。案謂宗室之中及諸寶

之宗室也。又姚氏案。酷吏傳。周陽由其父趙兼以淮南王舅侯周陽。故因氏焉。由以宗家任爲郎。則似是與國有親戚屬籍者。亦得呼爲宗室也。

母如寶嬰賢。

乃召嬰。嬰入見。固辭謝病不足任。太后亦慙。於是上曰。天下方

有急。王孫寧可以讓邪。

漢書曰。寶嬰字王孫。

乃拜嬰爲大將軍。賜金千斤。嬰

乃言袁盎欒布諸名將賢士在家者。進之。所賜金陳之廊廡下。

軍吏過。輒令財取爲用。

蘇林曰。自令裁度取爲用也。

金無入家者。寶嬰守滎陽。

監齊趙兵。

正義曰。監音甲。衫反。吳王濞傳云。寶嬰屯滎陽。監齊趙兵也。

七國兵已盡破。封嬰爲魏其

侯。諸游士賓客爭歸魏其侯。孝景時。每朝議大事。條侯魏其侯

伏冷案

諸列侯莫敢與亢禮。孝景四年。立栗太子。

正義曰。栗姬之子。後廢之。故書母姓也。

使魏

其侯爲太子傅。孝景七年。栗太子廢。魏其數爭不能得。魏其謝

# 史記評林卷之一百七

## 魏其武安侯列傳第四十七

魏其侯竇嬰者。孝文后從兄子也。父世觀津人。

索隱曰。案地理志。觀津縣屬信都。以言其

父世觀津人。索隱云言其累葉在觀津故云父世也。錢大昕曰。子謂父世ハ嬰ノ父ノ名ナリ。

累葉在觀津。故云父世也。正義曰。觀一篇注子。津城在冀州武邑縣東南二十五里。喜賓客。孝文時。嬰爲吳相。病免。孝景

初卽位。爲詹事。正義曰。百官表云。詹事。秦官。掌皇后太子家也。梁孝王者。孝景弟也。其母竇太

后愛之。梁孝王朝。因昆弟燕飲。是時上未立太子。酒酣。從容言

曰。千秋之後。傳梁王。太后驩。竇嬰引卮酒進上曰。天下者高祖

天下。父子相傳。此漢之約也。上何以得擅傳梁王。太后由此憎

竇嬰。竇嬰亦薄其官。因病免。太后除竇嬰門籍。不得入朝。請律。

因昆弟燕飲。顏師古曰。家人昆弟ノ親ヲ敘シ。君臣ノ禮ヲ爲サザルナリ。天下者高祖天下。札記云。中統游本高祖ノ下之字アリ。



太史公曰云云、方苞曰、此篇側入逆殺ノ處、酷ダ左傳ニ似タリ、蓋吳及ビ六國ノ敗亡ヲ以テ、牽連シテ以テ書シ、篇終更ニ周邱ノ師、及ビ漢ノ制詔ヲ設クレバ、則諸賢懸疣ト爲ス、故ニ吳兵ノ起ルニ因リ、而テ周邱ノ別出ニ及ビ、周邱ノ勝ニ因リ、而テ吳王ノ敗走ニ側入シ、吳王ノ敗走ニ因リ、而テ天子ノ制詔ニ及ビ、然ル後吳楚ノ梁ヲ攻メ、及ビ亞夫ノ守戰、吳王ノ走死、六國ノ滅亡ヲ追殺シ、弓高侯ノ詔書ヲ出シ、以テ膠西王ニ示スモ、亦自然ニシテ節ニ合ス、凡此皆義法當ニ然ルベキ所、側入逆殺以テ奇ヲ爲スニ意アルニ非ザルナリ。

豈盎錯邪、札記云毛本盎錯ヲ袁盎ニ作ル。

太史公曰。吳王之王。由父省也。

言濞之王吳。由父代王被省封郃陽侯。省音所幸反。○索隱曰。省音所景反。省者減也。謂

父仲從代王省能薄賦斂。使其衆。以擅山海利。逆亂之萌自其子興。

爭技發難。索隱曰。謂與太子卒亡其本。親越謀宗。竟以夷隕。鼂錯爲

國遠慮。禍反近身。袁盎權說。初寵後辱。故古者諸侯地不過百

里。山海不以封。母親夷狄。以疏其屬。蓋謂吳邪。母爲權首。反受

其咎。豈盎錯邪。

索隱述贊曰。吳楚輕悍。王濞倍德。富因採山。釁成提局。驕矜攜貳。連結七國。嬰命廣陵。錯誅未塞。天之悔禍。卒取奔北。

史記評林卷之一百六終

及未有詔虎符、札記雜志云、及ハ當ニ乃ニ作ルベシ。

國趙十月而下之、札記云、樊鄴滕灌傳、漢書荊燕吳傳、並ニ十月ニ作ル、楚元王世家云、相距ク七月ト、按ズルニ、七國、景三年正月ヲ以テ反ス、十月ニ至レバ則四年歳首ニ入ル、恐ラクハ誤ル。

苦<sup>ム</sup>軍事<sup>ニ</sup>。願<sup>フ</sup>聞<sup>ン</sup>王發<sup>ス</sup>兵狀<sup>ヲ</sup>。王頓<sup>シ</sup>首<sup>ヲ</sup>膝<sup>ヲ</sup>行<sup>ハ</sup>對<sup>シ</sup>曰<sup>ク</sup>。今者鼂錯<sup>ニ</sup>。天子用事<sup>ヲ</sup>

臣。變<sup>シ</sup>更<sup>ニ</sup>高皇帝法令<sup>ヲ</sup>。侵<sup>ス</sup>奪<sup>ス</sup>諸侯地<sup>ヲ</sup>。卬等以爲不義<sup>ト</sup>。恐<sup>ル</sup>其敗亂<sup>ス</sup>天

下<sup>ヲ</sup>。七國發兵<sup>シ</sup>。且<sup>ニ</sup>以誅錯<sup>ヲ</sup>。今聞<sup>ク</sup>錯已誅<sup>セ</sup>。卬等謹<sup>デ</sup>以罷兵歸<sup>ル</sup>。將軍曰<sup>ク</sup>。

王苟<sup>モ</sup>以錯不善<sup>ト</sup>。何<sup>ゾ</sup>不<sup>レ</sup>以聞<sup>セ</sup>。及<sup>レ</sup>未有<sup>ダ</sup>詔虎符<sup>ヲ</sup>。擅<sup>ニ</sup>發兵<sup>シ</sup>。擊<sup>ツ</sup>義國<sup>ヲ</sup>。以此<sup>ヲ</sup>

觀<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>。意非<sup>ル</sup>欲誅錯<sup>ヲ</sup>也。乃出<sup>シ</sup>詔書<sup>ヲ</sup>。爲<sup>ニ</sup>王讀<sup>ム</sup>之<sup>ヲ</sup>。讀<sup>ミ</sup>之<sup>ヲ</sup>訖<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。王其自圖<sup>レ</sup>。

王曰<sup>ク</sup>。如<sup>キ</sup>卬等死<sup>シ</sup>有<sup>ニ</sup>餘罪<sup>ニ</sup>。遂<sup>ニ</sup>自殺<sup>ス</sup>。太后太子皆死<sup>ス</sup>。膠東菑川濟南

王皆死<sup>ス</sup>。徐廣曰。一云自殺。國除<sup>シ</sup>。納<sup>ル</sup>于漢<sup>ニ</sup>。酈將軍圍<sup>ム</sup>趙<sup>ヲ</sup>。十月而下<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。趙王自

殺<sup>ス</sup>。濟北王以<sup>ニ</sup>劫故<sup>ヲ</sup>。得<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>誅<sup>セ</sup>。徙<sup>ニ</sup>王菑川<sup>ニ</sup>。初<sup>メ</sup>吳王首反<sup>ス</sup>。并<sup>セ</sup>將楚兵<sup>ヲ</sup>。連<sup>ニ</sup>

齊趙<sup>ニ</sup>。正月起兵<sup>シ</sup>。三月皆破<sup>ル</sup>。獨趙後下<sup>ル</sup>。復置<sup>テ</sup>元王<sup>ヲ</sup>。少子平陸侯禮<sup>ヲ</sup>

爲<sup>シ</sup>楚王<sup>ト</sup>。續<sup>ニ</sup>元王後<sup>ヲ</sup>。徙<sup>ニ</sup>汝南王<sup>ヲ</sup>。非<sup>ニ</sup>王吳故地<sup>ニ</sup>。爲<sup>ス</sup>江都王<sup>ト</sup>。

聚北。今入于江。吳錄云。丹徒有吳王冢。在縣北。其處名爲相唐。

盛其頭。馳傳以聞。

吳地記曰。吳王濞葬武進縣南。地名相唐。○索隱曰。張勃云。吳

王濞葬丹徒縣南。其地名相唐。今云武進縣。恐錯也。

吳王子子華子駒亡走閩越。吳王之棄其軍

亡也。軍遂潰。往往稍降。太尉梁軍。楚王戊軍敗自殺。三王之圍

齊臨菑也。三月不能下。漢兵至。膠西膠東菑川王各引兵歸。膠

西王乃袒跣。席橐飲水。謝太后。王太子德曰。漢兵遠。臣觀之已

罷。可襲。願收大王餘兵。擊之。不勝。乃逃入海。未晚也。王曰。

吾士卒皆已壞。不可發用。弗聽。漢將弓高侯頽當。

徐廣曰。姓韓。

遣王

書曰。奉詔誅不義。降者赦其罪。復故。不降者滅之。王何處須以

從事。王肉袒叩頭。漢軍壁。謁曰。臣叩奉法不謹。驚駭百姓。乃苦

將軍。遠道至于窮國。敢請蒞醢之罪。弓高侯執金鼓見之。曰。王

王何處須以從事、頽師  
古曰、王何ノ理ヲ以テ  
自ラ安處セント欲ス、  
吾待テ以テ事ヲ行フナ  
言フナリ。



梁數使使報<sub>ニ</sub>條侯<sub>一</sub>求<sub>メ</sub>救<sub>ヲ</sub>。條侯不許<sub>サ</sub>。又使使惡<sub>ニ</sub>條侯<sub>一</sub>於上。上使人

告<sub>テ</sub>條侯<sub>一</sub>救梁。復守<sub>ニ</sub>便宜<sub>一</sub>不行。梁使韓安國及楚死<sub>ニ</sub>事<sub>一</sub>相弟張羽

爲<sub>テ</sub>將軍<sub>一</sub>。徐廣曰。楚相張尙諫王而死。○正義曰。按羽尙弟也。乃得<sub>ニ</sub>頗敗<sub>一</sub>吳兵。吳兵欲<sub>ニ</sub>西<sub>一</sub>。梁城守堅。

不敢<sub>テ</sub>西。即走<sub>ニ</sub>條侯<sub>一</sub>軍。會<sub>ニ</sub>下邑<sub>一</sub>。徐廣曰。屬梁國。○正義曰。宋州碭山縣。本漢下邑縣。欲戰<sub>ニ</sub>。條侯壁<sub>一</sub>。不

肯戰。吳糧絕。卒饑。數挑戰。遂夜犇<sub>ニ</sub>條侯<sub>一</sub>壁。驚<sub>ニ</sub>東南<sub>一</sub>。條侯使備<sub>ニ</sub>西

北。果從<sub>ニ</sub>西北<sub>一</sub>入。吳大敗。士卒多饑死。乃畔散。於是吳王乃與<sub>ニ</sub>其

麾下壯士數千人夜亡去。度江走<sub>ニ</sub>丹徒<sub>一</sub>。保<sub>ニ</sub>東越<sub>一</sub>。正義曰。東越傳云。獨東甌受漢之購殺吳

王。丹徒。潤州也。東甌。即東越也。東越將兵從<sub>ニ</sub>吳<sub>一</sub>在丹徒也。東越兵可<sub>ニ</sub>萬餘人<sub>一</sub>。乃使人收<sub>ニ</sub>聚亡卒<sub>一</sub>。漢使

人以利啗<sub>ニ</sub>東越<sub>一</sub>。韋昭曰。啗。音徒覽反。東越即給<sub>ニ</sub>吳王<sub>一</sub>。吳王出勞<sub>ニ</sub>軍<sub>一</sub>。即使人鑢

殺<sub>ニ</sub>吳王<sub>一</sub>。孟康曰。方言。戟謂之鑢。○索隱曰。鑢。音七江反。謂以戈刺殺之。鄒氏又音春。亦音從容之從。謂撞殺之也。○正義曰。括地志云。漢吳王濞冢在潤州丹徒縣東練壁

鑢殺吳王、顏師古曰、  
鑢ハ矛戟ヲ以テ之ヲ撞  
クヲ謂フ。

皐人亂天下幣。

如淳曰。幣。錢也。以私錢淆亂天下錢也。

稱病不朝二十餘年。有司數請

濞罪。孝文皇帝寬之。欲其改行爲善。今乃與楚王戊。趙王遂。膠

西王卬。濟南王辟光。菑川王賢。膠東王雄渠。約從反。爲逆無道。

起兵以危宗廟。賊殺大臣及漢使者。迫劫萬民。天殺無罪。燒殘

民家。掘其丘冢。甚爲暴虐。今卬等又重逆無道。燒宗廟。鹵御物。

如淳曰。鹵。抄掠也。宗廟在郡縣之物皆爲御物。○正義曰。顏師古曰。御物。宗廟之服器也。

朕甚痛之。朕素服避正殿。將軍

其勸士大夫擊反虜。擊反虜者。深入多殺爲功。斬首捕虜。比三

百石以上者。皆殺之。無有所置。

正義曰。置。放釋也。

敢有議詔及不如詔者。

皆要斬。倒敘初吳王之度淮。與楚王遂西敗棘壁。

正義曰。在宋州寧陵縣西南七十里。乘勝

前。銳甚。梁孝王恐。遣六將軍擊吳。又敗梁兩將。士卒皆還走梁。

虞御物注、顏師古曰、  
宗廟ノ上、漢書注供字  
アリ。

時聞<sup>ニ</sup>吳<sup>一</sup>反<sup>ニ</sup>。皆城守<sup>ス</sup>。至<sup>ニ</sup>傳舍<sup>一</sup>。召<sup>ス</sup>令<sup>ニ</sup>。令入<sup>ル</sup>戶。使<sup>ニ</sup>從者<sup>一</sup>以<sup>レ</sup>罪<sup>ニ</sup>斬<sup>ツ</sup>令<sup>ニ</sup>。遂召<sup>ニ</sup>  
 昆弟所善豪吏<sup>一</sup>告<sup>テ</sup>曰。吳反<sup>ニ</sup>兵且<sup>ニ</sup>至<sup>一</sup>。至<sup>ニ</sup>屠<sup>一</sup>下邳<sup>ニ</sup>。不過<sup>一</sup>食頃<sup>ニ</sup>。今先<sup>ニ</sup>下<sup>一</sup>。  
 家室必完<sup>ク</sup>。能者封侯<sup>ス</sup>矣。出<sup>テ</sup>乃相告<sup>ス</sup>。下邳皆下<sup>ル</sup>。周丘一夜得<sup>ニ</sup>三萬<sup>一</sup>  
 人<sup>ニ</sup>。使人報<sup>セ</sup>吳王<sup>ニ</sup>。遂<sup>ニ</sup>將其兵<sup>一</sup>北略<sup>ニ</sup>城邑<sup>一</sup>。比<sup>レ</sup>至<sup>ニ</sup>城陽<sup>一</sup>。  
 年別爲<sup>レ</sup>國。  
 兵十餘萬。破<sup>ニ</sup>城陽中尉軍<sup>一</sup>。聞<sup>ニ</sup>吳王敗走<sup>一</sup>。自度無<sup>ニ</sup>與共成<sup>一</sup>。  
 屬<sup>ニ</sup>兗州<sup>一</sup>。

正義曰。地理志云。城陽國。故齊漢文帝二

功。卽引<sup>テ</sup>兵歸<sup>ル</sup>下邳<sup>ニ</sup>。未<sup>レ</sup>至<sup>ニ</sup>。疽發<sup>シ</sup>背死<sup>ス</sup>。二月中。吳王兵既破<sup>レ</sup>。敗走<sup>ス</sup>。於  
 是天子制詔將軍<sup>ニ</sup>曰。蓋聞爲<sup>レ</sup>善者天報<sup>ニ</sup>之<sup>一</sup>。以<sup>レ</sup>福。爲<sup>レ</sup>非者天報<sup>ニ</sup>之<sup>一</sup>。  
 以<sup>レ</sup>殃。高皇帝親表<sup>ニ</sup>功德<sup>一</sup>。建立<sup>ニ</sup>諸侯<sup>一</sup>。幽王悼惠王絕<sup>ニ</sup>無後<sup>一</sup>。孝文皇  
 帝哀憐<sup>ニ</sup>加惠<sup>一</sup>。王<sup>ニ</sup>幽王子遂。悼惠王子卬等<sup>一</sup>。令<sup>ニ</sup>奉<sup>一</sup>其先王宗廟<sup>ニ</sup>。爲<sup>レ</sup>  
 漢藩國<sup>一</sup>。德配<sup>ニ</sup>天地<sup>一</sup>。明並<sup>ニ</sup>日月<sup>一</sup>。吳王濞倍<sup>ニ</sup>德反<sup>一</sup>。義誘<sup>ニ</sup>受天下亡命<sup>一</sup>。



上難以藉人人亦且反王  
ト言フ、則已ニ祿伯ヲ  
疑フ、下乃多他利害ト  
云フハ、兵ヲ分チテ去  
ル、前事測ラレズ、或  
ハ利害アル、機ヲ決ス  
ベキ難キヲ謂フノミ、  
重テ其漢ニ降ルヲ畏ル  
ト云フニ非ズ。

此少年推鋒之計、楊僕  
曰、推鋒ハ、一往シテ  
復タ顧ミザルヲ謂フナ  
リ。

蘇林曰。祿伯儻將兵降漢。徒自損耳。吳王卽不許田祿伯。吳少將桓將  
自爲利己。於吳爲生患也。

軍說王曰。吳多步兵。步兵利險。漢多車騎。車騎利平地。願大王  
所過城邑不下。直棄去。疾西據雒陽武庫。食敖倉粟。阻山河之  
險。以令諸侯。雖毋入關。天下固已定矣。卽大王徐行。畱下城邑。  
漢軍車騎至。馳入梁楚之郊。事敗矣。吳王問諸老將。老將曰。此  
少年推鋒之計可耳。安知大慮乎。於是王不用桓將軍計。吳王  
專并其兵。未度淮。諸賓客皆得爲將校尉候司馬。獨周丘不  
得用。周丘者。下邳人。亡命吳。酤酒無行。吳王濞薄之。弗任。周丘  
上謁說王曰。臣以無能。不得待罪行間。臣非敢求有所將。願得  
王一漢節。必有以報王。王乃予之。周丘得節。夜馳入下邳。下邳

ルヲ得ルト言ハザルナリ。

楚兵輕注正義曰輕正反、札記注輕ヲ違ニ作ル、云フ考證左傳隱九年釋文ニ據テ改ム。

多他利害未可知也、顏師古曰、蘇說非ナリ、

劇孟。劇孟今無動。吾據滎陽。滎陽以東無足憂者。至淮陽。問父

絳侯。故客鄧都尉曰。策安出。客曰。吳兵銳甚。難與爭鋒。楚兵輕。

正義曰。不能久。方今爲將軍計。莫若引兵東北壁昌邑。以梁委吳。

吳必盡銳攻之。將軍深溝高壘。使輕兵絕淮泗口。塞吳饗道。彼

吳梁相敝而糧食竭。乃以全彊制其罷極。破吳必矣。條侯曰。善。

亞夫之能破吳獨在此

從其策。遂堅壁昌邑南。

正義曰。在曹州城武縣東北四十二里也。

輕兵絕吳饗道。吳王之

又提

初發也。吳臣田祿伯爲大將軍。田祿伯曰。兵屯聚而西。無他奇

道。難以就功。臣願得五萬人。別循江淮而上。收淮南長沙。入武

關。與大王會。此亦一奇也。吳王太子諫曰。王以反爲名。此兵難

以藉人。藉人亦且反王。奈何。且擅兵而別。多他利害。未可知也。

顧誠何如。吾不愛一人。以謝天下。盜曰。臣愚計無出此。願上孰

計之。乃拜盜爲太常。

正義曰。今盜爲太常。史失奉宗廟之指意。

吳王弟子德侯爲宗正。

徐廣

曰。名通。其父名廣。綱案漢書曰。

吳王弟子德侯廣爲宗正也。

盜裝治行。後十餘日。上使中尉召錯。給

載行東市。錯衣朝衣。斬東市。則遣袁盎奉宗廟。宗正輔親戚。

正義

曰。以親戚之意輔漢訓諭。

使告吳如盜策。至吳。吳楚兵已攻梁壁矣。宗正以親

故先入見。諭吳王使拜受詔。吳王聞袁盎來。亦知其欲說已。笑

而應曰。我已爲東帝。尙何誰拜。不肯見盎。而畱之軍中。欲劫使

將盜不肯。使人圍守。且殺之。盜得夜出步亡去。走梁軍。遂歸報。

詳盜傳

條侯將乘六乘傳。

正義曰。上音乘。下竹戀反。

會兵滎陽。至雒陽。見劇孟喜曰。七

詳游俠傳

國反。吾乘傳至此。不自意全。

正義曰。言不自意洛陽得全及見劇孟。

又以爲諸侯已得

不自意全、顏師古曰、意自ラ安全ニ雒陽ニ至



不足<sup>ル</sup>憂<sup>ム</sup>也。今破<sup>レ</sup>矣。上曰。吳王卽<sup>キ</sup>山鑄<sup>ル</sup>錢。煮<sup>ク</sup>海水爲<sup>シ</sup>鹽。誘<sup>シ</sup>天下豪  
 桀。白頭舉<sup>グ</sup>事。若<sup>キ</sup>此。其計不<sup>ニ</sup>百全<sup>ナ</sup>豈發<sup>セン</sup>乎。何以言<sup>フ</sup>其無<sup>シ</sup>能<sup>ス</sup>爲<sup>ス</sup>也。袁  
 盎對<sup>ヘ</sup>曰。吳有<sup>ニ</sup>銅鹽<sup>ニ</sup>利。則有<sup>レ</sup>之。安得<sup>グ</sup>豪桀<sup>ヲ</sup>而誘<sup>セン</sup>之。誠<sup>ニ</sup>令<sup>メ</sup>吳得<sup>ニ</sup>豪桀<sup>ヲ</sup>。  
 亦且<sup>ニ</sup>輔<sup>ケ</sup>王爲<sup>シ</sup>義<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>反<sup>セ</sup>矣。吳所<sup>レ</sup>誘<sup>スル</sup>皆無<sup>レ</sup>賴<sup>ノ</sup>子弟。亡<sup>ニ</sup>命鑄<sup>ル</sup>錢<sup>ヲ</sup>。姦<sup>ニ</sup>人<sup>ヲ</sup>。故  
 相率<sup>キ</sup>以反<sup>ス</sup>。鼂錯曰。袁盎策<sup>ル</sup>之善<sup>シ</sup>。上問<sup>テ</sup>曰。計安<sup>クニ</sup>出<sup>ザン</sup>。盎對<sup>ヘ</sup>曰。願<sup>フ</sup>屏<sup>ケ</sup>左  
 右。上屏<sup>グ</sup>人。獨錯在<sup>リ</sup>。盎曰。臣所<sup>レ</sup>言。人臣不得<sup>ル</sup>知<sup>ト</sup>也。乃屏<sup>グ</sup>錯。錯趨<sup>テ</sup>避<sup>ケ</sup>  
 東廂。恨<sup>ム</sup>甚<sup>シ</sup>。上卒問<sup>フ</sup>盎。盎對<sup>ヘ</sup>曰。吳楚相遺<sup>ル</sup>書曰。高帝王<sup>トシテ</sup>子弟<sup>ヲ</sup>各有<sup>ニ</sup>  
 分地。今賊臣鼂錯擅<sup>ニ</sup>適<sup>シ</sup>過<sup>シ</sup>諸侯<sup>ヲ</sup>。索隱曰。適音直。革反。又音宅。削<sup>ス</sup>奪<sup>ス</sup>之地<sup>ヲ</sup>。故以反<sup>チ</sup>  
 爲<sup>シ</sup>名。西共誅<sup>シ</sup>鼂錯。復<sup>シテ</sup>故地<sup>ヲ</sup>而罷<sup>ントス</sup>。方今計獨斬<sup>リ</sup>鼂錯。發<sup>シテ</sup>使<sup>テ</sup>赦<sup>シ</sup>吳楚  
 七國。復<sup>セズ</sup>其故削地<sup>ヲ</sup>。則兵可<sup>ト</sup>無<sup>シテ</sup>血刃<sup>ニ</sup>而俱罷<sup>ム</sup>。於是上嘿然良久曰。

或ハ邑萬戶ヲ以テ來リ  
降附スル者ハ、其封賞  
ハ則大將ヲ得ルト同  
ジ、下皆此ニ類ス。

更益無因、頒師古曰、舊  
爵ノ外ニ於テ、特ニ更  
ニ之ヲ與フ。

者。卒萬人。邑萬戶。如得大將。人戶五千。如得列將。人戶三千。如  
得裨將。人戶千。如得二千石。其小吏皆以差次受爵金。佗封賜  
皆倍常法。服虔曰。封賜  
倍漢之常法。其有故爵邑者。更益勿因。願諸王明以令  
士大夫。弗敢欺也。寡人金錢在天下者。往往而有。非必取於吳。  
諸王日夜用之。弗能盡。有當賜者。告寡人。寡人且往遺之。敬以  
聞。七國反書聞。天子。天子乃遣太尉條侯周亞夫。將三十六將  
軍。往擊吳楚。遣曲周侯酈寄。擊趙。將軍爰布。擊齊。大將軍竇嬰  
屯滎陽。監齊越兵。吳楚反書聞。兵未發。竇嬰未行。言故吳相袁  
盎。盎時家居。詔召人見。上方與鼂錯調兵。竿軍食。上問袁盎曰。  
君嘗爲吳相。知吳臣田祿伯爲人乎。今吳楚反。於公何如。對曰。

王共西面擊之。三王。齊諸王與趙王定河閒河內。或入臨晉關。正義曰。謂淮南衡山廬江也。

或與寡人會雒陽。燕王趙王固與胡王有約。燕王北定代雲

中。搏胡衆。索隱曰。搏音專。專。謂專統領胡兵也。入蕭關。正義曰。今名隴山關。在平涼縣界。走長安。匡正天

子。以安高廟。願王勉之。楚元王子淮南三王。或不沐浴十餘年。或沐浴十餘年。顏師古曰。心二懷フ所アリ。志洗沐ニ在ラザルヲ言フナリ。

凡爲此。顏師古曰。爲此ハ反セント欲スルヲ言フナリ。

其以軍若城邑降者云云。顏師古曰。卒萬人

諸王苟能存亡繼絕。振弱伐暴。以安劉氏社稷之所願也。敝國雖貧。寡人節衣食之用。積金錢。修兵革。聚穀食。夜以繼日。三十餘年矣。凡爲此。願諸王勉用之。能斬捕大將者。賜金五千斤。封萬戶。列將三千斤。封五千戶。裨將二千斤。封二千戶。二千石千斤。封二千戶。千石五百斤。封五百戶。皆爲列侯。其以軍若城邑降



七年卒。無嗣。國除。黜案如淳曰。吳芮後四世無子。國除。庶子二人爲列侯。不得嗣王。志將不滿。故誘與之反也。

幸教寡人。以漢有賊臣。

無功天下。侵奪諸侯地。使吏劾繫訊治。以僇辱之爲故。

黜案漢書音義曰。故。

事也。○正義曰。按專以僇辱諸侯爲事。

不以諸侯人君禮遇。劉氏骨肉。絕先帝功臣。進任

姦宄。誑亂天下。

正義曰。誑音挂。

欲危社稷。陛下多病志失。不能省察。欲舉

兵誅之。謹聞教。敝國雖狹。地方三千里。人雖少。精兵可具五十

萬。寡人素事南越三十餘年。其王君皆不辭分其卒。以隨寡人。

又可得三十餘萬。寡人雖不肖。願以身從諸王。越直音值長沙者。

其王君、漢書其王諸君  
二作ル、顏師古曰、諸  
君ハ其酋豪ヲ謂フ。  
越直長沙者、顏師古曰、  
直ハ常ナリ、越地ノ北、  
長沙ニ當ル者ヲ言フナ  
リ。

索隱曰。謂其境相接也。

因王子定長沙以北。

如淳曰。南越直長沙者。因王子定也。○索隱曰。案謂南越之地。與長沙地相接值者。因長沙王

子。以定長沙以北也。

西走蜀漢中。

正義曰。走音奏。向也。王子。長沙王子也。南越之地。對長沙之南者。其民因王子卒。而鎮定長沙以北。西向蜀及漢中。咸委

王子告越楚王淮南三王與寡人西面。

如淳曰。告東越使定之。○正義曰。越東越也。又告東越楚淮南三王與吳

正月丙午、札記云、孝  
景本紀三年正月乙巳天  
下二敕ス、此ト先後一  
日ナリ、班馬異同戊午  
ニ作ル。  
齊王後悔飲藥自殺、凌  
稚隆曰、漢書背約城守  
ニ作ル、是ナリ、後乃  
自殺ス。

則吳王先起兵。膠西正月丙午。誅漢吏二千石以下。膠東菑川

濟南楚趙亦然。遂發兵西。齊王後悔。飲藥自殺。畔約。濟北王城

壞未完。其郎中令刳守其王。不得發兵。膠西爲渠率。膠東菑川

濟南共攻圍臨菑。趙王遂亦反。陰使匈奴與連兵。七國之發也。

吳王悉其士卒。下令國中曰。寡人年六十二。

將少子年十四。亦爲士卒先。諸年上與寡人比。下與少子等者

皆發。發二十餘萬人。南使閩越東越。東越亦發兵從。孝景帝三

年正月甲子。初起兵於廣陵。

發使遣諸侯書曰。吳王劉濞敬問膠西王。膠東王。菑川王。濟南

王。趙王。楚王。淮南王。衡山王。廬江王。故長沙王子。

孫靖王著以文帝

彷徨天下、頗師古曰、  
彷徨ハ、猶翔翔ノ如キ  
ナリ。

治次舍須大王、頗師古  
曰、次舍ハ息止ノ處ナ  
リ、須ハ待ナリ。

而曰城陽景王云云、劉  
辰翁曰、而曰以下數語、  
是諸王ノ策ナリ、其間  
從ハザル者アリ、故ニ  
先ク後日處スル所ヲ言  
ヒ、以テ之ヲ說クノミ。

王欲內以鼂錯爲討。外隨大王後車。彷徨天下。所鄉者降。所指者下。天下莫敢不服。大王誠幸而許之一言。則吳王率楚王。略函谷關。守滎陽敖倉之粟。距漢兵。治次舍。須大王。大王有幸而臨之。則天下可并。兩主分割。不亦可乎。王曰善。高歸報吳王。吳王猶恐其不與。乃身自爲使。使於膠西。面結之。膠西羣臣或聞王謀。諫曰。承一帝至樂也。今大王與吳西鄉。第令事成。兩主分爭。患乃始結。諸侯之地不足爲漢郡什二。而爲畔逆。以憂太后。非長策也。文穎曰。王之太后也。王弗聽。遂發使約齊。菑川。膠東。濟南。濟北。皆許諾。而曰。城陽景王有義。攻諸呂。勿與事。定分之耳。徐廣曰。爾時城陽恭王喜。景王之子。諸侯既新削。振恐。多怨鼂錯。及削吳。會稽豫章郡書至。



リ、蓋犬ヲ以テ喻ト爲  
ス、初メ糠ヲ舐リ、遂  
ニ米ヲ食フニ至ルヲ言  
フナリ。

脅肩累足、顔師古曰、  
脅ハ之ヲ斂ムルヲ謂  
フ、累足ハ足ヲ重メル  
ナリ、並ニ懼ルルヲ謂  
フノミ。

王瞿然、顔師古曰、瞿  
然ハ守ナキノ貌、

盡則至。滅國也。吳與膠西知名諸侯也。一時見察。恐不得安肆矣。吳王身

有內病。不能朝請二十餘年。嘗患見疑。無以自白。今脅肩累足。

猶懼不見釋。竊聞大王以爵事有適。正義曰。所聞諸侯削地罪

不至此。此恐不得削地而已。王曰。然有之。子將奈何。高曰。同惡

相助。同好相畱。同情相成。同欲相趨。同利相死。今吳王自以爲

與大王同憂。願因時循理。棄軀以除患害於天下。億亦可乎。王

瞿然駭曰。索隱曰。劉氏瞿音九具反。又說文云。瞿遠視貌。音九縛反。寡人何敢如是。今主上雖急。固

有死耳。安得不戴。高曰。御史大夫鼂錯。熒惑天子。侵奪諸侯。蔽

忠塞賢。朝廷疾怨。諸侯皆有倍畔之意。人事極矣。彗星出。蝗蟲

數起。此萬世一時而愁勞。聖人之所以起也。

索隱曰。案所謂殷憂以啓明聖也。故吳

私姦服舍、顔師古曰、服舍ニ於テ姦ヲ爲スチ言フ、宮中ニ非ザルナリ、服舍ハ喪ニ居ルノ室ナリ。

趙王有罪削其河間郡注索隱云、案漢書作常山郡也、錢大昕曰、今攷フ、

河間ニ文帝二年、趙ノ河間郡ヲ取リ、趙王遂ノ弟辟疆ヲ立、アテ王ト爲シ、子福ニ傳フ、後ナク

國除シテ漢ニ入ル、則河間ノ漢ニ屬スル乃文帝ノ時ニ在リ、罪ヲ以テ削ルニ非ザルナリ、

楚元王世家、亦趙王常山ノ郡ヲ削ルト云フ、此傳誤ナリ。

詭譎西王、詭ハ誘ナリ、微言ヲ以テ之ヲ動スチ謂フナリ。

謂フナリ。

謂フナリ。

謂フナリ。

謂フナリ。

小。不<sub>レ</sub>削。反<sub>レ</sub>遲禍大。三年冬。楚王朝。鼂錯因言。楚王戊往年爲<sub>二</sub>薄

太后服。私<sub>二</sub>姦服舍<sub>一</sub>。服虔曰。服舍。任喪。次而私姦宮中也。請誅<sub>レ</sub>之。詔赦。罰削<sub>二</sub>東海郡<sub>一</sub>。因削<sub>二</sub>

吳之豫章郡會稽郡。及<sub>二</sub>前一年<sub>一</sub>。趙王有罪。削<sub>二</sub>其河間郡<sub>一</sub>。索隱曰。案

山郡也。膠西王卬以<sub>二</sub>賣爵有姦<sub>一</sub>。削<sub>二</sub>其六縣<sub>一</sub>。漢廷臣方議削<sub>レ</sub>吳。吳王

濞恐<sub>レ</sub>削<sub>レ</sub>地無<sub>レ</sub>已。因<sub>レ</sub>以此發<sub>レ</sub>謀欲<sub>レ</sub>舉<sub>レ</sub>事。念<sub>レ</sub>諸侯無<sub>レ</sub>足<sub>レ</sub>與<sub>レ</sub>計<sub>レ</sub>謀<sub>レ</sub>者。聞<sub>二</sub>

膠西王勇好<sub>レ</sub>氣喜<sub>レ</sub>兵。諸齊皆憚<sub>レ</sub>畏<sub>一</sub>。韋昭曰。故爲齊分爲國者。膠東濟北之屬。於是乃使中

大夫應高詭<sub>二</sub>膠西王<sub>一</sub>。索隱曰。詭。音徒鳥反。無<sub>二</sub>文書<sub>一</sub>。口報曰。吳王不肖。有<sub>二</sub>宿夕

之憂。不<sub>レ</sub>敢自<sub>レ</sub>外<sub>一</sub>。使<sub>レ</sub>喻<sub>二</sub>其驩心<sub>一</sub>。王曰。何以教<sub>レ</sub>之。高曰。今者主上興<sub>二</sub>

於姦。飾<sub>レ</sub>於<sub>二</sub>邪臣<sub>一</sub>。好<sub>二</sub>小善<sub>一</sub>。聽<sub>レ</sub>讒賊。擅<sub>レ</sub>變更<sub>レ</sub>律令。侵<sub>レ</sub>奪<sub>レ</sub>諸侯之地。徵

求<sub>レ</sub>滋<sub>レ</sub>多。誅<sub>レ</sub>罰<sub>レ</sub>良善。日以益<sub>レ</sub>甚。里語有<sub>レ</sub>之。舐<sub>レ</sub>糠及<sub>レ</sub>米。索隱曰。案言舐糠

盡則至米。謂削土

舐糠及米。顔師古曰。舐ハ舌ヲ以テ食フナ

盡則至米。謂削土

盡則至米。謂削土

盡則至米。謂削土



ス、東漢光武ノ諱ナシ  
テ茂ニ改ム、賈生傳儒  
林傳並ニ秀才ト稱ス、  
此茂字後人班史ニ依テ  
改ム。

欲來捕亡人者。訟共禁弗予。

徐廣曰。訟音松。駟按如淳曰。訟。公也。○如此

者四十餘年。

正義曰。言四十餘年者。太史公盡言吳王一代行事也。漢書作三十餘年。而班固見其語在孝文之代。乃減十年。是班固不曉其理也。

以

故能使其衆。鼂錯爲太子家令。得幸太子。數從容言。吳過可削。

數上書說孝文帝。文帝寬不忍罰。以此吳日益橫。及孝景帝卽

位。錯爲御史大夫。說上曰。昔高帝初定天下。昆弟少。諸子弱。大

封同姓。故王孽子悼惠王。王齊七十餘城。庶弟元王王楚四十

餘城。兄子濞王吳五十餘城。封三庶孽。分天下半。今吳王前有

太子之郅。詐稱病不朝。於古法當誅。文帝弗忍。因賜几杖。德至

厚。當改過自新。乃益驕溢。卽山鑄錢。煮海水爲鹽。

誘天下亡人。謀作亂。今削之亦反。不削之亦反。削之其反亟禍。

索隱曰。案卽山。山名。又卽者。就也。



請之禮也。上復責問吳使者。使者對曰。王實不病。漢繫治使者數輩。

以故遂稱病。且夫察見淵中魚不祥。

張晏曰。喻人君不當見盡下之私。○索隱曰。案此語見韓子及文子。韋昭

曰。知臣下陰私。使憂患生。變爲不祥。故當赦宥使自新也。

今王始詐病。及覺見責急。愈益閉。恐上誅

而與更始。顏師古曰。其已往ノ事ヲ教スナ言フ。

之計。乃無聊。唯上棄之。而與更始。於是天子乃赦吳使者歸之。而賜吳王几杖。老不朝。吳得釋其罪。謀亦益解。然其居國以銅

鹽故。百姓無賦。

索隱曰。按吳國有鑄錢煮鹽之利。故百姓不別徭賦也。

卒踐更。輒與平賈。

漢書音義曰。以當爲

輒與平賈注爲卒雇者其庸。札記爲卒者雇其庸。二作ル。云フ者雇誤倒ス。考證漢書注ニ據テ改ム。音灼曰。人ヲ借リ自ツ代リテ卒ト爲ル者。官爲ニ錢ヲ出シ。其時庸ヲ雇シ。賈ヲ平ニスルヲ謂フナリ。師古曰。音說是ナリ。又正義皆當選ノ下爲字アリ。云フ爲字ヲ脫ス。考證漢書昭紀注ニ據テ改増ス。

存問茂材。札記拾遺云茂才漢初モト秀才ト稱

更卒出錢三百文。謂之過更。自行爲卒。謂之踐更。吳王欲得民心。爲卒雇者。其庸隨時月與平賈。如漢桓靈時有所興作。以少府錢借民此也。○索隱曰。案漢律。卒更有三。踐更居更過更也。此言踐更輒與平賈者。謂爲踐更合自出錢。今王欲得人心。乃與平賈。官讎之也。○正義曰。踐更。若今唱更行更者也。言民自著卒更有三品。有卒更有踐更。有過更。古者正卒無常人。皆當迭之。是爲卒更。貧者欲雇更錢者。次直者出錢雇之。月二千。是爲踐更。天下人皆直戍邊三日。亦各爲更。律所謂繇戍也。雖丞相子亦在戍邊之調。不可人人自行三日戍。不行者出錢三百入官。官給戍者。是爲過更。此漢初因秦法而行之。後改爲謫。乃戍邊一歲。歲時存問茂材。賞賜閭里。佗郡國吏

章ハ當ニ故鄣ニ作ルベシ、即鄣郡ナリ。  
益鑄錢、札記雜志云、益字誤ル、文選吳都賦注、蕪城賦注、引テ並ニ益ニ作ル、漢書同ジ。

提吳太子、顏師古曰、提ハ擲ナリ。

吳王愠曰、顏師古曰、愠ハ怒ナリ。

縣有並屬章也。

漚則招致天下亡命者益鑄錢煮海水爲鹽以故無賦

國用富饒

如淳曰鑄錢煮鹽收其利以足國用故無賦於民○正義曰按既盜鑄錢何以收其利足國之用吳國之民又何得無賦如說非也言吳國山既出銅民

多盜鑄錢及煮海水爲鹽以山海之利不賦之故言無賦也其民無賦國用乃富饒也孝文時吳太子入見索隱曰姚氏案楚

名賢字德明得待皇太子飲博吳太子師傅皆楚人輕悍又素驕博爭

道不恭皇太子引博局提吳太子殺之索隱曰提音啼又音底又音弟於是遣其

喪歸葬至吳吳王愠曰正義曰於問反怨也天下同宗死長安卽葬長安何

必來葬爲復遣喪之長安葬吳王由此稍失藩臣之禮稱病不

朝京師知其以子故稱病不朝驗問實不病諸吳使來輒繫責

治之吳王恐爲謀滋甚及後使人爲秋請應劭曰冬當斷獄秋先請擇其輕重也孟康曰律春日朝

秋曰請如古諸侯朝聘也如淳曰漚不自行使人代己致請禮也○索隱曰音淨孟說是也應劭所云斷獄先請不知何憑如淳云代己致請亦是臆說且文云使人爲秋請謂使人爲此秋



立濞於沛爲吳王、顏師古曰、高祖行テ沛ニ至リ、而テ濞ヲ對拜スルナリ。

心獨悔業已拜、顏師古曰、獨悔ユル者、心ヨラ悔ヲ懷キ、以テ人ニ語ラザルナリ、既已ニ封拜ス、臣下皆之ヲ知ル、故ニ改メズ、倪思曰、秦漢以來、多ク識緯ノ說アリ、故ニ後五十年東南亂アル、蓋當時占氣者ノ說ク所、恐ラクハ高帝能ク前知スルニ非ザルナリ。

豫章郡銅山、凌稚隆曰、豫章初メ九江王布ニ屬ス、布滅スル後、淮南王長ニ屬ス、長廢スル後、廬江王賜ニ屬ス、吳ニ屬スルニ非ズ、豫

往誅之。劉仲子沛侯濞年二十。有氣力。以騎將從破布軍。斬西

會甄。索隱曰。地名也。在蘄縣之西。會音口兌反。甄音鍾。布走。荊王劉賈爲布所殺。無後。上患吳

會稽輕悍。無壯王以填之。索隱曰。填音鎮。諸子少。乃立濞於沛爲吳王。

徐廣曰。十二年十月辛丑。王三郡五十三城。已拜受印。高帝召濞相之。謂曰。若

狀有反相。心獨悔。業已拜。因拊其背。索隱曰。拊音撫。告曰。漢後五十年。

東南有亂者。豈若邪。徐廣曰。漢元年至景帝三年反。五十有三年。黜案應劭曰。克期五十。占者所知。若秦始皇東巡以厭氣。後劉項起東南。疑

當如此耳。如淳曰。度其貯積。足用爲難。又吳楚世不賓服。○索隱曰。案應氏之意。以後五十年東南有亂。本是占氣者所說。高祖素聞此說。自以前難未萌。恐後災更生。故說此言。更以戒濞。

如淳之說。然天下同姓爲一家也。慎無反。濞頓首曰。不敢。會孝惠亦合事理。

高后時。天下初定。郡國諸侯各務自拊循其民。吳有豫章郡銅

山。韋昭曰。今故章。○索隱曰。案鄆郡後改曰故章。或稱豫章爲衍字也。○正義曰。括地志云。秦兼天下以爲鄆郡。今湖州長城縣西南八十里。故章城是也。銅山。今宜州及潤州句容



史記評林卷之一百六

吳王濞列傳第四十六

索隱曰。五宗之國。俱享大邦。雖復逆亂萌心。取汙朝典。豈可謂非青社之國哉。然淮南猶有後不絕。衡山亦其罪蓋輕。比三卿之分晉。方暴秦之滅周。可不優乎。安得出其王國。不上同五宗三王。列於世家。其吳濞請與楚元王同爲一篇。淮南宜與齊悼惠王爲一篇。

吳王濞者。

索隱曰。案彭濞字也。音披位反。

高帝兄劉仲之子也。

徐廣曰。仲名喜。

高帝已定天

下七年。立劉仲爲代王。而匈奴攻代。劉仲不能堅守。棄國亡。閒

行走雒陽。

索隱曰。謂獨行從他道逃走。閒音紀閑反。

自歸天子。天子爲骨肉故。不忍致法。

廢以爲郃陽侯。

索隱曰。地理志。馮翊縣名。在郃水之陽。音合。正義曰。郃陽故城在同州河西縣南三十里。

高帝十一年

秋。淮南王英布反。東并荊地。劫其國兵。西度淮。擊楚。高帝自將

於耳耳和則聞五音矣。五藏不和則九竅不通。六府不和則  
留爲癰也。

蘇子古史曰。予於趙世家。削簡子之夢。黜扁鵲之說。以爲爲國不可以語怪。及扁鵲列傳。則具載其說。曰世或有是。不足怪也。蓋孔子作春秋。非人事不書。而左丘明所記。鬼神變怪。世所其傳者。錄之無疑。世有達者。當辨此耳。

度也。寸口脈之大會。手太陰之動也。

太陰者肺之脈也。肺諸藏上蓋主通陰陽。故十二經皆會手太陰。寸口所

以決吉凶者。十二經有病皆見寸口。知其何經之動浮沈滑濇逆順。知其死生。

人一呼脈行三寸。一吸脈行三

寸。呼吸定息脈行六寸。

十二經十五絡二十七氣皆候於寸口。隨呼吸上下呼脈上行三寸。吸脈下行三寸。二十七氣皆隨上下

行無有休息時。

人一日一夜凡一萬三千五百息。脈行五十周於身。漏

水下百刻。營衛行陽二十五度。行陰二十五度。度為一周也。

故五度復會於手太陰。寸口者五藏六府之所終始。故法於

寸口也。

人一息行六寸。百息六丈。千息六十丈。一萬三千五百息。合為八百一十丈。陽脈出行二十五度。陰脈入行二十五度。陰陽出入行二十五度。陰陽呼吸

覆行周畢度數也。脈行身畢。即水下百刻亦畢。謂一日一夜刻盡。天明日出東方。脈還得寸口。當更始也。故寸口者五藏六府之所終始也。

肺於通於鼻。

鼻和則知臭香矣。肝氣通於目。目和則知白黑矣。脾氣通於

口。口和則知穀味矣。心氣通於舌。舌和則知五味矣。腎氣通

故五度復會於手、札記五十度ニ作ル、云フ十字吳増ス。



注又名臍腸、札記又名臍也。二作リ、云フ此何字ノ誤ナルヲ知ラズ。

從手至頭長三尺、札記五尺ニ作ル、云フ五ナ三ニ誤ス、吳校改ム、下ノ數ト合ス、注故云五六三也、札記也ナ丈ニ作ル、云フ官本丈、各本也ニ誤ル。

合三丈九尺注各有六陰、札記三陰ニ作ル。

督脈、札記云、督任脈、任字吳校増ス。

曰鈺門。即廣腸之門。又名臍腸。手三陽之脈。從手至頭長三尺。五六合三丈。一手有三

陽。兩手爲六陽。手三陰之脈。從手至臍中長三尺五寸。三六一丈。故云五六三也。

八尺。五六三尺。合二丈一尺。兩手各有三陰。合爲六陰。故云三六一丈八尺也。足三陽之脈。

從足至頭長八尺。六八合四丈八尺。兩足各有三陽。故曰六八四丈八尺也。足三陰

之脈。從足至臍長六尺五寸。六六三丈六尺。五六三尺。合三

丈九尺。兩足各有六陰。故云六六三丈六尺也。按足太陰少陰。皆至舌下。厥陰至於項上。今言至臍中者。蓋據其相接之次者也。人兩足躄

脈。從足至目長七尺五寸。二七一丈四尺。二五一尺。合一丈

五尺。督脈各長四尺五寸。二四八尺。二五一尺。合九尺。凡脈

長一十六丈二尺也。此所謂十二經脈長短之數也。督脈起於

面至口齒縫。計此不止長四尺五寸。當取其上極於風府而言之也。手足各十二脈。爲二十四。并督任兩躄四脈。都合二十八脈。以應二十八宿。凡長十六丈二尺。營衛行周此數。則一

大腸重二斤、札記三斤  
ニ作ル、云フ官本三、各  
本ニ作ル、長二丈一  
尺、札記云、大腸即同  
腸ナリ、上文云二丈二  
尺。

肛門、札記云、肛門即  
廣腸ナリ、胃小腸大腸  
廣腸ノ尺寸容納、並ニ  
複衍ス。

少半。廻積十六曲。盛穀二斗四升。水六升三合。合之太半。腸暢

也。言通暢胃氣去滓穢也。

其神二人。元梁使者也。

大腸重二斤十二兩。長二丈一尺。廣四寸。

徑一寸半。當齊。右廻十六曲。盛穀一斗。水七升半。

大腸即廻腸也。其廻曲因

以名之。其神二人。元梁使者也。

膀胱重九兩二銖。縱廣九寸。盛溺九升九合。

膀胱也。橫

廣也。體短而又名胞。胞虛空也。主以虛承水液。

口廣二寸半。脣至齒長九分。齒已後至會

厭深三寸半。大容五合也。舌重十兩。長七寸。廣二寸半。

舌泄也。言

可舒泄言語也。

咽門重十兩。廣一寸半。至胃長一尺六寸。

咽嚥也。言咽物也。又謂之咽主

地氣。胃爲土。故云主地氣也。

喉嚥重十二兩。廣二寸。長一尺二寸。九節。

喉嚥空虛也。言其中

空虛。可以通氣息焉。即肺之系也。呼吸之道。路。喉嚥與咽並行。其實兩異而人多惑也。

肛門重十二兩。大八寸。徑二

寸太半。長二尺八寸。受穀九升三合。八分合之一。

肛。肛也。言其處似車釘。故

世ニ誤リ、三ナ也ニ誤  
ル、官本誤ラズ。

主藏榮、札記榮ナ意ニ  
作ル、ニフ榮ニ誤ル、考  
證案問ニ據テ改ム。

蘭臺府從官三千六百人。又云。肝神六童子三世子也。

心重十二兩。中有七孔三毛。盛精汁三

合。主藏神。

心。纖也。所識纖微也。其神九。太尉公名曰絳宮太始南極老人。貢光之身。其從官三千六百人。又爲帝王身之主也。

脾重二斤

三兩。扁廣三寸。長五寸。有散膏半斤。主裹血。溫五藏。主藏榮。

脾。裨也。在助氣主化穀。其神玄光

玉。女子母。其從官三千六百人也。

肺重三斤三兩。六葉兩耳。凡八葉。主

藏魂魄。

肺。字也。言其氣字。故短也。鬱也。其神八人。太和君名曰玉堂宮。尙書府。其從官三千六百人。又云。肺神十四童子七女子七也。

腎有兩

枚。重一斤一兩。主藏志。

腎。引也。腎屬水。主引水氣灌注諸脈也。其神六人。司徒。司空。司命。司錄。司隸校尉。尉卿也。

膽在

肝之短葉間。重三兩三銖。盛精汁三合。

膽。敢也。言人有膽氣而能果敢也。其神五人。大一道君居

紫房宮中。其從官

三千六百人也。

胃重二斤十四兩。紆曲屈申。長一尺六寸。大一

尺五寸。徑五寸。盛穀二斗。水一斗五升。

胃。圍也。言圍受食物也。其神十二人。五元之氣。諫議大夫

也。

小腸重二斤十四兩。長三丈二尺。廣二寸半。徑八分。分之



索隱述贊曰。上池祕術。長桑所傳。始侯趙簡。知夢鈞天。言占號嗣。尸歷起焉。倉公贖罪。陽慶推賢。效驗多狀。式具于篇。

正義曰云云。札記云、按ズルニ、此下藏府脈法、蓋張守節附シ合刻スル所ナリ、各本皆之アリ、姑ク其舊ニ從フ。横屈一ニ横尺ニ作ル。

合之太半注小腸云云、札記下回腸ニ注シ、小腸謂受穀而傳入於大腸ニ作ル、長二丈一尺ハ、二丈二尺ニ作ル。

主藏魂注世子也、札記女子三ニ作ル、云、女ナ

正義曰。胃大<sup>一</sup>一尺五寸。徑<sup>二</sup>五寸。長<sup>三</sup>二尺六寸。横屈<sup>四</sup>。受<sup>五</sup>水穀<sup>六</sup>三斗五升。其中常<sup>ニ</sup>留<sup>ル</sup>穀<sup>三</sup>二斗。水<sup>四</sup>一斗五升。

凡人食入於口。而聚於胃中。穀熟傳入小腸也。

小

腸大<sup>一</sup>二寸半。徑<sup>二</sup>八分。分<sup>三</sup>之少半。長<sup>四</sup>三丈二尺。受<sup>五</sup>穀<sup>六</sup>二斗四升。

水六升三合。合之太半。

小腸受胃之穀。而傳入於大腸。

回腸大<sup>一</sup>四寸。徑<sup>二</sup>一寸半。

長<sup>一</sup>二丈一尺。受<sup>二</sup>穀<sup>三</sup>一斗。水<sup>四</sup>七升半。廣腸大<sup>一</sup>八寸。徑<sup>二</sup>二寸半。長<sup>三</sup>

二尺八寸。受<sup>二</sup>穀<sup>三</sup>九升三合。八寸半之一。故腸胃凡長<sup>一</sup>五丈八

尺四寸。合<sup>一</sup>受<sup>二</sup>水穀<sup>三</sup>八斗七升六合。八分合之一。此腸胃長短

受<sup>二</sup>水穀<sup>三</sup>之數也。

甲乙經。腸胃凡長丈六尺四寸四分。從口至腸而數之故長。此經從胃至腸而數之故短。

肝重<sup>一</sup>四斤四

兩。左三葉。右四葉。凡七葉。主<sup>一</sup>藏<sup>二</sup>魂<sup>三</sup>。

肝者。幹也。於五行爲木。其體狀有枝幹也。肝之神七人。老子名曰明堂宮。

侯家丞杜信喜脈來學。臣意教以<sub>ニ</sub>上下經脈五診<sub>一</sub>。二歲餘。臨菑召里唐安來學。臣意教以<sub>ニ</sub>五診上下經脈。奇咳四時應<sub>ニ</sub>陰陽重<sub>一</sub>。未成。除爲<sub>ニ</sub>齊王侍醫<sub>一</sub>。

問<sub>ニ</sub>臣意<sub>一</sub>診病決<sub>ニ</sub>死生<sub>一</sub>。能全無失乎。臣意對曰。意治<sub>ニ</sub>病人<sub>一</sub>。必先切<sub>ニ</sub>其脈<sub>一</sub>。乃治之。敗逆者不可治。其順者乃治之。心不精脈。所期死生視可治。時時失之。臣意不能全也。

太史公曰。女無<sub>ニ</sub>美惡<sub>一</sub>。居<sub>ニ</sub>宮<sub>一</sub>見<sub>ニ</sub>妬<sub>一</sub>。士無<sub>ニ</sub>賢不肖<sub>一</sub>。入<sub>ニ</sub>朝<sub>一</sub>見<sub>ニ</sub>疑<sub>一</sub>。故扁鵲以其伎見<sub>ニ</sub>殃倉公<sub>一</sub>。乃匿<sub>ニ</sub>迹<sub>一</sub>。自隱而當<sub>ニ</sub>刑<sub>一</sub>。緹縈通<sub>ニ</sub>尺牘<sub>一</sub>。父得<sub>ニ</sub>以後<sub>一</sub>寧。故老子曰。美好者不祥之器。豈謂<sub>ニ</sub>扁鵲等<sub>一</sub>邪。若<sub>ニ</sub>倉公<sub>一</sub>者。可謂<sub>ニ</sub>近之<sub>一</sub>矣。

其人亦老矣。其家給富。時者未往。會慶子男殷來獻馬。因師光

奏馬王所意。以故得與殷善。光又屬意於殷。曰。意好數。索隱曰。數

好術數也。公必謹遇之。其人聖儒。索隱曰。言意儒德慕聖人之道。故云聖儒也。即為書。以意屬

陽慶。以故知慶。臣意事慶謹。以故愛意也。

問臣意曰。吏民嘗有事學意方。及畢盡得意方。不何縣里人對。

曰。臨菑人宋邑。徐廣曰。一作昆。邑學。臣意教以五診。正義曰。謂診五藏之脈。歲餘。濟

北王遣太醫高期王禹。徐廣曰。一作麟。學。臣意教以經脈高下。及奇絡

結。正義曰。素問云。奇經八脈。往來舒時。一止而復來。名之曰結也。當論俞所居。正義曰。俞音式。喻反。及氣當上下出

入邪逆順。以宜鑱石。定砭灸處。歲餘。菑川王時遣太倉馬長馮

信。正。方。臣意教以案法。逆順。論藥法。定五味。及和齊湯法。高永

上下出入邪逆順、札記  
雜志云、邪下正字ナ脱  
ス、御覽引テ有リ、元  
龜引テ亦邪正ニ作ル。



古傳方、札記雜志云、  
當ニ傳古方ニ作ルベ  
シ、索隱正義證スベシ。

悉受書之、札記云、舊  
刻之ヲ而ニ作り、下句  
ニ屬ス。

多驗精良。臣意聞菑川唐里公孫光善爲古傳方。索隱曰。謂好能傳  
得古方也。○正義  
曰。謂全傳寫得  
古人之方書。

徐廣曰。法

一作五。

臣意悉受書之。臣意欲盡受他精方。公孫光曰。吾方盡

矣。不爲愛公所。索隱曰。言於意所。  
不愛惜方術也。吾身已衰。無所復事之。是吾年少

所受妙方也。悉與公。毋以教人。臣意曰。得見事侍公前。悉得禁

方。幸甚。意死不敢妄傳。人居有閒。公孫光閒處。正義曰。上音  
閑。下昌汝反。臣意

深論方。見言百世爲之精也。師光喜曰。公必爲國工。吾有所善

者。皆疏。同產處臨菑。善爲方。吾不若。其方甚奇。非世之所聞也。

吾年中時。嘗欲受其方。索隱曰。案年中。謂中年時也。  
中年亦壯年也。古人語自爾。楊中倩不肯。索隱  
曰。倩

音七見反。曰。若非其人也。胥與公往見之。徐廣曰。胥。  
猶言須也。當知公喜方也。

氣之趨也。而徐之。不應。天道四時。後聞醫灸之。卽篤此論病之過也。臣意論之。以爲神氣爭。而邪氣入。非年少所能復之也。以故死。所謂氣者。當調飲食。擇晏日。車步廣志。以適筋骨肉血脈。以瀉氣。故年二十。是謂易賀。徐廣曰。一作賀。又作質。法不當砭灸。砭灸至氣逐。

問臣意。師慶安受之。聞於齊諸侯。不對曰。不知慶所師受。慶家富。善爲醫。不肯爲人治病。當以此故不聞。慶又告臣意曰。慎毋令我子孫知。若學我方也。

問臣意。師慶何見於意。而愛意。欲悉教意方。對曰。臣意不聞師慶爲方善也。意所以知慶者。意少時好諸方事。臣意試其方。皆

意家貧。欲爲人治病。誠恐吏以除拘臣意也。

徐廣曰。時諸侯得自拜除吏。

故移

名數左右。

正義曰。以名籍屬左右之人。

不修家生。出行游國中。問善爲方數者。

事之久矣。

索隱曰。數音術數之數。

見事數師。

正義曰。上色庚反。

悉受其要事。盡其方書。

意及解論之。身居陽虛侯國。因事侯。侯入朝。臣意從之。長安以

故得診安陵項處等病也。

問臣意。知文王所以得病不起之狀。臣意對曰。不見文王病。然

竊聞文王病喘。頭痛。目不明。臣意心論之。以爲非病也。以爲肥

而蓄精。身體不得搖。骨肉不相任。故喘。不當醫治。脈法曰。年二

十。脈氣當趨。年三十。當疾步。年四十。當安坐。年五十。當安臥。年

六十已上。氣當大董。

徐廣曰。董。謂深藏之一。作董。○索隱曰。董音謹。

文王年未滿二十。方脈



有數者皆異之、札記皆  
不能作ル、云フ淺本  
能サ皆ニ誤ル。

乃別百病以異之。有數者皆異之。

索隱曰。數音色住反。謂術數之人乃可異其狀也。

無數者同

之。然脈法不可勝驗。診疾人以度異之。乃可別同名。命病主在

所居。今臣意所診者。皆有診籍。所以別之者。臣意所受師方適

成。師死。以故表籍所診。期決死生。觀所失所得者。合脈法。以故

至。今知之。

問臣意曰。所期病決死生。或不應期。何故。對曰。此皆飲食喜怒

不節。或不當飲藥。或不當鍼灸。以故不中期死也。

問臣意。意方能知病死生。論藥用所宜。諸侯王大臣有嘗問意

者。不及文王病時。

徐廣曰。齊文王也。以文帝十五年卒。

不求意診治。何故。對曰。趙王膠

西王濟南王吳王。皆使人來召臣意。臣意不敢往。文王病時。臣

曰。牡疝。

索隱曰。上音母。下音色諫反。

牡疝在鬲下。上連肺。病得之內。臣意謂之。

慎毋爲勞力事。爲勞力事。則必嘔血死。處後蹴踘。

徐廣曰。一作踰。正義曰。謂打毬也。

要歷寒。汗出多。卽嘔血。臣意復診之曰。當旦日日夕死。

索隱曰。案旦日。明日也。言明日卽死。病得之內。所以知項處病者。切其脈。得番陽。索隱曰。脈病之

也。言明日之夕死也。

卽死。病得之內。所以知項處病者。切其脈。得番陽。

索隱曰。脈病之

名曰番陽者。以言陽脈之翻入虛裏也。

番陽入虛裏處。旦日死。一番一絡者。

徐廣曰。絡一作結。

牡

疝也。臣意曰。他所診期決死生。及所治已病衆多。久頗忘之。不

能盡識。不敢以對。

問臣意。所診治病。病名多同。而診異。或死。或不死。何也。對曰。病

名多相類。不可知。故古聖人爲之脈法。以起度量。立規矩。縣權

衡。案繩墨。調陰陽。別人之脈。各名之。與天地相應。參合於人。故

臣意常診安陽、札記常  
ナ警ニ作ル、云フ宋本  
警、各本常ニ譌ス。

使人瘖注一作瘖、札記  
云、疑フ當ニ瘖ニ作ル  
ベシ、故ニ音才赤反ナ  
リ。

以爲蹙。臣意診脈。以爲痺。根在右脅下。大如覆杯。令人喘。逆氣  
不能食。臣意卽以火齊粥且飲。六日氣下。卽令更服丸藥。出入  
六日。病已。病得之內。診之時。不能識其經解。大識其病所在。

臣意常診安陽武都里成開方。開方自言以爲不病。臣意謂之  
病苦沓風。索隱曰。沓音徒合反。風病之名也。三歲四支不能自用。使人瘖。徐廣曰。一作瘖。瘖音才亦反。

○索隱曰。瘖者。失聲也。讀如音。又作瘖。瘖者。置也。言使人運置其手足也。瘖卽死。今聞其四支不能用。瘖而未

死也。病得之數飲酒。以見大風氣。所以知成開方病者。診之。其

脈法奇咳。言曰。藏氣相反者死。徐廣曰。反一作及。切之。得腎反肺。徐廣曰。反一作及。

法曰。三歲死也。

安陵阪里公乘項處病。

索隱曰。案公乘。官名也。項。姓。處。名。故上云倉公之師。元里公乘陽慶亦然也。

臣意診脈



水火之齊。故中熱。卽爲陰石柔齊治之。中寒。卽爲陽石剛齊治

之。臣意曰。公所論遠矣。扁鵲雖言若是。然必審診。起度量。立規

矩。稱權衡。合色脈。徐廣曰。合一作占。表裏有餘不足。順逆之法。參其人動

靜與息相應。乃可以論。論曰。陽疾處內。陰形應外者。不加悍藥

及鑱石。夫悍藥入中。則邪氣辟矣。索隱曰。辟音必。亦反。猶聚也。而宛氣愈深。索隱

曰。愈音庚。診法曰。二陰應外。一陽接內者。不可以剛藥。剛藥入則動

陽。陰病益衰。陽病益著。邪氣流行。爲重困於俞。徐廣曰。音始喻反。忿發爲

疽。意告之後百餘日。果爲疽發乳上。入缺盆死。索隱曰。按缺盆。人乳房上骨名也。此

謂論之大體也。必有經紀。拙工有一不習。文理陰陽失矣。

齊王故爲陽虛侯時。病甚。徐廣曰。齊悼惠王子也。名將廬。以文帝十六年爲齊王。卽位十一年卒。諡孝王。衆醫皆

果爲疽。札記云。御覽引爲病作。疑。今本上二涉。誤。

喜養陽處、札記養喜陽  
處ニ作ル、云フ宋本毛  
本上句ト一例ナリ、他  
本養喜倒ス。

知<sup>ル</sup>破<sup>ス</sup>石<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>病<sup>ヲ</sup>者。切<sup>スル</sup>其<sup>ノ</sup>脈<sup>ヲ</sup>。得<sup>ル</sup>肺<sup>ノ</sup>陰<sup>ノ</sup>氣<sup>ヲ</sup>。其<sup>ノ</sup>來<sup>ル</sup>散<sup>シ</sup>。數<sup>ニ</sup>道<sup>ヲ</sup>至<sup>リ</sup>而<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>一<sup>ナ</sup>也。色  
又<sup>ス</sup>乘<sup>ス</sup>之<sup>ニ</sup>。所以<sup>ニ</sup>知<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>墮<sup>ル</sup>馬<sup>ヲ</sup>者。切<sup>スル</sup>之<sup>ヲ</sup>。得<sup>ル</sup>番<sup>ノ</sup>陰<sup>ノ</sup>脈<sup>ヲ</sup>。索隱曰。番  
音芳遠反。番<sup>ノ</sup>陰<sup>ノ</sup>脈<sup>ヲ</sup>入<sup>ル</sup>虛<sup>ニ</sup>  
裏<sup>ニ</sup>。乘<sup>ス</sup>肺<sup>ノ</sup>脈<sup>ヲ</sup>。肺<sup>ノ</sup>脈<sup>ヲ</sup>散<sup>スル</sup>者。固<sup>ト</sup>色<sup>ニ</sup>變<sup>ズル</sup>也。乘<sup>ス</sup>之<sup>ニ</sup>。所以<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>中<sup>ル</sup>期<sup>ニ</sup>死<sup>セ</sup>者。師<sup>ノ</sup>言<sup>ハス</sup>曰<sup>ク</sup>。  
病<sup>者</sup>安<sup>スル</sup>穀<sup>ニ</sup>卽<sup>チ</sup>過<sup>グ</sup>期<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>安<sup>ス</sup>穀<sup>ニ</sup>則<sup>チ</sup>不<sup>レ</sup>及<sup>ズ</sup>期<sup>ニ</sup>。其<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>嗜<sup>ム</sup>黍<sup>ヲ</sup>。黍<sup>ハ</sup>主<sup>ル</sup>肺<sup>ヲ</sup>。故<sup>ニ</sup>過<sup>グ</sup>期<sup>ヲ</sup>。  
所以<sup>ニ</sup>洩<sup>スル</sup>血<sup>ヲ</sup>者。診<sup>ス</sup>脈<sup>ヲ</sup>法<sup>ヲ</sup>曰<sup>ク</sup>。病<sup>者</sup>養<sup>ム</sup>喜<sup>ニ</sup>陰<sup>ノ</sup>處<sup>ヲ</sup>者。順<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>。喜<sup>ニ</sup>養<sup>ム</sup>陽<sup>ノ</sup>處<sup>ヲ</sup>者。逆<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>。  
其<sup>ノ</sup>人<sup>ノ</sup>喜<sup>ミテ</sup>自<sup>ラ</sup>靜<sup>ナ</sup>。不<sup>レ</sup>躁<sup>ナ</sup>。又<sup>チ</sup>久<sup>ク</sup>安<sup>シ</sup>坐<sup>シ</sup>。伏<sup>シテ</sup>几<sup>ニ</sup>而<sup>レ</sup>寐<sup>ス</sup>。故<sup>ニ</sup>血<sup>ヲ</sup>下<sup>ス</sup>泄<sup>ス</sup>。

齊<sup>ノ</sup>王<sup>ノ</sup>侍<sup>シ</sup>醫<sup>ス</sup>遂<sup>ニ</sup>病<sup>ム</sup>。自<sup>ラ</sup>練<sup>リテ</sup>五<sup>ニ</sup>石<sup>ヲ</sup>服<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。臣<sup>ノ</sup>意<sup>ヲ</sup>往<sup>イテ</sup>過<sup>グ</sup>之<sup>ニ</sup>。遂<sup>ニ</sup>謂<sup>テ</sup>意<sup>ヲ</sup>曰<sup>ク</sup>。不<sup>レ</sup>肖<sup>ナ</sup>有<sup>ル</sup>  
病<sup>ヲ</sup>。幸<sup>ニ</sup>診<sup>セ</sup>遂<sup>ヲ</sup>也。臣<sup>ノ</sup>意<sup>ヲ</sup>卽<sup>チ</sup>診<sup>シテ</sup>之<sup>ヲ</sup>。告<sup>テ</sup>曰<sup>ク</sup>。公<sup>ノ</sup>病<sup>中</sup>熱<sup>ニ</sup>。論<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。中<sup>ニ</sup>熱<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>洩<sup>セ</sup>者。不<sup>レ</sup>  
可<sup>レ</sup>服<sup>ス</sup>五<sup>ニ</sup>石<sup>ヲ</sup>。石<sup>ハ</sup>之<sup>ノ</sup>爲<sup>ル</sup>藥<sup>ニ</sup>精<sup>ニ</sup>悍<sup>ニ</sup>。公<sup>ノ</sup>服<sup>シテ</sup>之<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>得<sup>ズ</sup>數<sup>ニ</sup>洩<sup>スル</sup>。亟<sup>カニ</sup>勿<sup>レ</sup>服<sup>スル</sup>。色<sup>ヲ</sup>將<sup>ニ</sup>發<sup>セント</sup>臃<sup>ナ</sup>。  
遂<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。扁<sup>ノ</sup>鵲<sup>ノ</sup>曰<sup>ク</sup>。陰<sup>ノ</sup>石<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>治<sup>ス</sup>陰<sup>ノ</sup>病<sup>ヲ</sup>。陽<sup>ノ</sup>石<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>治<sup>ス</sup>陽<sup>ノ</sup>病<sup>ヲ</sup>。夫<sup>ノ</sup>藥<sup>石</sup>者。有<sup>ル</sup>陰<sup>ノ</sup>陽

痼疾、札記云、元龜引  
疾驅ニ作ル、疑フ是  
ナリ。

左右閣都尉注索隱閣即  
宮閣、札記云、此ニ據  
レバ、則閣ハ當ニ閣ニ  
作ルベシ、御覽引テ正  
ニ閣ニ作ル。

噓輒後之。徐廣曰。如廁。病得之飽食而疾走。淳于司馬曰。我之王家。

食馬肝。食飽甚。見酒來。即走去。驅疾至舍。即泄數十出。臣意告

曰。爲火齊米汁飲之。七八日而當愈。時醫秦信在旁。臣意去。信

謂左右閣都尉曰。索隱曰。案閣者。姓也。爲都尉。一云。閣。即宮閣。都尉掌之。故曰閣都尉也。意以淳于司馬病

爲何。曰。以爲迴風可治。信即笑曰。是不知也。淳于司馬病。法當

後九日死。即後九日不死。其家復召臣意。臣意往問之。盡如意

診。臣即爲一火齊米汁使服之。七八日病已。所以知之者。診其

脈時。切之。盡如法。其病順。故不死。

齊中郎破石病。臣意診其脈。告曰。肺傷。不治。當後十日丁亥。洩

血死。即後十一日。洩血而死。破石之病。得之墮馬僵石上。所以



出左口。故曰。欲男子不可得也。

臨菑汜里女子薄吾病甚。

索隱曰。汜音凡。

衆醫皆以爲寒熱篤。當死。不治。

臣意診其脈曰。螻瘻。

徐廣曰。螻音饒。○索隱曰。音饒。舊音遠退。○正義曰。人腹中短蟲。

螻瘻爲病。腹大。上

膚黃麤。循之戚戚然。臣意飲以芫華一撮。卽出。螻可。數升。病已。

三十日如故。病螻得之於寒溼。寒溼氣宛。

音鬱。○索隱曰。又如字。

篤不發。化

爲蟲。臣意所以知寒薄吾病者。切其脈。循其尺。

正義曰。王叔和云。寸關尺。寸謂三分。尺謂

八分。寸口在關上。尺在關下。寸關尺共有一寸九分也。

其尺索刺麤而毛美奉髮。

徐廣曰。奉一作奏。又作秦。○索隱曰。循音巡。案

謂手循其尺索也。刺音七賜反。麤音七胡反。言循其尺索刺人手而麤。是婦人之病也。徐氏云。奉一作奏。非其義也。又云。一作秦。秦謂螻首。言髮如螻蟬。事蓋近也。

是蟲氣

也。其色澤者。中藏無邪氣及重病。

齊淳于司馬病。臣意切其脈。告曰。當病迴風。迴風之狀。飲食下

病螻。札記雜志云。螻字衍ナリ。凡篇內病得之於某ト稱スル者。皆病名ナリ。言ハズ。所以知寒薄吾病者。札記寒字ナシ。云フ各本薄吾上寒字ナリ。各本志宋本ナリ。及ビ中統毛本並ニナシ。毛美奉髮注奉一作奏。又作秦。札記云。秦。宋本舊刻毛本元龜引テ並ニ奉ニ作ル。按ズルニ。拳。古卷ニ作ル。小雅疊疊如蓬是ナリ。義ニ於テ長ト爲ス。然ルニ小司馬見本。已ニ秦ニ作ル。故ニ螻首ヲ以テ之ヲ釋ス。注索隱奉一作奏。札記云。單本驛ニ作ル。

上文瀉腎ニ因テ誤ル、  
五藏ノ輪、扁鵲傳ニ見  
ユ、正義ノ說非ナリ。  
卽弄之、札記雜志云、  
御覽引テ取弄之ニ作  
ル、義長ズ。

有<sup>リ</sup>要脊痛。往四五日。天雨。黃氏諸倩。

徐廣曰。倩者。女壻也。關案方言曰。東齊之間。壻謂之倩。郭璞曰。言可假倩。

也。○正義曰。

倩音七姓反。見建家京下方石。

徐廣曰。京者。倉廩之屬也。

卽弄之。建亦欲效之。效

之。不能起。卽復置之。暮要脊痛。不得溺。至今不愈。建病得之好

持重。所以知建病者。臣意見其色。太陽色乾。腎部上及界。要以

下者枯四分所。故以往四五日知其發也。臣意卽爲柔湯。使服

之。十八日所而病愈。

濟北王侍者韓女病。要背痛。寒熱。衆醫皆以爲寒熱也。臣意診

脈曰。內寒。月事不下也。卽竄以藥。

索隱曰。謂以藥燻之。故云竄。音七亂反。

旋下。病已病

得之。欲男子而不可得也。所以知韓女之病者。診其脈時。切之

腎脈也。澹而不屬。澹而不屬者。其來難堅。故曰。月不下。肝脈弦。

灸於火、札記灸ヲ灸ニ  
作ル、云フ毛本灸ヲ灸  
ニ作ル。

諸客坐、札記雜志云、  
諸客上與字ヲ脱ス、御  
覽引テ有リ。

客腎濡、札記云、濡疑  
フ當ニ輪ニ作ルベシ、

愈順。及<sup>ナレバ</sup>一時。其所以四月死者。診<sup>ス</sup>其人。時愈順。愈順者人尙肥<sup>ホユル</sup>

也。奴之病。得<sup>ル</sup>之流汗數出。灸<sup>ヤツ</sup>於火而以出見<sup>デタ</sup>大風也。

菑川王病。召<sup>シテ</sup>臣意診脈。曰蹶上。

正義曰。時掌反。蹶逆氣上也。

爲<sup>シ</sup>重頭痛。身熱。使<sup>ニ</sup>

人煩懣<sup>セ</sup>。

正義曰。亡本反。非但有煩也。

臣意卽以寒水拊<sup>シ</sup>其頭。

索隱曰。拊音附。又音撫。

刺足陽

明脈。左右各三所。病旋已。病得之沐髮未乾而臥。診如前。所以

蹶頭熱至肩。

齊王黃姬兄黃長卿家有酒召客。召<sup>ス</sup>臣意。諸客坐。未<sup>ダ</sup>上食。臣意

望見王后弟宋建。告<sup>ツ</sup>曰。君有病。往四五日君要脅痛。不可俛仰。

正義曰。上音免。

又不得小溲。不<sup>レ</sup>亟治。病卽入<sup>ニ</sup>濡腎。及其未<sup>ダ</sup>舍五藏。急治<sup>セ</sup>之。

病方今客腎濡。

正義曰。濡。溺也。病方客在腎。欲溺腎也。

此所謂腎痺也。宋建曰。然。建故



即召舍人奴、札記志疑云、奴字衍也。

告<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>曰。此傷脾氣也。當<sub>ニ</sub>至<sub>リ</sub>春。鬲塞不通。不能<sub>ニ</sub>食飲<sub>スル</sub>。法至<sub>リ</sub>夏。泄<sub>シテ</sub>血死。宦者平即往告相曰。君之舍人奴有病。病重。死期有<sub>レ</sub>日。相君曰。卿何以知<sub>レ</sub>之。曰。君朝時入<sub>レ</sub>宮。君之舍人奴盡食<sub>ニ</sub>閨門外<sub>ニ</sub>。平與倉公立。即示<sub>シテ</sub>平曰。病如是者死。相即召<sub>シテ</sub>舍人<sub>ナ</sub>〔奴〕而謂<sub>レ</sub>之曰。公奴有病不<sub>ヤ</sub>。舍人曰。奴無病。身無痛者。至<sub>ニ</sub>春果病<sub>ニ</sub>。至<sub>ニ</sub>四月泄<sub>シテ</sub>血死<sub>ス</sub>。所以知<sub>ニ</sub>奴病者<sub>ニ</sub>。脾氣周乘<sub>ニ</sub>五藏<sub>ニ</sub>。傷<sub>レ</sub>部而交<sub>ル</sub>。故傷<sub>レ</sub>脾之色也。望<sub>ム</sub>之殺然黃。トシテ徐廣曰。殺音蘇葛反。スルニ察<sub>レ</sub>之如<sub>ニ</sub>死青之茲<sub>ニ</sub>。衆醫不知<sub>ヲ</sub>。以爲<sub>ニ</sub>大蟲<sub>ト</sub>。索隱曰。即蚘蟲也。不知傷脾。所以至<sub>ニ</sub>春死<sub>ニ</sub>。病者胃氣黃。黃者土氣也。土不勝木。故至<sub>ニ</sub>春死<sub>ニ</sub>。所以至<sub>ニ</sub>夏死者<sub>ニ</sub>。脈法曰。病重而脈順清者曰<sub>ニ</sub>內關<sub>ト</sub>。內關之病。人不知<sub>ヲ</sub>。其所痛。心急然無苦。若加以<sub>ニ</sub>一病<sub>ニ</sub>。死<sub>ニ</sub>中春<sub>ニ</sub>。一

心急然無苦、札記云、急字疑フ誤ル。

此亦關內之病也。札記  
雜志云、關內當ニ内關  
ニ作ルベシ、此上文齊  
侍御史成内關之病ヲ承  
ク、故ニ亦ト云フ、下  
文齊丞相舍人奴病亦内  
關ト曰フ、内關ハ猶内  
閉ノ如シ、雲樞終始篇  
ニ、溢陰ヲ内關ト爲ス、  
死シテ治セズトアリ。  
大陽明脈、札記云宋本  
大々太ニ作ル、毛本ナ  
シ、疑フ此四字誤アリ。

色澤。脈不衰。此亦關內之病也。

齊中大夫病齟齬。

正義曰。上丘羽反。釋名云。齟齬。朽也。蟲齧之缺朽也。

臣意灸其左大陽明脈。即

爲苦參湯。日嗽三升。出入五六日。病已。得之風及臥開口。食而

不嗽。

菑川王美人懷子而不乳。

索隱曰。乳音人。喻反。乳生也。

來召臣意。臣意往。飲以

葇藟藥一撮。

正義曰。浪宕二音。

以酒飲之。旋乳。

索隱曰。旋乳者。言廻旋卽生也。

臣意復診其

脈而脈躁。躁者有餘病。卽飲以消石一齊。出血。血如豆。比五六

枚。

索隱曰。比音必利反。

齊丞相舍人奴從朝入宮。臣意見之。食閨門外。望其色。有病氣。

臣意卽告宦者平。平好爲脈。學臣意所。臣意卽示之舍人奴病。

阿母注正義鄭按己者、  
札記ミチ慈ニ作ル、云  
フ此レ蓋喪服傳注ヲ引  
ク、鄭下疑フ云字ヲ脱  
ス。

濟北王召意、札記意上  
臣字アリ、云フ中統本  
吳校元板雜志宋本ヲ引  
テ竝ニ臣字アリ、他本  
脱ス。

故濟北王阿母。

徐廣曰。濟一作齊王。○索隱曰。案是王之嫗母也。○正義曰。服虔云。乳母也。鄭茲己者。

自言足熱而邁。

臣意告曰。熱蹶也。則刺其足心各三所。案之無出血。病旋已。

索隱

曰。言尋則已止也。○正義曰。

謂旋轉之間。病則已止也。

病得之飲酒大醉。濟北王召意診脈。諸女

子侍者至。女子豎。豎無病。臣意告永巷長曰。豎傷脾。不可勞。法

當春嘔血死。臣意言王曰。才人女子豎何能。王曰。是好爲方。多

伎能。爲所是案法新。

徐廣曰。所一作取。○索隱曰。謂於舊方技能生新意也。

往年市之民所四百

七十萬。曹偶四人。

索隱曰。案當今之四千七百貫也。曹偶。猶等輩也。

王曰。得毋有病乎。臣意對

曰。豎病重。在死法中。王召視之。其顏色不變。以爲不然。不賣。諸

侯所至。春。豎奉劍從王之廁。王去。豎後。王令人召之。卽仆於廁。

嘔血死。

索隱曰。仆音赴。又音步北反。

病得之流汗。流汗者同法。病內重。毛髮而

流汗者同法、札記云、  
同字疑フ衍ナリ。



及澹水也注正義顧野王云云、札記云、今玉篇此文ナシ、按ズルニ、此注疑フ當ニ上文汗出ノ下ニ在ルベシ、然カモ亦脫文アリ、常灼也、札記、常灼反ニ作ル、澹水ハ、手足ノ液ナリ。

蹶陰之動也注正義鄒、札記云、疑フ下ニ云字ナ脫ス。

氣上而熱氣下。故胃滿。汗出伏地者。切其脈氣陰。陰氣者病必

入中。出及澹水也。

索隱曰。澹音士咸反。○正義曰。顧野王云。手足液身體洵音常灼也。

齊北宮司空命婦出於病。

徐廣曰。於一作奴。奴蓋女奴。○正義曰。命婦名也。

衆醫皆以爲風入

中。病主在肺。

徐廣曰。一作肝。

刺其足少陽脈。臣意診其脈曰。病氣疝客

於膀胱。難於前後洩。而溺赤。病見寒氣。則遺溺。使人腹腫。出於

病。得之欲溺不得。因以接內。所以知出於病者。切其脈大而實。

其來難。是蹶陰之動也。

正義曰。鄒。厥陰之脈也。

脈來難者。疝氣之客於膀胱。

也。腹之所以腫者。言蹶陰之絡結小腹也。蹶陰有過。則脈結動。

動則腹腫。臣意即灸其足蹶陰之脈。左右各一所。即不遺溺。而

洩清。小腹痛止。即更爲火齊湯以飲之。三日而疝氣散。即愈。

陽虛侯相趙章病。召臣意。衆醫皆以爲寒中。臣意診其脈曰。迴

風。

迴音洞。言洞徹入四支。○索隱曰。下云飲食下噎輒出之。是風疾洞徹五藏。故曰迴風。

迴風者。飲食下噎。

音益。謂喉下也。

而

輒出不留。法曰五日死。而後十日乃死。病得之酒。所以知趙章

之病者。臣意切其脈。脈來滑。是內風氣也。飲食下噎。而輒出不

留者。法五日死。皆爲前分界法。

正義曰。分扶問反。

後十日乃死。所以過期

者。其人嗜粥。故中藏實。中藏實。故過期。師言曰。安穀者過期。不

安穀者不及期。

濟北王病。召臣意診其脈。曰。風蹶胃滿。卽爲藥酒。盡三石。病已

得之。汗出伏地。所以知濟北王病者。臣意切其脈時。風氣也。心

脈濁。

徐廣曰。一作暍。

病法過入其陽。陽氣盡而陰氣入。陰氣入。張則寒

盡卽死矣、札記云、吳校元板盡字ナシ、義長ズ。

病少腹痛、札記云、宋本中統游柯毛少ナ小ニ作ル。

其卒然合也、札記其卒然合ナ句ト爲シ、下ニ集解徐廣曰一云來然合ト注シ、合字ナ重ネズ、合也ナ下句ニ屬ス、云フ錢警石云、正義卒一作來、是惟卒字、異文アルノミ。  
注疾病之生於五藏、札記生字ナ重ヌ、云フ官本生字アリ、各本脫ス。

盡。盡卽死矣。

齊中尉潘滿如病。少腹痛。正義曰。少音式。妙反。王叔和脈經云。脈急。疝瘕。少腹痛也。臣意診其脈曰。

遺積瘕也。索隱曰。劉氏音加雅反。舊音遐。鄒氏音嫁。○正義曰。龍魚河圖云。犬狗魚鳥不熟食之成瘕痛。臣意卽謂齊太僕

臣饒。內史臣繇曰。中尉不復自止於內。則三十日死。後二十餘

日。洩血死。病得之酒。且內。所以知潘滿如病者。臣意切其脈。深

小弱。其卒然合也。徐廣曰。一云。來然合也。是脾氣也。正義曰。卒音蔥。忽反。卒一本作來。素問云。疾病之生於五

藏。五藏之合。合於六府。肝合氣於膽。心合氣於小腸。脾合氣於胃。肺合氣於大腸。腎合氣於膀胱。三焦內主勞。正義曰。正義曰。如淳云。音上音結。右脈口氣至緊小。

忍見瘕氣也。以次相乘。故三十日死。三陰俱搏者。正義曰。如淳云。音徒端反。素問云。左

脈口曰少陰。少陰之前名厥陰。如法。不俱搏者。決在急期。一搏一代者近

也。故其三陰搏。洩血如前止。徐廣曰。前一作筋也。



意切<sup>スルニ</sup>其脈。肺氣熱也。脈法曰。不平不鼓。形弊<sup>ス</sup>。

正義曰。王叔和脈經云。平謂春肝木王。其脈細而長。

夏心火王。其脈洪大而散。六月脾土王。其脈大阿阿而緩。秋肺金王。其脈浮濤而短。冬腎水王。其脈沈濡而滑。名平脈也。

此五藏高之遠數以

經病也。故切<sup>ニ</sup>之時。不平而代。

正義曰。素問云。血氣易處曰不平。脈候動不定曰代。

不平者血不居

其處。代者時參擊並至。乍躁乍大也。此兩絡脈絕。故死不治。所

以加寒熱者。言其人尸奪<sup>スルヲ</sup>。尸奪者形弊。形弊者不當關灸鑱石。

及飲毒藥也。臣意未往診時。齊太醫先診山跗病。灸其足少陽

脈口。而飲之半夏丸。病者卽泄注。腹中虛。又灸其少陰脈。是壞

肝剛絕深。如是重損病者氣。以故加寒熱。所以後三日而當狂

者。肝一絡連屬。結絕乳下陽明。

正義曰。素問云。乳下一陽明。胃絡也。

故絡絕。開陽明脈。

陽明脈傷。卽當狂走。後五日死者。肝與心相去五分。故曰五日

丁卯

惟癸反。

往冬時爲王使於楚。至莒縣陽周水。

正義曰。莒。密州縣。

而莒橋梁頗

壞。信則寧車轅。

正義曰。寧。音牽。

未欲渡也。馬驚卽墮。信身入水中幾死。

吏卽來救信。出之水中。衣盡濡。有閒而身寒。已熱如火。至今不

可以見寒。臣意卽爲之液湯火齊。逐熱。一飲汗盡。再飲熱去。三

飲病已。卽使服藥。出入二十日。身無病者。所以知信之病者。切

其脈。時并陰。脈法曰。熱病陰陽交者死。切之不交。并陰。并陰者。

脈順清而愈。其熱雖未盡。猶活也。腎氣有時閒濁。

徐廣曰。一作電。

在太

陰。脈口而希。是水氣也。腎固主水。故以此知之。失治一時。卽轉

爲寒熱。

齊王太后病。召臣意入診脈。曰。風痺客脢。

索隱曰。痺。病也。音寔。脢。音普。交反。字或作胞。○正義曰。痺

脈順清而愈。札記雜誌云。清讀之靜。爲ス。上文肝氣濁而靜。徐廣曰。一ニ清ニ作ル。

客脢注。賴音卑。卑也。札記云。也。當ニ反字ノ誤ナルベシ。



之憂也。

以爲醫人中、札記人ヲ入ニ作ル、云フ入ヲ人ニ認ス。

齊郎中令循病。衆醫皆以爲蹙。人中而刺之。臣意診之曰。湧疝也。  
索隱曰。上音勇。下音訕。所諫反。鄒誕生疝音山反。令<sub>ム</sub>人<sub>ヲ</sub>不<sub>レ</sub>得<sub>二</sub>前後洩<sub>一</sub>。  
索隱曰。洩音所畱反。前洩。謂小便。後洩。大便也。循曰。不

得<sub>レ</sub>前後洩<sub>二</sub>三日矣<sub>一</sub>。臣意飲<sub>シムルニ</sub>以<sub>二</sub>火齊湯<sub>一</sub>。  
正義曰。飲於禁反。一飲得<sub>二</sub>前洩<sub>一</sub>。再飲

大洩。三飲而疾愈。病得<sub>二</sub>之內<sub>一</sub>。所以知<sub>二</sub>循病者<sub>一</sub>。切<sub>二</sub>其脈<sub>一</sub>時。右口氣

急。  
徐廣曰。右一作有。○正義曰。王叔和脈經云。右手寸口。氣口也。脈<sub>ニ</sub>無<sub>二</sub>五藏氣<sub>一</sub>。右口  
正義曰。謂右手寸口也。脈大而數。

數者中下熱而湧。左爲<sub>レ</sub>下。右爲<sub>レ</sub>上。皆無<sub>二</sub>五藏應<sub>一</sub>。故曰湧疝。中熱。

故溺赤也。  
正義曰。溺徒弔反。

齊中御府長信病。臣意入診。其脈告曰。熱病氣也。然暑汗。脈少。

衰。不死。曰此病得<sub>レ</sub>之當<sub>下</sub>浴<sub>ニ</sub>流水<sub>一</sub>而寒甚<sub>上</sub>已<sub>ニ</sub>則熱信<sub>一</sub>曰唯然。  
正義曰。唯

火齊湯、札記云、火疑フ大字ノ譌ナリ、齊ハ卽劑字ナリ、扁鵲傳齊桓侯ノ節、其在腸胃酒醪之所及也、酒醪二字、韓非子火齊ニ作リ、新序大劑ニ作ル、是其證ナリ、後火齊ノ字、此ニ倣フ。  
一飲得前洩、札記雜志云、御覽方術部引テ前後洩ニ作ル。  
三飲而疾愈、札記云、宋本毛本吳校元本疾ヲ病ニ作ル。  
下熱而湧、札記云、下文ニ據レバ、疑フ下ニ症字ヲ脫ス。

上則薰陽明。爛流絡。流絡動。則脈結發。脈結發。則爛解。故絡交

齊王中子諸嬰兒小子病。召臣意診。切其脈。告曰。氣鬲病。病使

人煩<sup>ナシテ</sup>、瀧<sup>セ</sup>食<sup>ヲ</sup>不<sup>レ</sup>下<sup>ラ</sup>時<sup>ニ</sup>嘔<sup>ス</sup>沫<sup>ヲ</sup>病<sup>ヲ</sup>得<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>少<sup>キヨリ</sup>憂<sup>ヘ</sup>數<sup>ク</sup>乞<sup>シ</sup>食<sup>ヲ</sup>飲<sup>スル</sup>。

索隱曰。乞音疑。乞反。  
乞者風痺。乞然不得。

臣意卽爲之<sub>ニ</sub>作<sub>テ</sub>下氣湯<sub>ヲ</sub>以飲<sub>レ</sub>之<sub>ニ</sub>。一日氣下<sub>ニ</sub>。二日能食<sub>シ</sub>。三日卽<sub>ニ</sub>。

病愈所以知小子之病者。診其脈。心氣也。溼躁而經也。

徐廣曰。濁  
一作黽。又

此絡陽病也。脈法曰。脈來數。病去難。而不一者。病主在心。周

身熱脈盛者爲重陽。

索隱曰。上音直隴反。

重陽者邊心主

徐廣曰。邊音唐。邊者。盪也。謂病盪心者。猶刺其心。○

索隱曰。邊依字讀。○正義曰。八十一難云。手心中宮在中。

部。楊玄操云。手心主胞絡也。自臍已上至帶。爲中焦也。

故煩懣食不下。則絡

脈有過。絡脈有過。則血上出。血上出者死。此悲心所生也。病得

病得之少憂飽食飲  
札記云、少疑フ心字ノ  
誤ナリ、下文云、診其  
脈心氣也、又云、病主在  
心、又云、重陽者邊心  
主、又云、此悲心所證  
也、病得之憂也、其證  
ナリ、集韻、九迄魚乙切  
ノ下、怗字アリ、心欲セ  
ザルナリト訓ズ、史記  
類篇同ジ、按ズルニ、  
下文云、故煩懣食不下ノ  
語ト正ニ相應ズ、則心  
不欲ノ訓、當ニ本ヅク  
所アリベシ、又食欲、  
集韻類篇並ニ飲食ニ作  
ル、疑フ此誤倒ナリ。  
脈來數病去難而不一  
者、札記病疰ニ作ル、  
云フ疾字舊刻疾ニ又考  
證宋本ニ據ル、竝ニ同  
ジ、按ズルニ此十字一  
句、誤ナク作ス、來ル疾ク、  
去ル遅クシテ、數ニ至  
ル、又調セザルヲ謂フ、  
他本皆誤テ病ニ作ル。

絡脈有過注上魚爲溢、札記魚下際字アリ、云フ際字考證増ス、呂廣云、或曰、呂注解シ難シ、當ニ難經呂注ニ據テ解スベシ。

少陽之界注從寸至尺名曰尺澤ノ上、札記其自高骨四字アリ。

病也。

正義曰。王叔和脈經云。脈長而弦。病於肝也。素問云。得病於筋。肝之和也。

代則絡脈有過。

正義曰。素問云。脈有不

即經主病。大則絡有過也。八十一難云。關之前者陽之動也。脈當見九分而浮。過者法曰太過。減者法曰不及。遂上魚爲溢。爲外關內格。此陰乘之脈也。關以後者陰之動也。脈當見一寸而沈。過者法曰太過。減者法曰不及。遂入尺爲覆。爲內關外格。此陽乘之脈也。故曰覆溢是其真藏之脈。人不病而死也。呂廣云。過九分出一寸。各名太過也。不及九分至二分或四分五分。此太過不滿一寸見八分。經主病和者。其病得之筋髓裏。其代絕而脈賁

者。病得之酒且內。所以知其後五日而癢腫。八日嘔膿死者。切

其脈時。少陽初代。代者經病。病去過人。人則去絡。脈主病。當其

時。少陽初關一分。故中熱而膿未發也。及五分。則至少陽之界。

徐廣曰。一作分。下章曰。肝與心相去五分。故曰五日盡也。○正義曰。王叔和脈經云。分別三關

境界脈候所主云。從魚際至高骨卻行一寸。其中名曰寸口。從寸至尺名曰尺澤。故曰尺寸。寸後尺前名曰關。陽出陰入以關爲界。陽出三分。陰入三分。故曰三陰三陽。陽生於尺動於寸。陰生於寸動於尺。寸主射上焦。出頭及皮毛。竟手。關主射中焦。腹及腰。尺主射下焦。少腹至足也。

及八日則嘔膿死。故上一二分而膿發。至界而癢腫。盡泄而死。熱



其借ノミ、按ズルニ、  
奇咳及ビ下撓度、今並  
ニ素問ニ見ユ。  
注該當寅也、札記寅チ  
寅ニ作ル、云フ王本賸、  
柯凌寅ニ作ル、尖柯凌  
寅ニ作ル、玉篇皆其文  
ナシ、尖ハ俗ノ肉字、當  
其義解スベカラズ、當  
ニ脫誤アルベシ。

肝氣濁ノ下、札記集解  
徐廣曰一作囁ト注ス。

可<sub>ニ</sub>一年所明歲。卽<sub>スルニ</sub>驗之有<sub>レ</sub>驗。然尙<sub>レ</sub>未<sub>ダ</sub>精也。要<sub>スルニ</sub>事之三年所。卽嘗<sub>ニ</sub>已爲<sub>レ</sub>人治<sub>シ</sub>診病。決<sub>スルニ</sub>死生有<sub>レ</sub>驗。精良。今慶已死十年所。臣意年盡<sub>ニ</sub>三年。年三十九歲也。

齊侍御史成。自言病<sub>ニ</sub>頭痛。臣意診<sub>シ</sub>其脈。告曰。君之病。惡<sub>キ</sub>不可<sub>レ</sub>言<sub>フ</sub>也。卽<sub>チ</sub>出<sub>テ</sub>獨告<sub>ニ</sub>成弟昌曰。此病疽也。<sub>七如反。</sub>內發<sub>ス</sub>於腸胃之間。後五

日。當<sub>ニ</sub>癰腫<sub>ス</sub>。<sub>正義曰。上於恭反。下之勇反。</sub>後八日。嘔<sub>シ</sub>膿死。<sub>正義曰。女東反。</sub>成之病。得<sub>ニ</sub>之飲酒

且<sub>ツ</sub>內<sub>スルニ</sub>成。卽<sub>チ</sub>如期死。所以知<sub>ルニ</sub>成之病者。臣意切<sub>スルニ</sub>其脈。得<sub>ニ</sub>肝氣。肝氣

濁而靜。<sub>徐廣曰。靜一作清。</sub>此內關之病也。<sub>正義曰。八十一難云。關遂入尺爲<sub>ニ</sub>內關<sub>ニ</sub>。呂廣云。脈從關至尺澤。名<sub>ニ</sub>內關<sub>ニ</sub>也。</sub>脈法

曰。脈長而弦。不得<sub>レ</sub>代<sub>ニ</sub>四時<sub>ニ</sub>者。<sub>正義曰。王叔和脈經云。來數中止。不能<sub>ニ</sub>自還<sub>ニ</sub>。因而復動者。名曰代。代者死。素問云。病在心愈在夏甚</sub>

於冬。病在脾愈在秋甚於春。病在肺愈在冬甚於夏。病在腎愈在春甚於夏。病在肝愈在夏甚於秋也。  
其病主<sub>トシテ</sub>在於<sub>ニ</sub>肝<sub>ニ</sub>和<sub>ハ</sub>卽<sub>チ</sub>經主

作爲爲リヤ。有其書ニヤ。無有ルヤ。皆安受學ニヤ。受學ニヤ幾何歲。嘗有所驗スル。何縣里ノ亦治。

人也。何病。醫藥已其病之狀。皆何如。具悉而對シテ。臣意對曰。自意ニ

少時。喜醫藥。醫藥方。試之多。不驗者。至高后八年ニ。徐廣曰。意年二十六。得見ニ

師臨菑元里公乘陽慶。慶年七十餘。意得見事之ニ。謂意曰。盡去ニ

而方書。非是也。慶有古先道遺傳。黃帝扁鵲之脈書。五色診病ニ

知。人生死。決嫌疑。定可治。及藥論書。甚精。我家給富。心愛公。欲ニ

盡以我禁方書。悉教公。臣意即曰。幸甚。非意之所敢望也。臣意ニ

即避席再拜。謁受其脈書。上下經。五色診。奇咳ニ。奇音羈。咳音該。○正義曰。八十一難云。奇

經八脈者。有陽維。有陰維。有陽蹻。有陰蹻。有衝。有督。有任。有帶之脈。凡此八脈者。皆不拘於經。

故云。奇經八脈也。顧野王云。脈當寅也。又云。脈指毛皮也。藝文志有五音奇咳。用兵二十三卷。

許慎云。脈。術。揆度陰陽外變。藥論石神。接陰陽禁書。受讀解驗之。

高后八年注。意年二十六。札記。一。三。二。作。六。舊刻本。三。各本。二。譌。按。高后八年。三十六。文帝三年。加。一。適。二。三十九。史。合。ス。

奇咳。札記云。說文。奇。後非常。ナリ。段氏注。云。漢志。五音奇咳。用兵二十三卷。五音奇咳。刑德二十一卷。張守節正義。二。據。レバ。則。史記本。ト。亦。奇。咳。二。作。ル。肉。部。ト。爲。ス。則。後。正。字。咳。

注春秋公如曹、札記公上州字アリ、云フ官本州字アリ、各本脫ス。公乘陽慶、凌稚隆曰、公乘ハ官名、陽慶ハ人名ナリ。五色診病注其面色與相應、與下恐フクハ脈字ナ脫ス。

多<sup>シ</sup>怨<sup>ム</sup>之<sup>チ</sup>者。文帝四年中。人上書言<sup>シ</sup>意<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>刑罪<sup>ニ</sup>。當<sup>ス</sup>傳<sup>シ</sup>西<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>長<sup>ク</sup>安<sup>ニ</sup>。見孝文紀

曰。傳竹戀反。意有五女。隨而泣。意怒罵曰。生子不生男。緩急無可

傳。乘傳送之。索隱曰。緹音啼。乃隨父西。上書曰。

使者。於是少女緹縈傷父之言。索隱曰。緹音啼。

妾父爲吏。齊中稱其廉平。今坐法當刑。妾切痛。死者不可復生。而刑者不可復續。徐廣曰。一作贖。雖欲改過自新。其道莫由。終不可得。

妾願入身爲官婢。以贖父刑罪。使得改行自新也。書聞。上悲其

意。此歲中。亦除肉刑法。徐廣曰。案年表。孝文十二年。徐肉刑。○正義曰。漢書刑法志云。孝文帝卽位十三年。除肉刑三。孟康云。黥劓二左右

趾一。凡三也。班固詩曰。三王德彌薄。惟後用肉刑。太倉令有罪。就遞長安城。自恨身無子。困急獨煢煢。小女痛父言。死者不可生。上書詣闕下。思古歌雞鳴。憂心摧折裂。晨風揚激聲。聖漢孝

支帝。惻然感至情。百男何憤憤。不如一緹縈。意家居。詔召問所爲治病死生驗者幾何人。

主名爲誰。詔問故太倉長臣意方伎所長。及所能治病者。徐廣曰。一



爲耳目痺醫、痺ハ漏病ナリ。

太倉公者齊太倉長、錢大昕曰、孝文紀太倉令所作、意ノ名避クル所ナシ、而テ文紀淳于公ト稱シ、又太倉公ト稱ス、目錄亦倉公ト稱シテ名イハズ、蓋當時此稱アリ、史公因テ之ヲ書ス、趙翼曰、扁鵲倉公傳、少孫補フ所ニ非ズト雖モ、然ルニ淳于意文帝詔問ニ答フルノ語、治スル所何人、療スル所何症、自ラ一篇ヲ成ス、亦必當時此現成文字アリ、而テ抄入スル者ナリ、史遷ナシテ之ヲ爲サシムレバ、必此ノ如クノ瑣屑ナラズ、竊ニ意フ、扁鵲傳ハ史遷原文ナリ、倉公傳ハ亦少孫抄入スル者ナリ。

雒陽<sup>ニ</sup>聞<sup>ル</sup>周人愛<sup>ス</sup>老人<sup>ヲ</sup>。卽爲<sup>ニ</sup>耳目痺醫<sup>ト</sup>。索隱曰。痺音必二反。來入<sup>ル</sup>咸陽<sup>ニ</sup>。聞<sup>ル</sup>秦人

愛<sup>ス</sup>小兒<sup>ヲ</sup>。卽爲<sup>ニ</sup>小兒醫<sup>ト</sup>。隨<sup>テ</sup>俗爲<sup>ニ</sup>變<sup>ト</sup>。秦太醫令李醯自知<sup>ル</sup>伎不如<sup>カ</sup>扁

鵲<sup>ニ</sup>也。使人刺<sup>シ</sup>殺<sup>セ</sup>之。至<sup>リ</sup>今天下言<sup>フ</sup>脈者由<sup>ル</sup>扁鵲<sup>ニ</sup>也。

太倉公者。齊太倉長。臨菑人也。姓淳于氏。名意。

正義曰。括地志云。淳于國城在密州安丘

縣東北三十里。古之斟灌國也。春秋公如曹。傳云。冬淳于公如曹。注水經云。淳于縣。故夏后氏之斟灌國也。周武王以封淳于公。號淳于國也。

ウシヤ少而喜<sup>ム</sup>醫<sup>ル</sup>方

術<sup>ヲ</sup>。高后八年。更受<sup>グ</sup>師<sup>ヲ</sup>同郡元里公乘陽慶<sup>ニ</sup>。

正義曰。百官表云。公乘。第八爵也。顏師古云。言其得乘公

之車<sup>ニ</sup>也。慶年七十餘。無<sup>レ</sup>子。使<sup>メ</sup>意盡<sup>グ</sup>去<sup>テ</sup>其故方<sup>ヲ</sup>。更悉<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>禁方<sup>ヲ</sup>予<sup>ヘ</sup>之。傳<sup>フ</sup>

黃帝扁鵲之脈書。五色診病<sup>ヲ</sup>。

正義曰。八十一難云。五藏有色。皆見於面。亦當與寸口尺內相應也。其面色與相應。已見前也。

知<sup>ル</sup>人死生<sup>ヲ</sup>。決<sup>シ</sup>嫌疑<sup>ヲ</sup>。定<sup>ム</sup>可<sup>レ</sup>治<sup>ス</sup>。及<sup>ヒ</sup>藥論甚精<sup>シ</sup>。受<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>三年。爲<sup>ニ</sup>人治病<sup>ト</sup>。決<sup>シ</sup>

死生<sup>ヲ</sup>多<sup>シ</sup>驗<sup>ト</sup>。然左右行<sup>シ</sup>游<sup>シ</sup>諸侯<sup>ニ</sup>。不<sup>レ</sup>以家爲<sup>ニ</sup>家<sup>ト</sup>。或<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>爲<sup>ニ</sup>人治病<sup>ト</sup>。病家

桓侯體病、札記雜志云、  
病當ニ痛ニ作ルベシ、  
養生論ニ、桓侯以ニ覺  
レ痛之日、爲ニ受レ病之  
始、文選爲ニ石仲容ニ與  
孫皓ニ書注、史ヲ引テ痛  
ニ作ル、韓子喻老篇、  
新序雜事篇亦體痛ニ作  
ル。

復見。望見桓侯而退走。桓侯使人問其故。扁鵲曰。疾之居腠理

也。湯熨之所及也。在血脈。鍼石之所及也。其在腸胃。酒醪之所

及也。其在骨髓。雖司命無奈之何。今在骨髓。臣是以無請也。後

五日。桓侯體病。使人召扁鵲。扁鵲已逃去。桓侯遂死。

傳玄曰是時齊無桓侯嗣

謂是齊侯田和。使聖人預知微。能使良醫得蚤從事。則疾可已。身

可活也。人之所病。病疾多。正義曰。病厭患多也。言人厭患疾病多甚也。而醫之所病。病道

少。徐廣曰。所病猶療病也。故病有六不治。驕恣不論於理。一不治也。輕身重

財。二不治也。衣食不能適。三不治也。陰陽并藏。氣不定。四不治

也。形羸不能服藥。五不治也。信巫不信醫。六不治也。有此一者

則重難治也。扁鵲名聞天下。過邯鄲。聞貴婦人。卽爲帶下醫。過

齊桓侯客之注、札記下文桓侯遂死注集解傳玄曰云云索隱ノ前二入レ、云フ各本誤テ下文桓侯遂死ノ下ニ係ク、今索隱本ニ依テ移正ス。

間。太子蘇乃使子豹爲五分之熨。以八減之齊和煮之。以更熨兩脇下。正義曰。更音格彭反。○索隱曰。案言五分之熨者。謂熨之令溫暖之氣入五分也。八減之齊者。謂藥之齊和所減有八。並越人當時有此方也。太子

起坐。更適陰陽。但服湯二旬而復故。故天下盡以扁鵲爲能生

死人。扁鵲曰。越人非能生死人也。此自當生者。越人能使之起

耳。傳玄曰。號自晉獻公時先是百二十餘年滅矣。是時焉得有號。扁鵲過齊。齊桓侯客之。索隱曰。案傳玄曰。是時齊無桓侯。裴駰云。謂是

齊侯田和之子桓公午也。入朝見曰。君有疾在腠理。正義曰。上音湊。謂皮膚。不治將

深。カラント桓侯曰。寡人無疾。扁鵲出。桓侯謂左右曰。醫之好利也。欲以

不疾者爲功。後五日。扁鵲復見曰。君有疾在血脈。不治恐深。桓

侯曰。寡人無疾。扁鵲出。桓侯不悅。後五日。扁鵲復見曰。君有疾

在腸胃。間不治將深。桓侯不應。扁鵲出。桓侯不悅。後五日。扁鵲



云フ王本下、柯浚不ニ  
誤ス。

陰上而陽內行、札記云、  
宋本中統吳校元板上而  
二字ナシ。

破陰絕陽之色已廢脈  
亂、札記雜志云、上文  
正義此文ナ引キ、色廢  
脈亂ト云フ、此之已ニ  
字衍ナリ、御覽人事部  
引テ無シ、案ズルニ已  
字、蓋即色字ノ誤衍ナ  
リ。

道路氣之所終始也。上焦在心下下鬲。在胃上口也。中焦在胃中脘。不上不下也。下焦在  
臍下。當膀胱上口也。膀胱者津液之府也。溺九升九合也。言經絡不干三焦及膀胱也。是

以陽脈下遂。徐廣曰。一作隊。陰脈上爭。正義曰。遂音直類反。素問云。陽脈下遂難反。陰脈上爭如弦也。會氣閉而

不通。正義曰。八十一難云。府會太倉。藏會季脇。筋會陽陵泉。髓會絕骨。血會鬲俞。骨會大杼。脈會太淵。氣會三焦。此謂八會也。陰上而陽內行。

下內鼓而不起。上外絕而不爲使。上有絕陽之絡。下有破陰之

紐。正義曰。女九反。素問云。紐赤脈也。破陰絕陽之色已廢。徐廣曰。一作發。脈亂故形靜如死

狀。太子未死也。夫以陽入陰支蘭藏者生。正義曰。素問云。支者順節。蘭者橫節。陰支蘭。膽藏也。以

陰入陽支蘭藏者死。凡此數事。皆五藏歷中之時暴作也。良工

取之。正義曰。八十一難云。知一爲下工。知二爲中工。知三爲上工。上工者十全九。中工者十全八。下工者十全六。呂廣云。五藏一病輒有五解。一藏爲下工。解二藏爲中工。解

五藏爲上工也。拙者疑殆。扁鵲乃使弟子子陽厲鍼砥石。以取外三陽

五會。索隱曰。陽。扁鵲之弟子也。鍼音針。厲。謂磨也。砥音脂。○正義曰。素問云。手足各有三陰三陽。太陰少陰厥陰。太陽少陽陽明也。五會謂百會。曾會。聽會。氣會。臑會也。有

偏國寡臣、董份曰、寡臣ハ、太子ヲ言フ。

動胃續緣注、陽入陰中是、難經此五字ナシ。

三焦膀胱注、言絡經不干、札記不ナ下ニ作ル、

中庶子聞<sup>キ</sup>扁鵲言<sup>ヲ</sup>。目眩然<sup>トシテ</sup>而不<sup>レ</sup>瞋<sup>ビ</sup>。舌矯然<sup>トシテ</sup>而不下<sup>ラ</sup>。乃以<sup>ニ</sup>扁鵲言<sup>ヲ</sup>

入<sup>テ</sup>報<sup>ズ</sup>。號君<sup>ニ</sup>。號君聞<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。大驚<sup>キ</sup>。出見<sup>テ</sup>扁鵲<sup>ヲ</sup>於<sup>ニ</sup>中闕<sup>ニ</sup>。曰<sup>ク</sup>。竊聞<sup>ク</sup>高義<sup>ヲ</sup>之日

久矣<sup>シ</sup>。然未嘗得<sup>テ</sup>拜<sup>スルヲ</sup>謁<sup>ス</sup>於<sup>ニ</sup>前也<sup>ニ</sup>。先生過<sup>ギル</sup>小國<sup>ニ</sup>。幸而舉<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。偏國寡臣

幸甚<sup>シ</sup>。索隱曰。謂號君自謙云。己是偏遠之國。寡小之臣也。有<sup>ニ</sup>先生<sup>ニ</sup>則活<sup>キ</sup>。無<sup>ニ</sup>先生<sup>ニ</sup>則棄<sup>シテ</sup>捐<sup>シテ</sup>墳<sup>ニ</sup>溝壑<sup>ニ</sup>。長

終而不得反<sup>ルヲ</sup>。言未卒<sup>ヲ</sup>。因噓唏服臆<sup>シ</sup>。索隱曰。上音皮。力反。下音憶。魂精泄橫<sup>シ</sup>。流涕

長潛<sup>シテ</sup>。徐廣曰。一云言未卒。因涕泣交流。噓唏不能自止也。○索隱曰。潛音山。長潛謂長垂淚也。忽忽承<sup>レ</sup>眵<sup>ニ</sup>。索隱曰。音接。眵即睫也。承眵言淚恆垂以

承於睫也。悲不能自止<sup>ミ</sup>。客貌變更<sup>ス</sup>。扁鵲曰<sup>ク</sup>。若<sup>キ</sup>太子病<sup>シ</sup>。所謂尸魔者<sup>ナリ</sup>也。

夫以<sup>ニ</sup>陽入<sup>ニ</sup>陰中<sup>ニ</sup>。動胃續緣<sup>ス</sup>。正義曰。八十一難云。脈居陰部反陽脈見者。爲陽入陰中是陽乘陰也。脈雖時沈瀽而短。此謂陽中伏陰

也。脈居陽部反陰脈見者。爲陰乘陽也。脈雖時浮滑而長。此謂陰中伏陽也。胃水穀之海也。續音直延反。續緣謂脈纏繞胃也。素問云。延緣落絡脈也。恐非此義也。

絡<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。維一作結。○正義曰。八十一難云。十二經脈。十五絡脈。陽維陰維之脈也。別下<sup>レ</sup>於<sup>ニ</sup>三焦膀胱<sup>ニ</sup>。正義曰。八十一難云。三焦者水穀之

先生之方グ能ナレバ若是ノ。則ネ太子ナレバ可キ生グ也。不シ能ナレバ若是ノ。而シテ欲スル生サント之チ。曾テ不レ可下。

以告<sup>テ</sup>咳<sup>ニ</sup>嬰<sup>フ</sup>之<sup>ニ</sup>兒<sup>ニ</sup>終<sup>フ</sup>日<sup>ヲ</sup>。扁鵲<sup>ハ</sup>仰<sup>テ</sup>天<sup>ヲ</sup>歎<sup>シテ</sup>曰<sup>ク</sup>。夫子之爲<sup>ス</sup>方<sup>ナ</sup>也。若<sup>シ</sup>以<sup>テ</sup>管<sup>ヲ</sup>窺<sup>フ</sup>

天<sup>チ</sup>以<sup>レ</sup>鄰<sup>チ</sup>視<sup>ル</sup>文<sup>ヲ</sup>越<sup>チ</sup>人<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>爲<sup>ス</sup>方<sup>チ</sup>也。不<sup>レ</sup>待<sup>タ</sup>切<sup>スル</sup>脈<sup>ヲ</sup>。正義曰。黃帝素問云。待<sup>レ</sup>切脈而知病<sup>ヲ</sup>。寸口六脈三陰三陽皆隨春秋。

冬夏觀其脈之變也。則知病

望色 ミレ ヲ

正義曰。素問云。面色青。脈當弦急。面色赤。脈當浮而短。面色黑。脈當沈濡而滑也。

聽キ  
聲ヲ

義正

曰。素問云。好哭者肺病。好歌者脾病。好妄言者心病。好呻吟者腎病。好叫呼者肝病也。

寫形

正義曰。素問云。欲得溫而不欲見人者。藏家病。欲得寒而欲見人者。府家病也。

言<sup>フ</sup>病<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>在<sup>ル</sup>聞<sup>キ</sup>病<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>陽<sup>ヲ</sup>論<sup>シテ</sup>得<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>陰<sup>ヲ</sup>聞<sup>キ</sup>病<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>陰<sup>ヲ</sup>論<sup>シテ</sup>得<sup>テ</sup>其<sup>ノ</sup>陽<sup>ヲ</sup>

正義曰。八十一難云。

論得其湯注正義募在陰、札記募ヲ幕ニ作ル、云フ幕ヲ募ニ譌ス、考證改ム、下同シ。

陰病行陽。陽病行陰。故令募在陰。俞在陽。楊玄操曰。腹爲陰。五藏募皆在腹。故云募皆在陰。背爲陽。五藏俞皆在背。故云俞皆在陽。內藏有病。則出行於陽。陽俞在背也。外體有病。則入行於

陰。陰募在腹也。鍼法云。從陽引陰。從陰引陽也。病應見於大表。不出千里。決者至衆。不可曲止。

也。索隱曰。止語助也。不可委曲具言。○正義曰。言病皆有應見。不可曲言病之止住所在也。

子以吾言爲不誠。試入診太

子<sup>チ</sup>當<sup>ニ</sup>聞<sup>ク</sup>其耳鳴<sup>デ</sup>而鼻張<sup>ル</sup>○<sup>チ</sup>

正義  
音漲。

循<sup>ナ</sup>其<sup>ア</sup>兩<sup>ラ</sup>股<sup>ダ</sup>以<sup>テ</sup>至<sup>ル</sup>於<sup>ニ</sup>陰<sup>ニ</sup>當<sup>ニ</sup>尙<sup>ニ</sup>溫<sup>ナル</sup>也。



行。外及。扁鵲曰。其死何如時。曰。雞鳴至今。收乎。曰。未也。收。謂棺斂。其死

未能半日也。言臣齊勃海。秦越人也。家在於鄭。未嘗得望精光。

侍謁於前也。聞太子不幸而死。臣能生之。中庶子曰。先生得無

誕之乎。何以言太子可生也。臣聞上古之時。醫有俞跗。索隱曰。音與附。下又

音跌。○正義曰。與附二音。應劭云。黃帝時將也。治病不以湯液醴灑。正義曰。上音禮。下山解反。鑱石橋引案机

毒熨。索隱曰。鑱音仕咸反。謂石針也。橋音九兆反。謂爲按摩之法。天橋引身如熊顧鳥伸也。机音玩。亦謂按摩而玩弄身體使調也。毒熨。謂毒病之處以藥物熨帖也。一

撥見病之應。因五藏之輸。索隱曰。音束注反。○正義曰。八十一難云。肺之原出於太淵。心之原出於太陵。肝之原出於太衝。脾之原

出於太白。腎之原出於太谿。少陰之原出於兌骨。膽之原出於丘虛。胃之原出於衝陽。三焦之

原出於陽池。膀胱之原出於京骨。大腸之原出於合谷。小腸之原出於腕骨。十二經皆以輸爲

原也。按此五藏。乃割皮解肌。訣脈結筋。搦髓腦。揲荒。徐廣曰。揲音舌。○索隱曰。搦音女角反。揲

荒。膏。爪幕。正義曰。以爪決其闌幕也。湔浣腸胃。正義曰。上子錢反。下胡管反。漱滌五藏。練精易形。

得無誕之乎。誕ハ欺ナリ。

案机、札記云、索隱宋本中統游漫毛並ニ机ニ作ル、王柯杭ニ譌ス、洩一本ヲ引キ亢ニ作ル、錢大昕云、索隱音玩、按摩シテ身體ヲ玩弄スト謂フ、當ニ杭ニ作ルベシ、手ニ从ヒ元ニ从フ。一撥ノ撥ハ、治ナリ。

搦髓腦揲荒注索隱揲荒膏荒也、札記揲音舌、荒、膏荒也ニ作ル、字與膏育也ニ作ル、搦ハ按ナリ、揲ハ閤持ナリ。

賜<sup>ト</sup>之。帝告<sup>メ</sup>我。晉國且<sup>ニ</sup>世衰<sup>レ</sup>。七世而亡<sup>ニ</sup>。

正義曰。晉定公出公哀公幽公烈公孝公靜公爲七世。靜公二年爲三晉。

所滅。據此及趙世家。簡子疾在定公之十一年也。

嬴姓將大敗<sup>ナント</sup>周人於范魁之西<sup>ニ</sup>。

索隱曰。范魁地名。未詳。○正義曰。嬴

趙氏本姓也。周人謂爲衛也。晉亡之後。趙成侯三年伐衛。取鄉邑七十三。是也。賈逵云。月阜曰魁也。

而亦不能<sup>ン</sup>有<sup>ツ</sup>也。董安于受<sup>レ</sup>言<sup>ヲ</sup>。

書而藏<sup>ム</sup>之。以<sup>ニ</sup>扁鵲<sup>ノ</sup>言<sup>ヲ</sup>告<sup>メ</sup>簡子。簡子賜<sup>フ</sup>扁鵲田四萬畝<sup>ヲ</sup>。其後扁鵲

過<sup>ル</sup>虢<sup>ニ</sup>。

正義曰。陝州城。古虢國。又陝州河北縣東北下陽故城古虢。卽晉獻公滅者。又洛州汜水縣古東虢國。而未知扁鵲過何者。蓋虢至此竝滅也。

虢太子

死<sup>ス</sup>。

索隱曰。案傳立云。虢是晉獻所滅。先此百二十餘年。此時焉得有虢。則此云虢太子非也。然案虢後改稱郭。春秋有郭公。蓋郭之太子也。

扁鵲至<sup>リ</sup>虢<sup>ニ</sup>。

宮門下<sup>ニ</sup>問<sup>フ</sup>中庶子喜<sup>ム</sup>方<sup>ヲ</sup>者<sup>ニ</sup>。

索隱曰。喜音許。既反。喜好也。愛也。方。方伎之人也。○正義曰。中庶子。古官號也。喜方。好方術。不書姓名也。

曰。太子何病<sup>ヤ</sup>。國中治禳<sup>シテ</sup>過<sup>リ</sup>於衆事<sup>ニ</sup>。中庶子曰。太子病血氣不<sup>レ</sup>時<sup>ナラ</sup>。

交錯<sup>シテ</sup>而不得<sup>レ</sup>泄<sup>ル</sup>。暴<sup>シテ</sup>發<sup>シ</sup>於外<sup>ニ</sup>。則爲<sup>ニ</sup>中害<sup>ヲ</sup>。精神不能<sup>ン</sup>止<sup>ル</sup>邪氣<sup>ヲ</sup>。邪氣畜

積<sup>シテ</sup>而不得<sup>レ</sup>泄<sup>ル</sup>。是以陽緩而陰急。故暴<sup>シテ</sup>蹙<sup>シ</sup>而死<sup>ス</sup>。

索隱曰。蹙音厥。○正義曰。釋名云。蹙氣從下蹙起上

敗周人於范魁之西注正義周人謂爲衛也。札記爲字ナシ。云フ謂下爲字ヲ衍ス。趙世家正義ニ依テ刪ル。賈逵云月阜曰魁也。錢大昕曰。月蓋川ノ譌ナリ。趙世家正義。賈逵ノ說ヲ引キ誤ラズ。郭景純注爾雅云。瀧原汾陰ニ在ル者。人其流ヲ懸ギ以テ陂ト爲シ。稻ヲ種ウ。其本ノ出處ヲ呼テ瀧魁ト爲ス。又漢書王子侯表ニ。劉魁侯葛魁侯アリ。皆川阜ヲ取テ名ト爲ス。虢太子注。札記下文越人能使之起耳注傳玄曰云云ヲ移シテ。索隱ノ前ニ入ル。云フ各本系ケテ下文越人能使之起耳ノ下ニ在リ。今索隱本ニ依テ此ニ移ス。又死ノ下上文血脈治也注正義ナル。云フ各本錯テ上文血脈治也ノ下ニ在リ。今移正ス。



告公孫支與子與注索隱  
子與未詳。札記云、子  
與ハ即子車ナリ、秦本  
紀ニ見ユ、小司馬記ナ  
失ス。

秦策於是出、錢大昕曰、  
趙世家秦識ニ作ル、識  
策聲相近シ。

何怪<sup>マン</sup>昔秦穆公嘗<sup>テ</sup>如此<sup>ノ</sup>七日而寤<sup>ム</sup>寤之日<sup>ニ</sup>告公孫支與<sup>ニ</sup>子與<sup>ニ</sup>

曰案二子皆秦大夫公曰我之<sup>ニ</sup>帝所<sup>ニ</sup>甚樂<sup>ム</sup>吾所以<sup>シ</sup>久<sup>シ</sup>者適有<sup>ル</sup>所學<sup>ブ</sup>也

曰適音釋言我適來有帝告<sup>テ</sup>我<sup>ニ</sup>晉國且<sup>ニ</sup>大亂<sup>ニ</sup>五世不安<sup>カ</sup>其後將霸<sup>ス</sup>未老<sup>セ</sup>

而死霸者之子且<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>而國男女無別<sup>ス</sup>公孫支書<sup>シ</sup>而藏<sup>ム</sup>之秦策於

是出夫獻公之亂文公之霸而襄公敗秦師於殽而歸縱淫此

子之所聞今主君之病與之同不出<sup>ニ</sup>三日<sup>ニ</sup>必閒<sup>ス</sup>閒必有言也居

二日半簡子寤語<sup>テ</sup>諸大夫曰我之<sup>ニ</sup>帝所<sup>ニ</sup>甚樂<sup>ム</sup>與百神遊<sup>ブ</sup>於鈞天<sup>ニ</sup>

廣樂九奏萬舞不類<sup>ニ</sup>三代之樂<sup>ニ</sup>其聲動心有一熊欲援<sup>ント</sup>我<sup>ニ</sup>帝命<sup>シ</sup>

我射<sup>シ</sup>之中熊<sup>ニ</sup>熊死有羆來我又射<sup>テ</sup>之中羆<sup>ニ</sup>羆死<sup>ス</sup>帝甚喜<sup>ビ</sup>賜<sup>フ</sup>我二

笥<sup>チ</sup>皆有副吾見兒<sup>ヲ</sup>在<sup>ニ</sup>帝側<sup>ニ</sup>帝屬<sup>シ</sup>我一翟犬<sup>ヲ</sup>曰及<sup>ニ</sup>而子之壯也<sup>ナルコ</sup>以



殆非人也、王維楨曰、乃神人ナルヲ言フ、故ニ方ヲ傳フル、此ノ如シト云フ、  
蓋見カ藏癥結ハ、病源候論癥候云、癥ハ寒溫節ヲ失フニ由リ、府藏ノ氣虛弱ヲ致シ、而テ食飲消セズ、聚結シテ内ニ在リ、染漸シテ塊段ヲ生長シ、盤牢シテ移動セザル者、是癥ナリ、其形狀微驗スベキナ言フナリ。

敬諾。乃出其懷中藥予扁鵲。飲是以上池之水。三十日。當知物矣。  
索隱曰。案舊說云。上池水。謂水未至地。蓋承取露及竹木上水。取之以和藥。服之三十日。當見鬼物也。乃悉取其禁方書。盡與

扁鵲。忽然不見。殆非人也。扁鵲以其言飲藥三十日。視見垣一

方人。  
索隱曰。方。猶邊也。言能隔牆一見彼邊之人。則眼通神也。以此視病。盡見五藏癥結。  
正義曰。五藏。謂心肺脾肝腎也。

六府。謂大腸小腸胃膽膀胱三焦也。王叔和脈經云。左手脈橫癥在左。右手脈橫癥在右。脈頭大者在上。頭小者在下。兩手脈結。上部者濡結。中部者緩結。三里者豆起。陽邪來見浮洪。陰邪來見沈細。水

穀來見堅實。特以診脈爲名耳。  
索隱曰。診。鄒氏音丈忍反。劉氏音陳忍反。司馬彪云。診。占也。爲醫或在齊。

正義曰。號盧醫。或在趙。在趙者名扁鵲。當晉昭公時。  
索隱曰。案左氏簡子專國。在定頃二公之時。非今濟州盧縣。或在趙。在趙者名扁鵲。當晉昭公時。

當昭公之世。且趙系家。敍此事亦在定公之初。諸大夫彊而公族弱。趙簡子爲大夫。專國事。簡

子疾。五日不知人。  
索隱曰。案韓子云。十日不知人。所記異也。大夫皆懼。於是召扁鵲。扁鵲

入視病。出。董安于問扁鵲。扁鵲曰。血脈治也。  
正義曰。下云色廢脈亂。故形靜如死狀也。而

# 史記評林卷之一百五

## 扁鵲倉公列傳第四十五

索隱曰。王劭云。醫方宜與日者龜策相接。不合列於此。後人誤之也。○正義曰。此傳是醫方。合與龜策日者相次。以淳于意孝文帝時醫。奉詔問之。又爲齊太倉令。故太史公以次述之。扁鵲乃春秋時良醫。不可別序。故引爲傳首。太倉公次之也。

扁鵲者。

正義曰。黃帝八十一難序云。秦越人與軒轅時扁鵲相類。乃號之爲扁鵲。又家於盧國。因命之曰盧醫也。

勃海郡鄭人也。

徐廣

曰。鄭當爲鄭。鄭縣名。今屬河閒。○索隱曰。案勃海無鄭縣。徐說是也。

姓秦氏。名越人。少時爲人舍長。

索隱曰。劉氏云。守客

館之師。故號云舍長也。

舍客長桑君過。

索隱曰。隱者。蓋神人也。○正義曰。過音戈。

扁鵲獨奇之。常

謹遇之。長桑君亦知扁鵲非常人也。出入十餘年。乃呼扁鵲私

坐閒與語曰。

正義曰。閒音閑。

我有禁方。年老欲傳與公。公毋泄。扁鵲曰

勃海郡鄭人也。札記云。扁鵲ノ時、未ダ勃海ヲ置カズ、史亦此書法ナシ、當ニ是後人竄改ナルベシ、注鄭當爲鄭、札記云、下文ニ據レバ、乃チ齊人ニシテ鄭ニ家ス、鄭字誤ニ非ズ。爲人舍長注、守客館之師、札記師チ師ニ作ル、云フ單本師、各本師ニ作ル。

貴禍積爲崇。故范蠡之去越。辭不受官位。名傳後世。萬歲不  
忘。豈可及哉。後進者慎戒之。

史記評林卷之一百四終



相何爲縱太子丞相對言使司直部守城門而開太子。上書以聞。請捕繫司直。司直下吏誅死。是時任安爲北軍使者。護軍。太子立車北軍南門外。召任安與節。令發兵。安拜受節入。閉門不出。武帝聞之。以爲任安爲佯邪。徐廣曰。佯或作詳也。○索隱曰。詳音羊。邪弋奢反。佯謂詐受節不發兵。不傳會太子也。不傳事何也。索隱曰。傳音附。謂不附會也。任安答辱北軍錢官小吏。小吏上書言之。以爲受太子節。言幸與我其鮮好者。索隱曰。鮮

音仙。謂太子請其鮮好之兵甲也。

書上聞。武帝曰。是老吏也。見兵事起。欲坐觀成

敗。見勝者欲合從之。有兩心。安有當死之罪甚衆。吾常活之。今懷詐有不忠之心。下安吏誅死。

夫月滿則虧。物盛則衰。天地之常也。知進而不知退。久乘富

利<sup>ナ</sup>三河尤<sup>モ</sup>甚<sup>シ</sup>。臣請<sup>フ</sup>先刺<sup>ニ</sup>舉<sup>セン</sup>三河<sup>チ</sup>。三河太守皆內倚<sup>リ</sup>中貴人<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>

三公有<sup>ニ</sup>親屬<sup>。</sup>無所<sup>ニ</sup>畏憚<sup>スル</sup>。宜<sup>ク</sup>先正<sup>レ</sup>三河<sup>チ</sup>。以警<sup>ム</sup>天下<sup>ヲ</sup>。姦吏<sup>チ</sup>是時河

南河內太守<sup>ハ</sup>皆御史大夫杜父兄子弟也<sup>。</sup>杜<sup>杜</sup>河東太守<sup>ハ</sup>石

丞相子孫也<sup>。</sup>正義曰<sup>。</sup>謂石慶<sup>。</sup>是時石氏九人爲<sup>ニ</sup>二千石<sup>。</sup>方盛貴。田仁

數上書言<sup>レ</sup>之<sup>チ</sup>。杜大夫及石氏使人謝<sup>ニ</sup>謂<sup>ハ</sup>田少卿<sup>。</sup>曰<sup>。</sup>吾非<sup>ル</sup>敢有<sup>ニ</sup>

語言<sup>。</sup>也。願<sup>フ</sup>少卿無<sup>ニ</sup>相誣汙<sup>スル</sup>也。仁已刺<sup>ニ</sup>三河<sup>チ</sup>。三河太守皆下吏<sup>ニ</sup>

誅死<sup>セラル</sup>。仁還奏<sup>ス</sup>事<sup>チ</sup>。武帝說<sup>ビ</sup>。以<sup>レ</sup>仁爲<sup>ニ</sup>能<sup>ク</sup>不<sup>レ</sup>畏<sup>レ</sup>彊禦<sup>。</sup>拜<sup>シ</sup>仁爲<sup>ニ</sup>丞相<sup>。</sup>司

直<sup>ト</sup>威振<sup>フ</sup>天下<sup>ニ</sup>。其後逢<sup>フ</sup>太子有<sup>ニ</sup>兵事<sup>。</sup>丞相自將<sup>リ</sup>兵<sup>。</sup>使<sup>ニ</sup>司直主<sup>ニ</sup>城

門<sup>。</sup>司直以爲<sup>ニ</sup>太子骨肉之親<sup>。</sup>父子之間<sup>。</sup>不<sup>レ</sup>甚<sup>ダ</sup>欲<sup>セ</sup>近<sup>ク</sup>去<sup>ク</sup>之<sup>キ</sup>。諸陵

過<sup>。</sup>是時武帝在<sup>ニ</sup>甘泉<sup>。</sup>使<sup>ニ</sup>御史大夫暴君<sup>。</sup>徐廣曰<sup>。</sup>暴勝之<sup>。</sup>下責丞

不其欲近、札記云、疑  
フ當ニ不欲甚迫ニ作ル  
ベシ。

用者。衛將軍見此兩人貧。主意不平。趙禹去。謂兩人曰。各自具

鞍馬新絳衣。兩人對曰。家貧。無用具也。將軍怒曰。今兩君家

自爲貧。何爲出此言。鞅鞅トシテ如有移德於我者何也。徐廣曰。將

移。猶施。

軍不得已。ムテ上籍以聞。有詔召見衛將軍舍人。此二人前見。詔

問能略相推第也。田仁對曰。提桴鼓立軍門。使士大夫樂死

戰鬪。仁不及任安。任安對曰。夫決嫌疑。定是非。辯治官。使百

姓無怨心。安不及仁也。武帝大笑曰。善。使任安護北軍。使田

仁護邊田穀於河上。此兩人立名天下。其後用任安爲益州

刺史。正義曰。地理志云。武帝改曰梁州。百官表云。元封五年。初置部刺

史。掌奉詔條察州。秩六百石。員十三。按若今採訪按察六條也。

以田仁爲

丞相長史。正義曰。百官表云。丞田仁上書言。天下郡太守多爲姦

相。有兩長史。秩千石。



玉貝劍、札記、玉貝劍  
ニ作ル、是ナリ。

欲以觀將軍而云云、凌  
稚隆曰、而之古字通用  
ス。

平陽主。

正義曰。  
衛青也。

主家令兩人與騎奴同席而食。此二子拔刀、

列斷席別坐。主家皆怪而惡之。莫敢呵。其後有詔募擇衛將

軍舍人。以爲郎。將軍取舍人中富給者。令具鞍馬絳衣。玉貝

劍。欲入奏之。會賢大夫少府趙禹來過衛將軍。將軍呼所舉

舍人。以示趙禹。趙禹以次問之。十餘人無一人習事。有智略

者。趙禹曰。吾聞之。將門之下。必有將類。傳曰。不知其君。視其

所使。不知其子。視其所友。今有詔舉將軍舍人者。欲以觀將

軍而能得賢者。文武之士也。今徒取富人子。上之。又無智略。

如木偶人衣之綺繡耳。將奈之何。於是趙禹悉召衛將軍舍

人百餘人。以次問之。得田仁任安。曰。獨此兩人可耳。餘無可

部署老小當壯劇易處、札記、雜志云、處字衍ナリ、當ハ丁ナリ、勳俗ニ制ニ作ル、後漢章紀ニ欲親知其勳易、李賢注、勳ハ猶難ノ如キナリ、御覽人事部、資產部、獸部、引ア皆處字ナシ、按ニ此說ニ依レバ、老少當壯ナ劇易ニ部署スト讀ムベシ、舉爲親民、淺稚隆曰、衆人任安ヲ舉ゲ、以テ親民ノ吏ト爲スナリ。

爲求盜亭父也。應劭云。舊時亭有兩卒。其一爲亭父。掌關閉掃除。一爲求盜。掌逐捕盜賊也。後爲亭長。正義曰。百官表云。十里一亭。亭有長也。邑

中人民俱出獵。任安常爲人分麋鹿雉兔。部署老小當壯劇

易處。衆人皆喜曰。無傷也。任少卿。正義曰。少卿。安字。分別平。有智略。明

日復合會。會者數百人。任少卿曰。某子甲何爲不來乎。諸人

皆怪其見之疾也。其後除爲三老。正義曰。百官表云。十亭一鄉。鄉有三老一人。掌教化也。舉爲

親民。出爲三百石長。正義曰。百官表云。萬戶已上爲令。秩千石至六百石。減萬戶爲長。秩五百石至三百石。皆有丞尉也。治民。

坐上行出游。共帳不辦。斥免。乃爲衛將軍舍人。與田仁會。俱

爲舍人。居門下同心相愛。此二人家貧。無錢用以事將軍家

監。家監使養惡鬻馬。兩人同牀臥。仁竊言曰。不知人哉。家監

也。任安曰。將軍尙不知人。何乃家監也。衛將軍從此兩人過

仁發兵ヨリ仁族死ニ至ル、札記云、此十五字、疑フ後人異説ナ附注シ、誤テ正文ニ入ル。

國。徐廣曰。涇城縣名也。○正義曰。今定州也。

太史公曰。孔子稱曰。居是國。必聞其政。田叔之謂乎。義不忘賢。明主之美。以救過。仁與余善。余故并論之。

索隱述贊曰。田叔長者。重義輕生。張王既雪。漢中是榮。孟舒見廢。抗說相明。案梁以禮相魯。得情。子仁坐事。刺舉有聲。

褚先生曰。臣爲郎時聞之。曰。田仁故與任安相善。任安。滎陽

人也。少孤。貧困。爲人將車之長安。索隱曰。將車。猶御車也。畱求事爲小吏。

未有因緣也。因占著名數。家於武功。索隱曰。言卜日而自占著名口名數。隸於武功。猶今附籍然也。占音

之黠。武功。扶風西界小邑也。谷口。蜀剗道近山。正義曰。括地志云。漢武功縣在渭水南。今

反。蓋屋縣西界也。略谷。閉在雍州縣。蓋屋縣西南二十里。開駱谷道以通梁州也。按行谷有棧道也。安以爲武功小邑無豪易。

高也。索隱曰。易音以鼓反。言邑小無豪。易得高名也。安畱代人爲求盜亭父。郭璞曰。亭卒也。○正義曰。安畱武功替人

谷口蜀剗道、錢大昕曰、剗道ハ棧道ナリ。



待<sup>タ</sup>王苑外<sup>ニ</sup>。王數使人<sup>ヲシテ</sup>請相休<sup>セ</sup>。終不休<sup>セ</sup>。曰我王暴露苑中<sup>ニ</sup>。我獨何<sup>ヤ</sup>

爲<sup>シ</sup>就舍<sup>ニ</sup>。魯王以故<sup>ヲ</sup>不<sup>ニ</sup>大出游<sup>セ</sup>數年。叔以官卒<sup>ス</sup>。魯以<sup>ニ</sup>百金祠<sup>ル</sup>。少子

仁不<sup>レ</sup>受也。曰不以<sup>ニ</sup>百金傷<sup>ラ</sup>先人名<sup>ヲ</sup>。仁以<sup>ニ</sup>壯健爲<sup>リ</sup>衛將軍舍人<sup>ト</sup>。張晏

曰衛青也。數從擊<sup>ツ</sup>匈奴<sup>ヲ</sup>。衛將軍進言<sup>メ</sup>仁。仁爲<sup>ニ</sup>郎中<sup>ト</sup>。數歲爲<sup>ニ</sup>二千石丞

相<sup>ニ</sup>長史<sup>ト</sup>。失官。其後使刺<sup>ニ</sup>舉三河<sup>ヲ</sup>。正義曰。百官表云。監御史。秦官。掌監郡。漢省丞相遣御史分刺州。不常置也。案三河。河南

河東河內也。上東巡<sup>ス</sup>。仁奏<sup>スル</sup>事有辭<sup>ヲ</sup>。上說<sup>ビ</sup>拜爲<sup>ニ</sup>京輔都尉<sup>ト</sup>。正義曰。百官表云。右扶風左馮翊京兆尹。

是爲<sup>ニ</sup>三輔<sup>ト</sup>。元鼎四年置<sup>ニ</sup>三輔都尉<sup>ト</sup>。服虔云。皆治長安城中也。月餘。上遷拜爲<sup>ニ</sup>司直<sup>ト</sup>。正義曰。百官表云。武帝元狩五年。初置司直。秩比二千石。

掌佐丞相<sup>ニ</sup>。數歲坐<sup>ニ</sup>太子事<sup>ニ</sup>。正義曰。謂戾太子。時左丞相自將<sup>ミ</sup>兵<sup>ヲ</sup>。徐廣曰。劉屈氂。時爲丞相也。令<sup>ム</sup>

司直田仁主閉<sup>ニ</sup>守城門<sup>ヲ</sup>。漢書百官表曰。武帝元狩五年。初置司直。秩比二千石。掌佐丞相舉不法。坐<sup>ニ</sup>縱太子<sup>ト</sup>下<sup>ル</sup>

吏誅死<sup>セラル</sup>。仁發<sup>ス</sup>兵。長陵令車千秋上變<sup>ス</sup>仁。仁族死<sup>セラル</sup>。陘城今在<sup>ニ</sup>中山

閉守城門注漢書云云、此集解ノ文ナリ、札記移シテ上司直ノ注正義曰ノ上ニ入ル、而テ云フ錢警石云、此注正義ト全ク同ジ、疑フ誤アラシ。

如其伏法、札記云、宋本如其二字ナシ、疑フ後人増ス。

入苑中注正義觀者如堵堵牆也、札記一堵字ナシ、云フモト堵字ヲ重メ、注校刪ル、禮射義ト合ス。暴坐、顏師古曰、外ニ於テ自ラ暴露シテ坐ス。

袁盎<sup>ヲ</sup>景帝召<sup>ニ</sup>田叔案<sup>レ</sup>梁具<sup>ニ</sup>得其事<sup>ヲ</sup>還報<sup>ス</sup>景帝曰梁有<sup>レ</sup>之乎叔對<sup>ヘ</sup>曰死罪有<sup>レ</sup>之上曰其事安在<sup>ニ</sup>田叔曰上毋<sup>レ</sup>以<sup>ニ</sup>梁事<sup>ヲ</sup>爲<sup>ス</sup>也上曰何也曰今梁王不<sup>レ</sup>伏誅<sup>ニ</sup>是漢法不<sup>レ</sup>行也如其伏法而太后食不甘<sup>ゼ</sup>味臥不安席此憂在<sup>ニ</sup>陛下<sup>ニ</sup>也景帝大賢<sup>ニ</sup>之以爲<sup>ニ</sup>魯相<sup>ト</sup>魯相初到<sup>ル</sup>民自言<sup>ニ</sup>相<sup>ニ</sup>訟<sup>ル</sup>王取<sup>ニ</sup>其財物<sup>ヲ</sup>百餘人田叔取<sup>ニ</sup>其渠率<sup>ヲ</sup>二十人各笞<sup>ツ</sup>五十餘各搏<sup>ツ</sup>二十

索隱曰搏音搏怒之曰王非<sup>ニ</sup>若主<sup>ニ</sup>邪何自敢言<sup>ニ</sup>若主<sup>ニ</sup>魯王聞<sup>ニ</sup>之大慙<sup>ニ</sup>發<sup>ニ</sup>中府錢<sup>ヲ</sup>使<sup>ニ</sup>相償<sup>ハ</sup>之<sup>ニ</sup>

正義曰王之財物所藏也相曰王自奪<sup>レ</sup>之使<sup>ニ</sup>相償<sup>ハ</sup>之是王爲<sup>ニ</sup>惡<sup>ニ</sup>而相爲<sup>ニ</sup>善<sup>ニ</sup>也相母與<sup>レ</sup>償<sup>ハ</sup>之於是王乃盡償<sup>フ</sup>之魯王好獵<sup>ヲ</sup>

正義曰魯共王景帝子都相常從<sup>ニ</sup>入<sup>ニ</sup>苑中<sup>ニ</sup>

正義曰括地志云兗州曲阜縣故魯城中嬰相圃在<sup>ニ</sup>兗州曲阜縣南三十里禮記云孔子射<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>嬰相之圃<sup>ニ</sup>觀者如<sup>ニ</sup>堵堵牆也

王輒<sup>ニ</sup>休相<sup>ニ</sup>就<sup>ニ</sup>館舍<sup>ニ</sup>相出常暴坐<sup>シ</sup>

索隱曰上音步ト反

首曰。故雲中守孟舒。長者也。是時孟舒坐虜大入塞盜劫。雲中  
 尤甚。免。上曰。先帝置孟舒雲中。十餘年矣。虜曾一入。孟舒不能  
 堅守。毋故士卒戰死者數百人。長者固殺人乎。公何以言孟舒  
 爲長者也。叔叩頭對曰。是乃孟舒所以爲長者也。夫貫高等謀  
 反。上下明詔。趙有敢隨張王罪三族。然孟舒自髡鉗。隨張王敖  
 之所在。欲以身死之。豈自知爲雲中守哉。漢與楚相距。士卒罷  
 敝。匈奴冒頓新服北夷。來爲邊害。孟舒知士卒罷敝。不忍出言。  
 士爭臨城死敵。如子爲父。弟爲兄。以故死者數百人。孟舒豈故  
 驅戰之哉。是乃孟舒所以爲長者也。於是上曰。賢哉孟舒。復召  
 孟舒以爲雲中守。後數歲。叔坐法失官。梁孝王使人殺故吳相



齧指出血曰。先人失國。微陛下。臣等當蟲出。

索隱曰。案謂死而蟲出也。左傳齊桓死未葬。蟲流於

戶外是也。

公等奈何言若是。母復出口矣。於是貫高等曰。王長者不

倍德。卒私相與謀弑上。會事發覺。

徐廣曰。九年十二月捕貫高等也。

漢下詔捕趙王

及羣臣反者。於是趙午等皆自殺。唯貫高就繫。是時漢下詔書。

趙有敢隨王者。辜三族。唯孟舒田叔等十餘人。

附

趙王敖得免。廢爲宣平

侯。乃進言田叔等十餘人。上盡召見。與語。漢廷臣母能出其右。

者。上說。盡拜爲郡守諸侯相。叔爲漢中守。十餘年。會高后崩。諸

呂作亂。大臣誅之。立孝文帝。孝文帝既立。召田叔問之曰。公知

天下長者乎。對曰。臣何足以知之上。曰。公長者也。宜知之。叔頓

首曰。臣知天下長者。唯田叔一人耳。臣聞之。臣知天下長者。唯田叔一人耳。

史記評林卷之一百四

田叔列傳第四十四

田叔者趙陘城人也。

索隱曰案下文字少卿陘音刑縣名屬中山

其先齊田氏苗裔也叔

喜劒學一需領袖黃老術於樂巨公所

索隱曰本燕人樂毅之後

叔爲人刻廉自

喜喜游諸公

正義曰喜音許記反諸公謂丈人行也

趙人舉之趙相趙午午言之趙王

張敖所趙王以爲郎中數歲切直廉平趙王賢之未及遷會陳

豨反代

客スルニ徐廣曰七年韓王信反高帝征之十年代相陳豨反

漢七年高祖往誅之過趙趙王張敖

自持案進食禮恭甚高祖箕踞罵之是時趙相趙午等數十人

皆怒謂張王曰王事上禮備矣今遇王如是臣等請爲亂趙王

樂巨公所、札記云、此所字、疑當在下文喜游諸公ノ下ニ在ルベシ。

史記評林卷之一百三終



行。其萬石建陵張叔之謂邪。是以其教不肅而成。不嚴而治。塞

侯微巧。

正義曰。不疑學老子。所臨官。恐人知其爲吏跡。不好立名稱。稱爲長者。是微巧也。

而周文處調。

索隱曰。案直不疑以吳楚反時。爲二

千石將。景帝封之。微巧也。周文處調者。謂爲郎中令。陰重得幸。出入臥內也。故班固曰。石建之澣衣。周仁之垢汙。君子譏之是也。○正義曰。上時問人。仁曰。上自察之。上所賜常不受。又諸侯羣臣賂遺。終無所受。此爲處調。故君子譏此二人。爲其近於佞也。

君子譏之。爲其近於佞也。然斯可謂篤

行君子矣。

索隱述贊曰。萬石孝謹。自家形國。郎中數馬。內史匍匐。縮無他腸。塞有陰德。刑名張歐。垂涕恤獄。敏行訥言。俱嗣芳躅。

黃震曰。石慶衛綰。皆所謂忠信之人。特未學耳。以之爲三老。助教化。厲薄俗。可也。宰相非其任矣。直不疑之償金。周仁之溺袴類。不近于人情。而仁以密見狎。出入宮禁。殆閹官之靡。又非不疑比也。若張歐。雖刑名學。而有仁心。其庶乎。

御史大夫張叔者名歐。

史記音隱曰。歐於友反。○索隱曰。歐音烏後反。漢書作歐。孟康音驅也。

安丘侯說之

庶子也。

徐廣曰。張說起於方與縣。從高祖以入漢也。○索隱曰。說音悅。

孝文時以治刑名言。

韋昭曰。有刑名之書。欲令名實相副。

也。○索隱曰。案劉向別錄云。申子學號曰刑名者。循名以責實。其尊君卑臣。崇上抑下。合於六經也。說者云。刑名家。即太史公所說六家之二也。

事太子然歐

雖治刑名家。

正義曰。刑名家。名家也。在太史公自有傳。言治刑法及名實也。

其人長者。景帝時尊重常

爲九卿。至武帝元朔四年。韓安國免。詔拜歐爲御史大夫。自歐

爲吏。未嘗言案人。專以誠長者處官。官屬以爲長者。亦不敢大

欺。上具獄。事有可卻卻之。不可者不得已。爲涕泣面對而封之。

其愛人如此。老病篤。請免。於是天子亦策罷。以上大夫祿歸老

于家。家於陽陵。子孫咸至大官矣。

太史公曰。仲尼有言。曰君子欲訥於言。

徐廣曰。訥字多作訥。音同耳。古字假借。

而敏於

雖治刑名家注自有傳、札記云、有字疑フ衍ナリ、此史公自序ナ謂フ。

事有可卻卻之、顔師古曰、退イテ更ニ之ヲ平反セシム。面對、顔師古曰、面ハ之ニ俯クヲ謂フ也、之ヲ視ルニ忍ビザルヲ言フ、呂馬童面之ト同義。

陰重不泄、李光緒曰、  
當ニ索隱注ニ從フ是ト  
爲スベシ、終無所言ト  
呼應ス。

爲太子時。拜爲舍人。積功稍遷。孝文帝時至太中大夫。景帝初  
卽位。拜仁爲郎中令。仁爲人陰重不泄。常衣敝補衣。溺袴。服虔曰。質

重不泄。人之陰謀也。張晏曰。陰重不泄。下溼。故溺袴。是以得比宦者。得入後宮。仁有子孫。先未  
得此病時。所生。韋昭曰。陰重。如今帶下病。泄利。○索隱曰。案其解二亦各有異。小顏云。陰。密也。  
爲性密。重不泄。人言也。霍去病少言不泄。亦其類也。其人又常衣弊補。期爲不絜。清。索隱  
衣。及溺袴。故爲不潔。清之服。是以得幸入臥內也。二者未知誰得其實。  
曰。謂心中常期不絜之服。則期是故之意也。小顏亦同。○正義曰。  
清。清淨。期。猶常也。言爲不潔。淨下濕。故得入臥內。後宮比宦者。  
臥內。於後宮祕戲。索隱曰。謂後宮中戲劇宜可祕也。仁常在旁。至景帝崩。仁尙爲郎

中令。終無所言。上時問人。正義曰。顏師古云。問以他人之善惡也。仁曰。上自察之。然亦

無所毀。以此景帝再自幸其家。家徙陽陵。上所賜甚多。然常讓  
不敢受也。諸侯羣臣賂遺。終無所受。武帝立。以爲先帝臣。重之。  
仁乃病免。以二千石祿歸老。子孫咸至大官矣。



朝廷見、顔師古曰、開  
廷大朝見ノ時ニ當リ、  
人之ヲ殿ルナリ。

其所臨爲官如故、方苞  
曰、其官屢遷ル、臨蒞  
スル所ノ地異ナリト雖  
モ、而モ人ニ接シ已ナ  
處スル、皆故ノ如キナ  
リ。

已<sup>ニシテ</sup>而金主覺。妄意<sup>ニ</sup>不疑<sup>チ</sup>。

索隱曰。謂妄疑其盜取將也。

不疑謝<sup>シ</sup>有<sup>ト</sup>之。買<sup>テ</sup>金償<sup>フ</sup>。而告<sup>三用</sup>

歸者來而歸金。而前郎亡金者大慙。以此稱爲長者。文帝稱舉<sup>シ</sup>。

稍遷至太中大夫。

徐廣曰。漢書云。稱爲長者。稍遷至太中大夫。無文帝稱舉四字也。

朝廷見人或毀曰。

不疑狀貌甚美。然獨無奈其善盜嫂何也。

索隱曰。案小顏云。盜謂私之。

不疑聞

曰。我乃無兄。然終不自明也。吳楚反時。不疑以二千石將兵擊

之。景帝後元年。拜爲御史大夫。天子修吳楚時功。乃封不疑爲

塞侯。武帝建元年中。與丞相綰俱以過免。不疑學老子言其所

臨爲官如故。唯恐人知其爲吏跡也。不好立名稱。稱爲長者。不

疑卒。子相如代。孫望。坐酎金失侯。

索隱曰。漢書作彭祖坐酎金國除。

郎中令周文者。名仁。其先故任城人也。

正義曰。任城。兗州縣也。

以醫見。景帝

屬也。卿其名也。○索隱曰。栗姬之族也。○正義曰。顏師古云。太子廢爲臨江王。故誅其外家親屬也。

上以爲綰長者。不忍。乃賜綰

告歸。而使郅都治捕栗氏。既已上立膠東王爲太子。召綰拜爲

太子太傅。久之。遷爲御史大夫。五歲。代桃侯舍爲丞相。正義曰。故桃城在渭

州。昨城縣東三十里。劉舍所封也。朝奏事。如職所奏。索隱曰。以言但守職分而已。不別有所奏議也。然自初官以

至丞相。終無可言。天子以爲敦厚。可相少主。尊寵之。賞賜甚多。

爲丞相三歲。景帝崩。武帝立。建元年中。丞相以景帝疾時。諸官

囚多坐不辜者。而君不任職。免之。其後綰卒。子信代。坐酎金失

侯。

塞侯直不疑者。南陽人也。

正義曰。上音先代反。古塞國。今陝州桃林縣以西至潼關。皆桃林塞地也。○索隱曰。案塞國名。今桃林之

塞也。直。姓也。不疑。名也。與馮不疑同字。爲郎事文帝。其同舍有告歸。誤持同舍郎金去。

無可言、顏師古曰、  
興建及廢罷スル所ア  
ル能ハズ。

不譙呵綰、注索隱音誰何、札記云、志疑野客叢書ヲ引テ云、史記不誰何綰、傳寫誤リ以テ譙呵綰爲ス、按ズルニ索隱據ル所ノ本誰何ニ作ル、故ニ釋テ借訪ト爲シ、而テ一本譙呵ニ作ルト云フ、蓋別本ナリ、今史本誰何ニ作ル者ナシ、并テ單本出ス所ノ文ヲ改テ譙呵ト爲シ、而テ反テ誰何ヲ以テ音ト作ス、疑フ小司馬原文ニ非ズ、且止文既ニ譙呵ニ作ル、何ゾ又一本譙呵ニ作ルト云ハンヤ、漢書熱何ニ作ル、孰誰ハ聲ノ轉ナリ、注一曰、札記一作ニ作ル。

劍尙盛、顏師古曰、盛音成、創室ノ中ニ在ルヲ謂フ、按ニ蓋囊中ニ盛ルナリ。

常蒙其罪、蒙ハ之ヲ覆蔽スルヲ謂フ。

餘不譙呵綰。索隱曰。譙呵音誰何。猶借訪也。一曰。譙呵責讓也。不譙呵言不嗔責綰也。綰曰以謹力。景帝幸上

林。詔中郎將參乘還而問曰。君知所以得參乘乎。綰曰。臣從車

士。幸得以功次遷爲中郎將。不自知也。上問曰。吾爲太子時召

君。君不肯來。何也。對曰。死罪。實病。上賜之劍。綰曰。先帝賜臣劍。

凡六劍。不敢奉詔。上曰。劍人之所施易。獨至今乎。如淳曰。施讀曰移。言劍者人之所好。

故多數移易質換之也。○綰曰。具在上。使取六劍。劍尙盛。未嘗服也。郎

官有譴。常蒙其罪。不與他將爭有功。常讓。他將。上以爲廉忠實。

無他腸。索隱曰。案小顏云。心腸之內無他惡也。乃拜綰爲河閒王太傅。吳楚反。詔綰爲

將。將河閒兵擊吳楚。有功。拜爲中尉。三歲。以軍功。孝景前六年

中。封綰爲建陵侯。其明年。上廢太子。誅栗卿之屬。蘇林曰。栗太子舅也。如淳曰。栗氏親



安<sup>カ</sup>動<sup>シ</sup>危<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>而辭<sup>ス</sup>位<sup>ヲ</sup>君欲<sup>スル</sup>安<sup>ク</sup>歸<sup>ニ</sup>難<sup>ナ</sup>乎<sup>ヲ</sup>。索隱曰。難音乃彈反。言欲歸於何人。以書讓<sup>ム</sup>慶<sup>ヲ</sup>。慶甚<sup>シ</sup>

慙<sup>チ</sup>。遂復<sup>ニ</sup>視<sup>ル</sup>事<sup>ヲ</sup>。慶文深審謹<sup>シ</sup>。然<sup>レドモ</sup>無<sup>レ</sup>他<sup>ノ</sup>大略<sup>ヲ</sup>。爲<sup>ニ</sup>百姓<sup>ノ</sup>言<sup>フ</sup>。後三歲餘。太

初二年中。丞相慶卒<sup>ス</sup>。諡<sup>シ</sup>爲<sup>ニ</sup>恬侯<sup>ト</sup>。慶中子德。慶愛<sup>ニ</sup>用<sup>ス</sup>之<sup>ヲ</sup>。上以德爲<sup>シ</sup>

嗣<sup>ト</sup>。代侯<sup>ト</sup>後爲<sup>ニ</sup>太常<sup>ト</sup>。坐<sup>シテ</sup>法當<sup>ニ</sup>死<sup>ニ</sup>。贖<sup>ヒ</sup>免<sup>ル</sup>爲<sup>ニ</sup>庶人<sup>ト</sup>。慶方爲<sup>ニ</sup>丞相<sup>ト</sup>。諸子孫

爲<sup>レ</sup>吏。更至<sup>ニ</sup>二千石<sup>ニ</sup>者十三人。及慶死<sup>スルニ</sup>。後稍<sup>ク</sup>以罪<sup>ヲ</sup>去<sup>ル</sup>。孝謹益衰矣<sup>ヲ</sup>。傳內凡九言謹字。

建陵侯衛綰者。正義曰。括地志云。漢建陵縣故城在沂州丞縣界也。代大陵人也。索隱曰。地理志。縣名在代。○正義曰。

括地志云。大陵縣城在并州文水縣北十三里。按代王耳時都中都。大陵屬焉。故言代大陵人也。應劭曰。能左右超乘也。如淳曰。機

轉之類。○索隱曰。案今亦有弄車之戲是也。機音歷。謂超踰之也。轉音衛。謂車軸頭也。事文帝。功次遷爲<sup>ニ</sup>中郎將<sup>ト</sup>。醇謹

無<sup>レ</sup>他。孝景爲<sup>ニ</sup>太子<sup>ト</sup>時。召<sup>シテ</sup>上<sup>ノ</sup>左右<sup>ヲ</sup>飲<sup>ス</sup>。而綰稱<sup>レ</sup>病不<sup>レ</sup>行。伏後召君不來。張晏曰。恐文帝謂豫有<sup>ニ</sup>二心<sup>ヲ</sup>以事太

子<sup>ト</sup>。文帝且崩<sup>セント</sup>時。屬<sup>シテ</sup>孝景<sup>ニ</sup>曰。綰長<sup>ク</sup>者善<sup>ク</sup>遇<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>。及文帝崩。景帝立<sup>ニ</sup>。歲

文帝且崩<sup>セント</sup>時。屬<sup>シテ</sup>孝景<sup>ニ</sup>曰。綰長<sup>ク</sup>者善<sup>ク</sup>遇<sup>フ</sup>之<sup>ヲ</sup>。及文帝崩。景帝立<sup>ニ</sup>。歲

慶方爲丞相。諸子孫爲吏。更至二千石者十三人。錢大昕曰。褚先生。田仁三河。刺舉スルヲ。鉞シ。河東太守。石丞相ノ子孫ナリ。石氏九人二千石ト爲リ。方ニ盛貴ナリ。仁數々上書之ヲ言フ。其後三河太守皆吏ニ下リ。誅死セラルト。此慶已ニ歿スルノ後ニ在リ。以戲車爲耶。顏師古曰。テノ弄車ノ技ノ若シ。

九卿減宣、札記咸宣ニ作ル、云フ各本減ニ作ル、錢鑒石云、當ニ咸ニ作ルベシ、按ズルニ漢書咸ニ作リ、師古音減損之減ト、此集解服虔音ヲ引ク、正ニ同ジ、則本亦咸ニ作ル明ナリ。四十萬注小顔云云、漢書注、名數若今戶籍ニ作ル、從フベシ。從流民於邊以適之、顏師古曰、適讀テ適ト曰フ。

天子巡狩海內。修上古神祠。封禪。興禮樂。公家用少。桑弘羊等致利。王溫舒之屬峻法。兒寬等推文學。至九卿。更進用事。事不關決於丞相。丞相醇謹而已。在位九歲。無能有所匡言。嘗欲請治上近臣所忠。九卿減宣罪。服虔曰。音減損之減。不能服反受其過。贖罪。元封四年中。關東流民二百萬口。無名數者四十萬。索隱曰。案小顔云。無名數。若今之無戶籍。公卿議欲請徙流民於邊。以適之上。以爲丞相老謹。不能與其議。乃賜丞相告歸。而案御史大夫以下議爲請者。丞相慙不任職。乃上書曰。慶幸得待罪丞相。罷駑無以輔治。城郭倉庫空虛。民多流亡。罪當伏斧質。上不忍致法。願歸丞相侯印。乞骸骨歸。避賢者路。天子曰。倉廩既空。民貧流亡。而君欲請徙之。搖蕩不



誤書馬字、札記字チ者  
ニ作ル、云フ游王柯浚  
本字ニ作ル。

爲太僕御出、顏師古曰、  
上ノ爲ニ車ヲ御シテ出  
ヅル也、札記曰、爲太  
僕ヨリ然猶如此ニ至ル  
三十六字、蓋史文無キ  
所、故ニ正義漢書ヲ引  
テ之ヲ注ス、後人注ニ  
據テ増竄スレバ、則正  
義贅ト爲ス。

於<sup>レ</sup>萬石君建爲<sup>ニ</sup>郎中令<sup>ト</sup>書奏<sup>ス</sup>事<sup>ヲ</sup>下<sup>ル</sup>建讀<sup>マ</sup>之<sup>ヲ</sup>曰<sup>ク</sup>誤書<sup>ス</sup>馬字<sup>ヲ</sup>與<sup>ニ</sup>尾  
當<sup>ニ</sup>五<sup>ナル</sup>今乃四<sup>ル</sup>不足<sup>一</sup>。服虔曰作馬字下曲而五建時上事書誤作四○正義曰顏師古云馬字下曲者尾并四點爲四足凡五上<sup>ニ</sup>譴死<sup>セント</sup>

矣<sup>ダ</sup>甚<sup>ダ</sup>惶恐<sup>ス</sup>其爲<sup>ニ</sup>謹慎<sup>ナル</sup>雖他<sup>ト</sup>皆如<sup>レ</sup>是<sup>ニ</sup>萬石君少子慶爲<sup>ニ</sup>太僕<sup>ト</sup>御出<sup>ヅ</sup>

上問<sup>ニ</sup>車中幾馬<sup>ト</sup>慶以策數<sup>ハ</sup>馬<sup>ヲ</sup>畢舉<sup>テ</sup>手曰<sup>ク</sup>六馬<sup>ト</sup>慶於<sup>ニ</sup>諸子中<sup>ニ</sup>最爲<sup>ニ</sup>

簡易<sup>ト</sup>矣<sup>ト</sup>。正義曰漢書慶爲太僕御出上問車中幾馬慶以策數馬畢舉手曰六馬按慶於兄弟最爲簡易矣然猶如此也然猶如此爲齊相

舉<sup>テ</sup>齊國<sup>ヲ</sup>皆慕<sup>ヒ</sup>其家行<sup>ヲ</sup>不言<sup>ハ</sup>而齊國大治<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>立<sup>ツ</sup>石相祠<sup>ト</sup>元狩元年

上立<sup>ツ</sup>太子<sup>ヲ</sup>選<sup>ブ</sup>羣臣可<sup>キ</sup>爲<sup>ニ</sup>傅<sup>ト</sup>者<sup>ヲ</sup>慶自<sup>ニ</sup>沛守<sup>ト</sup>爲<sup>ニ</sup>太子太傅<sup>ト</sup>七歲遷爲<sup>ニ</sup>

御史大夫<sup>ト</sup>元鼎五年秋丞相有<sup>ニ</sup>罪罷<sup>ム</sup>。趙周坐酎金免○索隱曰案漢書而知也制<sup>ニ</sup>詔<sup>ス</sup>御史萬

石君先帝尊<sup>ア</sup>之<sup>ヲ</sup>子孫孝<sup>ニ</sup>其以<sup>ニ</sup>御史大夫慶<sup>ヲ</sup>爲<sup>ニ</sup>丞相<sup>ト</sup>封爲<sup>ニ</sup>牧丘侯<sup>ト</sup>

是時漢方南誅<sup>ニ</sup>兩越<sup>ヲ</sup>東擊<sup>ニ</sup>朝鮮<sup>ヲ</sup>北逐<sup>ニ</sup>匈奴<sup>ヲ</sup>西伐<sup>ニ</sup>大宛<sup>ヲ</sup>中國多事<sup>ニ</sup>

按此以下石氏所不稱職處



本籍、各本錯ニ作ル、漢書亦籍ニ作ル、顏師古曰、中籍ハ、今ノ中衣ト言フ若キナリ、關脇ハ、身ニ近キノ小衫、今ノ汗衫ノ若キナリ、蘇音言說是ナリ。

至廷見、顏師古曰、朝ニ當ツテ見ルノ時ヲ謂フ。

固當、淺稚隆曰、甚シク當ラザルヲ言フ也。

廁溷垣牆、建隱於其側、浣滌也。一讀脬爲寶、寶音豆。言建又自洗滌廁寶。廁寶、瀉除穢惡之穴也。呂靜曰、械、窰囊器也。音威豆。駟案蘇林曰、脬音投。賈逵解周官械、虎子也。窰、行清也。孟康曰、廁、行清窰。行中受糞者也。東南人謂鑿木空中如曹謂之廁。晉灼曰、今世謂反閉小衫袖爲侯窰。廁此最廁近身之衣也。○索隱曰、案親謂父也。中裙、近身衣也。徐廣曰、脬、短板以築廁牆、未知其義何從、恐非也。復與侍者不敢令萬石君知、以爲常。建爲郎中令、事有

可言、屏人恣言、極切。至廷見、如不能言者。是以上乃親尊禮之。

萬石君徙居陵里。

徐廣曰、陵一作鄰。○索隱曰、小顏云、陵里名。在茂陵。非長安之威里也。○正義曰、茂陵邑中里也。茂陵、故城、漢茂陵縣也。在雍州

始平縣東

內史慶醉歸、入外門、不下車。萬石君聞之、不食。慶恐、肉

北二十里

袒請罪。不許。舉宗及兄建肉袒。萬石君讓曰、內史貴人、入閭里、

里中長老皆走匿、而內史坐車中自如。固當乃謝罷慶。慶及諸

子弟入里門、趨至家。萬石君以元朔五年中卒。長子郎中令建

哭泣哀思、扶杖乃能行。歲餘建亦死。諸子孫咸孝。然建最甚。甚

申申如也、類師古曰、  
整勅ノ貌ナリ。  
新訢如也、類師古曰、  
晉說非ナリ、此訢讀テ  
闌ト同ジ、謹敬ノ貌ナ  
リ、音牛巾久。

雖齊魯諸儒質行、類師  
古曰、質ハ重ナリ。

取親中裙廁廕、札記裙  
ナ箱ニ作ル、云フ索隱

乃許。子孫勝冠者在側。雖燕居必冠。索隱曰、燕、謂閑燕之時、燕安也。申申如也。僮

僕訢訢如也。晉灼曰、訢訢、慎曰、古欣字。韋昭曰、聲和貌。唯謹。上時賜食於家。必稽首俯伏

而食之。如在上前。其執喪哀戚甚悼。子孫遵教亦如之。萬石君

家以孝謹聞乎郡國。雖齊魯諸儒質行。皆自以爲不及也。建元

二年。郎中令王臧。正義曰、百官表云、郎中令、秦官、掌宮殿掖門戶。武帝太初元年、更名光祿勳也。以文學獲罪。皇

太后以爲儒者文多質少。今萬石君家不言而躬行。乃以長子

建爲郎中令。少子慶爲內史。正義曰、百官表云、內史、周官、秦因之、掌治京師。景帝分置左內史、武帝太初元年、更名京兆尹。左內

史名左馮翊也。建老白首。萬石君尙無恙。建爲郎中令。每五日洗沐歸謁

親。入子舍。文穎曰、郎五日一下。○正義曰、孔文祥云、建爲郎中令、卽光祿勳。九卿之職也。直五日一下也。按五日一下直洗沐。○索隱曰、案劉氏謂小房內非正堂

也。小顏以爲諸子之舍。若今諸房也。竊問侍者取親中裙廁廕。身自浣滌。徐廣曰、廕、築垣短板也。音佳。廁廕、謂

恭謹無與比。文帝時。東陽侯張相如爲太子太傅。免選可爲傅。

者。皆推奮。奮爲太子太傅。及孝景卽位。以爲九卿。迫近憚之。張晏

曰。以其恭敬。徙奮爲諸侯相。奮長子建。次子甲。次子乙。徐廣曰。一作仁。履度故難之。

古云。史失其名。故云。次子慶。皆以馴行孝謹。徐廣曰。馴一作訓。索隱曰。馴音巡。

官皆至二千石。於是景帝曰。石君及四子皆二千石。人臣尊寵乃集其門。

號奮爲萬石君。孝景帝季年。萬石君以上大夫祿歸老于家。以

歲時爲朝臣。過宮門闕。萬石君必下車趨。見路馬必式焉。子孫

爲小吏。來歸謁。萬石君必朝服見之。不名。子孫有過失。不譙讓。

爲便坐。對案不食。索隱曰。譙音才笑反。譙讓。責讓也。爲音于僞反。便音婢。綿反。蓋謂

也。故王者所居有便殿便房。爲之不處正室。別坐他處也。故曰便坐。坐音如座。便坐非正坐處

義亦然也。又音婢見反亦通。然後諸子相責。因長老肉袒固謝罪。改之。

以歲時爲朝臣、顏師古曰、朝請ニ豫ルナリ。  
見路馬必式焉、顏師古曰、路馬ハ、天子路車ノ馬ナリ、式ハ試ヲ撫スルヲ謂フ、蓋敬ノ爲ナリ。



# 史記評林卷之一百三

## 萬石張叔列傳第四十三

萬石張叔列傳、淺雅隆  
曰、石奮、石建、石慶、  
衛綰、直不疑、周仁、  
張敖、行事同ジカラズ  
ト雖モ、要スルニ長者  
タルヲ失ハズ、故ニ傳  
ヲ同ジウス。

萬石君名奮。

正義曰。以父及四子皆二千石。故號奮爲萬石君。

其父趙人也。

正義曰。洛州郡。鄆。本趙國都。

姓石氏。

趙亡。徙居溫。

正義曰。故溫城。在懷州溫縣三十里。漢縣在也。

高祖東擊項籍。過河內。時奮年

十五。爲小吏。侍高祖。高祖與語。愛其恭敬。問曰。若何有。對曰。奮

獨有母。不幸失明。家貧。有姊能鼓琴。高祖曰。若能從我乎。曰。願

盡力。於是高祖召其姊。爲美人。以奮爲中涓。

正義曰。顏師古云。中涓。官名。居中而涓潔也。如淳云。

主通書謁。

出人命也。受書謁。徙其家。長安中戚里。

索隱曰。小顏云。於上有姻戚者皆居之。故名其里爲戚里。長安記。戚里在城內。

以姊爲美人。故也。其官至孝文時。積功勞。至大中大夫。無文學。

受書謁ハ、顏師古曰、  
外書謁アル、奮ヲシテ  
之ヲ受ケシムルナリ。

年九十餘。不能復爲官。乃以唐子馮遂爲郎。遂字王孫。亦奇士。與余善。

有味哉、札記云、中統本重木ズ。

太史公曰。張季之言長者。守法不阿意。馮公之論將率有味哉。語曰。不知其人。視其友。二君之所稱誦。可著廊廟。書曰。不偏不黨。王道蕩蕩。不黨不偏。王道便便。徐廣曰。一作辨。張季馮公近之矣。

索隱述贊曰。張季未偶。見識袁盎。太子懼法。嗇夫無狀。驚馬罰金。盜環悟上。馮公白首。味哉論將。因對李齊。收功魏尚。

楊維禎曰。進言之方。有風諫。有譎諫。有激諫。唐言頗牧于文帝。其得激諫之效歟。魏尚守雲中。坐上功虜差六級。而文帝下之吏。此與信郭開譏而罪李牧者何遠。唐一言而復尙雲中守。老人之言。何其應之捷哉。故曰。激諫之效。

史記評林卷之一百二終

罰作之ハ、蘇林曰、一歲ノ刑ヲ罰作ト爲ス。

郡國車士注車軍、札記車戰ニ作ル、云フ戰ナ軍ニ誤ル、考證漢書注ニ據テ改ム。

家子起田中從軍。安知尺籍伍符。如淳曰。漢軍法曰。吏卒斬首。以尺籍書下縣移郡。令人故行。不行奪勞二歲。五符亦什伍

之符。約節度也。或曰。以尺簡書。故曰尺籍也。○索隱曰。按尺籍者。謂書其斬首之功於一尺之板。伍符者。命軍人伍伍相保。不容奸詐也。故行不行。謂故命人行而身不自行。奪勞二歲也。故

與雇終日力戰。斬首捕虜。上功莫府。索隱曰。按莫。訓大也。又崔浩云。古者出征爲將。治無常處。以幕爲府舍。故云幕

府。莫當爲幕。一言不相應。索隱曰。應音乙陵反。謂數不同也。文吏以法繩之。其賞不行。

而吏奉法必用。臣愚以爲陛下法太明。賞太輕。罰太重。且雲中

守魏尚坐上功。首虜差六級。陛下下之吏。削其爵。罰作之。由此

言之。陛下雖得廉頗李牧。弗能用也。班固稱楊子曰。孝文帝親詘帝尊。以信亞夫之軍。曷爲不能用頗牧。彼將

有臣誠愚。觸忌諱。死罪死罪。文帝說。是日令馮唐持節赦魏尚。

復以爲雲中守。而拜唐爲車騎都尉。主中尉及郡國車士。服虔曰。車

軍之士也。七年。景帝立。以唐爲楚相。免武帝立求賢良。舉馮唐。唐時



八四

獨無閒處乎。顏師古曰、何ノ閒隙ノ處ニ於テ言ザルナリ。

北地都尉昂、札記印ニ作ル、云フ索隱本印、文紀惠景閒侯者表何奴傳ト合ス、御覽二百七十八引テ印ニ作リ、注昂、今各本竝ニ昂ニ作ル。

不從中擾也、札記云、擾毛本覆ニ作ル、漢書同ジ、御覽引テ御ニ作ル、通鑑注師古曰、覆ハ之ヲ覆白スルヲ謂フナリ、一說中ヨリ其用

也。解已。陛下雖得廉頗李牧弗能用也。上怒起入禁中良久召唐一句截殺

讓曰。公柰何衆辱我獨無閒處乎。唐謝曰。鄙人不知忌諱指時事起案當是

之時匈奴新大入朝那。索隱曰。上音朝遙。下音乃何反。縣名。屬河西安定也。○正義曰。在原州百泉縣西北十里。漢朝那縣是也。殺

北地都尉昂。正義曰。北地郡。今寧州也。索隱曰。案都尉姓孫。上以胡寇爲意乃卒復問唐曰。

公何以知吾不能用廉頗李牧也。唐對曰。臣聞上古王者之遣

將也。跪而推轂曰。闔以內者。韋昭曰。此郭門之闔也。門中概曰闔。○索隱曰。概音其月反。○正義曰。闔音苦本反。謂門限也。

寡人制之。闔以外者。將軍制之。軍功爵賞皆決於外。歸而奏之。

此非虛言也。臣大父言李牧爲趙將居邊。軍市之租皆自用饗

士。索隱曰。案謂軍中立市。市有稅。稅卽租也。賞賜決於外。不從中擾也。委任而責成功。故

李牧乃得盡其智能。遣選車千三百乘。索隱曰。案六韜書云。有選車之法十一。設騎萬三



日、孝ヲ以テ郎中ト爲  
ルヲ得、而テ郎署ノ長  
ト爲ルナリ。

長

應劭曰。此云孝子郎也。或曰。以至孝  
聞。○索隱曰。案謂爲郎署之長也。

事文帝。文帝輦過。

索隱曰。過音戈。謂文  
帝乘輦過郎署也。

問<sup>テ</sup>唐<sup>ニ</sup>曰。父老何<sup>ゾ</sup>自爲<sup>ミ</sup>郎<sup>ル</sup>。

索隱曰。案崔浩云。自從也。帝詢唐何從爲郎。又小顏云。年老矣。何乃自爲郎。怪之也。

家安在クニカ唐ル

具<sup>ニ</sup>以<sup>レ</sup>實<sup>チ</sup>對<sup>フ</sup>。文帝曰。吾居<sup>リシニ</sup>代時。吾尙食監高祛。數爲<sup>ニ</sup>我言<sup>フ</sup>趙將李

齊之賢戰於鉅鹿下。今吾每飯意未嘗不在鉅鹿也。

張晏曰。每食  
念監所說李

齊在鉅鹿時。

父知<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>乎。唐對<sup>ヘテ</sup>曰。尚<sup>モ</sup>不<sup>レ</sup>如<sup>カ</sup>廉頗李牧之爲<sup>ルニ</sup>將也。上曰。何<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>

唐曰。臣大父在趙時。爲官卒將。

徐廣曰。一云。官士將。駟案晉灼曰。百人爲徹行。亦皆師將也。○索隱曰。案國語。闔閭卒百。

人爲徹行。行頭皆官師。賈逵云。百人爲一隊也。官師。隊大夫也。

善<sup>シ</sup>李牧<sup>ニ</sup>臣<sup>應前</sup>父故爲<sup>ト</sup>代<sup>リ</sup>相。善<sup>シ</sup>趙將李齊<sup>ニ</sup>知<sup>ル</sup>。

搏髀、搏ハ拊ナリ、髀  
音陞、股ナリ。

其爲人也。上既聞廉頗李牧爲人良。

如淳曰。良。善也。

說ンデ而搏テ髀チ曰。嗟乎

吾獨不得廉頗李牧ヲ時爲吾將ル吾豈憂フ匈奴ヲ哉。唐曰。主臣。

索隱  
曰。案

唐曰主臣、文穎曰、惶恐ノ辭ナリ、猶今死罪ト言フ如キナリ、晉灼曰主ハ擊ナリ、臣ハ服ナリ、其擊服ト言フ、惶恐ノ辭ナリ、顔師古曰、文晉二說是ナリ。

樂彥云。人臣進對。前稱主臣。猶上書前云。昧死。案志林云。馮唐面折萬乘。何言不懼。主臣爲驚怖。其言益著也。又魏武謂陳琳云。卿爲本初檄。何乃上及父祖。琳謝曰。主臣。益明主臣是驚怖。



爲我結轡云云、淺稚隆日、王生釋之ナシテ轡ヲ結バンム、蓋黃老剛ヲ摧ギ柔ト爲スノ本旨ナリ、圯上履ヲ納ル事ト同ジ。

爲中郎署長ハ、漢書郎中署長ニ作ル、顔師古

知何如<sup>省</sup>。用王生計。卒見謝。景帝不過也。王生者善爲黃老言處

士也。嘗召居廷中。三公九卿盡會立。王生老人曰。吾轡解。

正義曰。上

萬越反。下開買反。

顧謂張廷尉爲我結轡。

索隱曰。結音如字。又音計。

釋之跪而結之。既已

人或謂王生曰。獨奈何廷辱張廷尉。使跪結轡。王生曰。吾老且

賤。自度終無益於張廷尉。張廷尉方今天下名臣。吾故聊辱廷

尉。使跪結轡。欲以重之。諸公聞之。賢王生而重張廷尉。張廷尉

事景帝歲餘。爲淮南王相。猶尙以前過也。久之。釋之卒。其子曰

張摯字長公。官至大夫。免。以不能取容當世。故終身不仕。

索隱曰。謂

性公直。不能曲屈。見容於當世。故至免官不仕也。

馮唐者。其大父趙人。父徙代。漢興徙安陵。唐以孝著。爲中郎署

冷案

廷尉二字ヲ重ヌ、凌一本ヲ引キ及ビ班馬異同本重ネズ、漢書亦ナシ。欲致族之、札記欲致之族ニ作ル、云、燕刻漢書ト合ス、各本之族倒ス。且罪等、通鑑注仲馮曰、此等讀テ等級ノ等ノ如シ、凡罪ノ等差ヲ言フ。

取長陵一抔土、長陵ハ高祖ノ陵ナリ、顏師古曰、抔ハ手之ヲ掬スル也、其字手ニ從フ、毀撤ヲ言フニ忍ビズ、故ニタダ土ヲ取ルト云フノミ、今學者抔ヲ讀デ杯杓ノ杯ト爲ス、非ナリ、杯ハ應ニ土ヲ盛ルベキノ物ニ非ルナリ。

王恬開注一作關、札記開ニ作ル、云、宋本中統舊刻游王柯毛同ジ、凌本剗改シテ關ニ作ル。

奏當<sup>シテ</sup>棄市。上大怒曰。人之無道。乃盜<sup>ム</sup>先帝廟器。吾屬<sup>スルハ</sup>廷尉者。欲<sup>シテ</sup>致<sup>セ</sup>族<sup>ス</sup>之。而君以法奏<sup>ス</sup>之。索隱曰。案以法者。謂依律以斷也。非吾所以共承<sup>スル</sup>宗廟意也。

釋之免<sup>シ</sup>冠頓首謝曰。法如是足也。徐廣曰。足一作止也。且罪等。如淳曰。俱死罪也。盜玉環。不若盜長

陵土之逆也。然以逆順爲差。今盜宗廟器而族之。有如萬分之一。假令

愚民取長陵一抔土。張晏曰。不欲指言。故以取土譬也。○索隱曰。抔音步侯反。案禮運云。汙尊而抔飲。鄭氏云。抔。手掬之。字從手。字本或作盃。

言一勺一杯。兩音竝通。又音普廻反。坏者。埽之未燒之名也。張晏云。不欲指言。故以取土譬者。蓋不欲言盜開長陵及侵柩。恐傷迫切先帝故也。陛下何以加

其法乎。久之。文帝與太后言之。乃許廷尉。當是時。中尉條侯周

亞夫與梁相山都侯王恬開。徐廣曰。一作關。漢書作啓。啓者。景帝諱也。故或爲開。見釋之持議平。

乃結爲親友。張廷尉由此天下稱之。後文帝崩。景帝立。釋之恐。

索隱曰。景帝爲太子時。與梁王入朝。稱病欲免。去懼大誅。至欲見謝。則未不下司馬門。釋之曾奏劾。故恐也。



一人犯蹕、札記云、毛  
 本吳校元板一ナ此ニ作  
 ル、漢書ト同シ、雜志  
 云、宋本此ニ作ル、類聚  
 水部引テ一ニ作ル、初  
 學記地部、御覽儀式部  
 引テ此ニ作ル、拾遺ニ云、  
 一人犯蹕、罰金四兩、  
 漢律ノ文ナリ、二人以  
 上ハ、罪當ニ等ナ加フ  
 ベシ、漢書義短ナリ、  
 按ズルニ、モト此ニ作  
 ル者ハ、蓋下文帝言此  
 人親驚吾馬ニ涉リテ誤  
 ル。

下廷尉廷尉治、札記一  
 廷尉字ヲ訓ル、云、各本

一人從橋下走出。乘輿馬驚。於是使騎捕屬之廷尉。釋之治問。  
 曰。縣人來。如淳曰。長安縣人。聞蹕匿橋下。久之。以爲行已過。即出。見乘輿

車騎。即走耳。廷尉奏當。一人犯蹕。當罰金。如淳曰。乙令。蹕先至而犯者。罰金四兩。蹕止行人。○索隱

曰。崔浩云。當謂處其罪也。案百官志云。廷尉掌平刑罰。奏當。所應郡國讞疑罪。皆處當以報之也。文帝怒曰。此人親驚吾馬。吾

馬賴柔和。令他馬固不敗傷我乎。而廷尉乃當之罰金。釋之曰。

法者。天子所與天下公共也。索隱曰。小顏云。公。謂不私也。今法如此。而更重之。是

法不信於民也。且方其時。上使立誅之則已。今既下廷尉。廷尉

天下之平也。一傾而天下用法皆爲輕重。民安所錯其手足。唯

陛下察之。良久。上曰。廷尉當是也。其後有人盜高廟坐前玉環。

捕得。文帝怒。下廷尉。廷尉治。釋之。案律盜宗廟服御物者爲奏。一本無重廷尉字



案隱以テ義兩通スベシト爲ス、蓋則兩字ナリ。唐以前已ニ相混ズルナリ。  
倚瑟而歌、顏師古曰、倚瑟ハ即今ノ歌ナリ以テ曲ニ合スルナリ。

新陳蔡、札記云、御覽五百五十二引テ蔡字ナシ、漢書本傳及ビ楚元王傳、劉向此事ヲ説ク、亦ナシ、漢書并テ陳蔡二字ナシ、舊刻蔡ヲ架ニ作ル、案隱本ト同ジ、按ニ紵ハ麻ノ屬ナル者、架ハ散綿ナリ、蔡ハ黏著ナリ。  
使其中有可欲者云云ハ、顏師古曰、有可欲ハ、多ク金玉ヲ藏シテ厚ク之ヲ葬ル、人皆之ヲ發取セント欲スルヲ謂フ也、是則陳アルナリ、無可欲ハ器備チ實カズシテ薄ク葬ル、人攻掘シ之ヲ取ルチ欲スル者ナキヲ謂フ、故ニ憂戚ナキナリ、胡三省曰、銅ハ、銅ヲ治シ鑄塞シテ、以テ固ト爲スナリ。

上指示慎夫人新豐道曰。此走邯鄲道也。

張晏曰。慎夫人。邯鄲人也。如淳曰。走音奏。趨也。○索隱曰。

案走猶使慎夫人鼓瑟。上自倚瑟而歌。

漢書音義曰。聲氣依倚瑟也。書曰。聲依永。○索隱曰。倚於綺反。案謂歌聲。

合於瑟聲相依倚也。

意慘悽悲懷。顧謂羣臣曰。嗟乎。以北山石爲槨。

正義曰。顏師古云。美。

石出京師北山。今宜州石是。

用紵絮斷陳蔡漆其間。

徐廣曰。斷一作錯。駟案漢書音義曰。斷絮以漆著其間也。○索隱曰。紵音竹呂。

反。絮音息慮反。斷音側略反。蔡音女居反。案斷陳蔡以漆著其間也。

豈可動哉。左右皆曰。善。釋之前進曰。使

其中有可欲者。雖銅南山猶有郤。

張晏曰。銅。鑄也。帝北向。故云北山。廼顧南向。故云南山。○索隱曰。案大顏云。北山青

石。肌理細密。堪爲埤槨。至今猶然。故秦本紀云。作阿房作鄴山。發北山石。槨乃寫是也。故帝欲北山之石爲槨。取其精牢。釋之答言。但使薄葬。冢中無可貪。雖無石槨。有何憂焉。若使厚葬。冢

中有物。雖并銅南山。猶爲人所發掘也。言南山者。取其高厚之意。張晏殊失其旨也。

使其中無可欲者。雖無石槨。又何

戚焉。文帝稱善。其後拜釋之爲廷尉。頃之。上行出中渭橋。

張晏曰。在

渭橋中路。瓚曰。中渭橋。兩岸之中。○索隱曰。張晏臣瓚之說皆非也。案今渭橋有三所。一所在城西北。咸陽路曰西渭橋。一所在東北。高陵路曰東渭橋。其中渭橋。在故城之北也。有

陵遲而至於二世。錢大昕曰。漢書。陵夷二作ル。平準書。選舉陵遲。漢志亦夷二作ル。司馬相如傳。陵夷衰微。漢書。遲二作ル。古文夷遲ト通ズ。

居北臨厠注云云。錢大昕曰。厠ハ即厠字ナリ。側旁人ニ从フ。隸變ジテ厠ト爲ル。厠厠ノ字。戶ニ从フ者ト同ジカラズ。劉伯莊音初吏反。

過。陵遲而至於二世。天下土崩。今陛下以嗇夫口辯而超遷之。

臣恐天下隨風靡靡爭爲口辯而無其實。且下之化上疾於景

響。舉錯不可不審也。文帝曰善。乃止不拜嗇夫。上就車召釋之。

參乘徐行問釋之秦之敝。具以實言。如淳曰。質誠也。至宮上拜釋之爲

公車令。頃之。太子與梁王共車入朝。不下司馬門。如淳曰。宮衛令諸出入殿門公車司

馬門。乘軺傳者皆下。於是釋之追止太子梁王。無得入殿門。遂劾不

下公門不敬奏之。薄太后聞之。文帝免冠謝曰。敎兒子不謹。薄

太后乃使使承詔赦太子梁王。然後得入。文帝由是奇釋之。拜

爲中大夫。頃之。至中郎將。從行至霸陵。居北臨厠。李奇曰。霸陵北頭厠近霸水。帝登其

上以遠望也。如淳曰。居高臨垂邊曰厠也。蘇林曰。厠邊側也。韋昭曰。高岸夾水爲厠。○索隱曰。劉氏厠音初吏反。包愷音側。義亦兩通。是時愼夫人從。



ヅ、水經注涑水篇、緒陽、地理志曰、縣二緒水アリ、漢哀帝改之順陽ト爲スト、此酈氏誤注ノミ、後漢書朱祐傳注、堵陽故城、今ノ唐州方城縣ニ在リト、方城ハ今ノ裕州ナリ、豈順陽ト潤ジテ一ト爲スナ得ンヤ。  
率之母甚高論云云ハ、顏師古曰、其議論ナシテ時事ニ依附セシムルナリ。  
登虎圈、胡三省曰、虎圈ハ虎ヲ養フノ所、上林ニ在リ、諸禽獸簿ハ、胡三省曰、禽獸ノ大數ヲ簿録スルナリ。  
十餘問尉左右視盡不能對ハ、胡三省曰、蓋帝之ヲ問テ對フル能ハズ、故ニ倉卓措ヲ失シテ、左右ヲ視ルナリ。  
虎園畜夫ハ、虎園ヲ掌ルノ吏ナリ。  
欲以觀其能、顏師古曰、觀ハ猶示ノ如キナリ。尉無賴ハ、胡三省曰、其才特賴スルニ足ルナキヲ言フナリ。  
豈戰ノ數ハ效ナリ、漢書效ニ作ル。  
亟疾ノ亟ハ、急ナリ。

而漢所以興者久之文帝稱善乃拜釋之爲謁者僕射釋之從行登虎圈正義曰。上問上林尉諸禽獸簿。求遠反。索隱曰。漢書表。上林有八丞十

十餘問尉左右視盡不能對虎圈畜夫從旁代尉對上所問禽獸簿甚悉正義曰。掌虎圈百官表有鄉畜夫此其類也。欲以觀其能口對響應無窮者文帝

曰吏不當若是邪尉無賴張晏曰。才無可恃。乃詔釋之拜畜夫爲上林令

釋之久之前曰陛下以絳侯周勃何如人也上曰長者也又復

問東陽侯張相如何如人也上復曰長者釋之曰夫絳侯東陽

侯稱爲長者此兩人言事曾不能出口豈數此畜夫課謀利口

捷給哉晉灼曰。音牒。索隱曰。漢書作喋喋多言也。且秦以任刀筆之吏史爭以亟疾苛察

相高然其敝徒文具耳索隱曰。案謂空具其文而無其實。無惻隱之實以故不聞其

相高然其敝徒文具耳索隱曰。案謂空具其文而無其實。無惻隱之實以故不聞其



史記評林卷之一百二

張釋之馮唐列傳第四十二

張廷尉釋之者。堵陽人也。

索隱曰。韋昭堵音緒。又音如字。地名。屬南陽。正義曰。應劭曰。哀帝改爲順陽。水東南入蔡。括地志云。順陽

故城在鄧州穰縣西三十里。楚之郢邑也。及蘇秦傳云。楚北有郢陽。竝謂此也。

字季。有兄仲同居。以訾爲騎郎。蘇林曰。雇

錢若出穀也。如淳曰。漢儀注。訾五百萬得爲常侍郎。○索隱曰。訾音子移反。字苑云。貲。積財也。

事孝文帝。十歲不得調。無所

知名。釋之曰。久宦減仲之產。不遂。欲自免歸。中郎將袁盎知其

賢。惜其去。乃請徙釋之。補謁者。

正義曰。百官表云。謁者掌賓讚受事。員十七人。秩比六百石也。

釋之既

朝畢。因前言便宜事。文帝曰。卑之。毋甚高論。令今可施行也。

曰。案卑下也。欲令卑下其志。無甚高談。於是釋之言秦漢之間事。秦所以失。

堵陽人也注。正義曰云云。札記。考證云。地理志此注博山ノ下ニ在リ。又哀帝ヲ誤テ明帝ト爲ス。錢大昕曰。堵陽ト順陽トハ一地ニ非ズ。兩漢志皆堵陽縣アリ。南陽郡ニ屬ス。哀帝順陽ヲ改テ博山ト爲シ。以テ孔光ヲ封ズ。又堵陽ヲ改テ順陽ト爲ス。又陽カザルナリ。應劭謂フ順陽順水ノ陽ニ在リト。此水東南蔡ニ入ルト云フ者。當ニ順水ヲ謂フヘキナリ。蘇秦傳注。括地志ヲ引キ。順陽故城。鄧州穰縣ノ西百四十里ニ在リト。此注ト亦小異アリ。古書未ダ順陽ヲ以テ堵陽ト爲ス者ヲ開カズ。正義ノ說。蓋水經注ニ出

爲趙同所害。故沮止其驂乘。素不好鼂錯。故因吳反事誅之。蓋盎本安陵羣盜。宜其忮心忍戾如此。死于刺客。非不幸也。

史記評林卷之一百一終

病免歸。其子章以修黃老言顯於諸公間。

太史公曰。袁盎雖不好學。亦善傳會。仁心爲質。引義忼慨。遭孝

文初立。資適逢世。

張晏曰。資。才也。適。值其世。得聘其才。

時以變易。

張晏曰。謂景帝立。

及吳楚一說。

說雖行哉。然復不遂。好聲矜賢。竟以名敗。鼂錯爲家令。時數言。

事不用。後擅權。多所變更。諸侯發難。不急匡救。欲報私讎。反以

盎罪

亡軀。語曰。變古亂常。不死則亡。豈錯等謂邪。

索隱述贊曰。袁盎公直。亦多附會。攬轡見重。卻席翳賴。鼂錯建策。屢陳利害。尊主卑臣。家危國泰。悲彼二子。名立身敗。

黃震曰。絳侯。元勳也。淮南王。帝親弟也。盎晚出爲郎。皆斥其失。旣而明絳侯無罪。止淮南王遷蜀者。亦盎也。盎以故名重朝廷。下趙同之參乘。卻夫人之同坐。申屠相稍不爲禮。則折脇之。盎殆以強直自矜者歟。沮梁王之謀。雖以忠見賊。迹其平昔。亦非自全之道矣。

洪邁曰。袁盎每借公言。而報私怨。初非盡忠一意爲君上者也。嘗爲呂祿舍人。故怨周勃。乃有非社稷臣之語。致文帝有輕勃心。嘗謁申屠嘉。嘉弗爲禮。則之丞相舍。折困之。



シ纔二十餘日ニシテ、  
而テ錯朝衣ヲ衣ル故ノ  
如シ、則錯初ヨリ未ダ  
一日ノ喪ヲ行ハザルナ  
リ、刑名ノ學、其弊乃此  
ニ至ル、翟方進後母ヲ  
喪シ、三十六日ニシテ  
起テ事ヲ視ル、猶彼此  
ヨリ善シト爲ス。  
謁者僕射鄧公云、方  
苞曰、盜ハ忌刻、錯ハ  
刻深、而テ鄧公持議平  
ナリ、故ニ善終ヲ得タ  
リ、因テ以テ章法ト爲  
ス、其子黃老ノ言ヲ修  
ム、亦錯申商ヲ學ブト  
相映ズ。

鄧公免起家爲九卿、錢  
大昕曰、漢書公卿表ニ、  
鄧公ノ名ナシ。

進說上令鼂錯衣朝衣、斬東市。鼂錯已死。謁者僕射鄧公爲校尉、擊吳楚軍。

正義曰。漢書作鄧。先。孔文祥云。名先。

爲將還。上書言軍事。謁見上。上問曰。

道軍所來。聞鼂錯死。

如淳曰。道路從吳軍所來也。瓚曰。道由也。

吳楚罷不。鄧公曰。吳王爲

反數十年矣。發怒削地。以誅錯爲名。其意非在錯也。且臣恐天

下之士噤口不敢復言也。

索隱曰。噤音其錦反。又音其禁反。

上曰。何哉。鄧公曰。夫鼂

錯患諸侯彊大不可制。故請削地。以尊京師。萬世之利也。計畫

始行。卒受大戮。內杜忠臣之口。外爲諸侯報仇。臣竊爲陛下不

取也。於是景帝默然良久曰。公言善。吾亦恨之。乃拜鄧公爲城

陽中尉。鄧公成固人也。

附列小傳

正義曰。梁州成固縣也。括地志云。成固故城。在梁州成固縣東六里。漢成固城也。

多奇計。建

元中。上招賢良。公卿言鄧公。時鄧公免。起家爲九卿。一年復謝。

下廷尉誅上曰此非廟垣乃墻中垣

正義曰上人緣反石墻者廟內垣外游地也

不致於

法丞相謝罷朝怒謂長史曰吾當先斬以聞乃先請為兒所賣

固誤丞相遂發病死錯以此愈貴遷為御史大夫請諸侯之罪

過削其地徐廣曰一云言景帝曰諸侯或連數郡非古之制非久長策不便請削之上令公卿云云收其枝郡奏上上令

公卿列侯宗室集議莫敢難獨竇嬰爭之由此與錯有郤錯所

公卿列侯宗室集議札記云集字字類引之樊二作ル蓋譌ノ譌ナリ漢書雜二作ル

更令三十章諸侯皆誼譁疾鼂錯錯父聞之從潁川來謂錯曰

上初即位公為政用事侵削諸侯別疏人骨肉人口議多怨公

者徐廣曰議一作謹何也鼂錯曰固也不如此天子不尊宗廟不安錯父

曰劉氏安矣而鼂氏危矣吾去公歸矣遂飲藥死曰吾不忍見

禍及吾身死十餘日吳楚七國果反以誅錯為名及竇嬰袁盎

應前

死十餘日吳楚七國果反鼂大所曰錯父死

曰固也顏師古曰固ト當ニ此ノ如クスベキナ言フ

入常掌故、注應劭曰百  
石吏云云、漢書注六百

石吏ニ作ル。  
隋直刻深、顔師古曰、隋  
字峭ト同ジ、峭ハ峻陬  
ヲ謂フナリ。

爲太子舍人云云、凌稚  
降曰、初メ太子舍人ト

又太子家令ト爲ルナ

號曰智囊、顏師古曰、  
其一身ノ有ル所、皆是  
智算ニシテ、囊棄ノ物  
ナ盛ル若キヲ言フ也。

鑿廟壙垣、注、札記下  
注正義チ移シテ索隱ニ  
次ス、云フ此正義各本  
錯ツテ下文乃中垣ノ下  
ニ在リ、今按ズルニ當  
ニ此ニ在ルベシ、反下  
石字チ多クヌ、蓋即反  
字ノ譌衍ナリ、今刪ル

曰衛宏詔定古文尙書序云徵之老不能行遣太常掌故鼂錯往讀之年九十餘不能正言言不可曉使其女傳言教錯齊人語多與潁川異錯所不知者凡十二三略以其意屬讀而已也

還<sup>リ</sup>。因<sup>テ</sup>上<sup>リ</sup>便宜<sup>ニ</sup>事<sup>ヲ</sup>。以<sup>テ</sup>書稱<sup>ヲ</sup>說<sup>ス</sup>。詔<sup>シテ</sup>以爲<sup>ニ</sup>太子<sup>ノ</sup>舍人<sup>ト</sup>。門大夫<sup>ト</sup>。家令<sup>ト</sup>。

子稱家。瓚曰。茂陵書。以其諱得幸太子。太子家號曰智囊。數上書孝

太子家令秩八百石。

文時。言削諸侯事。及法令可更定者。書數十上。孝文不聽。然奇

伏後盜進說斬錯案

其材遷爲中大夫當是時太子善錯計策袁盎諸大功臣多不

セ  
ナ  
キ  
ニ  
ナ  
ト  
ニ  
ウ  
ナ  
フ  
ナ  
ナ  
カル  
ク

好錯。景帝卽位。以錯爲內史。錯常數請閒言事。輒聽。寵幸傾九

ヲ  
余  
賣  
日。し  
  
シ  
  
スル  
  
ニ  
  
トセ  
  
ラ  
  
ル

卿荀爽曰法令多所更定。丞相申屠嘉心弗便。力未有以傷內。

作全

史府居太上廟墻中門東出不便錯乃穿兩門南出鑿廟墻垣

是月三十一日丁未

丞相嘉聞大怒。欲因此過爲奏請誅錯。錯聞

外之短垣也。又音而緣反。

之<sup>ヲ</sup>即<sup>ニ</sup>夜<sup>ニ</sup>青<sup>ニ</sup>聞<sup>ニ</sup>具<sup>ニ</sup>爲<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>之<sup>ヲ</sup>丞<sup>ニ</sup>相<sup>ニ</sup>奏<sup>シ</sup>事<sup>ヲ</sup>因<sup>テ</sup>言<sup>フ</sup>錯<sup>ニ</sup>賣<sup>ニ</sup>盤<sup>ニ</sup>朝<sup>ニ</sup>亘<sup>テ</sup>爲<sup>ス</sup>門<sup>ト</sup>清

以自託言問其爲一言以之相尋尋曰言金扣蓋屏北外戶言

5



皆不<sub>レ</sub>容口、顔師古曰、其德<sub>ヲ</sub>稱美シ、口ニ容ルル能ハザルナリ、按ニ不容口ハ、常ニ稱美シテ間斷ナキナリ。

培生、札記培生ニ作ル、云フ宋本毛本培、各本培ニ作ル。

輒張恢先所、注徐廣曰、先即先生、王鳴盛曰、漢書ハ則先ヲ直ニ生ニ作リ、師古曰、輒縣之儒生、姓張名恢、而<sub>レ</sub>此傳ノ末ニ鄧公アリ、則漢書鄧先ニ作リ、師古曰、鄧先猶鄧先生ト云フ如キナリ、又匈奴傳ニ、匈奴見漢使、非中貴人其儒先、裴駰曰、先ハ先生ナリ、漢書先<sub>ヲ</sub>亦生ニ作ル、先生<sub>ヲ</sub>以テ先ト爲ス、古此語アリ、班氏先<sub>ヲ</sub>改<sub>ニ</sub>生ト爲ス、其亦單ニ生ト稱スベキヲ以テ也。

諸君譽<sub>レ</sub>之皆不容<sub>レ</sub>口。乃見<sub>ニ</sub>袁盎<sub>一</sub>曰。臣受<sub>ニ</sub>梁王金<sub>一</sub>來刺<sub>レ</sub>君。君長者。

不<sub>レ</sub>忍刺<sub>レ</sub>君。然後刺<sub>レ</sub>君者十餘曹。如淳曰。曹輩也。備<sub>ニ</sub>之袁盎<sub>一</sub>心不<sub>レ</sub>樂。家又

多<sub>レ</sub>怪。乃之<sub>ニ</sub>培生<sub>一</sub>所問<sub>レ</sub>占。徐廣曰。培一作服。駟案文穎曰。培音陪。秦時賢士善術者。○索隱曰。韋昭云。培姓也。還。梁刺客

後曹輩果遮刺<sub>ニ</sub>殺盜安陵郭門<sub>一</sub>外。

鼂錯者。潁川人也。索隱曰。鼂音朝。錯音厝。一如字讀。案鼂氏出南陽。今西鄂鼂氏自謂子鼂之後也。學<sub>ニ</sub>申商<sub>一</sub>刑名。於

輒張恢先所。徐廣曰。先即先生。○索隱曰。輒縣人張恢先生所學申商之法。與<sub>ニ</sub>雒陽宋孟及劉禮同<sub>一</sub>師。

以<sub>ニ</sub>文學<sub>一</sub>爲<sub>ニ</sub>太常掌故<sub>一</sub>。應劭曰。掌故。百石吏主故事。○索隱曰。服虔云。百石卒吏。漢舊儀云。太常博士弟子試射策。中甲科補郎。中乙科補掌故。

錯爲<sub>ニ</sub>人<sub>一</sub>。陷直刻深。韋昭曰。術岸高曰。陷。瓊曰。陷。峻。○索隱曰。案韋昭注本無術字。或云。術。道路也。陷音七笑反。孝文帝時

天下無<sub>ニ</sub>治<sub>一</sub>尙書者。獨聞<sub>ニ</sub>濟南伏生<sub>一</sub>故秦博士。治<sub>ニ</sub>尙書<sub>一</sub>年九十餘

老不可<sub>レ</sub>徵。乃詔<sub>ニ</sub>太常<sub>一</sub>使人往受<sub>レ</sub>之。太常遣<sub>ニ</sub>錯<sub>一</sub>受<sub>ニ</sub>尙書伏生<sub>一</sub>所。

正義

且緩急人所<sub>レ</sub>有、顏師古曰、凡人緩急ノ事ナキ能ハズ。

不以親爲解、顏師古曰、環說是ナリ、解ハ今ノ分疏ト首フガ若シ。

袁盎爲楚相。嘗上書有所言。不用。袁盎病免。居家。與閭里浮沈。

相隨行。鬪雞走狗。雒陽劇孟嘗過袁盎。盎善待之。安陵富人

謂盜曰。吾聞劇孟博徒。如淳曰。博盪之徒。將軍何自通之。盜曰。劇

孟雖博徒。然母死。客送葬車千餘乘。此亦有過人者。且緩急人

所有。夫一旦有急叩門。不以親爲解。張晏曰。不語云親不聽也。環曰。凡人

孟兼行之。○索隱曰。案謂不以親爲辭。之於赴難濟危。多以有父母爲解。而

也。今此云解者。亦謂不以親在而自解。不以存亡爲辭。天下所望者。獨季

心劇孟耳。今公常從數騎。徐廣曰。常一作詳。一旦有緩急。寧足恃乎。罵

富人弗與通。諸公聞之。皆多袁盎。袁盎雖家居。景帝時時使人

問籌策。梁王欲求爲嗣。袁盎進說。其後語塞。索隱曰。鄒氏云。塞當作露。非也。案以盎言不宜立弟

之義。其後立梁王之語塞絕也。梁王以此怨盎。曾使人刺盎。刺者至關中問袁盎。

フ當ニ其一ヲ衍スベシ。  
袁盎驅自追之、顔師古  
曰、驅馳シテ而テ追フ、  
疾速ヲ言フ。

悉以其裝齎ハ、顔師古  
曰、裝齎ハ、齎ス所ノ衣  
物自ラ隨フ者ヲ謂フ。

吾不足以累公、札記云、  
舊刻足ナ可ニ作ル。

以刀決張道從醉卒直隧  
出ハ、札記、集解張音  
帳及ヒ索隱ヲ決張ノ下  
ニ注シ、道ヲ以テ一字  
句ト爲シ、如淳曰、其  
下ニ注ス、云フ雜志云、  
道讀テ導ト爲ス、隧字  
當ニ直上ニ在ルベシ、  
漢書張ヲ帳ニ作ル。  
司馬與分背、顔師古曰、  
一時各去ルナリ。

告從史。言君知爾與侍者通。乃亡歸。袁盎驅自追之。遂以侍者

賜之。復爲從史。及袁盎使吳見守。從史適爲守。盎校尉司馬。乃

悉以其裝齎置二石醇醪。會天寒。士卒饑渴。飲酒醉。西南陬。卒

皆臥。司馬夜引袁盎起曰。君可以去矣。吳王期旦日斬君。盎弗

信。曰公何爲者。司馬曰。臣故爲從史。盜君侍兒者。盎乃驚謝曰。

公幸有親。文穎曰。言汝有親老。吾不足以累公。司馬曰。君第去。臣亦且亡。避

吾親。如淳曰。藏匿吾親。不使遇害也。○索隱曰。案張晏云。避隱也。言自隱辟我親。不擬遇禍也。君何患。乃以刀決張道。如

曰。決開。當所從亡者之道。張音帳。○從醉卒直隧出。司馬與分背。袁盎解

節毛懷之。如淳曰。不欲杖步行七八里。明見梁騎。騎馳去。文穎曰。梁

者也。或曰。得遂歸報。吳楚已破。上更以元王子平陸侯禮爲楚王。



史曰。事未發。治之有絕。

如淳曰。事未發之時。治之乃有所絕。○索隱曰。案謂有絕吳反心也。

今兵西鄉。治

之何益。且袁盎不宜有謀。

如淳曰。盎大臣不宜有奸謀。

鼂錯猶與未決。人有告

袁盎者。袁盎恐。夜見竇嬰。爲言吳所以反者。願至上前。口對狀。

竇嬰入言上。上乃召袁盎入見。鼂錯在前。及盎請辟人賜閒。錯

去。固恨甚。袁盎具言吳所以反狀。以錯故。獨急斬錯。以謝吳。吳

兵乃可罷。其語俱在吳事中。使袁盎爲太常。竇嬰爲大將軍。兩

人素相與善。逮吳反。諸陵長者。長安中賢大夫。爭附兩人。車隨

者。日數百乘。及鼂錯已誅。袁盎以太常使吳。吳王欲使將不肯。

欲殺之。使一都尉以五百人圍守盎軍中。袁盎自其爲吳相時。

嘗有從史。嘗盜愛盎侍兒。

文穎曰。婢也。

盎知之。弗泄。遇之如故。人有

其語俱在吳事中、札記俱具二作ル、云フ王柯浚本具ナ俱ニ譌ス。

嘗盜愛盎侍兒、札記云、此句上句ト兩嘗字、疑

二用嘗字

追

蹶張遷爲隊率。積功至淮陽守。非有奇計攻城野戰之功。且陛下從代來。每朝郎官上書疏。未嘗不止輦受其言。言不可用置之。言可受採之。未嘗不稱善。何也。則欲以致天下賢士大夫。上日聞所不聞。明所不知。日益聖智。君今自閉。鉗天下之口。而日益愚。夫以聖主責愚相。君受禍不久矣。丞相乃再拜曰。嘉鄙野人。乃不知。將軍幸教。引入與坐。爲上客。盎素不好鼂錯。鼂錯所居坐。盎去。盎坐。錯亦去。兩人未嘗同堂語。及孝文帝崩。孝景帝卽位。鼂錯爲御史大夫。使吏案袁盎受吳王財物。抵罪。詔赦以爲庶人。吳楚反聞。鼂錯謂丞史曰。如淳曰。百官表。御史大夫。文與吳王傳同。夫袁盎多受吳王金錢。專爲蔽匿言不反。今果反。欲請治盎。宜知計謀。丞

謂丞史曰。注丞相史也。札記丞及史也。二作ル。云フ。舊刻及漢書注ト合ス。各本相ニ譌ス。

注索隱行馬ハ馬タテナリ。

引卻慎夫人坐、顔師古曰、卻ハ退ケテ之ナ卑リスルナリ。

豈可與同坐哉ノ下、札記適所三以失ニ尊卑一矣、

此七字アリ、云フ宋本漢書亦ナシ。

賜盜金五十觔、札記觔チ斤ニ作ル、漢書亦同

シ、按ニ觔ハ斤ノ譌ナリ、斤ニ作ルチ正ト爲ス。

日飲母何ハ、凌稚隆曰、母何ハ、更ニ餘事ナキ

チ言フナリ、札記云、何ハ宋本毛本奇ニ作

ル、王本奇ニ作ル、蓋亦奇ノ譌ナリ、按ニ母

何ハ誰何スルナキチ謂フ。

袁盎即跪說、札記云、跪毛本跪ニ作ル、志疑

云、摸書起ニ作ル、是

テ。

直諫<sup>スル</sup>不得<sup>レ</sup>久<sup>ル</sup>居中<sup>ニ</sup>調<sup>セ</sup>爲<sup>ニ</sup>隴西都尉<sup>ト</sup>。如淳曰。調選。仁<sup>ニ</sup>愛士卒<sup>ヲ</sup>。士卒皆爭<sup>テ</sup>

爲<sup>ス</sup>死<sup>チ</sup>。遷<sup>テ</sup>爲<sup>ニ</sup>齊相<sup>ト</sup>。徙<sup>テ</sup>爲<sup>ニ</sup>吳相<sup>ト</sup>。辭<sup>シ</sup>行<sup>ク</sup>。種謂<sup>レ</sup>盜<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。吳王驕<sup>ル</sup>日久<sup>シ</sup>。國多姦<sup>シ</sup>。

今苟<sup>モ</sup>欲<sup>スル</sup>刻<sup>セ</sup>治<sup>セント</sup>彼<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>上<sup>シ</sup>書<sup>シ</sup>告<sup>グ</sup>君<sup>ヲ</sup>。卽利劍刺<sup>サン</sup>君<sup>ヲ</sup>矣。南方卑<sup>ニ</sup>溼<sup>ニ</sup>。君能<sup>ニ</sup>日

飲<sup>シ</sup>母<sup>レ</sup>何<sup>スル</sup>時<sup>ニ</sup>說<sup>テ</sup>王<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。母<sup>レ</sup>反<sup>スル</sup>而已<sup>ニ</sup>。如此<sup>キ</sup>幸<sup>ニ</sup>得<sup>ル</sup>脫<sup>ル</sup>。盜<sup>ニ</sup>用<sup>ユ</sup>種<sup>ノ</sup>之計<sup>ヲ</sup>。吳王厚

遇<sup>ス</sup>盜<sup>ヲ</sup>。盜告<sup>ス</sup>歸<sup>ス</sup>。道逢<sup>フ</sup>丞相<sup>ニ</sup>。丞相申屠嘉<sup>ニ</sup>下<sup>リ</sup>車<sup>ヲ</sup>拜謁<sup>ス</sup>。丞相從<sup>リ</sup>車<sup>上</sup>謝<sup>ス</sup>袁盎<sup>ニ</sup>。

袁盎還<sup>テ</sup>愧<sup>ヅ</sup>其吏<sup>ニ</sup>。乃<sup>チ</sup>之<sup>キ</sup>丞相<sup>ノ</sup>舍<sup>ニ</sup>上<sup>シ</sup>謁<sup>シ</sup>。求<sup>レ</sup>見<sup>ユル</sup>丞相<sup>ニ</sup>。丞相良久<sup>ウシ</sup>而見<sup>レ</sup>之<sup>ヲ</sup>。

盎因<sup>テ</sup>跪<sup>テ</sup>曰<sup>ク</sup>。願<sup>フ</sup>請<sup>シ</sup>閒<sup>ナ</sup>。丞相曰<sup>ク</sup>。使<sup>シ</sup>君所言<sup>フ</sup>公事<sup>ナラバ</sup>之<sup>キ</sup>曹<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>長史掾<sup>ニ</sup>議<sup>セ</sup>。吾

且<sup>ツ</sup>奏<sup>セン</sup>之<sup>ヲ</sup>。卽<sup>チ</sup>私<sup>ナル</sup>邪<sup>ニ</sup>。吾不<sup>レ</sup>受<sup>ケ</sup>私語<sup>ヲ</sup>。袁盎卽跪<sup>テ</sup>說<sup>ク</sup>曰<sup>ク</sup>。君爲<sup>ニ</sup>丞相<sup>ト</sup>。自度孰<sup>ニ</sup>

與<sup>レ</sup>陳平絳侯<sup>ニ</sup>。丞相曰<sup>ク</sup>。吾不<sup>レ</sup>如<sup>カ</sup>。袁盎曰<sup>ク</sup>。善<sup>シ</sup>。君卽<sup>チ</sup>自謂<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>如<sup>カ</sup>。夫陳平

絳侯。輔<sup>ニ</sup>翼<sup>シ</sup>高帝<sup>ヲ</sup>定<sup>メ</sup>天下<sup>ヲ</sup>。爲<sup>ニ</sup>將相<sup>ト</sup>。而誅<sup>シ</sup>諸呂<sup>ヲ</sup>。存<sup>ス</sup>劉氏<sup>ヲ</sup>。君乃爲<sup>ニ</sup>材官



爲ル文帝稱シテ將軍ト爲ス後ニ吳相ト爲リ、歸テ丞相中屠嘉ニ

知ラズ、將軍幸ニ教ト爲ル、史亦灌將軍ト稱ス、此中郎將軍ト稱ス、

爲ル、漢時人ナリ、予又稱ス、

軍ト爲ス、特ニ尊重ノ稱ニシテ、必貴ニ其官

ヲ稱シテ、灌夫ノ田蚡

程不識李廣ハ衛尉ヲ以

本ト典兵ノ官ナリ。

千金之子坐不垂堂、顔

師古曰、富人ノ子ハ、

則自ラ愛スルヲ言フナリ、垂堂ハ堂ノ外邊ニ

坐スルヲ謂フ、墜スルヲ恐ルルナリ。

墮中人。或云臨堂邊垂。恐墮墜也。

百金之子不騎衡。

徐廣曰。一作行。駟案服虔曰。自惜身不騎衡。如

○索隱曰。衡木。行馬也。如淳云。騎音於岐反。韋昭云。騎音奇。案諸家說。如

聖主不乘危

而徼幸。今陛下騁六駢。

如淳曰。六馬之疾若飛。

馳下峻山。如有馬驚車敗。陛

下縱自輕。奈高廟太后何。上乃止。上幸上林。皇后愼夫人從。其

在禁中。常同席坐。及坐郎署長布席。

正義曰。蘇林云。郎署上林中直衛之署。

袁盎引卻

愼夫人坐。

如淳曰。盎時爲中郎將。天子幸署。豫設供待之。故得卻愼夫人坐。

愼夫人怒不肯坐。上亦怒起。

入禁中。盎因前說曰。臣聞尊卑有序。則上下和。今陛下既已立

后。愼夫人乃妾。妾主豈可與同坐哉。且陛下幸之。卽厚賜之。陛

下所以爲愼夫人。適所以禍之。陛下獨不見人彘乎。

張晏曰。戚夫人。

於

是上乃說。召語愼夫人。愼夫人賜盎金五十觔。然袁盎亦以數

符節夾乘、札記云、四字疑フ後人索隱ニ依テ増ス、或ハ旁注ノ屬入ナリ、漢書ナシ。

上曰將軍怯邪、錢大昕曰、盜、時ニ中郎將ト

讓。而陛下五以天下讓。過許由四矣。且陛下遷淮南王。欲以苦

其志。使改過。有司衛不謹。故病死。於是上乃解。曰將奈何。盎曰。

淮南王有三子。唯在陛下耳。於是文帝立其三子。皆爲王。盎由

此名重朝廷。袁盎常引大體。忼慨。宦者趙同以數幸。徐廣曰。漢

害袁盎。袁盎患之。盎兄子種爲常侍騎。持節夾乘。索隱曰。案漢書舊

車騎從者云。說盜曰。徐廣曰。說一作謀。君與鬪。廷辱之。使其毀不用。孝文帝

出。趙同參乘。袁盎伏車前曰。臣聞天子所與共六尺輿者。皆天

下豪英。今漢雖乏人。陛下獨奈何。與刀鋸餘人載。於是上笑。下

趙同。趙同泣下車。文帝從霸陵上。欲西馳下峻阪。袁盎騎並車

寧轡。上曰。將軍怯邪。盎曰。臣聞千金之子坐不垂堂。索隱曰。案張

揖云。恐簷瓦

頓首請罪ハ、顔師古曰、  
自ラ責ムルニ強諫セザ  
ルヲ以テスルナリ。

不交睫ハ、顔師古曰睫  
ハ目旁ノ毛ナリ、交睫  
ハ瞋寐ヲ謂フナリ。

如有<sup>シ</sup>遇<sup>ル</sup>霧露<sup>ニ</sup>行道<sup>ニ</sup>死<sup>ス</sup>。陛下<sup>ニ</sup>竟<sup>ニ</sup>爲<sup>シ</sup>以<sup>テ</sup>天下<sup>ノ</sup>之大<sup>ニ</sup>弗<sup>ト</sup>能<sup>レ</sup>容<sup>ル</sup>有<sup>シ</sup>殺<sup>ス</sup>弟<sup>ヲ</sup>之  
名<sup>一</sup>奈何<sup>一</sup>。上弗<sup>レ</sup>聽<sup>カ</sup>遂<sup>ニ</sup>行<sup>ル</sup>之<sup>ヲ</sup>。淮南王<sup>ニ</sup>至<sup>リ</sup>雍<sup>ニ</sup>病死<sup>ス</sup>。聞<sup>ス</sup>上輟<sup>テ</sup>食<sup>ヲ</sup>哭<sup>ス</sup>甚<sup>ニ</sup>哀<sup>シ</sup>。盎  
入<sup>リ</sup>頓首<sup>シ</sup>請<sup>テ</sup>罪<sup>ヲ</sup>。上曰<sup>一</sup>以<sup>レ</sup>不<sup>ル</sup>用<sup>ニ</sup>公<sup>ノ</sup>言<sup>ヲ</sup>至<sup>ル</sup>此<sup>ニ</sup>。盎曰<sup>一</sup>上自<sup>ミ</sup>寬<sup>ワセ</sup>此<sup>レ</sup>往<sup>ル</sup>事<sup>一</sup>。豈可<sup>シ</sup>  
悔<sup>ユ</sup>哉<sup>一</sup>。且陛下<sup>ニ</sup>有<sup>シ</sup>高世<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>行<sup>ヲ</sup>者三<sup>一</sup>。此不<sup>レ</sup>足<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>毀<sup>ル</sup>名<sup>ニ</sup>。上曰<sup>一</sup>吾高世<sup>ノ</sup>行<sup>ヲ</sup>  
三者何<sup>ノ</sup>事<sup>一</sup>。盎曰<sup>一</sup>陛下居<sup>リ</sup>代<sup>ノ</sup>時<sup>一</sup>。太后嘗<sup>テ</sup>病<sup>ム</sup>三年<sup>一</sup>。陛下不<sup>レ</sup>交<sup>ヘ</sup>睫<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>解<sup>カ</sup>  
衣<sup>ヲ</sup>。湯藥非<sup>レ</sup>陛下<sup>ノ</sup>下口<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>嘗<sup>ム</sup>弗<sup>レ</sup>進<sup>ズ</sup>。夫曾參<sup>ニ</sup>以<sup>テ</sup>布衣<sup>ニ</sup>猶難<sup>シ</sup>之<sup>ヲ</sup>。今陛下親<sup>ラ</sup>  
以<sup>ニ</sup>王者<sup>ヲ</sup>修<sup>ム</sup>之<sup>ヲ</sup>過<sup>ル</sup>曾參<sup>ノ</sup>孝<sup>ニ</sup>遠<sup>シ</sup>矣<sup>一</sup>。夫諸呂用<sup>ヒ</sup>事<sup>ヲ</sup>大臣專<sup>ニ</sup>制<sup>ヲ</sup>。然陛下從<sup>リ</sup>  
代乘<sup>ニ</sup>六乘<sup>ヲ</sup>傳<sup>ニ</sup>馳<sup>ス</sup>不<sup>レ</sup>測<sup>ノ</sup>之<sup>ヲ</sup>淵<sup>一</sup>。瓊曰大臣共誅諸呂禍福  
尙未可知故曰不測也。雖<sup>ニ</sup>賁育<sup>ノ</sup>之<sup>レ</sup>勇<sup>一</sup>不<sup>レ</sup>及<sup>ス</sup>  
陛下<sup>ニ</sup>。孟康曰孟賁夏育皆古勇者也。○索隱曰尸子云孟賁水行不避蛟龍陸行不避  
虎兕戰國策云夏育叱呼駭三軍身死庸夫高誘曰育衛人爲申繻所殺賁音奔。陛  
下至<sup>ニ</sup>代邸<sup>ニ</sup>西向讓<sup>シ</sup>天子<sup>ノ</sup>位<sup>ヲ</sup>者再<sup>一</sup>。南面讓<sup>シ</sup>天子<sup>ノ</sup>位<sup>ヲ</sup>者三<sup>一</sup>。夫許由一



可適削地ハ、適ハ讀  
同シ、責ナリ。

太尉主兵。適會其成功。所謂功臣。非社稷臣。丞相如有驕主色。

陛下謙讓。臣主失禮。竊爲陛下不取也。後朝上益莊。索隱曰。莊嚴也。丞

相益畏。已而絳侯望袁盎曰。正義曰。望怨也。吾與而兄善。今兒廷毀我。

盎遂不謝。緊接上及絳侯免相之國。國人上書告以爲反。徵繫清室。漢書

作請室。應劭曰。請室。請罪之室。若今鍾下也。如淳曰。請室。獄也。若古刑於甸師氏也。宗室諸公莫敢爲言。唯袁盎明絳

侯無罪。絳侯得釋。サルルヲ盎頗有力。絳侯乃大與盎結交。淮南厲王朝

殺辟陽侯。居處驕甚。袁盎諫曰。諸侯大驕。必生患。可適削地。上

弗用。又緊接上淮南王益橫。及棘蒲侯柴武太子謀反事覺。治連淮南王。

淮南王徵上。因遷之蜀。輜車傳送。袁盎時爲中郎將。乃諫曰。陛

下素驕。淮南王弗稍禁。以至此。今又暴摧折之。淮南王爲人剛。

史記評林卷之一百一

袁盎鼂錯列傳第四十一

袁盎者楚人也。

索隱曰。盎音如周禮。盎齊。烏浪反。

字絲。父故爲羣盜。徙處安陵。高后

時。盎嘗爲呂祿舍人。及孝文帝卽位。盎兄噲任盎爲中郎。

如淳曰。盎爲兄

所保任。故得爲中郎。

絳侯爲丞相。朝罷趨出。意得甚。上禮之恭。常自送之。

徐廣

曰。自一作目。

袁盎進曰。陛下以丞相何如人。上曰。社稷臣。盎曰。絳侯所

謂功臣。非社稷臣。社稷臣主在與在。

如淳曰。人主在時。與共治在時之事。

主亡與亡。

如淳

曰。不以主亡而不行其政令。○索隱曰。如淳說爲得。

方呂后時。諸呂用事。擅相王。劉氏不絕如帶。

是時絳侯爲太尉。主兵柄。弗能正。呂后崩。大臣相與共畔諸呂。

主在與在。主亡與亡。浸和隆曰。一句只是國休戚。下同。ウ。スル。意。ナ。形。容。スル。ナ。ウ。

史記評林卷之一百終



應前重死

不自重其死。雖往古烈士。何以加哉。

索隱述贊曰。季布季心有聲梁楚。百金然諾。十萬致距。出守河東。股肱是與。欒布哭越。犯禁見虜。赴鼎非冤。誠知所處。

黃震曰。按季布廷斥欒噲橫行之說。使高后不復事兵。然則孝惠高后之世。海內無事。衣食滋殖。季布力也。布故勇將。不爲技癢。而有老成安靜之言。斯可尙矣。欒布挺身就烹。以雪彭王之冤。所以警悟高帝。何如哉。嗚呼。非烈丈夫。其孰能與於此。

吳軍反時、札記云、考證云、漢書吳楚二作ル、軍字誤ル。

身軀典軍、札記云、索隱典字ナシ、漢書ト合ス、志疑云、衍ナリ、師古云、流俗字典字チ加フ非ナリト、按ニ今本漢書履軍ニ作ル、注鄧展曰、履軍ハ戰勝チ之ヲ踏履スルナリ。然被刑戮、札記被上ニ至字アリ、云フ宋本中統游毛吳校金板至字アリ。

不能快意。非賢也。於是嘗有德者。厚報之。有怨者。必以法滅之。吳軍反時。以軍功封俞侯。徐廣曰。擊齊有功也。復爲燕相。燕齊之間。皆爲欒布立社。號曰欒公社。景帝中五年薨。子賁嗣。爲太常。犧牲不<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>令。國除。

太史公曰。以項羽之氣。而季布以勇顯於楚。身履典軍。徐廣曰。履一作屨。

曰。覆。駟案孟康曰。履。履蹈之也。瓚曰。履。數也。○索隱曰。案徐氏云。一作覆。而下云。舉旗。則覆軍爲是。愈於履之與履者也。舉旗者數矣。可謂壯

士。然被刑戮。爲人奴而不死。何其下也。彼必自負其材。故受辱。此數字子長自見

而不羞。欲有所用。其未足也。故終爲漢名將。賢者誠重其死。夫

婢妾賤人。感慨而自殺者。徐廣曰。或作。應前勇字。非能勇也。其計畫無復之

耳。徐廣曰。復一作冀。欒布哭彭越。趣湯如歸者。彼誠知所處。如淳曰。非死者難處。死者難。

趣亭之、方提趣湯、上ノ趣ハ疾ナリ、下ノ趣ハ赴ナリ、亭ハ烹ニ同ジ、顧師古曰、提ハ舉ナリ、舉ゲテ之ヲ湯ニ投ゼント欲スルナリ。遂不能西徙以彭王云云ハ、札記西字ナ句ト爲シ徙ヲ徒ニ作ル、云フ維志云當ニ漢書ニ依リ不能遂西ニ作ルベシ、御覽人事部史ヲ引ク同シ、又云、中統舊刻毛本與校金本徒ニ作ル、漢書ト合ス、他本徒徒ニ譌ス、顧師古曰徒ハ恒ナリ。

聞。上召布。罵曰。若與彭越反邪。吾禁人勿收。若獨祠而哭之。與

越反明矣。趣亭之。

索隱曰。趣音促。亭音普。盲反。謂疾令赴鑊也。

方提趣湯。

徐廣曰。趣一作走。○索隱曰。提音啼。趣音娶。徐

廣云。一作走。走亦趣向之也。

布顧曰。願一言而死。上曰。何言。布曰。方上之困於彭

城。敗滎陽成臯間。項王所以遂不能西徙。以彭王居梁地。與漢

合從苦楚也。當是之時。彭王一顧與楚。則漢破。與漢而楚破。且

垓下之會。微彭王。項氏不亡。天下已定。彭王剖符受封。亦欲傳

之萬世。今陛下徵兵於梁。彭王病不行。而陛下疑以爲反。反

形未見。以苛小

徐廣曰。小一作峭。

案誅滅之。臣恐功臣人人自危也。今彭

王已死。臣生不如死。請就亨。於是上迺釋布罪。拜爲都尉。孝文

時爲燕相。至將軍。布迺稱曰。窮困不能辱身。下志非人也。富貴



謂ヒ、并々固ヲ謂フノミ、吾ト固ト俱ニ是實ナリ、豈相厄困センヤト言フ、故ニ固此言ニ感ジテルムナリ。  
以丁公徇軍中、札記中下曰字アリ、云フ毛本白字アリ、漢書ト合ス、顔師古曰、徇ハ行示スルナリ。  
爲家人時、顔師古曰、家人ハ猶編戶ノ人ト言フ如キナリ。  
賃傭於齊爲酒人保ハ、顔師古曰、賃傭ハ、庸作シ顧チ受クルヲ謂フナリ、爲保ハ、保シテ任使スベキヲ謂フ、

與數箸漢相應

丁公引兵而還。漢王遂解去。及項王滅。丁公謁見高祖。高祖以丁公徇軍中。丁公爲項王臣。不忠。使項王失天下者。迺丁公也。遂斬丁公。曰。使後世爲人臣者。無效丁公。

只牽連一事

樂布者。梁人也。始梁王彭越爲家人時。嘗與布游。

索隱曰。謂居家之人無官職也。

窮困賃傭於齊。爲酒人保。

漢書音義曰。酒家作保傭也。可保信。故謂之保。

數歲。彭越去之。巨

野中爲盜。而布爲人所略賣。爲奴於燕。爲其家主報仇。燕將臧

荼舉以爲都尉。臧荼後爲燕王。以布爲將。及臧荼反。漢擊燕虜

布。梁王彭越聞之。迺言上。請贖布。以爲梁大夫。使於齊。未還。漢

召彭越責以謀反。夷三族。已而梟彭越頭於雒陽。下詔曰。有敢

收視者。輒捕之。布從齊還。奏事。彭越頭下祠而哭之。吏捕布以

損<sup>シテ</sup>季布<sup>ヲ</sup>曰。楚人諺曰。得<sup>ル</sup>黃金百斤。不<sup>レ</sup>如<sup>レ</sup>得<sup>ル</sup>季布一諾。足下何<sup>ヲ</sup>以

得<sup>ル</sup>此聲<sup>ヲ</sup>於<sup>ニ</sup>梁楚間哉。且僕楚人。足下亦楚人也。僕游揚<sup>ス</sup>足下之

名<sup>ヲ</sup>於<sup>ニ</sup>天下。顧不<sup>レ</sup>重邪。何足下距<sup>ム</sup>僕之深也。季布迺大說。引入<sup>キ</sup>留

數月。爲<sup>ニ</sup>上客。厚送<sup>ル</sup>之。季布名所以益<sup>ス</sup>聞<sup>ル</sup>者。曹丘揚之也。季布弟

季心。徐廣曰。一作子。氣蓋關中。遇<sup>ス</sup>人恭謹。爲<sup>ニ</sup>任俠。方數千里士。皆爭<sup>テ</sup>爲<sup>ニ</sup>

之死<sup>ス</sup>。嘗殺<sup>シ</sup>人。亡<sup>レ</sup>之吳。從<sup>テ</sup>袁絲<sup>ニ</sup>匿。索隱曰。盜字絲。長<sup>トシ</sup>事袁絲<sup>ニ</sup>。弟<sup>トシ</sup>畜灌夫籍

福之屬。嘗爲<sup>ニ</sup>中司馬。如淳曰。中尉之司馬。○索隱曰。漢書作中尉司馬。中尉郅都<sup>ニ</sup>不敢<sup>テ</sup>不<sup>レ</sup>加<sup>レ</sup>禮。

少年多時。時竊<sup>ニ</sup>藉<sup>ニ</sup>其名<sup>ヲ</sup>以行。索隱曰。藉音子亦反。當<sup>ニ</sup>是時。季心<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>勇。布<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>諾。

著聞關中。季布母弟丁公。晉灼曰。楚漢春秋云。薛人名固。爲<sup>ニ</sup>楚將。丁公爲<sup>ニ</sup>項羽<sup>ニ</sup>逐<sup>ヒ</sup>

窘<sup>ム</sup>高祖<sup>ヲ</sup>彭城西。短兵接。高祖急。顧<sup>ニ</sup>丁公<sup>ヲ</sup>曰。兩賢豈相厄哉。於是

少年多時時竊藉其名以  
行ハ、顔師古曰、詐リ  
テ白ラ稱シ、心ノ賓客  
徒然ト爲スナリ。

兩賢豈相厄哉ハ、顔師  
古曰、兩賢ハ高祖自ラ



一月見罷へ、顔師古曰、

索隱曰。季布言己無功能竊承恩寵。

罪河東。得待罪河東。其詞典省而文之也。陛下無故召臣。此人必有以

有以毀臣者。札記云、

臣欺陛下者。今臣至。無所受事罷去。此人必有以毀臣者。夫陛

下以一人之毀、札記云、中

下以一人之譽而召臣。一人之毀而去臣。臣恐天下有識聞之。

上默慙。札記缺下然字

有以闕陛下也。

韋昭曰。闕見陛下深淺也。

上默慙良久曰。河東吾股肱郡。故特

召君耳。布辭之。官。楚人曹丘生辯士。數招權顧金錢。

孟康曰。招來也。以金錢事。

權貴。而求得其形勢以自炫耀也。文穎曰。事權貴也。與通勢。以其所有。辜較。請託金錢。以自顧。

○索隱曰。義如孟康文穎所說。辜較音姑角。○正義曰。言曹丘生依倚貴人。用權勢。屬請數求

他人顧錢。

賞金錢也。

事貴人趙同等。徐廣曰。漢書作趙談。司馬遷以其父名談。故改之。

與竇長君善。季布聞

之。寄書諫竇長君曰。吾聞曹丘生非長者。勿與通。及曹丘生歸。

欲得書。請季布。張晏曰。欲使竇長君爲介於布請見。竇長君曰。季將軍不說足下。足下

無往。固請書。遂行。使人先發書。季布果大怒。待曹丘。曹丘至。卽

使人先發書ハ、顔師古曰、人ヲシテ先ヅ書ヲ布ニ致シ、發視セシムルナリ。

竇長君ハ、景帝ノ舅ナリ。

報酬ヲ云フ。

ナリ、按ニ顧ハ驕也、

託ス、故ニ他人ノ金錢

ヲ招求シ、因テ以テ請

顔師古曰、貴人ノ威權

也、札記來ヲ求ニ作ル、

云フ求ヲ來ニ譌ス、考

證漢書注ニ據テ改ム、

ス、各本然字ヲ脱ス。

合ス、疑フ此衍ナリ。

宋本以字ナシ、漢書ト

有以毀臣者、札記云、

郡ニ還ラシム、而テ罷テ

既ニ引見シ、而テ罷テ



待閒ノ待、漢書侍ニ作  
子ニ侍ス、閒ハ事勢ノ  
隙ヲ謂フ。

嫚呂后ハ、顔師古曰、  
嫚ハ辭語褻汚ナルヲ謂  
フ、嫚讀デ慢ト同ジ。

使酒難近ハ、顔師古曰、  
酒ノ霑洽ニ因テ、氣ヲ  
使フナリ、近ハ天子ニ  
附近シ、大臣ト爲スヲ  
謂フ。

諾。待閒。果言如朱家指。上廼赦季布。當是時。諸公皆多季布能。  
折剛爲柔。朱家亦以此名聞當世。季布召見謝。上拜爲郎中。孝  
惠時。爲中郎將。單于嘗爲書嫚呂后。不遜。呂后大怒。召諸將議  
之。上將軍樊噲曰。臣願得十萬衆。橫行匈奴中。諸將皆阿呂后  
意曰。然。季布曰。樊噲可斬也。夫高帝將兵四十餘萬衆。困於平  
城。今噲奈何以十萬衆。橫行匈奴中。面欺。且秦以事於胡。陳勝  
等起。于今創痍未瘳。噲又面諛。欲搖動天下。是時殿上皆恐。太  
后罷朝。遂不復議擊匈奴事。季布爲河東守。孝文時。人有言其  
賢者。孝文召欲以爲御史大夫。復有言其勇使酒難近。  
音其斬反。因酒縱性。索隱曰。使  
謂之使酒。卽酗酒也。音如字。近  
至畱邸一月。見罷。季布因進曰。臣無功竊寵。待

樂輅車注、徐廣曰馬車也、札記云、索隱二據レバ、疑フ馬上ニ一字ヲ脱ス、淺雅陸曰、一馬車ニ乗ル、其急ナ見ルナリ。

爲項籍用職耳、顏師古曰、職ハ常ナリ、此乃常道ト言フナリ、一曰、職ハ其主ヲ主掌スルナリ。

并與其家僮數十人。之魯朱家所賣之。朱家心知是季布。迺買而置之田。誠其子曰。田事聽此奴。必與同食。朱家迺乘輅車之洛陽。徐廣曰。馬車也。○索隱。見汝陰侯滕公。滕公留朱家飲數日。因謂滕公曰。季布何大罪。而上求之急也。滕公曰。布數爲項羽窘上。上怨之。故必欲得之。朱家曰。君視季布何如人也。曰。賢者也。朱家曰。臣各爲其主用。季布爲項籍用。職耳。項氏臣可盡誅邪。今上始得天下。獨以己之私怨求一人。何示天下之不廣也。且以季布之賢。而漢求之急如此。此不北走胡。卽南走越耳。夫忌壯士。以資敵國。此伍子胥所以鞭荆平王之墓也。君何不從容爲上言邪。汝陰侯滕公心知朱家大俠。意季布匿其所。迺許曰。

# 史記評林卷之一百

## 季布欒布列傳第四十

季布者楚人也。爲氣任俠。

一篇眼目。孟康曰。信交道曰任。如淳曰。相與信爲任。同是非爲俠。所謂權行州里。力折公侯者也。或曰。任。氣力也。俠。勇也。

○索隱曰。任而禁反。俠音協。如淳說爲近。粵音普名反。其義難喻。

有名於楚。項籍使將兵。數窘漢王。

如淳曰。窘。困也。

及項羽滅高祖。購求布千金。敢有舍匿。罪及三族。季布匿濮陽。

周氏。周氏曰。漢購將軍急。迹且至臣家。將軍能聽臣。臣敢獻計。

卽不能。願先自到。季布許之。迺髡鉗季布。衣褐衣。置廣柳車中。

服虔曰。東郡謂廣轍車爲柳。鄧展曰。皆棺飾也。載以喪車。欲人不知也。李奇曰。大牛車也。車上覆爲柳。瓚曰。茂陵書中有廣柳車。每縣數百乘。是今運轉大車是也。○索隱曰。案服虔臣瓚所據。則是大車任載運者名廣柳車。然則柳爲車通名。鄧展所說事義相協。最爲通允。故禮曰。設柳翼爲使人勿惡也。鄭玄注周禮云。柳聚也。諸色所聚。則是喪車稱柳。故後人通謂車爲柳也。

爲氣任俠。札記云。漢書氣字ナシ。疑フ衍ナリ。御覽四百七十三引キ。氣ヲ人ニ作ル。顏師古曰。任ハ其氣力ヲ任使スルヲ謂フ。俠ノ言ハ挾ナリ。權力ヲ以テ人ヲ俠輔スルナリ。注俠粵也。索隱云。粵普名反。其義難喻。錢大所曰。說文ニ。男ハ俠ナリ。三輔ニ。財ヲ輕ンズルヲ謂テ。粵ト爲ス。按風三縣ナリ。京兆馮翊扶迹且至臣家。顏師古曰。迹ハ其蹤迹ヲ尋ヌルヲ謂フ。廣柳車。注服虔曰。爲柳。漢書注爲廣柳車。二作ル。



史記評林卷之九十九終

以一旦更定之。僕竊以爲不自度也。僕觀足下。非誠思以禮佐國。致太平者。特會主上厭羣臣酒酣擊柱無儀法。欲因緣造飾等儀。投好博寵耳。嗟乎。此僕之所以不願從也。足下之諛以取貴幸者。幾主矣。方二世間。楚卒時。謾稱人人奉職。無敢反。此與指鹿爲馬寧異乎。今真主起而雲附可矣。變服短衣何辱也。此輓輅子之所羞。而足下忍爲之。足下安所爲禮本哉。而猥自託於有司者之所治。以治世。僕故以爲足下未可與言禮也。漢德方隆。始假之歲月。以和洽其民。後當有王佐之才起。而修明古禮。以致國於三代之盛。足下不宜師心自用。因陋就簡。使古先聖王天秩之典。漸滅自漢。且以一代經國之業。而猥出於希世取寵之人。又竊爲大漢羞之也。僕雖不肖。酷嗜先聖之道。義所不適。有巖栖穴隱以死耳。安能以身之察察。而蒙世之汶汶乎。古人云。吾寧曳尾於泥中。足下將貪廟犧之錦。往矣。其母以并覆我。僕聞孔子進以禮退以義。僕不得以禮治天下。聊以攝吾身焉。

索隱述贊曰。夏藉衆幹。裘非一狐。委輅獻說。繇蒞陳書。皇帝始貴。車駕西都。旣安太子。又和匈奴。奉春稷嗣。其功可圖。

丘濬曰。嗚呼。周室禮文之盛。至是不可復覩矣。夫禮莫備于周。孔子所謂監於二代。郁乎文。是也。秦起西戎。一切以法從事。烏知所謂禮哉。叔孫通幸遇高祖創業之初。而有起朝儀之機會。不能訪求遺老。於此之時。講明三代之故。以立一代之制。顧乃區區以秦儀雜就之。遂使成周之全典。不復見於當時。亡秦之陋制。得以傳於後世。噫。可恨也夫。

[增]范醇敬擬魯兩生答叔孫書云。今天子恢皇綱。廓帝紘。將興禮樂之觀。以潤色太平。詒謀奕世。甚盛舉也。足下幸得啣至尊之命。招納豪俊。創制立經。自謂勳名於世無兩矣。而猥微及僕兩人者。豈以僕兩人居先聖之邦。世習其儀。進而使參一議乎。夫斟酌先王之典。以經世範俗。僕之素心也。依日月之末光。以聲施竹帛。僕之所大願也。然而於義有所不可。則固不能貶道委蛇。以干世好。敢布其款款之愚。於足下。竊怪足下壹何舉先王所以經緯天地者。而易言之也。夫禮。天之經也。地之義也。大人舉禮樂。則天地將爲昭焉。是故王者功成然後作樂。治定然後制禮。其功大者其樂備。其治辯者其禮具。周自后稷。至於文王。世布醇德。以沐其民。自黎阮之未聳。而民已稱咸和矣。武王一秉白旄。以定天下。當斯時也。馬散華山之陽。而不復乘。牛散桃林之野。而不復服。車甲弢而藏之府庫。而不復用。倒載干戈。苞之以虎皮。然而禮樂之制。必待嗣王而後定。其經緯創立若斯之難也。大漢提三尺劍。誅秦鋤項。以成帝業。大戰四十。小戰七十。今哭泣之聲未絕。傷痍者未起。而欲興禮樂。此何異起疋羸之人。而衣冠之。且周值夏商之後。典章故未毀也。周公特潤飾之。而猶然不易。今暴秦之所湮滅者何如。而足下欲



爲原廟渭北ハ、顔師古曰、原ハ重ナリ、先ヅ廟アリ、今更ニ之ヲ立ツルヲ以テ、故ニ重ト云フナリ。

大直若誦ハ、老子洪徳篇ノ語ナリ。

示有過舉。願陛下爲原廟渭北。衣冠月出游之。益廣多宗廟。大孝之本也。上迺詔有司立原廟。原廟起。以復道故。孝惠帝曾春出游離宮。叔孫生曰。古者有春嘗果。方今櫻桃孰。可獻。呂氏春秋仲春羞以含桃。先薦寢廟。高誘云。進含桃也。鷺鳥所含。故曰含桃。今之朱櫻卽是也。願陛下出。因取櫻桃獻宗廟。上迺許之。諸果獻由此興。

太史公曰。語曰。千金之裘。非一狐之腋也。臺榭之榱。非一木之枝也。三代之際。非一士之智也。信哉。夫高祖起微細。定海內。謀計用兵。可謂盡之矣。然而劉敬脫輓輅。一說建萬世之安。智豈可專邪。叔孫通希世度務。制禮進退。與時變化。卒爲漢家儒宗。大直若誦。索隱曰。音屈。道固委蛇。索隱曰。音移。蓋謂是乎。

高帝衣冠月出游高廟ハ、顏師古曰、諸家ノ說皆非ナリ、高帝ノ陵殿ヨリ衣冠ヲ出シ、高廟ニ游ブ、毎月一たび之ヲ爲スナ謂フ、漢制則然ルナリ。道上行哉、注複道ノ下、札記下字アリ、云フ考證漢書ニ據テ増ス。

下<sub>ニ</sub>爲<sub>レ</sub>戲。高帝曰。吾聽<sub>カント</sub>公言<sub>ナ</sub>。及<sub>ニ</sub>上置酒<sub>スルニ</sub>。見<sub>ル</sub>留侯所招客。從<sub>ニ</sub>太子入<sub>ヲ</sub>。

見<sub>ユルヲ</sub>上<sub>上</sub>乃<sub>チ</sub>遂<sub>ニ</sub>無<sub>ル</sub>易<sub>ル</sub>太子志<sub>志</sub>矣。高帝崩。孝惠卽<sub>レ</sub>位。迺<sub>チ</sub>謂<sub>ニ</sub>叔孫生曰<sub>一</sub>。先

帝園陵寢廟。羣臣莫能習。徙爲<sub>ニ</sub>太常<sub>ト</sub>。定<sub>メ</sub>宗廟儀法。及<sub>ニ</sub>稍定<sub>ムル</sub>漢諸

儀法。皆叔孫生爲<sub>ニ</sub>太常<sub>ト</sub>所論著<sub>スル</sub>也。孝惠帝爲<sub>ニ</sub>東朝<sub>シ</sub>長樂宮<sub>ニ</sub>。關中記曰。

長樂宮。本秦之興樂宮也。漢太后常居之。及<sub>ニ</sub>閒往來<sub>シタ</sub>數蹕<sub>シタ</sub>煩<sub>スニ</sub>人。索隱曰。韋昭云。蹕。止入行也。長樂未央宮東。相去稍遠。閒往。謂非時也。中閒往。

來清道。迺<sub>チ</sub>作<sub>ニ</sub>複道<sub>ナ</sub>。方<sub>ニ</sub>築<sub>ル</sub>武庫南<sub>ニ</sub>。韋昭曰。閑道也。如淳曰。作複道。方始築武庫南。叔孫生奏事。因

請<sub>テ</sub>閒曰。陛下何自<sub>ヨミ</sub>築<sub>ル</sub>複道<sub>ナ</sub>。高寢衣冠月出游高廟。高廟漢太祖

奈何<sub>ヤ</sub>令<sub>メ</sub>後世子孫<sub>ヲシテ</sub>乘<sub>ニ</sub>宗廟道<sub>上</sub>行<sub>カ</sub>哉。應劭曰。月出高帝衣冠備法駕名曰。游衣冠。如淳曰。三輔黃圖。高寢在高廟西。高祖衣冠藏在高寢。月出游於高廟。

其道值所作複道。故言乘<sub>ニ</sub>宗廟道<sub>上</sub>行<sub>カ</sub>。孝惠帝大懼曰。急壞<sub>レ</sub>之。叔孫生曰。

人主無<sub>ニ</sub>過<sub>ル</sub>舉<sub>一</sub>。索隱曰。案謂舉動有過也。左傳云。君舉必書。今已作。百姓皆知<sub>レ</sub>之。今壞<sub>レ</sub>此。則

共爲儀。願陛下官之。高帝悉以爲郎。叔孫通出。皆以五百斤金。

應前我忘

賜諸生。諸生迺皆喜曰。叔孫生誠聖人也。知當世之要務。漢九

反應前諸生竊罵

年。高帝徙叔孫通爲太子太傅。漢十二年。高祖欲以趙王如意

易太子。叔孫通諫上曰。昔者晉獻公以驪姬之故。廢太子。立奚

齊。晉國亂者數十年。爲天下笑。秦以不蚤定扶蘇。令趙高得以

詐立胡亥。自使滅祀。此陛下所親見。今太子仁孝。天下皆聞之。

呂后與陛下攻苦食啖。

徐廣曰。攻。猶今人言擊也。啖。一作淡。闕案如淳曰。食無菜茹爲啖。○索隱曰。案孔文祥云。與帝共攻冒苦難俱食淡。

也。案說文云。淡。薄味也。音唐敢反。

其可背哉。陛下必欲廢適而立少。臣願先伏誅。以

頸血汙地。

索隱曰。楚漢春秋。叔孫何云。臣三諫不從。請以身當之。撫劍將自殺。上離席云。吾聽子計。不易太子。

高帝曰。公罷矣。

吾直戲耳。叔孫通曰。太子天下本。本一搖。天下振動。奈何以天

攻苦食啖ハ、顔師古曰、  
啖當ニ淡ニ作ルベシ、  
漢ハ無味ノ食ヲ謂フ、  
攻撃ノ事ヲ共ニ  
シ、無味ノ食ヲ食フナ  
謂フナリ、或曰、攻ハ  
治ナリ、胡三省曰、周  
禮弗人注、知鹹啖、釋  
文啖直覽反、疏ニ鹹淡  
ニ作ル、則啖淡古字通  
ガスルヲ知ル。



謂ス、按ニ本注及ビ前注皆改ムベシ。皆朝十月儀、儀ハ一字句ナリ、類師古曰、其下ノ儀法ニ敘セント欲シ、先ゾ儀此ノ如シト言フナリ。步卒衛宮、札記云、宮漢書官ニ作ル、按ニ通鑑亦官ニ作ル、胡三省曰、衛宮ハ、侍衛ノ官、郎中及ビ中郎載ヲ執テ侍衛スル者ナリ。臚句傳ハ、札記臚傳ニ作ル、云フ各本臚下句字アリ、索隱本ナシ、雜志云、句字後人漢書ニ依テ之ヲ加フ、集解漢書音義ヲ引キ、但臚字ヲ釋シ、句字ヲ釋セズ、其證ナリ。至禮畢復置法酒ハ、胡三省曰、禮畢ハ朝禮畢ルヲ謂フ、類師古曰、法酒ハ猶禮爵ト言フ如シ、之ヲ飲ミ醉ニ至ラサルヲ謂フ。皆伏抑首ハ、類師古曰、抑ハ風ナリ、禮法ニ依リ政テ平坐シテ視ザルヲ謂フ。

東郷。文官丞相以下。陳東方西郷。大行設九賓。臚句傳。

漢書音義曰。傳從上。

下爲臚。○索隱曰。蘇林云。上傳語告下爲臚。下傳語告上爲句。臚猶行者矣。韋昭云。大行掌賓客之禮。今謂之鴻臚也。九賓。則周禮九儀也。謂公侯伯子男孤卿大夫士也。漢依此以爲臚傳。

依次傳令上也。向秀注。莊子云。從上語下爲臚。音閭。句音九注反。

於是皇帝輦出房。百官執職傳警。

漢書作執職。徐廣曰。一作輶。

○索隱曰。案輿服志云。殷周以輦載軍器。職載芻豢。至秦始皇去其輪而輿爲尊也。職音輶。傳警者。漢儀云。帝輦動則左右侍帷幄者稱警。是也。引諸侯王以下。

至吏六百石。以次奉賀。自諸侯王以下。莫不振恐肅敬。至禮畢。

復置法酒。

文穎曰。作酒令法也。蘇林曰。常會須天子中起更衣。然後入置酒矣。○索隱曰。姚氏云。進止有禮也。古人飲酒不過三爵。君臣百拜。終日宴不爲亂也。

諸侍坐殿上。皆伏抑首。

如淳曰。抑屈。

以尊卑次起上壽。觴九行。謁者

言罷酒。御史執法。舉不如儀者。輒引去。竟朝置酒。無敢誼譁失

結

禮者。於是高帝曰。吾迺今日知爲皇帝之貴也。迺拜叔孫通爲

太常。賜金五百斤。叔孫通因進曰。諸弟子儒生隨臣久矣。與臣

希フノ汚ハ、則魯兩生  
ヲ假リテ以テ之ヲ發  
ス、篇首ニ秦二世ノ其  
對チ善トスルヲ載ス、  
以テ面諷ノ微ト爲スナ  
リ、末ニ原廟ノ立ツ、  
果獻ノ興ルヲ載ス、其  
臆ニ憑リ稽フルナキヲ  
著ハシ、以テ言フ所ノ  
漢ノ儀法、皆此類ナル  
公所事者且十主ハ、胡  
三省曰、通、秦始皇、  
二世、陳涉、項梁、楚  
懷王、項羽、及ビ帝ニ  
事フ、凡七主ナリ、且  
ハ幾ナリ、幾ト十主ニ  
及ブヲ言フナリ。  
積德百年而後可興也、  
顏師古曰、德教ヲ行フ  
百年、然ル後禮樂ヲ起  
スベキヲ言フ。  
石眞師傳曰、顏師古曰、  
若ハ汝ナリ、鄙ハ通セ  
ザルヲ言フ。  
爲綿葛、注如淳曰、纂位  
也、五字アリ、顏師古曰、  
下、漢書注、尊卑之次  
ノ下、纂位ト同ジ、竝ニ音  
子悅反、如說是ナリ。  
令彙臣習隸、札記隸ヲ  
釋ニ作ル、云フ毛本索  
隱本ト合ス、各本隸ニ

所由起。積德百年而後可興也。吾不忍爲公所爲。公所爲不合  
古。吾不行。公往矣。無汗我。叔孫通笑曰。若眞鄙儒也。不知時變。  
遂與所徵三十人。西。及上左右爲學者。與其弟子百餘人。爲綿  
葛。  
徐廣曰。表位標準。音子外反。駟案如淳曰。置設綿索。爲習隸處。葛。謂以茅剪樹地。爲纂  
位。春秋傳曰。置茅葛也。○索隱曰。韋昭云。引繩爲綿。立表爲葛。音茲會反。賈逵云。束茅  
以表位爲葛。又纂文云。葛。今之  
纂字。包愷音卽悅反。又音纂。  
野外習之。月餘。叔孫通曰。上可試觀。上既  
觀。使行禮。曰。吾能爲此。迺令羣臣習隸。  
索隱曰。隸亦  
習也。音異。  
會十月。漢七年。  
長樂宮成。諸侯羣臣皆朝十月。儀。  
索隱曰。小顏云。漢以十月爲正。故行朝歲  
之禮。史家追書十月也。案諸書竝云。十月  
爲歲首。不言以十月爲正月。古  
今注亦云。羣臣始朝十月也。  
先平明。謁者治禮。引以次入殿門。廷中陳  
車騎。步卒衛宮。設兵。張旗志。  
徐廣曰。  
一作幟。  
傳言趨。  
索隱曰。案小顏傳。聲教入  
者皆令趨。趨疾行致敬也。  
殿下郎中俠陛。陛數百人。功臣列侯諸將軍軍吏。以次陳西方。



嗣君。

徐廣曰。蓋言其德業足以繼蹤齊稷下之風流也。駟案漢書音義曰。稷嗣邑名。

漢五年已并天下。諸侯共尊

漢王爲皇帝。於定陶。叔孫通就其儀號。高帝悉去秦苛儀法。爲

簡易。羣臣飲酒爭功。醉或妄呼。拔劍擊柱。高帝患之。叔孫通知

上益厭之也。說上曰。夫儒者難與進取。可與守成。臣願徵魯諸

生。與臣弟子共起朝儀。高帝曰。得無難乎。叔孫通曰。五帝異樂。

三王不同禮。禮者。因時世人情。爲之節文者也。故夏殷周之禮。

所因。損益可知者。謂不相復也。臣願頗采古禮。與秦儀雜就之。

上曰。可試爲之。令易知。度吾所能行。爲之。於是叔孫通使徵魯

諸生三十餘人。魯有兩生不肯行。曰。公所事者且十主。皆面諛

以得親貴。今天下初定。死者未葬。傷者未起。又欲起禮樂。禮樂

論不相復也。顏師古曰。復。重也。顏頗采古禮與秦儀雜就之。方苞曰。禮書。漢秦儀。用。三代聖制。是。由。沈運。而。之。成。者。實。通。ナル。痛。然。二。時。主。用。所。ナリ。敢。テ。其。非。斥。言。セズ。故。ニ。樓。論。於。其。辭。ヲ。諷。約。ニ。シ。褒。スル。若。ク。諷。スル。若。ク。而。テ。世。ニ。

者華窮希世處



リ、一襲ハ、顔師古曰、今上下皆具ハルナリ、今人呼テ一副ト爲ス。

漢王方蒙矢石ハ、顔師古曰、蒙ハ猶被ノ如シ、目スナリ。

之薛。薛已降楚矣。及項梁之薛。叔孫通從之。敗於定陶。從懷王。懷王爲義帝。徙長沙。叔孫通留事項王。漢二年。漢王從五諸侯入彭城。叔孫通降漢王。漢王敗而西。因竟從漢。叔孫通儒服。漢王憎之。迺變其服。服短衣楚製。索隱曰。案孔文祥云。短衣便事。非儒者衣服。高祖楚人。故從其俗裁製。漢王喜。叔孫通之降漢。從儒生弟子百餘人。然通無所言。進專言諸故羣盜壯士進之。弟子皆竊罵曰。事先生數歲。幸得從降漢。今不能進臣等。專言大猾。何也。索隱曰。案類集云。大猾。狡猾也。音滑。叔孫通聞之。迺謂曰。

漢王方蒙矢石。爭天下。

漢書音義曰。謂發石以投入。

諸生寧能鬪乎。故先言斬。

將率旗之士。

張晏曰。率。卷也。瓚曰。拔取曰率。楚辭曰。朝率阼之木蘭。○索隱曰。率。音起焉反。又已勉反。案方言云。南方取物云率。許慎云。率。取也。王逸云。阼。

山名。又案埤蒼云。山在楚。音毗。

諸生且待我。我不忘矣。漢王拜叔孫通爲博士。號稷。

人臣無將ハ、顔師古曰、  
將ハ將ニ其意アラント  
スルナリ。

鑾其兵、鑾ハ鎗ナリ。

四方輻輳ハ、顔師古曰、  
輳ハ衆ナリ、車輻ノ輳  
ニ衆スル如キナリ。

衣一襲、注案隱案古語、  
札記古語ナ國語ニ作  
ル、云フ中統游王柯本  
同ジ、單本國語云一稱  
ニ作ル、國語ヲ按ズル  
ニ此語ヲ見ズ、淺本遂  
ニ改テ古語ト爲ス、錢  
警石云、疑フ是閔二年  
左傳祭服五稱ノ注文ナ

攻<sup>ア</sup>斬<sup>チ</sup>入<sup>ル</sup>陳<sup>ニ</sup>。於<sup>ニ</sup>公<sup>ニ</sup>如何<sup>ニ</sup>。博士<sup>ニ</sup>諸生<sup>ニ</sup>三十餘人<sup>ニ</sup>前<sup>ニ</sup>曰<sup>ニ</sup>。人臣<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>將<sup>ニ</sup>。將<sup>ニ</sup>即<sup>ニ</sup>  
反<sup>ス</sup>。罪<sup>ニ</sup>死<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>赦<sup>ス</sup>。瓚曰。將。謂逆亂也。公羊傳曰。君親無將。將而必誅。願<sup>フ</sup>陛<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>急<sup>ニ</sup>發<sup>シ</sup>兵<sup>ニ</sup>擊<sup>テ</sup>之<sup>ニ</sup>。二<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>怒<sup>ツ</sup>作<sup>ス</sup>

色<sup>チ</sup>。叔孫<sup>ニ</sup>通<sup>ニ</sup>前<sup>ニ</sup>曰<sup>ニ</sup>。諸生<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>皆<sup>ニ</sup>非<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。夫<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>合<sup>シ</sup>爲<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>。毀<sup>テ</sup>郡<sup>ニ</sup>縣<sup>ニ</sup>城<sup>ニ</sup>。鑾<sup>ニ</sup>

其<sup>ニ</sup>兵<sup>ニ</sup>。示<sup>ス</sup>天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>復<sup>ニ</sup>用<sup>ニ</sup>。且<sup>ニ</sup>明<sup>ニ</sup>主<sup>ニ</sup>在<sup>ニ</sup>其<sup>ニ</sup>上<sup>ニ</sup>。法<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>具<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>。使<sup>メ</sup>人<sup>ニ</sup>人<sup>ニ</sup>奉<sup>テ</sup>職<sup>ニ</sup>。

四<sup>ニ</sup>方<sup>ニ</sup>輻<sup>ニ</sup>輳<sup>ニ</sup>。安<sup>ニ</sup>敢<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>反<sup>ス</sup>者<sup>ニ</sup>。此<sup>ニ</sup>特<sup>ニ</sup>羣<sup>ニ</sup>盜<sup>ニ</sup>鼠<sup>ニ</sup>竊<sup>ニ</sup>狗<sup>ニ</sup>盜<sup>ニ</sup>耳<sup>ニ</sup>。何<sup>ニ</sup>足<sup>ニ</sup>置<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>齒<sup>ニ</sup>牙<sup>ニ</sup>。

閒<sup>ニ</sup>郡<sup>ニ</sup>守<sup>ニ</sup>尉<sup>ニ</sup>今<sup>ニ</sup>捕<sup>テ</sup>論<sup>ニ</sup>。何<sup>ニ</sup>足<sup>ニ</sup>憂<sup>ニ</sup>。二<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>喜<sup>ニ</sup>曰<sup>ニ</sup>。善<sup>ニ</sup>。盡<sup>ニ</sup>問<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>。諸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>或<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>反<sup>ニ</sup>。

或<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>盜<sup>ニ</sup>。於<sup>ニ</sup>是<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>世<sup>ニ</sup>令<sup>ニ</sup>御<sup>ニ</sup>史<sup>ニ</sup>案<sup>ニ</sup>諸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>反<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>吏<sup>ニ</sup>。非<sup>ニ</sup>所<sup>ニ</sup>宜<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>。諸<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>

盜<sup>ニ</sup>者<sup>ニ</sup>皆<sup>ニ</sup>罷<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>。迺<sup>ニ</sup>賜<sup>ニ</sup>叔<sup>ニ</sup>孫<sup>ニ</sup>通<sup>ニ</sup>帛<sup>ニ</sup>二十<sup>ニ</sup>匹<sup>ニ</sup>。衣<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>襲<sup>ニ</sup>。索隱曰。案古語。謂之一稱。賈逵案禮記。袍必有表不

單<sup>ニ</sup>。衣<sup>ニ</sup>必<sup>ニ</sup>有<sup>ニ</sup>裳<sup>ニ</sup>。謂<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>稱<sup>ニ</sup>。杜<sup>ニ</sup>預<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>。衣<sup>ニ</sup>單<sup>ニ</sup>複<sup>ニ</sup>具<sup>ニ</sup>云<sup>ニ</sup>。稱<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。拜<sup>シ</sup>爲<sup>ニ</sup>博<sup>ニ</sup>士<sup>ニ</sup>。叔<sup>ニ</sup>孫<sup>ニ</sup>通<sup>ニ</sup>已<sup>ニ</sup>出<sup>ニ</sup>宮<sup>ニ</sup>反<sup>ニ</sup>舍<sup>ニ</sup>。諸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>曰<sup>ニ</sup>。先<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>

何<sup>ニ</sup>言<sup>ニ</sup>之<sup>ニ</sup>諛<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。通<sup>ニ</sup>曰<sup>ニ</sup>。公<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>知<sup>ニ</sup>也<sup>ニ</sup>。我<sup>ニ</sup>幾<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>脫<sup>ニ</sup>於<sup>ニ</sup>虎<sup>ニ</sup>口<sup>ニ</sup>。正義曰。幾音祈。迺<sup>ニ</sup>亡<sup>ニ</sup>去<sup>ニ</sup>。

在リ、詎ゾ趙王ノ后ヲ奪ヒ、以テ單于ニ妻ハスノ理アリシヤ、此事未ダ信ズベカラズ。取家人子名爲長公主ハ、漢書外戚傳ニ、上家人子、中家人子アリ、注顔師古曰、家人子ハ、良家ノ子ヲ採擇シ、以テ宮ニ入レ、未ダ戰號アラズ、但家人子ト稱スルヲ言フナリ。

秦中新破ハ、顔師古曰、秦中ハ關中ヲ謂フ、故ノ秦ノ地ナリ、新破ハ、兵革ヲ經ルノ後、未ダ殷實セザルヲ謂フ。

非齊諸田楚昭屈景ハ、胡三省曰、齊ノ王族諸田ナリ、楚ノ王族昭屈景ナリ、皆二國ノ疆家ナリ。

關中十餘萬口、札記云、秦關本關中二字ナシ。

待詔博士ハ、顔師古曰、博士十中ニ於テ、詔ヲ待フナリ。

言匈奴河南白羊樓煩王。

張晏曰。白羊。匈奴國名。○索隱曰。案張晏云。白羊。國名。二者竝在河南。河南者。案在朔方之河南。舊竝匈奴地也。今亦

謂之新秦中。

去長安近者七百里。輕騎一日一夜可以至秦中。秦

中新破少民。地肥饒可益實。夫諸侯初起時。非齊諸田。楚昭屈

景。莫能興。今陛下雖都關中。實少人。北近胡寇。東有六國之族。

宗彊。一日有變。陛下亦未得高枕而臥也。臣願陛下徙齊諸田。

楚昭屈景。燕趙韓魏後。及豪傑名家。居關中。無事。可以備胡諸

侯有變。亦足率以東伐。此彊本弱末之術也。上曰。善。迺使劉敬

徙所言關中十餘萬口。

索隱曰。案小顏云。今高陵櫟陽諸田。華陰好時諸景。及三輔諸屈諸懷尙多。皆此時所徙也。

叔孫通者。薛人也。晉灼曰。楚漢春秋名何。○秦時以文學徵待詔博士。

數歲。陳勝起山東。使者以聞。二世召博士諸儒生問曰。楚成卒



役所鮮ハ、顔師古曰、鮮ハ少ナリ、問遣ハ之ニ餉饋スルヲ謂フ。

欽道長公主呂后日夜泣ハ、錢大昕曰、張敖ノ舊元公主ヲ尙スル、高帝平城ニ困ムノ前ニ在リ、彼傳ニ云、高祖從平城過趙、趙王朝夕上レ食有ニ子壻禮ト、證スベキ也、裏敬說ヲ進ムル、乃平城以後ニ

力<sup>チ</sup>爲<sup>レ</sup>威<sup>チ</sup>。未<sup>レ</sup>可<sup>下</sup>以<sup>ニ</sup>仁義<sup>チ</sup>說<sup>上</sup>也。獨<sup>キ</sup>可<sup>ミ</sup>以<sup>ニ</sup>計<sup>ル</sup>久遠子孫爲<sup>ル</sup>臣耳。然恐<sup>ル</sup>陛  
下不能<sup>ル</sup>爲<sup>ス</sup>。上曰。誠可<sup>ナル</sup>何爲<sup>シ</sup>不能<sup>ル</sup>顧爲<sup>フ</sup>奈何。劉敬對曰。陛下誠能  
以<sup>ニ</sup>適長公主<sup>チ</sup>妻<sup>レ</sup>之。厚奉<sup>ニ</sup>遺<sup>ニ</sup>之。彼知<sup>ラズ</sup>漢適女<sup>ノ</sup>送厚<sup>キ</sup>蠻夷必慕<sup>テ</sup>以爲<sup>ニ</sup>  
闕氏<sup>ト</sup>生子<sup>チ</sup>必爲<sup>ニ</sup>太子<sup>ト</sup>。代單于何者貪漢重幣<sup>チ</sup>。陛下以<sup>ニ</sup>歲時漢所  
餘<sup>ス</sup>彼所鮮<sup>キ</sup>數問遺<sup>シ</sup>。因使辯士風諭<sup>ス</sup>以<sup>ニ</sup>禮節<sup>チ</sup>。冒頓在<sup>ル</sup>固爲<sup>ニ</sup>子壻<sup>ト</sup>死  
則外孫爲<sup>ニ</sup>單于<sup>ト</sup>。豈嘗聞<sup>下</sup>外孫敢與大父抗禮者哉<sup>チ</sup>。兵可<sup>キ</sup>無<sup>レ</sup>戰<sup>フ</sup>。以  
漸<sup>チ</sup>臣<sup>ト</sup>也。若陛下不能<sup>ル</sup>遣<sup>ニ</sup>長公主<sup>チ</sup>而令<sup>ニ</sup>宗室及後宮詐稱<sup>ニ</sup>公主<sup>ト</sup>。彼  
亦知<sup>ラズ</sup>不肯<sup>シ</sup>貴近<sup>シ</sup>無益也。高帝曰。善。欲遣<sup>ニ</sup>長公主<sup>チ</sup>。呂后日夜泣曰。  
妾唯太子一女。奈何弄<sup>ニ</sup>之匈奴<sup>ニ</sup>。上竟不能<sup>ル</sup>遣<sup>ニ</sup>長公主<sup>チ</sup>而取<sup>ニ</sup>家人  
子<sup>チ</sup>。名爲<sup>ニ</sup>長公主<sup>ト</sup>。妻<sup>ニ</sup>單于<sup>ト</sup>。使劉敬往結和親約<sup>チ</sup>。劉敬從<sup>ニ</sup>匈奴<sup>ニ</sup>來<sup>リ</sup>。因<sup>テ</sup>

韋昭曰。夸張矜大也。

今臣往。徒見羸瘠老弱。

索隱曰。羸力爲反。瘠音稷。瘠瘦也。漢書作鬻。音漬。鬻肉也。恐非。

此必欲

見短。伏奇兵以爭利。愚以爲匈奴不可擊也。是時漢兵已踰句

注。

正義曰。句注山在代州鴈門縣西北三十里。

二十餘萬兵已業行。上怒罵劉敬曰。齊虜

以口舌得官。今迺妄言沮吾軍。

索隱曰。沮音才敍反。詩傳曰。沮止也。壞也。

械繫敬廣武。

曰。地理志。縣名屬鴈門。○正義曰。廣武故縣在句注山南也。

遂往至平城。匈奴果出奇兵圍高帝白

登。七日然後得解。高帝至廣武。赦敬曰。吾不用公言。以困平城。

吾皆以斬前使十輩言可擊者矣。迺封敬二千戶爲關內侯。號

爲建信侯。高帝罷平城歸。韓王信亡入胡。當是時。冒頓爲單于。

兵彊。控弦三十萬。

應劭曰。控引也。

數苦北邊。上患之。問劉敬。劉敬曰。天

下初定。士卒罷於兵。未可以武服也。冒頓殺父代立。妻羣母。以

齊虜以口舌得官ハ、其國中ニ都スルヲ勸メシヲ謂フ。

故地可全而有也。夫與人鬪。不搯其吭。

張晏曰。吭。喉嚨也。○索隱曰。搯音厄。吭音胡浪反。一音胡剛反。蘇林

以爲肮頸大脈。俗所謂胡脈也。

拊其背。未能全其勝也。今陛下入關而都。案秦之故

地。此亦搯天下之吭。而拊其背也。高帝問羣臣。羣臣皆山東人。

爭言周王數百年。秦二世卽亡。不如都周。上疑未能決。及畱侯

明言入關便。卽日車駕西都關中。

索隱曰。案謂卽日西都之計定也。

於是上曰。本言

都秦地者。婁敬。婁者。乃劉也。賜姓劉氏。拜爲郎中。號爲奉春君。

索隱曰。案張晏云。春爲歲之始。以其首謀都關中。故號奉春君。漢七年。韓王信反。高帝自往擊之。至晉陽。

聞信與匈奴欲共擊漢。上大怒。使人使匈奴。匈奴匿其壯士肥

牛馬。但見老弱及羸畜。

正義曰。上力爲反。下許又反。

使者十輩來。皆言匈奴可

擊。上使劉敬復往使匈奴。還報曰。兩國相擊。此宜夸矜見所長。



起豐擊沛ハ、札記豐沛  
ニ作ル、云フ毛本淺一  
本ナ引ク同ジ、漢書ト  
合ス、他本豐下ニ擊字  
ナ衍ス。

懷德。附離而竝事天子。

莊子曰。附離不以膠漆也。○索隱曰。案謂使離者相附也。

不屯一卒。不戰一

士。八夷大國之民。莫下賓服。效其貢職。及周之衰也。分而爲兩。

正義曰。公羊傳云。東周者何。成周也。西周者何。王城也。按周自平王東遷以下十二王。皆都王城。至敬王乃遷都成周。王赧又居王城也。

天下莫朝。周不

能制也。非其德薄也。而形勢弱也。今陛下起豐擊沛。收卒三千

人。以之徑往。而卷蜀漢。定三秦。與項羽戰滎陽。爭成臯之口。大

戰七十。小戰四十。使天下之民肝腦塗地。父子暴骨中野。不可

勝數。哭泣之聲未絕。傷痍者未起。而欲比隆於成康之時。臣竊

以爲不侔也。且夫秦地被山帶河。四塞以爲固。卒然有急。百萬

之衆可具也。因秦之故。資甚美膏腴之地。此所謂天府者也。

索隱

曰。案戰國策。蘇秦說惠王曰。大王之國。地勢形便。此所謂天府。高誘注云。府聚也。陛下入關而都之。山東雖亂。秦之



# 史記評林卷之九十九

## 劉敬叔孫通列傳第三十九

劉敬者齊人也。

索隱曰。敬本姓婁。漢書作婁敬。

漢五年。戍隴西。過洛陽。高帝在焉。婁

敬脫輓輅。

蘇林曰。一木橫遮車前。一人推之。孟康曰。輅音胡格反。輓音晚。○索隱曰。輓者牽也。輅者鹿車前橫木。二人前輓。一人後推之。

衣其羊

裘。見齊人虞將軍曰。臣願見上言便事。虞將軍欲與之鮮衣。

索隱

曰。上音仙。鮮衣。美服也。

婁敬曰。臣衣帛。衣帛見衣褐。衣褐見終不敢易衣。於

是虞將軍入言上。上召入見。賜食。已而問婁敬。婁敬說曰。陛下

都洛陽。豈欲與周室比隆哉。上曰。然。婁敬曰。陛下取天下與周

室異。周之先自后稷。堯封之郃。

正義曰。郃音胎。雍州武功縣西南二十三里。故郃城是也。說文云。郃。炎帝之後。姜姓所封。

脫輓輅注。蘇林曰云云。漢書注。車前ノ下、二人挽レ之、一人推レ之ニ作ル。

衣褐衣褐見ハ、額師古曰、衣ハ著ナリ、此褐ハ織毛布ノ衣ヲ謂フ。



史記評林卷之九十八終

子應爲郢侯、莫、諡曰康侯。子仲居嗣云云ニ作ル。

郢。蘇林音多。屬陳國。地理志云。沛郡有ニ多縣。案此文云ニ子居。表云ニ子應ニ不同者。至ニ元鼎三年ニ居爲ニ太常ト有罪。國除。

太史公曰。陽陵侯傳寬。信武侯斬歙。皆高爵。徐廣曰。一無高字。又一本皆從高祖。從ニ高

祖ニ起ニ山東ニ攻ニ項籍ヲ誅ニ殺シ名將ヲ破軍降城ヲ以ニ十數ヲ未嘗困辱セ此亦

天授也。蒯成侯周緤。操ル心堅正。索隱曰。操音倉高反。身不見疑ハ上欲有所ニ之ト。

未嘗テ不ニ垂涕セ此有ニ傷心シムル者ヲ。徐廣曰。此一作比。然可レ謂ニ篤厚ノ君子ト矣。

索隱述贊曰。陽陵信武。結髮從漢。動叶人謀。功實天贊。定齊破項。我軍常冠。蒯成委質。夷險不亂。主上稱忠。人臣扼腕。

音簿催反。晉灼案功臣表屬長沙。崔浩音簿壤反。楚漢春秋作憑成侯。則裴憑聲相近。此得其實也。○正義曰。括地志云。蒯亭在河南西十四里苑中。輿地志云。蒯成縣。故陳倉縣之故鄉聚名也。周繆所封也。晉武帝咸寧四年。分陳倉立蒯成縣。屬始平郡也。沛人也。姓周氏。常爲高祖參乘。以舍人

從起沛至霸上西入蜀漢還定三秦食邑池陽

正義曰。雍州涇陽縣西北三里池陽故城

是也。東絕角道從出度平陰遇淮陰侯兵襄國軍乍利乍不利終

無離上心

徐廣曰蒯成侯表云遇淮陰侯軍襄國楚漢約分鴻溝以縹爲信武侯戰不利不敢離上

以縹爲信武侯食邑

三千三百戶高祖十二年以縹爲蒯成侯除前所食邑上欲自

擊陳豨蒯成侯泣曰始秦攻破天下未嘗自行今上常自行是

爲無人可使者乎上以爲愛我賜入殿門不趨殺人不死至孝

文五年縹以壽終諡爲貞侯正義曰諡爲尊侯一作卓子昌代侯有罪國除至

孝景中二年封縹子居代侯

徐廣曰表云孝景中元年封縹子應爲鄆侯諡康中二年侯居立沛郡有鄆縣鄆一作鄆○索隱曰

封縹子居代侯ハ、漢書國除ノ下、景帝復封縹

終無離上心注爲信武侯ハ、功臣年表、武侯二字ナシ、漢書表亦同ジ。



陵王一句足ル、仍生致之三字ヲ加フルハ、其王ヲ生得スル、司馬以下ニ比スレバ同ジカラズ、故ニ獨リ詳ニス。

王。索隱曰。案孔文祥云共敖子共尉。生致之雒陽。因定南郡。從至陳。取楚王信。剖符

世世勿絕。定食四千六百戶。號信武侯。以騎都尉從擊代。攻韓

信平城下。還軍東垣。有功。遷爲車騎將軍。并將梁趙齊燕楚車

騎。別擊陳豨丞相敞破之。索隱曰。小顏云侯敞。因降曲逆。從擊黥布。有功。益

封。定食五千三百戶。凡斬首九十級。虜百三十二人。別破軍十

四。降城五十九。定郡國各一。縣二十三。得王柱國各一人。二千

石以下至五百石。徐廣曰。一本無此五字。三十九人。高后五年歎卒。謚爲肅

侯。子亭代侯。二十一年。坐事國人過律。索隱曰。案劉氏云。事役使也。謂使人違律數多也。孝文

後三年奪侯國除。

蒯成侯緡者。

服虔曰。蒯音菅。蒯之蒯。○索隱曰。姓。周名。緡音薛。蒯者。鄉名。案三蒼云。蒯鄉在城父縣。音裴。漢書作鄴。從崩從邑。今書本竝作菅。蒯音奸。非也。蘇林

車馬二百五十匹ハ、札記云、錢警石云、車馬同ジク匹ヲ以テ計ル、恐ラタハ脱誤アラソ。

身得江陵王生致之雒陽ハ、李光緒曰、身得江

千二百戸。別之河内。擊趙將賁軍朝歌。

上音肥。下音釋。○索隱曰。漢書作趙賁軍。案此在河北。非。

曹參樊噲之所擊也。

破之。所將卒得騎將二人。車馬二百五十匹。從攻安陽。

以東至棘蒲。下七縣。別攻破趙軍。得其將司馬二人。候四人。降。

吏卒二千四百人。從攻下邯鄲。別下平陽。

徐廣曰。鄴有平陽城。○正義曰。括地志云。平陽故城在相。

州臨漳縣西。

身斬守相。所將卒斬兵守郡守各一人。

孟康曰。將降鄴。兵郡守。

從攻朝歌邯鄲。及別擊破趙軍。降邯鄲郡六縣。

徐廣曰。邯鄲高帝改曰趙國。還軍。

敖倉。破項籍軍。成阜南。擊絕楚餉道。起滎陽至襄邑。破項冠軍。

魯下。

正義曰。魯城之下。今兗州曲阜縣也。

略地東至繒郟下邳。

索隱曰。案地理志。繒屬東海。○正義曰。今繒城在沂州沭縣下。

邳。泗水縣。郟縣屬海州。

南至蘄竹邑。

索隱曰。二邑名。蘄在沛。音機。竹卽竹邑。

擊項悍。濟陽下。還擊項籍。

陳下。破之。別定江陵。降江陵柱國大司馬以下八人。身得江陵。

僭立二十一年ハ、札記ニテ三ニ作ル、云ノ宋中統毛本吳校金板同ジ、他本三ニ作ス。斬騎十人將一人ハ、札記十ヲ千ニ作ル、云フ毛本千、漢書ト合ス、志疑云、七字一句讀ス、如淳曰、騎ノ將率ヲ千人ト號スト、按此說ニ從ヘバ、騎ノ千人將一人ト讀ムベシ。

信武侯靳歙。

索隱曰。歙音翁。

以中涓從起宛胸。

正義曰。上於元反。下求俱反。曹州縣也。

攻濟陽。正義

曰。曹州宛胸縣西南三十五里濟陽故城。

破李由軍。擊秦軍毫南。開封東北。斬騎十人。將

一人。

徐廣曰。將一作侯。

首五十七級。捕虜七十三人。賜爵封號臨平君。又

戰藍田北。斬車司馬一人。

張晏曰。主官車。

騎長一人。

張晏曰。騎之長。

首二十八級。

捕虜五十七人。至霸上。沛公立爲漢王。賜歙爵建武侯。遷爲騎

都尉。從定三秦。別西擊章平軍於隴西。破之。定隴西六縣。所將

卒斬車司馬侯各四人。騎長十二人。從東擊楚。至彭域。漢軍敗。

還保雍丘。去擊反者王武等。略梁地。別將擊邢說軍菑南。張晏曰。特起兵。

者也。說音悅。○徐廣曰。今日考城。○索隱曰。邢。姓。說。名。菑。音災。今爲考城。屬濟陰也。破之。身得說都尉二人。司馬侯十

二人。降吏卒四千六百八十人。破楚軍滎陽東。三年。賜食邑四



通德侯。從擊項冠周蘭龍且。所將卒斬騎將一人。敖徐廣曰敖倉之下。

益食邑屬淮陰。索隱曰。張晏云。信時爲將。云淮陰者終言之也。擊破齊歷下軍。擊田解屬相

國參殘博。索隱曰。博。太山縣也。顧祕監云。屬曹參以殘破博縣也。益食邑因定齊地。剖符世世勿

絕。封爲陽陵侯。二千六百戶。除前所食爲齊右丞相。備齊。張晏曰。時

田橫未降。故設屯備。○正義曰。接爲齊王韓信相。五歲爲齊相國。正義曰。爲齊悼惠王劉肥相五歲也。四月。擊陳豨屬

太尉勃。以相國代丞相噲擊豨。一月。徙爲代相國。將屯。如淳曰。旣爲相國。有

警則將卒而屯守也。案律謂勒兵而守曰屯。○索隱曰。如淳云。漢初諸王官屬如漢朝。故代有丞相。案孔文祥云。邊境有屯兵。寬爲代相國兼領屯後因置將屯將軍也。二歲。

爲代丞相。將屯。孝惠五年卒。諡爲景侯。子須侯精立。二十四年。

卒。子共侯則立。十二年卒。子侯偃立。二十一年。坐與淮南王謀

反死。國除。

屬相國參殘博注顧祕監ハ、札記云、中統游王河浚本並ニ顧ニ作ル、單本顏ニ作ル、錢警石云、漢書此注ナシ、衛將軍傳、傳校獲王ノ索隱亦然リ、唐志ニ顧胤漢書古今集義二十卷、リ、司馬貞徵引スル、或ハ即此ナリ、他處モ亦屢顧胤ヲ引ク。

爲代相國將屯ハ、顏師古曰、如淳ノ說非ナリ、時ニ代國常ニ屯兵アリ、以テ邊寇ニ備フ、寬相ト爲リ、兼テ此屯兵ニ將タルナリ。

須侯精ハ、札記須ヲ頃ニ作ル、云フ宋中統舊刻毛本同ジ、他本頃ヲ須ニ譌ス。

史記評林卷之九十八

傳靳蒯成列傳第三十八

陽陵侯傳寬。

地理志云。馮翊陽陵縣。

以魏五大夫騎將從爲舍人。起橫陽。

索隱

曰。按橫陽。邑名。在韓。韓公子成初封橫陽君。張良立爲韓王也。○正義曰。括地志云。故橫城。在宋州宋城縣西南三十里。按蓋橫陽也。

從攻安陽。

正義曰。後魏地

形志云。已氏有安陽城。隋改已氏爲楚丘。今宋州楚丘縣西十里。安陽故城也。杠里。擊趙賁軍於開封。及擊楊熊曲

遇。

正義曰。曲丘羽反。遇。牛恭反。司馬彪郡國志云。中牟有曲遇聚。按鄭州中牟縣也。

陽武。

正義曰。鄭州縣。

斬首十二級。賜爵

卿。從至霸上。沛公立爲漢王。漢王賜寬封。號共德君。

索隱曰。謂美號耳。非地邑。

從入漢中。遷爲右騎將。從定三秦。賜食邑雕陰。

徐廣曰。屬上郡。○索隱曰。案孟康云。縣名

也。○正義曰。酈州洛交縣三十里雕陰故城是也。

從擊項籍待懷。

服虔曰。待。高帝於懷。○索隱曰。小顏案。地理志。懷屬河內。今懷州也。

賜爵

傳靳蒯成傳ハ、漢書司馬遷傳ニ謂フ、史記内十篇、録アリ書ナシト、顔師古注、張景ノ説ヲ引キ、傳靳列傳亦缺中ニアリ、而テ阿維驥曰、傳寬靳欽戰功多クシテ、蒯成侯功少シ、此傳傳チ欽スル、屬字ヲ連用シ、靳チ欽スル、別字及ビ破之ノ字ヲ連用シ、文體變化、樊鄴滕灌ト相類ス、太史公ニ非ズンバ作ル能ハザルナリ、漢書其文ニ仍リ、刪潤スル所少シ、説者乃チ謂フ此傳モト缺クト、豈後人漢書ヲ採ツテ之ヲ補フカ、陽陵侯傳寬注地理志云、札記云、宋本中統游毛皆此文ナシ、疑フ後人ノ増ス所ナリ。

史記評林卷之九十七終



歌彬彬。卽如陸賈所撰新語。其十二篇中。仲尼治平之道數數彪顯。苟非當時多賢風興而濡染之。安能語若此也。然則謂漢無儒者。豈可與言大方通人之理哉。漢氏經術至于立官顯門。令仲尼之道絕而復傳于後賢者。皆陸賈創啓之功也。

黃震曰。酈生爲高帝下陳留。高帝賴其兵食。遂以入關。所繫大矣。然以善其令而夜半賊殺之。與之善者不亦難乎。此戰國傾危之餘習。宜其卒窮於辯也。陸賈兩使尉他。使漢越無兵爭。天下陰受其賜多矣。時時稱說詩書。以祛高帝馬上之習。社稷靈長終必賴之矣。其後知太后將王諸呂。不可爭。適病免家居。及諸呂將危劉氏。則出爲陳平畫策誅之。動靜合時措之宜。而功烈泯無形之表。漢初儒生未有賈比也。而太史公屈與酈生同傳。豈以其辯說歟。朱建以母死無以爲喪。而受辟陽侯金。所謂行不苟合者。安在而與二生同傳何耶。

下沛公。沛公舍陳畱南城門上。因其庫兵。食積粟。畱出入三月。從兵以萬數。遂入破秦。

太史公曰。世之傳酈生書多。曰漢王已拔三秦。東擊項籍。而引軍於鞏洛之間。酈生被儒衣。往說漢王。迺非也。自沛公未入關。與項羽別。而至高陽。得酈生兄弟。今讀陸生新語書十二篇。固當世之辯士。至平原君子與余善。是以得具論之。

索隱述贊曰。廣野大度。始冠側注。踵門長揖。深器重遇。說齊歷下。趣鼎何懼。陸賈使越。尉他攝怖。相說國安。書成主悟。

楊維禎曰。高陽酈生。身長八尺。年六十餘。人皆謂之狂生。生自謂不狂。沛公素不好儒。且善罵儒。生于臨床之頃。以不宜踞見長者。折沛公。使之輟洗而趨延之上座。生爲設計。下陳畱。下嶢關。取滎陽。據敖倉之粟。其計皆響應。生非狂者也。然以陳涉立六國之策。立于漢王定天下之日。取漢王豎儒敗事之罵。則謂之狂也亦宜。吁。使生終身不狂。狂而克聖。又豈八尺之軀。爲湯鼎之具哉。

黃省曾曰。漢去仲尼不遠。七十子之徒。化教未泯。雖海內裂戰不息。而齊魯之地。且絃

今讀陸生新語、札記今  
ナ余ニ作ル。

千萬石。城守甚堅。臣素善其令。願爲足下說之。不聽。臣請爲足下殺之。而下陳。留足下將陳留之衆。據陳留之城。而食其積粟。招天下之從兵。從兵已成。足下橫行天下。莫能有害足下者矣。沛公曰。敬聞命矣。於是酈生迺夜見陳留令。說之曰。夫秦爲無道。而天下畔之。今足下與天下從。則可以成大功。今獨爲亡秦。嬰城而堅守。臣竊爲足下危之。陳留令曰。秦法至重也。不可以妄言。妄言者無類。吾不可以應。先生所以教臣者。非臣之意也。願勿復道。酈生畱宿臥。夜半時。斬陳留令首。踰城而下。報沛公。沛公引兵攻城。縣令首於長竿。以示城上人。曰。趣下。而令頭已斷矣。今後下者必先斬之。於是陳留人見令已死。遂相率而



入言沛公。吾高陽酒徒也。

徐廣曰。一本言而公高陽酒徒。

非儒人也。使者懼而失

謁。跪拾謁還走。復入報曰。客天下壯士也。叱臣。臣恐至失謁。曰

走復入言。而公高陽酒徒也。沛公遽雪足杖矛曰。延客入。酈生

入。揖沛公曰。足下甚苦。暴衣露冠。將兵助楚討不義。足下何不

自喜也。臣願以事見。而曰吾方以天下爲事。未暇見儒人也。夫

足下欲興天下之大事。而成天下之大功。而以目皮相。恐失天

下之能士。且吾度足下之智。不如吾。勇。又不如吾。若欲就天下

而不相見。竊爲足下失之。沛公謝曰。鄉者聞先生之容。今見先

生之意矣。迺延而坐之。問所以取天下者。酈生曰。夫足下欲成

大功。不如止陳畱。陳畱者。天下之據衝也。兵之會地也。積粟數

初沛公引兵云云、歸有  
光曰、其文褚先生所入  
スル者ニ類ス、札記云、  
各本上ニ連ヌ、今浚本  
ニ依テ別行ス、志疑云、  
酈生ノ事復出ス、猶秦  
記ナリ、御覽三百六十  
六楚漢春秋ヲ引ク、此  
ト正ニ同ジ。

客平原君爲計策。使吏捕欲治。聞吏至門。平原君欲自殺。諸子

及吏皆曰。事未可知。何早自殺爲。平原君曰。我死禍絕。不及而

身矣。遂自剄。孝文帝聞而惜之。曰。吾無意殺之。迺召其子。拜爲

中大夫。索隱曰。案下文所  
謂與太史公善者。使匈奴。單于無禮。迺罵單于。遂死匈奴中。

初沛公引兵過陳畱。酈生踵軍門上謁。曰。高陽賤民酈食其竊

聞沛公暴露將兵助楚討不義。敬勞從者。願得望見。口畫天下

便事。使者入通沛公方洗。問使者曰。何如人也。使者對曰。狀貌

類大儒。衣儒衣。冠側注。徐廣曰。側注冠。一名高山  
冠。齊王所服以賜謁者。沛公曰。爲我謝之。言

我方以天下爲事。未暇見儒人也。使者出謝曰。沛公敬謝先生。

方以天下爲事。未暇見儒人也。酈生瞋目案劍。叱使者曰。走復

平原君辭曰。獄急。不敢見君。迺求見孝惠。幸臣閔籍孺。索隱曰。按

高祖時有籍孺。孝惠時有閔籍孺。今總言閔籍孺誤也。說之曰。君所以得幸帝。天下莫不聞。今辟陽

侯幸太后而下吏。通路皆言君讒欲殺之。今日辟陽侯誅。旦日

太后含怒。亦誅君。何不肉袒爲辟陽侯言於帝。帝聽君。出辟陽

侯。太后大驩。兩主共幸君。君貴富益倍矣。於是閔籍孺大恐。從

其計。言帝果出辟陽侯。辟陽侯之囚。欲見平原君。平原君不見

辟陽侯。辟陽侯以爲倍已。大怒。及其成功出之。迺大驚。呂太后

崩。大臣誅諸呂。辟陽侯於諸呂至深。如淳曰。辟陽侯與諸呂相親信也。爲

非也。案小顏云。直言辟陽侯與諸而卒不誅。計畫所以全者。皆陸生平原

君之力也。孝文帝時。淮南厲王殺辟陽侯。以諸呂故。文帝聞其

何不肉袒云云。顏師古曰。肉袒ハ其衣袖ヲ脱シ肉ヲ見ハスヲ謂フ、自ラ挫辱スル甚シク、哀憐セラルルヲ冀フナリ。



辟陽侯ハ、養食其ナリ。

乃奉百金往稅、漢書稅  
ナ稅ニ作ル。顏師古曰、  
終者ノ衣被ヲ贈ルヲ稅  
ト曰フ、百金ヲ以テ衣  
稅ノ具、爲スヲ言フ、  
稅音式芮反ナリ。

得<sup>セ</sup>幸<sup>ニ</sup>呂太后<sup>ニ</sup>時辟陽侯欲知<sup>ニ</sup>平原君<sup>ナ</sup>平原君不肯見<sup>ル</sup>及<sup>ニ</sup>平原君<sup>ビ</sup>

母死<sup>ス</sup>陸生素與<sup>ニ</sup>平原君<sup>ナ</sup>善<sup>シ</sup>過<sup>ザル</sup>之<sup>ニ</sup>平原君家貧<sup>シ</sup>未有<sup>ク</sup>以<sup>テ</sup>發喪<sup>ス</sup>索隱

劉氏云謂欲葬時須啓<sup>ニ</sup>方假貸服具<sup>ナ</sup>陸生令<sup>ム</sup>平原君發喪<sup>セ</sup>陸生往見<sup>ニ</sup>辟陽侯<sup>ナ</sup>賀曰平原君母死<sup>ス</sup>辟陽侯曰平原君母死<sup>ス</sup>何乃賀我乎陸

賈曰前日君侯欲知<sup>ニ</sup>平原君<sup>ナ</sup>平原君義不知<sup>ラ</sup>君<sup>ナ</sup>以其母故<sup>ナ</sup>張晏

知當同恤災危母在故義不知<sup>レ</sup>君<sup>○</sup>索隱曰案崔浩云建以母在義不以<sup>ニ</sup>身許<sup>レ</sup>人也今其母死<sup>ス</sup>君誠厚送喪<sup>ナ</sup>則彼爲<sup>ニ</sup>君

死<sup>セン</sup>矣辟陽侯乃奉<sup>ニ</sup>百金<sup>ナ</sup>往稅<sup>ス</sup>韋昭曰衣服曰稅稅當爲<sup>レ</sup>襚○索隱曰案說文稅贈終服也襚音式芮反亦音遂列侯

貴人以<sup>ニ</sup>辟陽侯<sup>ナ</sup>故往稅<sup>ス</sup>凡五百金辟陽侯幸<sup>ニ</sup>呂太后<sup>ニ</sup>人或毀<sup>ル</sup>辟陽侯於孝惠帝孝惠帝大怒下吏欲誅<sup>ス</sup>之呂太后慙不可以言<sup>フ</sup>

大臣多害<sup>シ</sup>辟陽侯行<sup>テ</sup>欲遂誅<sup>ス</sup>之辟陽侯急因使人欲見<sup>ニ</sup>平原君<sup>ナ</sup>

史記評林 卷九十七

婢百人。車馬五十乘。錢五百萬。遺<sup>リ</sup>陸生。爲<sup>ニ</sup>飲食費<sup>ト</sup>。陸生以此游<sup>ビ</sup>

漢廷公卿間。名聲籍甚。

漢書音義曰。言狼籍甚盛。

及<sup>ニ</sup>誅<sup>シ</sup>諸呂<sup>ヲ</sup>。立<sup>ル</sup>孝文帝<sup>ト</sup>。陸生頗<sup>ル</sup>

有力焉。孝文帝卽位。欲<sup>ニ</sup>使<sup>ント</sup>人<sup>ヲ</sup>之<sup>ニ</sup>南越<sup>ニ</sup>。陳丞相<sup>ニ</sup>等乃言<sup>フ</sup>。陸生爲<sup>ニ</sup>太

中大夫<sup>ト</sup>。往<sup>イデ</sup>使<sup>シ</sup>尉他<sup>ニ</sup>。令<sup>メ</sup>尉他去<sup>ラ</sup>黃屋稱制<sup>ヲ</sup>。令<sup>メ</sup>比<sup>シ</sup>諸侯<sup>ニ</sup>。皆如意旨<sup>ノ</sup>。語

在南越語中。陸生竟以壽終<sup>ル</sup>。

平原君朱建者。楚人也。故嘗爲<sup>ニ</sup>淮南王黥布<sup>ノ</sup>相<sup>ト</sup>。有<sup>レ</sup>辜去<sup>ル</sup>。後復事<sup>ニ</sup>

黥布<sup>ニ</sup>。布欲<sup>スル</sup>反<sup>セント</sup>時。問<sup>ニ</sup>平原君<sup>ニ</sup>。平原君止<sup>ム</sup>之<sup>ヲ</sup>。布不聽<sup>カ</sup>。而聽<sup>キ</sup>梁父侯<sup>ニ</sup>。遂<sup>ニ</sup>

反<sup>ス</sup>。索隱曰。梁父侯。史失名。如淳注。漢書云。遂。布臣。非也。臣瓚曰。布不用梁父侯計。遂反耳。其說是也。

漢已誅<sup>ス</sup>布<sup>ヲ</sup>。聞<sup>ニ</sup>平原君<sup>ノ</sup>諫<sup>ヲ</sup>

不<sup>レ</sup>與<sup>ラ</sup>謀<sup>ニ</sup>。

正義曰。與音預。

得<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>誅<sup>セラレ</sup>。語<sup>ニ</sup>在<sup>ニ</sup>黥布<sup>ノ</sup>語<sup>中</sup>。

黥布列傳。無此語。

平原君爲<sup>ニ</sup>人<sup>ト</sup>辯<sup>ニシテ</sup>

有<sup>レ</sup>口。刻廉剛直。家<sup>ス</sup>於<sup>ニ</sup>長安<sup>ニ</sup>。行不<sup>ニ</sup>苟<sup>モ</sup>合<sup>ヘ</sup>義<sup>ヲ</sup>。不<sup>レ</sup>取<sup>テ</sup>容<sup>ヲ</sup>。辟陽侯行不<sup>レ</sup>正<sup>カテ</sup>

平原君朱建者云云。王  
鳴盛曰。傳末提行超シ  
テ平原君朱建ノ事ヲ附  
ス。此傳寫者誤テ提行  
ス。當ニ連寫スベシ。  
傳贊ヲ觀レバ。則建ノ  
事ヲ附ス。當ニ亦是子  
長ノ筆ナルベシ。惟其  
中建黥布ニ反スル勿キ  
ヲ勸メ。吾布傳ニ在リ  
ト云ヒ。而テ裴駰布傳  
此語ナシト云フ。此レ  
疑フ可シト爲ス。但太  
史公贊。平原君子與余  
善。是以得具論ト曰  
バ。則此段仍子長ノ筆  
ナルヲ知ルナリ。

ニ非ズ、電錯ノ父亦錯ナ稱シテ公ト爲ス、怒辭ナリ、憲ハ顔師古曰、亂ナリ、我久シク住マリ、汝ヲ亂累ヒザルナリ、不時見陸生ハ、顔師古曰、思慮ノ際、故ニ賈ノ至ルヲ覺エズ。

士務附注、札記云、宋本毛本、徐廣曰三字ナシ、毛本注上句則士務附ノ下ニ在リ、疑ハ此四字、乃後人旁注ニシテ、集解ノ文ニ非ズ。臣常欲謂太尉絳侯云云ハ、胡三省曰、謂ハ告語ナリ、絳侯モト之ト戲狎シ、其言ヲ輕易スルヲ言フナリ。厚具樂飲ハ、顔師古曰、厚ク其具ヲ爲シ、而テ太尉ト樂飲スルナリ。

陳平患之。力不能爭。恐禍及己。常燕居深念。陸生往請。漢書音義曰、請若問。

起直入坐。而陳丞相方深念。不時見陸生。索隱曰、深念、深思之也。陸生曰。何

念之深也。陳平曰。生揣我何念。昭曰、揣音初委反。陸生曰。足下位爲

上相。食三萬戶侯。索隱曰、案陳平傳食戶五千以曲逆。秦時有三萬戶。恐復業至此故稱也。可謂極富貴。無欲

矣。然有憂念。不過患諸呂少主耳。陳平曰。然爲之奈何。陸生曰。

天下安。注意相。天下危。注意將。將相和調。則士務附。徐廣

曰、務一作豫。天下雖有變。卽權不分。爲社稷計。在兩君掌握耳。臣常欲

謂太尉絳侯。絳侯與我戲。易吾言。君何不交驩太尉。深相結。爲

陳平畫呂氏數事。陳平用其計。迺以五百金爲絳侯壽。厚具樂

飲。太尉亦報如之。此兩人深相結。則呂氏謀益衰。陳平迺以奴



畏大臣有口者ハ、類師古曰、有口ハ辯士ヲ謂フ。

每奏一篇。高帝未嘗不稱善。左右呼萬歲。號其書曰新語。正義曰。七

錄云。新語二卷。陸賈撰也。孝惠帝時。呂太后用事。欲王諸呂。畏大臣有口者。陸

生自度不能爭之。迺病免家居。以好時田地善。正義曰。時音止。雍州縣也。可以

家焉。有五男。迺出所使越得橐中裝賣千金。正義曰。漢制。一金直千貫。分其子。

子二百金。令爲生產。陸生常安車駟馬。從歌舞鼓琴瑟侍者十

人。寶劍直百金。謂其子曰。與汝約。徐廣曰。汝一作公。過汝。汝給吾人馬酒

食。極欲十日而更。所死家得寶劍車騎侍從者。一歲中往來過

他客。率不過再三過。索隱曰。率音律。過音戈。其下過字音光臥反。數見不鮮。索隱曰。音朔現。數見。謂時時來見汝

也。不鮮。言必令鮮美作食。莫令見不鮮之無久。愬公爲也。韋昭曰。愬。汚辱。○索隱曰。恩。惠也。公。賈自謂也。言汝

諸子無久厭患公也。接呂太后時。王諸呂。諸呂擅權。欲劫少主。危劉氏。右丞相

數見不鮮。無久。恩公爲也。ハ、方苞曰。凡物數見レバ、則其鮮好ヲ覺エズ、故ニ我一歳再三過ニ止メ、久シク汝ヲ恩スヲ爲スナシト言フナリ、公ハ即其子ヲ謂フ、賈任達、故ニ子ヲ稱シテ公ト爲ス、莊語

賜陸生囊中裝ハ、顔師古曰、底アルヲ囊ト曰ヒ、底ナキヲ囊ト曰フ、其寶物質輕クシテ價重シ、囊囊ニ入レ以テ齎行スヘシ、故ニ囊中裝ト曰フ。  
拜尉他爲越王ハ、札記越上ニ南字アリ、云フ宋本中統游毛吳校金板竝ニ南字アリ。

日聞所不聞。賜陸生囊中裝直千金。

張晏曰。珠玉之寶也。裝。裹也。○索隱曰。囊音托。案如淳云。以爲明月珠之

屬。又案詩傳曰。大曰囊。小曰囊。埤蒼云。有底曰囊。無底曰囊。謂以寶物裝裹以入囊囊也。

他送亦千金。蘇林曰。非囊中物。故曰他送也。陸生卒

拜尉他爲越王。令稱臣奉漢約。歸報。高祖大悅。拜賈爲太中大夫。陸生時前說稱詩書。高帝罵之曰。迺公居馬上而得之。安

事詩書。陸生曰。居馬上得之。寧可以馬上治之乎。且湯武逆取

而以順守之。文武竝用。長久之術也。昔者吳王夫差智伯。極武

而亡。秦任刑法。不變。卒滅趙氏。

趙氏。秦姓也。○索隱曰。案韋昭云。秦伯翳後。與趙同出。非廉造父有功。周繆王封之趙。由

此一姓。鄉使秦已并天下。行仁義。法先聖。陛下安得而有之。高帝

不懌而有慙色。迺謂陸生曰。試爲我著秦所以失天下。吾所以

得之者何。及古成敗之國。陸生迺躡述存亡之徵。凡著十二篇。

未成<sup>ナリ</sup>。屈強<sup>ハ柔</sup>ハ柔  
服<sup>セザル</sup>ナリ。

尉他<sup>ハ</sup>酒<sup>ハ</sup>蹶<sup>ハ</sup>然<sup>ハ</sup>起<sup>ハ</sup>坐<sup>ハ</sup>、顔  
師古曰、蹶然ハ驚起ノ  
貌ナリ。

何渠<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>若<sup>ハ</sup>漢<sup>ハ</sup>、董份曰、  
渠字漢書通字ニ作ル、  
遽ハ遂ト通ズ、何ゾ遂  
ニ漢ニ如カザランヤト  
言フノミ、索隱顔説ナ  
引ク、謬ル甚シ。

燒<sup>シ</sup>王<sup>ヲ</sup>先<sup>ニ</sup>人<sup>ヲ</sup>冢<sup>ヲ</sup>。夷<sup>ニ</sup>滅<sup>シ</sup>宗<sup>ヲ</sup>族<sup>ヲ</sup>。使<sup>メ</sup>一<sup>ノ</sup>偏<sup>ヲ</sup>將<sup>ヲ</sup>將<sup>ニ</sup>十<sup>ノ</sup>萬<sup>ノ</sup>衆<sup>ヲ</sup>。臨<sup>マ</sup>越<sup>ニ</sup>。則<sup>チ</sup>越<sup>ハ</sup>殺<sup>シ</sup>王<sup>ヲ</sup>降<sup>ル</sup>。  
漢<sup>ニ</sup>。如<sup>キ</sup>反<sup>ス</sup>覆<sup>ス</sup>手<sup>ヲ</sup>耳<sup>ト</sup>。於<sup>レ</sup>是<sup>ニ</sup>尉<sup>ハ</sup>他<sup>ハ</sup>迺<sup>チ</sup>蹶<sup>トシテ</sup>然<sup>ニ</sup>起<sup>テ</sup>坐<sup>テ</sup>。  
索隱曰、蘇林音厥、禮記、子夏  
蹶然而起、坤蒼云、蹶、起也。謝<sup>ニ</sup>  
陸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。居<sup>ル</sup>蠻<sup>ニ</sup>夷<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>久<sup>シ</sup>。殊<sup>ニ</sup>失<sup>フ</sup>禮<sup>ヲ</sup>義<sup>ヲ</sup>。因<sup>テ</sup>問<sup>テ</sup>陸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。我<sup>ハ</sup>孰<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>蕭<sup>ニ</sup>何<sup>ニ</sup>曹<sup>ニ</sup>參<sup>ニ</sup>  
韓<sup>ニ</sup>信<sup>ニ</sup>賢<sup>ニ</sup>。陸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。王<sup>ハ</sup>似<sup>タリ</sup>賢<sup>ニ</sup>。復<sup>タ</sup>曰<sup>ク</sup>。我<sup>ハ</sup>孰<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>皇<sup>ニ</sup>帝<sup>ニ</sup>賢<sup>ニ</sup>。陸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>曰<sup>ク</sup>。皇<sup>ハ</sup>帝<sup>ハ</sup>起<sup>リ</sup>豐<sup>ニ</sup>  
沛<sup>ニ</sup>。討<sup>ニ</sup>暴<sup>ニ</sup>秦<sup>ニ</sup>。誅<sup>ニ</sup>彊<sup>ニ</sup>楚<sup>ニ</sup>。爲<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>興<sup>シ</sup>利<sup>ヲ</sup>除<sup>レ</sup>害<sup>ヲ</sup>。繼<sup>ギ</sup>五<sup>ノ</sup>帝<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>皇<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>業<sup>ヲ</sup>。統<sup>ス</sup>理<sup>ス</sup>中<sup>ニ</sup>  
國<sup>ヲ</sup>。中<sup>ニ</sup>國<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>以<sup>テ</sup>億<sup>ヲ</sup>計<sup>フ</sup>。地<sup>ノ</sup>方<sup>ノ</sup>萬<sup>ノ</sup>里<sup>ヲ</sup>。居<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>之<sup>ノ</sup>膏<sup>ニ</sup>腴<sup>ニ</sup>。人<sup>ノ</sup>衆<sup>ノ</sup>車<sup>ノ</sup>輦<sup>ノ</sup>。萬<sup>ノ</sup>物<sup>ノ</sup>  
殷<sup>ニ</sup>富<sup>ニ</sup>。政<sup>ヲ</sup>由<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>。自<sup>ニ</sup>天<sup>ニ</sup>地<sup>ニ</sup>剖<sup>レ</sup>判<sup>ス</sup>。未<sup>ダ</sup>始<sup>リ</sup>有<sup>リ</sup>也<sup>ヲ</sup>。今<sup>ハ</sup>王<sup>ハ</sup>衆<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>過<sup>ギ</sup>數<sup>ヲ</sup>十<sup>ノ</sup>萬<sup>ノ</sup>。皆<sup>ハ</sup>  
蠻<sup>ニ</sup>夷<sup>ニ</sup>。崎<sup>ニ</sup>嶇<sup>ニ</sup>山<sup>ノ</sup>海<sup>ノ</sup>間<sup>ニ</sup>。譬<sup>ヘバ</sup>若<sup>シ</sup>漢<sup>ノ</sup>一<sup>ノ</sup>郡<sup>ノ</sup>。王<sup>ハ</sup>何<sup>ヲ</sup>乃<sup>チ</sup>比<sup>スルヤ</sup>於<sup>レ</sup>漢<sup>ニ</sup>。尉<sup>ハ</sup>他<sup>ハ</sup>大<sup>ニ</sup>笑<sup>テ</sup>曰<sup>ク</sup>。吾<sup>ハ</sup>  
不<sup>レ</sup>起<sup>リ</sup>中<sup>ニ</sup>國<sup>ニ</sup>。故<sup>ニ</sup>王<sup>ハ</sup>此<sup>ニ</sup>使<sup>メ</sup>我<sup>ハ</sup>居<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>國<sup>ニ</sup>。何<sup>ヲ</sup>渠<sup>ハ</sup>不<sup>レ</sup>若<sup>カ</sup>漢<sup>ニ</sup>。  
渠音詎。○索隱曰、漢書作  
遽字。小顏以爲有何迫促  
而<sup>レ</sup>不<sup>レ</sup>如<sup>シ</sup>迺<sup>チ</sup>大<sup>ニ</sup>說<sup>テ</sup>陸<sup>ニ</sup>生<sup>ニ</sup>。畱<sup>ニ</sup>與<sup>ニ</sup>飲<sup>スル</sup>數<sup>ノ</sup>月<sup>ヲ</sup>。曰<sup>ク</sup>。越<sup>ニ</sup>中<sup>ニ</sup>無<sup>レ</sup>足<sup>ル</sup>與<sup>ニ</sup>語<sup>ニ</sup>。至<sup>リ</sup>生<sup>ハ</sup>來<sup>ニ</sup>。令<sup>ニ</sup>我<sup>ハ</sup>  
漢<sup>ニ</sup>也<sup>ヲ</sup>。



ア、椎髻ハ、一撮ノ髻、其形椎ノ如キナリ。

陸生因進說他日云云、方苞曰、賈ト尉他トノ語、南越傳ニ入レバ、則國體ヲ傷シ、且其五君九十餘年ノ事ヲ紀シ、而テ授ニ此ニ及ベバ、枝且贅ナリ、再ビ南越ニ使スル語、復詳ニヒザルハ、複チ恐ルルナリ。

以新造未集之越、屈強於此、顔師古曰、未集

頭結。○索隱曰、魋直追反。結音計。謂爲髻一撮以椎而結之。故字從結。且案其魋結二字。依字讀之亦通。謂夷人本被髮左衽。今他同其風俗。但魋其髮而結之也。箕倨見

陸生。陸生因進說他日。足下中國人。親戚昆弟墳墓在眞定。索隱

曰。趙地也。本名東垣。屬常山。

今足下反天性。弄冠帶。欲以區區之越與天子抗衡。

爲敵國。索隱曰。案崔浩云。抗對也。衡。車扼上橫木。禍且及身矣。且夫秦失其

政。諸侯豪傑竝起。唯漢王先入關據咸陽。項羽倍約。自立爲西

楚霸王。諸侯皆屬。可謂至彊。然漢王起巴蜀。鞭笞天下。劫略諸

侯。遂誅項羽。滅之。五年之間。海內平定。此非人力。天之所建也。

天子聞君王王南越。不助天下誅暴逆。將相欲移兵而誅王。天

子憐百姓新勞苦。故且休之。遣臣授君王印。剖符通使。君王宜

郊迎。北面稱臣。迺欲以新造未集之越。屈彊於此。漢誠聞之。掘

曰。舉大事。不細謹。盛德不辭讓。而公不爲若更言。齊王遂亨。鄺

生。不敘齊王事。引兵東奔。漢十二年。曲周侯鄺商以丞相將兵。擊黥布。有功。

高祖舉列侯功臣。思鄺食其。鄺食其子鄺疥數將兵。功未當侯。

上以其父故。封疥爲高梁侯。後更食武遂。嗣三世。索隱曰。疥音界。地里志武遂屬河間。

闕案漢書作武陽。元狩元年中。武遂侯平坐詐詔衡山王取百斤金。子遂衍字誤也。

正義曰。年表云。卒。子勃嗣。卒。子平嗣。元年有罪。國除。而漢書云。更食武陽。子遂嗣。恐漢書誤也。當弃市。病死。國除也。

陸賈者。楚人也。索隱曰。案陳畱風俗傳云。陸氏。春秋時陸渾國之後。晉侯伐之。故陸渾子奔楚。賈其後。又陸氏譜云。齊宣公友子達。食采於陸鄉。號曰陸

侯。達生發。發生阜。適楚。賈其孫也。以客從高祖。定天下。名爲有口辯士。居左右。常使

諸侯。及高祖時。中國初定。尉他平南越。因王之。索隱曰。趙他爲南越尉。故曰尉他。他音馳。

高祖使陸賈賜尉他印。爲南越王。陸生至。尉他魑結。服虔曰。魑音椎。今兵士椎。

尉他魑結ハ、顔師古曰、魑音椎、結讀テ魑ト曰、

注子遂以下誤アラソ。



角。漢書作<sup>レ</sup>玩。言<sup>ニ</sup>攻城得<sup>ル</sup>賂。積而不能<sup>レ</sup>賞。天下畔<sup>キ</sup>之。賢才怨<sup>テ</sup>之。而莫<sup>ニ</sup>

爲<sup>ニ</sup>之用。故天下之士歸<sup>スル</sup>於漢王。可<sup>キ</sup>坐而策<sup>ス</sup>也。夫漢王發<sup>シテ</sup>蜀漢。定<sup>ニ</sup>

三秦。涉<sup>リ</sup>西河之外。援<sup>リ</sup>上黨之兵。正義曰。援音爰。下<sup>ニ</sup>井陘。誅<sup>シ</sup>成安君。破<sup>リ</sup>北

魏。舉<sup>ニ</sup>三十二城。索隱曰。北魏謂魏豹。豹在河北故也。亦謂之西魏。以大梁在河南故也。此蚩尤之兵也。非<sup>ニ</sup>人

之力也。天之福也。今已據<sup>リ</sup>敖倉之粟。塞<sup>キ</sup>成臯之險。守<sup>ニ</sup>白馬之津。

杜<sup>キ</sup>大行之阪。距<sup>グ</sup>蜚狐之口。天下後服者先<sup>ビ</sup>亡矣。王疾先<sup>テ</sup>下<sup>ニ</sup>漢王。

齊國社稷可<sup>キ</sup>得而保也。不下<sup>リ</sup>漢王。危亡可<sup>キ</sup>立而待也。田廣以爲

然。迺<sup>ト</sup>聽<sup>キ</sup>酈生。罷<sup>メ</sup>歷下兵。守戰備。與<sup>ニ</sup>酈生。日縱酒。淮陰侯聞<sup>キ</sup>酈生

伏軾<sup>ニ</sup>下<sup>ニ</sup>齊。七十餘城。迺<sup>ニ</sup>夜度<sup>シテ</sup>兵平原。襲<sup>フ</sup>齊。齊王田廣聞<sup>キ</sup>漢兵至<sup>ニ</sup>

以爲<sup>ニ</sup>酈生賣<sup>レ</sup>己。迺<sup>ト</sup>曰。汝能止<sup>ム</sup>漢軍。我活<sup>サシ</sup>汝。不然。我將<sup>ニ</sup>亨<sup>ント</sup>汝。酈生

破北魏、注以大梁在河南故也ハ、通鑑引テ以下大梁於二安邑一爲東也ニ作ル。此蚩尤之兵也ハ、漢書此黃帝之兵ニ作ル。



可得而有也。若不知天下之所歸。則齊國未可得保也。齊王曰。天下何所歸。曰。歸漢。曰。先生何以言之。曰。漢王與項王戮力。西面擊秦。約先入咸陽者王之。漢王先入咸陽。項王負約不與。而王之漢中。項王遷殺義帝。漢王聞之。起蜀漢之兵。擊三秦。出關而責義帝之處。收天下之兵。立諸侯之後。降城。卽以侯其將。得賂。卽以分其士。與天下同其利。豪英賢才。皆樂爲之用。諸侯之兵。四面而至。蜀漢之粟。方船而下。

索隱曰。案方船。謂竝舟也。戰國策云。方船積粟。循江而下也。

項王

有倍約之名。殺義帝之負於人之功。無所記於人之罪。無所忘戰勝而不得其賞。拔城而不得其封。非項氏莫得用事。爲人刻印。刳而不能授。

孟康曰。刳。斷無復廉。鐔也。瓚曰。項羽吝於爵賞。玩惜侯印。不能以封其人。也。○索隱曰。刳。音五官反。案郭象注。莊子云。立法而刳。斷無主

殺義帝之負、毛晃曰、  
恩ニ背キ德ヲ亡フヲ負  
ト曰フ。

據敖倉之粟、注四十有五里、札記四十四里、云、西各本四十二誤、項羽本紀正義、依テ改ム、鄆縣志ト合ス。

示諸侯效實形制之勢、漢書效實二字ナシ、蓋シ、效象ノ實アルヲ謂フ、形制ハ、胡三省曰、地形ニ因テ之ニ據リ、以テ敵ヲ制スルヲ謂フ。

搖蕩。農夫釋耒。工女下機。索隱曰。案謂女工。是工巧也。漢書作紅。晉工。天下之心。未有所定也。願足下急復進兵。收取滎陽。據敖倉之粟。正義曰。敖倉。在今鄆州滎陽縣四十有五里石門之東。北臨汴水。南帶三皇山。秦始皇時置倉於敖山上。故名之曰敖倉也。塞成臯之險。正義曰。卽汜水縣山也。杜大行之道。韋昭曰。在河內野王北也。距蜚狐之口。如淳曰。上黨壺關也。案蜚狐。在代郡西南。○正義曰。按蔚州飛狐縣北五十里有秦漢故郡城。西南有山。俗號爲飛狐口也。守白馬之津。以示諸侯效實形制之勢。則天下知所歸矣。方今燕趙已定。唯齊未下。今田廣據千里之齊。田閒將二十萬之衆。軍於歷城。一本城作下諸田宗彊。負海阻河濟。南近楚。人多變詐。足下雖遣數十萬師。未可以歲月破也。臣請得奉明詔。說齊王。使爲漢而稱東藩。上曰。善。迺從其畫。復守敖倉。而使酈生說齊王曰。王知天下之所歸乎。王曰。不知也。曰。王知天下之所歸。則齊國

數困榮陽成阜、注數亦音朔、札記云、柯凌本此四字アリ、蓋旁注誤テ入ル、各本ナシ。

王者以民人爲天二句、札記云、漢書兩人字ナシ、管子亦ナシ、索隱本上句チ出シ、民字ナシ、志疑云、唐時民チ諱テ人ト爲ス、後遂ニ併セ入ル、文選籍田賦注漢書チ引キ、上句人ニ作リ、下句民ニ作ル。

漢反卻自奪其便ハ、顏師古曰、進取チ圖ラザル、是自ラ便利チ奪フト爲スナリ。

使將數千人。從沛公西南略地。酈生常爲說客。馳使諸侯。漢三

年秋。項羽擊漢拔滎陽。漢兵遁保鞏洛。楚人聞淮陰侯破趙。彭

越數反梁地。索隱曰。數音朔。則分兵救之。淮陰方東擊齊。漢王數困滎

陽成阜。數亦音朔。計欲捐成阜以東。屯鞏洛以拒楚。酈生因曰。臣聞

知天之天者。王事可成。不知天之天者。王事不可成。王者以民

人爲天。而民人以食爲天。索隱曰。案此等語俱出管子。夫敖倉。天下轉輸久矣。

臣聞其下迺有藏粟甚多。楚人拔滎陽。不堅守敖倉。迺引而東。

令適卒分守成阜。索隱曰。適音直。革反。案通俗文云。罰罪云云。即所謂謫戍也。又音陟。革反。卒音租。忽反。此乃天所以

資漢也。方今楚易取而漢反卻。自奪其便。索隱曰。以言不取敖倉之粟。是漢自奪其便利也。臣

竊以爲過矣。且兩雄不俱立。楚漢久相持不決。百姓騷動。海內



短ノ直キ者ヲ偃ト爲シ、折レテ衡ナル者ヲ句ト爲ス。

起攝衣ハ、胡三省曰、起テ其衣ヲ持ツナリ。

乎。且欲率<sup>スルカ</sup>諸侯<sup>ナ</sup>破秦<sup>ヲ</sup>也。沛公罵曰。豎儒。索隱曰。案豎者。僮僕之稱。沛公輕之以比奴豎。故曰豎儒。夫

天下同苦秦久矣。故諸侯相率而攻秦。何謂助秦攻諸侯乎。酈

生曰。必聚徒合義兵。誅無道秦。不宜倨見長者。於是沛公輟洗。

起攝衣。正義曰。攝。猶言斂著也。延酈生上坐謝之。酈生因言六國從橫時。沛

公喜。賜酈生食。問曰。計將安出。酈生曰。足下起糾合之衆。一作烏合。

一作瓦合。收散亂之兵。不滿萬人。欲以徑入強秦。此所謂探虎口者

也。夫陳畱。天下之衝。四通五達之郊也。如淳曰。四面中央。凡五達也。瓚曰。四通五達。言無險阻也。今

其城又多積粟。臣善其令。正義曰。言食其與陳畱縣令相善也。請得使之令下足下。正義

曰。令力征反。下。謂降之也。卽不聽。足下舉兵攻之。臣爲內應。於是遣酈生行。沛

公引兵隨之。遂下陳畱。號酈食其爲廣野君。酈生言其弟酈商。

公將<sup>キ</sup>兵略<sup>ナ</sup>地陳<sup>スト</sup>畱<sup>ヲ</sup>郊。沛公麾下騎士適酈生里中子也。服虔曰。食其里中子。

適作沛公騎士。○索隱曰。適音釋。服虔蘇林皆云。

沛公騎士適是食其里中人。案言適近作騎士也。沛公時時問邑中賢士豪俊。

騎士歸。酈生見謂之曰。吾聞沛公慢而易人。多大略。此真吾所

願從游。莫爲我先。索隱曰。先謂先容。言無人爲我作紹介也。○正義曰。爲于僞反。若見沛公。謂曰。臣里

中有酈生。年六十餘。長八尺。人皆謂之狂生。生自謂我非狂生。

騎士曰。沛公不好儒。諸客冠<sup>シ</sup>儒冠來者。沛公輒解<sup>キ</sup>其冠。洩溺其

中。索隱曰。洩所由反。溺乃弔反。亦如字。洩卽溺義也。與人言。常大罵。未可以儒生說也。酈生曰。

第言之。騎士從容言如酈生所誠者。沛公至高陽傳舍。徐廣曰。二世三年二

月。使人召酈生。酈生至。入謁。沛公方倨牀。使兩女子洗足。索隱曰。案

樂彥云。邊

而見酈生。酈生入。則長揖不拜。曰。足下欲助秦攻諸侯。

沛公方倨牀。札記云、各本倨、索隱本倨ニ作ル、然ルニ其訓湯牀ヲ主トスレハ、則當ニ倨ニ倨ニ從フベシ、按ニ倨句ハ、周禮ニ見ユ、

史記評林卷之九十七

吳興 凌稚隆 輯校  
溫陵 李光縉 增補

酈生陸賈列傳第三十七

酈生食其者。

正義曰。曆異。幾三音也。

陳留高陽人也。

徐廣曰。今在圉縣。○索隱曰。案高陽屬陳留圉縣。高陽鄉名也。故者舊傳

云。食其。圉。高陽鄉人。○正義曰。陳留風俗傳云。高陽在雍丘西南。括地志云。圉城在汴州雍丘縣西南。食其墓在雍丘西南二十八里。蓋謂此也。

好讀書。家貧。

落魄無以爲衣食業。

應劭曰。落魄。志行衰惡之貌也。○晉灼曰。落。薄落。託義同也。○索隱曰。案鄭氏云。魄音薄。

爲里監門

吏。

正義曰。監音甲。衫反。戰國策云。齊宣謂顏觸曰。夫監門閭里士之賤也。

然縣中賢豪不敢役。縣中皆謂之

狂生。及陳勝項梁等起。諸將徇地過高陽者數十人。

正義曰。徇。略也。酈

生問其將。皆握齲。

應劭曰。握齲。急促之貌。○索隱曰。應劭云。齲音若促。酈氏音初角反。韋昭云。握齲。小節也。

好苛禮。

索隱曰。案苛亦

作荷。賈逵云。苛。煩也。小顏云。細也。

自用。不能聽大度之言。酈生乃深自藏匿。後聞沛

家貧落魄、凌稚隆曰、落魄ハ貧ニシテ家業ナキナリ。

酈生問其將、札記、問テ聞ニ作ル、云フ舊刻聞、各本問ニ作ル。



卷一百二十八 龜策列傳第六十八

缺褚少孫補

卷一百二十九 貨殖列傳第六十九

范蠡 計然 子貢 白圭 倚頓 烏氏

程鄭 宛孔氏 刁閒 師史 任氏

卷一百三十 太史公自序第七十

史記列傳下目次終

義縱 王溫舒 尹齊 楊僕 減宣 杜周

卷一百二十三 大宛列傳第六十三

大宛 烏孫 康居 奄蔡 大月氏

安息 條枝 大夏

卷一百二十四 游俠列傳第六十四

魯朱家 劇孟附 郭解

卷一百二十五 佞幸列傳第六十五

鄧通 韓嫣 李延年

卷一百二十六 滑稽列傳第六十六

淳于髡 優孟 優旃 東方朔以下續

王先生 東郭先生 西門豹

卷一百二十七 日者列傳第六十七

卷一百一十七 司馬相如列傳第五十七

卷一百一十八 淮南衡山列傳第五十八

淮南厲王長 淮南王安 衡山王賜

卷一百一十九 循吏列傳第五十九

孫叔敖 鄭子產 公儀休 石奢 李離

卷一百二十 汲鄭列傳第六十

汲黯 鄭當時

卷一百二十一 儒林列傳第六十一

申公 轅固生 韓生 伏生 董仲舒

胡毋生 瑕丘江生附

卷一百二十二 酷吏列傳第六十二

郅都 甯成 周陽由 趙禹 張湯



卷一百一十一 衛將軍驃騎列傳第五十一

衛青 霍去病 公孫賀 李息 公孫敖

李沮 張次公 蘇建 趙信 張騫

李蔡 曹襄 韓說 郭昌 趙食其

荀彘 路博德 趙破奴

卷一百一十二 平信侯列傳第五十二

公孫弘 主父偃 徐樂 嚴安以下附

卷一百一十三 南越列傳第五十三

南越王尉佗 蒼梧王趙光

卷一百一十四 東越列傳第五十四

卷一百一十五 朝鮮列傳第五十五

卷一百一十六 西南夷列傳第五十六

石奮 石建 石慶附 衛綰 直不疑

周文 張叔

卷一百四 田叔列傳第四十四

田仁附 任安續

卷一百五 扁鵲倉公列傳第四十五

卷一百六 吳王濞列傳第四十六

卷一百七 魏其武安列傳第四十七

魏其侯 武安侯 灌夫

卷一百八 韓長孺列傳第四十八

卷一百九 李將軍列傳第四十九

李陵附

卷一百一十 匈奴列傳第五十

漢文大系  
第七卷

史記列傳下目次

卷九十七

酈生陸賈列傳第三十七

酈食其 陸賈 朱建

卷九十八

傅靳蒯成列傳第三十八

缺褚少孫補

傅寬 靳歙 周緤

卷九十九

劉敬叔孫通列傳第三十九

卷一百

季布欒布列傳第四十

卷一百一

袁盎鼂錯列傳第四十一

鄧公附

卷一百二

張釋之馮唐列傳第四十二

卷一百三

萬石君張敖列傳第四十三





史記列傳下

DS  
735  
A2S62  
1913  
V. 2.

漢文大系









DS  
735  
A2S62  
1913  
v.2

Ssü-ma, Ch'ien  
Shiki retsuden

East Asia

PLEASE DO NOT REMOVE  
CARDS OR SLIPS FROM THIS POCKET

---

UNIVERSITY OF TORONTO LIBRARY

---





版 鑿 房 山 富 京 東